“本物降臨”
アレキサンダー・カレリン
戦慄の独占インタビュー!!

馬場さん 突然の訃報
巨大なる足跡に「ありがとう」

紙のプロレス RADICAL

No.15



猪木イズム vs 新・新日本プロレス

イデオロギー対決のマグマに迫る沸騰大特集!!

1・4橋本戦の核心を語る!
我々の目をさらに覚まさせる
独占ロング・インタビュー3連発!!

小川直也
佐山聡
4代目タイガーマスク

前田日明、K-1勢、
慧舟會勢、修斗王者が語る!
「小川 vs 橋本戦」
レスラー&格闘家&関係者証言ファイル

「UFO襲来!!」で幕を開けた、狂乱のシュート元年!
激動のマット界をブッタ斬るドキュメント座談会!!

2・21前田vsカレリン戦直前大特集に
浅草キッド、A浜口親子が大集結!!

前田日明 引退試合直前
USA特訓・本誌独占取材!!

UFCで惜敗後、田村潔司を撃破!
髙阪“TK”剛に
滞在先・シアトルで独占インタビュー

本誌独占キャッチ!
アディオス!
エンセン井上がヨネ原人に
最後の別れ!!

どうなる、みちプロ? ガンバレSASUKE!!
SASUKE
インタビュー&分裂劇ドキュメント

新たなテーマ「新崎人生越え」に挑む!!
アレクサンダー大塚

キミは地下室マッチを見たか!?
地下特集：キャプチャー
北原光騎／你好(ニーハオ)

女子プロ混沌期に一足踏み出す!
京子イズム爆発! 井上京子

さようなら獄門鬼!
語ろう、マサ・サイトー

プロレスファンの皆様!
目を覚ましてください!!

紙のプロレス RADICAL No.15
USA特訓・本誌独占取材敢行やんけ!!

東京都新宿区内藤町1番地
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

紙のプロレス PRESENTS

帰ってきた

青空プロレス道場



1999年2月の
青空プロレス道場に
昭和・新日道場の
大魔王がやってくる……!

2/24

第8回

蘇る道場王伝説

ゲスト講師

ドン荒川先生

これが青空プロレス道場のやり方なのか!?

講師:『紙プロ』編集長／山口日昇+『紙プロ』編集スタッフ(吉田豪、坂井ノブ、松澤チョロ、中村カタブツ君他)+毎回スペシャル・ゲストが登場!!

「プロレスとは何か?」という根源的なテーマのもと、毎回バラエティーに富んだゲスト講師を迎えてお届けしてきた『青空プロレス道場』も残すところあと3回!! キミもマット界の大物たちの生講座を受けてみないかい? きっと人生観とプロレス観が変わると思います。

こんなに濃い内容でこのお値段?
納得のバリュー・プライスでご奉仕します!

■受講料:【1回券】3.500円※消費税別

■講義時間:18:30〜20:30(話が盛り上がれば場所を移して2次会をやるかも)

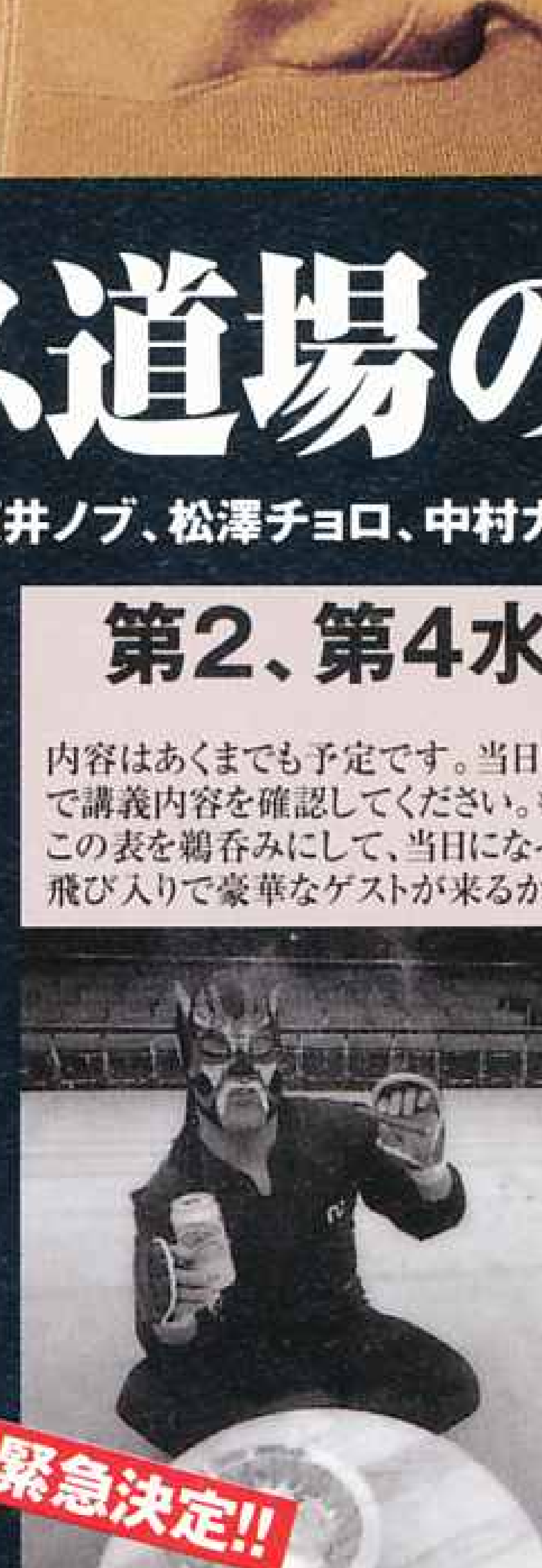
■申込み方法:池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。
申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。
定員になり次第締め切らせていただきます。

受付時間は10:00〜18:20 日曜日は18:00まで。祝祭日は休館。

第2、第4水曜日は『青空プロレス道場』の日!

【青空プロレス道場日程】


内容はあくまでも予定です。当日になって変わってるなんてことは、『紙のプロレス』ならよくあることなので、あらかじめ電話で講義内容を確認してください。もう一度、念を押しときますよ! あ・ら・か・じ・め、電話で講義内容を問い合わせてください。この表を鵜呑みにして、当日になって「話が違う!」って怒られても、受け付けませ〜ん。ま、楽しませる自信はありますけどね。飛び入りで豪華なゲストが来るかもしれないので、気を付けてください。



3／10 プロレスラーは芸人なんだよ!!
ゲスト講師=SASUKE先生(みちのくプロレス)
満を持して青空プロレス道場にSASUKEが東北より初飛来! 先だってのデルフィン派離脱後、長い沈黙期間を経た生のサスケが、公の場でしゃべり倒す!! 言いたいことを言いたいだけ言ってもらいましょう! きっと破天荒プロレス芸人の神髄が見られるはずだ! どうだい、キミもSASUKE組に入らないかい?

3／24 プロレスマスコミの通信簿
「問題多すぎますよ!」とマエダアキラに言われてますが、マスコミ界の元祖問題児が本音で語るマスコミ論! 誰が悪いのか、はっきりさせろ! とかなんとか言ってますが、最後に大ドンデン返しで思わぬビッグゲストの来襲があるかも。気になる人は事前に池袋コミュニティーカレッジまで問い合わせてください!

★お問い合わせ 池袋コミュニティ・カレッジ TEL.03-3988-9281


"1・4事変"ボッ発!!
猪木イズムは連鎖する!!

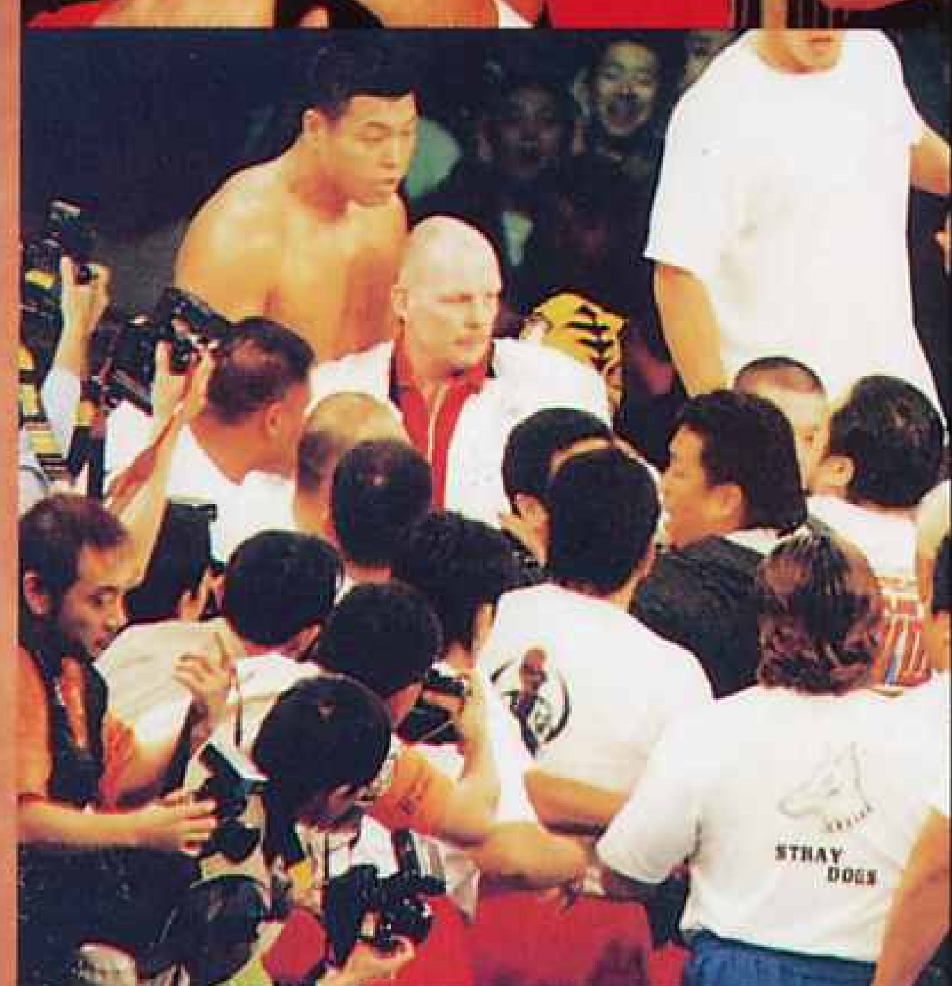


要は強くなきゃいけないんですよ！
それしかないんですよ!!











格闘 MARS ATTACKS!

[UFO] 小川直也 with.S.S

独占ロングインタビュー

「新日本プロレスのファンの皆様、目を覚ましてください！」——98年1月4日、〝破壊王〟橋本真也を破壊したあと、確実に歴史に残る名マイク・アピールを行った小川直也。昨年の橋本への出場停止処分に始まり、試合後の新日本、UFO入り乱れての大乱闘、橋本の「絶対に許さない！」発言。その後の新日本からUFOへの絶縁宣言。まさに世紀末のマット界を転がり続ける物騒なる〝1・4事変〟。一体、これは「プロレス」なのか、「プロレス」じゃないのか？ 〝猪木イズム〟が根っこに向かって突きつけた刃は、はたして神か悪魔か——!?

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito





小川　『FRIDAY』見て下さいよ！（P5参照）。アレ、『FRIDAY』が勝手に書いてるんですよ。俺が話したことだけじゃないですよ。あ、誰かがまた書いたんだよ、俺に黙って。

佐山　俺はいなかったですよ～、その取材のとき。

小川　ハァ～（ため息）、そこまで来たか……。僕が、「譲れないものがある」って言っただけの話がこうなったんですから。

——ま、それはのちほど（笑）。小川さんは、「アントニオ猪木の金魚のフン」だとか「アントニオ猪木の操り人形である」とか、そういった言われ方に対してはどう思ってるんですか？　これは橋本選手も言ってますが。

小川　まぁ、リング外で面白く盛り上げてくれたなと。「ありがとう」って感じですよね。ただ、「試合までは頭下げますけど、リング上で頭下げるのはお前だ！」と、『東スポ』だったかなぁ？　俺がそういう発言をしたと思うんですけど、それが実現できて嬉しかったですね。

——坂口征二社長の、「一生のうちで一番後悔してるのは、小川をプロレス界に入れたことだ」という発言に対しては？

小川　自分としては恩はいつまでも持ってますしね。ただ、自分のやるべき道っていうのかな、自ずと進む道ができちゃったから。それをやって行く上で（坂口）社長と、いまお互いにこういう立場になっちゃったけど、いずれはわかってくればいいかな、と思ってます。わかってもらえるように努力します。でも、新日本という場を提供してくれたことに対しては、とても感謝してます。

——突然話は変わりますけど、自分の入場テーマ曲は気に入ってますか？

佐山　はい！

——佐山さんが返事してどうするんですか！

佐山　オホホホ。

小川　イマイチ盛り上がらないから変えて欲しいんですよね。でもみんなが「いい」って言うんですよ。

——あれはいい曲ですよ。

小川　ボク自身があんまり盛り上がらないから、どうかな、と思って。



「新日本プロレス格闘技ルール」で行われた小川vs橋本戦。小川に言わせると、この試合は当初「UFOルール」のはずだった。が、気合いの入った顔で花道を通りリングインすると、突然、リング上で佐山聡に「コレ、新日本のルールだから気を付けてよ」と言われたという。アバウトすぎるが、いい話だ。「お互いのプライドがルール」の中でせめぎ合っていると、イザという時に役立つということか？

——1・4が終わってますますいい曲に聞こえますね（笑）。

小川　そうですか？　作られるもんですねぇ（笑）。

——で、橋本選手は、昔からテーマ曲にひどく気を使ってる人なんですよ。その大事なテーマ曲がかかってる入場シーンで、「橋本、死ぬ気があるなら上がってこい!!」とマイクで叫んだのが小川さんなんですけど（笑）。

佐山　ねぇ。よく言えるよねぇ。信じられないよぉ。

——あれは、ああいう試合展開にするぞという宣告だったんですか？

小川　宣告じゃなくて、こっちだってUFOの看板背負ってるんだから、中途半端な試合できないし、向こうだってそれなりの覚悟して来てるとは思うんですよ。先に上がったのは僕でしたから、それは言うしかないでしょ！

——じゃあ、橋本選手がテーマ曲を大事にしてるとかは全然考えてなかったんですね。

小川　そういう次元じゃないです！

——スイマセン（笑）。

小川　こっちにしてみれば、単独で乗り込むようなもんだから。おまけにUFOと新日本の対抗戦の3本目。こっちだって向こうだって譲れないものがあるし、それがぶつかれば、自ずと「死ぬ気があるなら上がってこい!!」と言うしかないでしょう！

——じゃあ当然、試合前から、ただごとではない試合になるっていう覚悟は小川選手の中にあったわけですね？

小川　ただごともなにも、去年の12月（30日＝大阪城ホール）に来なかった時点で、こっちは頭にきてるんですから！　あれだけリング外であーだこーだ言ってて、こっちのリングには来ないって、そんな虫のいい話ねえじゃねえか！

——興奮してますね（笑）。そういえば、小川さんが試合前に興奮剤を飲んでいたという報道や噂も飛びましたね。

佐山　あ、あれ、バイアグラです！　バイアグラも興奮剤ですからぁ（笑）。

——ガハハハ！　また始まった！

小川　身の潔白を証明したかったんですよ。聞いてくれてありがたいです。バイアグラはね、会長（猪木）がよく持ってくるけど（笑）。

※この薬物疑惑を報じたのは『週刊ファイト』だったが、同紙の2月4日号でも、「肉体改造に取り組んだ時期から京都の杏林予防医学研究所の山田豊文博士に栄養指導を受けていまして、1・4当日に服用していたのは普段から飲んでいるミネラル剤などです。伊良部選手（ニューヨーク・ヤンキース）なんかも指導を受けているみたいです」と、「その山田博士の指導を受けても肉体改造の効果が現れない人がいる」という話を暴露しつつ小川は答えている（もちろんその人はこのインタビューに時々出てくる人であることは言うまでもない）。小川はこのインタビューでも「薬物疑惑」は事実誤認と力強く言い放っていた。

——試合の話に戻りましょう。試合中も橋本選手への挑発とか、いままでの小川選手には見られなかった行為が随所に見られましたね。

小川　要はアマチュアの、勝ち負けだけの世界だとあそこまでやる必要はないと思うんですけど、プロとして見せるもんとしてはお客さんにもアピールは必要だと思うんで、その違いですよね。リングの中央で闘うとか、そういう点は会長に少しずつ教わってはいたんですよ。間合

『FRIDAY』が勝手に書いた俺が話したことだけじゃない！

小川直也 Naoya Ogawa

いとかは試合をやりながらじゃないと覚えられないから、今回はそれがうまく出せたかな、と。

――試合中の橋本選手の手応えは？　「強いな」とか、「コイツ、口ほどにもないな」とかいうレベルでもいいんですけど。

小川　いやいや、たまたま最初に（僕のが）一発当たっただけですから。ラッキーだったかなって。でもレフェリーに仕掛けるのはけしからんと思いますよ。あと、オイルは塗らないでくれよって。

――橋本選手はオイル塗りまくってましたね。

小川　最低限のルールとしてオイルは塗らないですよね。選手のプライドとして。あと、僕が蹴ったじゃないですか。アレね、プロの世界に入るときに会長に「ちょっと油断したら蹴っていいから」って教えられたんで、それを実行しただけなんですよ。うしろから蹴り入れたりパンチ入れたら反則だと言われてますけど、あの部分に関しては、会長に「油断してる方が悪い」と教わったんで。

――猪木さんだったら当然そう教えるでしょうね（笑）。

小川　あの試合は蹴るチャンスがあったから、当然蹴らなきゃいけないし、バーリ・トゥードと言われてますけど、あれが新日本の原点ですから！　僕がこの世界に入ったときに原点として教えてもらったことだから。

――猪木イズムというか、新日本の原点をやったまでということですね。

小川　新日本の原点イコール猪木イズムですからね。だからあの試合に関しては相手が「打ってくれ」と言わんばかりの状態でしたからね。僕はそれをやっただけの話で。全然問題なかったですよね？

――別に橋本選手個人に恨みがあったわけじゃないんですよね？

佐山　ありました！　ウフフ。

――と、佐山さんが言ってますが（笑）。

小川　全然恨みなんてないですよ！　闘う者としてのプライドのぶつかり合いっていう部分だけですよ!!　あそこまで言うんだったら、それなりにケツ持たなきゃいけないじゃないですか、言った分だけの。僕は言われた分だけやったっていうことですね。

――佐山さんは、「橋本選手はそのつもりでリングに上がってますよ。いい覚悟だったと思います」と問題の『FRIDAY』誌で発言してるんですが。

佐山　僕は関係ないですけどぉ。「騙し討ちだった」とか言われてるから、そうじゃないんですよ、ということを言いたかったんですよ。

小川　騙し討ちもなにも、そんなこと有り得ないじゃないですか。向こうが「裏側のこと全部喋りやがって、この野郎」とか「騙しやがって」とか、わけのわかんないこと言ってるじゃないですか。向こうが言ってるんですからね。僕は何も言ってないですから。

――ああ、そうも取れますね。

小川　「卑怯な手を使いやがって」とかね。どこが卑怯なのかなと思いますよ。「騙した」って、なんのことかと思いますよ。俺の目が飛んでるとか、そういう次元の発言にしても、なんなの？ってなるじゃない！　飛んでるからなんなのよ？　飛んでたら危ないのか？ってなるでしょ。試合としてはこっちはルール守ってるわけだし。

――猪木さんなんて、しょっちゅう目は飛んでますからね（笑）。世間の風潮としては、小川さんをヒールにしたいみたいですね。

小川　いいですよ、別に！

佐山　ヒールになることはこちらも望んでますよ。全～然構わないです。はい。

小川　ただ、終わったときに「ガンバレ、小川」って声援もらったのは嬉しかったですね。ヒールのつもりで来たんですけど。

――じゃあ、もっとブーイングが起きると想像してたんですか？

小川　起きるでしょう、新日本の舞台に敵が乗り込んで来たんですから。

――逆に言えば、1・4前までは、大仁田厚に食われて、UFOが新日本の敵だということがインプットされてなかったというのもあると思うんですよ。

小川　でも、入場のときは結構ブーイング飛んでましたよ。橋本ファンだからブーブー言ったんでしょ（微笑）。

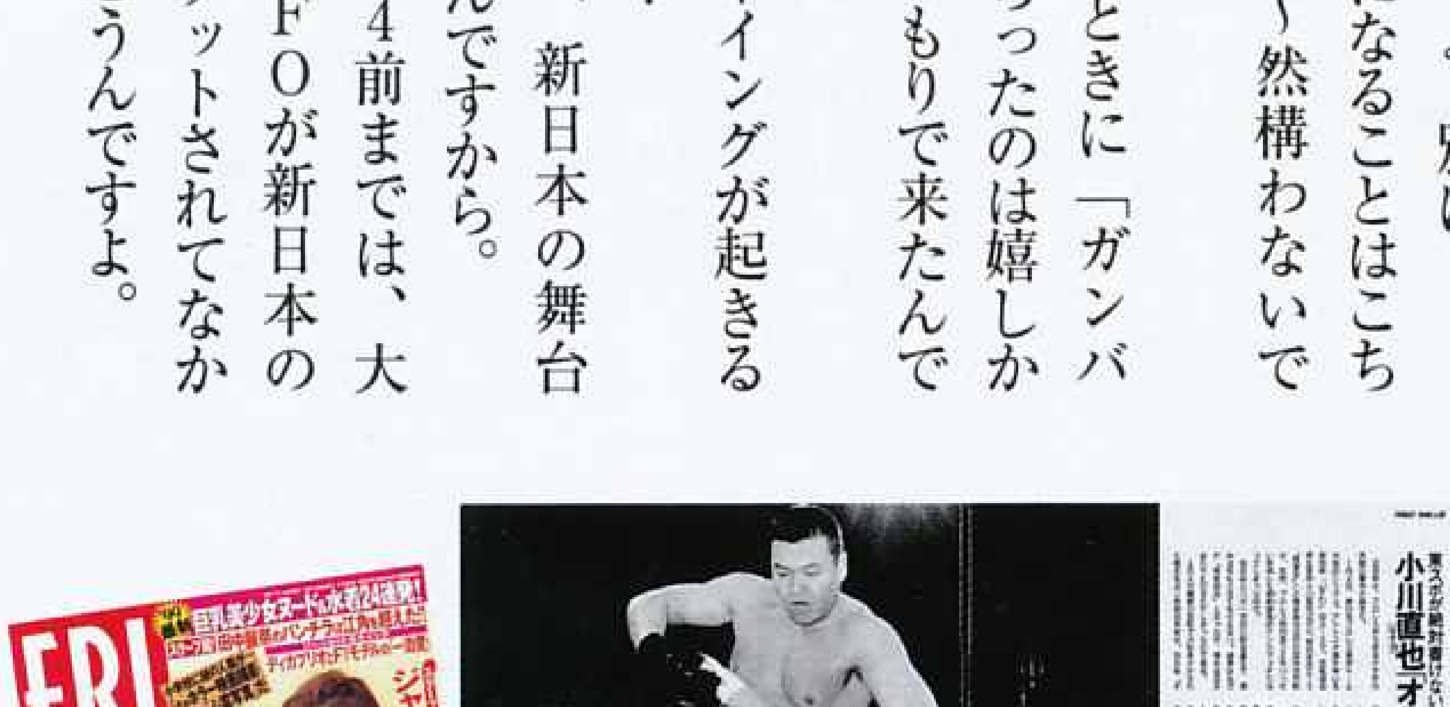
――ガハハハ！　うまいですねぇ（笑）。その物議を醸した試合が終わったあと、「おいおいおい、もう終わりかよ、冗談じゃねえよ！　新日本プロレスのファンの皆様、目を覚ましてください」っていう、″十年に一度″級の名マイクがありましたね。

小川　「目を覚ませよ！」と言うつもりだったんだけど、敵陣だから「目を覚ましてください」とソフトに言わせて頂きました（笑）。

佐山　「目を覚ませー！」だったらカッコいいんだけど、「目を覚ましてくださ～い」っていうのがオーちゃんらしいね。

小川　秘かにあのとき冷静になってましたから。

佐山　変なとこで冷静なんだよ。冷静じゃなくさせようと、一生懸命こっちが



これが問題の『FRIDAY』1/29号。小川は、「プロとして『約束破り』うんぬんは言ってはいけない」「いつ、どこででも、誰の挑戦でも受ける」と実に男らしい姿勢だが、佐山は"打ち合わせがあったはずなのだが"という、書き手の悪質な文章のあとで「確かに、今回もギリギリまでそういう話は（新日本側から）ありました。でも、小川は受けなかった」と、またもや誤解を招く発言。雑誌側の悪意のお陰で佐山のケーフェイ癖が暴発したのか、またも物議を醸すことになった



小川直也 NaoyaOgawa

やったら、「クスリだ」って言われちゃったんですよぉ。ただ、クスリは確かに使ってました、タウリンってヤツね。これはインターネットでウチが売り出しますから（笑）。健康補助食品ですから。ミネラル剤。

小川　あの、決してクスリじゃないですから（笑）。

――それにしても、あのマイクアピールは見事でしたね。

小川　あれでみんながいろいろ考えてくれればいいかな、と。

――猪木イズムに触ったことのある人には、あのひと言は届きますね。

小川　いまプロレスファンだけで、勝手に作っちゃってる時代じゃないですか。そういうのはブッ壊しちゃえ、と。決められたものはブチ壊そうと。

――「ブッ壊しゃあいいんだ」（笑）。作っては壊し、壊しては作りってことですね。猪木さんも佐山さんも新しいものを作るのが好きですからね。『ゴング』（1／28号）で、小川さんは「新日本の歴史は全てをまとめた歴史」と、取りようによっては、すごく深い発言があったんですけど。

小川　昔、テレビで新日本見てましたけど、当時はいろんなことにチャレンジしてたじゃないですか。それがいまはなくなっちゃった。アントニオ猪木は全てやってたんですよね。

――いまの新日本は殻に閉じこもってるということですか?

小川　殻に閉じこもったという言い方は失礼ですけど、チャレンジするのをやめたというのかな。

――そっちの方がキツいですね（笑）。

小川　新日本プロレスにはアントニオ猪木がいて、「どっからでもかかってこい！プロレスは全ての格闘技を集約する」と。モハメド・アリとかとやったような歴史を辿ってきた。それから、突然アルティメットというものが出てきても、会長が若かったら「かかってこいや！」ってなったでしょうね。常に会長が背負ってきて、外に喧嘩を売って常に黙らしてたというか。そういうのがなくなったんでしょうね。新日本の始めの頃が、全て集約されたものであって、そういう歴史を全てもう一回包まなきゃいけない。

――もう一度大きなフィールドを作り直そうということですかね。

小川　それを新日本よりも世界格闘技連盟（ＵＦＯ）でやっていければいいなと思って。

――橋本選手の1・4の試合後のコメントに「うしろで焚き付けてるヤツ、許さないぞ、アントニオ猪木！」という言葉があったんですが、それについてはどう思いますか?

小川　ひと言で言えば……僕もね、長州さんにさんざん挑発して、最近筋違いかなぁと思い始めたんですけど。

――あ、思い始めてるんですか。

小川　最近ね（笑）。でも、あれは顔を張られたから言っただけであって。うしろで操ってるって言っても、所詮闘ってるのは会長じゃないですから。そのことに関しては、「俺（小川）を許さない」って言ってくれればいいかな、と。会長に言ったって、会長がリングに上がるってことはまずないですから。

――なんで小川選手を飛び越えて「許さないぞ、アントニオ猪木」という言葉が出てくるんだと思いますか?

小川　そこが僕にはよくわからないです。

佐山　う～んと、それは、人間としての逃げですよ、心理的に考えると。勝てない相手の小川を相手にすると、また闘わなきゃならないわけですよ。猪木というものを相手にすると今度は枠が大きくなって、逃げることができるわけですよ。そういうことですよ。

小川　ここは佐山さんが言ったってちゃんと書いてくださいよ。お願いしますよ！　お願いします!!（テレコに向かって絶叫）。

佐山　いや、いま僕が言ったのは、『紙プロ』の考えで～す。

――僕はそんなこと1ミリたりとも言ってませんよ（笑）。ところで、新日本の道場にあった猪木さんのパネルは橋本選手の手で外されましたね。

小川　そんなことしなくてもいいじゃない?って思いますけどね（笑）。

――確かに猪木さんのパネルを外したところでどうなるものでもないんでしょうけどね。

小川　それを、いまの若い世代のファンっていうのはわかっちゃってるんですよ。昔は情報も少ないし、知らないことが多すぎて騙せた部分もあった。でも、いまの世代には通用しませんよ。

――ある意味で、選手にとっては受難の時代ですよね。

小川　難しいんですけど、要は強くなきゃいけないんですよ！　それしかないんですよ!!

――実に素敵な発言ですね！「現実を直視する勇気が必要だ」と猪木さんもよく言いますよね。でも、煩わしい根源的な問題に関わってくると、世間は「なんで立てなくていい波風を立ててるんだ」となりますよね。

小川　立たなければ立たないで面白くないでしょ。何かしようと思ったら、波風が立つのは世の常ですから！

――思いきり波風立ててましたね。この『ＦＲＩＤＡＹ』で（笑）。

小川　俺、立ててないですよ。「俺がガチンコで橋本真也を潰した理由」（『ＦＲＩＤＡＹ』の記事のタイトル）なんて言ってないですから。

――橋本選手は、この『ＦＲＩＤＡＹ』の記事を読んで、「『ＦＲＩＤＡＹ』では内側に入ったところまで一方的なものの言い方で言ってる。それは昔のＵＷＦと一緒だ。ウチは本物だけど向こうは偽物だよ、というふうになりかねない」と言ってますね。

小川　俺は、「橋本選手に先に一発いいのもらったら、（俺が）ああなってたかもしれない」ってコメントしてますし。だから、「騙された」とかは言ってはいけないことですよ。プロとして。あげくの果てにクスリ疑惑だから（笑）。

――ガハハハ！『ＦＲＩＤＡＹ』での発言は「打ち首、獄門もの」とまで橋本選手は言ってますね。

小川「打ち首、獄門」って言ったってねぇ。じゃあ、3月14日の横浜アリーナで「打ち首、獄門」にしてくれ。首はキレイに洗っとくから!!

佐山　あ、あ、いま決まったね、アリーナのキャッチフレーズ。『打ち首、獄門』！



何かしようと思ったら、波風が立つのは世の常ですから――!!

格闘 MARS ATTACKS!

——ガハハハ！　決めますか！

佐山　コレ、行こう！『文句があるならかかって来い』よりも『打ち首、獄門』！

小川　で、『怒れ、橋本』って入れときます？

——ガハハハ！　タチ悪いなぁ。『打ち首、獄門？　怒れ橋本！』ですか。こういうこと一緒に言ってると、『紙プロ』も「打ち首、獄門」ものですね。

佐山　『紙プロ』が全～部悪い！

——また始まった（笑）。そういえば『ゴング』（2／4号）が、『FRIDAY』での小川発言にはあきれるしかない、小川はプロレスそのものをわかってない」と、「小川はバカ」という表現を使ってまで、そういう書き方をしてますね。

小川　新日本プロレス創設者の側で僕は修行をしてるわけですから。猪木イズムを学んでるだけで、それがプロレスじゃないって言うんであれば、そうかもしれないね。橋本選手のプロレス観とアントニオ猪木のプロレス観が違うのかもしれないし。まあ、どっちがいいのかっていうのは僕にはわかりませんけど、師匠にアントニオ猪木を選んだのは僕ですから、師匠の教えに従ってやっただけです。

——同じ号の『ゴング』では、橋本選手は「今回自分のやったことを小川はなにもわかっちゃいない」「アイツがメシ食えないようにしてやりたい」「バーリ・トゥードやアルティメットの世界に行くならいい。俺らと一緒の世界でメシ食っていこうとしてるのにああいうことをやる。そういうズルさっていうのが俺には絶対許せない」と発言してますね。

佐山　もーね、オーちゃんは、「なに言ってんだ、そんなことは小さすぎる」って言ってればいいんですよ。「プロレスに真剣に取り組むかどうか。俺たちはコレをやるんだ！」。

——って小川選手が言えばいいんですね（笑）。

小川　橋本選手がそこまで言うならやればいいんですよ！

佐山　だってさあ、「メシを食えないようにしてやる」とか言った時点で猪木イズムが死んでますよ。張り合ってこそ活きるのに。そんな論調でね、猪木イズムの死んだところにコメントなんてする気もなくなってきますよ……と小川が言った！

小川　うまい具合にまとまりましたね（笑）。

——ガハハハ！　全然まとまってないですよ！

小川　でもね、ゴチャゴチャ言うなら「よし、やろう！」って言えばいいじゃないですか。

——僕は個人的には橋本選手は好きなんですけど、橋本選手はかなり頭に血が昇ってるらしくて……。

小川　血が昇ってるならやればいいんですよ!!

——「ウチらの方がプロの世界には慣れてるから、人殺しでもなんでもやる」ぐらいの物騒なことも言ってますよね。闇討ちも辞さないぐらいの勢いで。

佐山　いや～、闇討ちなんかやってくれたら嬉しいねぇ。アハハァ。

小川　でも、刃物持ってくるかもしれないじゃないですか？

佐山　そうしたら一回病院入るのよ、オーちゃんは。死んじゃったら死んじゃったで、またいいじゃん（笑）。で、「タウ



かつて前田日明に“顔面襲撃”されてもジッと耐えることで自らのプロレス観を守った長州にとっては、「俺の目の黒いうちはああいうのは許さない」範疇の試合に入るためか、乱闘の際に出てきた時の迫力は並じゃなかった。悪夢の再現を止める方向に動くのか、それともこの騒動さえも新日本帝国に取り込むつもりなのか、長州イズムのベクトルが気になる



スタンドでのパンチ、エルボー、マウントからの顔面パンチ、逆十字、腕がらみ、顔面蹴りなど、エゲツナイ攻めを見せ続けた小川。それでも試合後に「プロとして失格。技がなかった。単調になった」と冷静に自らの試合を振り返ったのは余裕のなせる技なのか。内容については賛否両論あるものの、この試合によって小川の強さは確実に伝わった

プレイバック “1・4事変” 前後

98年12月9日　小川vs橋本の舌戦が加熱!!
▼小川vs橋本戦が“新日本vsUFO全面対抗戦”のファイナル（興行としてはセミ前）として行われることが決定。マスコミ上では小川vs橋本の舌戦が繰り広げられ、ルール問題が浮上。「お互いのプライドがルールだ！」というUFOルールを要求する小川に対して、橋本は「アルティメットのような受うつなものを見せつけて何になる」としたうえで、「目潰し、金的、噛みつき禁止。KOかギブアップのみで決着を付ける」異種格闘技戦ルールを逆要求。結局、当日は新日本プロレス格闘技戦ルールで行われた。

12月21日　猪木、カシン&藤田の引き抜きを示唆
▼23日付東京スポーツで、アメリカから帰国したA・猪木が、ケンドー・カシン、藤田和之と合同練習を行っていたことを明かしたうえで、2人のUFO引き抜きを示唆。それを裏付けるかのように実際、小川vs橋本戦後、小川が一瞬、藤田に握手を求めるというシーンがあった。

12月23日　橋本、突然のフロント批判
▼2月のIWGP挑戦者決定トーナメントについて「ハッキリ言ってバカバカしい。これじゃG1じゃねえか」と出場拒否を表明した。

12月25日　風雲急！　破壊王、無期限出場停止
▼坂口征二社長の名義で橋本の無期限出場停止処分が発表された。この処分について、一部で「制裁マッチへの布石だった」という説も持ち上がった。

12月27日　入社試験？
▼この日、猪木は無期限出場停止処分を受けた橋本に「UFOにくりゃいいんだ」と勧誘。さらに1・4のvs小川戦を「入社テストだ」と言い切った。

99年1月4日　1・4事変“勃発！
▼“1・4事変”、勃発！　小川が橋本を完全KO。しかし、結果は「6分58秒無効試合」。小川は容赦ない顔面蹴り、極めては逃がすねちっこい関節技、橋本を小馬鹿にしたかのようなパフォーマンスでリング上を大混乱に陥れた。UFO勢と新日勢の大乱闘では飯塚、安田、小原などが中心となって、UFOのゴルドー、4代目タイガーマスク、村上一成らとやりあった。数の上で不利なUFO勢の村上が、ストンピングの集中砲火、安田の張り手などを受け、救急車で病院に直行するほどのケガを負うことになってしまう。ちなみに、この日の報道陣の間ではド迫力の暴れっぷりをみせた安田が最強という説が囁かれていた。最後には、現場責任者の長州力が小川を殴るという一幕も飛び出した。この大混乱に対して、「しょせん、新日本とUFOは水と油なんだ」と坂口征

永久追放とかはありがたいね 憎まれればいいかなと

格闘 MARS ATTACKS!

リンをくれ～」とか言ってさぁ、そしたらタウリン売れるじゃん。

——ガハハハ! 怖いですね、ホント、佐山さんの言うことは。

佐山 シュボッ!! (突然、ピストル型のライターで、火を点ける)

——ウアッ! ビックリしたァ!! そんなんで火を点けないでくださいよ!

佐山 アハハハァ。

——でも新日本からUFOへの「絶縁宣言」とか、マスコミからも「小川の発言は許せない」とか「永久追放」とか、そういう言葉もガンガン出てきてますね。

小川 でも、永久追放とかはありがたいですね。憎まれるだけ憎まれればいいかなと。会長もかつて永久追放と言われたことがありますからね(昭和46年日本プロレス時代。「会社乗っ取り」の汚名を着せられ追放処分となった)。光栄なことですよ。

——アントニオ猪木、佐山聡、前田日明、小川直也。この四人がプロレス界から一度は永久追放になった人たちですね(笑)。『FRIDAY』の記事を指して「プロレスファンが一番傷ついてる」という、実に甘ったるい論調のマスコミもありますね。ま、さっきから良く出てる『ゴング』なんですけど(笑)。

小川 プロレスファンが傷ついてるっていうのは、こんな記事より試合の結果ですよ!!

——なるほど! それですよ!! プロレスファンであれば、柔道から上がってきてキャリア2年足らずの小川直也に「なんであそこまでやられるんだ!」って思うのは当然ですからね。だけど橋本選手は、悲しいことに「闘魂は切り離す」と言ってるんですよね。

小川 (佐山に向かって) 闘魂なくなっちゃうんですよ? じゃあ「1・2・3・ダーッ!」もなくなっちゃうんですか? よし、じゃあ「闘魂」は遠慮なくいただきましょう。

佐山 ウチの道場に貼ろう!「闘魂」って書いた紙。あと会長のパネルも! あ、ウチは道場がないわ。アハハハァ。

——橋本選手は、あげくの果てには「アントニオ猪木はもう死んだ方がいい」とまで言ってますけど。

佐山 まあ、そう言えるのもいまのうちだけですよ。将来、恩を感じるときが来ますよ。こういう試合があって、喝を入れてくれたのがアントニオ猪木だったんだ、と思ってくれるときが必ず来ますよ……って小川が言ってま～す。はい。

——乱闘騒ぎになったときに、長州さんが「小川、これがお前のやりたいことか?」と言ってましたよね。

小川直也 NaoyaOgawa

佐山 あ、それはね、あ、口出してすいませ～ん。知ってたんですから。それをリング上でやられた時点で「それがお前のやり方か?」っていうこと自体、マスコミとか周りの目を考えて言っただけの話ですから。(小声で) 僕は小川。計算されてますから、それに対して僕はなんとも思ってません。(小声で) 僕は小川ですから。

——と、「僕は小川」と言っている佐山さんが言ってますが(笑)。

小川 いや、だいたい「やり方」もなにも、普通の試合ですからね!

——全日本プロレスの三沢光晴選手が「プロレスラーはもっと強くなきゃいけないと思います。ちょっとレスラーが弱く見られがちな試合だったと思います。やっぱりレスラーを名乗るんなら、もっと胸張って歩けるような試合をしてほしい」と、明らかに小川vs橋本戦を想定したことを全日本の中継のなかでコメントしてるんですよ。"1・4事変"は、他団体まで波及してるってことですね。

佐山 あ～、なるほど。一番頭のいいコメントですね。でも小川はもうプロレスラーですから! でも三沢君はいい人だ。

小川 と、初代タイガーマスクが二代目タイガーマスクに言っていた(笑)。

——ガハハハ! もう、ワケわかんなくなってきました。

小川 でも、いちプロレスラーとしての発言として、それが私と橋本選手のために言ったんであれば、全日本プロレスの人には"自覚"があるのかなって思いましたね。

二新日本プロレス社長は語り、この試合が終わった途端、三四郎マスクを被った大男が逃げるように会場を後にした姿が目撃されている。

1月5日 村上、怒りの反論!

▼村上一成が7日付東京スポーツの独占取材を受け、腫れ上がった顔で「集団で来るとは腹が立つのを通り越してアキレる。ボクを蹴った人が、"オレがやってやる"と名乗り出てくるのを待ってます」と一騎打ちをアピール。

▼新日本の事務所に選手、フロントが集結。報道陣をシャットアウトして興行会議が行われた。橋本は「やられたら3倍でやりかえす」とコメント。

1月6日 猪木、挑発!

▼1・4以後、初めて公の場に姿を現した猪木。三四郎マスクについては「誰もオレと気づいてくれないんだよな」と本人だと認めた。橋本についても「文句があれば、小川をぶっ飛ばせばいいんだ。やりたければ横浜アリーナに来ればいい」と挑発。小川も「長州も来い!」とさらに挑発した。

1月13日 絶縁宣言!

▼14日付の東京スポーツ誌上で、坂口征二社長がUFOとの絶縁を正式表明。「3・14のUFOに行くことも、4・10の新日本に呼ぶこともない」と言明。

1月18日 会社の方針にフ然?

▼この時期、恒例の新日本プロレス契約更改。その席で、橋本が契約更改を保留した。金銭問題よりも、UFO問題について会社の方針と橋本の気持ちの折り合いがつかなかった、ということらしい。

1月22日 橋本、苦悩の涙

▼この日の記者会見で、坂口社長は改めてUFOとの絶縁を宣言。そこに長州が口を挟み「オレ自身はファンにとって大変面白い、期待できるようなかたちで終わったんじゃネエかなって思います。面白いっていうのは、これから新日本がどう出るかっていう部分でね」と"1・4事変"を振り返り、新日内で方針の統一がなされていないことが浮き彫りになった。

▼橋本は2回目の契約更改も涙の保留。「気持ちの整理がつかない」ということで、契約には至らず。



「新日本プロレスのファンの皆様、目を覚ましてください!」——レベルの高い謎かけは、猪木イズムの一つでもあるが、小川が今後、このテンションを持続できるかどうかが、UFO存続の課題だろう



特別出演／村田善則先生謹製アントニオ猪木ブロンズ像様

築き上げてきたものがあるんならあんなんで壊れないでしょ！

格闘 MARS ATTACKS!

小川直也 Naoya Ogawa

――逆に言えば、「もっと橋本選手に胸を張らせるような試合をやってやれよ」とも聞こえますね。

小川 （乱闘の）最後、橋本選手が長州さんを止めてたでしょ。「止める力があるんならヤレよ！」という人が多かったんですよ。そう言われてみればそうだな、と思ったんですけど、それはどうなんですかね？　よく聞かれて答えに困るんですけど。

――橋本選手は、立ち向かわなかったことで、「プロレスを守った」という言い方をしてますね。

小川 は？　守ったんですか？

佐山 ハイハイ、守った守った。もう、細かいことはどうでもいいですよ。

――いや、細かいことを聞かないとインタビューになりませんよ！（笑）。

佐山 橋本選手はプロレスを守った。小川は猪木イズムを守った！　それでいいんじゃないですかぁ。

――そうすると、あれは「UFO vs 新日本プロレス」というより、「猪木イズム vs 新日本プロレス」。いや、「猪木イズム vs 新・新日本プロレス」。というか、「猪木イズム vs ニュー・ジャパンプロレス」の闘いということになりますね、アレは！

小川 ハハハ。まあ、平成新日本プロレスとの闘いですよ。

――『ゴング』では、「素顔の小川直也という人物は、多くの人が認める好青年なだけに、（『FRIDAY』での発言は）非常に残念なことである」っていう書き方をしてたんですけど。

佐山 ソレは絶対違う！

小川 それはアマチュア時代も通して、それはリング外の話であって、リング内は別だよ、と。

佐山 イヤ、リング外だって、コイツ好青年とは絶対違う！『ゴング』に対して、俺はそれが一番腹が立つ！

――立ちますか（笑）。でも、この一戦で小川さんがどういう人なのかっていうのが非常に興味深くなってきましたね。

小川 闘いの場は私生活とは違うじゃないですか。

――猪木さんがよく言うような、二面性っていうんですか。

小川 みんな、それぞれ二面性って持ってますからね。

――「何が表で何が裏なのか」とか、いつ、何時でも根源的なものを考えさせてくれるのが猪木プロレスだったわけですけど、そういった意味ではプロレスってものもセオリー通りのプロレスだけではなく、二面性を見せてくれないと広がりがないんですよね。

小川 だから『ゴング』もプロレス雑誌なのか、プロレスファン雑誌なのかよくわかんないんですよね。猪木イズムというものを真っ向から否定してるのかなって受け取れますよね。

――『週プロ』も『ファイト』もプロレス・マスコミはおしなべて、小川さんの「掟破り」、つまり良くないという方向ですね。

小川 それはそれでいいですけどね。

――でも、小川選手はUFOの旗揚げ戦（98・10・24）のときは、ズバリ言って〝プロとしての陣地取り〟がまだまだだな、と思ったんですよ。なぜかというと、ドン・フライに勝ったにも関わらず、場外で手を挙げてた。負けたドン・フライがリングの中央にいたんですよね。「旗揚げ戦の最後くらいは、中央の陣地を取って勝ち名乗りを受けろ、小川！」と思っちゃったんですよ。

小川 最後に陣地は取れなかったですねェ。あいつ、エプロンで顔面に思いっきり入れてきましたからね。あれでフラフラしてきて、あんまり意識なかったです。

――その〝プロとしての陣地取り〟を1・4で本腰を入れてやったんだとウチ的には解釈してますけどね。あれは「プロレス」の範疇ですよ。それも凄く面白い。

小川 ファンからは、「もう一回やってください」って声が多かったですけどね。だからファンは望んでるんだな、と思いましたよ。「がんばって」っていう声が多かったですね。高校生から。「また、橋本選手やっつけてくれ」っていうのが多かった。「もう一回ボコボコにして」って言われましたよ。

――でも、再戦はあるんでしょうか？

小川 俺が向こうの立場だったら間違いなくやるだろうな、とは思いますね。普通だったらここで黙ってられないですよね。

――ここで橋本選手に立ち上がってほしいですけどね。

小川 俺が逆にボコボコにされちゃうようなね（微笑）。

――冷静な小川さんとは反対に、橋本選手は、「いま押さえきれない憤怒の状態で、怒りのエネルギーをどこにぶつけたらいいのか」って言ってますね。

小川 だからリングで決着をつければいいんですよ!!　プロとして、夢を与える立場としてね!!

――その夢を与える立場を、壊されたということなんですかね？

小川 僕が壊したんですか？　そんなに簡単に壊れちゃうものなのかな？

――なかには、あの一試合で橋本真也が築き上げてきたものが壊れたという言い方をする人もいますね。

小川 そうですか？　僕、逆だと思いますけどね。チャンスは何回でもあるじゃないですか。これまで築き上げてきたものがシッカリとあるんだったら、あんなんで壊れないでしょ！　むしろ向こうの方が夢を壊してますよ。UFOは常にこういう試合をしてますから。

――あと、こういうホツれた試合になると出てくるのが、「信頼関係が成り立っていないとプロレスはできない」という論調ですよね。

小川 信頼関係って、目を潰すとかキンタマ攻撃とか、そういう最低限のルールはありますよ。UFOはノールールだ


UFO
UNIVARSAL
FIGHTING-ARTS
ORGANIZATION

格闘 MARS ATTACKS!

「信頼関係」の解釈レベルがあまりにも猪木イズムとかけ離れてる

けど、プライドがルールですから、そういう意味での信頼関係はありますよ。目潰し、金的、あとなんだっけ？……まぁ、深い話はいいですよ（笑）。

―ガハハハ！　基本的なことだと思うんですけど（笑）。

小川　だから、信頼関係っていうのはUFO的に捉えると、選手のプライド。それだけですよ

―信頼関係の周波数が違うってことですね。猪木さんは「腕を一本折られてもいいという信頼感が持てれば、いい試合ができる」って言ってましたね。

小川　アマチュアの世界にだって最低限の信頼関係はありますよ。要するに折られるんだけど、「参った」したくない。その前に審判が止めても、「俺は参ったしてない」って言うとかある。向こうも完全に折るわけにはいかないですからね。そういうのはありますよ。今回だって腕絡み（V1アームロック）で折る寸前で止めたんですから。わざわざ外したんですから。

―そうでしたよね。

小川　みんな間違ってるのは、橋本選手が外したと思ってること！　僕が自分から外したんですから。だから信頼関係の解釈のレベルがあまりにも猪木イズムとかけ離れてるといった方が早いですね。やって結果出さなきゃどうしようもないんですよ。やらずして、結果出そうとするからゴチャゴチャになっちゃうんですよ。

―あらためて聞きますけど、佐山先生は、第一次UWFに参加した頃は、「プロレスを直す」みたいな気持ちはあったんですか？

佐山　当時はなかったです。プロレスを直そうとかは。当時はシューティングを抱えてましたから。今回はプロレスというものを見据えて、プロレスを元に戻そうと。今回の方がその気持ちは全然強いですね。猪木イズムが発展したものだと思うんです。猪木イズムを守りながら会長とともに発展していこうと。

―小川選手は今後、どんな闘いを見せてくれるんですか？

小川　まあ、1・4がああいう形で今年が始まったんで、今年は風に乗っかってガンガンやっていきたいな、と思います。

―不時着しないように（笑）。

佐山　向かい風の方が飛びやすいんですよ。

―飛行機嫌いなのによく知ってますね。

佐山　いや、最近パイロットになろうと思って（笑）。

―ガハハハ！　パイロット!!

小川　UFOもそうなんですか？

佐山　う～ん、UFOは未確認飛行物体だからなぁ。

―未確認といえば、あの試合を猪木さんが『三四郎』マスクを被ってリングサイドで見てたというのも凄いですよね（笑）。

小川　気付かなかったでしょ、みんな？　大成功ですよ。『スターどっきり』とかであるじゃない。一部始終をカメラで撮って欲しかったね。「大成功!!」って赤い字で出てきますよ（笑）。

―ガハハハ！　そんなビデオがあったら、ゼヒ売り出して欲しいですね。一本一万五千円でも買いますよ（笑）。

小川　でも、会長が怒ったのは、あのマスク、穴が一個しか開いてないらしいんですよ。片目で見て、途中で暑くなっちゃって、でも脱げないし。最後、苦しくなって帰ったらしいですよ。俺、それ聞いてガックリ来ちゃって（笑）。

―ガハハハ！　やっぱり猪木ワールドはバッグンに面白いですね。もう、何がなんだか。

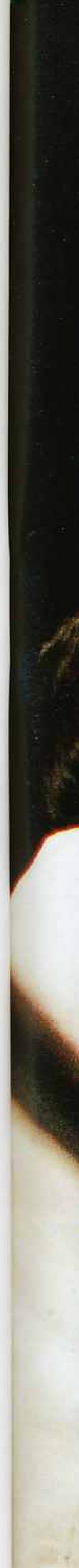
小川　というわけで、風に乗ってUFOは発進します！　UFOがフラフラにならないように。

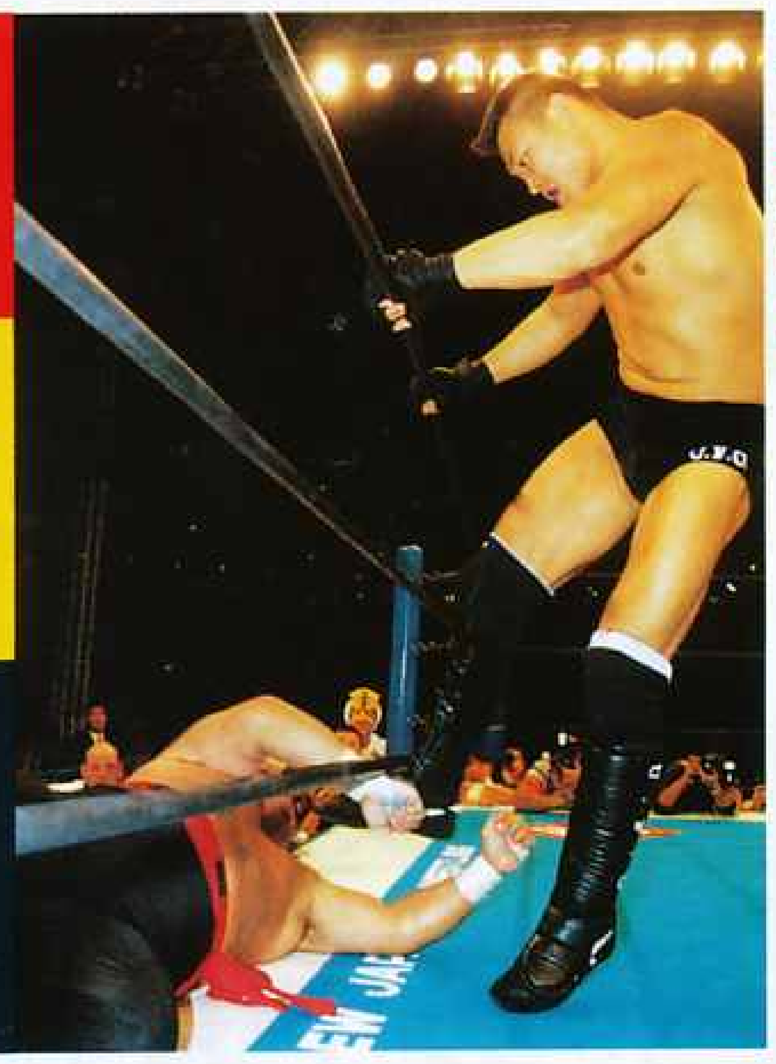
―小川選手には、テーマ曲がなっただけで観ている者の細胞が踊り出すような選手になってもらいたいですね。と、闘魂ショップの上で、しかも新日本事務所の近くでこういう話をしてみました（笑）。今後も、目が覚めるような問題提起を期待してます。

小川　これ、盗聴されてなきゃいいですけどね（笑）。

【99年1月22日／新日本プロレス事務所付近、『闘魂ショップ』の2Fにある猪木事務所にて収録】

小川直也 NaoyaOgawa





どちらを応援していたにせよ、正月気分のプロレスファンの目を覚まさせた小川vs橋本戦。ここは橋本の復讐劇に期待したいが、「おいおいおい、もう終わりかよ、冗談じゃねぇよ」とばかりに、このままUFOvs新日本の抗争は消滅する可能性もある。いずれにしても新日本がどう出てくるか、今後も目が離せない

UFO旗揚げ第3戦！『打ち首！獄門！』(仮)

3・14（日）横浜アリーナ　開場14:00　試合開始15:00

この号が発売される頃には発表されているかもしれないが、例え橋本が来なくても、絶縁が今後正式決定しようとも、こいつらが来れば面白い！　という選手が3・14に参戦！　という情報を極秘入手（まだ書けないもどかしさ、わかってくださ～い、よろしくお願いしま～す!）。1・4に続き、確実に何かが起こりそうなUFO旗揚げ第3戦！　キミも今度こそ、ライド・オン・UFO！　と小川が言った（佐山調）

【チケット発売所】
チケットぴあ　03・5237・9999／チケットセゾン　03・3250・9999
ローソンチケット　03・3573・1015他
【問い合わせ先】03・3479・9990



乱闘？ あれはね、強い者イジメ!!

〝陰の参謀〟は
問題児か？ A級戦犯か？
それとも真の革命児なのか!?

UFOジャパン代表

佐山聡

「小川－橋本戦」
「その後の乱闘」
「公園の散歩」を語る

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saitô

（長州力は）本気でやるんだったら すぐに出てきてますよ、ええ

「いまUFOは隠れてるけど、『インデペンデンス・デイ』みたいに、ある日ドーン！と来るんですよぉ」――UFOが、路上でのブン殴り合い事件や、力道山の墓前で丸坊主事件などを起こす前（Mr.ウオーリーは世間の口をポカンと開けさせていたが）、まだ旗揚げ戦すらも行っていない昨年の8月に、佐山聡は冒頭のようなセリフを吐いていた。

その頃、関係者は「かなり先行き不安だな」と陰口を叩き、ファンは一様に「何がやりたいんだかわからない」とはやし立てた。唯一、UFOに乗り込む気満々だった本誌にすら、その全貌は見えなかった時のことだ。

その佐山聡の言葉通り、1・4新日本のリングにUFOは本格的に襲来した！

しかもその襲撃方法は、最後に合衆国の大統領が勝利を手にする『インデペンデンス・デイ』というよりも、『マーズ・アタック』。いきなり大統領を撃ち殺してから始まる、非常にレベルの高い宇宙人襲撃映画のようだ。

さて、UFO代表、陰の参謀・佐山聡に、襲撃の真相を聞いたが、これからの物語の展開を聞いたが、この人の話はどこからどこまでが本当なのかさっぱりわからない。

あれほどの事件を起こしておきながら、周りの騒ぎなど、どこ吹く風。虎の耳に念仏である。

しかし、いまの佐山聡は、竹中直人の「笑いながら怒る人」のような身震いする怖さをたたえている。

あまりにも内容が過激すぎるため、小さな活字でヒッソリと（はならないと思うが）、衝撃のインタビューをお届けしよう。

佐山聡

Satoru Sayama

――じゃあ、今日は茶化さず、かわさずにズバリと答えてください。

佐山 いやぁ～、風当たりが強くなりますからぁ（笑）。

――1・4の小川―橋本戦の試合後の乱闘の時に、長州力と向き合ってましたけど、その時、長州監督は佐山さんになんと言っていたんですか？

佐山 わかんないですぅ（笑）。

――始まった（笑）。

佐山 まあ、あれはお客さん用のアピールですからねぇ（笑）。

――ゲ⁉ それは興味深い話ですね！

佐山 だってだって、みんなが出てきて、そのあとから出てきたでしょ。ホントに怒ってたら最初から出てきますよ。

――はっは－！ 勉強になるなぁ。

佐山 まかしてください、喧嘩のことは！ ウフフフ。

――じゃあ、佐山さんも最初から喧嘩モードだったんですか。

佐山 いや、違いますよ。そりゃ、試合中になんかあったら大変なことになるなって思ってましたけど。試合が終わったあとは、別に。ねえ？ 試合が終わってから多勢に無勢でやるのはそれは喧嘩じゃないですから。

――喧嘩じゃなければ、なんて言うんでしょうか、あれは。

佐山 あれはねぇ、強い者イジメ!!（笑）。

――ガハハハハハ！ 強い者イジメ!! そう来ますか。勉強になるなぁ（笑）。じゃあ、佐山さんは冷静だったと。

佐山 冷静ですよ、全～然。

――キレたりする瞬間もなく？

佐山 キレたりとか、そんなもんじゃなくて、「ああ、こいつらは普段は来れないクセに、いっぱいになったらくるなぁ」って思っただけですよ。

――また物騒なことを（笑）。じゃあ、ズバリ聞いちゃいますけどね、佐山さんは長州力が嫌いなんですか？

佐山 いやいや、そんなことないですよ。だって、あのあと（乱闘後）も顔を合わしてるんだよ。控え室でさ。もう最初からわかっていたのは、乱闘が始まって、数でけですから。それで出てきたってことは、30vs4ぐらいで有利な時に出てきてるわお客へのアピールですよぉ～、いくらなんでも。本気でやるんだったらすぐに出てきてますよ、ええ。

――そういうもんですか。

佐山 そういうもんですよぉ。

――佐山さんは長州力に含むところは何もないと？

佐山 ないない。全然ないですよ。あちらがなんか考えてるとしたら、考え過ぎなんじゃないですかって。これはホントに（笑）。

――考え過ぎですか（笑）。坂口征二社長には何か言いたいことは？

佐山 全～然。

――では、佐山さん自身は、今後、新日本とはどう付き合っていきたいわけですか。

佐山 何もわかんないですよ～、ボクは。ええ。

――なんでわかんないんですか！ UFOジャパン代表が（笑）。

佐山 大将（猪木）が決めることですからぁ。ボクは個人としては遺恨も何もないですから。細かいことはいっぱい考えればあるけど、別に大局に立って考えれば、そんなことを気にして何になるのぉ、って感じですけどね。

――細かいことを気にしてるのは新日本の方だということですか？

佐山 わかりませ～ん、全～然（笑）。

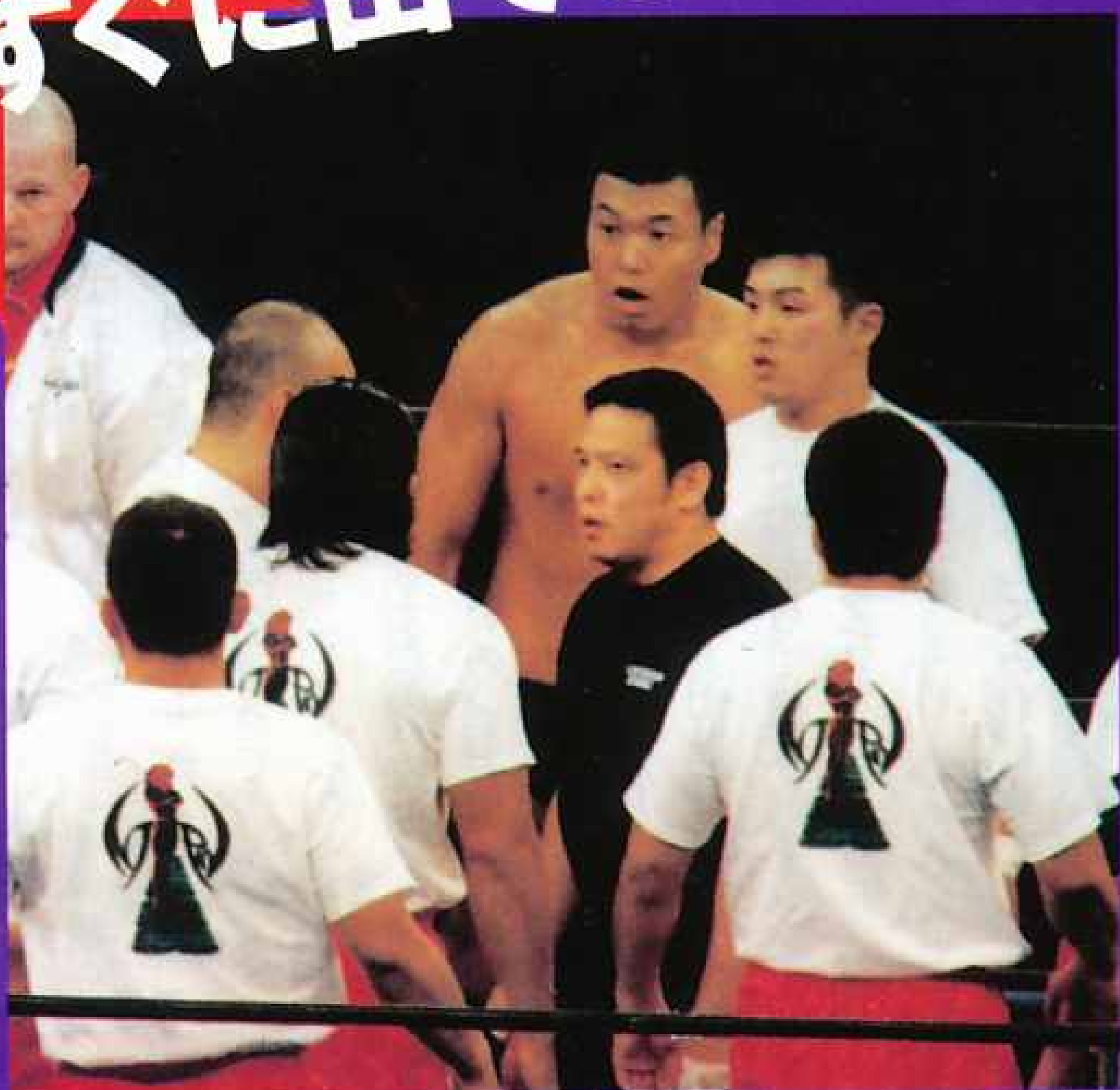
――わからない、と（笑）。村上一成選手とか、4代目タイガーマスク選手などが、あの乱闘でケガしたりとかいろいろありましたけど。

佐山 4代目とかはこっちの選手ですから、ある程度抑えが効くけど、村上は柔術の選手ですからね。うちとはまた別の、一歩違ったところにいるんで、これは抑えが効かないと。だから、これから大変なことになるでしょうね。

――え！ 一体何が起こるんですか⁉

佐山 だって、やっちゃいけない人間をやっちゃったわけですからねぇ。確か、あれは4代目が場外でマスクを剥ぎ取られる時ですか。ボクがバーッと駆け寄って、なんかいっぱいいた人たちを、「あっち行け！」ってボーンッとハネのけてシャツを被せてやって、パッと振り返ったら、もう村上は袋叩きになってるわけですね。アハハハァ。それで「コラ！」って言ったら、新日本プロレスの、まあ、名前を言ったら可哀相なんであれですけど、猪木シンパが守ってくれてましたね。

――止めてくれてたわけですね。





小川vs橋本戦の試合後に大乱闘勃発！ ＵＦＯ勢は、元順道会館の米屋利展、小幡太郎などを入れても圧倒的な不利な人数だったが、“大国・新日本”と堂々と渡り合った。新日の安田忠夫、飯塚孝之、小原道由など意外な面子が乱闘で一歩踏み出していたが、なぜか佐山、ゴルドーに手を出してきたものはいなかった（ゴルドーは何もしていない平田に手を出していたが）〈写真提供／ナイタイスポーツ〉



佐山　反対に「やめろ」って言ってくれてましたね。ボクは飛び込んで行きましたから、よくわかってるんですね。それは有り難かったですね。それで気がついたら白目を剥いちゃってるんですね、村上君が。ウフフフ。倒れたあとに踏み潰しているヤツもいたしね。そういうのを見ると、「ああ、弱いヤツって面白いなぁ」って（笑）。凄く冷静でした、ボク。

——弱いヤツって面白い！（笑）。

佐山　面白いなぁって思って（笑）。ボクたちの高校なんて喧嘩の高校だったから、そんなもんはしょっちゅうですよ。全然気にもしないですよ、そんなこと。

——いや、あれだけのことを高校の喧嘩と一緒にされても（笑）。佐山さんが新日本にいた頃は、ああいう非常事態というものに備えての心構えみたいなものを、猪木さんから教えられてたわけですよね。

佐山　（まんじゅうを食べながら）モグモグモグ。心構えっていうより、やってましたからぁ、みんな。ボクも道場で5回ぐらいやったもんなぁ。

——まんじゅう食いながら言わないでください。非常事態の話をしてるのに（笑）。しかし佐山さんは、どこまでいっても物議を醸しますよね（笑）。

佐山　うん。でも、物議醸していいんじゃないですか？　ちっちゃいことはどうでもいいです。

——でも、新日本からしてみれば大きい問題なんですよ。

佐山　もっともっと大きいことってあるんじゃないですか。そっちの方が楽しいと思いますよぉ。

——橋本選手が、「過去に『ケーフェイ』という本を書いたり、うちのリングに上がったあとに『芝居をやってきました』と言ったりした者と話をしてる新日本という会社にも言いたいことがある。そことうちの創始者であるアントニオ猪木がつながってること自体がおかしい」って言ってるんですが。

佐山　だってホントに芝居じゃないの（笑）。



序盤の小川のワンツーで橋本の形相が一変。雲行きが怪しくなったが、小川は攻撃の手を緩めなかった。橋本はタックルで小川をロープに押し込んだが、結果的に何もできなかった（しなかった？）。このまま、破壊王が崩れ落ちてていくのはあまりにもしのびない。橋本流の豪快な雪辱は有り得るのか？　そして、佐山、小川、そして猪木総帥は今後どう出るのか!?　飛びますかーッ！

乱闘なんて格闘技では当たり前ですから。公園の散歩ですよぉ

——あちゃ〜。

佐山　あれはエキシビション・マッチだぞって（94・5・1福岡ドームでのライガーとの一戦）。何を言ってるんだよ、エキシビション・マッチを普通の試合みたいに書き替えたのはそっちだろって。バカじゃないの、お前ら。まあ、そういうと小競り合いにまたなっちゃうから、もう関係ないだろうと。それに『ケーフェイ』は（ターザン）山本さんが書いたものですから。橋本選手は言えば言うほど自分をちっちゃくするだけだよ、って感じですねぇ。

——じゃあ、佐山さんにしてみれば橋本選手や坂口社長が何を言おうが、関係ないって感じなんですか？

佐山　関係ないですぅ。は〜い。

——はい。では、気を取り直して（笑）、小川vs橋本戦を試合としてどう見ましたか。

佐山　いや、あんまりいい試合じゃなかったね。

——それはどういう点で？

佐山　いい試合だったけど、オーちゃん（小川）の技術がまだね。あれだけタックルに入られちゃうとね。もっとワンサイドでやるべきだったね。慣れてない分野なんだから、相手は。

——ガハハハハ！　またヒドイことを言いますね！　ホントにA級戦犯ですね、佐山さんは。

佐山　違いますよぉー、そうやって言えって導いてるんですよ、編集長が（笑）。

——滅相もない（笑）。この抗争は、ズバリ言って、アントニオ猪木と長州力との主導権争いということなんですか。

佐山　違うでしょ。

——じゃあ、佐山聡と長州力との主導権争い？

佐山　全然違います！　全然違う。

——となると、ファンに「アレはつまりこういうことだ」って、簡単に説明すると、一体どうなるんでしょうか。

佐山　だから、「猪木イズムvsそうでないモノ」のせめぎ合いでしょ。

——ズバリ言って、それは非常によくわかりますね。

佐山　格闘技をやってる世界では、あんなことがしょっちゅうあるのは当たり前の話だから。なんか、凄いことになってるみたいな風になってるけれどもねぇ。んまぁ、公園の散歩ですよ。

——公園の散歩!!（笑）。

佐山　これはホント。

——長州さんはだいぶ佐山さんに頭きてるんじゃないんですか？

佐山　いいえ、そんなことないでしょ。

——それは裏読みのしすぎ？

佐山　だって長州さんとどうのこうのって言われたのは初めてですもん。

——長州さんは、UFOをつくったあたりから、「佐山はまた同じ過ちを繰り返すのか」と、よく発言してたじゃないですか。

佐山　ただ、俺は全然相手にしてないっていうかぁ。そういう言い方は良くないですけど、「なんだろう、過ちって？」って思ってるだけで（笑）。

——ガハハハハ！

佐山　ホント、そうですよ。ちっちゃいことなんて関係ないって（笑）。

——なんでも「どうってことねぇよ」で片付けられそうですね（笑）。

佐山　この件に関しては大きく考えると、どうってことないですよ、ホント。お前ら、チャカを持ち合った喧嘩ができるのかと。ホントにやるぞ、こっちは。そのぐらいの覚悟はあるんだよと。あまりナメるなよと。

——そのチャカを持ち合ったっていうのは、何かの比喩ですか？

佐山　いやいや、ホントに殺すぞ！ってことですよ。だってそのぐらいの気持ちがあるんだもん、俺たちは。思想がまったく違うから相手にしてないだけです。ホントにやるよってことですから。は〜い。ウフフフ。

——だけど、乱闘の時、新日本側で向かってきた選手には、猪木イズムがある……。

佐山　ないです！　多勢に無勢で向かってきた選手なんて。試合の途中から来るヤツはいいけども、ああなった（乱闘）状態で、それから来るヤツっていうのは喧嘩の時で言えばどういうヤツ？　特攻で一番で最初に行くヤツなのか、優勢になったから行くヤツなのか。この差ですよ。試合の時に、もうわかってましたから、ボク。分析してました。群衆心理っていうんでしょうか？　そういうので動いてるヤツは大したことないですよ。ホントに怖いのは最初から来るヤツですよ。

格闘 MARS ATTACKS!

佐山聡 Satoru Sayama



──新日本のセコンドで、最初から臨戦態勢っていう選手はいましたか？ 佐山さんの目から見て。

佐山 ホントに来る気があるなっていうのは、永田（裕志）選手とか、石沢（常光）選手とか、藤田（和之）選手とかかなぁ。アハハハァ。「これはおかしいな？」っていう感じで、グッと来てましたからね。あとの選手は、わかってたけど手を出せない。まだ人数が少なかったから。

──今回の〝1・4事変〟のあとには小川選手に対して「永久追放」だとか、「UFOとは絶縁」だとか、いろんな話が出てきてますけど、今後はどうしたいんですか？

佐山 わからないです。ただ永久追放って呼ばれた人間はいいことですよ。そのくらい物議を呼び起こすことが、小川にとってはいいことじゃないですかね。

──逆に物議を醸すくらいじゃないと、風穴は空かないですからね。

佐山 そういうことで〜す。はい。だから、あっちは選手会っていう座布団の上に乗っかってるモノがあるんでしょうね。新日本プロレスの選手会っていうのにね。だから、乗ってない選手もいるし、乗り切っちゃってる人もいるし。まぁ、それはこれからわかることじゃないですかぁ。

──猪木さんの考えは別として、佐山さんの考えとしては、これからUFOをどっちの方向に飛ばそうと考えてるんですか。

佐山 ボクは猪木さんの言うことを守るだけですからぁ。思想はないですよ。ええ。

──猪木さんはどういうことを考えてると思いますか？ 佐山さんの解釈では。

佐山 猪木さんの頭の中では猪木イズムの復活とか。本人が一番気にしてるのは「もうこれはプロレスじゃない」と言う風にね。例えば東京ドームに行ったりすれば、猪木さんの部屋があるわけですよね。そこにはモニターがあるでしょ。それを見てて「こんなのプロレスじゃないよ、わかってくれよ、佐山」って俺に訴えかけるんですよ。「見てくれよ」って。で、しまいには、「もう見ないんだ。こんなの」って言ったぐらいの人間ですから。

──「見たかねぇよ！」と（笑）。

佐山 ええ。それを誰もいないところでやるんですよ。ファンのためじゃなくて、心から言ってることですよ。そういうフラストレーションがあるということを、お客さんわかってください、ファンの皆さんわかってください、ってことですね。

──某現場監督みたいにお客さんに向けてのアピールじゃないということですね（笑）。

佐山 まあ、そこんところは俺はわかんないですけどね（笑）。

──自分で言ったんですよ！（笑）。

佐山 そうでしたっけぇ（笑）。

──でもね、『FRIDAY』に載った記事（P.5参照）で、ズバリ言って、また佐山さんは嫌われますよ。

佐山 あれは小川が言ったことだから（笑）。

──ガハハハハハ！ 汚ねぇなぁ（笑）。

佐山 何を書いてあるか、何を言ったか、全〜然覚えてないんだけど（笑）。もう大局的なことを考えた方がいいんですよ。それよりも、UFOは世界の格闘家を集めてますから。格闘技の練習をもっともっとして、もっともっと体制を作っていかなきゃいけないですからね。

──強くあった上で、芸術的な部分も見せられる体制づくり。

佐山 そういうことでしょ。それが猪木イズムでしょ。

──いまは、強さは置いといて、「芸術」という言葉の尻馬に乗っかるというか、なんでも芸術といえば済むという方向に行ってる「プロレス」が多いですからね。

佐山 そういうのは芸術でも何でもないですよ。

──じゃあ、いまの「プロレス」はなんなんですか？

佐山 わからないで〜す。全然ボクらの知りえないところのものでしょうね。「ガンバレば」って感じですねぇ（笑）。

──「ガンバレば」（笑）。もう怖い、佐山さんと話してると（笑）。

佐山 そんなことないですよ〜（笑）。ホントにわかんないんですもん。

──その「わかんない」ってことに対して新日本側は怒るんですよ。「なんでわかんないヤツがこの世界に戻ってくるんだ」って。

佐山 だから、この世界って、どこの世界だかよくわかんないですけどね。俺はその世界に戻ってきたのか、別に手伝ってくれって言われたから手伝っているのか（笑）。どっちでもいいんですけどもね。アハハハァ。

──どっちでもいいのか（笑）。簡単に言うと、佐山さんが戻ってきたプロレス界は、佐山さんがいた頃のプロレス界じゃなかったというわけですか。

佐山 ええ、ボクはそれを言ってるわけですけどね。ええ、ええ。「プロレス界かなぁ、これ？」っていうのがボクの頭の中にはありますけどね。だから、ボクの中での「プロレス」は猪木イズムですよ。

──いまの「プロレス」には、猪木イズムも何もないと。

佐山 何もないでしょうね。まあ、それはそれで「プロレス」でいいじゃないですか。そういう「プロレス」もあっていいじゃないですか。はい（笑）。

──やっぱり怖いですね、佐山さんは。

佐山 怖くないですよ〜。ボクほどキレない人間いないですよぉ〜。ウフフフ。

──キレない！ どうも裏から入ってくる話と違いますね（笑）。

佐山 よく言いますねぇ。過大評価するから、もう。過大評価じゃないか。う〜んと、まぁいいや（笑）。

──いいんですか（笑）。でも、佐山さんの言う「プロレス」は、いまの日本のプロレス界からすると異端なんですよ。だから、東京ドームでも、あんな大騒ぎになっちゃうんでしょうね。

佐山 異端児なんでしょうね。あ、あ、でもそんなことないですよ。これも与えられた使命だから。だけど、ボクは格闘技のこともやってますからね。どっちが本業かって言ったら、ボクは格闘技が本業ですから。だから、UFOのことも副業でやってるわけですから。

──ゲ！ 副業なんですか！（笑）。

佐山 副業ですよ（笑）。

──なんで副業の人が代表になってるんだ！ わけわかんないですね（笑）。

佐山 でも格闘技を本業と考えてる人間が「プロレス」をやることが一番怖いんじゃないですか。こういう人間は、ボクが考えても一番怖いですよ。凄いものを作り上げますよ〜。

──UFOにしてみれば、猪木さんの言う、「スキャンダルを経営に結び付けられない経営者は失格だ」っていうことに則って、「さあ新日本、文句があるなら来なさい！」っていうことですか。





佐山　「これから行くゾ！」っていう感じじゃないですか。えぇ〜、もう。

——新日本が受けない時はどうするんですか。

佐山　受けないわけにはいかないでしょ。彼たちの論理としては、受けないことがUFOが潰れることだと思ってるわけですよ。俺たちの名前を利用されたくないみたいことを思ってるわけですけど、そういうところではまったく次元が違うよ、ということがわかってないんじゃないですかね。

——その次元が違うってことを、もう少しやさしい言葉で言うと？

佐山　やさしい言葉で言うとぉ〜、お次元が違うというかぁ。ウフウフウフフフフフ。

——それは丁寧に言ってるだけです（笑）。

佐山　ですから、彼たちの論理とすれば、大国だと思ってるんですよ、自分たちのことを。だから、今回やられたことを一切ハネつけて無視し続ければUFOは勝手に消滅するだろうと。UFOが生きる道っていうのは大国と絡んでいくしかないだろうって思ってるんですけど、こっちとしてみれば、それは大した問題ではないっていうことですね。大した問題なのは、猪木イズムをどういう風に継承していって、これからのUFOというものを独自の形で、ポリシーの部分でしっかりした太い線を作っていくことが仕事になるわけですよ。今回（1・4）のことは、その中の一つのエンジンをかけた時の始動の役目にはなったかもしれないですけど、大した問題ではないと思いますよ。次にやる、やらないということも含めて。

反対に聞きたい！　ファンに「プロレスって何なの？」って

——じゃあ、例えば新日本から切り離されたとしても、UFOにとっては、どうってことないっていうことですか？

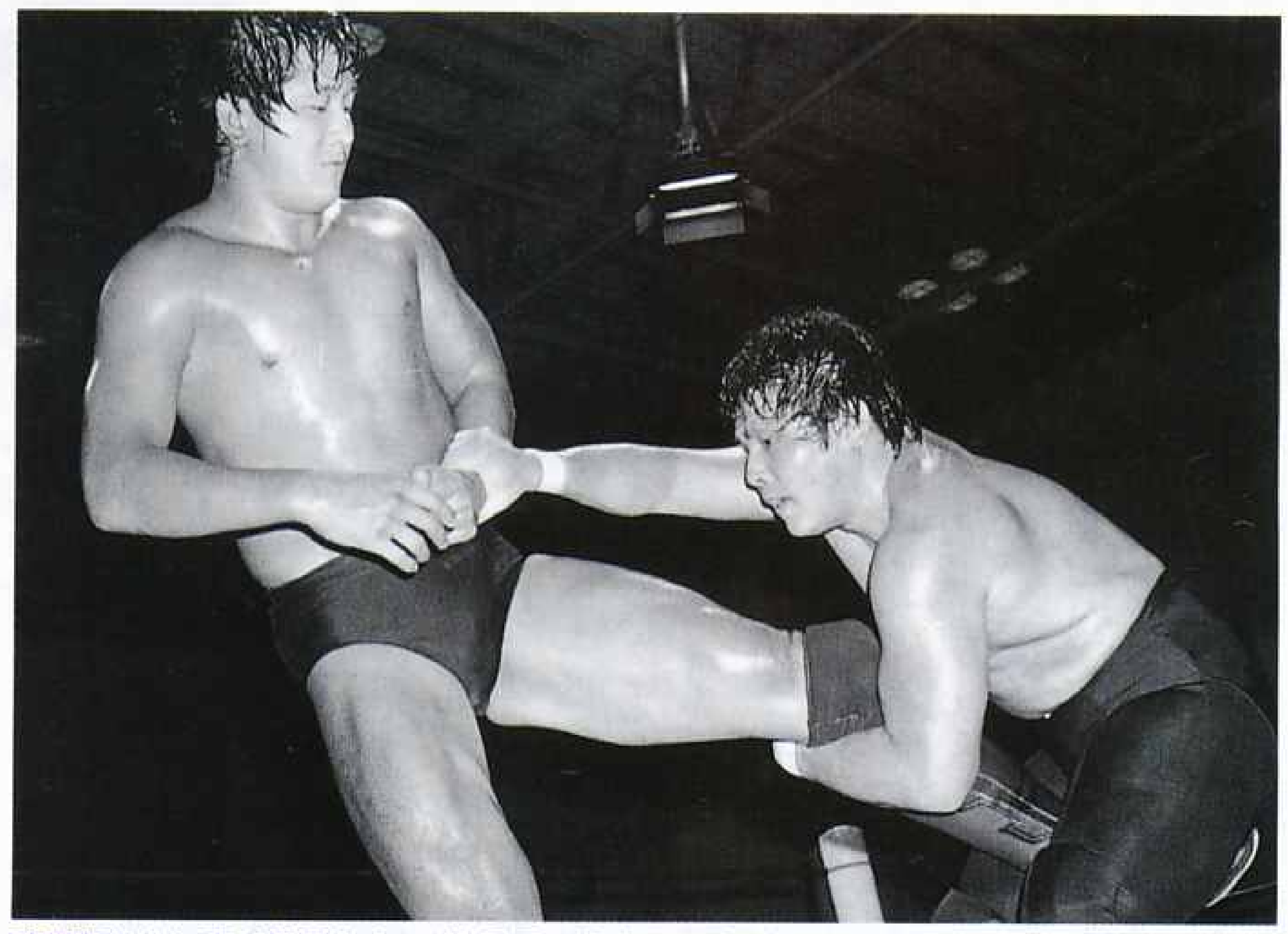
佐山　どうってことないですよぉ。だってボクとしてはマズイですもん。TBSとちゃんとやってるのに、「これからまた新日本とやるんですか？」ってなったら凄くマズイことですもん。だから、ボクとしてはやりたくないって頭がありますもん。でも、猪木としては絶対やるんだっていうね。向こうもゴチャゴチャ言ってくるから、「またやろう」って話になっちゃってるんですよぉ。いまはまぁ、立ち上げですから、赤字覚悟でやらなきゃいけないし。立ち上げましたよってことを見せなきゃいけないので、赤字でもいいから大きい会場でやるっていう体制でしょうね。大阪城ホール（98・12・30＝旗揚げ第2戦）だって100%は入りませんでしたけど、8割ぐらいは入ったわけですから。どこかの小さな会場で1500人の人を集めてオープニングしましたっていうよりも、ある意味では社会的信用は得たかなと。それでもう一回やって、4月からは利益に走る。

——ガハハハ！　利益に走りますか。

佐山　あ、いやいや違います。まあ、利益には走らないですけどぉ（笑）。利益をも考えた経営方針の大会をやっていかなくちゃいけないなと思いますよ。



“1・4事変”の乱闘の際、小川と真正面から睨み合った佐々木健介も佐山とニアミス。このときの健介の心境はいかなるものだったのだろうか。「健介あたりが来たなら俺が行く」と村上一成は試合前に言っていたらしいのだが、集団攻撃で逆に病院送りにされてしまった。村上の今後のアクションが気になる。非常に不気味だ。〈写真提供／ナイタイスポーツ〉



確信犯的な無責任発言とオトボケ発言は佐山のお手の物だが、マット界のエポック・メイキング的な出来事には必ずと言っていいほど、佐山聡、前田日明の名前がある。この2人は85年9月2日に大阪で、“セメントマッチ”と形容されるような試合でせめぎ合った（結果的には前田の不可解な反則負け）。結局、この2人は“プロレス界”からすると、異端児なのか——

——じゃあ、佐山さんは、興行を含めたそういう経営的な部分も見なきゃいけないし、選手としてリングにも上がらなきゃいけないとなると、いろいろ役割があって大変ですね。

佐山　全〜然。公園の散歩ですよ。大したことないですよ（笑）。

——また公園の散歩（笑）。今日のテーマは公園の散歩ですね。じゃあ、いま佐山さんは楽しいんですか。

佐山　楽しいですよぉ。

——1・4の乱闘も込みで？（笑）。

佐山　乱闘も込みで。ウフフフ。だってああいうのは学生時代を思い出して面白いじゃないですか（笑）。でも、新日本を相手するのも一つのアレなんでしょうけど、もっと一本の道を作らなきゃならないと。例えば城と兵隊と軍資金がなければ戦争ができないじゃないですか？　それを整えなければいけないのがボクの役目でしょ。ええ。その一方でゲリラ的役目もしなくちゃいけないし。この間のはゲリラですよ。あ、違う、決してゲリラじゃないですね（笑）。

——もう何がなんだか（笑）。

佐山　この間のは正々堂々とやったやつですけども、そういうゲリラ的な闘いは戦法としてもやらなきゃいけないだろうし。じゃあ、一番大切なことはなんなの？　と。これから新日本と対戦していくことなの？　と。もちろんそれも大切かもしれませんよ。だけど、それで他のことを忘れてたら何にもならないでしょ。まず一つはちゃんとした臨戦態勢を整えてね。とにかく、選手はセメントばっかりやってればいいんですよ。

——ゲ！　セメントばっかり（笑）。

佐山　そうやって営業も全部セメントでやってればいいんですよ。

——営業もセメント！（笑）。そのセメントとかガチンコとかの言葉は、新日本はまた嫌いでしょうからね。

佐山　なんで嫌うのかってことですねぇ。ボクらの時代は好んでましたからねぇ（笑）。それ



佐山聡 Satoru Sayama

が面白いってことでしたから。それがまたリングに出てるってことが面白かったですからねぇ。

——見事に出てましたね。いきなりですけど、UFOは「ファイティングアーツ」なんですか、「プロレス」なんですか?

佐山 「プロレス」ですよ。ハッキリ言います、「プロレス」です! 猪木イズムを進化させて、これからまた作り上げるってことですね。選手にしても、いくらでも作れるじゃないですか、これから。例えば、うちに道場ができたら凄く怖いと思いますよ。自分が教育しますし、今度は身体もデカイやつも来るだろうし、そこへきてパンチ・キックや寝技にしても一番正しいやり方を教えていくわけですからね。こうなった団体っていうのは物凄いと思いますよ。

——アルティメットやバーリ・トゥードも視野に入ってくるわけですか。

佐山 ボクが考えてるのは「プロレス」ですから。

——難しいなぁ。

佐山 猪木イズムじゃないですか、それが。オホホホ。

——でも、将来的にはアルティメットやバーリ・トゥードに出ていく選手がいてもおかしくないわけですよね。

佐山 う〜んと、それはその時にアルティメットやバーリ・トゥードがあったらですね。でもそれはやらないですね、たぶん。これからUFOから離脱していく選手が出るかもしれませんし、そん時にやるのかもしれませんし。アハハハァ。そん時に離脱したヤツはやる可能性があるでしょうね。「そん時に離脱したヤツ、頑張れよ!」っていまのうちから言っときますよ(笑)。

——実に用意周到ですね(笑)。小川選手が例えばバーリ・トゥードに行くってことはないんですか。

佐山 ないでしょうね。できますけどね、軽く!

——軽く! いいですね。プロレスラーはそうあってほしいんですけどね。

佐山 まあ、そうでしょうね。

——なぜか、言えなくなっちゃいましたね。

佐山 これから自分が作るUFOの選手っていうのは、いくらでもバーリ・トゥードでできるだろうし、自分がこれから作る格闘技にしてもいくらでもできるだろうし。そういう土壌は猪木イズムの中に絶〜っ対に致命的に持っていかないといけないってことですね。

——は? 致命的でどうするんですか(笑)。

佐山 あ、あ、それがなくなったらおしまいってことですよ。

——猪木イズムがないと致命的だってことですね(笑)。身近なところでは、今年はどういう方向で行くわけですか。3月14日には横浜アリーナが決まってますけど。

佐山 まだ発表できないですけどぉ。ただ、「プロレス」と言った以上は、お客さんのニーズに、このUFOっていうカラーをわかっていただいたでしょうから、このカラーに合わせた一番面白い試合展開ができるようなね。例えば平成プロレスの人たちに面白いと言われるんじゃなくて、UFOという「プロレス」に対して「面白い!」と言ってくれる人が納得できるような環境をこれから作っていかなきゃならないでしょう。それには選手であり、道場であり、事務所であり……。

——グッズであり(笑)。

佐山 グッズでありね(笑)。

——ゼヒ、本物の「プロレスファンの皆様、目を覚ましてください時計」を作ってください(笑)。〈小川選手自身が吹き込んだ「本誌特製簡易版・目を覚ましてください時計」を読プレ! P142参照〉

佐山 最高ですよぉ〜、それ。パテント払いますよぉー。は〜い。

——猪木さんの「起きますかーッ! い〜ち、に、さん、ダー! 時計」はどうですか? (笑)。

佐山 オンモシロイいこと考えてますねえ。アハハハァ。

——佐山さんの「みなさ〜ん、起きてくださ〜い時計」ってのもありますから(笑)。

佐山 それじゃあんまり起きないでしょうねぇ(笑)。

——例えば、いま現存する、リングスやパンクラス、俗に言うU系の団体と連動していく気持ちはないんですか。

佐山 わかりません、それは。どうなるのかは。そっちに関しては、猪木イズムがシッカリしてるところがあれば一番いいんじゃないですか。

——そうすると、UFOの往く道は、どこまでいっても猪木イズムってことですね。

佐山 そうですね。UFOという会社に関してのボスは猪木ですから。猪木の顔を潰すわけにはいかないですから。ボクの仕事としては。その中で猪木イズムが徹底されてないところとはできないと思いますよ。

——スタイルうんぬん抜きにして。

佐山 そうですね。その責任はボクにはあるんじゃないかなと思いますね。ええ。アッ!

——なんですか、突然!

佐山 じゃあ、反対に聞きたい! プロレス・ファンに。「プロレス」ってなんなの? あるいはプロレスラーに「プロレス」ってなんなの?って聞きたい。みんななんて答えるの?

——たぶん、大方が、「プロレスはプロレス」って言うでしょうね。

佐山 あ、そうかぁ。

——猪木イズムというモノサシで考えると、小川–橋本戦が、ああいう試合になったっていうのは凄くわかりやすいですけどね。

佐山 凄くわかりやすいですよ。前に橋本が言ってたんですよ。「うちの若いヤツらが黙ってないから」「選手会が黙ってないから」って。「選手会」と「若いヤツら」って言葉をしょっちゅう出すんですよ。これは何なんだろうな?って思ってたんですよ。で、この間わかった!

——教えてください!

佐山 あ、数の論理なんだなって(笑)。

——ガハハハハハ! 数の論理!

佐山 そうだったのか。そんな可愛いこと言ってたのかって(笑)。

——可愛いことですか(笑)。

佐山 そうなった場合、数だったら数をこっちも揃えましょうと。だからまた繰り返しますけど、私の本業は格闘技ですよ。プロレスも、キチンと仕事やってますけど。なんか、みんなボクのことを勘違いしてるんじゃないかなって思いますね。いまだっていろんな格闘技のヤツがプロレスをやってるじゃないですか。平成震新軍だってやってるじゃないですか。あれをもうちょっとバカでかい規模にしたヤツですよってことですよ。

——平成維震軍⁉ なんですか、維震軍のバカでかい規模って(笑)。スケール感が全然わかんなくなりますよ(笑)。

佐山 あ、そうかぁ。だから、そういう形で認めてあげてるんですよ、プロレスを。ある程度。あ、いや、ある程度っていうかぁ、まあねぇ。

——タチ悪いですね(笑)。でも、そこでUFOスタイルが、格闘技界でも物議を醸してる

わけですが。例えばエンセン井上選手も、「バーリ・トゥードのプロレスは許せない」と言ってますよね。

佐山　全然知らないです。

――「バーリ・トゥードは俺たちがやってるものだから、バーリトゥード・スタイルのプロレスは許せない」と。

佐山　う〜ん。それは言わない方がいいんじゃなぁ〜い。だから、「うちは真剣勝負ですよ」って言うのはマズイとは思うけど、「プロレスですよ」って言ってるんだから。

――じゃあ、佐山さんの中では「プロレス」は真剣勝負じゃないと。

佐山　う〜ん……ない！

――ガハハハハ！　言い切りますね!!　いや、佐山さんは素晴らしい！　でも、面白いけど問題ありすぎますよ、その発言は！

佐山　いや、もちろん真剣にはやってますよ。でもガチガチの勝負ではないということですね。プロは勝ち負けも大事だけど、それ以外のものが大事ですからぁ。

――佐山さんにしてみると、「プロレス」ってなんなんですかね？

佐山　芸術でしょ。自分の技術を見せていくのが「プロレス」でしょ。それに対してお客さんも楽しんでストレスを発散させるのが「プロレス」だと思いますよ。格闘技は真剣勝負じゃないといけないですよ。それは武道の世界ですから。それはまったく意味が違いますよ。だけど、これをプロの興行とするにはちょっと難しい問題があると思いますね。でも格闘技も、もともとエンターテインメントなんですから。古代ローマ時代から。ギリシャ時代に行われてたのは神聖なものだけど、ローマ時代からは観客のためにやり始めたわけですから、エンターテインメントですよ。人を殺したりとかしてましたけど、それもエンターテインメントですから。だから、いろんな人がいろんな思想を持っていろんなことを考えると思いますけど、自分の中では自分のしっかりしたポリシーがありますからぁ。

――一つハッキリしてるのは、要は佐山さんにとっては、猪木イズムがなきゃ「プロレス」じゃないわけですよね。

佐山　だと思いますよ。日本の場合はそれがなきゃ「プロレス」じゃないと思いますけどねぇ。

――格闘技という土壌がある「プロレス」を突き刺していくと。

佐山　そうですね。もっともっと大きなフィールドになるだろうし。産業って言っていいぐらい伸びる可能性がありますもん。格闘技はやるもの。自分がやって満足するもの。ね？　こちらはプロとしてエンターテインメントとして、お客さんが何万人も集まるもの。これが猪木イズムでしょ。

――で、猪木さんがよく言うように、そこにも「闘いがなければいけない」と。

佐山　そういうことですね。ええ。

――だから格闘技的な部分の闘いだけじゃなくて、人間力のせめぎ合いであるとか、政治的な駆け引きであるとかも含まれてくるわけですね。



佐山聡
Satoru Sayama

佐山　それを見てお客さんは喜ぶわけですから。

――「そこから逃げるな、向き合え」っていうのも猪木イズムなわけですよね。佐山さんからしてみると、それが普通だったと。

佐山　普通だったんですけどねぇ。

――そうすると、現状の「プロレス」は、なんでこうなっちゃったんでしょうね。

佐山　それはボクはわからないですけどぉ。

――ボクは佐山さんがシューティングを作ったのも大きな要因だと思いますね（笑）。

佐山　それだったら光栄ですよ。また、それはいいことじゃないですか。あの当時、プロレスのために「辞める」って言ってたんですから。それはそういうことですからね。

――エ！　どういうことですか？

佐山　詳しくは言わないです。長くなっちゃいますから（笑）。

――ま、面白いことをやってくれれば何も文句はないんですけど。

佐山　面白くなると思いますよ。ただ、今回の騒動（vs新日本）に巻き込まれることは仕事として大切かもしれませんけれど、自分としては巻き込まれない方向でも頑張っていかないと。三弾ロケットの一弾目が発射しても二弾目、三弾目がなくなっちゃいけませんから。そのために一生懸命頑張んなくちゃいけないな、と思ってますよ。

――ただ、「プロレスは真剣勝負じゃない」とか「UFOは副業だ」とかはバッグンに面白くて、考えさせられる言葉ではあるんですけど、ズバリ言ってファンからは嫌われますね、佐山さんは（笑）。

佐山　しょうがないでしょう（笑）。それを嫌うようじゃねぇ。どうでもいいんじゃないですか。ウフフフ。

――それを嫌うようなファンなら仕方ないと。

佐山　可哀相だってことです。もっと人間、大きくなりなさいと。ホントにUFOがやっていくことしか、救いようがないと思いますよ。猪木イズムはそこにあるわけですから。だから、21世紀のプロレスは格闘技とともにあるということですね。

――なるほど、珍しく最後は素晴らしい答えでしたね！

佐山　でも、今日しゃべったのは全部ウソですからぁ。アハハハァ。よろしくお願いしま〜す。

【99年1月22日／新日本プロレス事務所のすぐ近く、『闘魂ショップ』2Fにある猪木事務所にて収録】

佐山聡の身体には掴みどころがたくさんあるはずなのだが、その話にはまったく掴みどころがない。ここらへんが、プロレス村から敬遠される所以なのだろう（もちろん、佐山聡を信奉している人たちもたくさんいるのだが）。

今後、UFOと新日本の関係がどうなっていくかは現時点（2月1日）ではハッキリしないままだが、2月上旬のアントニオ猪木の帰国からは、いきおい動きが活発になることだろう。

しかし、デビュー2年目にして行ったマーク・コステロとの格闘技戦（77年）、第一次UWF参戦と離脱（84〜85年）、『ケーフェイ』出版（85年発行＝佐山本人は「書いてない」と常に否定）、シューティング創設（＝修斗協会設立87年）など、佐山聡のいままでの行動は、物議を思いきり醸しながらも、「プロレスとは何か？」という命題に対して根本的な問題提起を突きつけていたことは確かだ。

その佐山聡が、雑談の際に鋭く言い放った言葉がある。


「ホントにプロレスのことを考えてるのはどっちだってことですよ」

問題児か、異端児か、A級戦犯か――？

それとも佐山聡は、やはり「真の革命児」なのか？

その答えはまだ立ち現れていない。

いずれにしても、UFOの飛びっぷりには、これからも注目していかざるを得ないのは確かなようである。



格闘 MARS ATTACKS!

「殺るか？ 殺られるか？」だったら俺は殺りますよ!!

凄惨なる修羅場からの生還者

4代目 タイガーマスク

シューティング出身の4代目タイガーマスクにとって、レギュラー参戦しているUFOは決して他人の庭ではない。みちのくプロレスに所属してはいるものの、佐山UFO代表とは切っても切れない鉄の鎖のような師弟関係を持っているからだ。だから、4代目は佐山のために鉄砲玉にも、盾にもなる。1・4、あの世紀の大乱闘から生還したタイガーに、あそこで何があったのか、そして何をしたのか、詳しく語ってもらった。タイガーの命知らずな特攻精神と、潰しにかかったときの新日軍団の恐ろしさが伝わってくる。修羅場をくぐり抜けた生還者の貴重な証言に耳を貸せ!

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／ノブ
photographs by Nobu

小原が「潰せ！ 潰せ！」って言ってましたからね

——最初に聞きたいんですけど、もしタイガーさんが今回の橋本選手の立場だったら、どういう対処をしてたと思いますか？

4代目　これは前から言い続けてることですけど、「セメントだから特別だ。プロレスとは違う」とかいうのはおかしいんですよ！　プロレスは、真剣にやってるもんですから！　試合になれば、それぐらいの気持ちを持ってなきゃおかしいんだから。ちゃんと技術を持ってれば、どんな事態にも対応出来るんじゃないですか？

——前号（『紙のプロレスRADI-CAL』14号）のインタビューでタイガーさんが言ってた、「プロレスラーっていうのはファイターなんですよ」という部分ですね。

4代目　そう、いざというときにナイフを見せるというのは、こういうことですよ。だから、レスラーは口だけじゃダメなんですって‼　身体で示さなきゃ。いくらプロレスのチャンピオンとかいったって、相手がナイフを抜いてきたときに対応するのがプロの力量なんですから。橋本さんは、悪い人じゃないんですけどね。でも、これは俺がいくら「いい人だ」って言ったところで、小川さんと橋本さんの問題ですから。誰かが「ああいう試合はお客さんの前で見せるもんじゃない」って言ってましたけど、いざ仕掛けられたら「自分が殺るか、殺られるか」だけの問題ですよ。そんなの俺だったら殺りますよ‼

——それは正しい姿勢ですよ‼

4代目　「お客さんの前では……」なんて言ってたら、自分がケガするだけですよ。

——そういうリスクのデカい試合を出来るスピリットを称して、猪木イズムだったという意見がありますけど、レスラーだったら「いざ」っていうときの心構えは持ってないとダメですよね。

4代目　レスラーだったら強くなきゃいけない、いざとなったらナイフを出さなきゃいけない、そういう闘いが出来てこそ、そしてプロレスが出来てこそっていうのが猪木イズムじゃないんですか？　俺は佐山先生から「お前は絶対に猪木イズムを持ってる」って言われてますから。

——タイガーさんは、猪木さんがナイフを抜いたキラーな試合は見ていますか？

4代目　昨日、vsミスターX戦とvsレフトフック・デイトン戦が一緒に入ってるビデオを借りたんですよ。あれは、どうしても見たくて！

——特にデイトン戦は凄いですよね！　ところどころキレてる猪木さんが出てきて。

4代目　そう、あれは面白い！　UFOっぽいし。俺は、そういう試合のビデオを見て研究してますから。俺は先生と（マーク・）コステロの試合のビデオも持ってますし。

——裏ビデオじゃないですか（笑）。ただ、プロの試合の中に闘いを見つけだすという意味では、非常に重要な映像ですね。

TigerMask

4代目　そう。そういうふうにプロレスラーも研究しなきゃダメなんじゃないかな。

——最近のプロレス界は、以前に比べるとプロレスの「プロ」の部分ばかりが全面に出てますよね。

4代目　たしかにお客さんあっての仕事だから仕方ないのかもしれないけど。小川vs橋本戦のような雰囲気は、プロレス界全体に必要じゃないですか？

——1・4は最初からああいう試合になりそうな予感はあったんですか？

4代目　当日に東京ドームに行ったら、もう、いつもと雰囲気が違いましたね。先生が言うんですよ、「今日の試合はスゴいと思うよ」って。「こちらに新日のセコンドが手を出してくるかもしれないから、そのときには村上（一成）とお前で止めてくれ。あとは、入場のときに奇襲をかけてくるヤツが出てくるかもしれないから、とにかくオーちゃん（小川）を守ってくれ」とも言われました。

——それでUFO軍団は入場からものものしい雰囲気で、臨戦態勢だったんですね。

4代目　UFOで何試合か小川さんの試合を見てますけど、あんなに緊張した顔を見るのは初めてでした。けっこうそわそわして落ち着きがなくて。

——タイガーさんは試合前から心の準備は出来てたんですか？

4代目　その日の俺は心が完全にUFOになってましたから。小川さんが何をやろうとも、先生に言われたように守ればいいだけだと思ってました。それに、先生も燃えてましたから！　「俺もいざとなったらオーちゃんに加勢するからね」って。俺は拳にテーピングしてましたし。

——完全に拳での殴り合いを想定してたんですね。

4代目　してましたよ！　「若いヤツが出てきたら、まずお前が行け」って言われてたんですから。「佐々木健介さんとか、上のクラスの選手が来たら俺が行く」って村上さんは言ってました。

——そんな役割分担まで完璧にできてたんですね（笑）。



とにかく物騒だったUFO軍団の入場シーン。これが、新日勢の奇襲を警戒したものだったとは驚きだ。先頭を切っていたゴルドーのヤバさにはシビレさせてもらった。試合前におまじないをする橋本とはまた違った意味でカッコいい入場シーンだった。

写真提供／ナイタイスポーツ

4代目 そう、決まってましたよ（笑）。

―なんでゴルドーはセコンドに付いたんですか？

4代目 ホントはゴルドーはドームに観戦に来ただけだったんですよ。でも、ああいう対抗戦だったから、俺から小川さんに「ゴルドーもセコンドに連れてった方がいいんじゃないですか？」って言ったんですよ。やっぱり年末に試合したばっかりだったから、お互い腹に一物を持ってましたけどね。でも、先生がうまく間を取り持ってお互い「今日だけは一緒にやろう」ということで手を組んだんですよ。

―ゴルドーは入場から、メチャクチャおっかない顔をしてましたね。

4代目 入場のときからキレてましたからね（笑）。近づいたら殴られそうでした（笑）。

―で、試合が不可解な終わり方をする直前に、乱闘が始まりましたね。ゴルドーが真っ先に殴り始めてました。

4代目 きっとゴルドー本人はワケわかってないですよ（笑）。

―タイガーさんは、このとき完全に覚悟を決めた状態だったんですか？

4代目 だって、セコンドがリングに上がってきたときには、小原（道由）が「潰せ、潰せ！」「よぉ～し、いくぞ～!!」って言ってましたからね。

―「潰せ！」ですか。

4代目 「来るなら来い、コノヤロー!!」って俺も言い返しちゃったから。まあ、始まるなと思ってましたよ。そしたら、健介さんが俺のところに来て、「お前は（リングから）降りろ」って言うんですよ。

―ほぉ。

4代目 でも、そこで1人だけ降りて、「はいサヨナラ」っていうわけにもいかないですから。ましてや、「潰せ！」なんて言われて、殺らなきゃ殺られちゃいますよ!!

―健介選手はタイガーさんだけに言ったんですか？

4代目 うん、俺に。同業者として、仲間意識があったのかもしれないですね。



血気盛んな村上、戦況を見守る4代目、長州を必死に止める佐山、冷静すぎてとにかくおっかないゴルドー……UFO側は個性が見事に出た乱闘で、これだけの大人数を相手に闘った。新日内でもクロネコ、平田、カシン、藤田、彰俊らは、どちらかといえば乱闘を引き離していく作業をしていたという。

―でも、ズバリ言ってこの乱闘は異常に面白かったです！

4代目 フフフ。まあ、でも、俺は藤田（和之）選手とかケンドー・カシン選手は知ってるし、あの人たちが「まあまあ」って言って止めに入ってきたから、一瞬冷静になったんですよ。

―両軍を分けてたのが、その人たちっていう印象でした。

4代目 そんなところにまた出てくるのが小原の野郎ですよ!!

―思いっきり出てきましたね（笑）。

4代目 あれがしつこく「潰せ！」とかブーブー文句言ってくるんですよ。だったら、お前が小川さんに行けっていうんですよ!!

―まあ、実際に暴れてましたけど。

4代目 小川さんには手を出さずに、身体が小さかったり、勝てそうなヤツにしか手を出さないわけですよ。ゴチャゴチャしてたから詳しくはわからないけど、元・順道会館の小幡（太郎）くんはやられてましたよ。

―そういう人たちまで巻き込まれているのを見ると、ホントに非常事態だなっていうのがビンビン伝わってきましたよ。

4代目 あの乱闘の最後の方をビデオで見たら、まず俺はコーナーにいたんですよ。

―そこで小原選手が先に手を出しましたよね。

4代目 だから俺はよけたんです。「あっ、こいつ手ぇ出した！」って、俺もやりかえしました。そこから乱闘がスタートしたみたいで、俺のところには5、6人来ましたよね。

―誰だか覚えてますか？

4代目 みんな覚えてますよ。言っちゃっていいんですか？

―どうぞ、乱闘の写真もあっちこっちの媒体に載ってますからね。

4代目 山崎一夫、飯塚高史、安田忠夫、後藤達俊、小原道由、あと高岩竜一もいたんですよ。そう、俺は高岩だけは許さないですよ!!

―そういえば乱闘のときの高岩選手はイス持ってましたよね。

4代目 アホだと思いましたね（笑）。もし、対抗戦があったら覚えとけって!!

―何があったんですか？

4代目 もみくしゃにされたときに、俺の後頭部をえらく殴ってるんですよ。これは書いてもいいです!! そして、殴り合ってるうちに俺はマスクをはぎ取られちゃって。それは汚いんじゃないかなと思うんですよ。だって、こっちはマスクはがれたら手を出せるわけないですよ。顔を隠さなきゃいけないんだから。そしたら、Tシャツはボロボロにされるし、左目は腫れちゃって見えなくなっちゃったんですよ。

―えっ、そうなんですか？

4代目 指を突っ込まれて、真っ赤に充血しちゃって。ぼやけてしか見えないんですよ。ゴルドーも心配してくれましたよね。

―ああ、目を狙うのはゴルドーの得意技ですからね。

4代目 ……嫌な話ですね、これ。そのときは先生がうまいこと破れたTシャツを頭に被せて、通路に逃がしてくれたんです。で、顔を隠してパッと振り返ったら、村上さんが倒れてるんですよ。

——その頃、村上さんは顔面を踏みつけられて、大変なことになってたわけですよね。

4代目 そう、さすがに先生も「殺す気かぁぁぁ!?」って、キレてましたよ。そこで先生は「お前は帰れ! 戻れ、戻れ!」って言ってくれたんですけど、そういうことは出来なかったですね。「俺もやらなきゃ」って思いましたから。

——佐山さんがいなかったら大変なことになってましたね。

4代目 村上さんも怒ってたけど、1対1でやったときにどうなるんだってことですよ。村上さんを足で踏んづけたヤツ、最終的に大きなダメージを負わせたヤツは、村上さんと1対1でやったらどうなんだろう? 1対1でやればいいんですよ。怖いからあれだけの大人数で来るんでしょ? あれじゃ暴走族と一緒だもん(笑)。

——暴走族ですか(笑)。でも、あの乱闘に関して元・暴走族の蝶野(正洋)選手が村上さんに謝罪の気持ちが「ある」という発言を『週刊プロレス』(NO.896)でしてるんですよね。

4代目 蝶野さんこそホントのプロですよ!! 全然キャリアのない俺が言うのも失礼だとは思うけど、尊敬できますよ。

——この状況で、ケガさせたことについて謝罪をしたいというのは、いままでのプロレス界では考えられない冷静さですね。ただ、タイガーさん自身はあの乱闘は決して本意ではなかったと思うんですよ。タイガーさん自身は別に新日本に対して何か恨みがあったとかいうわけではないでしょうし。

4代目 ヤクザというか、戦争と一緒ですよ。「仲間がやられるんだったら、俺も一緒に!」っていう気持ちですよ。先生にもそういうメンタル部分はシューティング時代から鍛えられてましたから。だから、これは本意とか、本意じゃないっていう問題じゃないんです。俺は「行け」と言われれば行くし、「やれ」と言われればやるんですよ。それが自分の使命でしょ? だから自分の本意なんて考えはないんですよ。

怖いから大人数でくるんでしょ? あれじゃ暴走族と一緒だもん(笑)



これが証拠写真!! タイガーのマスクにはしっかり手が掛けられている。この後、Tシャツが破られ、マスクもはぎ取られる。マスクを剥がれてからは乱闘にも参加できなかったという。ここでも暴れているのは小原だ! 是非、vs UFOでは最前線に立ってほしい男だ。

TigerMask

——ところで、UFO vs新日は第2ラウンドがあるとか、ないとか噂はいろいろありますけど、もしあったとしたら誰か対戦したいという選手はいますか?

4代目 ケンドー・カシン選手とは何の遺恨もなくいい試合をしたいと思います。

——カシン選手とはUFOで一緒に練習したこともあるんですか?

4代目 UFOではないけど、俺がシューティングにいた頃、一緒に練習したこともありますよ。あの人がシューティングの大宮ジムに出稽古に来てたんです。マスクを被るずっと前の話ですけど。

——えっ、そうなんですか? スパーリングとかもやったんですか?

4代目 ええ、強かったですよ。レスリングをやってた人だから、グランドのコントロールはスゴかったです。

——時が経って、どうなってるか見たいですよね。今回、遺恨が生まれた小原選手とか高岩選手はどうですか?

4代目 1対1で、バーリ・トゥードでやりましょうって!! ちゃんとグローブを付けて、喧嘩をやりましょうよ。

——多勢に無勢じゃ無理があると。

4代目 ましてやマスク脱がされて、同じ仕事してりゃわかるでしょ? ホントに高岩だけは許せない!!

——わかりました(笑)。

4代目 あと、おたくの山口日昇も!!
(※本誌前号参照)

——伝えておきます(笑)。

【'99年1月15日、東京・後楽園ホールにて収録】

▽後日、「これだけは言っておきたいということがある」とのことで、梶原一騎先生の十三回忌記念パーティーに参加する直前の4代目をキャッチして、話を聞いた。

4代目 『ゴング』(NO.750)に「向こうの若いので、人を通して謝ってきた奴もいるんだ」という橋本選手の発言が載ってましたけど、俺ですよ。正直言って、ライガーさんに謝りましたよ。ただ、それは新日とみちのくプロレスの関係が、今回のことが原因で崩れちゃったら申し訳ないなということで謝りました。「今回の俺はUFOという立場で行きましたから、わかってください」ということは言いましたよ。橋本さんに対してではないです。それは小川さんと橋本さんの間の問題ですから。俺は向こうの新日の選手が手を出してきたから、出しただけのことであってね。個人的にはやられてるのに、何で謝らなきゃいけないの!? って感じですね。

【'99年1月21日、東京・赤坂プリンスホテルにて収録】



よんだいめ・たいがーますく■小さい頃から初代タイガーマスク(佐山聡)に憧れる。共通の知人から佐山を紹介され、シューティング大宮ジムに入門。そして現在ではみちのくプロレスにただ1人残った所属選手でもある。173センチ、84キロ。

セメント!? ガチンコ!? シュート!?

10年に1度の大事件!? “1・4”“小川vs橋本戦(etc.……)に関する証言FILE

プロレス界にとって小川vs橋本戦は善なのか!? 悪なのか!? 直視すべきか!? 眼を逸らすべきなのか!?



リングス総帥
前田日明

あれはね“なんちゃってシュート”の試合だよ

格闘 MARS ATTACKS!

もう、あれはね、“なんちゃってシュート”の試合だよ。シュートかなんなのかもわかんない試合してる。ああいう試合で大騒ぎするんだったら、俺らの世代では当たり前のようにあったやんけ。

でも、いまはいいけど、ああいう試合が定期的になったと考えてみ？　人間、飽きるのも早いんだよ。飽きてつまらなく感じだしたら見やしないよ。

なんかね、あの一戦の裏では陰謀がどうのこうの言うけどね、猪木さんも佐山も思いつきで言える人間だから、何も考えてないと思うよ。あの二人は似たもん同士だよ。「俺は天才だ」って信じてる人たちだからね。天才は忘れた頃にやってくるもんだよ。

小川も一所懸命やってるんだろうね。だけど、小川本人のカラーが全然ない。いつも裏に猪木さんがいるっていうイメージがある。ハッキリ言えば、小川は帰るところがあるんだよ、アントニオ猪木という。だから、（ああいう試合が）できるんだよ。

オレの時（87年、有名な長州顔面襲撃事件により前田は新日本を解雇）には面倒みなきゃいけない人間がたくさんいたからね。背負ってるものの違い、帰るところがないっていう部分では、俺の時とは状況が全然違いますよ。比較しようがない。だから橋本に対して、周りの選手も妙に冷静だったり、妙に騒いでる人もいるしね。何かあって、橋本に対しての制裁だったのかなっていう風にも見えるし。

でも橋本もなんかアレやなぁ。ロープに押し込んでいけるんだったら、あとはなんでもできるんやんけ。ロープに押し込んで相手の身体を伸ばして、一発でも二発でもブチかましてやればいいんだよ。あとは思い通りのはずなんやけどなぁ。（乱闘の場面でも）橋本が長州力を止めてたり、なんか情けないね。

猪木さんも『1・2の三四郎』のマスクを被ってリングサイドにいたっていうけどさ、「ストロング・スタイルを目指すうんぬん」と言ってたことが、気がついてみたらまったく違ってたとか昔から繰り返してるでしょ、あの人は。言ってることとやってることが違うっていう、いつもと同じような構造だよね。「あの時に言ってたことはなんだったんだよ」って言いたいよね。なんかチンケ過ぎるよ。まあ、どうでもええわ。



修斗ヘビー級王者／PUREBRED シューティングジム大宮／リン魂初代格闘家アームレスリング王者
エンセン井上

この問題を直すのは猪木さんとリキさんヨ!!

ヒドイねぇ。プロレスにはルールに書いてないルール、マナーっていうのがあるよネ。だから、プロレスのリングでそういうことをやるのは、格闘技のリングで八百長やるのと同じネ。ああいうことをするなら、格闘技のリングに橋本さんをあげてやるべきネ。野球の試合をバスケットにもってくとチョット違うのと同じヨ。いけないヨォ！　私が新日の立場にたったらマナーが最低と思うヨ。オレがセコンドだったら、もっと早めに殴ってる。腕相撲の試合（『リン魂』の企画）で友達になった中西さんとか、山崎さんとかもかなり我慢したと思うネ。ちょっとヒドイ。

リングの外でたくさんの人が一人の人を殴ってたけど、しょうがないヨ。ああいうことすると関係ないよ、もう倒しにいきたいネ。新日の気持ちもわかるヨ。格闘技用の試合をするなら、ちゃんとそういうルールを決めないと。ルールが決まってるのに、そういう仕事をするのはおかしいよ。エンセンは野蛮人だけど、それでもやんないよ、あんな試合。私、裏のことはなんにも知らないけど、新日本は猪木さんに何か悪いことしたの？　UFOはヒドイと思うヨ。オレが新日の方に入ったら殺しに行くヨ、みんな。ホントに。でも、オレが新日だったら、相手にするのはちっちゃい四代目さんじゃない、太ってる佐山さんじゃない、小川さんネ。

あと、最後に出てきた偉そうな人、誰？　リキとかいう人？　強いの？　偉そうネ。彼は凄い調子に乗ってたから小川と真剣勝負を一回やればいいヨ。ボコボコにされるよ、彼は。なんか、裏の力かなんか出してたみたいだけど。ちゃんとやったら強そうだから、一回小川とやればいいよ、イイ試合になるんじゃない？　だけど、彼の怒る気持ちもわかるよ。

でもね、小川さんも佐山先生も村上さんも四代目もみんな可哀相ヨ。なんで本人いないの、猪木さん。一番上で「やれ！」って言った人がいないヨ、おかしいネ。え!?いたの!?　マスク被って見てたの!?　どういうことヨ？　この問題を直すのは猪木さんとリキさんヨ!!

問題を解決するのは、二人で部屋に入ればいいヨ。二人が入ったら鍵をかけて、出てくるのは一人。出てこない方が死んでるヨ。もう、方法はそれしかないかもしれない。私も最初は喜んでたヨ、この試合。「やっつけろ－！」って「うわぁー最高！」って思ったけど、いろいろ考えたけど橋本さん可哀相って思った。だけど面白かったネ。

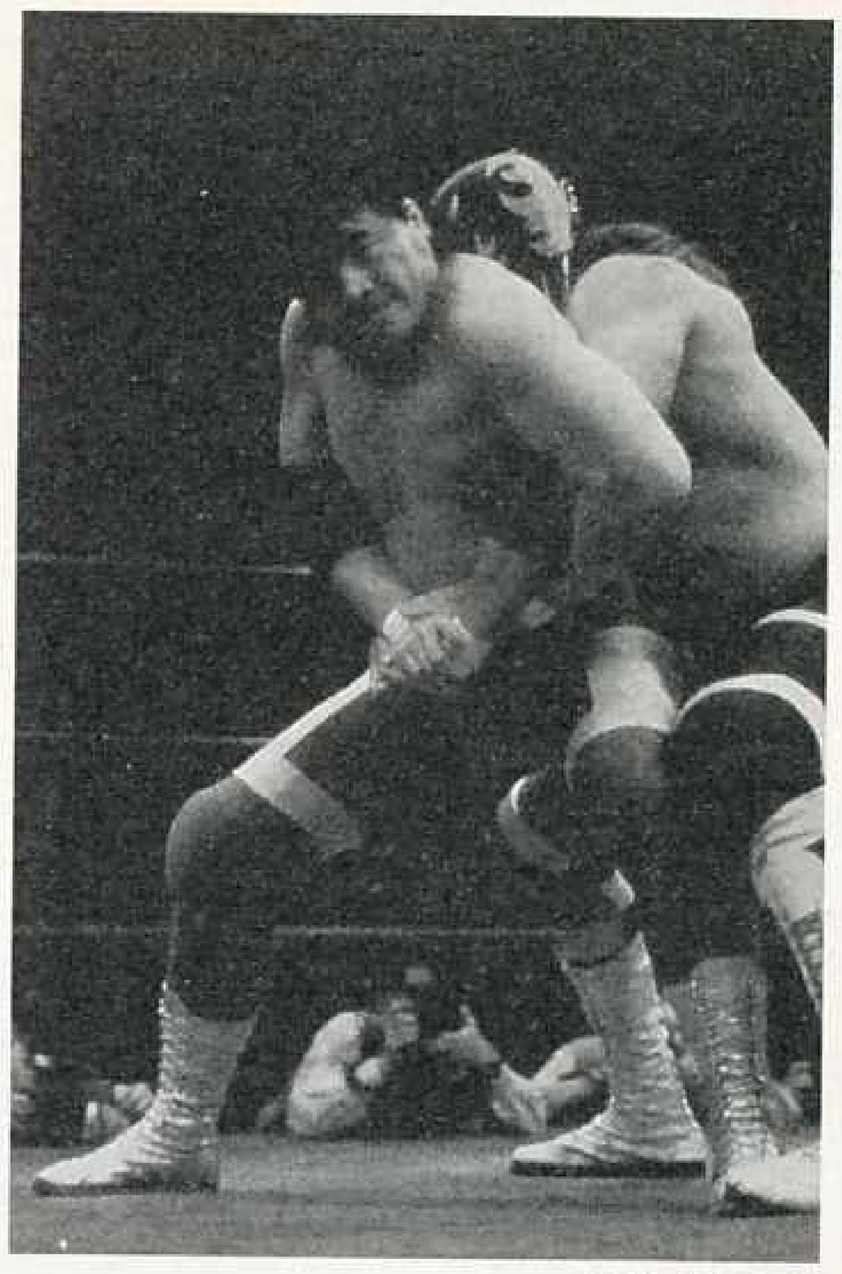
●写真提供ナイタイスポーツ



レスラー、格闘家、評論家、それぞれの眼に映った小川vs橋本戦！

掟破り!? 仕掛け!? 邪道!? 正道!? プロレスを守る!?

レスラーが弱く見られがちな試合だったと思いますねぇ



全日本プロレス
三沢光晴

やっぱりプロレスの威信を賭けてっていうかねぇ。プロレスラーは強くなきゃいけないと思いますしねぇ、ちょっとね、レスラーが弱く見られがちな…試合だったと思いますしねぇ、他団体のはねぇ、もっと頑張って欲しいと思いますし、やっぱりレスラーっていうものを口に出すなら、もっと胸を張って歩けるような試合を見せたいですしね。いろんな格闘技がありますけど、どんな格闘技とやってもねぇ、レスラーはやっぱり強いんだっていうような、一般の人に思われるような闘いをしていきたいと思いますよ。

（99・1・10／NTV『全日本プロレス中継』より）



●写真提供ナイタイスポーツ

やっぱり人の喧嘩は見てて面白いですよね（笑）（本間）



無所属・新 **安生洋二**　R to R **本間 聡**　フリー **長井満也**

本間　この間の小川vs橋本戦ですか？　ん～、ボクはですねぇ、野次馬じゃないんですけど、やっぱり人の喧嘩は見てて面白いですよね（笑）。でもボクは村上クンとは知り合いなんで可哀想だなと思いましたね。小川さんも佐山さんに紹介していただいて、K－1の会場で一回挨拶したことあるんですけど、それぐらいでスかね。まあボクにはちょっとわかんないですけど、プロレスをやろうとして、それを破ったみたいな感じがしましたね。昔の猪木対グレート・アントニオ戦とかあったじゃないですか。顔面思いっきり蹴っ飛ばしてとか。そういうふうに見えましたね。昔の新日もそうだったじゃないですか。やっぱりボクも新日で育ってきましたから。アントニオ猪木直撃世代ですからね。だからまあ昔からのプロレスファンのボクにとっては、久々に面白かったですね。

でも今のファンからしたら悪い意味での新日らしさなんでしょうね。ボクからしたらいい意味での新日らしさを感じましたけどね。

ボクは顔面襲撃があった前田さんと長州さんの試合も見てるんですよ。あと暴動にも参加してるんですよ、TPGが出た時の。ボクはあの時「このヤローふざけんな猪木！」ってやってましたから（笑）。

安生　しかし今の本間さんのTPGに関しての発言で思い出したんですけど、その当時はボクはそういう悪質ファンをツマミ出す側でしたからね。その時出会ってたら大変なことになってましたね（笑）。東京ドームは長井クンと一緒に行ってたんですけどね。

長井　一緒に乱闘に行こうかって言ってたんですけどね（笑）。

安生　コレはオイシイ場面だなっていうのを瞬時に察知しまして。とにかく行ったら目立つぞって言うのをピピッと感じ取ったんですよね。まあでもそういうわけにもいかず、はい。（安生さんは反則勝ちながら小川さんに勝ってますよね？）勝った男ですからねぇ。グッフッフッ！　でもまあ、本間さんが言ったようにとにかく乱闘になると、とにかく昔の新日のデンジャラスな匂いを感じさせるものがでてましたよねぇ。

しかしですよ、やっぱり禁煙の東京ドームの中で、堂々とタバコを吸って入った来た大仁田っていうのはね、なかなかできることじゃないぞと。だって散々「タバコはダメだぞ」って場内放送がありましたからね。そこをあえて破ってきたっていうのはねぇ、大仁田に男樹を感じましたね（笑）。

長井　ボクは会場にいながらもモニターを見てたんですけど（笑）。ちょっと前の新日本の危なっぽさっていう……、ホントは試合だけでそれが出せればいいんでしょうけど、試合後の乱闘の雰囲気っていうのは荒々しいような昔の新日本の感じがしたんじゃないですか。ボクもプロレスは好きでよく見てましたからね、何でもこいって感じで。でもああいうプロレス団体の会場に行ったのも久しぶりだったんで面白かったですね。

安生　長井クンも今、一生懸命受け身の練習してますからね～。

長井　はい。雪崩式を食らってもいいように（笑）。安生さんと新しいNEWカップスでやっていこうかなと思ってますからね（笑）。



フリー
アポロ菅原

僕はこういう試合がでてくることはいいことだと思いますよ

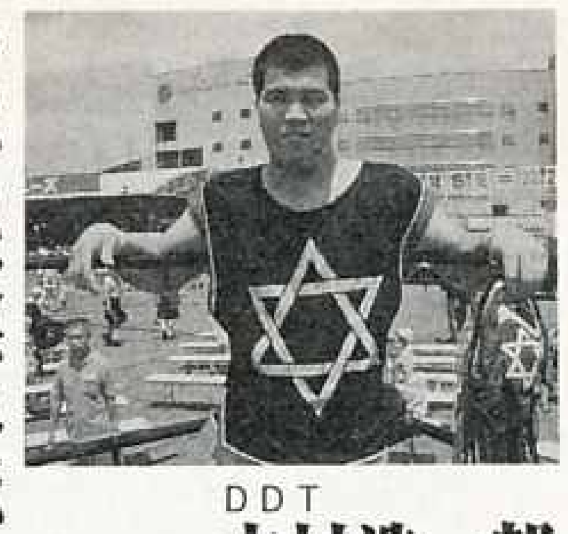
久しぶりに緊張感のあるイイ試合だと思ったけどね。あの試合は、試合としてはイイ試合だと思うし。オレはあんまり見ないんだよ、新日本の試合は。WCWだったら見るけどな、千葉テレビで夜やってるんだよ。だけど、あんだけ身体のデカイ人がその気になってああいう試合をやるとインパクトが出てくるっちゅうことだよね。

ああいう喧嘩マッチになった場合は、橋本選手が一発いいのを入れればまったく逆の展開になるでしょ。だから、勝敗というか、結果に関して橋本選手についてはなんてことないでしょ。逆に小川選手はイイ意味でのリスクも背負ったわけだよね。今度は自分がやられる場合があるわけだよ。

小川選手の場合はそういうのに合わせたような身体を作ってきてるわけだよ。格闘技者っていうのは根本は強くなければいけないわけですよね。高いレベルで強くなければいけないわけよ。だから、強い人は強い人として扱った方がいいってことさ。だぁって強いんだから。それを変にプロレス的に、技で例えると合わせて一本みたいなさ、それは器用さとか、不器用さの問題になって強さが関係なくなってしまうんだよな。いまは器用さがチヤホヤされてるだけで、そこには強さがあんまり必要ないと思うんだよ。だから僕はこういう試合が出てくることはいいことだと思いますよ。でね、橋本選手もファンにいろいろ言われてるけど、負ける時っていうのは「よくやった」って感じで負けるんじゃないんですよ、意外ともろく「なんだよ！」って感じで負けるんですよ。だけど、悲観するような内容じゃないよ。そんなにがっかりするようなものじゃない、素晴らしいプロレスだったですよ。

ああいう試合が一番いいとは思わないけど、必要なものなんですよ。ここ5、6年のお客さんは色分けされたものしか見てないでしょ。ここは関節技の団体、ここは飛び技が主体の団体とか。ね。でも、本来は全部一緒なんですよ。あの試合を見れたんだから、お客さんもチケット代は安かったんじゃないかな（笑）。

"1・4"小川vs橋本戦（etc……）に関する証言FILE



DDT
木村浩一郎

ああいう試合が見たかったらウチの試合を見に来て下さい（木村）

試合としては面白かったですね。結局、小川選手も仕掛けてみて、もし橋本選手がガンガンってきたら、もうちょっとプロレスをやったかもしれませんからね。要は先に仕掛けてそのまま何も抵抗されなかったんで、じゃあやっちゃえ！ってなったと思うんですよ。佐山さんがなんて言ったかわかんないですけどね。橋本選手がちょっとでも抵抗するなり、意地を見せればあの試合ももうちょっといい方向に成立したかも知れないですよね。

ただあの試合で橋本選手が「プロレスを守った」っていう表現をされてますけど、それはどうかと思うんですよ。橋本選手がヤバイと思ってやろうとしなかったっていうよりも、もう勝てないと思ってやらなかったと思うんですよ。もし自分があああいう状況だったら負けても突っ込むとは思うんですけど、橋本選手はそれをしなかったんで……。それで「プロレスを守った」って橋本選手が言ってるんなら、そうなのかなぁって、それしか第三者は言えないですけどね。あの試合で一番プロレスを守ったのは、服部レフェリーだと思いますよ（笑）。

橋本選手は柔道出身だから、頂点を極めた小川選手と、世界レベルまで行けなかった自分との違いっていうのを、ちゃんとわかってると思うんですよ。オレなんかがそう感じないのは、自分はレスリング出身だからなんですよ。柔道がいくら強いっていったって、「裸でやったらわかんないよ！」っていうのがありますから。やっぱりそういう練習をいつもやってる小川選手と、いつも……、なんて言うんですかね、クワ形タックルをやってしまった橋本選手との、やってる練習の違いが出たんでしょうね。

小川選手もだいぶ打撃も良くなってましたけど、アマレスやってた人間からすれば、あの打撃だったらいくらでもタックルでフトコロに飛び込めると思うんですよ。だからこそ乱闘で、アマレス出身の中西選手とかが、あんだけ強く言えるんですよ。

逆にこういう時こそ長州さんが出てくれば面白いですけどね。長州さんは安生選手との試合とか見ても、やっぱり強いですもんね。試合結果だけじゃなく、中間とかを見ても動きいいですからね。長州さんは小川選手とやっても勝てると思ってるんでしょ。いくら向こうが世界一とはいっても、「あれは柔道なんだろ、オレはアマレスでオリンピックに行ってるし、裸だったらレスリングには勝てないんだよ！」ぐらいの気持ちを持ってると思うし。やりたがってるのを周りが止めてるって感じに映りますね。だってなぁ～んか嬉しそうだもん、長州さん（笑）。

この問題は、もう橋本選手と小川選手がもう一回ちゃんとやるしかないですよね。それでまた橋本選手が負けちゃったら、新日本サヨナラってなっちゃいますよね。結局、新日本はキング・オブ・スポーツだなんだかんだ言ったって負けちゃったわけですからね。UFOとか小川選手にすれば、仕掛けたって感じで、してやったりっていうところだと思いますけどね。

まあ、ああいう試合が見たかったらウチの試合を見に来て下さい。

格闘 MARS ATTACKS!



慧舟會
宇野 薫　高瀬大樹　廣野剛康
A3－Gym
小路 晃

ボクは大仁田さんのマイクが勉強になりました（微笑）（小路）

高瀬　何で小川選手には誰も手を出さないんですかねぇ。それがわかんないですね。小川選手のマイクアピールもなんとなくわかるような気はするんですけど（苦笑）、でも憶測でモノを言わないようにしないとね。暴言は控えめに（笑）。確かに小川vs橋本戦も面白かったですけど、やっぱり大仁田さんが一番カッコよかったッスね。ボクは汚れたキャラクターが好きなんですよ。試合よりも、大仁田さんが控室で暴れてるのが一番面白かったですね。関係者が「ヒェ～」とか言ってたからね（笑）。（大仁田口調で）「オマエらの器量もぉ、オマエらの器量もぉ、黙って聞かんかいっ！オイッ、オイッ、これが、オレのぉ、生き方じゃ～！」っていう大仁田さんのマイクアピールはメチャメチャかっこ良かったぁ（笑）。シビレましたね。やっぱ一匹狼だよ、大仁田は！　あんだけのことやっておいて、最後は逆ギレですからね（笑）。逆ギレの極みみたいな感じで、「これがっ、オレのぉ、生き方じゃ～！」って、ムチャクチャおいしいッスよ！　カッコイイッすよ！　オレもああいう生き方真似したいッスね。オレもあのマイクやろう！　今度の試合であのマイクを真似しよう（笑）。

宇野　乱闘の時真っ先に小原選手が出てきたのは、橋本選手の付き人だったからですよね。じゃなきゃおかしいですよね、今は平成維震軍ですから。WARとの対抗戦時代に組んでましたから、橋本選手と小原選手は。

今回のドームはあまりカードが良くなかったですけど、面白かったですね。でも普通ああいう試合（小川vs橋本戦）は、テレビではやらないですよね。放送した自体が凄いですよ。

一番面白かったのは長州さんが入ってきた時、カメラマンを蹴っ飛ばしてたシーンですね（笑）。あと気になったんですけど、カシン選手や藤田選手は乱闘の時止めてたじゃないですか。やっぱりUFO側なんですかね。

やっぱ新日本プロレスって抗争とかがあると凄く面白いですよね。誠心会館から、平成維震軍にいって、WARにっていうのが面白かったですからね。nWoとかはボクはちょっと……。昔の誠心会館とやってた頃の方が好きでしたね。久々にああいう試合が見れて面白かったですよ。

あと発見したんですよ！　大仁田さんのジーパンが、エドウィンからリーバイスに変わってたんですよ。ボクは一発で見抜きました（笑）。でも大仁田さんが新日に参戦するってことはホントに凄いことですよね。水と油ですからね。大仁田さんは、試合に負けてインパクトで勝ったって感じですね。

今回、ある意味二つの抗争が一気に起きちゃったわけじゃないですか。デスマッチ系と、何でもあり系が出てきて、これからの新日本はスゴク面白くなると思います。

小路　昔から新日本を見てるファン的に言うと、最近の新日には、アクシデントとかああいう毒が少なかったんで、今回は凄く面白かったです。

今回の小川vs橋本戦についていろいろ言われてるようですが、ボクは橋本選手は「プロレスを守った」と思います。橋本選手が堪えたっていう解釈をしてます。

小川vs橋本戦について、三沢さんがコメント出してましたけど、あれは画期的でしたよね。三沢さんが上に立ってから全日をドンドン変えていこうって伝わってきますし、凄く面白くなってますよね。いい方向に向かってるって感じがします（微笑）。

やっぱり一番格好良かったのは大仁田さんですね。『ゴング』で大仁田さんがハンバーガー食べてるのを見て、ああいう生き方がボクも共感できると思いました（微笑）。……あとやっぱりボクは、大仁田さんのマイクが勉強になりました（微笑）。

廣野　小川vs橋本戦はテレビで二週連続で見たんですけど、あんなに流すとは思わなかったですね。アンドレvs前田みたいに裏ビデオになると思ってたんですけどね。

あと三沢選手が、小川vs橋本戦についてコメントしてるのも見ましたけど、「三沢選手重大発言！」とか出ててビックリしましたよ。ここ何年もずっと新日のこと言ってないですからね。でもやっぱり大仁田選手は見せ方がスゴイうまいよぉ。駆け引きもうまいし。反則負けっていう結果も一番良かったと思いますね。

元『週刊ファイト』編集長
井上義啓



あの試合の小川に猪木イズムがあったというのはチャンチャラおかしいよ

僕は小川には猪木イズムが感じられないね。むしろね、大仁田の方に猪木らしい仕掛けがあった。ああいった大きな試合には仕掛けが必要なんでね。ただ単に試合をしとっただけではダメなんだよ。だから、大仁田の試合そのものはあの通り大したことはなかったけれども、皮ジャンを着て、しかもくわえ煙草で出ていったというね。この素晴らしい仕掛けと火を吹いたというのがいいんだよ。東京ドームではやってはいけないことをやったわけだから。大仁田の驚かせ方っていうのは猪木に似通ったところがありますよ。猪木にしたって福岡ドームでタキシードを着て出るというね、ちょっと考えられないことで「あ！」と驚かしている。頭の働かせ方が大仁田は猪木的だったと。だけど、それは猪木的ということだけで、猪木イズムでもなんでもないんだよな。

小川にはその猪木的なものもなかったというわけですよ。入場シーンにしても、あれを見てドームの報道陣がいっぱいいるところで大笑いしてしまったんだ。というのも、先頭にゴルドーを仕立ててね、一体なんだと。ゴルドーは数日前にやった相手じゃないか？

同じＵＦＯでも、何日もしないうちにセコンドについて、そういうことをすると、見てる方はシラけるのよ。試合にしたって、これから決戦場に向かうと小川が言ってるようにね、初めからセメントにいくんだっていうんであれば、なんかそれらしいものが見てるものに感じ取れなかったら僕はおかしいと思うんだな。うん。闘う男はそういった雰囲気をウソでも出せと。だから、あの試合の小川に猪木イズムがあったというのはチャンチャラおかしいよ。

問題は猪木イズムがどこまで出たかということだけど、猪木というのであればまず、見せる要素というのを闘いの中に織り込んでいかなくちゃいけない。それがないんだな。そして勝ち負けは二の次として、もう少し壮絶なね、ワァーっというものがなければいかんのに、それもない。だから、大阪城ホールのあとで猪木が言ってますよ。勝てばいいってもんと違うと、もう少し「らしい」勝ち方を、もう少し違った迫力を出してほしかったと。その通りなんだな。それが猪木イズムなのに、それが出てないんだよ。橋本の登場のときにマイクで怒鳴ったりね。ああいったことを猪木はしなかったですよ。また、あれをやったからといって猪木イズムが出るというのは違うんだよ。俺に言わせると、猪木だったらガタガタ言う前にね、もう奇襲攻撃でもやっているんじゃないかと思いますよ。

猪木イズムっていうのは意表を突くっていうことがあるわけね。その意表を突くっていうことで言えば、橋本の顔を蹴ったというところが意表を突いたといえば意表を突いてたんだけれども。今回も「ＵＦＯ vs 新日の面子を賭けてやろう」ということでやった試合だから、ちょっと顔面を蹴っても凄いんだと。これが普通の全日の試合の中でね、ガンガン顔を殴ったって蹴ったって人は何にも言わないのよね。この前の小橋とベイダーの試合にしたってね、あれだけ大ケガをしてるけど誰もセメントとは言わない。あの試合の方が凄いよ、ケガは。それは闘うシチュエーションの違いなんですよ。

だから、今回の場合はそういった先入観念に助けられてね、猪木イズムがチラチラしたように見えるんだな。しかし、試合の中で猪木イズムがあったのかというと、僕はなかったと思う。というのは長州に顔をバーンと張られた時に、小川はなんで向かっていかんのかという疑問ね。少なくとも、ああいう場面では「この野郎！」というのが猪木イズムですよ。そこで黙ってるんだもん。そこには猪木イズムとか大げさなことじゃなくて、猪木らしさが全然ないな。

僕自身はあの試合を見た時に橋本もなんか殺気がなかったし、小川も殺気がなかったし、見せる要素もなかったし、プロとして、なるほどという技術もなんもなかったし。ただあの試合で技術とかそう言ったものとは別に小川が殺しのテクニックを使ったかどうかが問題なんだな。本当の意味での喧嘩殺法を使ったかどうかが問題であって。それが僕の目に映ったかどうかっていうのも第2の問題。俺も30何年もこういったものを見続けてるんだから、本当に凄いものがあったらね、これは凄いと思ってドキリとしてなきゃいけない。でも、そういったものがはっきり言ってなかったんですよ。だから試合が終わってしまったあとも、セメントなんて意識は全然なかったのね。

本当の意味でのセメントマッチっていうのは存在してるんですよ。僕がいうセメントマッチっていうのは物凄いからね。はっきり言って背筋が震えるというか、身の毛がよだつというか、要するに喧嘩に近いもんだからね。ホントの喧嘩というのを俺は知ってるからね。それこそ刃物を持ったヤクザと渡り合ったことだってあるんだから、バカ言っちゃいかんよ。そういった極限状態という意味ではもの足りんよ。だから、背筋が震えるような試合を強いてあげればね、猪木とペールワンの試合でしょうが。あれは試合じゃなくて試合外のセメントマッチと解釈しないといかん。試合が終わったあと、何万もの観衆が暴動を起こすかという雰囲気だったわけですよ、背筋がゾッとするくらいの。それを鎮めるために、リングを囲んでいた兵士が一斉に銃を構えた。そういう状態で猪木は両手を挙げたんだけど、それはイスラム教でいうところの神への祈りに見えたわけだよ。あれほどの迫力がなければ、猪木イズムとは言えんわけだ。そう言った恐怖を与えるのが猪木イズムなんですよ。

なぜなら猪木は知ってるわけ。ブラジル時代とかに、目の前で人が死んだりしてるんだ。現に猪木自身も政治演説中に首を切られてるからね。あれは学生アルバイトを雇って切らせたんじゃないんだよ。ホンマの意味でケガしてるんだよ。シュツットガルトでもローランド・ボックとやってるしね。あっちのマットは樫の板の上にパラパラってオガクズを撒いただけのマットなんだから、叩きつけられるだけで死ぬよ、ヘタすると。最近の若いファンたちはそういうことを知らんからね。その怖さを知らんから。あの板の間っていうのは凶器なんですよ。いまのマットは力道山時代と比べたら雲泥の差ですよ。

小川 vs 橋本戦は掟破りではあるよね。だけど意識的にしたんじゃなくて自然にそうなってしまった。だから、猪木イズムを求めようとしても求めようがないのよ。微々たる猪木イズムはほかの藤波の試合にも馬場の試合にもあるわけよ。でも今回、愛弟子である小川が出し切ったかというと、僕は出し切ってないと思う。どこにあるんだと、逆に聞きたいわな。俺に言わせれば歯痒いのよ。これだけ時間が経ってて、もう小川は17回も18回も試合をしてるわけでしょ。なんで、もう少し猪木の凄さ、猪木の真髄というものが、伝わってないんだよと。だから、12・30ではまるでなかったんだよ。それで猪木がまた、ああいうきついことを言ったんで、今度はやってやるとガーンといった結果がアレだったと。だから、それは結果論であって新日がガタガタ言ってもしょうがないのよ。はっきり言えばアクシデントでね。

橋本は目をえぐって、金的蹴ってっていうことをやろうと思ったらできるんだよ。だけど、普通の試合だと思って橋本は穏やかに闘ったと。ところが途中から小川が暴走してしまったんだな。だから、小川は初めから猪木イズムでやっつけてやろうとかという気持ちはなかったと思う。ただ試合をやってて、もののはずみでああなって、そして終わってしまったと。というのが真相ですよ。

猪木のあのマスクはおどけただけなんですけどね。試合が終わったら、コメントを出そうと思ってたはずなんだ。ところが、ああいった思わぬ結果だったんで、これはまずいと思って試合が終わったらベンツに乗って帰っていったと。そういうのが真相ですよ。そうでなかったら、会場に残ってコメントを出してますよ。あとでマスコミにコメントを出して写真を撮らせて、そして次の日にそのコメントなんかが新聞にバーッと載ると。そういうのが猪木イズムの一つなんですね。だからその猪木イズムを自分自身で放棄したこと自体がね、もうあの試合そのものに猪木イズムがなかったことの証拠ですよ。猪木は1月6日にロスへ帰ったんだけど、そん時のコメントをみんなに聞いてみると、やっぱり迫力がないとか、もう少しなんかしてほしかったとかいう感想なんだ。ということはいかに猪木イズムが出てなかったかということですよ。これがなによりの証拠。ただ形に出た、それらしいセメントマッチだとかを捕まえてね、セメントだとか、猪木イズムだとかを言ってはならないんだよ、本当は。だけど、これは井上流の高い設定の仕方であってね。普通の人は設定が低いから、あれは凄かった、猪木イズムが出てましたよとか、セメントマッチでしたよとか、言う分には、これはあなたたちの意見だから、それでよろしいと。これが僕の意見ですね。（談）

"1・4"小川vs橋本戦（etc……）に関する証言FILE

『プロレス激本』スーパーバイザー
ターザン山本



佐山という恐るべき少年と猪木の底意地の悪さに感謝しろォォォ!

井上さんはなんて言ってるの？　小川には猪木イズムがなくて、大仁田に猪木的仕掛けがあった？　オレは好きだなぁ、井上さんのそういうボケてるところが（笑）。大好きだよ！　超一流の世紀末ボケだァァ！

よし！　一言で言うよ。小川vs橋本戦は公の場、6万人という、東京ドームというマクロ空間で行われたプロレス史上初の公開道場破りだよ！　UFOというか猪木＆佐山が新日本プロレスに公開道場破りを仕掛けたんですよォォ！　そして新日本はその公開道場破りに負けたんですよ！　それはなぜかというと新日本プロレスの道場が空洞化しているのが見破られたからだよ。道場がないと分かってたから道場破りを仕掛けたんですよ。そしたら新日本は負けますよ。藤原、前田、高田がいた頃は道場破りに対して必死で構えていたというか、そういう世界があったけど、いまはそれがない。そういう弱さを見透かされてしまったわけよね。見切られたというか。見切ったから道場破りに出掛けていったら勝てると思ってるわけよ、UFOは。そしてなによりも道場破りをやるための訓練を徹底的に佐山が小川にやってたから。小川は道場破り用の選手に化けていたんだよ。

だから、あの試合はシュートマッチとかいう言い方はおかしいんだよ。道場マッチなんだから。あれはプロレスなんだから。道場破りという名のプロレスなんですよォォ！　道場破りいまのプロレスはエンターテインメントになってしまって道場なんかないんだから。道場がなくなった世紀末に道場破りをやったということがいまのプロレス界にとって意味のあることなんだよね。この真実をわかんないとダメなんですよ。道場破りなんか誰もいないところでやるのに東京ドームでしかもテレビが入っている公の場で道場破りをやったところに猪木的素晴らしさがあるよ。だから、皆さんは道場破りを目前で見て、メジャー団体のマット界をリードしている新日本が負けたので大喜びしたんだよ。

一番重要なのは道場で新弟子と同じように丸坊主になってしごかれていない、そういうことを経験してない小川にやられたってことが漫画なんだよ。これは20世紀最大の漫画なんだよォォ！　いまの新日本の道場は天山とか小島とか二流のマッチョマンを作る団体なんですよォ！　だから、「おまえたちどうするの？　道場破りがきたら？」ってことですよ。もうそういう意識がないでしょ。そういう安心したところでやってるから虚をつかれたわけよね。平和をむさぼってたんでしょ。だけど、そんなUFOに道場がないのが笑えるよな。

皆さんは公開道場破りを初めてみたんですよ。だからあれだけ盛り上がった。道場破りほど面白いものはないもん。普通は関係者だけでやるんだから。猪木の意地悪さと佐山の幼さに感謝するべきなんだ！　佐山という恐るべき少年と猪木の底意地の悪さに感謝しろォォ！

この二人は新日本にもの凄く功績のあったわけなのに新日本から疎外されてるわけでしょ。疎外された二人のリベンジですよ！　昭和プロレスの道場が平成のプロレスの道場をシュートしたんだよォ！　そして二人は見事に勝ったんだよォォ！（談）



●写真提供ナイタイスポーツ

平成の猪木番
木村光一



現在の新日イズムとは、猪木イズムとはもはや対極の世界にあった

アントニオ猪木という共通のルーツを持つために、『新日イズム』と『猪木イズム』は長い間、混同されたまま新たに整理される機会を失っていた。それが現在の新日本とUFOの対立の構図をわかりにくくした最大の理由だったのだが、小川vs橋本戦というフィルターを通して今回ようやくその意味が浮かび上がった。それは現在の新日イズムとは、猪木イズムとはもはや対極の世界にあったという事実だ。

格闘技のセオリーをプロレスに持ち込み、猪木は『格闘技として強いプロレス』を作り上げ、同時に、危険から自分の身を守る術を身につけた。それはプロレスには人間の感情や複雑な背景が介在する以上、いつ、どんな瞬間に修羅場に転じないとも限らない危険性があることに猪木は細心の注意を払い続けた結果だった。実際、猪木はプロレスのリングに立つときでも、つねに格闘家としての用心深さを忘れなかったことで、何度か試合途中で仕掛けられたセメントもはねのけてきた。

しかし時は流れ、新日本プロレスは、西部劇の決闘よろしく背を向け合って同じ数をカウントしてから正々堂々と勝負が始まるような、ある種スポーツライクなスタイルに姿を変えてしまったのだが、猪木の不満は、おそらくその観る者に何の疑いも持たせないスポーツ感覚に向けられていた。

小川が橋本に突きつけたUFOスタイル（＝猪木イズム）は、何の合図もなく両者の呼吸によって始まる格闘技的なプロレスだった。あの一戦もセメントのように見えるが、セメントではない。小川の認識の中では、あれもプロレスなのだ。

小川vs橋本戦は、久々にプロレスに内在する『技術と技術』『力と力』『感情と感情』のぶつかり合いや『組織間の政治的策略』など、人間が持つありとあらゆる生々しい対立の存在にまで脚光を浴びせた、いわゆるプロレスのはらわたを引きずり出した試合であり興味深かった。しかしながら美しいものも醜悪なものも、すべて呑み込んで強さという表現に昇華してみせるという猪木イズムが、こんな形でしか表現を許されないこの時代は、プロレス界がどうも幸福な状況ではないことのネガティブな証明のようにも思えてならない。

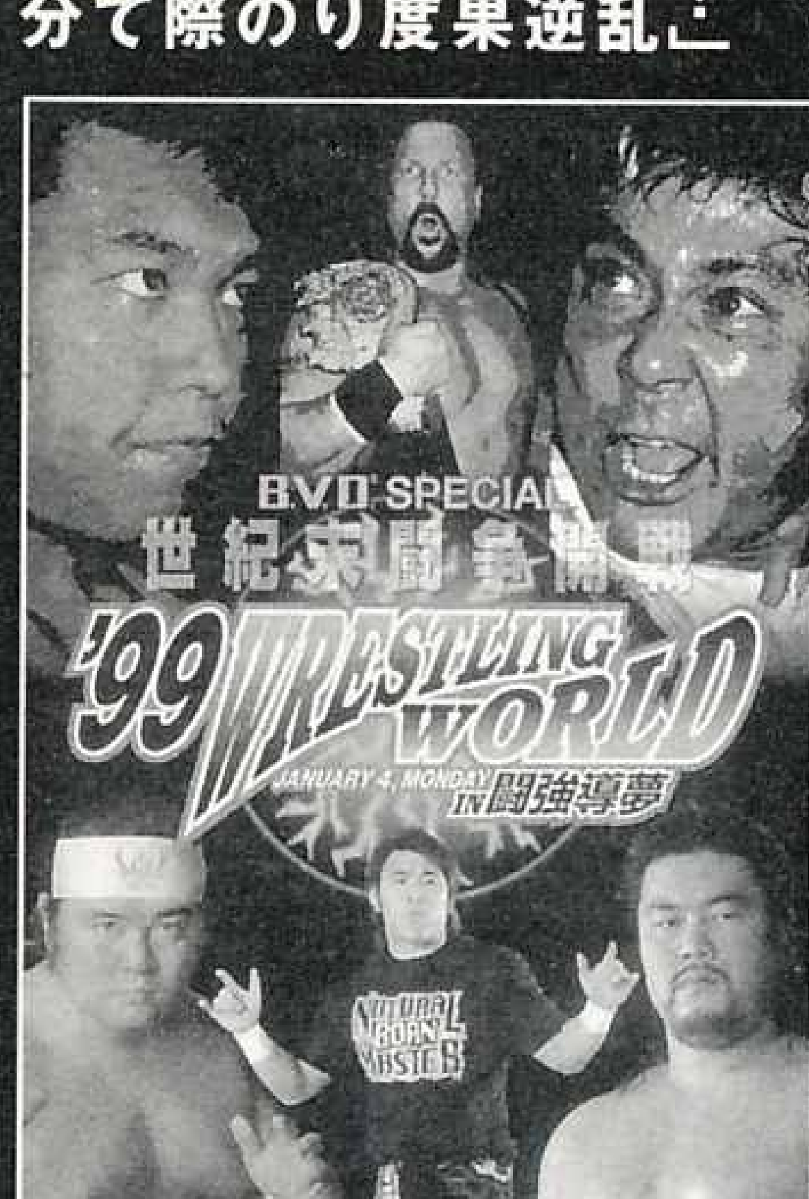
前代未聞、空前絶後の大事件をファンはどう見た？

毒を飲むか？ 吐き出すか？
これはマット界で久々に顕在化したイデオロギー対決だ!!

——1・4全試合終了後238人直撃アンケート結果集計

仕事始めの1月4日、本誌特別アンケート取材班は闘強導夢へ出向いた。ビッグマッチの際、本誌恒例となりつつある、「試合前&試合後アンケート」を取るためだ。いまとなっては昔話のようだが、今年の新日・正月ドームのメインテーマは「大仁田参戦」。アンケート内容も、試合前&試合後ともに大仁田に関する質問事項が約半分を占めていた。しかし、突然のUFO襲来！　新日マットが未曾有の大混乱に陥ってしまったのは読者の皆様もご存知の通りだ。ついでに本誌のアンケート担当者の頭も大混乱に陥った。

ハッキリ言って「寝耳に水とはこのことだね！」（by SASUKE）状態だったが、マット界が乱れ、混乱したときこそ『紙プロ』の出番！　逆に試合後のアンケートが、俄然、興味深い結果となったので、試合前アンケートはさわり程度にとどめ、試合後アンケートを大々的に取り上げることにした。賢明なる『紙プロ』読者の皆様は目を覚ましていることとは思うが、実際には、どの程度の割合で観客が目を覚ましていたのだろうか？　それをアンケートから分析してみたい。



Q1.試合直前の観客に聞きました「興味のあるカードは何？ 2試合挙げてください（単純に1人2票。ポイント票計算はしない）」

1位	大仁田厚 vs 佐々木健介	98票
2位	武藤敬司 vs スコット・ノートン	56票
3位	小川直也 vs 橋本真也	50票
4位	小島聡&天山広吉 vs 天龍源一郎&越中詩郎	17票
5位	金本浩二 vs 獣神サンダーライガー	15票
6位	ケンドー・カシン&ドクトル・ワグナーJr. vs 大谷晋二郎&高岩竜一	14票
7位	藤波辰爾&木戸修&安田忠夫 vs 木村健吾&後藤達俊&小原道由	5票
	中西学 vs 藤田和之	5票
9位	ドン・フライ vs ブライアン・ジョンストン	4票
10位	永田裕志 vs デイブ・ベネトゥー	2票
	無回答	210票

「もう終わりかよ!?　オイオイオイオイ、冗談じゃねえよオラ!!　新日本プロレスのファンの皆様、目を覚ましてください!!」

プロレス史上に残る小川のマイクアピールは、多くのプロレスファンの心に衝撃を与えた。実際、試合前のアンケート（Q1）を見てもわかるように、小川vs橋本戦の注目度は決して高くはなかった。むしろ大仁田参戦の話題の方が圧倒的に注目度は高かったのだ。大仁田が、パフォーマンスを連発して話題を独占したおかげで、大仁田参戦が決定してから1週間で1・4のチケットが7000枚売れたという噂も飛び出した程だ。

しかし、大仁田も結果的にはUFOの襲撃によって霞んでしまう。「無効試合」という、完全決着主義が支配する現在のプロレス界の中では、非常に異質で不可解な決着だったにもかかわらず、小川vs橋本戦はベストバウト第1位の座をかっさらってしまったのだ（Q2）。単純に完成度だけでいえば、天龍&越中vs小島&天山戦や武藤vsノートン戦の方がハイスコアな試合だったにもかかわらず、それを上回ってしまったのはなぜか？　そう、小川vs橋本戦には「プロレスとは闘いである」という〃猪木イズム〃があったからだ。

では、小川の闘いとマイクで、目を覚ました観客の声をさらっと紹介してみよう。

「nWoブームに浮かれていたことで闘いを忘れていた」
（窪木安明・29歳・♂・会社員）

「現実はシビアやなあと思った」
（栗原秀樹・28歳・♂・学生）

「シュートマッチが生で見れた。なおかつ新日本プロレスのウラの部分も少し開きかけた」
（荒井康弘・26歳・♂・風来坊）

「こんなに悔しくて屈辱的なことはない。でも、これは事件だ！」
（高野幸治・26歳・♂・団体職員）

「暴動になりそうだった。これこそ新日本！」
（飯野隆司・32歳・♂・仕事人）

「試合後の乱闘が素晴らしく、'70年代的でリアルだった。平成新日ファンに一石を投じたか？」
（中原勇・38歳・♂・会社員）

このように昭和と平成の時代の枠を飛び越え、「気付き」を与えてしまうのが猪木イズムの怖ろしさである。ネット上でもプロレス系のページには『PRIDE.4』のとき以上の数の書き込みがあり、「気付き」を与えられたプロレスファンが果てしなく論争を続けられ、その中には「小川のマイクで目が覚めました」という平成のファンも多く、返す刀で橋本バッシングまで巻き起こった。往年の殺伐とした雰囲気が蘇ったことで黙っていられなくなった昭和のファンも多かったようだ。当分の間はこの話題で持ちきりになることだろう。さらに普段は新日の話題など出てこない格闘技系の掲示板まで、なぜかこの話題で持ちきりとなり、「格闘技の技術的には、見るべきところはない試合。なぜ、大騒ぎをしているのか？」などという、プロレス的な大事件を技術論的な狭いフ

Q2.今日行われた試合の中で、あなたがベストバウトだと思う試合を1位と2位、2試合挙げてください。（1位は2ポイント、2位は1ポイントで計算）

1位	小川直也 vs 橋本真也	168ポイント
2位	大仁田厚 vs 佐々木健介	149ポイント
3位	武藤敬司 vs スコット・ノートン	118ポイント
4位	小島聡&天山広吉 vs 天龍源一郎&越中詩郎	62ポイント
5位	ケンドー・カシン&ドクトル・ワグナーJr. vs 大谷晋二郎&高岩竜一	59ポイント
6位	ドン・フライ vs ブライアン・ジョンストン	51ポイント
7位	なし	40ポイント
8位	金本浩二 vs 獣神サンダーライガー	33ポイント
9位	中西学 vs 藤田和之	10ポイント
10位	藤波辰爾&木戸修&安田忠夫 vs 木村健吾&後藤達俊&小原道由	8ポイント
11位	永田裕志 vs デイブ・ベネトゥー	3ポイント

中で大公開します。ファンの肉声ほど正直なも……いきますかーッ!!　1、2、3、ダーッ!!」

猪木をなくした新日はもういい

（ペドロ遠藤・33歳・♂・団体職員）

格闘 MARS ATTACKS!

Q3.今日出場した選手の中でいちばんよかったと思う選手をひとりだけ挙げてください。

1位	小川直也	73票
2位	大仁田厚	41票
3位	武藤敬司	30票
4位	ブライアン・ジョンストン	14票
5位	ケンドー・カシン	11票
	天山広吉	11票
7位	なし	7票
	長州力	7票
9位	小島聡	5票
10位	獣神サンダーライガー、佐々木健介、木戸修、ドクトル・ワグナーJr.、小原道由、金本浩二、橋本真也	4票

Q4.今日出場した選手の中でいちばんよくなかった選手をひとりだけ挙げてください

1位	橋本真也	58票
	大仁田厚	58票
3位	佐々木健介	33票
4位	小川直也	19票
5位	長州力	18票
6位	武藤敬司	11票
7位	なし	8票
8位	山本小鉄	6票
	中西学	6票
10位	小島聡	5票

イールドで論争が繰り広げられる異常事態となった。

その結果、メインで、しかもIWGPのタイトルマッチだった武藤vsノートン戦は、小川vs橋本戦、大仁田vs健介戦のあおりをくらって3位にとどまった。「オレがプロレスを守る!」という小川vs橋本戦を意識した武藤のコメントも飛び出したが、結果的に観客の心にインパクトを残したのは小川であり、佐山であり、猪木であり、ひょっとすると大仁田だったのかもしれない（Q3&Q4）。

それでも、この武藤vsノートン戦については、

「今日見た試合の中でいちばんプロレスらしいプロレスだった」

（匿名）

という回答があった。たしかに、あれこそプロレスだと言われて、何ら否定をするつもりはない。しかし、伝統的なプロレスを革命し続けてきた新日本のレスリングが、闘いに危険な冒険やロマンを追い求める猪木の影を消して守りに入ったことで、「わかりやすさ」ばかりを求める観客が増えるという結果を招いたのだ。

「猪木をなくした新日はもういい。長州は新日ファッシズムの権化だ」

（ペドロ遠藤・33歳・♂・団体職員）

「猪木」と書いて、「こころ」と読む! これが昭和・新日ファンの心意気である。そんな猪木イズムを理解したファンが見れば、長州のようなラリアット・プロレスばかりが横行する現在の新日に辟易するのも無理はなかろう。

しかし、ここにきてUFO狩りに長州が現役復帰するという噂が、現実味を帯びてきた。これについて、ファンはどう思い、何を考えているのだろう? 答えは「ある」と答えた人が、やや多いという結果になった（Q5）。

その内訳を見ると、ベストバウトに小川vs橋本戦を挙げた「UFO万歳!!」なスタンスの人は、ほぼ90%以上が「ある」と答えていた。たしかに、小川vs橋本戦のラストは長州の独壇場だっただけに、裏読みによって想像力を喚起させるファンの期待も込められたものであることは言うまでもない。

一方、平成の新日ファンの回答には「復帰したら大仁田と同じだからやめて!」という、非常に筋の通ったごもっともな意見が多かった。とは言っても、長州は引退に際して「会社が傾いたときには復帰もありうる」と発言しているので、長州がMr.ライアー呼ばわりされることはないだろう。実際、UFO襲撃でこれだけ揺らいでいるわけだし、復帰もじゅうぶんあり得るだろう。Uインターとの対抗戦で見られたように破廉恥なことを興行に結びつけるという点では、大仁田と同じく天才的な才能を持つ長州だけに、自ら最高の舞台を用意して復帰してきそうな気がする。

とはいえ、現在の長州のポジションは現場監督兼会社の舵取りをする取締役だ。長州の中で、新日vsUFOはドル箱興行となる確信があるのだ。1月22日の記者会見で1・4のドーム大会を「ファンにとって大変面白い、期待できるような形で終わったんじゃねえかな」と振り返ったことでも明らかだ。大仁田vs新日、UFOvs新日、蝶野vs武藤という3つの闘いのテーマが動き始めた、非常に上々のすべり出しだったといえよう。

こうした現場責任者・長州主導と思われるやり方に、反発するファンも出現した。アンケートでも、

「本日をもって新日本には期待するのをやめます! いい加減愛想が尽きた」

（粕谷和明・29歳・♂・フリーター）

「もう一度、すべてやり直す。キング・オブ・スポーツのファンとして、胸を張って歩きたいし、一生新日ファンでいる」

（窪木安明・29歳・♂・会社員）

「崩壊しろ!」

（渡辺章太郎・19歳・♂・学生）

といった、嘆きの回答を書くファンも多かった。アンケートの最中にも、「大仁田を上げたのは長州だろ?『長州、死ね!!』って書いておけ!! 俺が絶対刺し殺してやる!! 書かなきゃお前を刺す!!」と血走った目で本誌・チョロを捕まえて、がなり立てたイっちゃってるファンまでもが出現したそうだ。事態が深刻なだけに非常に面白い。

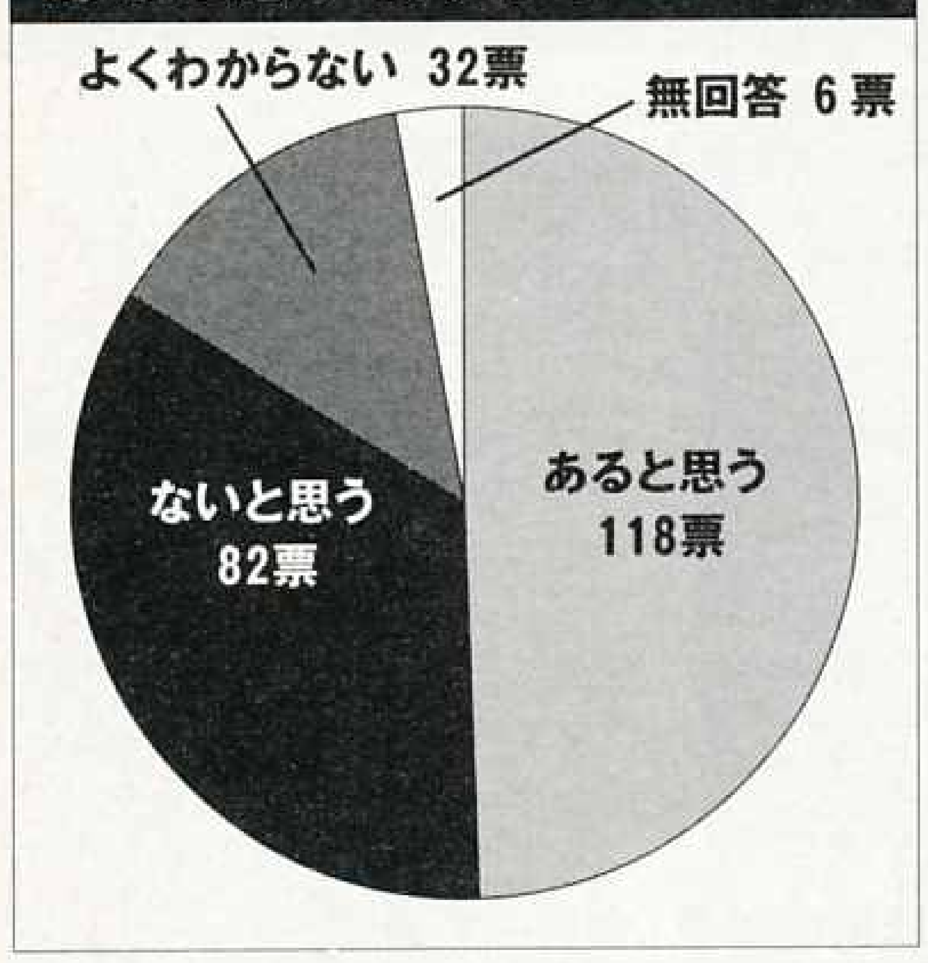
じゃあ、単純に新日ファンは何を見たがっているんだ? という単純な疑問に対する問いの答えも本誌はビチッとリサーチした（Q6）。ここまで、これだけ大きなインパクトを与えてきたということを表まじりに解説してきたが、「次に見たいものは何?」という興行の根本的な部分を支えるこの問いに対して出てきた答えが左の表である。

この日の観客が、1・4を踏まえた上で次に欲したのは、現在トップを張り続けているnWoの蝶野であり武藤であった。ここにきて、新・新日本プロレスが勝ち取ってきたファンのパワーが集結した結果となった。UFOがあっても継続はしない、ということなのか?

しかし、それ以外の部分では現役選手を無視した次元で見たいカードの上位にフロント連中の名前が並んだ。リング上が大混乱している証拠だろう。

新日が乱れ、混乱したときこそ猪木イズムの出番! しかし、新・新日本プロレスはとてつもなく大きなパワーでファンを獲得している。ハッキリ言って、この勝負はどっちに転ぶかわからない。猪木イズムvs新・新日本プロレスイズムの闘いのゴングがいま鳴ったのだ!!

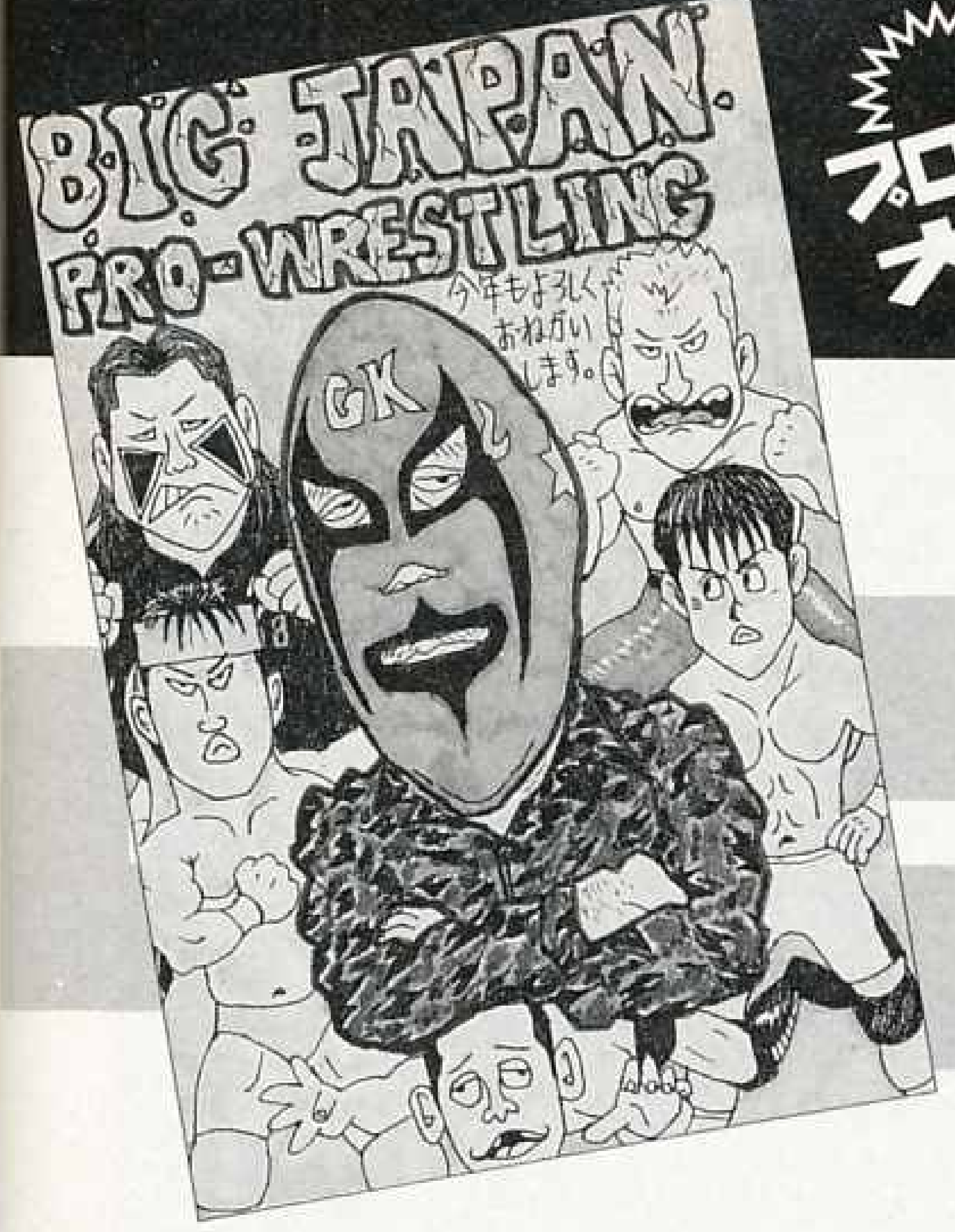
Q5.長州力さんの現役復帰はあると思いますか?



Q6.いまの新日本プロレスのリングでいちばん見たいカードは何ですか?

1位	武藤敬司 vs 蝶野正洋	38票
2位	小川直也 vs 長州力	18票
3位	長州力 vs 大仁田厚	13票
4位	小川直也 vs 武藤敬司	7票
5位	な い	6票
6位	小川直也 vs 橋本真也	5票
7位	小川直也 vs 佐々木健介	4票
	小川直也 vs 大仁田厚	4票
	長州力 vs 佐山聡	4票
10位	小川直也 vs 坂口征二	3票
	大仁田厚 vs 蝶野正洋	3票
	大仁田厚 vs スコット・ノートン	3票

「まだまだ続く238人アンケート大特集。34ページからの編集部座談会の中で 大



プロレスラーにも大好評! シリーズ第2弾 紙のプロレスRADICAL バックナンバーのお知らせ

左の年賀状は大日本プロレスの葛西純選手から届いたものです。プロレスラーになる前、葛西選手は『紙プロ』のイラスト職人だったのです。気になってしょうがないという方はバックナンバーを買って探し出して下さい。押忍!



<過去『紙プロRADICAL』に掲載された葛西純選手のイラストより>

『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNO.4までは見事完売。それもこれも皆様のおかげ。ありがと!

第5号
打倒ヒクソン・グレイシーに立ち上がった最後の刺客、高田延彦。『RADICALはいつだって高田延彦を応援するぜ!!』



◎猪木、Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎読者人気爆発!! ストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。伏せ字だらけの超過激対談パート2 **ドン荒川vs藤原喜明**
◎全てはここから始まった!開始前から話題騒然の新連載!**前田日明**のウルトラ・メガバトル人生相談『人生は語らず』
◎世界格闘技連盟を語りたおす!食い倒す?『ケーキクェイ』**佐山聡(タイガーキング)**インタビュー
◎"活字プロレスの悪魔(ターザン山本)"が語る**高田vsヒクソン**の意味!「今は高田延彦の方が前田より100倍魅力的ですよォ!」

第6号
「俺たちが世界を支える!!」と腕組みをしてRADICALに初登場したのがnWO・蝶野正洋! プロレス界、『紙プロ』の救世主となってくれ!



★特集「"プロ"と"レス"融合か分裂か!」
◎**前田日明**の人生相談&パンクラス問題に日明兄さんブチッインタビュー&前田のイラダチ頂点に達す!! リングス大会終了後の共同会見完全再録
◎ゴリさんこと**アレクサンダー大塚**のみちのくひとり旅日記'97
◎「サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合っているからだ!」**TAKAみちのく**毒舌爆発インタビュー
◎**高田×ヒクソン戦**直後、**Puffy**に独占インタビューを敢行!
◎打倒!八百長論議!**ザ・グレート・サスケ**が素人相手にお説教!
◎**井上京子**/**井上貴子**/**角掛留造**/**松永高司**インタビュー

第7号
特集「反骨の剣」 堂々の読者人気1位奪取! 赤いパンツの頑固者・田村潔司 鮮烈ロング・インタビュー



◎読者もシビレまくり!
黒いパンツの心意気・激白 **木村健悟**
◎酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな大型不良新人!**中原奈々**インタビュー(現在失踪中)「凶器しか使わないプロレスをしたい!」
◎みちプロ経営危機の真実を**ザ・グレート・サスケ**が独占告白!「こんな経営をしていたら50年もつみちプロが5年で潰れてしまう!」
◎……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載!**前田日明**の"ワールド"メガバトル人生相談「人生は語らず」
◎祝! 復帰記念 **モハメド・ヨネ**インタビュー
◎ラジカル初登場2連発!
冬木弘道/**MEN'Sテイオー**

第8号
「見てみ、この面!!」シリーズ第1弾・桜庭和志の戦闘スマイル満開ショット「ヒクソンですか? いけそうな感じするんですけどねぇ」ズバリ永久保存版!



★特集『格闘技世界大戦前夜!!』
◎**アントニオ猪木**
「元気」と「気づき」のロングインタビュー
◎ヒクソンとの再戦が決定!
高田延彦の意気込みを聞け!
◎「プロレスラーはホントは強いんです記念」格闘家から見たプロレス
エンセン井上/**村浜武洋**ロングインタビュー
◎波動砲! **前田日明**の人生相談『人生は語らず』
◎必読!黒いパンツの心意気PART2 猪木を裏切らなかったもうひとりの男**木村健悟**が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る!
◎業界内外で話題騒然**吉田豪**の書評の星座PART2

第9号
「見てみ、この面!!」シリーズ第2弾・高阪剛! この顔はマット界の宝だ!「ヒクソンに勝つのは自分も自信あるし誰もが狙ってると思う」もちろん保存版!



★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」
前田日明/**ザ・グレート・サスケ**/**高田文夫**/**春一番** 久々に大炎上!**ターザン山本**/燃える情念!**石川雄規**
◎衝撃の**さらばプロレスマスコミ宣言**
業界病を吹き飛ばせ!!
◎**前田日明**
ラス前ロングインタビュー&炸裂人生相談
◎日プロOB**吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海**マット界時事放談
◎各方面で大反響!!［格闘家からみたプロレス!］**朝日昇**
◎大ブレイク**谷津嘉章**最強宣言!「グレイシーよりアマレスの方が強い!」ハッキリ言ってこれを読まなきゃプロレスファンとはいえない!

第10号
「驚愕の表紙」シリーズ第1弾・前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げ掛けたスクープ対談がここに実現!! まさにプロレス者必携の一冊



★特集「灼熱の地殻変動'98」
大和魂は連鎖する!!
◎とにかく元気!**高田延彦**ロングインタビュー
◎「タイガーマスクのマスク取れって言ったの、俺じゃん?」等々またまた大爆発!
衝撃の**谷津嘉章**インタビューPART2
◎社長&会長対談
ザ・グレート・サスケvs松永高司全女会長
◎『紙のプレイボーイ』発進!! **ダイアナ&宮内美穂**
◎大噴火!! **ターザン山本**の
プロレスマスコミ表紙批評!!
◎『紙のプロレス』スーパースター列伝**北沢幹之**
◎**冬木弘道**(with金村ゆきひろ&伊藤豪)
ロングインタビュー

第11号
「驚愕の表紙」シリーズ第2弾・格闘Viagra'98 高田延彦vsエンセン井上烈談!! こんな対談が出来るのは本誌だけ!お買得にもほどがある一冊



◎前田日明引退記念特集&
ラストマッチ後・初インタビュー **前田日明**
◎良くも悪くも大反響!
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!
◎「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡/**スーパー宇宙パワー(木村浩一郎)**/**福田雅一**インタビュー
◎**ザ・グレート・カブキ**/**ダンプ松本**インタビュー
◎バトラーツ両国進出記念特集
石川雄規/**トンパチ・マシンガンズ(折原&小野)**/**岡本衛**/**マッハ純二**/**土方隆司**
◎SWSの真実がいま初めて語られる!
「S多重アリバイ」**アポロ菅原**
◎他じゃできない!UFO大特集!!
&**Mr・ウォーリー**ピンナップ

第12号
10・11「PRIDE.4」マルコ・ファスに激勝した、我らがアレクサンダー大塚! マット界の救世主アレクのマルコ戦直前の声を聴け! そして感じろ!!



★特集「格闘TEPODON!! '98」
◎ヒクソン戦直前!
なにかが違う**高田延彦**暴走ロングインタビュー
◎「プロレスファンよ踊れ!祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
◎人気大炸裂!「S多重アリバイ」第2弾
アポロ菅原インタビュー
◎**桜庭和志**/**アレクサンダー大塚**/**山本健一**/**神取&北尾**/**八木淳子**/**ダンプ松本**/**志生野温夫**インタビュー
◎猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
◎格闘王から相談王へ**前田日明**人生相談「人生は語らず」堂々復活!!
◎話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛インタビュー

第13号
10・11『PRIDE.4』アレクサンダー大塚が路上の王マルコ・ファスに激勝し 一気にマット界の救世主に! もちろん表紙もアレク。んむはぁ。



★特集「四角いジャングルRADICAL」
◎実写版『1・2の三四郎』降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
◎『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
◎**高田延彦**がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
◎**前田日明・エンセン井上**が語る『高田vsヒクソン戦』!!
◎**谷津嘉章(プロレスラー代表)・島田裕二(レフェリー代表)・浅草キッド(プロレスファン代表)**から見た『10.11 PRIDE.4(その他)』
◎大反響!SWSを徹底再検証『S多重アリバイ』第3弾**ケンドー・ナガサキ**
◎**ボブ・バックランド**/**松永光弘**/**リッキー・フジ**/**堀辺正史**インタビュー

第14号
創刊2周年記念号やんけ! 前田日明最後の大航海!! 戦慄のカレリン戦迫る! 泣いても笑っても、この一戦がラスト・オブ・アキラ!! でしょ。



★特集「格闘DREAM CAST」
◎**前田日明**独占ロングインタビュー/これがカレリンの発した言葉だ!!/**池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!?**対談/"人類最強の男"に関する証言ファイル
◎連勝街道爆進中!
金原弘光ロングインタビュー
◎RADICAL版 ゆく年くる年
'98ー'99座談会 マット界へ愛をこめて
◎舌好調! **谷津嘉章**のマット界、目ぇつぶって30秒!! '98年マット界総括編
◎『高田道場1999!』**高田延彦**/**桜庭和志**/**佐野友飛**/**松井駿介**/**豊永稔**インタビュー
◎幻のSWSを再考察
『S多重トンパチ』第4弾 **折原昌夫**
◎『虎の尾を踏む男たち'99』**小路晃**/**4代目タイガーマスク**/**村上一成**/**宇野薫**

『購入★方法』
●現金書留と郵便振替の2種類があります。
(バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)

●現金書留の場合
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130-3-769154 (株) ダブルクロスまで。
代金は創刊号=610円 2号=660円 3号〜10号=680円 11号〜14号=780円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円

● **『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備の応援できるSHOP**
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店(他にも常備しているSHOPがありましたら連絡下さい)

紙のプロレス RADICAL

1999 no.15

ビバ 世紀末!!
ビバ シュート元年 !!
「もうカッコつけてる時代じゃないんですよぉぉ〜!」(byヤマケン)

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.15 MAIN-EVENT 1



●NO.15 MAIN-EVENT 2

● SCANDAL&SCOOP

● RADICAL FIGHT

● SPECIAL NOVELS

● COLUMNS

● ANOTHER

※ピンポンパンポーン。T印刷の大杉様、T印刷の大杉様。なんで最近こないんですか? 私とのことは遊びだったの? ピンポンパンポーン。

RADICAL特製
★ピンナップ★
原人さんサヨナラ記念
ヨネ原人&エンセン井上

RADICAL特製
★ポートレート★
東京ドーム来場記念
三四郎マスクさん

Art Director
出田さん●San Ideta
Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/小川直也&三四郎マスク
©講談社・小林まこと

撮影/斉藤ユーリ
スタイリング/Naoya Ogawa
ヘア&メイク/Naoya Ogawa

※「RADICALとは何か?」何? なんじゃー(絶叫)!?「根源的」、「根本的」って意味じゃー! ハンバーガー食いにいくんじゃー!

©DOUBLE CROSS 1999 本誌掲載の記事、写真等の無断転載、複写、複製を禁じます。もしやったら、「メシ食えないように」(©破壊王)してやります!

1.4東京ドームは リアル版 MARS ATTACKS!（マーズアタック） だった!?

タチの悪い火星人とは何か?



UFO襲来 緊急座談会

「プロレスとは何か」という命題を突きつけた一戦であるのは間違いないよ

格闘 MARS ATTACKS!

ノブ　99年の一発目の座談会ということで、司会をやらしていただきます。まずは、えーとぉ、あのぉー……。

豪　できるのかよ、お前？（笑）

ノブ　できますよ！　今回できなければ辞める覚悟ですから、もう一度チャンスをください。

山口　ほんなら、やれやァ！

ノブ　1・4東京ドームで一番最初に話題に挙げたいのは……やぁー、でね。えーと……。

山口　オイオイオイオイオ～イ、も～う終わりかよ～、冗談じゃね～よぉ。坂井ノブくん、目を覚ましてくださ～い（笑）。

ブチ　ということなので僕が司会を代わらさせていただきます（笑）。

ノブ　どうぞ（ふてくされる）。

山口　お前、「どうぞ」じゃないだろ（笑）。

ノブ　うーん。えーと。

ブチ　この会社は腐ってるの、ノブ？（笑）

ノブ　腐ってます！

山口　どう腐ってるの？（笑）

ノブ　オレが腐ってるんです！

山口　お前が腐ったミカンなのか（笑）。

ノブ　オレが腐らせました。ちょっと頑張ります。

豪　押忍（笑）。とにかくなんの話をするの？　1・4の話じゃなくて小川（直也）選手の話なのね？　大仁田（厚）選手の話じゃないわけでしょ？

ノブ　それもちょこっと入れるけど、基本的には連鎖的に起こったマット界のことを半分、半分っていうか半分以下ね。ちゃんと言うと……。（突然テープを止めるノブ）

山口　お前は何をしてるんだよ！（笑）ノータリン！

ノブ　いや、詳しく説明しようと……。

豪　座談会でオフレコはなしだよ（笑）。なんの話をどの割合でやるかは関係ないんだよ（笑）。とにかく1・4で起こったことは10年に一度の出来事だと言われてるわけだよね。ということは10年前に何があったかと言うと……。

山口　前田日明の長州力顔面蹴撃事件。

豪　それを意味してるわけですよね。世間的には。北尾（光覇）の「八百長野郎発言」、アポロ菅原vs鈴木みのる戦はなくなってるわけですね（笑）。

山口　ククク。小さな事件としてはファンの心にとどまってるけどね。

豪　でも大会場であういうことをやったというのは、むしろアポロじゃないですか。テレビも入ってたし。日明兄さんの場合は小さな会場でひっそりと行われたことでしたからね。

山口　前田vsアンドレ（・ザ・ジャイアント）戦もしかりね。でも逆に、ノーテレビだったけど、あれほどマット界を揺るがす事件になってしまった。まあ、それ以来の出来事であったのは間違いないでしょう。だけど、今回の小川vs橋本（真也）戦に至るまでの情報はオレなりに入れてたんだけど、面白かったよ。

豪　やるんじゃないかという噂はあったわけですよね。でも、まさかあんな場じゃあやらないだろうっていう。

山口　単純にオレは興奮したよ。実に面白かったよ、現場にいて。

豪　ビデオをあんなに巻き戻して何度も見たのは初めてぐらいですね。20回ぐらい見ましたからね（笑）。

山口　大きな問題提起になったよね。

ブチ　で、思ったんですけど、今回「プロレスを守る」みたいな言葉がレスラー間で飛び交いましたよね。蝶野（正洋）選手にしろ、武藤（敬司）選手にしろ、三沢（光晴）選手にしろ。そして小川選手も小川選手なりのプロレスを守ろうとして、ああいうことをしたわけでしょ。だけど、プロレスという言葉は同じでも蓋を開けてみると中身が確実に違ってますよね。じゃあ、単純にプロレスってなんだろうって疑問がわいてくるんですよ。

豪　だから、プロレスはね、各自のイデオロギーの闘いなんだよ。微妙な考え違いが面白いわけでさ、全部一緒じゃ面白くないでしょ。それでいいの。

ブチ　それでいいのかぁ……。以上。

山口　すぐに終わらせない。発展させろよ（笑）。

豪　ただ、蝶野選手も武藤選手も二人が思ってるプロレスっていうのはアメプロ的なものなわけでしょ。いまの新日が進もうとしてる形をあの二人が作ってるようなものだから。わかりやすい、プロレスマスコミが入るスキがないプロレス、見ればわかるプロレス。逆に言えば僕らが語る意味もないような、語らせないプロレスね。だけど、破壊王はそんな中で一人だけ猪木的プロレスが大好きな人だったわけでしょ。それがこうなっちゃったっていうのは悲劇だよね。

山口　そうだよな。それがなんでなのかを話すのは凄く大きいことだと思うけどね。「プロレスとは何か」っていう命題を突きつけた一戦であることは間違いないわけよ。各人が考えてるプロレスがあって、それは見てる側にもそれぞれある。で、『紙プロ』的な見方をすれば、あれは全然ＯＫだよね。

豪　あれはＯＫっていうより、あれが面白いわけですからね（笑）。

山口　そういうことです（笑）。

豪　許す、許さないの問題じゃないんですよね。あれでいいんですよ！

山口　で、橋本選手は、「新日本でやるからには新日本プロレスのルールの中でやるべきだ。でも、そのルールを破ったから掟破りだ」という論調なわけだよね。で、『ゴング』も『週プロ』も『ファイト』も同調してるところがあるじゃない。

豪　問題は、以前にも新日本プロレスのリングで何度も掟破りが行われてきたってことですよね。最近、しばらく行われてなかっただけで。

山口　新日本プロレスとＵＦＯのルールって違うわけよ。だけど、やっかいなことにＵＦＯルールは明文化されてないわけだよ（笑）。

豪　単純にプライドがルールなわけですよね。

山口　そう。お互いのプライドがルールだっていうのがＵＦＯのルールだよね。

豪　通称、“プライド”ルール（笑）。

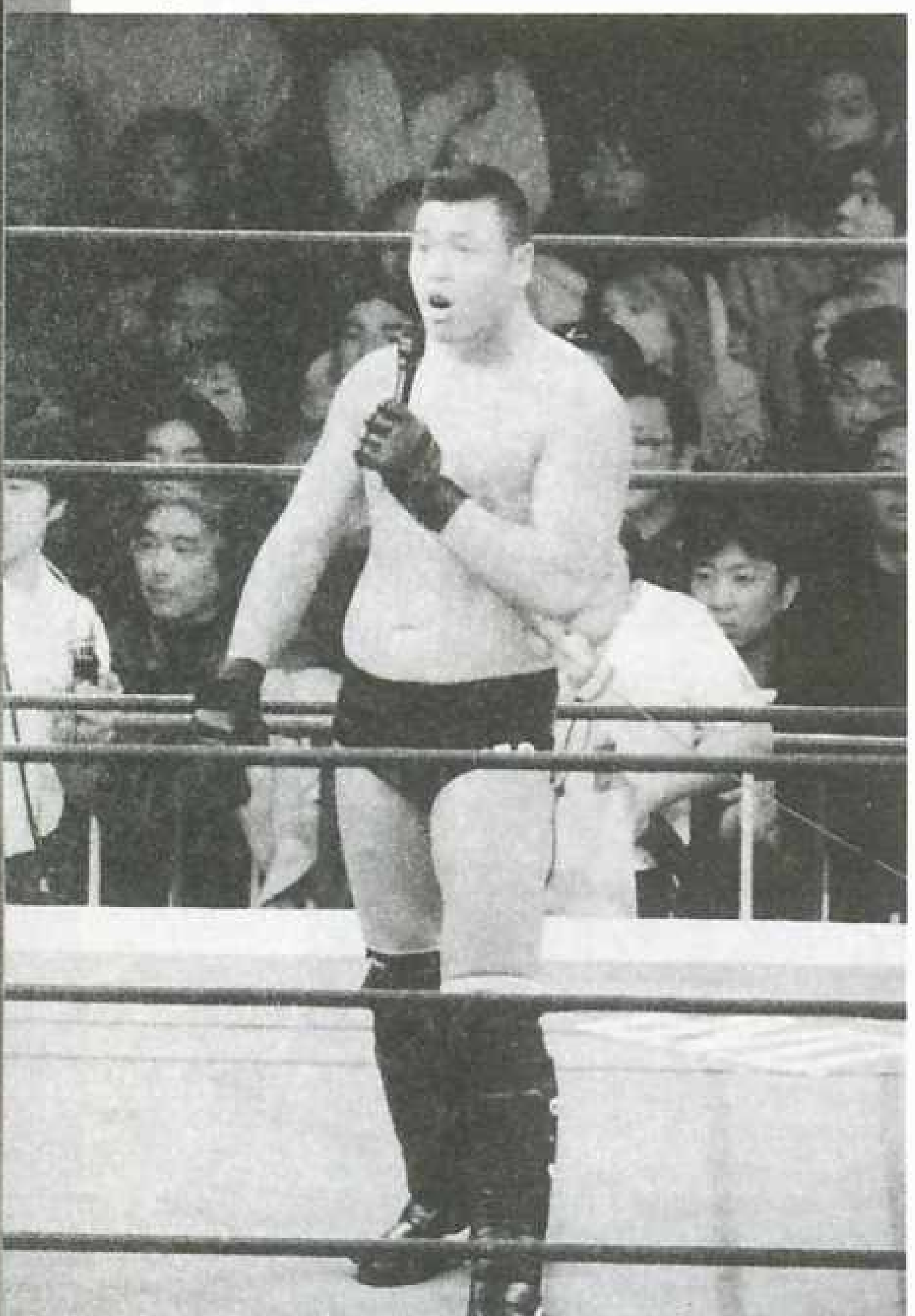
山口　うまいね、どうも（笑）。そのルール問題っていうのは結構深いと思うんだよね。橋本選手が考えるプロレスのルール、小川選手の考えてるプロレスのルール。これが明らかに違うわけよ。で、小川選手とか佐山聡も、もちろん背後にいる猪木さんも「プロレスはなにやったっていいじゃねぇか」ってことだよね（笑）。

豪　「面倒くせぇんです！」ってヤツですよね（笑）。

山口　だから、あの試合は猪木ルールの範疇だと思う。

豪　アルティメットで禁じられている背骨への攻撃も入ってるわけですよね、オーちゃんの頭の中のルールには（笑）。

山口　それを出す、出さないはお互いのプライドがルールだから。あれは猪木プロレスの中では全然ＯＫなルールの範疇だよね。でも、いまの新



「オイオイオイオイ！　もう終わりかよぉ～！　新日本プロレスファンの皆さ～ん、目を覚ましてくださ～い！」。試合後の小川のマイクが、世紀末を迎えたプロレス界の新たな起点となるのか？



1・4翌日のスポーツ新聞各紙の一面はほぼ大仁田の話題で占められ、小川vs橋本戦を持ってきたのはデイリーのみ。「一般的に投げ掛けた話題」においては間違いなく自分のが上だったという大仁田の自負にも説得力はある

出席者プロフィール

山口日昇（会長）
本誌編集長。人当たりが良くて正直者、そしてお金持ち（本人談）ノビーという愛らしい別名を持つが、飼い犬を壁に投げ付けて惨殺するというダークサイドも持つ。底暗い二面性を持つBI砲（意味不明）。「愛人募集中」（本人談）とのことなのでキチガイ好きの方はどうぞ

吉田豪
本誌所属フリーライター＆プロレス評論家。古本＆芸能関係の造詣の深さと、整合性はあるが、非常にタチの悪い毒舌で熱狂的な支持を集める金髪男。まあ、“行く道、行きまっせ”という無頼派好き

坂井ノブ
デブ編集者。現在、自分のしていることも他人が何をしているかもまったくわからない上、知ろうともしないダメ人間状態。木を見て森を見ず、地面ばかりをながめるポンコツぶり。

松澤チョロ（ぴのこ）
姑息なウソつき編集者。女性読者に個人的に手紙を出すなどの裏工作や誰の得にもならないウソを連発しては編集部を混乱させる、高級ソープ好き。女性読者の皆さ～ん、この男から手紙が来たら編集部に急送してくださ～い

中村カタブツ君（ブチ）
『紙プロ』編集部脱走歴を持つ初代ポンコツ。風俗関係者として『紙プロ』に出戻る厚顔無恥ぶりは関係者をあきれさせるが、本人はいたって平然。格闘技関係を中心にライター活動を展開中のつもり。

ジャイ子
身長180センチのデカさだけが売りの言語能力皆無の電話番。自分が可愛いと思ってる傲慢さにはうんざりするが、それを指摘すると「私はコーマンじゃない！」と逆セクハラで返すあたりが楽しい変わった生きもの。

かってのプロレスの価値観が壊れたとしても面白いものが善ですよ

日本プロレスの中では許されないと。そのいまの新日本ルールを誰が作り上げたかということだよ。

ノブ　現場監督の長州さんは「オレの目の黒いうちはアルティメットみたいなことはやらせない」と言ってますよね。その辺に鍵があるんじゃないかという気がしますが。

山口　だから、そういうことで言えば長州力の作り上げたルールというのは視野の狭いルールなんだよね。長州さんのプロレスのルールの第一義は「オレが面倒を見る」だよ。だから「蝶野も武藤も大仁田もオレが面倒を見てやる、だからオレの言うことを聞け」というね。

ノブ　「それじゃあ、ヤダよ」っていうのが蝶野選手たちなんですよね。

豪　その枠内で、どこまで自由を得られるかっていう闘いなんだと思うよ。

山口　だから、〝プロとしての陣地取り〟っていう意味では今回小川選手がやったことはオレは勝ちだと思うけどね。

豪　だけど、選手が怒る気持ちもそれはそれでわかりますよね。

山口　わかる。だけど、問題提起をしてる時点で勝ちですよ。

豪　「面白いことをやれば勝ち」っていうのが猪木ルール。「みんなの見てる前でやってしまえば勝ち」というのがプロレスマスコミに嫌われる部分ではあるんでしょうけど、よそから見てる分にはそれが一番面白いんですよ。ファンが喜ぶのも当たり前だし。

チョロ　だから、ファンとかも『ゴング』や『週プロ』がどう書くかは想像つくから「『紙プロ』に期待する」っていうのがインターネットとかでもバンバン入ってるんですよ。

山口　は？　期待するな！　テメェで考えろ！　もう、うちの読者はバカばっかだから。

豪　「ファンはバカです」発言ですか（笑）。うちの読者はいいファンばっかですよ。

山口　それはあんたが人気あるからだよ。女性ファンも多いしな（笑）。オレ、人気ないもんな（泣）。

チョロ　でも、豪さんにバレンタインのチョコレートとか来たことないですよ（笑）。オシャレ有名人とか言われてるくせに！

豪　シッシーにはチョコがいっぱい来てるらしいけどね（笑）。

山口　ククク。要は小川選手のやったことを範疇に入れないのが長州ルールでしょ。だけど、興行的には成功してるし、その長州ルールでいいんじゃないかという空気が選手の中にも蔓延してるわけでしょ。新・新日本プロレスのルールが。昔からプロレスのルールを語る時に〝暗黙の了解〟って使ってきたよね。この〝暗黙の了解〟っていうのは明文化されてないから、各レスラーの中にそれぞれインプットされてるものでしょ。だから、小川選手の頭の中のルールと破壊王の頭の中のルールは確実に違ってた。だけど、「橋本はもしかしたら猪木プロレスのルールを容認できる選手なんじゃないか」っていうのが破壊王への期待につながってたわけでしょ。

ノブ　そうですね。

豪　ルールは容認できる人だと思うんですよ。まあ、体型の問題とかね、そういうのはあるけど（笑）。人間的には全面支持できるんですよ。

山口　いや、いまでもファンですよ、僕は。

豪　これでやられたのが別の人だったら、より喜んでたわけじゃないですか（笑）。

山口　例えば？

豪　●●がボコボコにされてたら、相当気持ちよく笑ってましたよね（笑）。

山口　「笑ってましたよね」って、それがマスコミの言う言葉か！（笑）。

豪　いま以上にイデオロギーの違いがはっきりするわけじゃないですか。小川vs橋本はある意味で猪木イズム日本一決定戦みたいなもんですからね。破壊王は本隊の中でオレが一番猪木イズムを受け継いでいるっていう思いが強くて〝闘魂伝承〟を背負ってたわけじゃないですか。だけど、やればやるほど猪木さんに「子供がかまってほしくてダダこねてるように見える」とも言われて、破壊王は悔しがる。実際、そうだと思うんですけどね。それが、よそから来た男に猪木イズムを伝承されて、こういう目にあってるんだから一番可哀相ですよ。

山口　切ないよね。小川選手と橋本選手の考えるルールの、一番の違いっていうのは、簡単な話、猪木イズムがあるかないかなんだよ。作り上げたものを壊し、壊してから作り上げ、作り上げたものをまた壊し、また作り上げる。永久革命みたいなところがあるわけだよ、猪木イズムは。安住の地を求めないというか。だけど、長州力の作り上げたルールのプロレスというものは一回作り上げたものを守る。橋本選手も作っては壊し、壊しては作る人だったはずなんだけど、いつのまにか作り上げたものを守る側にまわってたということですよ。

豪　壊す気はあるんだろうけど、選手会長になっちゃいましたからね（笑）。

山口　それに対して刺激を与える？「目を覚ましてください」というのは非常に意義があることだと思うけどね。幸か不幸か橋本はいままで作り上げてきたものを壊されたわけだから、また作り上げるチャンスなんだよ。最大のピンチは最大のチャンスなり、だよね。だから、文字通り、破壊王になってほしいわけですよ（笑）。

豪　ここで一歩踏み出せば男になれますかね。

山口　自分で作り上げたものを自分で壊す勇気を持てば面白くなるよね。ここが紙一重でなかなか難しいとこなんだろうけど。

豪　破壊王の考えてるルールっていうのは「オレは外に出ない」っていうのに象徴されてたわけじゃないですか。ホントに一番素直な答えで、「オレは異種格闘技戦は新日のマットでしかやらん。オレのキックはK—1では当たらんから、ここでやる」と。だけど、その新日マットでやられちゃったわけですからね。

山口　だから掟破りなんだよね。

豪　破壊王としては、「それはないだろう？」というね。

山口　掟破りと言うより、オレの解釈で言えば、あれは公開道場破りだからね。

豪　あっ、それはターザンも言ってましたね（笑）。

山口　ホント？　じゃ、それは撤回。オレのグレードが下がる（笑）。

（電話が鳴ってジャイ子が出る）

ジャイ子　ターザンさんから。「ノブちゃんいる？」だって（笑）。

山口　実にいいタイミングだね（笑）。

豪　で、ノブは「電話に出るとオレ





「後ろで焚き付けてる奴、許さないぞ本当にアントニオ猪木!!」。橋本の怒りの矛先は小川よりもＵＦＯ会長・猪木に向けられた。この後、橋本はＵＦＯに絶縁宣言する新日と契約更改をせず、その去就が注目されている

Q　これからの新日本プロレスにあなたは何を期待しますか？

●全日とからんでくれ。それがないなら期待せずにテレビだけ見る。（佐藤伸道・26・男・自営業）

●もえる試合（草刈七恵・21・女）

●ファンを裏切り続けて欲しい（川畑孝司・24・男・販売）

●保永の復帰（鳥羽正人・26・男・アルバイト）

●ズバリ言ってもう期待しない！　これからはＵＦＯ！（内田雅也・30・男・デザイナー）

●早くトップを一人作れ（林泰三・男）

●インディーのようにちゃんと説明ぐらいしてよ。あの長州はなんだったんだー。（徳田博延・23・男・学生）

●まずドームプロレスをやめる。あっためて大試合で試合を爆発させる。カードが決まってから流れを（抗争など）カードに組まれるのが理想。あとJr.をなんとかしてほしい。（小林繁夫・23・男・学生）

●新日だけでドームをやれる（盛り上げられる）ようガンバッテほしい。（片平ひらく・23・男・学生）

●ジュニアをもう少しメインの方であつかって欲しい。西村の復帰、山崎のIWGP挑戦（キムラトモオ・31・男・会社員）

●とくになし、新日に期待しても裏切られるだけだから（荒井英雄・24・男・ビデオエディター）

●今日はヤバい興行だった（桜井崇浩・23・男・会社員）

●業界を牛耳り、すべての団体をうけいれ、つぶす（土田貢司・23・男・学生）

●ない。崩壊しろ!!（渡辺章太郎・19・男・学生）

●昔の方が面白かったなぁ。なんとか昔みたいに戻らないかな。（大内勝輝・25・男）

●（公平な）きれいなレフェリング（山内・31・男・自称青年実業家）

●ファンの声を聞け（松本朋弥・15・男・学生）

●もう少しファンの気持ちを考えた試合の裁定をしろ!!（木村大介・23・男・会社員）

●毒をのめ！（飯野隆司・32・男・仕

格闘 MARS ATTACKS!

のグレードが下がる」っていうことで電話に出なかったと（笑）。
ノブ　だぁ……ターザンが言ってたのは昭和のプロレスが平成のプロレスに道場破りを仕掛けたと。
豪　だから、飯塚（高史）選手が出てきたわけですよね。平成の道場王が（笑）。飯塚選手が結構、無茶してましたからね、やっぱり道場王だから（笑）。
山口　だから、猪木プロレスが長州プロレスに道場破りを仕掛けたってことだよね。昭和対平成っていうよりも。
豪　長州プロレスの道場っていうのは健介選手とかのイメージが強いじゃないですか。いわばウエートトレーニングの道場でしょ。だから、長州道場が崩れてきてるっていうのは、このUFOの試合と奇しくもエンセン（井上）の腕相撲の勝利（今年年頭放送の『リン魂』特番）っていうのとで二段階で崩れたわけじゃないですか。極めっこよりも力でねじ伏せるってことが強さだと言ってたはずなのに、腕相撲でも負けたから。
山口　直進的なプロレスの強さね。
豪　それは長州さんが訴えて（佐々木）健介選手とかが守ってきたものですよね。ネチネチ関節技やるよりも力があれば関節技なんか掛かりゃしねぇんだっていう。それが中西（学）選手とかまでエンセンの力で押し切られてしまったと。力の幻想がまずなくなった上にリング上でアレだったとわけですよ。
山口　だから、公開道場破りなんだよ。で、いまの新日本のルールの中では道場破りは許さないっていうルールなわけでしょ？　行くのも、来さすのも。でも、猪木さんが作ったルールの中では行こうが、来ようが面白がれたわけだよ。そこでもルールの違いがはっきりしてるよね。
豪　猪木さんは野試合とかしようとしたわけですからね、それも極真と（笑）。
山口　寛水流の挑戦とかね。竹ヤブの中での決戦を受けようとしたりとか（笑）。
豪　その辺のバイタリティーがなくなってきたわけですよね。だけど、それは結局、道場でウエイトトレーニングをしてる以上は、道場破りの概念がなくなってくるわけじゃないですか。ウエイトトレーニングでの勝負でどっちの方が重いのを上げるかってことでもいいですけど（笑）。
山口　言うねぇ（笑）。プロレスマスコミとは思えないねぇ（笑）。でも、新日本プロレス全体を見るとテーマパークだから、遊園地に道場破りを仕掛ける奴もいなかったわけだよね、いままで。でも、佐山聡が奇しくも言ってたんだけど「彼らがやってることは確かにプロレスの一部かもしれないけれど、オレたちの方が全然プロレスを考えてますよ」って言ってるわけだよ（笑）。だから、真剣に遊園地に向かって道場破りを仕掛けていった、その男気？　佐山聡と男気って全然似付かわしくないんだけど（笑）。
豪　やっぱり悪意とかの方が近いんでしょうかね（笑）。
山口　言うねェ、とてもプロレスマスコミとは思えないね（笑）。でも、悪意って言葉が出てきたから言うけど、どっちが正しくてどっちが悪いって問題じゃないんだよ、これは。
豪　どっちも正しいんですよ、絶対。結局は面白いもんの勝ちなんです！　だけど、プロレスマスコミは面白いかどうかよりも正義を重視しているわけですけど、こっちは楽しいものの方がいいじゃないかというね。
山口　たとえ、それによってかつてのプロレスの価値観が壊れたとしてもね、面白いもんが善ですよ。
豪　勝てば正義なんですよ（笑）。
山口　いや、強いものが正義（笑）。『週プロ』が「今回のUFOが新日に対してやったことは良くないことだけど」みたいなことを書いてたんだけど、それはUFOが悪くて新日本が正しいってことでしょ。
豪　まあ、そう書くしかないって気もしますけどね、あちら側の人は（笑）。
ノブ　プロレスマスコミ以外のところだと『FRIDAY』（1月29日号）に掲載された小川インタビューが物議をかもしだしましたよね。「小川直也、オレがガチンコで橋本真也を潰した理由」というセンセーショナルなキャッチを使って。
山口　『FRIDAY』問題ね（笑）。でも、だいたい『FRIDAY』の仙波記者は酔っ払ってて小川vs橋本戦をよく見てないんだよね（笑）。
豪　会長（山口日昇）の横で泥酔してたわけでしょ（笑）。
山口　たまたまね。人のバックにビールを引っ掛けたり、バックステージパスもないのに新日のフロントに会いに行こうとしたり、そんな狼藉ばかりを働いていたんでロクに見てないと思うよ（笑）。だから、この記事の担当デスクだったらしいけど、断言します！　当日、仙波記者は酔っ払ってて試合はよく見てない。あとでことの大きさを知ったというね（笑）。けっこーいい加減なんだよ、日本一の写真週刊誌も（笑）。



試合後、騒然となるリング上。新日本の選手が大挙して押し寄せる中、小川はコーナーに陣取り勝利のポーズで挑発する



1／29号『FRIDAY』（写真下）に“東スポが絶対書けないプロレス界大事件の真相”と題した記事が掲載された。“事前の打ち合せ”などの言葉が踊る文章の中に橋本、佐山のコメントが載るという構成に怒る『ゴング』金沢克彦編集長は2／4号の『ゴング』で小川を馬鹿呼ばわりする

ノブ　『ゴング』（2月4日号）はその『FRIDAY』をかなり批判してますね。
豪　巻頭記事だね。「この中（『FRIDAY』中）で小川は橋本にセメントマッチを仕掛けたことを認めた上で独自の主張を展開し、自分の正当性を訴えている」と書いた上で「ここで問題なのは解説の部分」と言い切ってますね。だから小川選手じゃなくて〝問題なのは解説の部分〟なんですよ。
山口　プロレスには打ち合わせがあってウンヌンカンヌンっていう部分を言ってるんだろうけどね。でも、これは『FRIDAY』が書いてることでしょ？
豪　だから、『ゴング』の論調だと取材を受ける以上は「ハッキリ言って小川は馬鹿である」ということになるんですよ。金沢（克彦・新編集長）さんはビッグハートの持ち主ですよ（笑）。
山口　まず第一に『FRIDAY』に信憑性があるかどうかを問いたいね（笑）。信憑性ねぇもん、仙波は酔っ払ってたんだから（笑）。どうでもいいけどさ。でもね、『ゴング』は『FRIDAY』に真正面から喧嘩仕掛ければいいじゃん。小川選手になんだかんだ言うのは筋違いですよ。
豪　というか、これを読む限りは佐山さんに言うべきですよね（笑）。
山口　でもさ、写真週刊誌なんて、そんなもんでしょ。
豪　スキャンダラスに書かなきゃいけないわけですからね。どうってことねえよ（笑）。
山口　目くじら立てるんだったら、ムキになって目くじら立てればいいんだよ。巻き込んで面白くすればいいのになぁ。
豪　でも、ここまで書くっていうのはムキですよ。「馬鹿」とまで言ったことはないですからね（笑）。
山口　でも、それは相手がキャリアの浅い小川選手だからでしょ。佐山聡、猪木さんに言えって。ただ、小川選手にしても佐山聡にしてもいい意味でタチが悪いから彼らが被害者ってことはないと思うけど。
チョロ　僕も、この記事を読んで単純に面白かったっていうか。
山口　だけど、「プロレスマスコミが面白がってていいのか」って言われた時にどう反論する？
チョロ　「面白きゃいいじゃねぇか」って（笑）。プロレスファンの夢を壊

事人）
●とにかくゴールデンタイムへ。K-1より人気が出ますように！（小林・25・男・音楽家）
●橋本は全日本に行った方が良いのでは……？　もう居場所がないのではないか。橋本vs小川で新日本は〝プロレス団体〟なんだと理解したので、格闘技にわき目もふらず、〝プロレス〟だけを極めて突き進んで欲しい。（鈴木進一・23・男・会社員）
●天龍ガラクタ軍団参戦、新日vs二瓶組5対5シングル戦（田村忍・27・男・レスラー）
●熱くさせてほしい。全日をつぶしてほしい。ぜひ対抗戦を！（福井美鈴・21・女・アルバイト）
●くだらないことをせず、全日本プロレスと合体してシューティング等総合格闘技をつぶす。（新井祐介・19・男・大学生）
●青い奴と思われますでしょうが……。格闘技＝プロレスにして下さい。（石井たから・26・男・会社員）
●もっとファン主体のマッチメークをつくってください。そして選手は〝試合〟をしてください。わざを出すだけの試合なんてまっぴらだぁ～（長谷川・35・男・会社員）
●本日をもって新日本には期待するのをやめます！　いー加減愛想がつきた！　レスラーもフロントも頭固すぎじゃ！（粕谷和明・29・男・フリーター）
●今日みたいなハチャメチャっぷり（堀江将司・25・男・コーヒー屋）
●川田なら新日に出れる!!　交渉して下さい。川田は全日をやめたいのです。（井田健吾・24・男）
●もっとはっきりした決着とそのためのルールを考えた方がいい（高田隆志・26・男・会社員）
●UFOと全面戦争。ウィリー戦の頃の新日みたいにイケイケの新日が見たいです。小川にマジでつっかかった中西と安田に期待する。顔面襲撃のときみたいに無視するのか。どーなんだよ長州？（最首英也・29・男・CMディレクター）
●やられたらやりかえせ!!　新日イズムがストロングスタイルならこういう時こそ逃げるな!!　殺れ!!　長州（一応リングの上でおねがいします）（高橋

マスコミは正義の味方であるべき。正義の価値観は時代によって変わる

さない発言として、知らない人に聞かれたら、「ああいう発言はいけなかった」と答えると思うんですけど。オレはこういうのは好きですから。暴露本とか。でも捏造はいけないな（笑）。

豪　その記事はともかく、「プロレスファンの夢を壊す」といえば、白鳥智香子事務所がインターネットでギャラとかを公表してて、「夢を壊すな」って一部のファンが怒ってるんだけどね。それは面白きゃいいんですよ（笑）。

ノブ　面白いですね、白鳥智香子事務所は（笑）。

豪　だから掟破りにも種類がある、と。

山口　一流から五流まであるわけですよ。

豪　「つまんない掟破りは許さない」ってことですよ。冬木じゃないけど「写真週刊誌のネタになるような出来事がいまほかにあるか」だよね（笑）。それで『ゴング』が怒れば、それはムチャクチャいいことだよ。渦が大きくなっていくってことは。問題提起になればいいんだよ。

山口　マスコミって言うのは、正義の味方なんだよ。正義を語るのがマスコミじゃないんだよ、正義のミ・カ・タであるべきなんだよ。だから、オレらにとっては強いものが正義なんだから、強いものを応援すればいいと思いますよ。で、その正義の価値観も時代によって変わってくるんだよ。って、誰が言ってたんだっけ？

豪　川内康範ですよね。だから、『ゴング』なりなんなりが昔ながらの正義を守ってくれてればいいわけですよ。うちは勝手にうちなりの正義。行く道行きまっせってことですよね。だから、『ゴング』とかがUFO批判とかしてるんだけども、いまはインターネットとかが発達しちゃって、そっちだと圧倒的にUFO支持が多いわけじゃないですか。

山口　ファンの声を聞いていても小川選手の方がインパクトに残ったとか、多いしね。

豪　マスコミも昔は、それで押し通せたんでしょうけど、いまは押し通せなくなりつつあるわけじゃないですか。ファンの声がすぐに聞こえちゃうから。

山口　だから、各マスコミの声を聞いてると〝地震ナマズ説〟を思い出しちゃうね。地震が起きるのはナマズが動くからだっていうね（笑）。そのナマズを殺せば問題ない。だから、マスコミにとってはUFOはナマズなんですよ、諸悪の根源である。

豪　ところがじつは地震を予知してるだけだったと（笑）。

山口　諸悪の根源さえ取りのぞけばいいっていう考え方はオレは個人的には好きじゃないんだよね。さっきも言ったように善悪なんてその時々の価値観によって変わってくるわけだから。

豪　〝佐山が諸悪の根源説〟っていうのはちょっと説得力があるんですけどね（笑）。

山口　ガハハハハ！　でも、佐山聡がいなければプロレスはないと思うよ。

豪　UFOにしてもPRIDEにしても、高田選手の敗戦からヒクソン伝説からすべて元をたどると佐山聡ってことですかね（笑）。長州さんにとってはそういうことを考えると許しがたい、と。

山口　だから、佐山さんは、そして猪木さんはナマズなわけよ。だけど、ナマズを殺せば解決するかというとそうじゃないと思うね。そういう考え方をしてる時点で、その世界は広がりがないですよ。

豪　会長は新日内で幻想を持てる選手っていたんですか？　たとえば今回の場外乱闘ぶりとかを見て。

山口　いまの新日本の中ではいない。カシンとか藤田選手とか村上（一成）選手とか、4代目タイガーマスク選手とかだな。あ、カシン選手とか藤田選手は新日本か（笑）。

豪　UFO側ではああいう場で、あんだけ気が強い村上選手っていうのはちょっと頼もしかったよね。

チョロ　乱闘では一番光ってましたね。（ジェラルド・）ゴルドーが飯塚選手に手を出してる横で山崎（一夫）選手に噛みついて。リング上でゴッタ返してる時もロープに乗って威嚇してたし。タイガー選手のインタビューを読んでも「健介あたりはオレに任せろ」って言ってたみたいだし。そういう意味で村上選手はいいなぁ（笑）。元慧舟會だし（笑）。

豪　いいトンパチですよね（笑）。

山口　あの姿勢が本来の新日本プロレスだけどね。

豪　それを持っていたのが小原（道由）選手だったわけですかね（笑）。ああいう場になると人間が見えるから面白いじゃないですか。行く人と行かない人、それは優しいのか、根性がないのか知らないけど、いろんなものを想像できるじゃないですか（笑）。

チョロ　背中、押してるヤツとかいましたからね（笑）。

山口　だけど、あの乱闘シーンを見て思うことは、これは佐山さんとかが小川選手のインタビューを終えて総括的に思ったことだけど、UFOっていうのは世の中を茶化してるだけのように映るけど本当に怖いな。

豪　怖いですね。あれを指示してるって言われている猪木さんは、あの時マスクを被って三四郎になってるし（笑）。

山口　タップアウトだね（笑）。

豪　あれで指示出して、試合後にはもういないっていうタチの悪さ（笑）。

山口　ただフザけてるわけじゃないと（笑）。で、橋本側で考えてみると、ああいう大きな舞台でアレを仕掛けられて「『いざ』となったら何もできなかった」っていうイメージを持たれちゃうのは、可哀想だけど、これはやっぱり仕方ないよな。

ブチ　イコールそれはプロレスラーは強くなければいけないってことでしょ。そして残念だけど「橋本は弱かった」という証明になってしまうんですか。

豪　違うんだよ。プロレスは幻想の商売だから。強さという幻想もあれば、それ以外にもいろんな幻想があるわけよ。強さという幻想だけを求めるのはオレはよくないと思う。かつては合ったけど、いまの馬場さんに強さの幻想はないでしょ？　でも馬場さんには馬場さんの幻想があるわけよ。みんなそれぞれ幻想があれば食っていける。それがプロレスだから。

ブチ　だけど、強いってことは食うネタになるわけですよね。

豪　その一つでしかないんだよ、強さは。強さを売りにする人、売りにする団体はそれを守んないといけないけど、そうじゃないところはその限りじゃないわけでしょ？

山口　そう。そういうことだよ。豪ちゃんが言ってることはオレの考えに近いね。

豪　新日がキング・オブ・スポーツって、いまだにその冠をつけてる以上は、それはやらなきゃいけないから。

山口　ハッタリをカマした以上は、自分の言ったハッタリのハードルを超えてほしいということだよ。猪木さんは超えてるから面白いんでしょ。

豪　だから、何を売りにするかよ。橋本選手はそれを新日内で売りにしてきちゃったから、衝撃が走っちゃったけど。

山口　本当は橋本選手も小川選手の心を折る闘いをするべきだったんだよね。一発でも二発でも入れておけば破壊王はここまで切なく映らないと思うんだよね。でも、破壊王はそれをやらずに「オレはプロレスを守った」みたいなことを言ってるのが歯痒いんだよね。

豪　「橋本、お前は大人だ〜っ！」って感じですよね（笑）。

山口　ヘンに大人になってほしくないんだけどね。

豪　でも、試合が終わってから子供っぽくなってきたじゃないですか、いい意味でね。道場の猪木さんのパネルを外したりとか（笑）。

山口　ガハハハハ！　あれは面白か





1・4直後の「ゴング」「ファイト」ではセメント・マッチと表紙にうち、「週プロ」は増刊号で小川を表紙に。小川vs橋本戦がプロレス界に与えた衝撃はここまで大きい

憲昭・30・男・ロマンポルシェ）

●ない……期待したいけど。（久我健吾・31・男・電工）

●もうこんなしょうもない試合はやめてくれ!!　せっかく大阪からきたのに!!　金返せ!!（小林喜也・21・男会社員）

●もっと客の立場に立て。全日を見習え!!（大堀弥・33・男・サラリーマン）

●わからずじまいの試合はやめること。大仁田みたいの出してもいいけどもう少し相手なり内容なり考える。（曽我詩織・28・女・フリーター）

●ワールドプロレスの時間を9時からに！（神原健博・16・男・学生）

●今日のドーム最悪やった。ええ加減にしろっ。もういらない、期待はしない（隠岐陽子・26・女・秘書）

●安田のベルト挑戦（堀江尚貴・21・男・大学生）

●今日の興行のように点で見てハズレがあっても、時間がたって線になった時に想像を上回る爆発を起こしてほしい（曽我詩門・26・男・会社員）

●年2回のもちつき大会（佐藤知美・25・女・会社員）

●としよりの引退ばかりを目玉にせずに見たいカードをどんどん提供してほしい。UFO軍団結成してほしい。小川、ゴルドー、佐山、村上、今世紀最後のヒール軍団（中原勇・38・男・会社員）

●UFOはきにしないでください。わざわざしあいくむことないと思う（高沢基行・20・男・学生）

●もうこれ以上、アホな大仁田を相手にせず花道やリングを神聖な場所に保って下さい。（畑本裕美・26・女・会社）

●安田に期待する（服部繁人・23・男・フリーター）

●もっともっとオレ等を裏切ってくれ。そーすりゃバカファンが減る（佐々木シンジ・25・男・演劇人）

●今日はおもしろかったけど、ちょっとあざとい（安田浩一・29・男・プー）

●もう一度すべてをやりなおす。キングオブスポーツファンとしてむねをはってあるきたいし、一生新日ファンでいる。（窪木安明・29・男・会社員）

格闘 MARS ATTACKS!

ったよな（笑）。
豪　面白くなってきましたよね（笑）。
山口　応援したいね、破壊王は。
ノブ　だけど、『週プロ』に載った蝶野選手の話だと「後ろから鉄砲を突きつけられて、目の前の人間も一発だけタマの入った鉄砲を持たされている」っていう状況だったと。「橋本がナイフを持っててもあそこで抜くのは無理」だって言ってますけど。
ブチ　一部では橋本選手に対する制裁マッチだったって話もありますよね。
豪　フロント批判、カード批判に対する無期限出場停止。だけど、あのIWGP挑戦者決定トーナメントは


「この会社は腐ってる!!　選手をオモチャにしてる!!」。試合直後、蝶野は身体を震わせながら怒りの言葉をブチまけた

批判して当然だという気はするよね（笑）。
山口　そこで無期限出場停止になって1・4の小川戦には上がったということは、なんらかの政治的な動きがあったことは推測できるよね。
ノブ　なんか今回のこういう流れはリング上と政治的な流れとセットで面白かったって部分もありますよね。どうですか、チョロさん。
チョロ　それも当然ありますよね。みんな、それは考えると思うんですよ。
豪　だから、活字プロレスの入る隙間のないプロレスを新日は提示しようとしていたのに、久しぶりに推理の隙間が山ほどある試合が出てきたっていうことが面白かったんだよね。
山口　そう。脳ミソを使って見れるプロレスが久々に立ち昇ったってことだよね。
豪　大仁田vs健介戦なんかはわかりやすい試合だったよね。
チョロ　いや、ちっとあれは凄い考えますよ！　試合結果とか、どんな流れになるのかとか、やっぱり小鉄だったかとか（笑）、いろんな想像するじゃないですか。
豪　それはどんな試合でもそうだよ、バカ！　オレが言ってるのは試合後に考える隙のことだから。終わってみたら推測する隙が、大仁田vs健介戦にはなかったわけでしょ？
チョロ　やっぱりでも今後に向けて考えるじゃないですか。ルール問題とか。で、アンケートを見てもわかるように、そう言った人は良かった試合はメインだし、IWGPタッグだし。そういうファンが確実に育っているというか、〝デルフィンたち〟というか〝イチロー人間〟ですね。
豪　だから、それはホントに頑張ってきたわけだよね。
山口　蝶野選手、武藤選手がね。
豪　ドームプロレスのファン層、説明いらずで楽しめるファンを育ててきたわけだよ。そこに昔ながらのというか、昔よりタチ悪いぐらいのとんでもないプロレスを猪木さんが提供しちゃったと。まさに『インデペンデンス・デイ』なわけだよね、UFOがホントに襲って来ちゃったわけだから（笑）。
山口　ホントに襲ってきちゃったね（笑）。佐山さんが「ある日、ド～ンと来ますからぁ」言ってた通りになったね（笑）。
豪　まさか、被害者が破壊王だったとは思わなかったけど。
山口　ド～ンと来ちゃったね。いきなり大統領を撃ち殺したようなもんだから（笑）。
豪　いわば『マーズ・アタック』みたいな感じですかね（笑）。
山口　その通りだよ!!　1・4は『マーズ・アタック』だよ（笑）。
豪　破壊王が理解を示しちゃったんですよね、猪木イズムに。そしたら非情にも撃たれちゃった、シュートされちゃったわけですよ。要するに猪木さん、佐山さんは火星人ですか（笑）。
山口　火星人だよ（笑）。
豪　じゃあ、タチ悪くてもしょうがないですよね（笑）。
山口　『マーズ・アタック』に出てくる火星人はタチ悪いじゃん（笑）。でも、そのタチの悪さが面白いんだよ。あの宇宙人は見るものにとっては諸悪の根源じゃないからね。
豪　あの宇宙人は歌に弱いんでしたっけ。佐山さんも歌に弱いですよね（笑）。
山口　ガハハハハ！　この間の取材の時も歌ってたよな、シャンソン（笑）。
豪　佐山さんのアダナはエルビスですからね（笑）。
山口　だから、『インデペンデンス・デイ』だと最初に大統領を撃っちゃうと、そのあとの物語は絶対に続かないんだよ。
豪　『マーズ・アタック』は撃ってからがスタート（笑）。
山口　つまり、大作だよね、新日の作りたいものは。大作映画は、巨額の金をかけて優秀なスタッフも揃えて、数多くの有名タレントを揃えて揺るぎのないところで全世界に公開するってものじゃないですか。『マーズ・アタック』はゲリラ的に仕掛けるでしょ（笑）。
豪　だけど、世間的に届いたのは大仁田選手だったわけですよね。しかし、この一番世間に届くはずの大仁田vs健介戦を『週プロ』の佐藤（正行）ちゃんが増刊号で紅白に例えて書いてるのには愕然としましたけど（笑）。ズッと紅白のことを書いて、シメも紅白。最高ですよね（笑）。
山口　そこまで言うか（笑）。
豪　「今年の紅白の視聴率は57・2%。さて今年の新日の視聴率はどうなる？」って、このシメは最高ですよ（笑）。
山口　お前もタチ悪いな（笑）。
豪　視聴率じゃないだろ、問題提起すべきことはって（笑）。
ノブ　あの日はあのまま行けば大仁田選手が一人勝ちの情況でしたよね。
豪　特に試合前後がケタ違いに面白かったんだよね（笑）。
チョロ　試合後の控え室で大仁田さんに殴られたかったたですねぇ（笑）。


この日のメインでノートンを下し、IWGPチャンピオンとなった武藤。武藤は武藤で自らが信じるプロレスを貫いた

山口　殴られたかったのか（笑）。
チョロ　記者ども逃げやがって。一番おいしいところじゃねぇか（笑）。
豪　大仁田選手はリング外でのプロレスは本当にうまいですねぇ。
山口　ホントに評価できるよ。
豪　100点あげられますよ。リング上では5点ぐらいだけどね（笑）。
山口　キミはホントにプロレスマスコミとは思えないね（笑）。
豪　リング外のキャラクターはホントに見事ですよ。不覚にも転ぶ人がいる気持ちもわかるよね（笑）。たとえば、あれでビジュアルが蝶野選手とかだったら完全にハマるでしょ（笑）。
ノブ　昨日（1月23日）の『ワールドプロレスリング』も最高でしたね（笑）。
豪　あれは大仁田選手の真鍋アナのイジリへのアピールだよね。〝大仁田が暴力的にやるんだったら俺は紳士的にやる〟と。
ノブ　「真鍋さんはどう思う？」って言って真鍋アナが詰まったら、何かをやると思ったら。
山口　突然カメラに寄って「アイム・チョーノ！」だもんな（笑）。
チョロ　あれもだから、別な意味で「目を覚ましてくださ～い」ですかね？（笑）。あの時間帯で、いきなり

●商売に走りすぎるな!!（藤沢裕介・19・男・大学生）
●最近身内対決ばかりなので、そろそろ交流戦、対こう戦をやってほしい。（柴田和良・27・男・整備士）
●今のままで十分、これ以上何がある？（川津季寿・33・男・会社員）
●げんてんかいき（猪又賢一・30・男・釣り堀）
●とりあえず平成維震軍がなかまわれをせずに仲よくやっていってくれればいい。それにまたIWGPタッグのベルトをとりもどしてほしい。越中さんならできるゼッタイ（宮岡昼・20・女・フリーター）
●手抜きのないカード（塩野賢次・31・男・バウンサー）
●言ったところで実現しませんから書きません（鈴木大介・31・男・会社員）
●ファンの気持ちを考えた興行をして欲しいです。もっとファンに伝えなくてはいけない事があると思います。（山田真佐子・25・女・会社員）
●長州の色にそまらない試合（マッチメークも含む）（タカトウシンスケ・25・男・会社員）
●おごれる者はひさしからず。ターザンの怨念か!!（宮島和宏・35・男・辰巳出版）
●つぶれてほしい、分れつしてほしい（高田浩行・32・男・会社員）
●今回のような殺バツとした雰囲気、大歓迎です。ついでに高田、アレク、カレリンも上げちまえ！（荒井康弘・26・男・風来坊）
●もっとカシンを盛り上げろー（新かおる・25・女・販売）
●グッズが高え、ドームが多すぎる、横浜文化体育館でビッグマッチやれ（金子・19・男・学生）
●イノキカムバック（関口佳津幸・25・男・フリーター）
●プロレス界にカツをいれろダーッ（小松雅人・20・男・学生）
●夢のカードをいろいろやってG1、SGタッグその他1つ1つの試合を大切に盛り上げてほしいです。（戸田雅也・24・男・フリーター）
●坂口vs大仁田（阿久澤俊介・15・男・中学生）

猪木イズムを簡単に言ってしまうと"モノを創る"ということですよ

あのテンションで（笑）。

山口 でも蝶野選手は蝶野選手で別の角度から「プロレスファンよ、目を覚ませ」って言ってる部分はあるよね。

豪 「寝るな」って意味で？（笑）。だから、いろんなところで二つの試合に対するアピールが出てるわけじゃないですか。全日でもそれは感じるし、三沢選手の開国後のメッセージもそうだし、小橋（健太）vsベイダーもそうだし。ベイダーがイス持って入場して、イスがヒン曲がるぐらい叩く（笑）。ホントに馬場さんのいない全日が動きだしたって感じですよね。

チョロ 花くまさんの言葉を借りるなら、体臭のきついベイダーが大暴れするという「管理のズサンな臭いのきついサファリパーク」になってますよね（笑）。

豪 いや、三沢選手は管理してるよ。管理の幅が変わっただけでね。全日っていうのは場外乱闘は基本的に禁止で、ちょっとしただけで記事になるような世界だったでしょ。

山口 だけど、プロレスの枠は出ない。純プロレスの完成型のレベルを、さらに上げようとしてるのが三沢プロレスだよね。

豪 それはそれで評価すべきだし。

山口 ところで、馬場さんは快方に向かってるのかね？ まさかこのまま引退ってことはないよな。

豪 まあ、一部報道では猪木さんよりイイ人生を送ってるわけだからね（笑）。

山口 自分で作った会社から追い出されたりしないし、世間的にはイイ人だと思われてるし（笑）。

豪 テレビのレギュラー多いし（笑）。

山口 だけど、「馬場さんとオレは仲がいいんです。だけど、ああいう生き方だけはしたくない」って猪木さんは言ってるんだよ（笑）。だから波瀾万丈の方が面白いんだよな（笑）。

豪 そういうことです！ みちプロの分裂だって面白いですしね。奇しくも原タコヤキ君が1・4のあとぐらいに「今年はシュート元年やで」って言い出したんだけど、それからもシュートな出来事が次々と起こって。

山口 そうだよね。みちのくもあるし、リングスもあるし。

ノブ 全女とネオのケンカもあるし。

チョロ 折原（昌夫）さんも幻もやりましたよ。

豪 シュートやったみたいだね、IWAで（笑）。それぐらい余波が各地に飛んでるわけですよ。去年はプロレスが低迷してるって言われてたけど、今年はあからさまにいろんなところで何かが起きてますよね。

山口 面白い！ ダメだったら一回潰れちゃえばいいんですよ。新しいものを作りましょうよ。作っては壊し、壊しては作り、そうやってグレードアップして行けばいい。永久革命。永久運動ですよ。

豪 しかし、橋本vs小川戦のあとに天山広吉・小島聡組が王者になったっていうのも歴史的な風景でしたよね。

山口 あの試合の入場時、ブーイングが起こってたからね。

豪 でも、試合が始まったらブーイングがなくなったわけですよね。昔だったらモノが飛んだりしてたでしょ？

ブチ だけど、天山・小島組を支持したファンも多かったわけですからね。

豪 会場内では支持が強かったの？ ブーイングが多かったの？

チョロ だから状況説明を求めるブーイングばかりで熱はないですね。

豪 「試合結果がわかんねぇぞ」っていうブーイング？ 結果として昔ながらのファンは喜び、いまどきのファンはよくわかんないってことでしょ。

チョロ 真っ二つって感じでしたね。直後に取ったアンケートでは、今後の新日で見たいカードとして武藤vs蝶野戦がトップで次は長州vs小川戦。

豪 ファン歴の浅い人もオーちゃんの「目を覚ましてください」のコメントで結構目を覚ましてるんですよね。

山口 だから、「昔ながらのファンが喜んだ」っていう次元じゃないと思うけどね。

豪 結構、届いてはいるんですよ。

山口 やっぱり根っこの問題なんだよね。ただの大衆娯楽でいいんだったら、ほかのものを見てるよ。なんで俺が毎年、梅沢武生劇団を見に行ってるか考えてほしいよな（笑）。

ブチ なんスか、それ？

山口 ま、いいや。で、いまの新日は、新日本プロレスっていうより、"ニュー・ジャパンプロレス"っていう感じだよな（笑）。

豪 新しい"ジャパンプロレス"ですね。いいんです、アメプロやろうが何をしようが。だから、昨日のテレビを見てても、あからさまにアメプロ化が進行してるわけじゃないですか。試合を流さず、興行のアオリになるインタビューのみ流す。新しい形だし、面白かったですよね。

山口 だけど、昨日の蝶野選手のインビューよりも、オレは1・4の解説席で怒りにプルプル震える蝶野の方を支持するんですよ（笑）。

豪 横の辻アナがオタオタして何度も噛んじゃって（笑）。蝶野選手の発言はキャラクターにプラスして本音が見事に交じってましたからね。

山口 だから、優秀なドキュメンタリーはドラマになりえるし、優秀なドラマはドキュメンタリーの要素が入ってるものなんですよ。それが昔の新日本プロレスだったっていうのが僕の定義ですね。だけど、いまの新日本プロレスはさっきの『インデペンデンス・デイ』じゃないけど大仕掛けで完成された単調なドラマだけだよね。

豪 でも、高田（延彦）vsヒクソン（・グレイシー）戦があって、（アレクサンダー）大塚vsマルコ（・ファス）戦があってっていうここ最近の盛り上がりがあったじゃないですか。それに比べて小川vs橋本戦は試合前には盛り上がりがなかったけど、その後の盛り上がりで言えば一番ですよね。

ノブ 直後のインターネットの書き込みもケタ違いでしたよね。

豪 それがいまだに消えないっていうのも、推測の余地があるからだしね。高田vsヒクソンにしてもアレクにしても推測の余地はないじゃないですか。とりあえず見たままという。

チョロ 結局、八百長か、八百長じゃないかって言うね。

豪 「アレクは八百長で勝った」とか、そういうわけのわからない書き込みがあったけどね（笑）。

山口 そんなアホな声もあるの？ シメ殺すぞ、コラ！ 格闘技ファンもプロレスファンも脳ミソが世紀末だね。

豪 そういう中で猪木さんがあそこで仕掛けたっていうのは、時代はいまインターネットだとかって前から言ってたわけでしょ。反響の大きさも見込んだ絶対に確信犯ですよね（笑）。

山口 猪木さんは時代を味方につける天才だから（笑）。『インデペンデンス・デイ』を見て、「この作品は何を訴えかけたかったのだろう？」って考えるヤツはそういないよね。ほとんどの人が面白かったか、つまらなかっただけでしょ。『マーズ・アタック』



一方的に押しまくる健介に対して大仁田は火を放ち、反則負け。試合後マイクを握った大仁田は新日本プロレスのファンと新日本に向かって「これがお前らの器量か！」とアピール。自らのプロレスを観客に突きつけた



試合前は大仁田参戦が最も大きな話題となり、観客の期待度も一番だった。くわえ煙草での入場といい、ふてぶてしくタップリとした退場といい、徹底した邪道ぶりに観客の心は一気に鷲掴みにされる

- ●セメントを前もって調べてくること（斉藤辰也・22 男）
- ●不完全燃焼の試合は延長しろ！（杉原隆友・21・男・学生）
- ●苗場（佐藤ひろみ・26・女・自営）
- ●とにかく大仁田を無視してほしい。UFOはつぶしてほしい（坂本幸一・24・男・会社員）
- ●プロレス界の牽引を（柴田一郎・45・男・会社員）
- ●木戸・平田のIWGP挑戦（小林源太・27・男・広告代理店）
- ●わからない（田中勇生・16・男・学生）
- ●くだらないアングルはやめて本物の試合で見せてほしい、アルティメットをやれ！（田口こうじ・22・男・デザイナー）
- ●橋本をうまく使って欲しい（広谷環・16・男・学生）
- ●売られたケンカは最後までキチッとしまつしてほしい（有光勇伸・18・男・フリーター）
- ●なし。今日の興行では失望することが多かったから。（芦川謙吾・21・男・学生）
- ●新日本プロレス及び新日ファンをぶじょくした小川（と佐山）へのリベンジ（高野幸治・26・男・団体職員）
- ●大津スイミングクラブで試合やってください（森直俊・29・男会社員）
- ●小川選手との白黒をハッキリつけて下さい。（栗原秀樹・28・男・学生）
- ●もっともっとスケールアップしてほしい（室岡知志・19・男・会社員）
- ●次はグレーシー神話の崩壊（高田啓輔・29・男・会社員）
- ●大仁田をまともな人間にしてあげること（真壁隆文・22・男・学生）
- ●K1、バーリトゥードに負けない様にBIGマッチを期待しています。何がおこるかわからない新日にダアー!!（高橋敦志・22・男・会社員）
- ●小鉄はもうあげるな!!（川合慎介・21・男・学生）
- ●武藤のオレンジパンツふっかつ（タイガー・21・男・学生）
- ●営利的に走りすぎずに本当の強さを求めて欲しい。インディーと馬場を潰して欲しい（角屋貫・27・男）
- ●乱闘や事件をもう少し長びかせて！（有村正隆・29・男・サラリーマン）

格闘 MARS ATTACKS!

は考えるもんな。「この作り手は何を訴えかけたいんだ？」って（笑）。

山口　「ふざけてるな」とか「キチガイだな、この監督は」とか（笑）。

豪　みちプロもデルフィン人間対猪木イズムってことですよね、あれも（笑）。

山口　みちプロのいまの面白さはドキュメンタリーだからだよね。

豪　みちプロはモメ事を全部プロレスに結びつけていくでしょ。どこまでがプロレスで、どこまでがシュートなのかわからない、その面白さですよね。リング上ではルチャをやってるけれども、そういう意味では新日イズムっていうか、UFOみたいっていうか（笑）。

山口　ボーダーラインをギリギリのところで渡ってるよね。

豪　さすがUFOマニアですよね（笑）。

ブチ　オブニも発進ですか（笑）。

山口　だから、隠し事のできない時代だからドキュメンタリーで勝負していくしかないんじゃないか。自分の生の部分をさらけ出しながら。その上でどんなドラマを作れるかだろうね。

豪　大仁田選手にしたってドキュメントじゃないけど、届いたわけですよね。

山口　あれはドラマの作り手として優秀なんだよね。

豪　完璧なドラマが作れれば、それでもイイわけですよね。ドキュメント部分ってほとんどないじゃないですか、大仁田選手には。

山口　でも、例えばFMWを追い出されるとか、『週プロ』に喧嘩を売るとか、ドキュメントをうまく取り込んでるよね。これからは現実に目をそむけられない時代だよね。直視していく時代ですよ。ジャイ子とかノブみたいに迂回しているヤツは切り捨てられるよ、時代から（笑）。

豪　ジャイ子は上から見ちゃうからね（笑）。

山口　上から見ても下から見ても真正面から見ても、興奮を呼び覚ますドキュメンタリーか、徹底的に大仕掛けで完成されたドラマかどちらかしか通用しないよね。

豪　UFOが凄いのはドキュメンタリー的な要素に大仁田的なドラマを織り込んでいるからでしょ。UFOのテレビ放送じゃ、大仁田的ドラマをガンガン入れてやってるわけだし。ドラマを強化した新しいドキュメンタリーを作ろうとしてるというか。

山口　二つないとダメなんだよ。

豪　だから、単なる格闘技だと深みがなくてあんまり面白くないと思えるのはそこなわけでしょ。

山口　そう。片面しかないからね。いまの新日本プロレスも片面しかないんですよ。

チョロ　だから新日はテーマパークで、UFOは管理のずさんなサファリパーク（笑）。テーマパークは行けば楽しめるけど、サファリパークは緊張感を持って見ないと楽しめないし。だからといって最近の新日はタワーハッカーみたいにテーマパークでも楽しめるものも出てはきてますけど、やっぱりサファリパークの方が面白いですよね、チョロ的には。

山口　度を超えたテーマパークだったらホントに面白いからね、ユニバーサル・スタジオとかね。オレが言ってるのは浦安なんかにあるチンケなヤツとは違うからね。本場のだよ（笑）。

豪　浦安にあるのはディズニーランドですよ（笑）。

山口　そうか。アメリカのテーマパークは張りぼて一つ作るにしても命懸けで作ってるからね（笑）。それくらいスケールの大きなアメリカ的な、度を超えたプロレスだったら文句ないよ。TV局も巻き込んでね。

チョロ　で、今回これまでの小川選手の試合で見られなかったプロレスのプロとしての部分が出ましたよね。マイクアピールも顔つきもいちいち良かったし。そういう意味でファイターとして、プロレスラーとしてグレードがアップしたと思うんですよね。去年の小川vsゴルドー戦（12・30大阪）には見えなかったですよね。

山口　一皮向けたよね。ただ、小川選手にとってもこの試合は大きなテーマがあったんだよ。ゴルドー戦にはテーマがなかったんだよ。それはマッチメークの問題だと思うけどね。

豪　これまで、そういうシュート的試合が行なわれた後って、必ず殺伐としますよね。今回も殺伐とはしていたんだけど、そこでオーちゃんが飛行機ポーズを取っていたっていう（笑）。

山口　だから、どこまで行っても人をバカにしてるとか、茶化してるとか言われるんだよね（笑）。

豪　「小川は人を侮辱したような態度が許せない」ってネットでも叩かれてましたしね（笑）。

山口　それについては豪ちゃんはどう思ってるの？

豪　あれは侮辱してるから面白かったんですよ（笑）。

山口　タチ悪いね、どうも（笑）。

豪　あそこで握手なんかされたら困りますよ（笑）。

山口　でも小川選手の個性がよく出てたよね。

豪　だから、このキャラの方がオーちゃんはいいんですよね（笑）。

山口　それでさ、「その小川を誰が叩き潰すか？」っていう構図になったら最高だよね（笑）。

豪　とにかく強いナチュラルヒールですね。タチ悪い鶴田みたいな。しかし、オーちゃんのダークサイドがよくでましたね（笑）。

山口　デビュー当時はただのプロレスベタだったわけじゃない？　これで小川選手の二面性も見れたし、新日本プロレスの二面性も見れたわけでしょ。

豪　破壊王の二面性も、小原選手の二面性もね（笑）。どうにも二面のない高岩（竜一）選手とかも（笑）。

山口　二面性っていうのは根本的なものだから。〝何が善で何が悪か〟っていうのは、局面によって変わるわけでしょ。片面だけをやってたのが最近の新日本プロレスだから、いま一つ食い足りなかったんだよ。「プロレスはプロレスでいい」っていう片面プロレス。それぞれの選手の善意の部分と悪意の部分がクルクル入れ替わってリング上から見えるようになったら面白いよね（笑）。根本的ですよ。

豪　神と悪魔の部分ですかね。馬場イズムと猪木イズムというか（笑）。

山口　どっちが神でどっちが悪魔かわからないけれど（笑）。

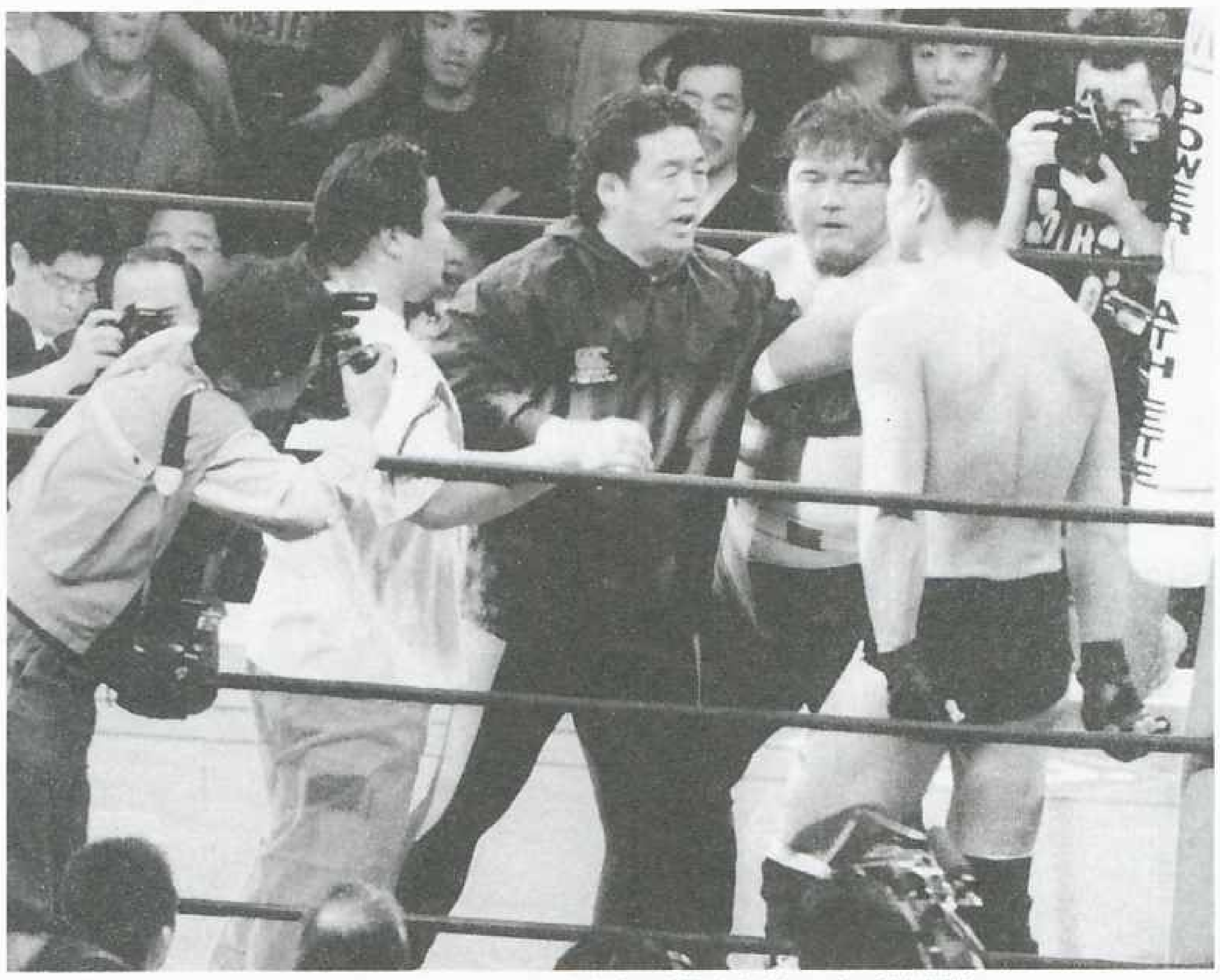
豪　もしかしたら神がワルなのかもしれないですしね。デビルマンチックに（笑）。

山口　面白いよね。「どういう結末を迎えるのか」って、終わっちゃうのか、プロレスは（笑）。

ノブ　終わったらまた始めればイイことですからね（笑）。

山口　お前も終わるんだよ！　でも、そういうことです！　猪木イズムとは〝モノを創る〟ことですよ！

【1月24日『紙のプロレスRADICAL』編集部にて収録】

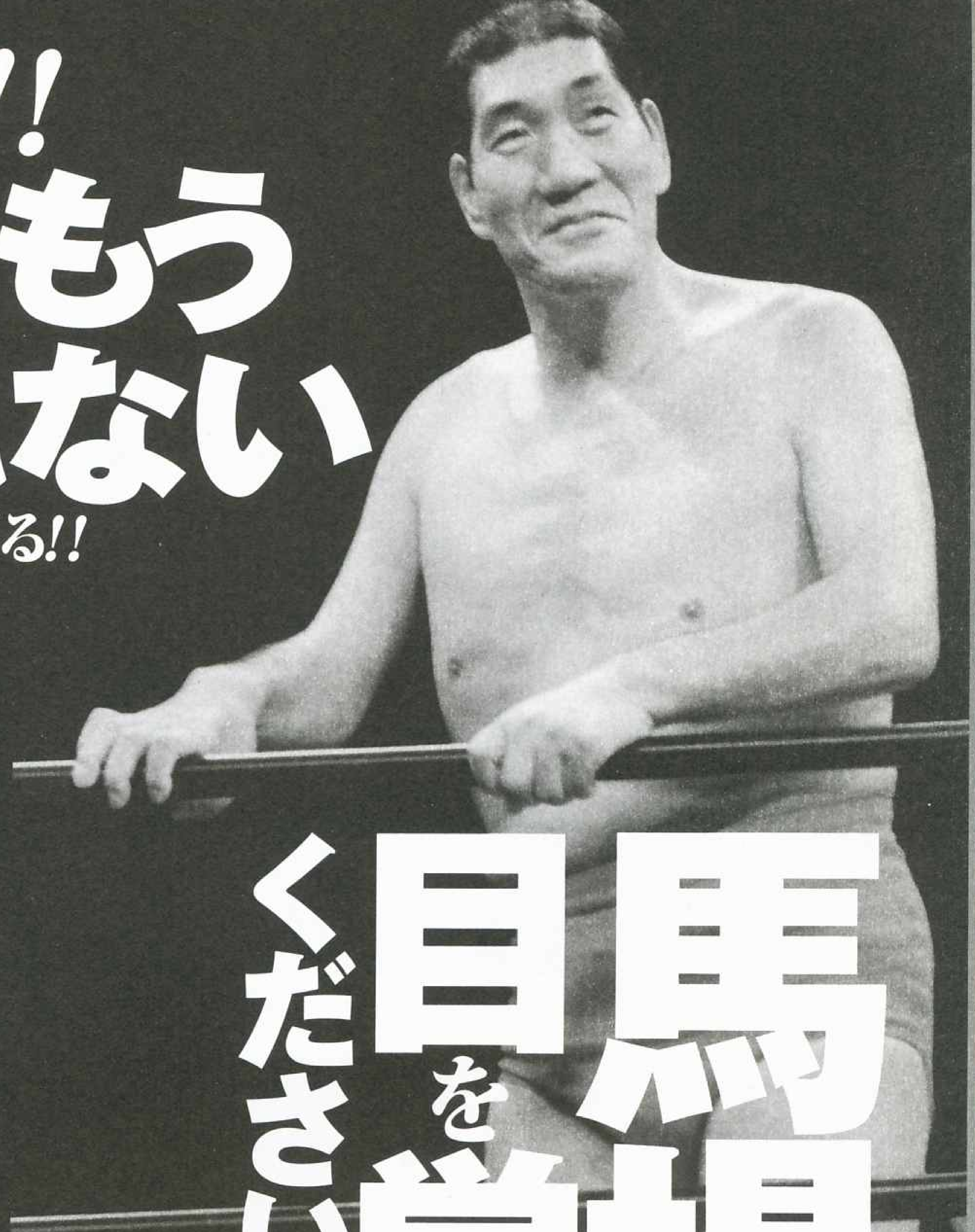


新日本とUFOの選手が乱闘を繰り広げる中、現場の責任者として遂に長州が登場。「それがお前のやり方か」と詰め寄り、怒りの拳を小川の顔面に放つ

●とにかく大仁田と小川をころして猪木を出せ！（みなとよしお・29・男・会社員）
●UFOやバーリトゥードとからまないで欲しい。本当はもう来たくない。（ペドロ遠藤・33・男・団体職員）
●格闘技ルールとか変に関節技、キックとかが新日のレスラーがやるな！　シュートでやった佐野がかわいそうだ！（三上・30・男・会社員）
●G1リーグ戦ふっ活、後藤IWGP・G1・IWGPタッグ・SGすべてゆうしょう、ベルトだっしゅ（木村勇児・14・男・学生）
●早くジリ貧になって欲しい。こんなアホな団体に客が入るのは不健全だ（井上淳一・33・男・シナリオライター）
●他団体をどんどん上げてほしい。（荒川利就・29・男・会社員）
●刺激（矢津洋一・33・男・会社員）
●失望した！　橋本の恥さらし（松下輝・27・男・トレーナー）
●いつまでも夢をあたえてくれるプロレスを見せてくれることに期待します。（松下由彰・30・男・会社員）
●新日・本隊がちゃんとリードしてほしい。（佐藤大彦・23・男・学生）
●橋本にちょっと期待してみたい。IWGPのベルトにからんでほしい。あと、nWo同志の試合もこれから組んでいってほしい。（中沢誠・27・男・建設業）
●もっと熱い試合、けじめがつけられる試合待ってます。（高尾聡・20・男・職人）
●nWoをドームのメインにしてはいけないと思います（荒牧洋介・24・男・会社員）
●プロレスならプロレス、真剣なら真剣はっきりしてほしい（宮本武蔵・30・男・武道家）
●nWoがおこって、大仁田と闘争開始!!（大山茜・16・女・学生）
●長州！　死ね、吉田「ファッキン」光男（阿部猛・26・男・ヒューマン株式会社）
●ちゃんといろいろなことを説明してほしい（大島治久・15・男・学生）
●アレクや大仁田などのフリーの選手をもっと受け入れるべきだと思います（蟹江智子・31・女・主婦）

大ショック!!
16文はもう見られない

信じられない…早すぎる!!
ジャイアント馬場、永眠



馬場さん、目を覚ましてください!!

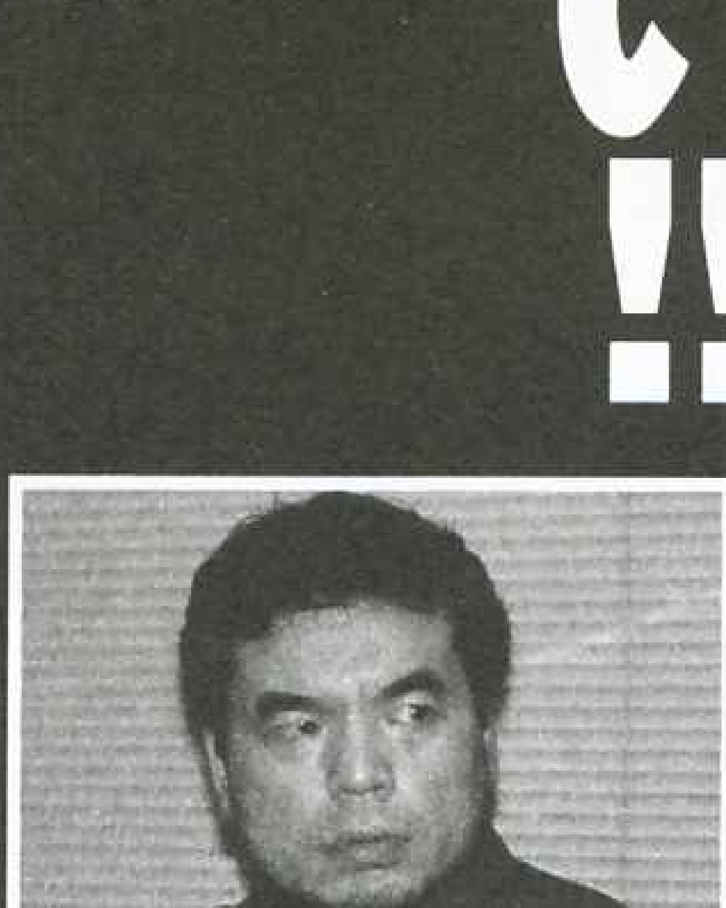
「馬場さんが死んだよ!」。2月1日午後0時頃、某テレビ関係者から編集部に一本の電話が入った。彼は日頃からウソばかりついてる男であった。信じる者など誰もいない。その後各所から「馬場死去」あるいは「誤報」という連絡が次々と入り、シメ切り当日の編集部は大混乱。

ついに「PM５：00、日本テレビで記者会見」との報が入り、本誌取材班は現地に急行。車中、編集部のノブは「ショックだ」を連発するが、この言葉はウソ。日頃、会社で馬場さんの馬の字も口にしないノブが、なんでショックを受けるのか理解できない。偉大な人間の死の報に接する時、バカは無防備になる。取りあえず悲しみ、取りあえず愛していたと言えば許される情況に簡単に身をゆだねることこそ不謹慎だろう。

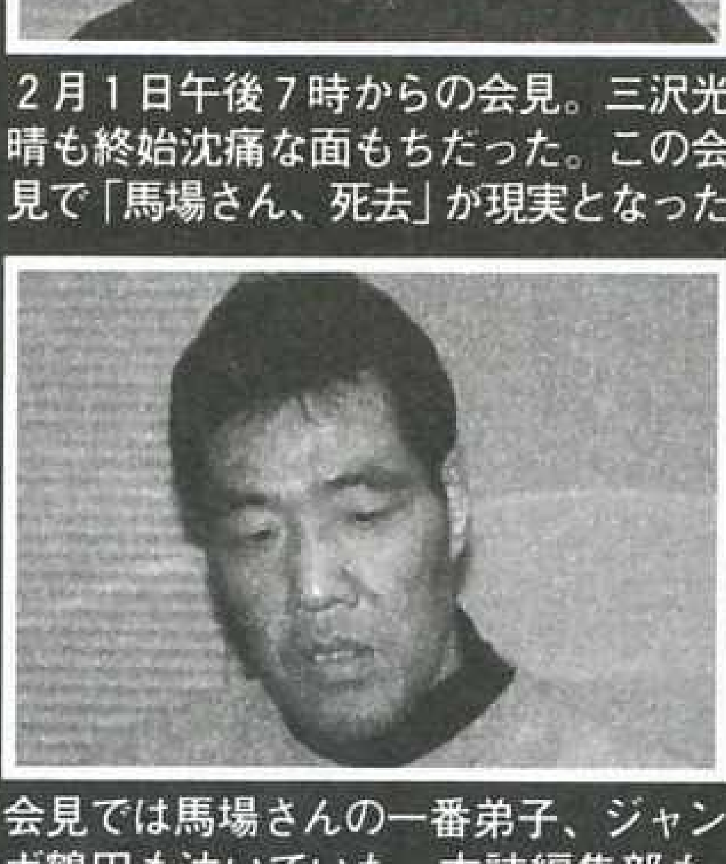
午後５時、日テレに到着するが記者会見などやってない。誤報に踊らされる取材班だが、６時半から全日事務所で記者会見との一報が。だが、事務所側は死亡説を否定。詰め掛けた報道陣は一様にガッカリする。「死んでないって」と社に連絡する報道陣に改めて“人間味があっていいな”との思いを深める。この言葉はノブとは別な意味で不謹慎ではあるが、人間としての一面であることは確か。ただ、このことと「馬場さんを愛してる、愛してない」ということとは別だ。馬場さんは亡くなってもいろんなことを教えてくれる。

そんな中、７時から事務所で再度記者会見が行われることが決定。７時過ぎ、百田、鶴田、三沢の三選手の口から訃報を聞かされる。馬場死去はこの時、真実となった。翌朝、馬場さんの遺体はその巨体を納められる特製の棺が間に合わず、白い布に包まれた形で自宅を出ていくことになった。馬場さんはつい２ヶ月前までリングに立っていた。プロレスラーはデカくて強い。最後の最後までレスラーの凄味を守り切った馬場さんのご冥福をお祈りいたします。

ジャイアント馬場、本名・馬場正平。享年61歳。戒名「顕峰院法正日剛大居士」。



２月１日午後７時からの会見。三沢光晴も終始沈痛な面もちだった。この会見で「馬場さん、死去」が現実となった



会見では馬場さんの一番弟子、ジャンボ鶴田も泣いていた。本誌編集部も、みんな表には出さなかったが泣いていた



昨年5月1日、全日本初の東京ドーム大会。馬場さんはタッグで新崎人生と対決。あの「大馬場コール」は忘れない

日本プロレスOB

吉村道明



日本プロレス時代には、馬場さんと組んでインター・タッグ、アジア・タッグ王座を獲得した名脇役。通称・"火の玉小僧"

馬場クンが死んだのはテレビで知ったんよ。ま、急だったよな。まだ死ぬ歳とちゃうもん。惜しい人間を亡くしたと思うわ。馬場君は、よういままでがんばってくれたわのぉ。

馬場君が入門してきたときの印象はな、なんたって身体があれだけ大きいからね。その割にはスピードがあるなと。でも野球やるタイプではないと思ったなぁ。やっぱりプロレスが一番向いていたんと違うかなぁ。

性格的には人がよくて騙されやすかった。馬場君と猪木君？　どっちもどっちだったな。馬場君も落ちついてるけど暗くはないし、猪木君も明るいしな、どっちが性格的にいいとか悪いとかはないなぁ。

馬場君が自分の本で「俺に良く相談してた」って書いとったって？　相談なんか受けてないよ（笑）。まぁ、よもやま話ばっかりしとったわ。あ、馬場君と芳の里と、あと誰やったっけな？　まぁ、誰かとよく麻雀やったわ。

最後に会ったのはいつやったかな？　俺がプロレスを辞めて25年だからなぁ。辞めてからは一回も会ってないね。プロレス辞めてからはプロレス界の人間とは、ほとんど付き合いがないもんやからね。

いまはテレビもあらへんやろ。やっても夜中やろ？　俺、見たことないもん。会場にも行ってへんしやな、最近のプロレスは全然わからへんよ。

でも、亡くなってみると、懐かしい感じがするな。一緒にアジアタッグチャンピオンにもなったし。最初にそのベルトを獲ったときが一番思い出になってるね。インタータッグ王座も馬場クンと獲ったしな。いいパートナーだったよ。

馬場クン、60歳まで試合してたんかぁ。偉いなぁ。ホンマ偉い。まあ、もうちょっと早ぅやめてもええんちゃうかなあと思うけど、馬場君には馬場君の考えがあるやろうから、そこんところはなんとも言えんわなぁ。

でもな、生涯現役でやるっていう意気込みは偉いと思うわ。

馬場クンには長い間ご苦労さんでしたと、まぁ、その言葉だけやね。（談）

日本プロレスOB

ユセフ・トルコ



力道山時代からの日本プロレス界の生え抜き。のちに名レフェリーに。どちらかというと猪木派と言われているが、心は馬場派

たまたま1月31日の午後に元子さんに電話したんだよ。そうしたら若い人が出て「もうじき退院します」ってね。次の日に「馬場ちゃんが死んだ」って聞いて、すぐに電話したら、「誰がそんなデマ言ってるんですか？　もう家に帰ってきてますよ」って言うんだよ。それなら良かったと思ってさ。そうしたら前日に亡くなってるじゃない。

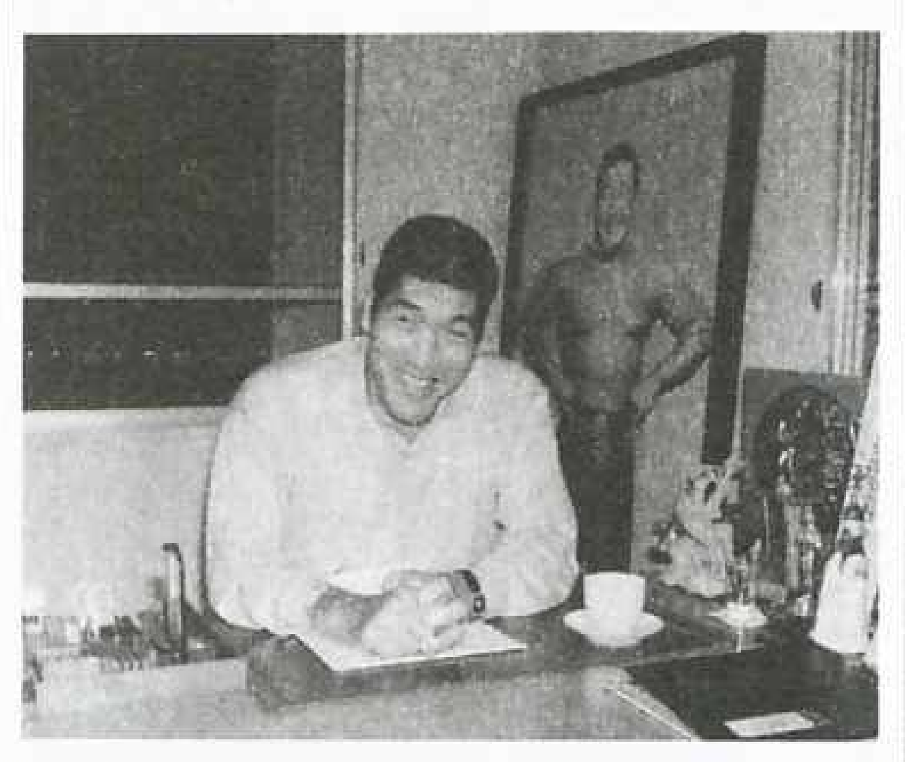
いまだから言うけど、1年前に馬場vs猪木をやろうって話があったんだよ。俺がレフェリーやって、（ラッシャー）木村が解説やって、4人で200歳超えるから、「今世紀最初で最後で最大の200歳プロレス」をやろうと。猪木はOKしたんだよ。それで馬場ちゃんに言ったら「う～ん、猪木は信用できない」って（笑）。だから「俺が責任持ってお前の味方になる。それでその利益を恵まれない子たちに寄付しよう」って言ったんだよ。ボランティアでやれば、馬場ちゃんと猪木の試合もやる意味が出るだろ？　そう言ったら馬場ちゃんがOKしたんだよ。

馬場ちゃんの試合は最高だったなぁ。でもな、正直言って馬場ちゃんの「生涯現役」って気持ちはわかるんだけど、あの歳までリングに上がって欲しくはなかった。あれさえやめてくれればね、最高のジャイアント馬場だったんだよ。

あるとき力道山に「お前、俺の後がま誰にしたい？」って聞かれたんだよ。俺が「ジャイアント馬場！」って言ったら、「俺もそう思う」と。リキさんはそう決めてたんだよ。リキさんが亡くなってからは馬場ちゃんがいい試合やったからプロレスの人気が出たんだよ。だけどその陰で一生懸命馬場ちゃんをサポートしてた吉村道明を忘れちゃいけない。いまごろ天国でそういうことを噛みしめてんじゃないかな？

馬場ちゃん、天国からリキさんとかプロレス界の亡くなった人みんなでね、日本のプロレスが発展していくことを祈ってくれ。そして馬場ちゃん！　いつか俺も天国に行ったら必ずファイトしよう。馬場ちゃん！　俺が死んだら天国で俺と闘おう!!（談）

馬場さん、お疲れさま



真樹道場首席師範

真樹日佐夫



いまさら言うまでもないが、馬場さんをモデルにした傑作、『ジャイアント台風』という劇画を原作した故・梶原一騎の実弟

その昔は、フィクションの上をいくキラ星のごとく輝いたレスラーがいくらでもいたろう。ディック・ザ・ブルーザー・アフィルス、ザ・デストロイヤー、キラー・コワルスキーとかな。馬場さんも間違いなく、その一人だったよ。ウチの兄ちゃんの梶原一騎も彼を主人公に『ジャイアント台風』を書いたけれども、事実を書けば、それで波瀾万丈になるからな。そういう意味では馬場さんは梶原から見ても非常に書きやすかったと思うね。実際、あの本はだいぶ売れたらしいからな（笑）。

彼からは非常に義理堅くて誠実な印象を受けたね。ウチの兄ちゃんが退院した直後に馬場さんが尋ねてくれたって話も聞いてるし。二代目タイガーのときは、馬場さんの方から依頼があって梶原んとこに三沢クンを連れてったんだよな。梶原も「馬場さんが直接来てくれたから感激して二つ返事でOKした」って言ってたよ（笑）。第一回の梶原追悼興行『格闘技の祭典』をやりたいと言ったときにも二つ返事で協力してくれたな。三沢くんに、馬場さん本人も出てくれたんだよ。だから俺にとっても、梶原にとってもいろいろな節目にお世話になった人物なんだよ。

最初に会ったのはウチの兄ちゃんについて、力道山道場に行ったとき……昭和36年ぐらいか。デビュー直後ぐらいに会ってるんだよ。背伸びしなきゃ話が耳にいかねえんだよ。俺だってちっちゃい方じゃねぇけども、俺が背伸びしてさ、彼が身体を傾けて、耳寄せてくれてさ（笑）。力道山先生はすごく馬場さんのこと可愛がってる感じがしたな。後継者にしようと思ってたんだろうな。

最後に会ったのは一昨年だったな。後楽園ホールに会いに行ったのが最後だったな。全盛期に比べればやはり筋肉も落ちてたよ。だけど、リングに上がると全然見違えるんだよな。

国民に夢を与えたっていう意味では彼の右に出る人間はいないだろうな。願わくば国民栄誉賞をあげて欲しいよ。いまごろは力道山先生や梶原に会って旧交を温めてるんじゃないのかな。長い間お疲れさまでした。（談）

日本プロレスOB

北沢幹之



昨年までのリングスのレフェリー。日本プロレス時代には馬場さんの付き人も務めたこともある。日本プロレス界の良心

いや～馬場さんが亡くなったって聞いた時は本当に驚きました。絶句しましたよ……。その日（2/1）は仕事から帰ってきて早く寝てしまったので、次の日にウチの者から聞いて知ったんですけど、本当に一瞬「えっ！…」って固まってしまいましたね。入院してたのは知ってましたが、余りにも突然のことで……まさか亡くなってしまうなんて思ってもいなかったことですから。

ここのところ、芳の里さんも亡くなって、身内でも不幸がありまして、まさか馬場さんまでこういうことになるとは……。本当に最近悪いことばかり続きますよねぇ。

馬場さんと最後にお会いしたのが、『週プロ』の「夢の懸け橋」っていう興行の時なんですけども、あの時は、お互いドタバタしてまして、挨拶程度しかできなかったんですよね。それでまともに会話したのは、もう10年ぐらい前になるんですけど、私が仕事で博多に行ってた時に、ちょうど全日本の興行があって挨拶に行ったんですよ。その時、馬場さんから「何をやるにしても頑張れよ」って声を掛けてもらって、それが最後の会話になりますね。

日プロ時代には、付き人もやらせてもらったこともあって、一言で言うと本当に気の優しい人でしたね。その頃は、よく焼き肉を食べに連れてってもらって、そういうところに行くと馬場さんは私たちの分まで焼いてくれるんですよ。「ドンドン食べろよ」って皿に取ってくれて。そういう思い出もありますね。

プロレスのことだと馬場さんはあまり厳しいところはありませんでしたね。スパーリングも手が合うと思っていてくれたみたいで、よくやらせてもらいましたよ。馬場さんとはどっちかというとやりやすかったですね。

坂口社長が「追悼大会に協力したい」と言ってましたけど、お互いのスタイルは違いますが、とてもいいことだと思うので協力して頑張って欲しいですね。

大仁田選手がコメントしながら涙ぐんでるのを見たんですけど、ホント気持ちが分かりますね。私もなんて言っていいのか……言葉にならないです。（談）

バトラーツレフェリー

島田裕二



バトからも、全日参戦者あり。自らも昨年の東京ドームという大舞台で裁かせていただいた

馬場社長にはうちの池田（大輔）、（モハメド・）ヨネ、（小野）武志と全日のリングに上げていただいて、たいへんお世話になりました。特に池田は一年間も可愛がっていただいて。また、今年も直接お願いできればと思っていたんですけれども。

ボク自身も昨年のドーム大会では夢をもらいました。池田を上げていただくことになりまして。それでドーム大会前の武道館興行に池田と一緒にご挨拶にうかがったんですよ。その時に、「おい、お前もレフェリーやらないか」と言われまして。もう冗談じゃないかなと思いつつも「お願いします」って答えてましたね。それから何日かして、もう一回確認のお電話をご自宅にさせていただいた時に、「頼むよ」と言われて上がることになったんですよ。全日本のリングに、しかもドーム大会でレフェリングさせていただいて光栄ですよ。

ドームが終わったあとも「焼肉、食べに来いよ」って言われて池田と一緒に焼肉をいただいたんですよ。ボクのまわりには全日の選手の皆さんがいて、そして馬場さんがいて。「ああ、自分もプロレス界の住人なんだな」としみじみ思いましたね。至福の時を満喫させていただきました。特上カルビも初めて食べたし（笑）。

「池田はイイ選手だよ」って目を見て話してくれるのは緊張しながらも嬉しかったですね。馬場さんから教わったことはフェース・トゥ・フェースで話すということです。気さくな方でした。

本当に信じられないですね、いまでも。復活して元気なお姿を見られるとばかり思っていたんで残念で、たまりません。心からお悔やみを申し上げます。馬場さんの分までバトラーツは成長しますので、馬場さん、バトラーツも応援してください、天国から。（談）

元『週刊プロレス』編集長

ターザン山本



「俺は猪木だ！」と言いながらも、馬場さんと食事することを生きがいにしていたナイスガイ

ボクは今日、彼女に決別宣言の手紙を出したんだよ。それで「2月1日の今日がオレの元旦だ！」と思ってたんだよ。そう思った一時間後にね、こんなことになるなんてね。

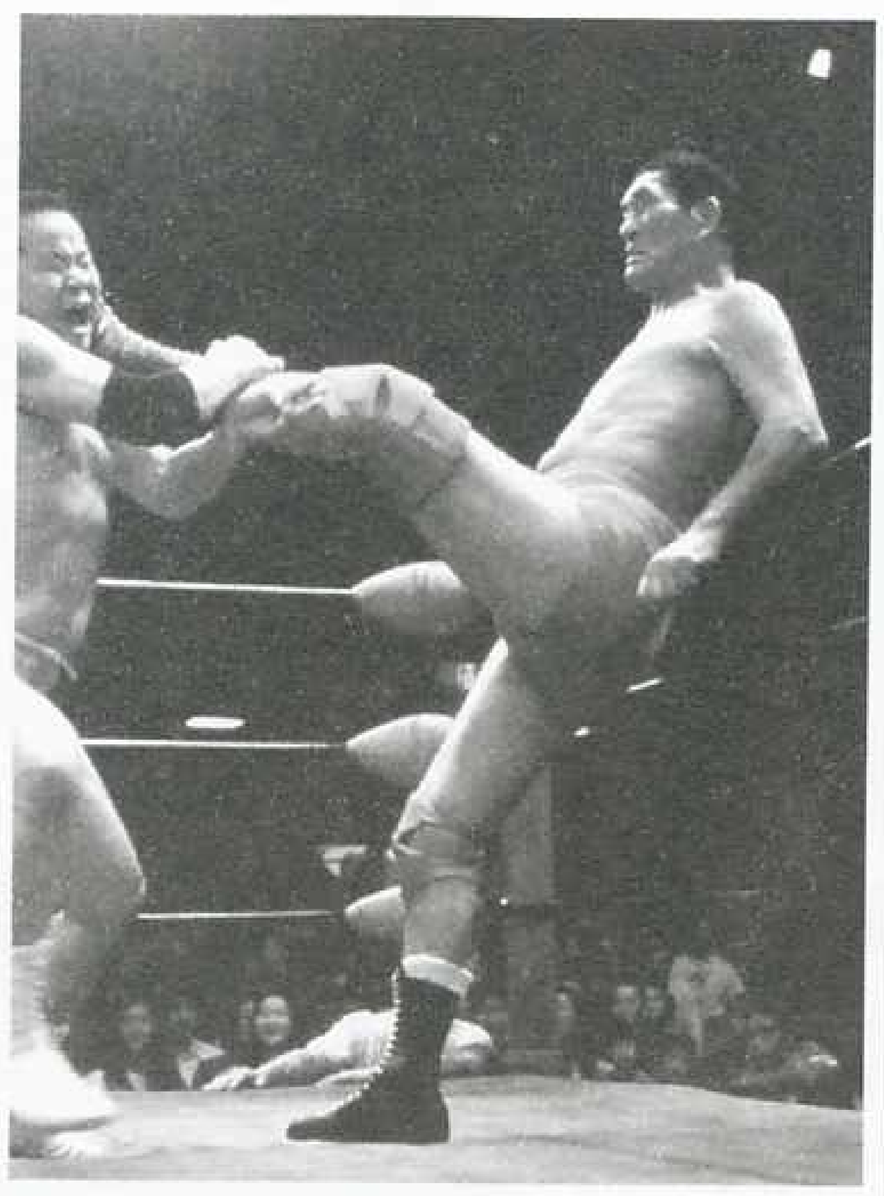
信じたくなかったよ。聞いた瞬間は信じられなかった。オレ、「馬場さんが亡くなった」って聞いたときに一番最初に頭に浮かんだのは元子さんのことだよ。元子さんがどれだけ嘆き悲しんでるか。あれだけ馬場さんのことを愛してた人はいないからね。ボクはこれからは元子さんの力になってあげたいと思った。もう本気でそう思いますよ。

ボクは唯一馬場さんの前でだけは緊張した。ハッキリ言って馬場さんとは電話で話しても5秒で終わるけど、元子さんとは毎日2時間ぐらいしゃべってた。だから元子さんがどれだけ「馬場さんを愛してるか」っていうのをボクは誰よりも知ってるんだよ。

ボクは猪木ファンだったけれども、猪木ファンになればなるほど馬場さんとお付き合いしたいというのがものすごくあった。馬場さんと食事をして話をしたい。そういうサロンの中に入りたいっていう野望があった。猪木ファンであるがゆえに。でも、そこに一度入ってしまったら、運命共同体的にならなきゃいけないんだよ。ボクはそこに入ってしまったから、やがて新日本との取材拒否をくらう道につながって行ったわけよ。

初めて一緒に食事したときは、なにを注文していいか困ったよ。天皇陛下と食事するようなもんだから。それで馬場さんの前でボクと元子さんがいろいろ世間話をするんだよ。それを馬場さんが知らん顔して聞いてるのが一番楽しかった。実は聞いてるんだよ。興味なさそうな顔して（笑）。馬場さんの前で猪木さんの悪口言うのは楽しかった（笑）。ご飯食べさしてもらってるんだから、それぐらいのことはしなくちゃね。だけど、オレはもう、家族だと思ってた。オレは馬場さんのこと父親だと思ってたんだよ。オレがもう少し若かったら馬場さんの養子になりたかったよ。（談）

馬場さん、お疲れさま



本誌編集長

山口日昇

馬場さんは生きている！

いや、生きていなければならない。

どこに――？「みんなの心の中に馬場さんは生きている」などという高尚な次元の話ではなく、本当にボクは馬場さんは生きていると思う。

馬場さんは、ボクが人間でいる限り、生きている。きっとエルビス・プレスリーのように、「馬場さんは生きている」説が何年に1回か出回ることだろう。しかし、デッチ上げとは違うレベルで馬場さんは必ず蘇る。

そういえば、馬場さんが亡くなったのは1月31日の午後4時4分だったという。猪木さんが引退試合を行った日は4月4日だった。

4・4――。

馬場さんは、「プロレスラーがボクサーに負けるわけがない」と言っていた。「殴る、蹴る、投げる。なんでもあるのがプロレスだ」とも言っていた。そして「シューティングを超えたものがプロレスなんだよ」とさえ言いきっている。

その馬場さんのプロレス観は、皮肉にも猪木さんが異種格闘技戦などで実践していくことになった。

猪木さんは、「リングに這いつくばって死んでいくのが俺には似合ってるかもしれない」という生き方を貫いてきた。

だが、意外にもリングに這いつくばるように死んでいったのは、亡くなる2ヶ月前までリングに立ち続けていた馬場さんだったのだ。

馬場イズムと猪木イズムというのは、実は表裏一体。馬場さんは「裏猪木」で、猪木さんは「裏馬場」なのだろう。どちらが神でどちらが悪魔なのか？それはわからない。悪魔こそが神であり、神こそが悪魔かもしれない。

ボクが人間であり続ける限り、『馬場』と『猪木』の2つは必ず存在する。人類にとってもこの2つは絶対に必要なものなのだ。

『馬場』になれる人間は、いまのところ地球上のどこを探しても見当たらない。だとしたら馬場さんは必ず蘇る。

「馬場さん、目を覚ましてください！」――ボクは心の底からそう思う。（筆）

『馬場派プロレス宣言』著者

栃内 良



猪木人気最高潮の頃、ただ一人『馬場派プロレス宣言』を全国に高らかに謳った人情派マイトガイ

「どっかで僕は勘違いしてたな」っていうのがあるんですよ。僕の頭の中では「僕が死ぬまで馬場さんがリングに立ってる」っていう感覚だったんですね。例えば僕が60歳、70歳になって病院の中でテレビをつけると「リングの上にはやっぱり馬場さんが立っているんだろうな」と曖昧に思ってたんですね。いまこういうことになって「ああ、当たり前だよな。馬場さんは僕より年上だし。僕より先に逝っちゃうんだな」っていうのを改めて感じたというか。悲しいとか落ち込む前に「どうしたらいいだろう？」という感じですね。全日のリングにもう馬場さんはいませんよね。でも、どっかで馬場さんの存在を感じてしまうと思うんです。長く馬場さんを見続けた人はみんなそうだと思うんですね。例えば全日が地方の田舎町に行った時に「おぉ、全日来たから見に行こう」っていう60歳、70歳の人っていると思うんですね。そういう人たちが会場で「そうか、馬場はいないんだ。死んじゃったんだな」と気づく。すごく切ないですね。61歳で止まってしまった馬場さんの幻しか見ることのできない切なさ。これはどこか“ふり返ると馬場さんがいた”って感覚とはちょっと違います。自分の体験を馬場さんに投影して考えるのとは違ってきますね。

キリストの死後、キリスト教が大きく広まっていったように、馬場さんが死んで“馬場さんが残したもの”がプロレス界に浸透していってくれればいいな、というのが正直な気持ちです。30年後とかに「うん。プロレスは馬場さんのものでいいよ」ってなる感じだと思うんです。いまはまだうまく言えませんが。

結局、一度も馬場さんには会わなかったんですけど、残念な気持ちはないですね。僕なりに、それは通して良かったなと思ってますから。いまの時点で馬場さんのリング上での感慨深いシーンってなるとハル園田選手の追悼試合の馬場さんの泣いてる背中。その背中が僕の中ではリング上の馬場さんの姿としては一番感慨深いですね。“振り返る唯一の人”を失ってしまいました。途方に暮れているというのが正直な気持ちです。（談）

RADICAL BOLT REVIEW 紙プロ的観戦記


写真提供　ナイタイスポーツ

『WORLD MEGA BATTLE TOURNAMENT 1998 GRAND FINAL』
1/23（日本武道館）
RINGS



極私的ベストバウト

1位　高阪剛vs田村潔司
2位　グルジアvsオランダ
MEGA-BATTLE TOURNAMENT1998決勝戦
3位　坂田亘vs デイブ・フォン・デ・フェーン

第一次リングス閉幕！ 第二次リングスに刮目せよ!!

たった1ヶ月しか経っていないが、今年のマット界は、危険で物騒で不穏な空気が充満している。

そして、リングス。1・23は、田村とTKによるジャパン頂上決戦、金原vsハン等好カードは揃っている上に、カレリンの来場というボーナス・トラックもあったのだ。だが、リングス武道館大会史上最悪の入りという嫌なオマケまで付いてきてしまった。

U系の団体にとっては、いい試合をして集客できるのがベストだろう。だが、たとえ田村vs高阪という切り札的カードでも、「なぜ、闘うのか？」が伝わらなければ、いまの体力のないファンは振り向かない。どうでもいい小さなことに思えるが、実に大きくやっかいなものが「闘いのテーマ」という奴なのだ。

この日は、その「テーマ」的にもボタンの掛け違いが見受けられ、試合内容的にも〝面白いけど何かが足りない状態〟が続いてしまった。大会の進行ミス（これで日明兄さんはブチ切れ、バックステージでの怒鳴り声は2階席にまで達していたという）、レフェリングのミスも目立ち、ヤマケンのフリー宣言という波乱まであった。リングスにも物騒で不穏な空気が流れだした。

生体に溜まった毒素は膿みとなり、やがてデキモノになる。しかしそれも、デキモノを潰して膿みを出し切れば、新しい皮膚ができて生体は蘇生する。最大のピンチは最大のチャンスなり。

この日は第一次リングス閉幕を告げた日、その厳かなる閉幕式が2・21だ、くらいに捉えて、ぜひとも〝見えない〟膿みを出し切り、3・22NK大会を第二次リングスの華々しい開幕式としてほしい。

ズバリ言って、リングスが盛り上がらなければ、マット界は面白くないのである。

（日昇）

『修斗 the Renaxis 1999 DEVILOCK Fighter』
1/15（後楽園ホール）
WORLD SHOOTO



極私的ベストバウト

1位　桜井速人vs アデミール・オリヴェイラ
2位　佐藤ルミナvs チャールズ・テイラー
3位　郷野聡寛vs マルコス・シウバ

劇的なルミナの闘い、刺激的な桜井の闘い

この日のメインはわずか6秒、佐藤ルミナが飛び付き腕十字でチャールズ・テイラーに勝利を収めた。試合後、テイラーのコメントはルミナの華麗さを伝えるものだった。「私の身体をレインボーが駆け抜けていった」である。テイラーが語るには、ルミナが最初に狙ってきたのは左腕であり、それを防御しようとしたら自分の身体の上を飛び越えて右腕に飛び付き、腕ひしぎを極められてしまったというのだ。つまりルミナというレインボーがテイラーの身体を左から右へと架けていったというわけだ。聞いていてゾクゾクした。その数分前に試合を見ていたわけだが、実際にその技を味わった本人から、しかも「私の身体をレインボーが駆け抜けていった」という刺激的な言葉で語られる試合の一部始終はほんの数分前の興奮とは別の新たな醍醐味があった。

だが、数日後『SRS』で流れた試合映像の印象は〝あっさり〟感が強かった。会場の熱さもルミナのカッコよさも伝わっては来なかった。6秒で仕留めたルミナの華麗な闘いという会場での印象から、〝華麗〟の部分が抜け落ち、〝6秒〟の部分が強調された印象だった。編集に問題があるわけではない。要は〝華麗さ〟だけではライブ感を伝え切るには足りないということだ。それとは逆に、34秒とこちらも秒殺で、しかもKO勝利した桜井速人の試合からは闘いの迫力が伝わってきた。

映像という二次的フィルターがかかった時、必要なものは刺激である。刺すような激情である。ルミナの勝利は劇的ではあっても刺激的ではなかったのだ。会場というライブ空間で劇的なるものを伝えることができるルミナである。VTのみならず、TVをも視野に入れた刺激的な闘いを展開していただきたい。

（ブチ）



『DDT大学共通一次試験』

1/15（月島スポーツプラザ）

DDT

極私的ベストバウト

1位　内藤恒仁vsファントム船越

2位　スーパー宇宙パワーvsエキサイティング吉田

3位　覆面刑事vs覆面番長（覆面スケバン刑事）

レスリングの厳しさを教えてあげます（爽やかに）（by内藤）

『紙プロ』は登場するレスラーがいつも一緒！」読者及びにレスラー、関係者から頻繁に頂戴するお言葉である。

確かに言われてみればその通り。マンネリ化しているのは事実である。読者ハガキで行っているアンケートの、「取り上げて欲しい団体」という項目でも、全日本、新日本のメジャー団体、二瓶組などのインディー団体を取り上げてくれという声が非常に多い。そりゃできることなら、ガン、多聞、それに木戸、野上（復帰間近？）の話は聞きたいが、今のボクにはちっと、どうすることもできない問題。ボクにできることは、「小さいとこからこつこつ」と、ただごとじゃない団体、選手を探し出すこと。

ということで、この日の「DDT大学共通一次試験」。なんでも得点上位者はリング上で表彰されるということで、久々の答案用紙を前にして緊張感を楽しみながら真剣に試験問題に取り組んだ。「DDT問題なら楽勝！」とリング上でのリアクションを考えながら表彰を待っていたが待てど暮らせど呼ばれはしない。まあそんなもんである。ちなみに「DDTに登場した女子マネージャーを全員答えなさい」という試験問題があったが、ボクは自信を持って「ダイアナ、ナオミ・スーザン、ジャイ子」と書いたが、解答を見ると×！　正解は「ダイアナ、ナオミ・スーザン」というものだった。エエッ！　DDTの記録からジャイ子は抹殺!?　まあジャイ子は女子じゃないから納得！　ノー問題！

興行の度に選手の成長が見受けられ、更に他団体では真似ができない企画物でも楽しめるのがDDT。バカらしさも面白さ！

ボクから皆様にお薦めしたいのが、DDT、キャプチャー、SPWF……そして世界のプロレスである（未観戦）。（ちょろ）



『ルチャの国から'98―99～未来と闘え～』

1/13（後楽園ホール）

みちのくプロレス

極私的ベストバウト

1位　SASUKEのマイクアピール

2位　SASUKE&サスケ・ザ・グレート&小野武志vsグラン浜田&サスケ・ティガ&4代目タイガーマスク

3位　SMレボリューションvsリレー少年

今日はありがとう。SASUKE、いい夢見ろよ！

みちのく出身のボクにとって、ザ・グレート・サスケは世界に誇れるスーパースターなのである。何をやっても許される！

「サスケがリムジンを乗り回すようになってから、みちプロはおかしくなった」等と言う奴がいるが、くっだらない！

「よくリムジンが槍玉に挙げられるけど、あのぐらいのことしないとダメだよな。ファンに夢を与えなきゃ。そういう見えるところは派手に金を掛けるっていうのがオレのポリシー」とSASUKEは『紙プロR・NO12』で言っているが、全くその通り。

ボクも盛岡に住んでいたことがあるが、街中でリムジンなんか見た憶えがない。そんなとこにマスクを被ったレスラーがリムジンに乗って通りかかったら「ウワーッ！　スッゲー！　オレも乗りてー！　マスクも被りてー！」ってチビッコにも、夢を与えられる。それで興味を持って会場に足を運ぶ。谷津親分風に言えば「デカくて千円！　場外乱闘で千円！」さらにリムジンで千円！

雑誌、ネット上でのサスケ組の評判は決してよくはなかったが、ファンの為、選手の為、そして他の誰よりもみちプロの為を思って行動をしているのが、SASUKE社長なのである。デルフィンの離脱宣言に対してSASUKEがリング上から、事情説明を求めると、客席からは嵐のようなSASUKEコールが巻き起こった。コールの送り主たちはそれを理解している人達なのだろう。

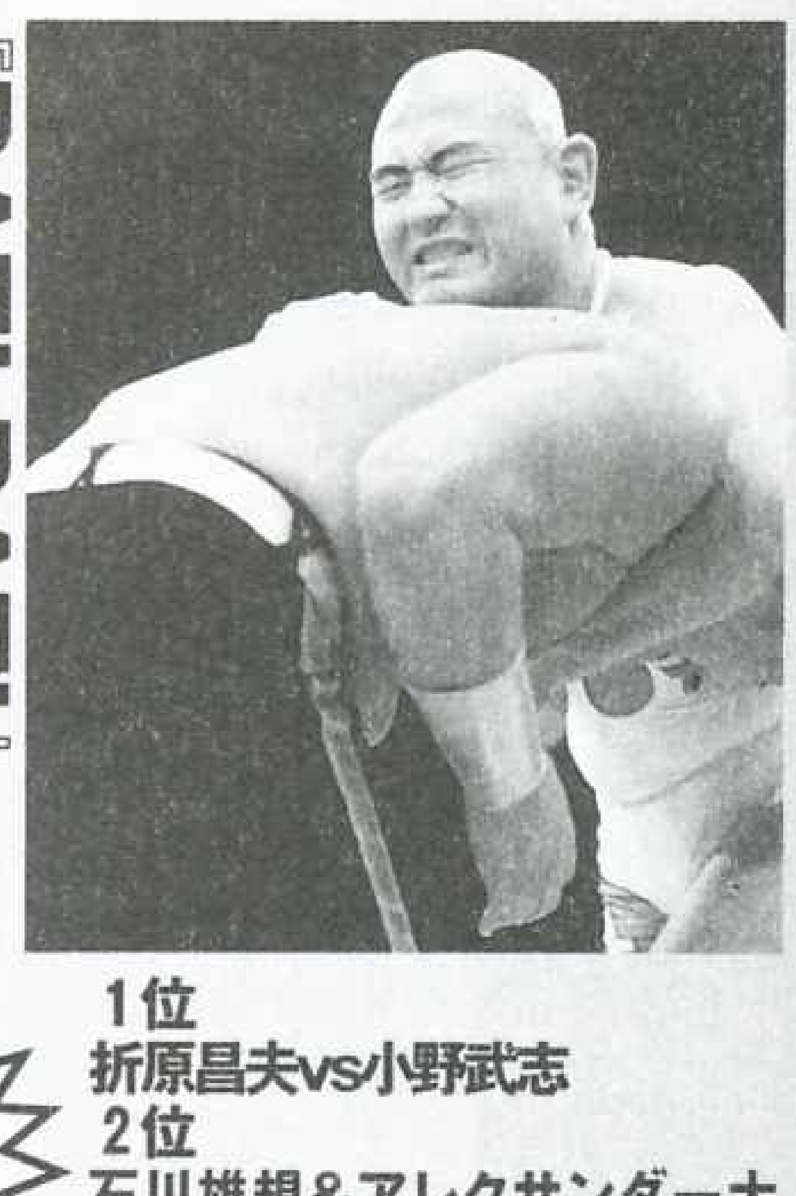
「今日はありがとう。みんな、いい夢見ろよ！」とリング上から新年の挨拶を行ったSASUKEであるが、SASUKEファンが言いたいことは「SASUKE、お前こそ、いい夢見ろよ！」この一言に尽きる。ボクも、現在は遠く離れているが、心はいつもみちのくにあり！

（チョロ=サスケ組）

『BATI BATI』

1/12（後楽園ホール）

格闘探偵団バトラーツ



極私的ベストバウト

1位　折原昌夫vs小野武志

2位　石川雄規&アレクサンダー大塚vs池田大輔&モハメド・ヨネ

3位　臼田勝美vs望月成晃

原点回帰、略して元気？それとも限界？

後楽園ホールでは回を重ねる毎に盛り上がりの最大レベルが上昇し続けるバトラーツ。この日は両国での男祭りを経て原点回帰すべくメインにバチバチ・タッグを用意したのだが、果たして島田レフェリーの言う通り「原点回帰、略して元気！」となるのか？　それともどこかのバカの言う通り「略して限界！」となるのか？

しかしボクが見る限り、悪い意味で両国を引きずった空間がそこにはあった。お笑いで例えると、まるで観客があらかじめ笑う準備をしているような状態というか。要するに「●●やれ！」という声援があれば選手が期待通りに技を出してみせるし、観客は無邪気に大喜びしたりする。それがどうも気になった次第なのだ。

思えば浅草キッドもかつて「バトラーツは明るく、強く、正しい、清い世界になっている」と指摘していたものだが、確かにここまで観客が優しい団体も珍しい。猪木が「野次を規制するのはよくない」と語っていたように、松永が参戦したときのような野次の飛び交う無闇な熱さと刺激が、ボクには忘れられないのである。

そんな中、トンパチ・マシンガンズ対決が息の合う者同士にしかできないベタベタのこなれたプロレスで異常なまでの盛り上がりになったり、南条vs田中がそんな空間すら見事に冷え込ませたりしてみせたわけだが、結局のところ原点回帰とは何だったのか？

それは初期とは微妙に違うプロレス的なバチバチを見せつけたメインで、アレクがボコボコにされるということだったようだ。

さんざんボコボコにされた後、何を言いたいのか会場に伝わらない人生への挑戦表明を泣きながら不器用に繰り返すアレクに対し、野次を飛ばすどころか温かく見守る観客たち。いい意味で両国やマルコ戦を引きずった空間が、そこにはあった。……のか？　（豪）

嫌いあってる者同士を当てれば いちばん面白いんだよね（by松永会長）

女子プロレスにおける派閥は、選手に対してどこまで影響力を持っているのか？　単純だが、ハッキリ言って踏み込むのは相当難しい世界である。昨年8月に開催された女子プロレスOG戦などは、「派閥のゴタゴタで出場選手についてかなり揉めた」という話も聞いた。上下関係は引退してもついて回るものらしい。

派閥という視点で見ると、ジャガーの引退と時を同じくして始まった、長与と飛鳥の抗争は何かが起こるのを期待してしまう。ジャガー派の飛鳥と、デビル派の長与という対立も消えていくのか？　残るのか？　犬猿の仲だったクラッシュ対決は見モノだ。

そもそも、長与と飛鳥の長い間の冷戦関係を作り上げてきたのは「長与と飛鳥を並べるな」という暗黙の了解だ。筆者もある人から一度言われたことがあった。ある人とはいっても、普通に考えれば長与サイドか飛鳥サイドのどちらかでしかないんだけど。いまとなってはノー問題なんだろうが、2年前には真顔でそんなことを言われた。誰が言い出しっぺか知らないが、そんな大人のケンカをやってるから、リング上ではかわりばえしない風景が何年も続いて、女子プロレスは果てしなく熱を失ってきたのだろう。単純に子供のケンカの方が面白いに決まってる。

以前、「ホントに嫌いあってる者同士ぶつけちまえば面白いプロレスになる」と松永会長が語っていたことがある。ケンカするリングはあるんだから、そこで全部ぶつけてしまえ！　という極めて原始的な方法だ。しかし、「アングル」という単語が、専門誌やパソ通で氾濫する時代にこそ、必要な方法であろう。

だから、この日は全女とネオの試合がいちばん面白かったのだ。

（ノブ）



『TOGETHER'98』
12/26（有明コロシアム）
Jd'

極私的ベストバウト
1位　井上京子&三田英津子&下田美馬vs堀田祐美子&豊田真奈美&井上貴子
2位　1位の試合後の大乱闘
3位　ジャガーの引退セレモニーでのマイク「ジャガー横田は皆さんに夢と勇気を与えられたのでしょうか？」

地下プロレスに見た『喧嘩プロレス』の意地

ある日、二瓶組長がジャイ子に言った。「オレ、今度アレ、地下室マッチってぇのに出るんだよ。アレ、喧嘩みてぇなヤツだろ？　ああいうのならオレ得意なんだよなぁ」そのことばを待ってたよ、組長。ジャイ子はそういう組長を見たかったの。

本誌・山口日昇は「プロ（人前に出る人）は恥かかないとダメ」とよく言います。恥をかく覚悟を決めること、恥をかいても乗り越えるハートの力をつけること、同じ恥をかかないこと、と解釈してるんだけど、あってるかなぁ？　ま、強くなれってことだね。

適当に意地張ってると恥かいたときに潰れちゃうからね。覚悟を決めて意地を張るのよ、意地。意地を維持できるか！　な～んてダジャレなんか言っちゃったりして。グフフ。ジャイ子、いっつも潰されてま～す。

というわけで二瓶組長はキャプチャーのマットで『喧嘩プロレス』をどう体現してくれるのか、ってジャイ子、キャプチャー初めてだったんだけどね。いいじゃん、そんなこと。

当日になってカード変更があり、組長vsタノムサクの同門対決に。組長は顔面を突き出してタノムサクのパンチを誘い、タノムサクも全く躊躇しないでボコボコ入れる。誘ったくせに怒った組長はタノムサクを場外（フェンスの20センチ先は客席）へ落としてタノムサクがまたキレる、という素晴らしい攻防の展開（？）。

キャプチャーの方向性とは違うんだろうけど、この試合に関しては二瓶組が『喧嘩プロレス』の意地を見せてくれました。

余談ですが、自分の目の前、数センチのところにガンガン飛んでくる選手を見てなにかに似てると思ったら、花やしきのジェットコースターに乗ったときの感じだったよ。

（ジャイ子）



『CHIKASHITSU MATCH VOL.6』
12/22（新宿ACBホール）
CAPTURE

極私的ベストバウト
1位　二瓶一将 vsタノムサク鳥羽
2位　北原光騎 vs中村和信
3位　小坪弘良 vs河野圭一

理想の裂目から生身がのぞき始めたパンクラスへの期待

フラストレーションを解消するにはどこかにそれをぶつける以外にない。興行面で思いのほか苦戦するパンクラスは確実にフラストレーションを溜め込んでいる。そしてだからこそ、今年のパンクラスは面白くなるであろう大きな可能性がある。昨年12月14日のノールール系に初進出した興行はフラストレーションがさまざまな場面で噴出した注目すべきものだった。

ルールが整備された昨今のNHBの試合は桜庭和志vsカーロス・ニュートン戦に代表されるように、凄さとうまさを見せることができる闘いであることがファンの間で認識され始めている。アレクサンダー大塚や、高田延彦の闘いにおいても落胆と歓喜のダイナミックな振り幅を見せつけた。つまり面白く見ること、見せることが可能であることを証明したわけだ。そんな中で、観客がパンクラスのノールールに望んでいたのはただ勝つのではなく、パンクラス独自の高い技術を見せつけて勝ってくれることだろう。だが、その部分については観客は満足しなかった。試合後、技術的にどうのこうのと不満をもらすパンクラス・ファンが多かったのはそういうことだろう。しかし、膠着&時間切れに終わったメインのタイトルマッチよりも確実に歓声はあった。

新しいものに手を染めればどこかが確実に破綻する。船木言うところの外道の試合に対して凄味を見せつけられない本道の試合。そして3連敗中だった渡部謙吾がスター扱いされる壊れかけた実力主義。破綻しかかった理想、理念の裂目から本音と生身が見え隠れし始めたパンクラスは面白くなること間違いなしだろう。これは決して嫌味ではない。本道とか外道とかの区別ではなく、本能のままに行動してほしい。

（ブチ）

『AVDANCE TOUR KING OF PANCRSE TITLE MATCH』
12/19（東京ベイNKホール）
PANCRASE



極私的ベストバウト
1位　躊躇なく相手の後頭部にヒジを落とす船木の冷徹さ
2位　渡部謙吾vsジョン・ローバー
3位　ジェイソン・デルシアvs山田学

n(マット界)ちょうの出来事!



「『紙プロ』No15の発売日はいつですか?」No14で次号の発売日が1月下旬!となっていたので、連日連夜問い合わせが殺到(いやこれホント!)。…オイオイオイまた電話かよ!「馬場さんが亡くなったって本当ですか」(即座に)「はい!次は2月10日発売です!」「はぁ…、楽しみにしてますぅ…」(実話)。…馬場さん、心よりご冥福をお祈り致します。ジャイジャイアント(合掌)

1999.1.8~2.1

1月8日『格闘技通信』NO.222

■99格闘家写真名鑑ネタ1
●ヒクソンの戦歴は「約410戦無敗」。
■'99格闘家写真名鑑ネタ2
●小路晃の好きな有名人は「TVで見るほとんどの若い女性の方々」だという。ちっとちっと、俺と一緒だ。
■'99格闘家写真名鑑ネタ3
●菊田早苗の抱負は「98年は不調だった。99年は勝ちまくる(暴言は控えめに)」とのことだ。ボクがやったインタビューのこと? 控えなくてもいいけど「『紙プロ』が勝手に作った」は暴言。『紙プロ』は勝手に作ってません!

1月14日『東京スポーツ』1月15日付

■新日本プロレス契約更改。「UFOの総帥、アントニオ猪木からスカウトの手が伸びていたケンドー・カシンは『保留だ。これからUFOの事務所へ行く!』と言い残して新日プロ事務所を後にしたため報道陣は騒然としたが、同じく猪木から誘われていた藤田和之とともに、しっかり契約書にサインしていた」という。『週プロ』選手名鑑での好きな有名人は「太田章」との回答といい、カシン最高。

1月22日『高田道場』

■高田道場新入団選手発表会見●高田道場に日体大レスリング部総合主将・今村雄介の入団が発表された。今村はプロのリングには上がらず、アマチュアとしてシドニー五輪でのメダルを目指していくということだ。身長166cm、95kg。国民体育大会少年の部2年連続優勝、全国学生選手権2年連続優勝、内閣総理大臣杯2年連続優勝など優勝歴は数知れず、しかもレスリングの本場、群馬出身というから期待できるだろう。なっ!

1月23日『ゴング格闘技』NO.83

■格闘家100人インタビュー
●菊田早苗は(昨年はプロレスラーはロクな死に方しない、と発言したのが話題になりましたね)という質問に対して「何も言ってないですよ、そこに出た選手のことについては。それは書いてもらいたいんですけど」ボクがやったインタビューのことだ。確かに配慮に欠けた部分もあったかもしれませんが、原稿チェックしましたよね、菊田さん。

1月30日【世界のプロレス】

■福岡・小倉北体育館/『世界のプロレス』は外人を主体に"何が起きてもおかしくないプロレス"をモットーにしている、注目の団体である。団体名だけでも素晴らしいというのに、シリーズ名も『黒船襲来!!』というからイカしてる。マスコミ的には、コーラ・キッド&ペプシ・ボーイが話題(著作権問題も含め)となっているが、やっぱり『KKK(コリアン・キラー・ケッシャ)』だろう。平成維震軍の『KKK(コシナカ・キムケン・コバクニ)』と比べたら数段落ちるが、どうしてどうしてなかなか評判がよい。見たことないけど。
しかしホントの意味での黒船は、やはり青柳館長であろう。この日の試合後、青柳館長はマイクを持つと「彰俊ィー、何で新日本をヤメるんだぁーッ! どうしてもヤメるんなら俺に勝ってからにしろーッ!」とアピール。なんだかよくわからないアピールではあるが、青柳館長のマイクで、斉藤彰俊が新日をヤメたのを知ったファンも何十人かはいることだろう。青柳館長の「打倒プロレス!」の旅はまだまだ続く、どこまでも。



1998.12.17

【リングの魂】テレビ朝日■『リングの魂』の企画で行われた「第1回格闘家アームレスリング大会」。ブッチギリの優勝を飾ったのは、山ちゃん、安生、決勝で、新日本プロレスが誇るパワーファイター中西学を秒殺で破ったエンセン井上。バックステージで、安生(無所属・新)、そして巨乳エスコートギャルと共に記念写真。



1998.12.19

【パンクラス】NKホール■この日の注目人物は、謙吾vsローバー戦後にリングに珍入した豹ガラ男。何事もなかったようにリングを徘徊するこの男(目が飛んでるやん)であったが、とうとう捕まってしまった。ノールールの影響がこんなところにも!



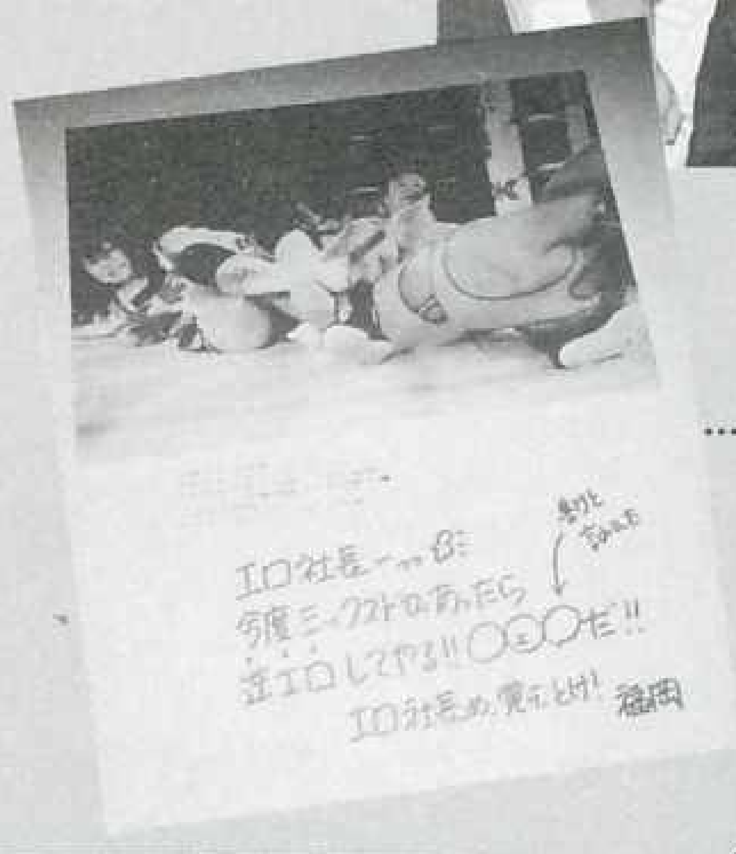
1998.12.25

【BATTLARTS】TFMホール■この日、マスコミ各社からの選手表彰&クリプレが行われ、本誌GK(ジャイアント・キティラー)ことジャイ子から、池田の大ちゃんにキティーちゃんグッズ詰め合わせセットが贈られた。ジャイジャイ。



1999.1.23

【RINGS】日本武道館■ケガのため田村との対戦をキャンセルしたフランク。金髪のガールフレンドと高阪と3人で『格通』を見ながら、なにやら大爆笑。やっぱり「ゴリヘラ」かなぁ。



1999.1.25

【JWP】石川社長に対し逆セクハラ宣言をしていた福岡だったが上野JWPホールでの記者会見で突然の結婚引退が発表された。楽しみにしていた福岡の○ェ○は結局見ることができないのか。ちっと残念!



挑戦状
ジャイ子殿



1999.2.1

【ブルータス】■426号/今回の特集は「プロレスは死なない!?」と題して、あの鉄人テーズに様々な団体の試合を評してもらうというもの。もう鉄人は言いたい放題! 橋本vs天龍戦は「タフマンコンテストじゃないんだから」。三沢vs小橋は「関節技をキメられてる時に、タイツを上げてる余裕はないだろう、三沢クン」。高田vsヒクソン戦にいたっては「フーリッシュ(馬鹿げてる)!」。しまいには「レスラーはみんな私のことが嫌いだった」という衝撃の告白! ちっとちっとお薦めです。

そしてテーズといえば、切っても切れない関係の男がいる。そう、悲しき天才セッド・ジニアスである。そのジニアスから『紙プロ』に対して挑戦状が届いた! ジニアスからご指名を受けたのはジャイ子! なんでもジャイジャイ日記のあまりのつまらなさに憤慨したジニアスは、ジニアス日記との対戦を要求してきたのだ。読者の判定の結果、ジニアスが勝ったら、ジャイ子の誌上ヘアヌードを要求するという暴挙に出たのだ。「大体アンタは負けたら何やんのよ!(byジャイ子)」勝手にやれ!

チョロぷれ



小坪弘良提供 つぼバカ一代――2名

唐突に始まりました、ちょうの出来事!人気獲得大作戦。その名も『チョロぷれ』。ドイツもコイツもオランダも口を開けば「金、金、金、金、言いやがってよぉ!(byオーちゃん)」っていうことで、プロは金!アマは女!
なんだかよくわかんないけど、第1回目のゲストは、1・12キャプチャー北沢大会へ出場した小坪弘良選手。試合終了後、帰宅途中の小坪選手から強引にチョロぷれをゲット。ありがとうツボ!(応募方法は読プレと一緒!)



そもそ
秋の全女
は、分裂
ャラの遅
らなかっ
徐々に明
その内



新宿の地下室で見る者を引かせるほどの激しい闘いが繰り広げられている.

CAPTURE を探れ!



你好(ニーハオ)

北原光騎

師弟同時インタビュー

(キャプチャー インターナショナル)

君は地下室マッチを見たか! 現在の総合格闘技界における修斗の大躍進っぷりは先刻承知であろう。シューティング創始者佐山聡のもと、初期修斗を支えていた一人が北原光騎である。その後、プロレス界へ進むこととなる北原だったが、総合格闘技への情熱は冷めることはなかった。そんな北原が夢であり理想を追い求め設立したのが、総合格闘技ジムCAPTUREである。そして、そのCAPTUREで、師範代を務めると同時に「CAPTUREとは何であるか」を体現している男がいる。その男の名は、ニーハオ。CAPTUREの地下室マッチとは、観客をひかせるほどの殴り合い、蹴り合い、極め合いが当たり前の様に行われる、100人ちっとの為の限定空間。君も地下室を探れ! そして体感せよ!

聞き手&撮影/チョロ(サスケ組)
interview & photographs by Choro



マット界 のちょうの出来事!

「『紙プロ』No15の発売日はいつですか?」No14で次号の発売日が1月下旬!となっていたので、連日連夜問い合わせが殺到(いやこれホント!)。…オイオイオイまた電話かよ!「馬場さんが亡くなったって本当ですか」(即座に)「はい!次は2月10日発売です!」「はぁ…、楽しみにしてますぅ…」(実話)。…馬場さ

――北原さんの昔の記事を見てて面白いなと思ったのが、北原さんは「職業はプロレスラーで趣味は格闘技」って言ってるんですよ。

北原 ジャンボ鶴田が一回それを言ったんだよね。「職業はプロレスラーです」って。俺その時アッタマきたんだよね。

――鶴田さんは「全日本プロレスに就職します」って言って入りましたからね。

北原 そうそう。あれ聞いてアッタマきて、「鶴田さんは自分がやってることを誇りに思ってないのか!」ってそういうふうにとったんですよ。……でもね、今はわかる!

――わかりましたか(笑)。冬木(弘道)さんなんかもプロレスは仕事だって言い切ってますよね。

北原 逆にそういうふうに言わなきゃいけない時代になってきたのかなって感じはしますね。

――まあSWSの時もそうでしたけど、プロは金だって言うと、叩かれるっていう変な風潮があったじゃないですか。実際プロは金だと思うんですよ。

北原 ホント金ですよ。だってハッキリ言って生命保険に入るのだってねぇ、「プロレスラー」は何級だよ、アレ? 一番下のクラスだよな。結局プロとしてやっていくんだったら綺麗事じゃなくて、金にこだわるのは当たり前の話なんだよな。

――もっともです。そういえば全日でレガースを付けたのって北原さんが最初でしたよね?

北原 馬場さんに聞いたら(馬場さんのモノマネで)「何だ、それ?」って言われて、「スネにはめるんですよ」って言ったら「履けよ!」って。あの当時は先輩にスピンキックをバーンと蹴ったらアゴがずれたとか、も〜う試合が終わった後ドヤされましたよ。「選手はケガさせると失格だ!」ってよく言われましたねぇ。

――全日の破壊王だったと(笑)。

北原 俺はその頃は、それは違うなあって思ってましたもんね。今はね、やっぱり興行的なことを考えれば、そうだなぁって思いますけどね。でもね、俺はプロレス界に入って一番のジレンマっていうのは、なんでそういうふうなことやっちゃいけないのかなぁっていう部分。だって自分が持ってるモノでしょ。「それをなんで出しちゃいけないの?」「出る杭は打たれるってことなの?」っていう感覚ですよ。だから俺はそれで自分のチャンスというのをプロレスでは逃したと思ってますよ。こうやって言うのはおかしいかもしれないけど、自分自身、自分が光ってた時をそういうことに費やすことが出来なかったっていうことをすごく今後悔してるね。あの時、プロレス辞めようかなぁって思ったもんね。

――それはいくつぐらいの時ですか?

北原 23の時ですよ。絶対俺は負けないぞっていう自信があったしね。別にその頃は負けたってそれは自分の次のステップになるっていう、前向きな考えも凄くあったんですよ。……だからウチにニーハオが入ってきて、今27?

ニーハオ はい、27です。

北原 もうそろそろ終わりますよ。

――ガクッ! 27で終わっちゃうんですか? それじゃあボクも終わりだ(笑)。それは体力的にですか?

北原 そう。だからその前に自分の持ってるモノをね、どんどんアピールして、俺はそういうのをストップさせないから、自分の持ってるモノを自分自身で光らせる。俺はWARにいたけど、でもそういう格闘技団体とかとの横のつながりは持ってるから。別に北原光騎をステップにしてさぁ、コイツ(ニーハオ)が上がっていってもいいしね。ただそれでコイツらが答えを出せなかったら、即辞めさせる。この世界から足を洗わせる!

――厳しいこと言いますねぇ。

北原 だからこっちもそれだけのモノは用意しますから、後は自分でチャンスを掴めってことだよね。結局、自分のチャンスを掴むのは自分自身じゃないですか?

――そうですよね。

北原 ……俺はハッキリ言ってそれに対しては自分自身は恵まれてなかったなぁっていうのがありますよ。

――やっぱりプロ入り前にアマチュアで実績があったり、ある程度格闘技とかをやられていた方っていうのは、谷津(嘉章)選手であったり、桜庭(和志)選手にしてもそうですけど、プロレスは難しいって言いますからね。

北原 谷津さんなんかが、プロレスを難しいと思ってるんだったら、それこそ違う方向に行けばいいと思うんですよ。今だったらバーリ・トゥードとかね。でも谷津さんも、そろそろ勝負するって言ってたからね。

――今年は勝負するって言ってましたね。

北原 当然谷津さんが勝負するって言うんだったら、ウチはもう微力でもどんどんバックアップしてくよ。谷津さんの強さって俺はわかってるから。でもこの世界はそういうこと言うとね、「何だよ、天龍と谷津を天秤に賭けやがってよ」って言うヤツがいるんですよ。そういう次元の低いレベルの話はホント嫌なんだよね。みんな、「北原さん北原さん」って言ってくれるけどさぁ、こればっかりは後ろ向いたら(中指を立てて)こうやってる世界だからさぁ(笑)。

――アハハハハ! 後ろを向いたらファックユー(笑)。

北原 ホントそういう世界だよ。……でもね、いろんな人見てきたけど、格闘技から来た人でホントの意味でプロレスのトップを取った人ってあんまりいないですよね?

――ん〜、確かにトップって言ったら、長州さんとかぐらいですかね。

北原 だからやっぱり違うものでしょうね。みんな「プロレスは格闘技だ」とは言ってるけど、まあ確かに格闘技だとは思うけど、プロレスは……チョット違うよね。

――北原さんは、そういったジレンマを感じながらプロレスをやってきたと思うんですけど、いつ頃からキャプチャーみたいな総合格闘技のジムを作ろうと思ってたんですか?

北原 プロレスラーになった当時から頭にありましたね。できればもっと早く出したかったですけどね。でも俺はプロレスラーだから、例えば世間の人は「なんで北原はそういうのやってるの?」ってピンと来ないでしょうね。

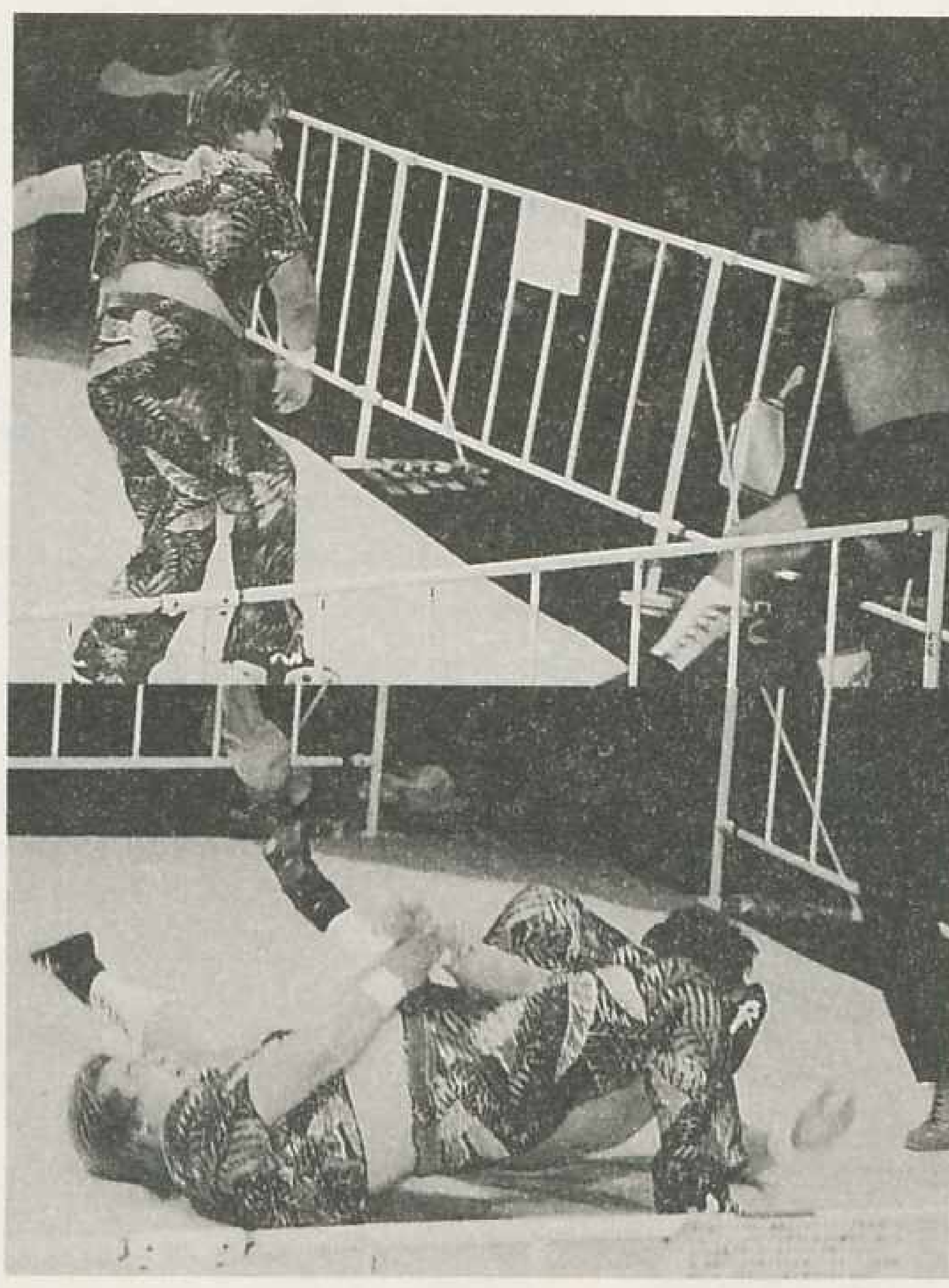
――北原さんの格闘技への思い入れを知らない人も多いんでしょうね。

北原 だからウチのやってることが全部プロレスに見られたりね。じゃあ逆にね、俺がやってるキャプチャーなんかが、プロレスの足を引っ張ってるっていうのであれば、俺はいつでもプロレス辞めるよ!

――そういった見られ方をするんだったら、プロレスを辞める覚悟もあるということですね。

北原 なんっともないからね、俺は。だからって俺はプロレスを手を抜いてやってるとも思ってないしね。

――プロレスファンでも格闘技ファンでも、プロレスと格闘技を区別して見てるところがありますからね。マ

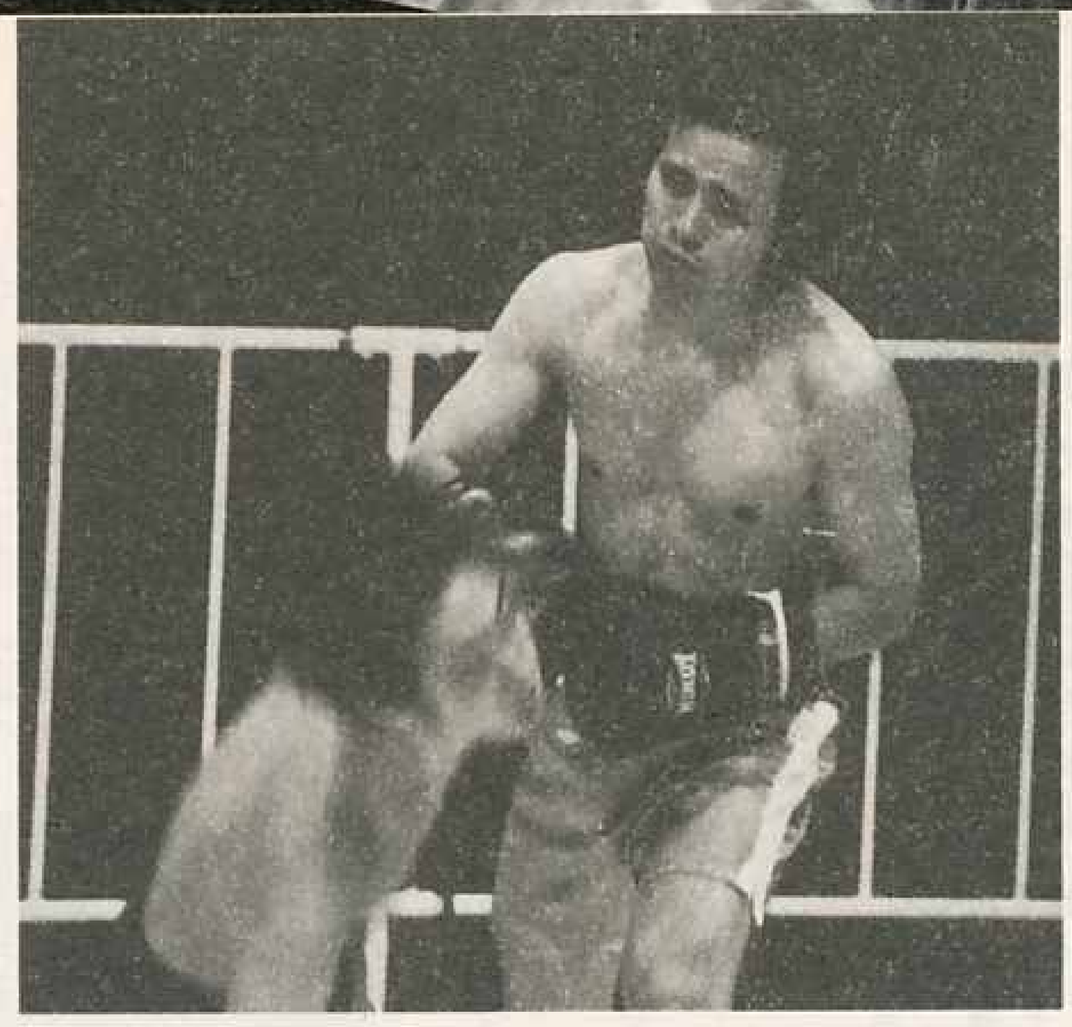




キャプチャー地上初進出の1・12北沢大会は、ロックとの合同興行となった。この日の北原は、平井伸和相手に、打撃、グラウンドでも圧倒し勝利を収めた。ロック部門のトリを務めたのは、「♪いっそゴミ箱の中でセックスしよう」「♪おふくろのおま●この……」等、いちいち選曲も素晴らしかった、元スターリンの遠藤ミチロウ。



そもそ
秋の全女
は、分裂
ヤラの遅
らなかっ
徐々に明
その内



何かと話題の二瓶組も地下室マッチには欠かせない存在である。喧嘩プロレスを掲げる二瓶組にとって、地下室マッチは絶好のヒノキ舞台。殴り殴られ蹴り蹴られという妥協知らずの喧嘩プロレスは必見。

スコミにもそれは言えるんですけど。でも北原さんのそういったスタンスは、師匠の佐山(聡)さんに近いものがありますよね。

北原　でも俺がそんなこと言ったらおかしいけど、佐山さんは凄く格闘技に純粋だしね。それで一つ聞くとね、十個ぐらい教えてくれるんだよ。「この技はどうやるんですか?」って聞くと「うん、これはね」って言って、二時間ぐらいバーッと教えてくれるんだよ。二時間ぐらいやらされたら、聞かなきゃ良かったなぁって思ってたもんね。ホンットきつかったから(苦笑)。

――アハハハハハ! でも寝技とかグラウンドのテクニックって、一番教わったのが佐山さんになるんですか?

北原　そうですよ。佐山さん以外に教わってないですもん。

――シューティングを始めた当時に、佐山さんは「十年後にシューティングは必ず伸びる」って言ってましたけど、現実に今シューティングって競技として確立してますよね。

北原　凄いですよねぇ。ただ今のシューティングはやっぱり、自分らがやってた昔のシューティングとは違いますよね。今は柔術だなんだっていって取り入れてるけど、佐山さんは、その当時は転がったヤツに対して殴ったり蹴ったりするのは嫌だって言ってましたからね。それはでも、時代の流れで今みたいな形になったっていう部分はあるよね。ウチの試合も寝転がって殴ったりしないでしょ? 俺はああいうのはあんまり好きじゃないんですよ。まあシューティングはシューティングであれは色があって面白いと思うし。ただ俺の好みとして、あそこまでやるものかなぁっていうのもありますからね。ただこれからウチもどうなるかはわかんないですよ。当然自分の頭の中ではそれに対応していくような練習もやらなきゃいけないと思ってるし、当然ニーハオは、そういう方向に向かわせようと思ってるし。でも俺がね、プロレスに入って一番感じたのはね、まあ入った団体にもよるのかなぁ。そういう練習をやるとね、先輩たちに嫌われるんですよ。

――グラウンド重視というか関節技中心の練習をですか?

北原　そう。この間、仲野の信(市)ちゃんが言ってたんだけど、「北原がジャパンプロレスに入ってきた時に、佐山さんの弟子と聞いて、よし絶対に負けないぞって思った」って言ってたもんな。言われてみれば仲野信ちゃんの目はきつかった!(笑)

――アハハ! きつかったですか。

北原　俺は慕ってたつもりなんだけど、「絶対にコイツには負けない!」と思ってたらしいんだよね。

――そういった感情が試合に反映されるとおもしろい試合になりますよね。

北原　でも最近は冗談じゃないってレスラーが多すぎるよ! 基本もできてないヤツが多いんだよ! そういう意味では、この世界で言うところの"格"ってあるよね。ハッキリ言ってプロレス界から見れば俺がやってることなんか邪魔なことかもしれないよね。

――それはどういうことですか?

北原　だって"格"が下でも強い人はいっぱいいるんだから。まあ"格"で言えば俺はその下の方にいたけど、やればできるっていう自信があるしね。じゃあ自分自身が言ってるだけじゃなくて、周りがその人を分析してね、その人が、「コイツはホントは強いんだ」って思ったら、その人にチャンスを与えないとダメだよな。俺はUインターと試合をやった時に、桜庭(和志)ってコイツは強いなぁと思ったしね。

――WARとインターで対抗戦やってた頃ですね。

北原　垣原(賢人)とかともやったけど、でも「桜庭コイツは強いなぁ」って思ったもんね。やっぱりその後、桜庭はチャンスをもらって、ちゃんと結果を出して認められてるよね。

――今や誰もが認めるトップ選手ですからね。

北原　そうだよな。例えば自分をアピールするどうだこうだっていうモノよりも、勝敗でコイツは強いっていうヤツはプロレス界にもいっぱいいるんだから、もっとバーリ・トゥードとかに出ていけばいいと思うんだけど。でもプロレスっていうのは勝てばいいってわけじゃないからね。「コイツ強いけど魅力ないなぁ」って思えばお客さんはつかないわけだし。強けりゃいいっていうのとは別物になるのかなぁってところがあるし。…難しいよなぁ。

――プロレスは、ただ強ければトップになれるっていうわけでもないから、難しいんでしょうね。そこにジレンマを感じる選手が多いわけですね。

北原　結局シューティングとかでも、強くて、容姿が良くてっていうのは例えば、エンセン(井上)とか(佐藤)ルミナとかになるけど、彼らはそういうのを兼ね備えてるよね。だからって彼らがプロレスできるかっていったら、これは別物だしね。その人にはその人にあった色があるんですよ。……まあでもウチは、これから先はニーハオが頑張ってくれればな。

プロレス界から見れば俺がやってることは邪魔なことかもしれないよね(北原)

ニーハオ　はい、頑張ります。

北原　(あきれた顔で)でもプロレス界にはいるんだよな、悲しいことにさぁ。「この前の中村(和信)クンとの試合は(シュートサインを作り)コレですか?」とか言うヤツがいるんだよ。

――くだらないことを言うヤツがいるんですねぇ(笑)。

北原　なんで俺がアマチュアのヤツと試合してそんなこと言われなきゃいけないの。呆れて笑っちゃうしかないよなぁ。でもそんなモンなんだよな。…でもある意味じゃウチの会員だったらいつ負けてもいいと思ってるからね。

――逆に自分を倒してくれたら嬉しいくらいに思ってるんですか?

北原　いや嬉しくない! 当たり前だよ。そりゃ負けたら嬉しくないよな。

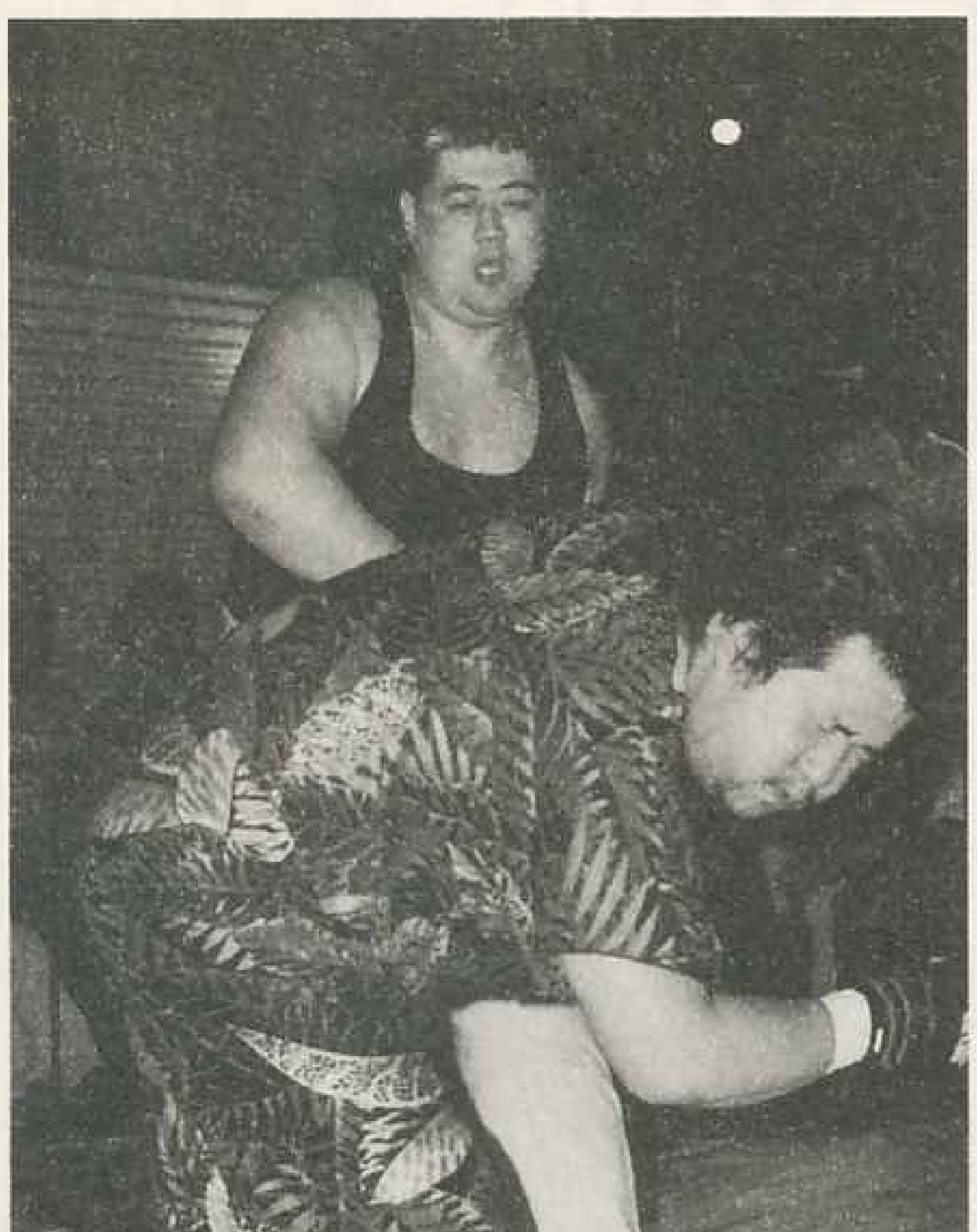
――そうですね(笑)。失礼しました。

北原　当然強くなって欲しいけど、俺だってまだ現役だからな(笑)。よく、「強くなって嬉しいなぁ、俺を倒してみろ!」とか言うけど、あんなの絶対ウソだよ! でもニーハオもそうだけどみんなそう先は長くないんだから、今がチャンスなんだから。松澤さん、ニーハオにもなんか聞いてやってよ。

――ニーハオさん、挨拶はやっぱり…。

ニーハオ　ニーハオ!

――ありがとうございます(笑)。ところでニーハオっていうリングネーム



地下室マッチが一躍脚光を浴びたのが、98・7・19に行われた北尾光覇の引退試合。もちろん会場は超満員札止めとなった。北原と北尾は、SWS、WAR、アルティメット大会からディスコまで、苦楽を共にした盟友であった。

nちょうの マット界 出来事！



「『紙プロ』No15の発売日はいつですか？」No14で次号の発売日が1月下旬！となっていたので、連日連夜問い合わせが殺到（いやこれホント！）。…オイオイオイまた電話かよ！「馬場さんが亡くなったって本当ですか」（即座に）「はい！次は2月10日発売です！」「はぁ…、楽しみにしてますぅ…」（実話）。…馬場さ

俺聞いてないから好きなこと言っていいよ！（北原）
はい（ニーハオ）

は北原さんが付けたんですか？

北原　アッハッハッ！　そうそうそう（笑）。でもね、ニーハオはねぇ、ただの普通のおちょくりレスラーだったら、そんな名前付けてないですよ。実力があるからそういうリングネームを付けただけでね。今日も（ウルティモ・）ドラゴンが言ってたろ、「あっ、君がニーハオ？」って。

ニーハオ　はい、言われました（笑）。

北原　コレなんだよなっ。「ニーハオって何だよ！」って興味を持ってもらうことが大事なんだから。

──北原さんは、今は実力がないのにキャラクターに頼ったレスラーが多いと感じてるわけですね？

北原　（怒りの表情で）許せない！

──許せませんか（笑）。実力があるニーハオさんのバックボーンは、アマレスなんですよね。

ニーハオ　そうッスね。

──同じ時期に活躍していたアマレス出身のプロ選手って誰かいます？

ニーハオ　ん～、福田（雅一）選手とか、あと新日本の藤田（和之）選手なんか自分と同じ年ですよね。

──階級は違ったわけですよね？

ニーハオ　そうですねぇ。でも試合やったことあるんですけどね。

──エッ！　そうなんですか？

北原　勝ったの？

ニーハオ　（申し訳なさそうに）負けました（苦笑）。

北原　何だよォ！

ニーハオ　団体戦で、階級違うけど出ろって言われたんですよォ！

北原　勝ったって言えば、絵になるのになぁ。でも藤田ってスッゴイ強いらしいね。

──藤田選手は新日本の中で一番強いっていう人も多いですからね。で、ニーハオさんは、この間、地下室のマット上（12・22）で、「来年はバーリ・トゥードとかに出ていきたい」っていう話をしてましたけど、そういった場に出て行って名前を上げていきたいっていうのがあるんですか？

北原　大丈夫、俺聞いてないから好きなこと言っていいよ！

ニーハオ　はい。そういうのが欲しいですね。団体のためにも。

北原　（怒って）違うって言ってるだろ！　なにが団体のためだよ!!

──アハハハハ！　言い直しますか？

ニーハオ　（反省して）はい。自分のためです（苦笑）。

──でもニーハオさんは、実際ちっとプロレスのリングではあんまり戦績は芳しくないですよね（笑）。

ニーハオ　ハッハッハッ。そうッスね。

──そういう意味でニーハオさんがバーリ・トゥードとかで、どれだけできるのかって思ってるファンもいると思うんですけど、強さという部分で当然自信はあるわけですよね？

ニーハオ　そうッスね。自分にもチャンスはあるんじゃないかなって思うんですけどね。ただマウントパンチとか、ポジション取る練習っていうのはちょっと不足してるんですけどね。テイクダウン取る技術っていうのは、レスリングのバックボーンがあるんで自信があるんで、後はポジション取ったり、取られない練習、そういうのをガッチリやれば面白いとこまでいけるかなぁっていうのがあるんですけどね。

──「話があれば出て行きます」って感じなんですかね？

ニーハオ　そうッスね。ボクは怖いもんないッスから、何でもいいです（笑）。シューティングとかにも出てみたいッスね、プロレスラーとして。出られるんだったら、ライトヘビーでも、ヘビーでもいいッスよ。

北原　今はウチの興行に来てくれとも言えないけど、ウチがどんどんアピールできて、それこそシューティングと同じくらいのレベルになってくればねぇ、「じゃあ今度君たち来たまえ！」とか偉そうに言えるけどね（笑）。

──ちっとまだ今は偉そうには言えないんですか？（笑）

北原　まだ今は、「よろしくお願いしま～す」って感じでね（笑）。

──その辺は佐山イズムですね（笑）。

北原　そうそうそう（笑）。それでいいんですよ。やっぱりオレらがやってたシューティングって初期のシューティングだし、今のシューティングと違うからね。当然そういうものはニーハオには教えることはできないから、わかんない部分はこっちが謙虚に謙虚に教えてもらって、ただちゃんと逆転は狙ってると。もう俺は頭擦り付けてもお願いするよな。そのかわり、ファックユーって思って（笑）。

──後ろ向いたらファックユーですか（笑）。

北原　そう思わないと出来ないもんね。長いモノには巻かれろですよ。

──プロレス界とかでも、頭を下げてテクニックを教わるっていうのが、プライドが邪魔してできない人って多いらしいですからね。

北原　そうなんだよな。

ニーハオ　実際出稽古行っても、スパーリングはやってくれますけど、技術の方は教えてくれないですからね。

──やっぱりそういうところがあるんでしょうね。

北原　そういう意味では、エンセンとかと話してると、「いいねぇニーハオ。





地下室マッチの名勝負数え歌となっているのが、ニーハオvs石井智宏の一戦。北原の元で育ったニーハオと、天龍の付き人でもある石井との形を変えた師弟対決は、毎回観客も目を背けるほどの壮絶な闘いを繰り広げている。

ニーハオ強いねぇ」って言ってくれてるから、「じゃあ大宮に行かせてぃい？」って聞くと、「いつでもいいヨ」って言うんですよ。言ってたよなぁ？

ニーハオ　はい、言われました。

北原　「泊まるところもあるヨ」って（笑）。コイツ凄いヤツだなって思いましたよ。でもいろんな噂とかで聞くとさ、プロレスラーに対していろいろと言ってるヤツも多いらしいね。

──そうなんですよね。「プロレスラーなんて大したことない」とか言う人が結構いるみたいですね。

北原　だからプロレス界でも強いヤツは一杯いるからさぁ。やりゃいいのにね。「俺がこんなにプロレスの悪口言ってるのに、レスラーは誰も反応してこない」って思われちゃうでしょ。体重のことがなければねぇ、行くっていうヤツを何人か知ってるよ。

──行って欲しいですねぇ。あと格闘技雑誌にキャプチャーの試合って載らないじゃないですか。そういうことに疑問を感じたりはしないですか？

北原　もちろんありますよ！　でも俺もねぇ最初に言ったのは、地下室マッチやる時に、マスコミを呼ばないで、ひっそりやっていこうよっていうところがあったんですよ。

──地下室なだけに、ひっそりと（笑）、

北原　そうそう（笑）。絶対コアなファンっていうのは何かで知ってくるから。どうせまたね、格闘技雑誌に出してもらえないんであれば、内輪同士でもいいじゃないかと。松澤さんがいて悪いんだけど、マスコミはいいよって思ってたところがあるからね。例えば格闘技の経験がない人がメンタル的なことは書けないでしょ？

──自信あります。書けません（笑）。

北原　俺は絶対書けないと思ってるし。ただメンタル的なことをわかってくれって言っちゃうとこれは選手の言い訳になりそうでね。だからプロレスラーでもホントに強い人が、今注目されてるPRIDEだなんだかんだって出ていったらいいと思うんだけどね。だけどトップクラスのプロレスラーは出るって言わないでしょ。だってメリットないもんね。もし負けたらって考えるとね。逆に格闘技側の人は負けたって名前が上がるわけだしね。でもそれが実状でしょ。結局、何でも"格"。今日の音楽（この日はロックとキャプチャーの合同イベントとして行われた）でも"格"があるから三曲、四曲や

そもそ
秋の全女
は、分裂
ヤラの遅
らなかっ
徐々に明
その内



るわけでしょ。

――そう言わてみれば、どの世界でも〝格〟ってありますからね。

北原　でも「♪お●んこがどうした」とか歌うと思わなかったからなぁ（苦笑）。控室で待っててズッコケちゃったよ（笑）。

――アハハハハハ！　でも遠藤ミチロウさんはステージで●ナニーとかしてた人ですからね（笑）。

北原　らしいですねぇ（笑）。凄いよなぁ。ある意味じゃ凄いよなぁ。でもな、ニー（ニーハオの愛称）！

ニーハオ　はい。

北原　格闘技界はそういう気持ちもなきゃダメなんだよ。ちょっとイッてる人とかが逆にいいんだよ。１＋１＝２って計算できる人はサラリーマンだなって思うんだよ。「１＋１＝マイナスゼロでしょう！」って胸張って言うぐらいのね、周りが呆気にとられてるところに、さらに「だってそうじゃない！」って言うぐらいの人じゃないと。

――確かにそれぐらいのトンパチの方が見てて面白いですよね（笑）。

北原　だから折原（昌夫）がトンパチって言われてるけど、あいつの場合はナチュラルだから。喋っててもおかしいもん。だって会社に行ったらサラリーマンなんていくらでも見れるんだから、金払ってリングの上でサラリーマン見たってしょうがないもんね。

――その通りですね（笑）。この間、アポロ（菅原）さんが言ってたんですけど、全日時代に「お前はサラリーマンみたいだな」って言われたらしくて、「俺から言わせれば全日の選手の方がサラリーマンだ」って言ってましたけど。それで、「アポロ菅原っていうレスラーは弱いかも知れないけど、アポロ菅原個人は強いよ」って言ってましたね。

北原　俺は菅原さんの実力って知ってるんですよ。あの人は関節とか強いから。でもね、後輩の俺がこういうこと言うのはおかしいんだけど、そうやって思ってまでプロレスを割り切ってやりたくはない。俺は強いんだけど我慢してやってるっていうのは、俺はしたくないから。俺はそれを表に出さないと気が済まないからさぁ。でも当然興行とかやってたら我慢しなきゃいけないことって他にもいっぱいあるからね。チケット売れねぇなぁとかさぁ（苦笑）。まあ我慢するっていっても、俺みたいなわかんない人間は金で我慢してんのかなぁって。だからって我慢したぶんだけ金をもらってるのかなぁとか考えるとね。



【にーはお】昭和46年1月29日、中国上海出身。171センチ、90キロ。94年、95年と2年連続レスリング社会人全国大会優勝。平成10年2月5日、豊橋市総合体育館で、タッグマッチながら北尾を相手にビッグなデビューを飾る。他に、佐山聡考案 α＆Ω のヘビー級部門優勝、L－1でレフェリーを務めるなどの実績もある。

【きたはら・こうき】昭和39年3月9日、福岡県出身。182センチ、110キロ。高校までは空手と喧嘩に明け暮れ、上京後、第一次UWFのテストを受けるも崩壊寸前ということで断られる。その後スーパータイガージム～ジャパンプロレス～全日本プロレス～SWS～WARを経て現在は総合格闘技ジムCAPTUREを主宰。

――北原さんは、手加減とか一切しないですからね。そこまでやるかっていう攻撃が多いですから（笑）。それこそこの間の小川vs橋本戦（1・4東京ドーム）のような（笑）。

北原　アレこそ新日本だなぁって思ったねぇ（笑）。夜中見ながら興奮したよなぁ。だけど新日本って元々ああいうスタイルだもんね。

――キャプチャーの「地下室マッチ」とかの試合も、小川vs橋本戦みたいに見てる人が引いちゃうくらい激しくやり合ってますよね。ボクはああいう試合が好きなんですけどね。

北原　実際引いちゃってるお客さんも多いよね（笑）。まあでも地下室マッチのコンセプトは体感だからね。あの空間の中でボッコボッコ当てててったら、嫌でも迫力は伝わるからな。でもマスコミの人でもハマってる人多いもんなぁ。客は100人そこらなのにマスコミが異常に多いんだよな（笑）。

――マスコミの人がハマるっていうのは、それだけ面白いって証拠ですよね。

北原　みんなあの空間が好きなんだよな。でも今日、タウンホールでやってみて、やっぱりあの空間なんだってわかったよ。地下室マッチは変に外に出るとダメ！　やってることは一緒なんだけどな。

――北原さんも所属していたSWSの社長だった田中八郎さんが、「試合後、1人で歩いて帰れないような激しい試合を見たい」ってよく言ってたんですけど、今のキャプチャーの試合はまさにそんな感じですよね。試合後、みんな声も掛けづらいほどグッタリしてますからね。あのスタイルはホントに月1でしかできないって思いますよ。

北原　でもね、あの試合スタイルは、天龍イズムから来てるところがあるからね。俺たちはチョップの一発や二発で絶対倒れないって思ってるからね。

――北原さんの容赦ない蹴りや掌底は、天龍イズムを感じますよ。それと地下室マッチっていうと、相撲出身選手の強さが再認識されてると思うんですよ。大刀光選手や、菊地（淳）選手、それに北尾選手の引退試合もありましたし。

北原　相撲ってホンット強いよ！

――北尾（光司）さんも、プロレスだとそれほど芽が出なかったじゃないですか。でもいまだに北尾最強っていう人は多いですよね。

北原　北尾はね、怒るまで時間が掛かるんだよ。でも怒らせたら誰も止められないからね。俺は北尾のセコンドでアルティメットに行ったんだけどさぁ。今アイツ引退したからいいけどさぁ。スンゴイ緊張してたんだよ。

――試合前にですか？

北原　そうそう。北尾が言ったんだよ。「ゴメンね、負けたら」って。「何言ってんだよ！　誰のためにやってんだよ！　自分のためにやるんだろ！」って。そしたら「そうだね」って。「とにかく前に出てって、ひっ捕まえたらいつでもブン殴りゃいいんだから」って。でもあの試合は鼻に当たって血が出たからしょうがないけどさぁ。

――あのアルティメットがあったんで、相撲の横綱クラスでもダメなんだってなっちゃいましたけど、地下室マッチで、大刀光選手や、菊地選手とかの試合を見てたら、やっぱり相撲出身選手のパワーはただごとじゃないなと思ったんですけど（笑）。

北原　この間の新日本（小川vs橋本戦後の乱闘）でも、安田が突っかかっていったもんな。安田は幕内までいってるからね。それにプロレスでも揉まれてるからね。安田は相当強いよ。

――大刀光選手はシューティングに出たいってよく言ってますよね。

北原　アレは俺がタチをそそのかしたんだよ（笑）。

――アハハハハ！　そうだったんですか。タチ悪いですねぇ（笑）。

北原　ずっと言ってたんだよ。「シューティング出ろ！　シューティング出ろ！」って。「そうですか。ボク通用しますか！」って言うから、「（優しい口調で）大丈夫、大丈夫」って（笑）。

――アハハハ！　さらに大刀光選手は、今年の『週プロ』の選手名鑑で、「今年はガチンコをやってみたい」って書いてるんですよ（笑）。

北原　WAR上がりはね、みんなそうやって言うの、ギリギリのこと言っちゃうから。真剣勝負をしたいとか（笑）。だったらやればいいんだって！　もうチョットそそのかすか（笑）。

――アハハハハハ！　どんどんそそのかしてください（笑）。

【1月12日／下北沢のチャイハネにて収録】

今後の興行予定

「THE CATCH静岡大会」
【会場】カラオケ&ライブハウス　CRESCENDO（クレッシェンド）
2月14日（日）午後2:00～¥2500（1ドリンク付）
【出場予定選手】ニーハオ（CAPTURE）紅林慎一郎（CAPTURE）戸田秀雄（CAPTURE）中村和信（C・I・G）他　ブラジリアン柔術選手、C・I・G静岡
※キャッチは、地下室マッチの登竜門です。

「THE CAPTURE 東京大会」
【会場】大田区民プラザ　3月18日（木）19:30～
前売り　¥4.000　当日　¥4.500
【出場予定選手】北原光騎（CAPTURE）仲野信市（フリー）平井伸和（フリー）ニーハオ（CAPTURE）他

【お問い合わせ】キャプチャー・インターナショナル
TEL.044-959-3333

nちょうの マット界 出来事!



「『紙プロ』No15の発売日はいつですか?」No14で次号の発売日が1月下旬!となっていたので、連日連夜問い合わせが殺到(いやこれホント!)。…オイオイオイまた電話かよ!「馬場さんが亡くなったって本当ですか」(即座に)「はい!次は2月10日発売です!」「はぁ…、楽しみにしてますぅ…」(実話)。…馬場さ



掟破りの舌好調! 『紙のプロレス RADICAL』御意見番

谷津嘉章の マット界、目えつぶって30秒!!

超大型連載 第3弾

構成/チョロ
Text by Choro

1・4新日本東京ドーム大会編

でも健介は体シェイプしたよなぁ ターミネーターみたいだよなっ

お待たせいたしました。炎の大連載、谷津嘉章のマット界一刀両断! 3回目の今回は、谷津親分のプロレスラーとしての故郷でもある新日本プロレス『1・4東京ドーム』大会をビシッと総括していただきました。本日も舌好調なり!

まあ俺は、今日は評論家として言うんだけどな、評論家としては、今回のドーム大会っていうのは、結果とかそんなもんじゃなくて話題のインパクトの方が凄かったと思うんだよな。話題のインパクトによって新日本は興行収益をお年玉としてファンに与えたわけだし、一方でプロレス業界全体、マスコミにも臨時収入を与えたなっていう感じだよな。さしずめお年玉興行だよな。それだけの話じゃん。

まあその中でも一番の目玉だった大仁田は、アメリカンだったと(笑)。

それと健介。健介は入門した頃から知ってっからな。詰め襟着てジャパンプロレスに入って来たんだからな。でも健介は体シェイプしたよなぁ。ターミネーターみたいだよなっ(笑)。

でもな、健介みたく鋼のような体にしたって、大仁田のような体にしたって、どっちも人間って平等なもんだからさぁ、ちゃんと子供は産めるんだよな(笑)。

新日本のファンは、「大仁田をリングに上げるな!」とか言ってるけど、上げてるのは結局新日なんだからな(笑)。そういう意味ではファンを裏切ってることになっちゃってるよな。

でも『週プロ』とか『ゴング』とかはそういう営業面の裏舞台のことは書かないわけだよ。『紙プロ』はそういうことを真っ正面から書くから嫌がられるんだよな(笑)。プロレス雑誌だったらプロレスの試合のことだけ追ってりゃいいだろってことになってくるわけだからなっ。まあそこで負けず『紙プロ』には頑張って欲しいと俺は思ってるわけだよ。

でもプロレスっていうのは、自由にいろんな見方をしていいもんだから。それがまたいいところでもあるし、難しいところでもあるし、奥が深いところでもあるんだよなっ。

ハッキリ言って大仁田と健介は要するに、たんぽと畑みたいなもんでさぁ。水田か陸田かっていうようなもんで、そのくらいスタイルは違うもんだから。技術面とか体力面って部分じゃ大仁田は絶対かなわないわけだから。健介は逆にチャンピオンシップマッチより大変かも知れないよな。正攻法でいくしかないわけだからな。

やっぱり健介は新日本のストロングスタイルってものを背負ってるわけだから、ああいう試合しかできないわけだよ。大仁田の場合は逆に、素直にいつも通りの試合をしてればいいわけだから気が楽だよな。

そういう意味では、大仁田の方が役者が上だからな(笑)。もし海外に行ったらいろんなスタイルで試合しなくちゃなんないわけだからなっ。特にオリエンタルなところではオールマイティーじゃなきゃいけないわけだよ、絶対! 健介は大仁田みたいなことはできないからな。じゃあ他の新日本の選手が大仁田みたいなことできんのかって言ったらできないわけだろ。あそこまでできる選手はいないわけだよ。

何度も言うけど今まで新日本はストロングスタイルって言ってやってきたわけじゃん。そこに突然大仁田みたいな異端児が出てきたわけでしょ。そこにアメリカンっていうか、もうちょっとくだけたプロレスを大仁田は輸入してきたわけでしょ。電流爆破とかっていうのはは昔からプエルトリコとかテネシーとかでとっくの昔っからやってたわけだもんなっ。そうだろ!

その当時の新日本にとってみれば、ストロングスタイルにああいうスタイルが出てきちゃうと、目の上のタンコブになるわけだよ。大仁田みたいな試合スタイルは認めないって言って今まで排除してたわけじゃん。

逆にファンからしてみればこういうプロレスがあったっていいじゃないかってとこもあるわけだよな。ファンのそのストレートな気持ちを、ある意味、今回は新日本が利用したっていう感じだよな。とうとう貯金を使ったなと。

ある意味では大仁田の一つのネームバリューと、そういうスタイルを、新日本は絶対受けないだろうって思ってたファンに対して新日本プロレスの営業部が意表を突いたわけだよ。

結果としては、ファンも刺激的なものを見られたってことで、いい夢見させてもらったし、大仁田厚の夢もかなったわけだよ。ある意味ではいうか、集大成がここまできたって感じだからな。新日本にとっても、願ってもない収入源になったわけだからな。言ってみれば初夢だよな。みんな夢を見れたんだから、悪いことは一つもないわけだよ。だから俺に言わせれば、お年玉興行なんだよ。

それで結局新日本は一石二鳥だろ! 大仁田みたいなプロレスと異種格闘技戦みたいなプロレス、両方で一石二鳥と考えてるわけだよ。それで興行収益も入るわけだから。一石三鳥だよなぁ(笑)。

一方、大仁田からすれば、今まで排除されてたのが新日本が門を開けてくれたおかげで、自分の生き様を公共電波を使って認めさせたわけでしょ。逆に言えばある意味ではこういったプロレスもあるんだよって認めさせたのは大仁田の功績でもあるわけだよ。でも公共電波に大仁

そもそ
秋の全女
は、分裂
ャラの遅
らなかっ
徐々に明
その内



藤田とか、中西とか、カシンとかは、小川に勝てると思ってるからな

田の試合をのっけたってことはなっ、今まで見たことがなかったお客さんまでもが、「すごい！何これ？」ってなっちゃうわけだから、公衆道徳で怒られちゃうよな。青少年育成にはよくないわな（笑）。

なんだかんだ言ってもプロレスはあくまでも話題だからな。話題がなくちゃしょうがないわけだからな。大仁田を受け入れたってことは今の時代はストロングスタイルだけではやっていけないって認めてるようなもんだからな。

ということは、今年を占えば業界の危機みたいなもんでさぁ。そういう意味ではボーダレスで、話題さえ作ればいいっていう感覚の時代に入ってきちゃってんだよな。それはある意味では業界全体の危機だよな。

新日本プロレスは一時、キング・オブ・スポーツとして、プロレス・格闘技界では一番強いんだってことをアントニオ猪木の時代から提示してたわけだよね。異種格闘技戦でやったこといっぱいあるじゃん。新日本のファンもそこまでは許せるんだけど、大仁田となってくると、あれは一つのアクターみたいなもんだから許せないっていうのもいるんだよな。

ある意味では、新日本もそういうポリシーとか節操はなくなってきちゃってるんだよなっ。危機感よりも、興行収益の方が大事になってきてるもんなぁ。

ある意味では大仁田は興行収益のためのインパクトみたいなもんだよな。まあ長州力はプロレス界のドン・キングみたいなもんだよな（笑）。

まあそれができるのも新日本プロレスの営業力と資本力、ある意味ではスポンサーの力でもあるわけだしなっ。

一方、馬場さんは、そういうことはできないわけよ。今、みちのくプロレスを入れたりしてるけど、アレはファンの要望に応えて呼んでるだけの話だからな。

結局馬場さんっていう人は、一度切ったヤツは許せないわけだよ。馬場さんが「天龍、ウチに来い！　三沢、川田がどのくらい成長したか、お前試してみろ！」って言えば夢があるんだけど、そこまで許せないわけだよ。半分はプロレスラーだけど、半分はマジになってるからなっ。だから、ある意味では若いヤツにそういう発想を任せちゃっていいと思うんだけどな。

今は、三沢が出てきてるけど三沢だって十何年もそういうとこにいれば、考え方もなかなかそういう発想にならないと思うんだよな。ある意味では、〝全日本プロレス命〟みたいな人間と〝新日本プロレス命〟みたいな人間を、陪審員じゃないけど、そういう感覚で組織委員かなんかを入れて、もっと斬新なアイディアとか出さないとダメだよな。結局全日本はいつも二番煎じっていうイメージになってるからな。

その点、新日本は上手い具合に猪木さんがいなくてもできるようにしちゃったよな。今は田舎に行っても猪木さんが出ないからお客さんが入らないってこともないもんな。そこいくと、馬場さんの場合はまだそういうのがあるんだよな。都市はいいんだけど、地方に行って馬場さんが出なかったら「馬場さんはどうしたの？」ってなっちゃうからな。地方に行っちゃうと全日本は新日本に比べたらドサ回り的な泥臭いとこ持ってるからな。

橋本vs小川戦なんかは、試合に関して言えば最初っからわかりきったことでしょ。小川直也は柔道の世界チャンピオン、橋本真也は柔道の岐阜チャンピオンなんだからな。それぐらい差があるんだから、負けてもしょうがないわな。世界のカレリンと足利の三沢の違いと一緒だよな（笑）。

あと橋本が「一発いいのを食らっちゃって」なんて言ってたけど、そのコメントにも自分の平常心がないよな。プロレスだったら「一発食らっちゃって」なんて普通言わないだろ（笑）。冷静に考えれば、何発も受けるのがプロレスなんだからさぁ。ファンもこういった一連の流れをよ～く見てるとな、プロレスラーがとんでもないコメントする時あるから、よく聞いてみな。

小川は逆十字極まってるのをあえて外してやって力の差を見せつけてただろ。それくらい俺は強いんだぞってことをファンとセコンドにも見せてるわけだよ。今回は確かに橋本が負けちゃったわけだけど、新日本にはまだまだ影の実力者はいっぱいいるからな。

だからあの試合を見て面白くなかったのは、藤田とか、中西とか、カシンだよ。アイツらは小川に勝てると思ってるからな。なぜかっていったら、それはアマレスやってたからだよ！　小川は柔道衣着たら強いけど、裸だったらアイツらの血が騒ぐわけよ。「だったら俺がやろうか、このヤロー！」ってなっちゃうわけだよ。

俺が言いたいのはなっ、アマレスが強いんじゃなくて、たまたま今の総合格闘技とかのスタイルに向いてるだけの話であってね。ジャケット着なくちゃならないルールだったら柔道が向いてるわけよ。強いとか弱いじゃなくて、なんでも有りは大体が裸のルールだから、一番向いてて、一番有効なのがアマレスなんだよ。それだけの話！

それとパッと見て気になったのは小川の首だよな。小川はまだ首が細いよなぁ。もっとブリッジさせなくちゃダメだよな。今のままだと蹴り一発で決まっちゃうよ。でも小川もパンチとか打撃はサマになってきたよな。

藤田たちもUFOに行くのを躊躇してるところがあるわけでしょ。何でかわかる？　UFOって団体が将来性があるかないかっていう判断をつけかねてる段階だからなんだよ。新日に戻れるって条件にしないと行けないんだよ。生活がかかってんだからな。最後はやっぱり金なんだからな！

そういう意味では小川なんかはまだ業界に染まってないから純粋だよな。純粋なファンにしてみればわかんないでしょ。なんで橋本が、猪木さんを怒ってるのかっていうのはな。それが橋本とかになると、業界に染まり過ぎちゃってるから「このヤロー、俺を利用したな！」ってなっちゃうわけだよ。だから橋本は頭にきてるわけだよ。俺は猪木さんのことをこれだけ慕ってきたっていうのがあるからな。

逆に言えば、それだけ猪木さんはUFOに真剣に取り組んでるってことだと思うんだよな。人間っていうのは簡単に染まる人間と、いつまでも染まらないぞっていうような『紙プロ』とか、俺みたいなのがいてな（笑）、そこに摩擦ができるわけだよ。人生なんてさぁ、その摩擦をどこまで忍耐でもってっていいのか、それとも長いものに巻かれちゃうかの勝負だよな。

結局なんだかんだ言ってもキーマンは猪木さんだと思うんだよな。猪木さんっていうのはね、常に常識を覆していく人なんだよな。時には楽しい常識を覆してくれる時もあるし、時には今回のような、オッと意表を突く時もあるからな。いい例がハルク・ホーガンとの試合があったじゃんよぉ。失神事件な。それでもっといい例が、長州vs前田の顔面襲撃事件だよ。アレでインパクトをボ～ンって作ったでしょ。そういうのが上手い人なんだよな。

俺から言わせれば、猪木さんはある意味では奇人！　ある意味ではカンフル剤を打つような感じだわな。奇人かマジシャン！　どっちかだ



nちょうのマット界出来事！



「『紙プロ』No15の発売日はいつですか？」No14で次号の発売日が1月下旬！となっていたので、連日連夜問い合わせが殺到（いやこれホント！）。…オイオイオイまた電話かよ！「馬場さんが亡くなったって本当ですか」（即座に）「はい！次は2月10日発売です！」「はぁ…、楽しみにしてますぅ…」（実話）…馬場さ

猪木さんみたいなのが総理大臣になったらさぁ、面白いじゃんなぁ

よな（笑）。

それで今回利用されちゃったのが、橋本真也って感じだよな。今回はさすがに橋本も、「俺を利用しやがってあのヤロー！　またかよ、アントニオ猪木！」って感じだと思ってるハズだよ。逆にそういうとこで「やっぱり猪木さんは凄いな」って思っちゃうのが長州力なんだよ。長州力は猪木さんほどの奇人じゃないけど、猪木イズムを一番継承してるし、一番尊敬してるのもそうだしな。最終的に今回、長州力が服を脱いだことによってリングに上がらざるを得ない状況になってきたよなっ。なんでそういうことをするのかっていったら、やっぱり今の新日本プロレスには役者が一枚足んないってことをわかってるんだよ、長州力は。

今回みたいに、こういうきついインパクトを与えておけば、もしＵＦＯと抗争するにしてもな、次が楽なわけだよ。要するに東京ドームっていうのは、ある意味ではショーなんだよ。だけど、「おいおい、これマジだよ」っていうことになると、そのショーの空気が一変しちゃうわけでしょ。その目撃者が五万、六万人っているわけでしょ。と同時にテレビの視聴者っていう二つの部分で猪木さんが勝負を賭けたんだと思うんだよな。そうすることによって小川の株が上がるわけだよな。昔っから五年に一回ぐらいポンポーンと常識を覆すことをやるのが猪木さんだからな。それが猪木さんの生き様なんだよな。大仁田も生き様だなんだって言ってたけど、猪木さんの生き様はある意味怖いよな。それが通っちゃう世の中も怖いけどな（笑）。

逆に言えば猪木さんみたいなのが総理大臣になったらさぁ、面白いじゃんなぁ（笑）。面白いか侵略されるかのどっちかだけどな（笑）。

猪木さんがやったことは、ある意味では、イタチの最後っ屁か、窮鼠猫を噛むっていうように、ＵＦＯっていう団体の存続を賭けて、お年玉をくれたと思うんだよな。それも手痛いお年玉だなっ。あんまりもらっても嬉しくないけどな（笑）。その巻き添え食ったのが、残念なことに橋本なんだよな。

でも結局こういうことがあったからマスコミも食らいついたわけでしょ。インパクトがあったんだよ。それが新日本のパワーだよ！　それも裏パワーだよな。そういうことができるポジションにいるのも、また新日本の強みだしね。

結局こういうことがあったことによって、小川直也を含めたＵＦＯは、「誰でもかかってこい！」って言うと思うんだよ。「ＵＦＯが一番だ！」って総合格闘技の業界に言うと思うよ。なぜかっていったら、この事件でインパクトがついたからだよ。なっ！　インパクトつけといてオープンにしちゃえば書類はいっぱい来るよな。それがショービジネスの世界だからな。

まあ最後に今回のドーム大会を総評するとなると、やっぱり一番の犠牲者は橋本だったってことだよな。橋本は人がいいっていうのもあるんだろうけど可哀想だったよな。

ただ新日本の連中は、橋本を含めて猪木さんに対して「ちくしょう、猪木さんにダマされた！」って怒ってるかも知れないけど、後々、長州にもダマされたと思ってくるよ。最後においしいとこを持ってたのは長州だからな。

まあ猪木さんもよく男のロマンって言うけど結局ロマンなんていうのはある意味ではね、ロマンを追ってても生活なんかできないわけだからな（笑）。そうでしょ。

そういう意味では、よっぽど俺の方がロマン追ってるよな。だってそうじゃん、大学のチャンピオンクラス、柔道もレスリングも格闘技も含めて、インディーなんか上がんないだろ。なっ！　藤田だって中西だって、カシンもそうだけど、みんな俺の後輩だぞ。みんな何で大きな団体に行くわけ？　あいつらの同級生とかは大手の上場会社とかに入ってんだから。結局格闘技界の上場会社って新日本プロレスしかなくなってくるわけだから。あえてインディー団体なんかには来ないだろっ。

それだったら、今インディーで一生懸命やってる連中の方がよっぽどロマンを追ってるよな。金なんか関係ないんだよ、インディーの連中は。メジャーの連中はやっぱりそういうワケにはいかないでしょ。やっぱり金があって、いいカッコして、テレビにも出たいと思ってんだから、それで最後にやっとロマンが来るわけだからな。

俺はいろんな団体回ってきて、無意識に流れ着いたところが、ＳＰ（ＷＦ）だったわけだから。俺は、そういう意味では人生の渡り方がヘタなのかも知れない。もっと「長州さぁ～ん」ってなんてやってれば、今頃新日本の役員なってたかもしれないしな（笑）。

でも俺はそういう生き方できないからな。だからそういう意味では俺が一番ロマンを追ってるよな。そう思わない？

猪木さんなんかもロマンっていう部分では、それだけＵＦＯに賭けてるっていう意気込みを見せてるけどな。

まあ、俺も評論家だけじゃなくて、今年は選手としても、「やるぞ！」って思ってるからなっ！　なんだったら俺がアントニオ猪木でも小川直也でも挑戦しようか？　いつでもやってやるよ！　なっ。



SPWF（スーパープロレスリング連盟）今後の日程

「S.P.W.F.バトルアクション'99」

●2月25日（木）静岡・キラメッセ沼津
●2月26日（金）静岡・土肥町総合体育館
●2月27日（土）茨城・古河市立体育館
●2月28日（日）静岡・ツインメッセ静岡（14：00）
●3月09日（火）茨城・土浦市霞ヶ浦文化体育会館
時間の記入のない会場は18：30開始です。

そしてSPWF実に4年ぶりの後楽園大会
『紙プロ』読者なら行くしかないだろ。
目指せ超満員札止め！なっ!!

●3月11日（木）後楽園ホール大会　試合開始pm6：30
チケット料金　特別リングサイド　¥6,000
リングサイド　¥5,000
発券場所　都内主要プレイガイド

嵐・大刀光コンビのチーム名募集

現在、ＳＰＷＦプロレスを主戦場としている嵐選手・大刀光のタッグチームとしてのチーム名を読者の皆様より大募集します。
★締切　2月15日必着（急げ！）
★応募先　〒113－0001東京都文京区白山1－17－4　クロサキビル　ＳＰＷＦプロレス
★発表　3月11日後楽園ホール大会で、採用された方と共にリング上にて大々的に発表します。
★特典　3月11日の後楽園ホール大会にご招待と記念品をプレゼント！もちろん後楽園ホールまでの交通費もＳＰＷＦプロレスが負担するぞ！全国の皆様からのご応募お待ちしております。

お問い合わせ
SPWF（スーパープロレスリング連盟）
03－3814－6371





京子、キレまくる!!

思いのままにならない現状をブッタ斬る!!

現在の女子プロレス界は、どの団体も後楽園ホールさえ埋めることが出来ないという悲惨な状況だ。しかし、そんな無風状態の女子プロ業界に風穴を開ける事件が起こった。全女vs京子、開戦！　活気、というよりも殺気みなぎる闘いが、観客のハートにも火を付けた。本誌は全女分裂当時、W井上の両者を取材、京子からは「全女や貴子とは一生交わりたくない」という言葉を引き出しおり、今回の抗争の片棒を少しだけ担いでいたというちっちゃな責任があるのだ。あれから1年2ヶ月――この闘いには、本音がある！　というわけで、いまや全女批判させたら右に出る者はいない井上京子を直撃した。すると京子は、毒舌マシンガンの標的を次から次へと変えて、腹にため込んだイライラをブチまけ始めた！

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／黒田史夫
photographs by Kuroda Fumio

ふざけんな!!　どうした全女? アタシが強いのはわかってるんだ！

そもそも、全女vsネオの因縁は97年秋の全女分裂騒動に端を発する。当時は、分裂の理由も「経営不振によるギャラの遅配」ということ以外はよくわからなかったものだが、時が経つにつれて、徐々に明らかになっていった。

その内幕を公にできるギリギリのラインまでを暴露したのが、ロッシー小川（現・アルシオン社長）氏の書いた『女子プロレス崩壊危機一髪』（ぶんか社・刊）である。そこには「ギャラの遅配が続く全女への不安から」井上京子が新団体設立を計画、「クーデターとも呼べる行動に出た」とある。さらに、「京子の計画をそっくりそのまま全女フロントにリークした選手」がいて、その計画がドボンとなった経緯が克明に綴ってあった。これが波紋を呼び、「リークした裏切り者は誰か?」で一時期話題は持ちきりになった。

こうした背景と、本誌6号での「貴子さん！　あなたがいちばんわかってるよね～?」「一生交わることも、試合することもないと思います」という発言が、ジグソーパズルのようにピッタリと合致する、かもしれない。今回のインタビューでは、まずそのあたりの真相を直撃してみた。京子と全女の抗争を語る上で、これは避けて通れない問題だからだ。

――全女分裂劇から、全女30周年記念興行にネオだけ不参加だったことを経て、今回の対抗戦という一連の抗争をずっと見てきましたけど、最高に面白かったです！

京子　そうだね（笑）。辞めるとき「長く居すぎたな」としか言われなかったのに、「30周年だから出てください」って言われてもねえ。アタシは「女子プロレスの未来を考えよう」って言ってるのに、いまさら倒産した会社の記念興行に出るのも嫌だったし。

――松永会長らしいのんきなエピソードですけどね（笑）。たぶん、有明コロシアムにいた観客は京子さんが全女を出ざるを得なかった経緯を知ってましたよ。それぐらい盛り上がってましたから。ロッシー小川さんの本を読んで、予習してたような感じでしたよね（笑）。で、あの本に書いてあったことと、うちの雑誌での発言と、そしてあの試合で貴子さんを失神KOしちゃったという事実から推測すると、フロントにクーデター計画をリークしたのは、貴子さんじゃないのかな、という推測も出来ますよね?

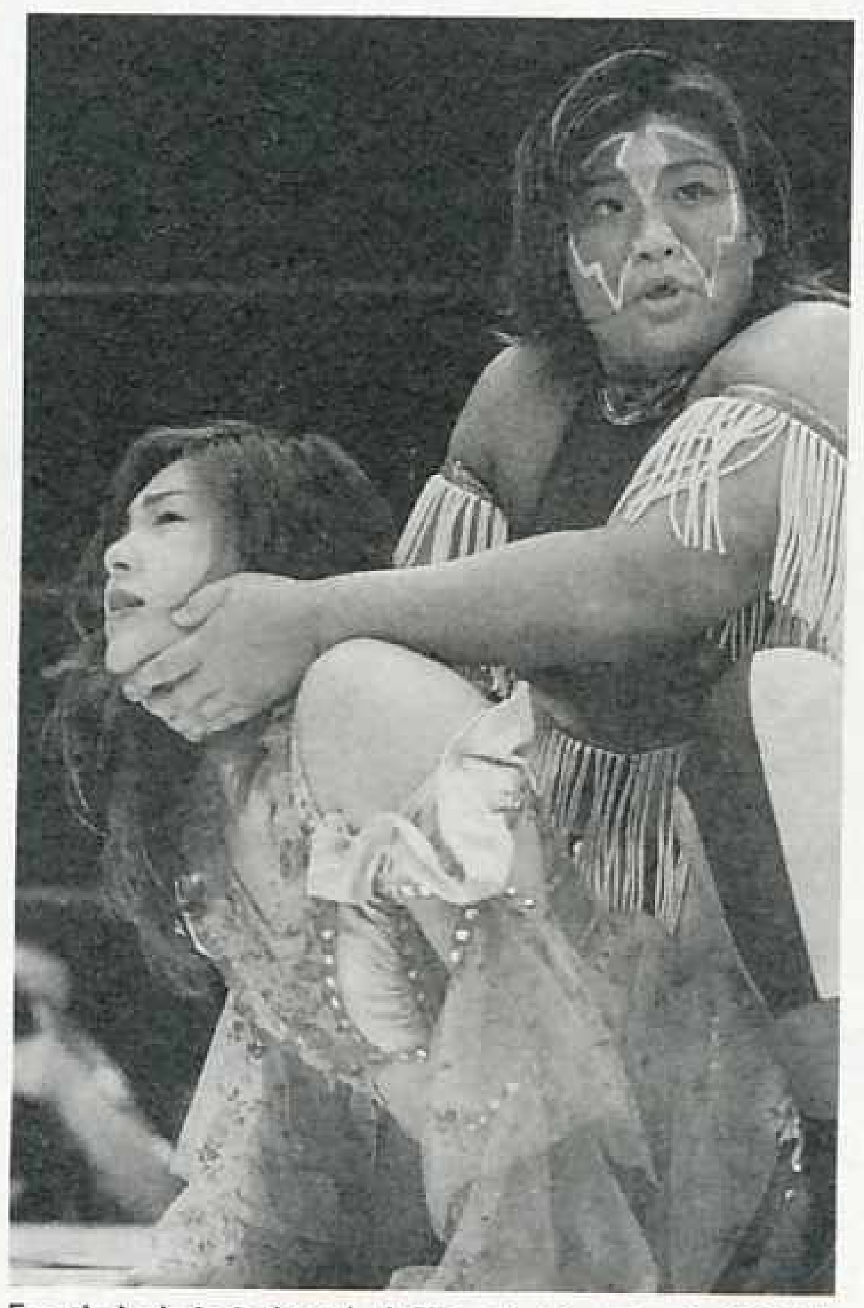
京子　アハハハ、ねえ?　どうなんでしょうね（笑）。ただ、あのラリアットは殺る気でやったから（キッパリ）。まあ、好きか嫌いかっていったら、大っ嫌

いだし（笑）。
——嫌いって、レスラーとして一段低い選手だという認識ですか？
京子　一段どころじゃないよ！　何言ってんの!?　名前を聞くだけでジンマシンが出そうなぐらい嫌い!!　私の中では、井上貴子ってレスラーは終わってるから。
——最近、貴子さんから京子さんに対戦表明してましたね。
京子　なんか私と闘ったら盛り上がっちゃったもんだからってねえ。やってもいいけど、「お前、ホントただじゃすまねえぞ!!」みたいな（笑）。
——まだ、京子さんの中では恨みつらみは消えてないわけですね。
京子　話題にされるのもイヤだし、アタシの名前で商売するなって！
——言いますねえ。でも、最近の貴子さんはいろいろ動いてるんですよ。芸能活動に力を入れるとかで、シャ乱Ｑ・つんくがプロデュースして歌手デビューするそうです。
京子　ふ～ん、売れちゃうんだ（笑）。それで何でいまさら「シングルマッチしたい」って言えるの？　アホだよ!!
——貴子さんは闘いを通じてわかりあえば、和解できるだろうって狙ってるんじゃないですかね？
京子　それは絶対にしない！　アイツは

貴子は入団したときから大嫌い!! 名前聞いただけでジンマシンが出る!!

強い者に巻かれていくからね。これからも、アタシはあいつと一生しゃべらないと思う。
——なんか、随分、根が深そうですね。
京子　そう、新人で入団したときから嫌いだったよ。あいつは雑用サボり魔だったの、ホンッッットに!!　アタシって私生活は最悪だけど、プロレスに関しては誰にも負けないぐらいマジメなの!!　それをサボってたり、ちゃんとやらないヤツを見ると腹が立つの!!　プロレスラーなんだから、「それをサボってどうすんの？」みたいな。だから入ったときから、あまり……。
——あまり（笑）。そういえば、もう一人の同期だった吉田万里子さんも結婚しちゃいましたね。
京子　久々にJ.dの有明大会で会ったんだ。アタシが「オウッ！」って挨拶したらビクビク怯えてた（笑）。「結婚したんだって？」って言ったら、「う、うん。ありがとぅ……」って目を合わせないんだ。
——いろいろあった、と（笑）。対抗戦の相手としてアルシオンには興味ないんですか？
京子　うん。あの団体とは目指すレスリングが違うからお互いの道で頑張っていければいいと思う。吉田なんかあんなにレスラー脂肪を落として、私のラリアットで壊れちゃうよ（笑）。
——しかし、同期３人が見事にバラバラになりましたね。
京子　そうか。全然、同期っていう感じがしないんだ（笑）。
——完全に見下してますね（笑）。でも、全女との対抗戦がなぜ面白かったかっていったら、お互いの「嫌い!!」とか「お前よりは上だよ」っていう意識が全面に出たからですよ。

　結局、クーデター事件の真相ははぐらかされてしまった。しかし、京子は全女に対して確実に腹にイチモツを抱えている。怒涛の毒舌を浴びせかける京子に、1月3日・全女の後楽園大会で圧倒的なブーイングを浴びまくった強くて、憎たらしい京子の姿がオーバーラップした。こうした京子の本音まじりの全女批判も、対抗戦という大義名分があるので、


「二度と交わらない」と語ったが、ファンの注目はなんといってもこの２人の対戦。貴子に対する京子の冷たい試合運びの端々に、えげつなさが見え隠れする。シングル対決は是非とも見てみたい。

貴子、キレまくる!!

すべてはリングの上で決着を付ければいいことなのである。
　さらに、燃え上がる抗争の炎に油を注いでいるのが京子自身が抱えている現状へのイライラである。ネオの観客動員は苦戦が続き、下の選手は育ってこない。京子自身はオカマキックボクサーとの対戦やライオネス飛鳥との対戦など、ネオの外へとベクトルを傾けていかざるを得ない状況なのである。京子の思い描いた理想と、現実に大きな隔たりが出てきたのは端から見ても明らかだった。ついに最近ではネオは崩壊の噂まで囁かれるようになってきた。
——去年6月にはリング上で京子さんのフロント批判も飛び出しました。あの頃から『ファイト』誌上で、経営危機を報じられるようになりましたね。
京子　じつは去年、『ファイト』襲撃をやろうと思ってたの。
——えっ、ビートたけしみたいにバット持ってですか（笑）。
京子　絶対やろうと思ったんだけど。
——何でそんなに怒ってるんですか？
京子　まったく……あることあること書きやがってさぁ！
——あることだったら、いいじゃないですか（笑）。
京子　ただ、愛情があまり感じられないというか、それを書いてどうしたいの？っていう記事があるからさ。
——ネオの舞台裏を書かせたら『ファイト』の右に出るところはないですからね。「フロントのA氏が入院した」とか、「社長が事務所に来なくなった」とか小ネタが多いですけど（笑）。
京子　何、それ？　また書きやがった

か!?　読んでないから何が書いてあるか知らないだけど。
——マスコミにはいろいろ書かれてますけど、実際ここの道場も移転するそうですね。
京子　そうなのよ。広すぎるからね（笑）。
——正直言って、対抗戦が始まる前のネオは、壁にブチ当たってるっていう感じを受けましたけど。
京子　全女と対抗戦やれば、お客さんが喜ぶだろうなっていうのはわかってたよ。でも、ああいうやめ方して、いまさら対戦しましょうなんて、口が裂けても言いたくないからね。でも、アジャ（・コング）様と私のデビュー10周年記念試合（'98・10・20）で当たったときに、「ワガママ言って自分のやりたいことをやっていきな」って言ってくれたの。それで、「あっ、そうだよね」と思ったんだ。ネオは大事だけど、自分をもっと出さなきゃと思ったんだ。
——下の選手が伸びて来ないのも京子さんのイライラの一因ですよね？
京子　元気（美佐恵）以外、若手の中で手応えある選手がいないからね。ダメなヤツはいつまでやってもダメだから。あんな嫌な思いをして、全女を辞めてきたのに「この人たち、何を考えてるんだろう？」って思うところはあるよ。「酒飲むときの勢いを試合に出せよ」っていう選手もいるしね（笑）。飛び出してほしい子も何人かはいる。
——「何人か」ということは、飛び出してほしくない人もいるわけですか？
京子　だって、「どう見ても無理だろ！」ってヤツも何人かいるでしょ？
——あ～あ（笑）。そういう人たちにプロレス続けさせていいんですか？
京子　いけないね。自分の中で自分のレベルを決めちゃってるんだったら、その子はずっと前半の試合だよ。

全女に飽きたらずネオにまで噛みつきだした京子だが、これもすべて一レスラーとして「やりたいことをやる」という、ごく当たり前の衝動につき動かされた結果である。そして、京子は全女との対抗戦に出陣した。

京子　全女と試合をするとはいっても、堀田と豊田にしか興味がないんだ。
——なんでですか？
京子　他のヤツとやってもアタシの方が強いのはわかてるからね（笑）。アタシが「堀田か豊田とシングルマッチをやりたい」って言ってるのに、あっちがグダグダ言ってるんだもん。
——京子さんが「シングルでやろう！」ってマイクアピールしたときに……。
京子　堀田が「まずはタッグからじゃねえのかよ!?」ってワケわかんないこと言い返してきたんだけど（笑）。「このぉ、怖がりさん♥」って感じ（笑）。

しかし、京子の前にはまた障害が現れた。全女がＬＬＰＷとの全面対抗戦に突入するために、ネオとの抗争を一旦打ち切ったのだ。京子はこれが気に入らない。そして、より一層イライラを募らせている。

——全女の方から対抗戦は一時、凍結っていう話が出てるんですよね。
京子　怖いから逃げちゃったんじゃないの？「まずはタッグからじゃねえのかよ!?」ってことかしら（笑）。でも、やるとなったら楽しみだねぇ。ルールのあるケンカだからね（笑）。
——全女出身の選手は、試合でも嫌いな選手を徹底的にやっちゃいますからね。
京子　小川vs橋本戦みたいな試合になるかもしれないからね。
——全然、ＯＫです！　豊田さんとは、どうなんですか？
京子　……（表情が一変）あの人とは感情的なシコリもあるけど、有明で当たったときは、私とあの人でしか出来ないようなパパパパパンっていう純粋な技のやりとりが楽しかったね。「おばちゃん」とか言われてる割には、動けるじゃん（笑）。
——現時点では若手の選手だと高橋奈苗さんとしか当たってないですけど。
京子　お話しにならない（キッパリ）。
——顔じゃないよってところですか？
京子　そうだね。でも、雑誌に載ってるのを見ると、みんなすごくいい顔してるよね。会社が倒産してるのに、なんでこんな笑顔が出来るんだろう？っていうね。凄いと思うよ。
——「金をもらえないのが励みになる」って言ってましたよ（笑）。それにしても京子さんが喧嘩を売ったことによって、女子プロ界が面白い方向に転がり出しましたね。女子プロ界の中心点って感じですよ。
京子　いいこと言った（笑）。ホント、何でもアタシ中心に回ってほしいよ。い

京子vs全女の仁義なき抗争



97年10月24日
【紙のプロレスRADICAL　6号】
全女離脱当時、フリーとして活動していた京子に取材した本誌は、W井上に「レスラーは強くなければいけない」という京子、「レスラーは客を呼んでナンボ」という貴子のプロ感の相違が浮き彫りになった。



98年12月26日
【Jd' TOGETHER'98 有明コロシアム】
遂に開戦した全女vsネオ！　その試合で京子は貴子のノドにラリアットをぶち込み、完全ＫＯ。試合後の乱闘でワッキーが関口瑠美をボコボコにしたとの情報も。ネオというより、京子の独壇場で、館内はガラガラでも、その場の観客は大熱狂。



98年12月28日
【Neo1998 Final-Stage 後楽園ホール】
京子に挑んだ元気美佐恵が健闘。試合後、堀田が乱入。「ネオの連中全員、頭下げてこい。ウチらは全員頭を上げて待ってるから」と挑発。頭を上げて？　とにかく１月３日、後楽園で対抗戦第２Ｒ開催が決定！



99年1月3日
【全女 Revenge'99】
乱闘では全員「目ぇ飛んどるやん」状態で殴り合い。特にワッキー、前川、奈苗、元気の暴れっぷりが光った。ネオ勢には大ブーイングが浴びせられた。貴子＆堀田vs京子＆元気で堀田が京子からタップを奪って雪辱！



99年1月10日
【Happy Neo Year1999 後楽園ホール】
この日は大声援を浴びた京子＆元気vsブーイングを浴びた堀田＆奈苗。当初、有明では対抗戦のメンバーに入っていた奈苗には、ネオのリクエストでハズされ、その枠に貴子が入ったという因縁があったので、大奮闘！！

プロレスラーっていいよね 嫌いなヤツを試合で殴れるから

くらでも喧嘩するって！　いいよね、プロレスラーって、嫌なヤツがいたら試合で殴ればいいんだもんね（笑）。いくらやっても犯罪にならないんだもん。

【99年1月16日、東京・現在は閉鎖中のネオ・レディース道場にて収録】

●

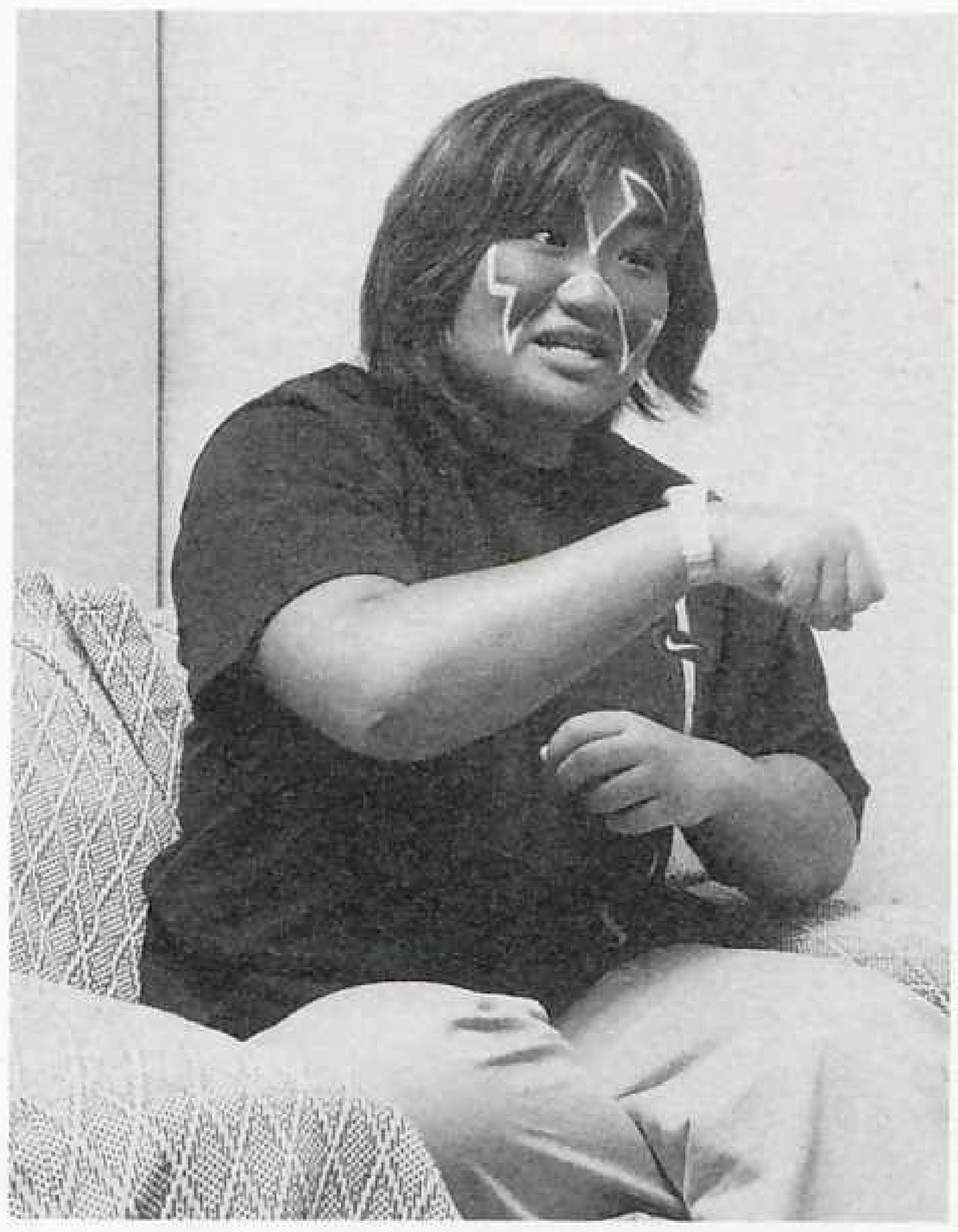
インタビュー収録後、全女vsＬＬの対抗戦（3月10日［水］国立代々木第二競技場　18：30開始）が決定した。この記者会見の席で風間社長と乱闘を繰り広げた堀田から「ＬＬとはケンカだ」という宣戦布告も飛び出し、この対抗戦も一気に加熱し始めた。ちなみに、この大会では神取がチャンピオン・ベルトを掛けて全女の挑戦者を迎えてタイトルマッチに臨むという。全女との対抗戦を熱望していた京子の心中は穏やかではないだろう。というわけで、緊急追加取材を決行した。

「『ケンカ』って言ってもネオvs全女のケンカは特別だからね。どっちを先にやるか考えればわかるじゃん、バカだねえ。だけど、代々木には見に行くかもしれない。堀田とも神取ともやりたいからね。2人の対決だったら、興味あるよ」とのこと。

と、全女とネオの抗争も先送りとなったかに思えた、その矢先！　若手レベルでの対抗戦が、全女のリング（2月11日［祝］後楽園ホール　12：00開始）で実現することになった。

「お互いに刺激にもなるから、どんどんやっていけばいいんだよ。『絶対引くな』って言ってあるから」

ケンカした子供に「勝つまで帰ってくるな！」と叱り飛ばす親の如く、京子は高見の見物を決め込むようだ。ここまで言われて全女が黙っているとも思えない。全女も全女でフラストレーションをためているはず。早く大将同士のケンカが見たい！



いのうえきょうこ■昭和44年4月22日、山形県南陽市出身。昭和63年10月10日、後楽園ホールにて因縁深いvs井上貴子戦でデビュー。全女の頂点ＷＷＷＡシングルチャンピオンにまで登り詰めるが97年８月に退団。配下選手を引き連れて98年１月、ネオ・レディースを旗揚げ。現在の天敵・井上貴子とは“Ｗ井上”として、第100代のＷＷＷＡタッグチャンピオンにもついたことがある。166センチ、95キロ。

ネオ・レディース
興行日程

『Neo-Revolution'99』
2月20日（土）クラブチッタ川崎
（18:30試合開始）

新たなる対抗戦勃発!!　女の闘いは神々しいまでにあさましいエゴの死守にある

中村カタブツ君（35歳）

男は基本的に〝奪う〟生きものである。では、一体何から奪うのかと言ったら、それは女から奪うのである。

子供時代は男よりも女の方が肉体的にも精神的にも強いと言われる。腕力でも勝る上、考え方も大人びている。それが次第に逆転していくのは男が〝奪っていく〟からだ。生まれた時点で女はすでに女としてあるべき資質を100％備えており、男は強奪する本能ただ一つしか女と対峙できるものがない。だから、男はその本能をフルに使って女たちの肉体と精神を削り取っていくのだ。そして欠けた部分の代わりに愛を、子供を、家庭を与えるのである。彼女たちに取って、それは絶対的に〝守るべきもの〟となる。欠ける苦しみと満たされる喜びを知った女がその〝守るべきもの〟を死守するのは当たり前のことなのだ。

つまり女とは〝守る〟生きものなのだ。

必然的に女と女の闘いは〝守り合う〟闘いとなる。当然のことながら、守る者と守る者が対峙して闘いになるのかという疑問がわくだろう。だが、その闘いは確実に存在する。わかり易い例を挙げるなら、それは「ガーターベルト争奪戦」だ。

女子プロレスが女プロレスと呼ばれていた以前、女子プロの原型とも言われるものがガーターベルト争奪戦だ。それは相手の太ももに巻いたガーターベルトを奪い合う闘いだった。この闘いの根本にあるのは自分のベルトを〝奪われたくない〟という精神だ。それが結果として相手のベルトを奪いにいくという行為に転化されるのだ。それは自らの存在意義を賭けた闘いとなる。女子同士の闘いが強烈に面白く、刺激的になるのは闘う両者が自らの中に〝守るべきもの〟の存在を意識した時なのだ。そして〝守るべきもの〟を強烈に意識する時とは、それは〝奪わ〟れそうになっている時にほかならない。

かつての女子プロ対抗戦が白熱したのは、選手一人一人が〝守るべきもの〟をはっきりと明確に意識することができたからであり、〝奪わ〟れそうな状態に追い込まれていたからだ。全女であれば他団体よりも過酷な生活こそが守るべきものであった。その生活を選んだ自らの選択の正当性と、他団体の選手を見下すことのできる裏付けを守るものであった。年間250日以上の興行と辛い練習こそがその〝正当性〟と〝裏付け〟を支えるものだった。北斗晶や井上貴子などエゴイスティックな感情に誠実である選手が輝やいたのだ。

新たなる対抗戦の幕開けの中で、そのエゴに忠実に行動しようとしてるのが井上京子だろう。噂されるネオの崩壊は京子の選択の正当性を否定するものだ。見限ったはずの全女の、その若手たちがグングン伸び、切羽詰まった現状を打開するために出ていったはずの自分たちは伸び悩んでいる。このままなら歴史は京子たちを悪者と判断し、嘲笑うだろう。だからこそ、京子はムキだしの怒りを内にも外にもぶつけ始めたのだ。勝った者こそが正しい。すべての過去、すべての判断の正当性を守るために動き出した京子が対抗戦の巨大な発火点となることは間違いない。女子プロレスラーは大いなるエゴの塊である。苛立ちの紅蓮の炎に包まれた京子が、他団体の選手のエゴの塊を燃やし溶かそうとする時、巨大な爆発が起きるだろう。女としてレスラーとして底知れぬ埋蔵量を誇る京子の暴走を注視しろ、だ。必ずや、痺れるほどの感情の高まりに、気持ち良く打ちのめされるだろう。

ザ・検証

［今回のテーマ］ザ・検証生活UFC

天龍はもう、キャッシー中島が好きじゃないの？　そして、野上は「好きな有名人・キャッシー中島」などと、答えてる場合なの？

と、相変わらず毎年楽しい『週プロ』の選手名鑑の話題が沸騰する季節となりました。で、その世紀末の年の初めに、行ってきましたよ、USA！　見てきましたよ、UFC！　もちろん、ツアーに参加ですよ。と、いうことで、今回の検証テーマは「UFC観戦ツアー」！　さらに、検証結果は「とても楽しかった」。そういうワケで、次の紀行文を読んで、その楽しさの中身を少しでも理解していただき、みなさんの参考になれば、幸いです。次に出場するのは誰だ？　安生か？　桜庭か？　マッハなのか？　どいつもこいつも、見てえ〜！

写真・文／椎名基樹

UFC観戦ツアーの日程は、1999年1月6日から10日の3泊5日。試合は8日に開催。ちなみに価格は、俺の場合一人部屋を希望したため、定価より2万円高い22万円也。

俺は、こういう団体旅行は初めてで、出発当初メチャクチャ不安だった。なぜなら、俺は、西村修よろしく、団体行動がまったくできないからだ。ツアー参加者は15名。彼らにご迷惑をかけてしまわないか、（時間に遅れる、オネショを漏らす、ホームシックで泣く等）、逆に迷惑をこうむらないか（時間に遅れられる、オネショを漏らされる、カツアゲされる等）とても心配だった。

しかし、そんな俺の心配をヨソに、いきなり成田で、俺の西村ぶりが爆発してしまった。成田の場内アナウンスで呼び出されてしまったのだ。いや、ちゃんと、集合時間に集合場所に行ったのだ。そして、集団の先頭を切って、チェックインを済ませた。しかし、その先頭を切ってというのがマズかった。チェックインを済ませれば、当然トットと出発ゲートに向かうモノだ。俺は何も考えず、まっすぐ出国審査を済ませ、いつものように免税店でタバコをワンカートン買い、準備万端で手荷物チェックを受けようとしていた。そのとき、アナウンスが鳴った「UFC観戦ツアーの杉並区の椎名様、椎名様……」。まさか、経済大国日本の空の玄関口に、俺の名前が鳴り響こうとは!?　俺はビックリ恥ずかしで、案内のおネエさんに、ワケを言い、電話を回してもらった。すると、俺を呼んだ添乗員の方じゃなく、誰だかわからない奴が「渡す書類があるから、手荷物チェックの前で待っていてくれ」とのこと。だが、待てど暮らせど、添乗員は来やしねえ。UFCツアー参加者は、チラホラ現れ、チェックを済ませて、ゲートに向かって行く。しかたなく、30分ほど待ったが、出発まであと15分くらいになってしまった。その間に、さっきまでガラガラだった、手荷物チェックは長蛇の列。さすがに焦って並んだのだが、その時点で俺のイライラは最高潮。「飛行機を降りたら、必ずあのバカ、ブン殴ってやる！」と心に決め、サ・カ・ウ・ラ・ミ・ハ・ラ・サ・デ・オ・ク・ベ・キ・カと得意の逆恨み念法を唱え出す始末。結局、添乗員には会えず、機上したのだが、「渡す書類」とは、「出国・帰国カード」だった。バカ野郎！　このツアーは遠足か!?　俺は小学生じゃねえ！

「もう絶対、集団行動はしねえ」と、西村なりの無我の理念を心に叩き込む俺を乗せ、ノースウエスト85便は、自由の国アメリカに向けテイクオフ。メチャクチャ腹を立てている、俺の席は、幸いにも（俺にとっても他のみなさんにとっても）ツアー客とは、まったく離れていた。隣はアメリカに留学中という、20才の男の子。とても明るい子で、積極的に話かけてくる。留学中というので「UFCは知ってるか」尋ねてみると、まったく知らないとのこと。「でも、ニュー・ワールド・オーダーでしたっけ？　それなら知ってます」と言っていた。そのまま暇つぶしに、成田空港の不便さ＆バカさ加減の話題で雑談していると彼が、小林よしのりの「戦争論」という本の話をしてきた。俺は長く「SPA！」誌上で連載をしていて、小林よしのりvs宅八郎のゴタゴタを少し近くで見ていたので、本当はなにも知らないクセして「小林よしのり、バカだよねえ」と軽口をたたいた。すると、彼は「そんなことないです。小林は戦争が起きたとき、いまの日本の若者が国のために戦えるか、憂慮してるんですよ」などと、どっかで聞いたようなことを言った。俺は軽口を詫び、話題を変え、成田でエロ本用に買った「宝島」を開いて「深田恭子かわいいよねえ……よし、じゃあこのページで誰が一番かわいいかコンテストをしよう」などと、最低の話題で遊んだ。そんな彼は将来国連に勤めたいそうだ。彼は、俺がトイレから帰ってくると、一人で食い入るように、「宝島」を眺めていた。アメリカだと、深田恭子でコケなかろうと、「宝島」をプレゼントした。メチャクチャ喜んでいた。がんばって世界のために働いてくれよ！

機内食を食ったあと、俺は爆睡。ジェットはデトロイトに着陸。当初、デトロイトから一路、目的地のニューオリンズに行く予定だったが、折からの寒波のためか、メンフィス経由になってしまった。そして、ここデトロイトでも軽いトラブル発生。俺は、寝起きのボケボケの頭で入国審査をし、デトロイト空港に降り立った。他の者は相変わらずノロノロやってやがる。俺はぼんやりと、時刻表なんぞを眺めていた。そしたら、ポリスらしき人が「こっちへ来い」などと言ってきた。最初意味がわからなかったが、このままついて行くと、またみなさんとハグれてしまい、放送で呼ばれるのも嫌だったので「Why？」聞くと、「Why not！」とかなんとか怒鳴りやがった。なんだコイツと思ったが、仕方なくついていく。台のある場所に連れてこられ、スーツケースを開けろという。素直に応じると、ゴチャゴチャ中身をかき回す。「金はいくら持ってんだ？」とか聞いてくる。そして、俺の旅のお供、『せんねん灸』の箱を取出し、「これは何だ？」とかいう。俺は仕方なく「オリエンタル・ライク・ア・マッサージ……」とかなんとか、カタカナで答えると、「あ〜」ってな表情で頷いて解放してくれた。俺は頭にきたので、せめてもの抵抗と「エクスキューズ・ミー・ミスター？　ホエア・イズ・スモーキング・エリア？」とバカ丁寧に聞いてやった。すると、ポリ公「あっちだ〜」ってな感じで適当に示した。バカ野郎。このポリ公。テメエどうせ普段は、同僚とカマ掘り合ってんだろ!?　アメリカ野郎がイバってんじゃねえよ！　チクショー！（泣）。

デトロイトの空港は、乗り継ぎのゲートまで、バスに乗って行かねばならず、複雑で前に進めば、ハグれること絶対だったけど、ウロチョロしてると、またポリスが来そうだったし、タバコ吸いたさも限界だったので、まっすぐ行くことにした。そして、ゲートを確認したあと、何度も喫煙場所を尋ねた。で、結局喫煙場所は外に出るしかないことがわかった。苦労して外に出ると、歴史的な寒波とやらで、味わったことがない寒さだった。その中でおばあさんたちが、何人も震えながらタバコを吸っていた。この国ちょっとおかしいんじゃねえの？　俺の頭の中には、ザ・クラッシュの『反アメリカ』が鳴り響き、安保破棄、イラク断固支持を決め、タバコを吸った。一本吸っただけで、頭クラクラ、唇ビリビリ。うめ〜ェ！　でも、吐き気がゲーッ！　体は受け付けなかったが、この調子じゃいつ吸えるか、わからないので無理やり三本吸った。

ゲートに行くと案の定、他の遠足軍団は来ていない。しかし、一人だけツアー客の中で見た顔が椅子に座っていた。ハグレ者は俺だけじゃなかったと安心。話かけ、自己紹介し合うと、「ああ、『紙プロ』の？」と俺のことを知ってくれていた。嬉しいねえ、寿司食いねえ。俺以外パンクラッシュ（頭が）な人ばかりな気がして辛かったけど、彼なら話が合いそうだ。二人で国際（アメリカだから）ハグレ軍団を作ろうぜ。俺がラッシャー、君がハマさんだ！　熱い口づけを交わし、Bまで済ませたあと、やっと遠足軍団がやってきた。

その後のメンフィスまでと、ニューオリンズまでの空路のことはほとんど、記憶にない。とにかく、ニューオリンズで荷物を受け取るとき「もう飛行機に乗らなくていいんだ」と泣きそうなくらいボロボロだった。皆が、バスに乗り込んだあと、出発ギリギリまで、タバコを吸い込み、またグラグラになって、ホテルに向かった。ホテルに到着し、ロビーで集合し、全員のチェックインを済ませる間、添乗員さんが、ごあいさつ＆予定の説明をしていたが、そんなことも上の空だった。ただひとつ「明日のルールミーティングは9時です。それから、その後に予定していた格闘技通信の記者さんとのお食事は、体調がすぐれないそうなので、当日になってみないとわからないそうです」という言葉は覚えている。このロングフライトで、体調がいい奴なんているワケがない。それで、中止というならわかるが、あるかどうかわからないと、他人にアドバンテージをかけるなんて、随分イバってんなあと思った。まあ、俺はそんな話聞いてないし、行くつもりも毛頭ないので、関係ないのだけれど。そんなことより、そのとき、俺は重大なことに気が付いたのだ。俺はどうせ、ホテルで替えればいいやと思い、一銭もドルを持っていなかったのだ。そして、どうやらこのホテルでは、換金できそうもないのだ。天下のアルティメットファイターが泊まる、ホテルなのに!?　この旅行のひとつの目的はUFCのビデオを全巻買うことだった。会場では、カードも使えないだろう。なんとしてでも、現金が必要だ。カードでキャシングすれば、いいのだけれど、旅行費だけでもギリギリ捻出したので、なるべく手元にある金で安心して使いたかった。それに、当面今日現金がないのも不安だ。現地のコーディネーターの人に聞いても、どうもハッキリしない。不安だったが、我がハグレ軍団のハマさんが、100ドル貸してくれて、少し安心した。金を握るとすぐに、使いたくなるのが、俺の性分。まだ、話をしている添乗員さんを無視して、ホテルの売店に走る。水とプリングルスを買った。

ホテルのベッドに身を投げ出したときの快感は忘れられない。身を伸ばして、気持ちいい〜！　清潔なシーツの匂いと感触に、気持ちいい〜！　そして、さっそくせんねん灸に火を点け、芭蕉よろしく足三里に据えて、極楽〜！　でも乾いてるせいか、よく燃えて、熱ちぃ〜！　さらに、プリングルスを食ったら、軽くあがっていて、



オクタゴンの前にて、猪木がヒョウイ。この後「あのアリと闘った男だ」とサイン攻めに。

ニューオリンズの生牡蛎は とっても甘くてジューシー!!

やけにうまい。まさに、「ユー・キャント・ストップ!」。その夜、さっそくダウンタウンに出掛けようと、ハマさんと約束してあったのだが、その時点で早くも断念。すぐにハマさんに電話して、断りを入れ、いつのまにか、寝ちまった。

目が覚めると、深夜の3時だった。すぐに寝たので体調もいいし（時差ボケはすぐ眠るに限るby馬場）、気が付けば外の景色はアメリカだし、もう上機嫌。さっそくシャワーなんぞ浴びちゃって、もっと上機嫌。いつもは、絶対触らない、コーヒーメーカーでコーヒー沸かして、さらに上機嫌。てなことをしているうちに、さすがに腹がすいてきた。時刻は深夜4時。でも、ご安心あれ。ホテルの裏にデニーズがあるのをチェックしてたもんね～！（書いてるうちに上機嫌）。さっそく出掛けた。店内の客は、スパニッシュ系、3人＆ザ・白人同士のカップルの計5人の若者グループしかいなかった。カラまれそうだなと思ったら、案の定カラまれた。「どこから来たの？」と聞く。「日本」。「なにしに来たの？」。「アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップを見に来たんだ」。「え～、いいなあ！」ってな調子で、マウントパンチのマネをボコボコしている。機内の留学生は知らなかったけど、地元の不真面目そうな若い奴は知ってるんだなあ、と感心。「とにかく、こっちに来い」と俺を呼ぶ。「え～、英語できないよ」と言うが、断りきれず＆女の子も可愛かったので、席を移動。トシを聞くと18歳だという。「ハイスクール？」の問いには、胸を張って、「カレッジ」と答えていた。白人の男の子だけ23歳で、大学には進んでいないという。スパニッシュの子が、指を指して「ドロップアウト」と言って笑った。白人の子に「俺もドロップアウトだ」と言うと、苦い顔で笑った。



ミシシッピ川の前にて、猪木がヒョウイ。この後「あのアリと闘った男だ」と黒人青年に挑戦を受ける

俺の隣に座った、スパニッシュの子がメチャクチャ元気で、なぜか彼が、俺のバカ英語の通訳役になった。1時間くらい適当な話をしたのだが、まいったのが「日本語でハローを教えろ」と言うので「こんにちは」と教えたら、待ってましたとばかり「お前とファックしたい」はなんだと聞いてくる。一瞬「お前とヤリたい」かなと思ったが、それじゃあツマらないので「オマンコしたい！」だと教えた。するとさっそく、通訳くんは友達に向かって「こんにちは、オマンコしたい！」。友達は、ニヤリと笑って「サック・マイ・ディック」。深夜のデニーズは、大声のオマンコが飛び交う、変な場所に化した。「サックマイ・ディック」の子は、サッカーをやっていて、2002年に日本に行くんだと言っていた。俺は日本語で「がんばれ」と言った。別れ際、全員と握手するハメになったのだが、女の子が可愛くて、大満足。通訳の子は「ドント・フォー・ゲット・ミー」などと言っていた。アメリカはヨーロッパより、ガキがガキで可愛いなあと思う。ノリは日本に近い。まあ、ニューオリンズが田舎のせいもあるだろう。ちなみに、俺が食ったのは、ハンバーガー。もちろん、バカでかい。本当はメニューの写真が、一際アメリカ的で魅力的だったコーラフロートも注文したのだが通らなかったみたいで、ありつけなかった。

部屋に戻ると、ドアに添乗員さんからメッセージカードが挟まっていた。「今日はご苦労様でした。明日のルールミーティングは夜9時からです。食事会もあるようです」といった内容が、小さな文字で手書きされていた。これを15人分書いたのかと思ったら、感動。添乗員さん、逆恨み念法でブン殴るなんて思ってしまって、ゴメン。すっかり素直に改心した俺は、満腹のまま子供のように二度寝してしまった。起きたら朝の9時だった。今日はツアー唯一の丸々一日フリータイムだ。まだ、早いのでTVをつける。

始まったのは、朝っぱらからすごい番組だった。題して「ジェリー・スプリンガー・ショー」。副題は「ザ・バトル・オブ・アングリーラヴァーズ」。つまり、痴話ゲンカショーだ。日本でみのもんたがやってるヤツはこのパクリなのだろう。しかし、そこはアメリカ、迫力＆バカバカしさが全然違う。まず、夫を取られた妻が椅子に座って、不平を吐く。ものすごい下品な金髪のアメリカデブの女だ。その間、画面の隅にワイプで、夫をとった愛人が、苦虫を噛み潰した表情で待機している。いいタイミングで司会のジェリー・スプリンガーが愛人を呼ぶ。妻に向かって、物凄い勢いで突進する愛人。いきなり髪の毛を鷲掴みにした。すると、その金髪はカツラでスッポリ脱げた。愛人はカツラを客席に投げ込む。金髪カツラは、生きているように、客席の中をピョンピョンと跳ねながら回される。二人はつかみ合いのケンカ。スラングが飛び交い、自主規制の「ピーッピーッ」がひっきりなしに響く。カメラは、おもいっきり引き絵。デカい黒づくめのバウンサーが、2人を体ごと止める。その騒ぎに客席は一斉に「ジェリー、ジェリー」の大合唱。騒ぎが収まると夫が呼ばれる。2人の間に座らされる。大抵は開き直って、愛人とブチューとかやる。すると、今度は妻が怒って、座っている愛人に、左のミドルキックから右のスイングフックという、アーネストばりのナイスコンビネーション。修斗なら反則だ。また、大乱闘。これが3カップル（3人ずついるからカップルじゃねえか）繰り返され、最後には、全カップルと客席でディスカッション。もちろん最後まで、乱闘、乱闘、乱闘。乱闘の数じゃUFOにも負けない。そして、それがなんと、朝9時から毎日やっているのだ。おかげで、俺の朝の楽しみとなった。に、してもアメリカはバカか？　最高！

そんなこんなで、時刻はお昼、アルティメット前の痴話ゲンカで、すっかり気分爽快になった俺は、電話でハマさんを叩き起こし、ダウンタウンに昼飯を食いに行くことにした。しかし、昼飯前に大切な仕事が残っている。そう、なんとかドルを手に入れなければならない。タクシーに乗りそのムネを、運ちゃんに伝えると「何を～!?」ってな調子で、無線機でガンガン情報収集を始めた。え～!?　そんなにオオゴトなの～？　と、焦る。結局、運ちゃんが最初に案内してくれた銀行では換金できなかった。俺は焦って、目に付く銀行に片っ端から飛び込んだがどれもダメ。高級ホテルのフロントも、泊まり客じゃないから、ダメという。アメックスのオフィスに行けと言うので、汗だくになりながら行ってみると、リフォーム中なのか、なんとオフィス内はぶっ壊されていて、グチャグチャ。その残骸の山を見て、さすがに諦めた俺は、運ちゃんにギブアップを告げた。しかし、運ちゃんは諦めておらず、無線でガンガンやり取り。ラスト・トライだと言って、向かった銀行でなんとかドルをGETできたのであった。運ちゃん、ありがとう！　多めにチップ払って、ガッチリと握手。ハマさんも付き合ってくれて、ありがとう。

ニューオリンズのダウンタウンは、フレンチクウォーターと呼ばれる、がんばれば歩いて回れるほどの一角だ。その中で最大の観光名所は、バーボンストリートだ。その周辺はウエスタン村といった様相で、古いアメリカの建物が、そのまま残されており、昼間っから生演奏のディキシージャズが鳴り響いている。昔にタイムスリップした感じになるというか、とにかく異空間に放り出された気分になり、とても楽しい。そして、この時期最大の目玉は、なんといっても、生牡蛎だ！　俺とハマさんは、バーボンストリートに着くやいなや、最初に目についた、生牡蛎レストランに飛び込んだ。生牡蛎は1ダースで6ドルくらいと激安。形は日本のモノと全然違って、ずっと小さい。しかし、中身はその殻いっぱいに入っていて、日本の牡蛎と同じくらいの量がある。それに、レモン汁、擦ったジンジャー、そしてケジャンソースと呼ばれる、ケチャップにそっくりなヤツをかけて食うのだが、それがメチャクチャうまい！

ニューオリンズはこの時期でも、パーカー一枚で十分なほど、暖かい。それに、フランス系が多いせいか、女の子がみんな小さくて可愛い。で、ツマミもうまいので、ビールもうまい。バーボンストリートは熱海のような、観光地特有の「ど～でもいいよ」の異空間なので、気分よく酔っ払える。なかなかいい国じゃねえか、USA。見直したぞ、USA。店を出たあとは、ハマさんとホロ酔いのイイ具合で、ショッピング。Tシャツは「サウスパーク」と「シンプソンズ（ブリーフ一丁のホーマーが、フロントとバックにプリントされている！）」をGETし、大満足。サーティーワンのようなポップな店構えの飲み屋があったので入ると、それはフローズン・ダイキリ屋。十数種類、色とりどりのフローズン・ダイキリがスムージーのように、機械の中でくるくる回っている。ピーチ味を買い、チューチュー吸いながらまたぶらぶら。蝋人形館では、ニクソン大統領と握手したら、警報機が物凄い音でウウウウ～！　ビックリして飛び出したら、黒人の受付おばちゃんがニヤニヤ。それから、ミシシッピ川を見ながら、一服。最後に、また牡蛎を肴にビールをあおって帰宅した。

いい気分でホテルに着いた。ホテルの前でタクシーの料金の払いに少し戸惑っていたら、後ろの車がクラクションをビービー鳴らしてうるさい。頭にきたので「ジャスト・ウエイト！」と叫ぶ。金を払い終わり振り向くと、そこにはなんと、車から降りイライラしたケン・ウェイン・シャムロックが。WWFのフットロッカー、日本の総合格闘界のジーコ出現。ヒエ～、殺される～！　エンセン助けて～！



去年3月の第16回大会に続いてのニューオリンズ開催。ブラジル以外では、最近のオクタゴン・ガールズは、なぜか露出が少なくなった……。

もちろん、殺されるワケもなく、難なくロビーに入ると、ルールミーティングの前とあり、そこは屈強な男たちで黒山の人だかり。こりゃ酔っ払ってる場合じゃないと、部屋に掛け上がり、この日のために押し入れから引っ張り出してきた、キャノン「EOS」を準備。すぐにロビーに舞い戻る。ミーティング会場の前には、すでにツアー客が集合していた。その中に見たことのないえらいベッピンさんがいる。なんでも、今日のために雇った通訳さんだという。顔はリサ・ステッグマイヤー。名前はミカ。ハーフだそうだ。俺は、自分の不細工ぶりを顧みず、猛然とラヴアタック開始。

一生懸命話していると、もう一人日本人のおばちゃんがやってきて、話しかけてきた。「みなさんツアーの方？」。「はい」。「漫画家の嶋田さんって知ってる？」。「さあ……」。「『キン肉マン』をお描きになった……」。そういえば、さっきからどっかで見たことのある、金髪で小さくて年齢不詳の男が気になっていたのだ。それが、「ゆで」だか「たまご」だかだったのだ。おばちゃんは、通訳としてその嶋田氏に個人的に雇われているようだった。嶋田氏は個人旅行で来たのだ。さすが、「ゆで」だか「たまご」だか、おっ金持ち～！

そうこうしていると、来るわ来るわ、アルティメット・ファイター共が!?

ミーハーパワー全開で、マルコ・ファスとパチリ。さらに、シャムロックとパチリ（シャムロックとの写真が一番嬉しかった）。すると、今回の最大のお目当て、高阪剛がやってきた。俺は「すみません、いっしょに写真撮っていただけますか？」といった。すると「はい……でも、いまちょっと待ってもらえますか？……」と言って、誰もいない方を見てキョロキョロしている。俺はなにか用があるのかと思って「すみません」と言って引き下がった。でも、高阪はなにをするでもなくいる。そのうち、ツアー客の中にいた『バウト・レビュー』というホームページの人にインタビューを受けている。俺は「なんだ、あの素人メディアに答えてるってことは、別になにも用ないじゃん」と思った。その証拠に、インタビュー後、彼らは2ショット写真をお願いして高阪も応じていた。しかも、彼らが写真を撮っていたら、後ろからルッテンがやってきて、こっそりVサインを出して写ってしまった。さすが、ルッテン。明日闘う相手に、子供のようなイタズラをするなんて。

それで、高阪もルッテンも大笑いしていたので、それが終わったあと、俺も再び写真をお願いした。すると、高阪は、また誰もいない方向を見回して、「あ……でも、もう行かなならんから……」みたいなことを言って、会場に小走りで行ってしまった。おいおいおい、高阪さんよお。そりゃないんじゃない？　俺ってそんなに気持ち悪い？　しつこくアメリカまで見に来るヤツが、気持ち悪いのかもしれないけど、別になにするワケじゃねえじゃねえか。ただ、ミーハーに写真撮ってもらって「がんばってください」って言いたいだけじゃねえか。それを、キョロキョロ下手な芝居までしやがって。特に外人選手でそんなヤツいねえぞ。ルッテンなんて、肩まで組んでニッコリよ。それに比べて、器が小さ過ぎるんじゃねえか？　お前らファイターだけど、突き詰めれば、人気商売じゃねえか。人気商売がファンのために、なんでもしなければいけないとは思わないけど、ちゃんとお願いしたら、写真ぐらい撮ってくれてもいいじゃねえか？　お前どうやってメシ食ってんだ？　売れないライターの俺だって、本を出す限り、それぐらいのこと、理解しているつもりだけどよお。たとえホームページでも、マスコミとわかれば対応するのかい。どうなんだい、おりこうゴリラさんよう！


蝋人形館のブードゥーの女性。最近のブードゥーの女性は、なぜか露出が少なくなった……。

俺はもう頭にきて、ルッテン応援を宣言。ツアー客には、やはりパンクラッシュな人が多く、どっちを応援するか聞かれていたけど、俺は「日本人がどっちもクソもねえだろう」と思っていた。でも、ルッテンはサイン入りのポストカードまでくれたもんねえ。高阪の傲慢さとは大違いよ。がんばれ、ルッテン。と、頭に血が昇ったところで、ルールミーティングはスタート。

そして、さらに俺の頭に血を昇らせることが重なった。ミーティング会場内での、写真撮影は禁止とのご通達が。え～、せっかくEOSを準備したのに、ガッカリ。で、俺たちツアー客は、まるで宿題を忘れた子供のように、会場うしろの壁にズラリと立たされるのであった。

ミーティングは、モーリス・スミスの独壇場だった。言葉はわからないが、質問をぶつけまくり、ミーティングをかき回して、得た情報をそのつど高阪に報告している。さながら『PRIDE』でのヒクソンといったイメージ。高阪もものすごい参謀を得たなと思う反面、写真のことがあったので「ケッ、パパのオッパイ吸ってやがれ」と思う。そう思ったのは、ちょうどモーリスと高阪の横に座った、タンク軍団の若頭・ティト・オースチンの態度があまりに格好よかったからだ。ヤツは一人でやってきて、ミーティングの間中、ずっとチョコレートバーをかじり、瓶からプロテインを鷲掴みにして、バリバリとやっていた。そして、一人で帰って行った。


ルールミーティングにて。ガーディアン・エンジェルス気取りでとても気持ち悪い、ライオンズ・デン軍団

に、しても写真撮影が禁止だとはイマイマしい。なぜなら、会場では、バウトレビューの人が、愛しのミカ嬢を使って、外人選手にインタビューまでしてバチバチ撮影してる。さらにどっかの記者として、来ていると思われるShowとかいう、360度日本人のクセに外人の名前を語る、小太り兄ちゃんまで、まるっきり小せえカメラでパチパチやってる。さらに、サムライTVでよく見る、高島という人と、名前は知らないが米良美一にソックリな格通記者は、ミーティングそっちのけで、カンカンガクガク言い合っている。耳をすませばどうも、ガイ・メッツァーのインタビューを取るか取らないかでモメてるようだ。高島という人は「取る」。米良似は「取らない」。たぶん、エンセンとの問題が絡んでいるのだろう。結局米良似が押し切ったようだ。

それを聞きながら、俺は「『紙プロ』って本当にバカだなあ。俺がUFCに行くっていったら、編集長が行くかもしれないから、検証ではやらないでいいって言いやがったもんなあ。行くワケねえじゃんと思っていたら、案の定編集長なんぞいやしねえ。自分にはなんの得にもならないのに、協力するって言ったのに、その態度だもんなあ。『紙プロ』の取材っていえば、撮影もできたし、ガイ・メッツァーだって単独でコメント取れたのに、なんと言ってもミカさんと話せたのに……」と、本音半分マスコミボケ半分で、ぼんやりと考えていた。と、そのとき、俺のボケ頭を切り裂く「ズシャ～～～」という、不愉快極まりないフイルム巻き上げ音が、会場全体に響いた。あの嶋田とかいう、「ゆで」だか「たまご」だかが、カメラを両手に持って、アワワと慌てているではないか！　それを見て俺はピーンときた。「なんだあ、写真撮影禁止って言ったのは、あの米良似が勝手に言ってるだけじゃん！　だって、嶋田って人、別にマスコミでもなんでもねえじゃん！」。どうもこのツアー、最初から気になっていたのだ。俺は、全日本中国旅行さんが企画したツアーに金を払い、参加したつもりだったのだが、なぜか格通の存在が見え隠れするのだ。それともこれは、最初から格通のツアーだったのか？　じゃあ、俺の払った22万のうちいくらかはベースボール・マガジン社に行ってるのか？　そんなワケないハズだ。きっと格通の協力（仕事ではなく）があってツアーが成り立っているのだろう。でも、そんなこと俺たちは知らないし、関係ない。ただの客なんだもん。要するに、旅行会社にアドバンテージがある格通、いや、米良似がマスコミ風吹かせたかっただけなんだろ？　ルールミーティングには本当は、マスコミしか入れないと、いうかもしれないけど、俺たちは堂々と正面から入ったんだぞ。つまり、主催者側はなにも言ってないってことじゃねえか。それから、話は飛ぶが、どうしても不思議でならないことがあるので、書かせてもらう。ツアーの全日程が終了し、カナダで行なわれるIFCとかいうノールール系の大会を見に行く人たちと、帰国する俺たちが、デトロイトで別れることになり、一応そこですべて解散ということになった。そこで、最初に挨拶したのは、俺たちの面倒を見てくれた、旅行会社の人ではなく、米良似だったのだ。それっておかしくねえか？　俺はお前に挨拶される筋合いはねえぞ。「おいおい、機内食はおまんじゅうなの？」と邪推されても仕様がないんじゃねえの？　まあ、どうでもいいんだけどよお。それは、どうでもいいけど、カメラがどうのイバられるのは、納得いかねえなあ。

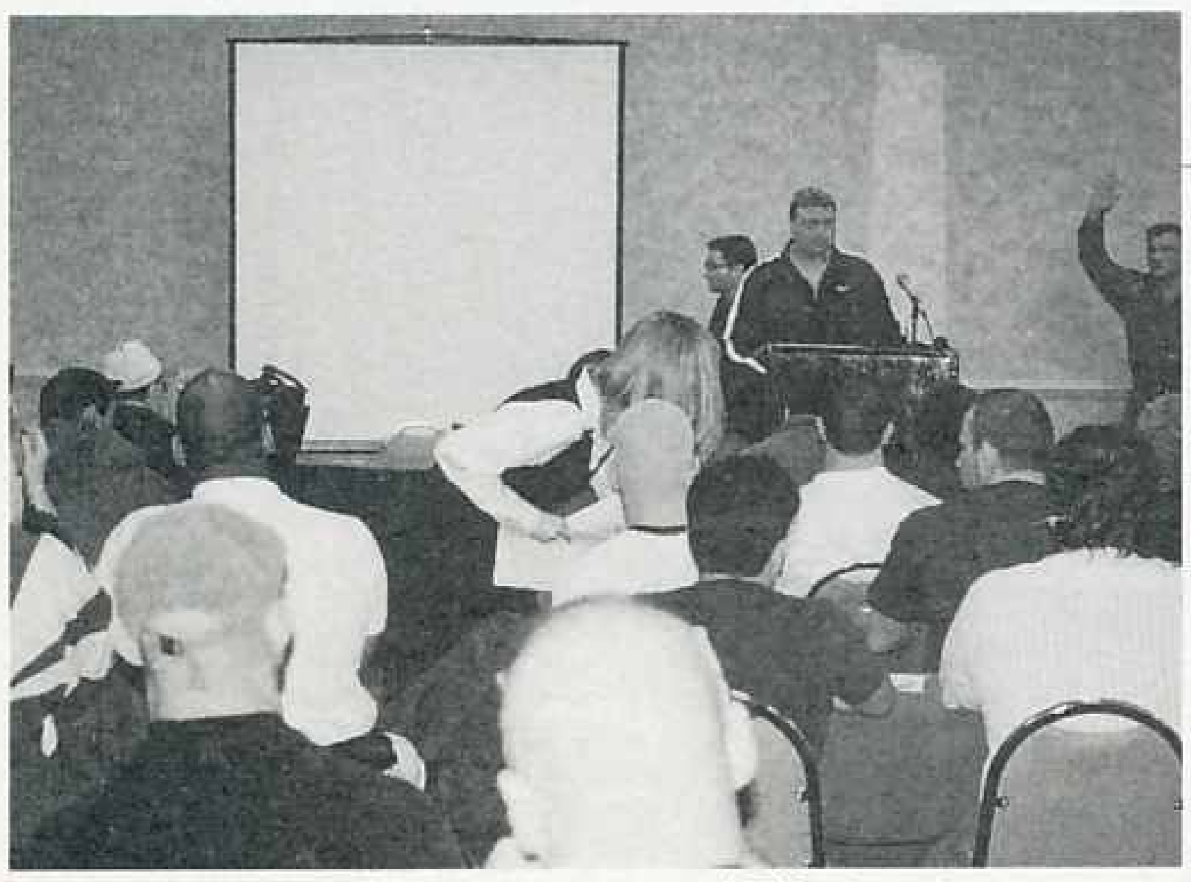
ルールミーティングが終了し、前々から言っていた、米良似との食事会とかいうのが、結局行なわれた。体調悪いんじゃなかったの？　俺は当然そんなの参加したくなかったので、トットとおさらば。ミカ嬢も行かないっていうし。俺は一人で、デニーズに行って、念願のコーラフロートを食べた。でも、写真は素晴らしかったフロートは、実際は炭酸が抜けていて、アイスも甘いばかりでメチャクチャまずかった。払いをカードで済ませ、俺の海外での定番ギャグ（寂しいゆえのコミュニケーション）の、「サインを漢字で書く」をして、黒人のおばちゃん店員を軽く笑わせて、部屋に帰って、寝た。いよいよ明日は大会本番だ。

グッスリ快眠で、元気に起床。コーヒー沸かして、シャワーを浴びて、ジェリー・スプリンガーでひと笑い。その後、ホテルの朝食バイキングを乞食のように、これでもかというくらい平らげ、絶好調。大会まで昼間は暇なので、スーパードームのショッピングセンターに出掛けることにした。ロビーに降りていくと、UFC関係の屈強な男たちに交じり、ヘルス・エンジェルスといったイデタチのおやじどもが無数にたむろってる。皆、ZZトップ風のヒゲを生やし、中にはアイパッチのヤツもいる。異様な光景だ。すでにみんな酒を飲んで楽しそうにやってる。外に出ると、みたこともないハーレーがたくさん止まっていた。なぜこのホテルにいるんだろ？

買物を終え、ホテルに帰るともう出発の時間だった。現金OK。タバコOK。EOSもOK。出発。全員でバスに乗って会場に向かう。会場は5000人くらい収容の体育館だ。ボディーチェックを受けて、ロビーに入る。そこでショックなことが判明。UFCのビデオは、16大会以降作られてないというのだ。せっかく駆けずり回って、ドルをGETしたのに……。売ってるグッズはTシャツ&ポスターのみ。俺はTシャツ3枚、ポスター1枚買う。で、いよいよアリーナに入ろうかというときに、日本語で呼び止められた。声の主は「ゆで」だか「たまご」だかが雇った、例の通訳のおばちゃんだった。

ツアーについた通訳（コーディネーター）のおねえさん（ミカ嬢ではない）と同じ会社の人らしく、少し雑談。すると、このおばちゃんが、パスがなくて、アリーナに入れないことが判明。ツアーの通訳嬢はパスを首から掛けているというのに!?　試合が終わるまで、椅子もないロビーで待たなくてはならないとのこと。おいおいおい、なんとかしたれや、嶋田とかいう「ゆで」だか「たまご」だか！　テメエ、このおばちゃんに世話になってんだろ？　テメエだけよければ、それでいいのか、この発●不●！　お金持ちなんだろ？　可哀相なので、俺と通訳嬢がいったんいっしょに中に入り、俺が通訳嬢のパスを持っておばちゃんに渡す作戦を考える。パスを渡すとき、おばちゃんは、久々にちょっと悪いことをするのが楽しいらしく、やたらとハシャいで、「トイレの前が廊下になってるから、そこに行きましょう」などと言っていた。でも、おばちゃんにUFCを見せるってだけでも、俺にとって最高のイタズラだ。

そんなこんなで試合開始。客は6～7割の入りってとこだが、さすがに本場独特の雰囲気はシビれる。俺たちの席は、格通様のおかげか、最前列で最高。試合は全7試合。全部レポートできないので、気になった試合を紹介する。まずは、パット・ミレティックvsマカコ。これは、試合内容はど


ルールミーティングにて。高阪、モーリス、ティトの後頭部3ショット。



快く写真を引き受けてくれたルッテン。

うってことなかったのだが、パット・ミレティックはUFCのライト級のチャンプなので、注目した。それは、UFCのライト級と、修斗のミドル級は、ほぼ体重が合うからだ。修斗のミドル級チャンプといえば、いわずとしれた桜井速人。マッハとミレティック、どっちが強いか見たかった。結論をいえば、打・投・極、どの局面から見ても、マッハが負ける要素はない。ぜひ、マッハにUFCのベルトを獲ってもらい、修斗と総合格闘技が〝銭が取れる競技〟となる、礎にしていただきたい、と思う。　次は、なんといってもティト・オースチンvsジェリー・ボーランダー。ルールミーティングで



結局、ルールミーティングのあと写真を撮ってくれました。でも3度目のお願いのときも、まだキョロキョロ周りを見回してた。なぜ？　なんだ、うしろにものの け……。

ライターは芸人なんだよ!! 芸人にプライバシーなんてねえんだよ!

すっかりファンになってしまった、ティト。対する、ボーランダーはライオンズ・デンの選手。ライオンズ・デン軍団は、ホテルでもずっと、黒Tシャツに迷彩パンツに編み上げブーツ、そして、黒のベレー帽で決め、うろちょろ幅をきかせていた。あたかも、ガーディアン・エンジェス気取りで、メチャクチャ気持ち悪い。エンセンの大和魂・ダサダサ軍団と衝突するのも、無理もないかな？　と、思ってしまう。好きvs嫌いの対決なので、自然に俺の応援にも熱が入った。試合は終始、ティトがグランドで上になり、インサイド・ガードからパンチを振り下ろす展開。すかさず、俺はリングス・オランダ大会仕込みのヤジ、「ハッカー！（ブン殴れ）」を叫ぶ。うしろの白人が笑っていた。結局、まさにティトがボーランダーをハックし、ボコボコにして、ドクターストップのTKO勝ち。長くドクターチェックを受けるボーランダーを待つ間、返り血で顔を真っ赤に染めながら、勝ちを確信してニヤニヤ笑うティト、格好よかった。

最後は、なんといっても、高阪剛vsバス・ルッテン。ルッテン応援宣言をした俺だった。しかし、高阪がオクタゴンに入るやいなや、腹に力を入れ、思いっきり「高阪がんばれ〜！」、ルッテンがコールされたら「引っ込め、ハゲ〜！」の有言不実行ぶり。当たり前だよね？　試合は知ってる人も多いと思うが、終始高阪ペース。顔面をガードし、半身になり、歩くようにして間合いを潰し、ルッテンの打撃を封じる、高阪。隙を見て両足タックルでテイクダウン。一方、ルッテンは、左ジャブすらローすらも入れることができない。逆に高阪の〝どこか、可愛いフォーム〟の右ローは、軽いながらヒットし、ルッテンの左太股が変色する。インサイド・ガードからパンチ＆エルボーを当て、何度もパスガードに成功し、トップポジション（横四方固め）を奪う。そして、そこから殴る。一瞬だがマウントも奪いかける。最初のブレイクで立ち上がったとき、ルッテンの顔はボコボコに変形していた。

俺とハマさんは、勝ちを確信して、「こ〜さか、こ〜さか」と、例の日本特有のどどんぱリズムのコールを巻き起こし、外人野郎の中浮きまくって、大喜び。ルッテンがハイキックを出せば「苦し紛れのハイキック！」なとど、口汚いヤジを飛ばして、ハシャいでいた。しかし、俺たちの安心をあざ笑うかのような、大どんでん返しが待っていたのだ。UFCは本戦12分。それで、決着がつかない場合は3分の延長戦という、ちょっと不思議なルールなのだが、本戦の後半になってしだいに、高阪のタックルが切られるようになってきたのだ。しかし、まあ時間的にも大丈夫だと思っていた。が、本戦終了間際か延長戦の開始早々かに、ルッテンの右ストレートが、ついにハードヒット！　そこから流れはガラリと変わる。高阪は両手を上げ、「効いてないよ」とアピール。だが、誰の目にも効いてたし、それよりそのあとも打撃の間合いを外せないでいるのがヤバい。そして、ジリジリと金網に追い込まれ、ついにルッテンのワン・ツー・スリー・フォーくらいの、ものすごいコンビが炸裂。操り人形のように、腰からマットに落ちる高阪。レフェリーは、即試合とストップ。俺は悪夢をみているように、茫然自失。

なにも考えられなかった。けど、自然に笑いが込み上げていた。パニクっていたのだろう。ただ、モーリスが「まいったな……」という表情で、髪のない頭を掻いていたのが印象的だった。でも、なぜここで頭を掻いてるのが、モーリスなのだろう？　山本じゃ成瀬じゃ坂田じゃ田村じゃないのだろう？　前田日明は小林よしのりよろしく、天下国家を説くけれど、自分の所属団体の旗の元にも集まれない、リングスの現状をどう思っているのだろう？　パンクラスの高橋も、修斗のエンセンも団体を背負って闘った。ルッテンも会場には若い生徒さんたちが駆けつけて、手作りの紙製横断幕を掲げて、応援していた。高阪を追い込むときのルッテンの目は凄かった。あれだけボコボコにされても、まったく諦めていなかった。この大会はルッテン売り出し大会だという人がいる。確かに、ポスターはルッテン一人だったし、マットのイラストはルッテンをデザインしたものだそうだ。しかし、勝敗のカギはブレイクの早さなのではなく、ルッテンのハートが高阪のハートに勝ったからだ。もし、高阪がもっとUFCで闘う理由が明確だったら……と、そんなこと関係ないか……。ただ、ルッテンはブレイブ・ハートで、高阪は強かったというのが、俺に残った事実だ。

高阪が花道を引き下がるとき、俺は居ても立ってもいられず、花道に駆け寄って、よせばいいのに手を出して「高阪、いい試合だった！」と叫んでしまった。すると、高阪は表情を変えず近づいてきて、俺の手をパチンと叩いてくれた。汗が染み込んだ、グローブの革の感触が残った。ありがとう、高阪。マヌケな言葉をかけて、ごめんなさい。

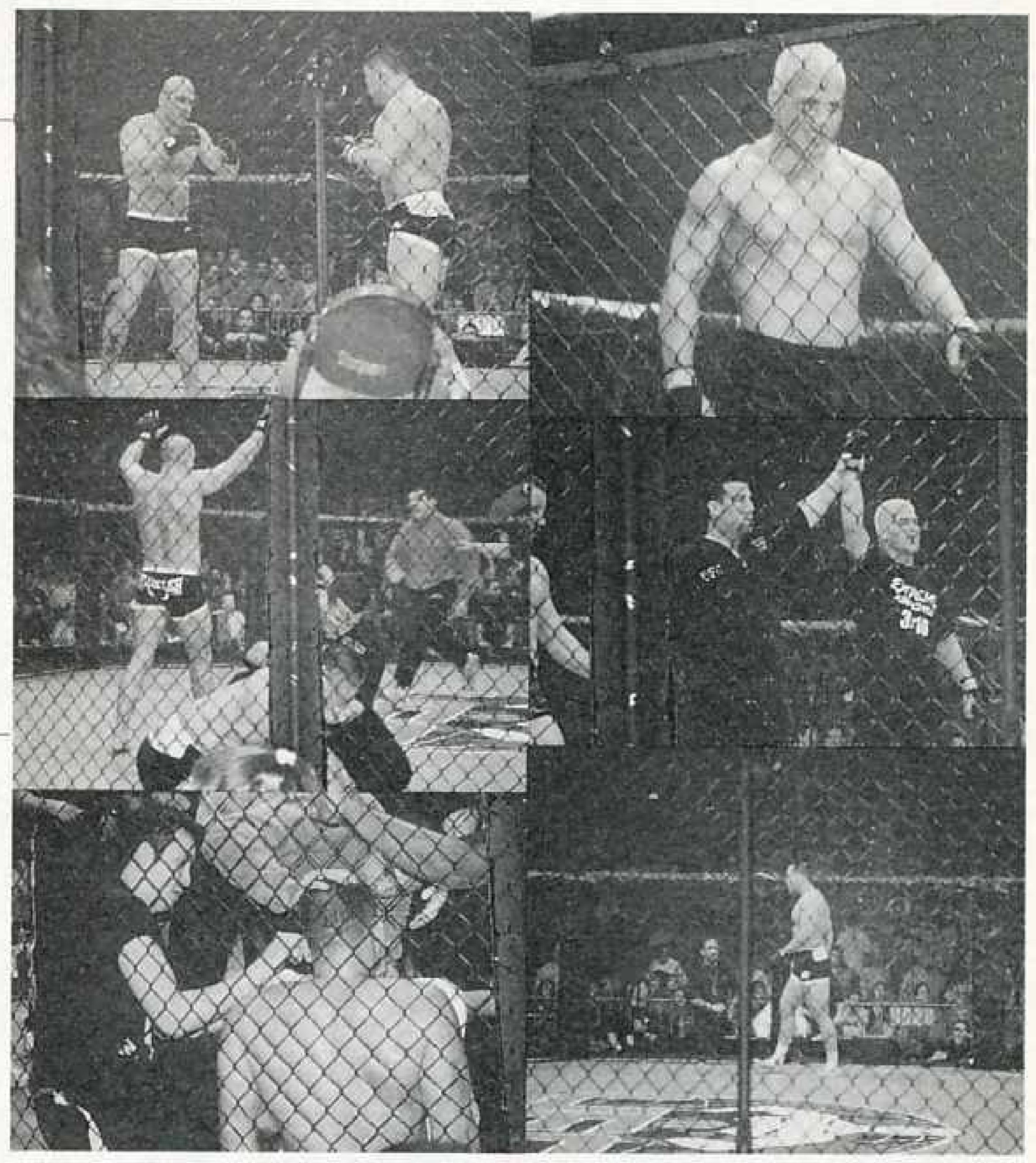


次のUFCは俺の出番だ!!

ホテルに戻ると、ロビーはアルティメット関係者とバイカーのおやじたちで大宴会状態。その様子を見ていたら、ティトが帰ってきた。すると、バイカーのおやじたちが「ティト、ティト」といって、あたかもジョーを出迎えるドヤ街のちび連状態。バイカーたちはティトの応援に、たぶんカリフォルニアからやってきたことが、ここで判明。やっぱティトすげえわ。俺も「コングラッチレーション」と言って握手してもらうと「テンキュッ」とやたら可愛い声で言う。さらに、会場で配っていたティトカードにサインをしてもらおうと、ボールペンを持っていったら、自分のポケットからマジックを出して、サインを書いてくれた。そして、それをくれるときに、また「テンキュッ」。メチャクチャいいヤツ。そこに高阪が帰ってきた。顔がボコボコだった。それを見て、昔ダン・スバーンのマネージャーをやってたおばちゃん（有名人）が「大丈夫？」と心配そうにいった。それに対し高阪は「大丈夫、大丈夫」とニッコリ笑っていっていた。ルッテンもブレイブ・ハートだが、高阪、お前のハートもタフだ！

ここにいても仕方ないので、みんなでバーボン・ストリートに繰り出そうということになり、いったん部屋に戻る。エレベーターに乗ると、ティト＆バイカー軍団が乗り込んできて、鮨詰め状態に。俺はティトの胸に顔を埋めるかたちで、幸せ〜♥　だが、ご機嫌のティトは、バンバンジャンプして、エレベーターを揺らす。ドアが開いたとき、エレベーターの床から廊下フロアーまで50センチも段差があるではないか！　俺はさすがにビビッて飛び出した。部屋に戻り、一人でいると悔しさが込み上げそうだったので、トットと降りで、街に繰り出した。生牡蛎食うぞ。生牡蛎！

飛行機がデトロイトから成田に向けて飛び立つと、見たこともない壮大な雪景色が窓の外に広がった。どこまでも真っ白で、デトロイトの街が雪の中に埋まっているように見える。空から見ると「本当にこの街機能しているのか？　もしかして全員遭難してんじゃねえか？」と思った。それを見ていたら、高阪がダウンするシーン、花道で手を叩いてくれたシーン、ホテルでボコボコの顔で、ニッコリ笑ったシーンが、頭の中によみがえってきて、ボロボロと涙がこぼれてきた。なぜ、涙がこぼれるのか、よくわからない。まあ、悔しいのだろう。でも、悔しいだけじゃないのも、確かだ。幸い帰りの飛行機はガラガラで、三つのシートを俺から占領している。誰にも見られないから、気持ちよく泣いて、機内食を食ったらトットと寝ちまおう。東京に着いたらプレステの『コナミ・実況ウイニングイレブン』を、思う存分やろう。

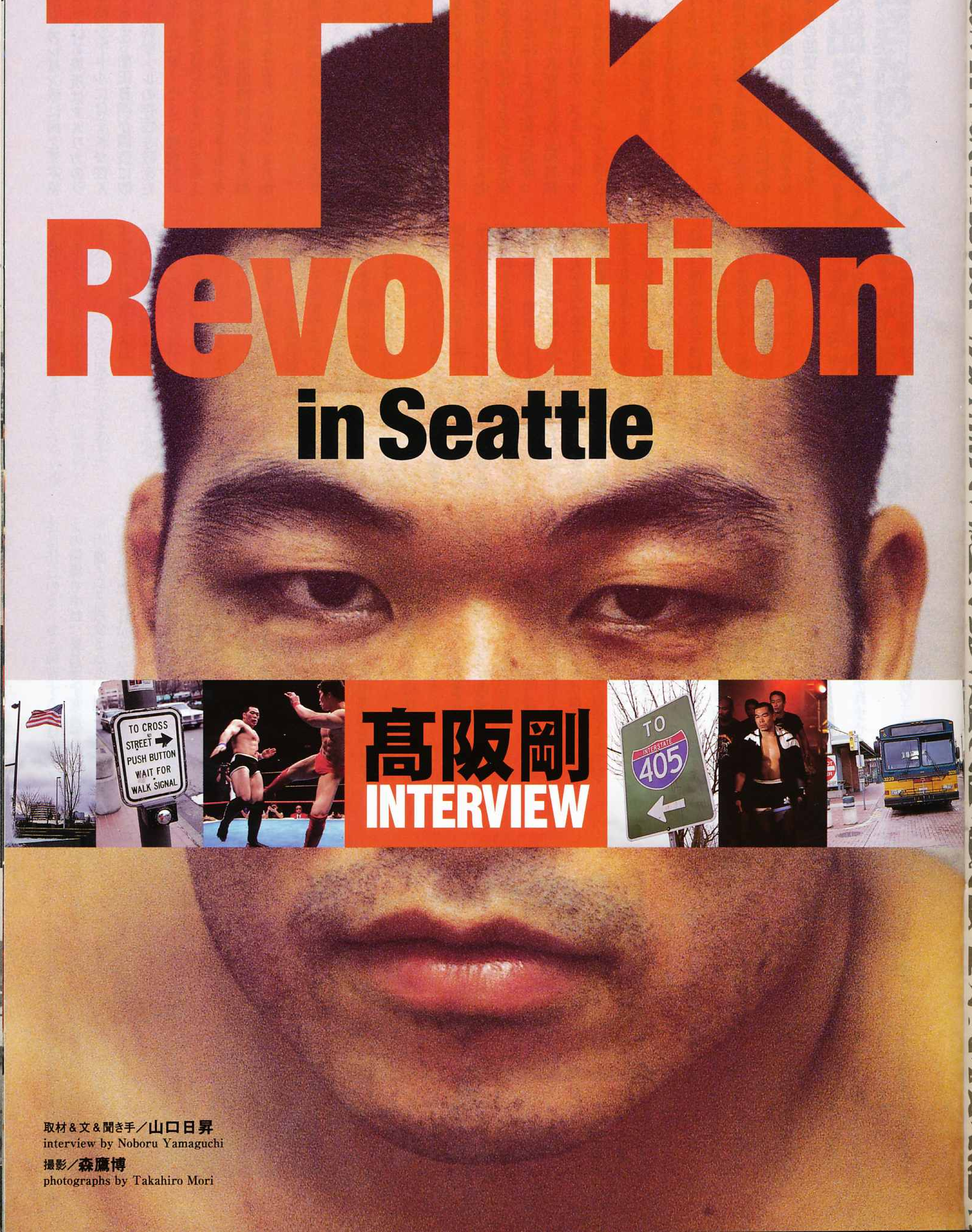


（右上）返り血を浴び、ニヤニヤするオースティン。（右中）３：１６と自分の名前をモジり、スティーブ・オースティンのパロディTシャツで、キメた。（右下）オクタゴンに入ってきた高阪。バナナを与えないでください。下のマットのイラストがルッテンをデザインしたというもの。（左上）ボコボコになりながら目は死んでいないルッテン。（左中）高阪ダウン。駆け寄るルッテンのセコンド。（左下）ドクターチェックを受ける高阪

バス釣り未成功！ KT(田村潔司)を一本釣り!!

TK Revolution in Seattle

髙阪剛 INTERVIEW



取材＆文＆聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

前田日明がカレリン戦に備えて本格調整を行っている場所はアメリカのシアトル。そのシアトルにはTKが住んでいる。そもそも前田日明が調整に取り入れている科学トレの存在を教えたのはTKなのだ（P122〜参照）。

前田日明の調整も見れてTKにも会えるならシアトルに飛ぼう。そもそもボクの幼稚園からの夢は国際的ビジネス編集マンになることなのだ（いや、これホント）。

前田日明の調整を見るのも楽しみだが、TKとも久しぶりに話すのは実に楽しみだ。

しかし、シアトルに行くにも、ボクは英語がしゃべれない。同行したカメラマンも1ミリたりともしゃべれない（いや、これもホント）。

空港に降り立ちレンタカーをなんとか借り、シアトルのダウンタウンから少し離れたベルビューという街に向かった。そこには、TKがほとんど毎日練習している「モーリス・スミス　キックボクシング＆サブミッションセンター」がある。

英語だらけの街並を死ぬ思いでスリ抜け、ようやくモーリスのジムにたどり着くと、TKがいた。

1・8のバス・ルッテン戦で負った左目尻の裂傷は、試合後5針縫ったにも関わらず、試合の6日後には、なにかの拍子で切れた程度の傷口にしか見えなかった。脅威の回復力である。さすが、〝怪物〟！

リングスの白いトレーニングウェアを着て迎えてくれたTKインタビューinシアトルをお届けしよう。

TK　ノラリスは見ました？

——は？　なんですか？

TK　リスが、その辺走ってますよ。

——あ、野良リスね。

TK　あと、野良アライグマとか。

——ガハハハ！　USAに住むと、こんなにもビッグマウスになるもんですね。

TK　いや、いるんですよ！　野良鹿もいるし。

——まあ、北海道にも熊が出没するんだから、いても不思議ではないけど、野良アライグマっていうのはどうかなぁ。

TK　いや、ホンマですよ！　海の方に行くと、貝とかザリガニとか洗って食べてますよ。……ザリガニは洗わないか（笑）。

——ガハハハ！　USAに住むと嘘までつくようになりましたか。

TK　いや、ホンマですって！　写真でも撮っとけばよかったなぁ。

——いや、信用しますよ（笑）。

TK　時差ボケじゃないんですか？

——大丈夫です。もうベルビューの街はボクの庭みたいなもんですから。あとは英語を話せるようになるだけですよ（笑）。

TK　英語なんてどうにでもなりますよ。毎日同じようなことばっかりしゃべってれば。やっぱり反復練習は必要ですね。あとは自分をいかに窮地に追い込むか！　ロープに昇って下に画鋲を置かれたら降りてこれないじゃないですか。そういう状態にすればイヤでも力つくし、覚えますよ。

——USAに来ても、いまえ話のキレは衰えてないですね。でも、いまの話はどんなことにも応用できますね。

TK　やっぱり環境は大事ですよね。ここは住むのと、あと練習するにはバッグンの環境ですね。暑過ぎず寒過ぎず。

——聞くところによると、週に6日ぐらい天気が悪い日があるそうですね。

TK　もっと言うと、週に1日だけ晴れ間が覗く時間帯がある。その瞬間を逃すと、もう1週間太陽は出ない。

——まさに情景が目に浮かんできますね。日本語は全く衰えてない（笑）。

TK　でも、ボキャブラリーがなくなりましたよ。ココだ！ってとこで言葉が出てこない。だからいま、中途半端な状態なんですよ。英語もメチャメチャうまく喋れるわけじゃないし、日本語もうまくしゃべれないし。

——そうすると寡黙な人になったりしないですか？

TK　ワハハハ！　あんまりならないですねぇ、これが。しゃべれないんだったらしゃべればいいじゃん！って。

——さすがUSAにいるとポジティブですね。ボクもこの取材旅行では窮地に追い込まれまくりましたからね。

TK　そしたら、イヤでも覚えるでしょ？

——いや、ボクの英語力はそういう次元じゃない。何一つわからない（笑）。シアトル空港に降りたったときに「あ、オレ英語しゃべれないんだ」と思って愕然としましたもんね。

TK　（出国カードの）滞在先とかなんて書いたんですか？

——モーリス（・スミス）のジムの住所書いちゃいました（笑）。

TK　何しに行くか聞かれませんでした？

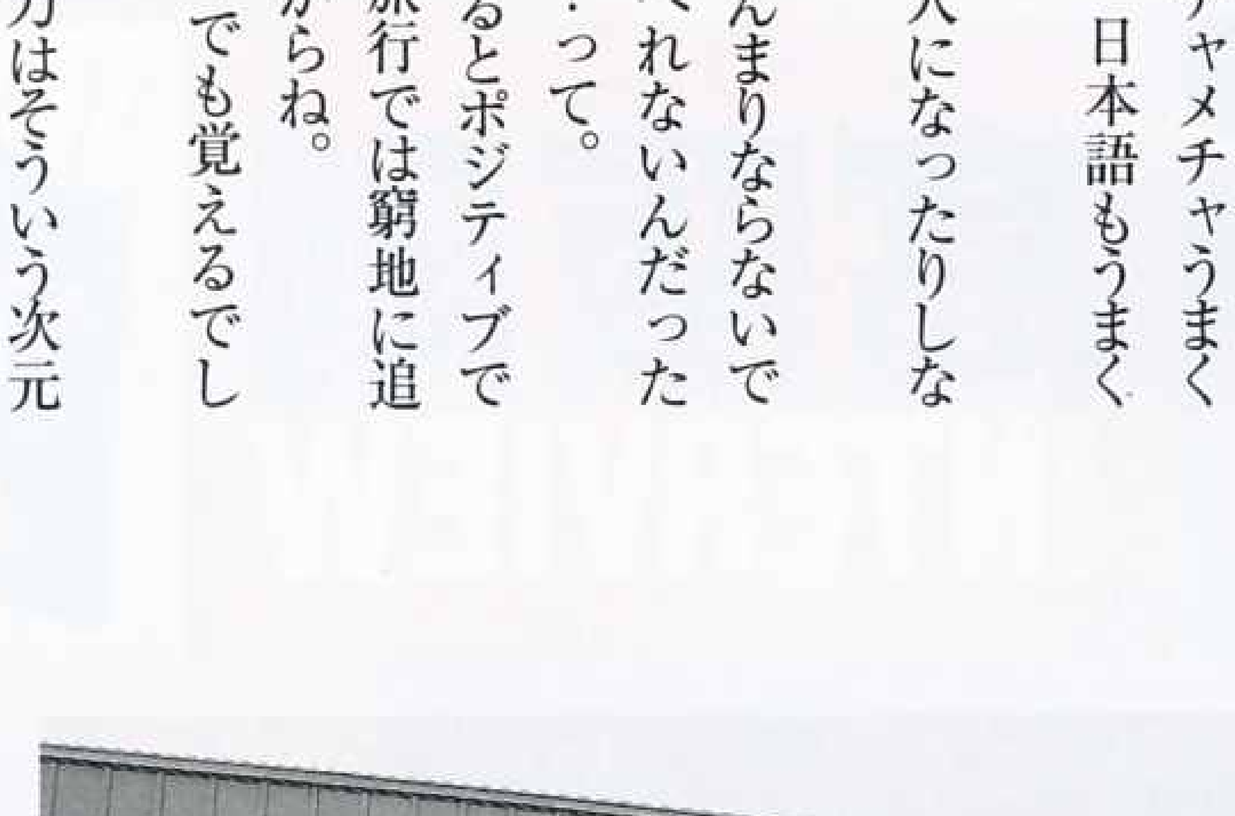
——「ボクの友人がプロフェッショナルのファイターなんだ」って言ったんだけど、全然通用しない（笑）。

TK　そりゃ誰も知らないですよ。だから自分は聞かれたら、「キックボクサーだ」って言ってるんですよ。

——ガハハハ！　いつの間にキックボクサーになったんだ！

TK　結構、近所の人とかみんな自分のことキックボクサーだと思ってますよ（笑）。

——「よう！　キッカー!!」とか言われ





シアトル郊外の、どちらかというと高級住宅街のベルビューにあるモーリス・スミスのジム。日本人も留学生などが数多く通っている。プロもアマもなく練習しているが、ここでは女子キックボクサーのバンビちゃんも練習しているのだ。Tシャツが日本の空手でいう帯がわりになっていて、黒のモーリスTシャツはワールドクラスの選手（ここでは、モーリス、TK、バンビちゃん）しか着てはいけない。「でも、ジム生はお金出せば買えるから意味ないんですわ（笑）」（TK談）

前田さんのトレーニングの結果がどう出るか楽しみなんですよ

て（笑）。

TK　「コイツは日本から来たキックボクサーだぜ！」って紹介されたりするんですよ。

——ガハハハ。でも、よく調べずにモーリスのジムの住所しかわからないまま来たんで、高阪さんの顔を見たときにはホント、ホッとしましたよ。

TK　ソレ、わかりますよ。よく住所だけ辿って来ましたよねぇ。でも、普通ピックアップとか頼んだりしますよね（笑）。

——節約、いや倹約ってやつですよ（笑）。

TK　英語もようしゃべらんと（笑）。

——電話するにも、英語わかんないから怖くてできないんですよ。とりあえず空港に着いて世界のTKのところに電話したら、ファックス音がピーッて流れてるし、モーリスのジムは留守電になってるし、レンタカー借りて車乗ったら右側車線だし（笑）。

TK　フリーウェイにヒシ形の標識があるでしょ。あれって「車に二人以上乗ってれば、このレーンを走っていいよ」っていうマークなんですよ。そこを一人で運転してたら一発で捕まりますよ。

——なんで捕まるんですか？

TK　要は一人に車一台っていう感覚をやめようってことでしょうね。「同じところに行くならみんなで乗りなさい」っていう渋滞解消用のレーンがあるんですよ。二人で乗ればこっちをスイスイ行けるんだぜっていう。みんな一人で乗ってますけどね（笑）。

——でも今日は前田さんの「科学トレ」に同行させてもらったんですけど、あの前田日明が科学的なトレーニングをしてる姿が新鮮でしたね。

TK　とにかく、あそこでやってる練習っていうのは、やったら必ず結果が出るんですよ。試合っていうものにポイントを置いて考えたら、受験勉強とかだと、勉強したのに出なかったっていうのがあるでしょ。でも、あそこでやってる練習は、技術とかそういうのを置いといて、根本的なところを上げていくものなんで、必ず試合で使うんですよ。やったらやるだけ全部出るから面白い。めっちゃ、キッツいですから、信じないとできないですよ。

——じゃあ、前田さんのカレリン戦も期待できますね。

TK　だから、どういうふうに結果が出るか、ボクも楽しみなんですよ。

——カレリンには興味ないんですか？

TK　う〜ん、見たことないからわからないけど、凄いとしか言いようがないんじゃないですか？　自分がやってた柔道で考えると、そんなに連覇してる人っていないし、自分が闘って「メチャメチャ強かったな」って思った人は、いまプロレスやってるし（笑）。

——あ〜、ナオヤ・オガワですね。

TK　だからカレリンについては前例がないですよね。想像がつかないぐらい凄いんじゃないかな。"人間以上、ゴリラ未満"じゃないですか。

——小川選手はやっぱり強かったですか？

TK　強かったですよ。自分が柔道やってたときなんて「コイツ、強ぇなぁ」っていうヤツ、100人ぐらいいましたからね。「コイツには勝てんわ」っていう、独特のオーラ持ってるヤツ多いんですよ。

——で、そもそも高阪さんがその科学トレを見つけたきっかけは？

TK　去年の8月1日にモーリスに挨拶しに行ったんですよ。そのとき既にモーリスは練習始めてて、練習のビデオを見せてくれたんですよ。で、面白そうだから「オレもできるの？」って聞いたら、たまたまそこにケビンさん（前田日明の本格調整inUSAのトレーナー＝P123参照）が来てて、「クリニックにさえ来てくれれば出来ます」って言ってくれて、最初は体験入学みたいな感じでやらしてもらったんですよ。そのとき、モーリスと（フランシスコ・）フィリオとグラウベ（フェイトーザ）が練習にきてたんで、モーリスと4人のプログラムをつくってもらって、確か3週間やったんですけど、明らかに全然違うんですよ。身体の一つ一つの動きが全部自分で支配できる。

——自分の身体の動きを支配できる！

TK　知らない間に動いてる状態ってあるじゃないですか。そういうとこまでも意識して動かすことができる状態になるんですよ。それで「凄い！」と思って前田さんにも紹介したんですよ。

——高阪さんはいまはやってないんですか？

TK　試合（1・8のUFC）までズッとやってたんですけど、プログラムが全部終わったんで、いまはやってないです。予定だと、次は3月の終わりか4月頃ですね。

——ところで、普段はどういう生活してるんですか？

TK　普段はね、試合に向けての練習っていう状態になると、朝10時からクリニック（前田日明が科学トレを受けている「ワシントン・インスティテュート・オブ・メディシン」）で練習してケビンさんに見てもらって、だいたいそれが昼ぐらいに終わるんですよ。で、一度休憩して2時か3時ぐらいからウェートを入れて、5時6時ぐらいからはジムでスパーリングも入れた技術練習ですね。

——じゃあ、ちょうどいま前田さんがたどってるコースと同じですね。

TK　だいたい同じです。だから、1日中なんかしら練習してる状態なんで、当然遊ぶヒマもないし、英語覚えるヒマもない（笑）。

——野良リスの観察ぐらい（笑）。

TK　ワハハハ！　そう、野良リスと戯れるぐらいですかね。でも練習内容がおもしろいから、毎日楽しいんですよ。帰るのがだいたい夜の10時ぐらいなんですけど、そこから飯作って食って、ビデオとか見てたら寝ちゃいますからね。

——といっても高阪さんを見てると、ガンガンにハードにやってるっていう感じじゃないですよね。

TK　クリニックでやってることがどんどんできてくるに従って練習時間が短くなるんですよ。不必要なことは一切やらないんで。ただその分、必要なことには

TK Revolution in Seattle

TK Revolution in Seattle

集中してね。だからその分だけ回復も早いし。モーリスのジムでの練習は技術が中心なんで、スパーリングっていうのは自分にとってレクリエーションみたいなもんなんですよ。いろんなタイプのヤツと楽しみながら、たっぷり時間を使って練習してますよ。

——そういえばこっちで釣りはしてないんですか？

TK　してないですねぇ。こっちに来てから二回ほど行ったんですけど、バスはやってないんですよ。こっちはサーモンが盛んで行ったんですけど面白くないです。バス（釣り）をズッとやってたから。バスってやらなきゃいけないことがいっぱいあるんですよ。それがはまったときの面白さっていうのが好きなんですよ。

——釣りでも自分を窮地に追い込むということですね。

TK　そうなんです。バスが好きなヤツっていうのはアメリカにも多いんだけど、特にここシアトルってところになると、そうじゃなくって、選択肢がないサーモンの釣りっていう方が受けるんですよねぇ。で、サーモンは食ったらうまいし（笑）。釣りは暖かくなったら本格的にやりたいんですけどね。

——逆に言えば釣りをやらないで済むぐらい練習が面白いってことですよね。

TK　面白いですねぇ。で、モーリスって遊びと練習っていうのがアイツの中でゴッチャになってるんですね。日曜日に「明日水泳しに行こうぜ」とか、「自転車に乗ろうぜ」とかあるんですよ。自分が来たときは8月だったから毎週、なんかやってましたよ。自分も身体動かすことは好きなんで、一緒にやってたんですけど、月曜日から土曜日までズッと練習やってるでしょ。日曜日も同じように身体動かしてたら2週間目ぐらいにガクンッて動かなくなったんですよ。考えたら「身体休むヒマないやんか！」「いつ休んだらええねん！」って（笑）。モーリスに3週間目の土曜日に恐るおそる聞いたんですよ。「モーリス、明日なにやる気？」って聞いたら、「オレもなんか、身体ダルいから、休もうかな」って（笑）。

——ガハハハ、ようやく気がついた。

TK　それでも「なんでだろうなぁ」とか言って（笑）。

——ガハハハ、仕事と遊びが一緒なのはいいけど、休むか休まないかくらいは決めろよって。

TK　それで「じゃあ、オレも休むよ」って言ってやっと休めたんですわ。

——モーリスって面白いですね（笑）。

TK　あいつはメチャおもろい！

——ところで、バス・ルッテン戦後の身体の具合はどうなんですか？

TK　いまの状態は一切集中力がないんですよ。だから、スパーリングできない。スパーリングやるとたぶんケガすると思うんで。

——リングススタイルとUFCの二本立ては辛くないですか？

TK　結構刺激があっていいと思うんですよ。UFCはUFCなりの試合の仕方っていうのがあるし。練習の仕方も変わってくるけど、それだけいろんな練習ができるっていうことになりますよね。だから練習にも刺激があるし、頭も活性化されて凄くいいですね。

——ルールの面でこんがらがったりしないですか？（笑）。

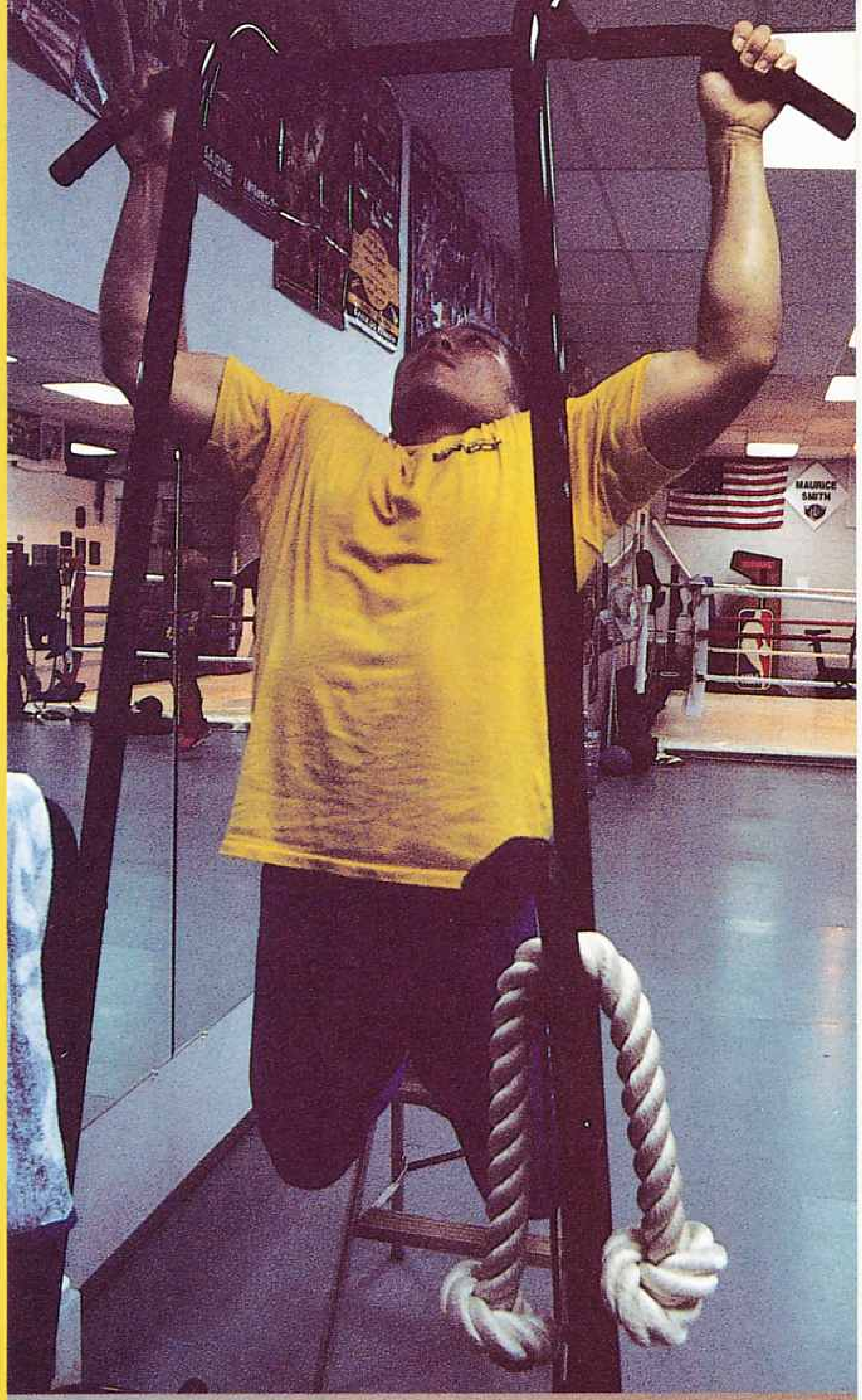
TK　しないですね。レガース付けたらリングス。外したらUFC（笑）。

——ガハハ！　シンプルでいいですね。

TK　手の先が黒くなかったらリングスだから、パンチはダメ（笑）。

——よくUFCに出てる選手とかが、「エスケープがあるのは良くない」「一発勝負の方がいい」とか言いますけど、そういうのは感じない？

TK　確かに感じることはありますね。





（バス・ルッテンは）やることにことごとく応えてくれた。タフですよね

要するにUFCっていうのは攻める状態のときに逃げ道がいっぱいある。

――攻める状態では逃げ道がある!?

TK　でも、防御のときに逃げ道がないんですね。一回倒れたら終わりだし、いいパンチ食らったら終わりだし、極められたら終わりだし。だけど、逃げるときの逃げ道がないかわりに攻めるときの逃げ道がいっぱいあるんですよ。要はやっていいことがいっぱいある。

――顔面パンチがあるだけで、攻め方の広がりがたくさん出てくると。

TK　これがダメならこっち、こっちがダメならもう一回あっちとか。そのかわりリングス・スタイルだと攻めるときの逃げ道が少ないんですよ。

――逆に守るときの逃げ道が多い。

TK　その逃げ道同士のレベルのバランスの取れてるところで勝負ができたらUFCは面白い試合になると思うんですよ。そのバランスが取れないとつまんない試合になったりとか、膠着したりとか一方的に負けたりとかね。

――UFCでは攻め方の補欠をいっぱい持ってた人とやった方が面白くなって、リングスでは逃げ方の補欠をたくさん持ってる人とやった方が面白くなるということですね。

TK　そうですそうです。

――で、先日、ニューオリンズの金網の中でのバス釣りに失敗してしまいましたね（笑）。

TK　ワハハハ、うまく釣れなかったですねぇ。

――釣れる予定だったんですけどね。

TK　前半は食いつきがよかったんですけどねぇ。

――延長前はもう釣れかかってましたからね。体調的にも準備万端だったわけですよね。

TK　そう、眠くもなかったし。エッジの部分の駆け引きで勝負が決まったっていう感じでしたから。もちろんバス（・ルッテン）も自分がタックルしてくるっていうのは予測してたはずなんですよ。それでも最初の2回か3回テイクダウン取れて、それでもう向こうが学習してましたよね。パンチ出したらそれに合わせて入られるとか、無闇に前に出るとカウンター合わせられるとかね。自分もそれぐらいは予想済みで、〝タックル入れても2回ぐらいだろうな〟と思ってたんですよ。あとは学習しちゃうだろうし、パンチも長いのは打ってこないだろうし、そのかわり狙って打ってくるようになると思ってたんですよ。だから逆に今度は誘って、〝的〟を作って打たせておいて、そこに入ろうって切り替えたんですよね。

――それは延長になる前の本戦のときですよね。

TK　そうです。多分8分ぐらいでタックル入れなくなったから、大振りさせないと入れないと思って。大振りさせるためにちょっと止まって的を作ってカウンターを取るっていうのをやろうと思ったんだけど、結局それもだんだんできなくなってきて。それが延長ぐらいですね。カウンターもできないから、もう一回カウンターを自分で作ろうと思ったんですよ。ちょっと誘って打たして、そこでモーションだけデカくしたら絶対ヒザとか狙って出てくるから、そこに入ろうと思ったんですよ。

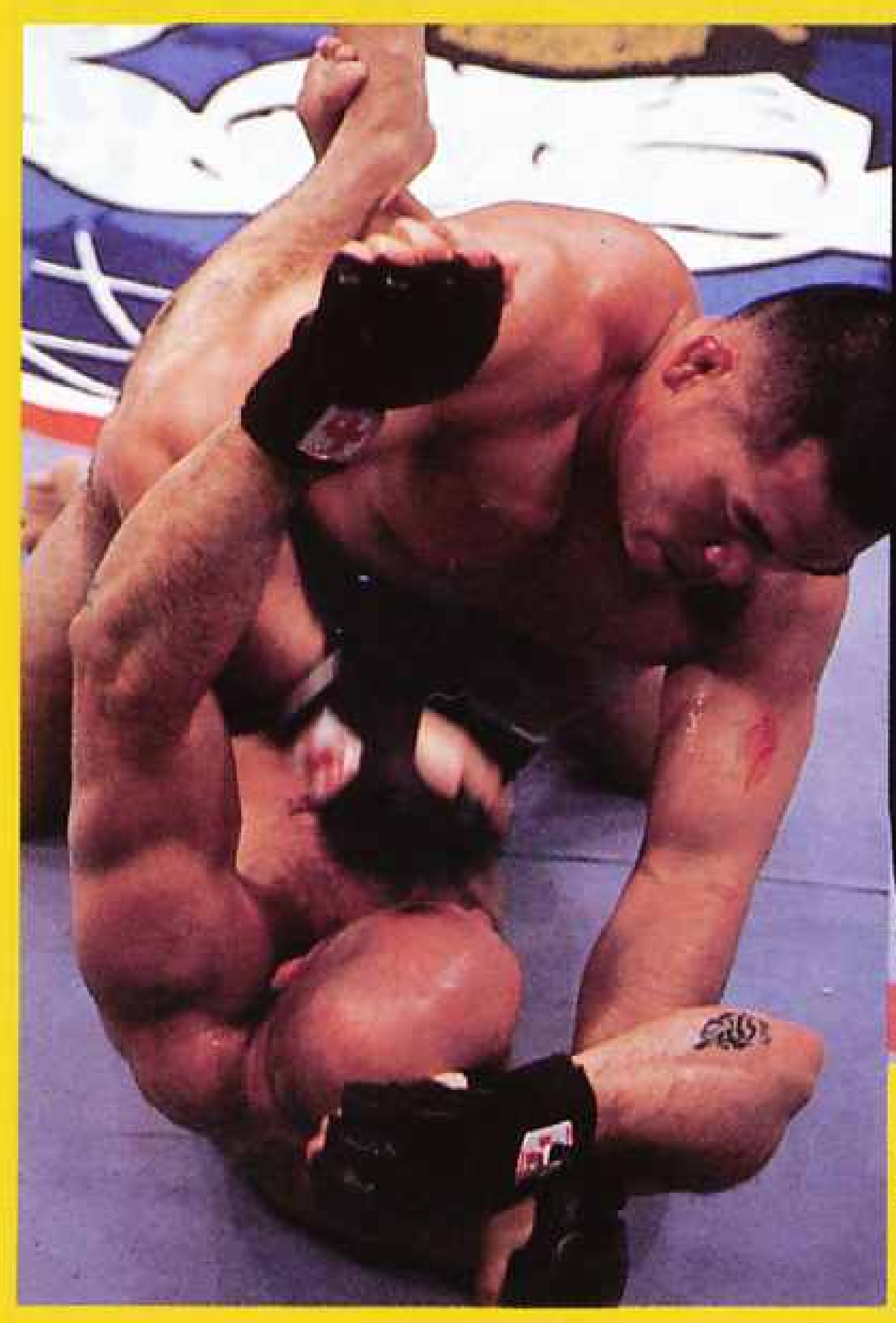
――そのときこそ釣ってやる、と。

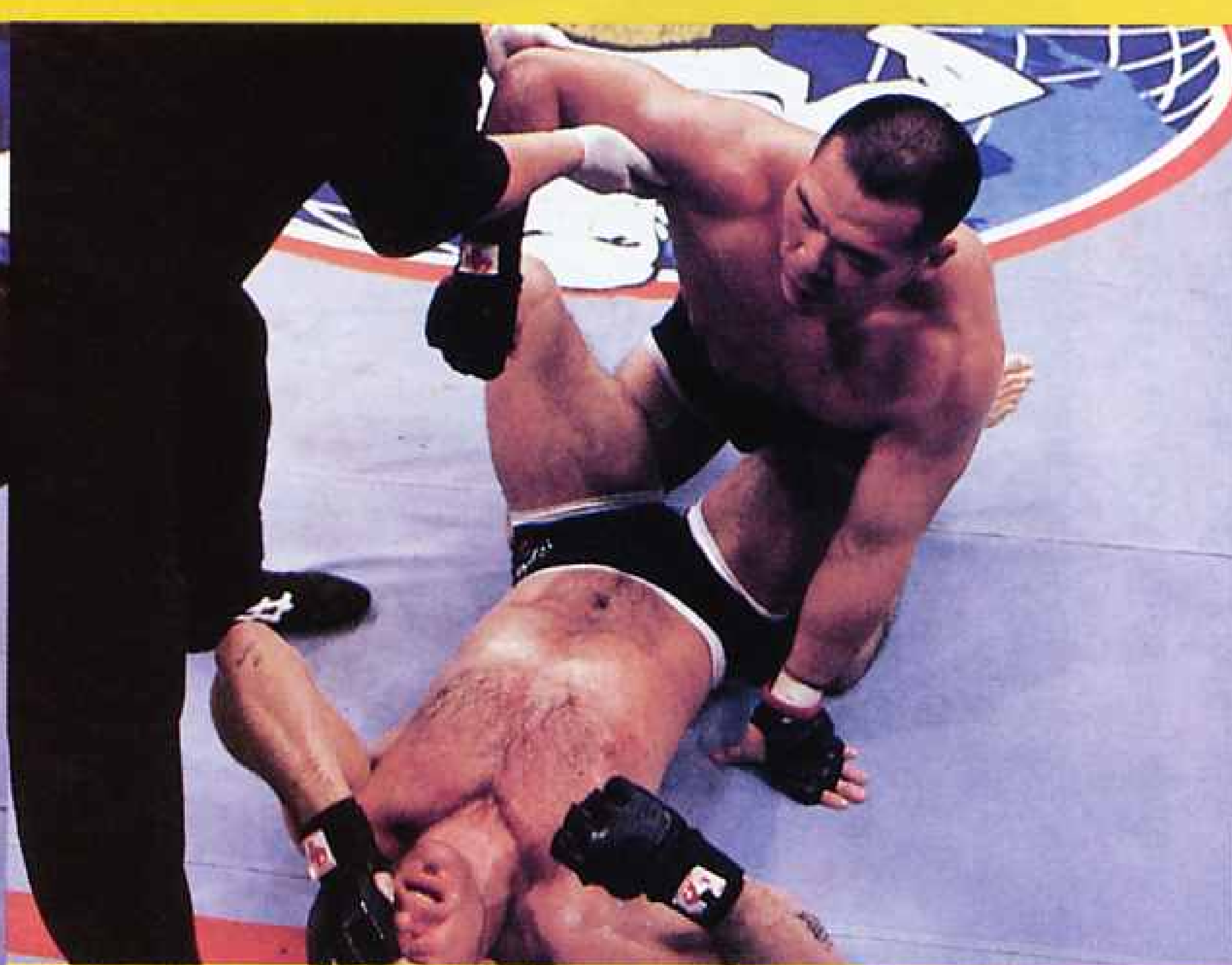
TK　延長になったときに、もう一回倒したら勝ちだと思ってたんで、一回に賭けて狙ってたんですよね。そしたら一発だけパンチが見えなかったんですよ。一瞬片目がふさがって、見えなくなったときにラッシュにこられたんですよ。それまで全部パンチもキックも全部見えてたのに、それだけ見えなかったんですよ。

――ここは相手の土俵に乗っかって「打撃で勝負してやるぜ」っていう単純なことでもなかったんですよね。

TK　打撃でもし勝負するんだったら左右の構えを逆にしてます。タックルの構えだとサウスポーですから。セコンドにも言ってたんですよ、モーリスとかに。「もしもどうしても打撃でいかなきゃいけないシチュエーションになったら〝右に変えろ〟って言ってくれ」って。でも自分は本戦終わったとき、モーリスが「どうする?」って聞いてきたときには「今回はテイクダウンを取るよ」って言ったんですよ。

――試合後のコメントで高阪さんは、「グラウンドならグラウンド、スタンドならスタンドで長けてる同士で闘うんじゃなくて、何かを試合で掘り起こすことが







1・8（現地時間）、ルイジアナ州ニューオリンズで行われた第18回UFC。TKはスーパーファイトでバス・ルッテンと対戦。本戦12分は、高阪が上になっての打撃攻撃で有利に運んだものの、「自分の釣り方でバス釣り」を狙った結果、延長戦2分13秒にダイナミックなKO負けを喫してしまった。噂されるUFC―Jで再戦があるなら、次は豪快なTK流のバス釣りを期待したい

見ている人がそう思うのはいいけど
vsパンクラスという意識はない

できたら」って言ってたんですけど、これは一体何を掘り起こそうとしてたわけですか?

TK 要するに、スタンド、グラウンド、関節、テイクダウン、どれか一個で絶対倒せるものを持ってないと勝てない時代になってきてると思うんですよ。全部が全部うまくならなきゃいけないわけじゃなくて、テイクダウンなら必ず倒せるテイクダウン、必ず取れる関節、必ず優位に持っていけるようなガードの入り方とか、必ず倒せるパンチを持つ。っていうのが必要になってきつつあると思うんですよ。その中で自分は今回、スタンドの攻撃と関節は捨てて、テイクダウンとグラウンドで優位に持っていってからの、グラウンドのパンチっていうのをやりたかったんですよ。その中でバスっていうあれだけ優れた選手とやることによって、もし自分が今回の練習の通りのものが出せたら自信になるし、できないことがあったら、それは課題になって残る。そういうものを見つけたかったんですよ。

―バスは釣れなかったけども、実験はいろいろやったから面白い釣りをやったって感じですかね。

TK 今回で、ある程度答えが見つかったんですよ。負けはしたけども。要はグラウンドの展開とか、テイクダウンの仕方っていうのは自分で練習したことができたんで、あの状態での答えっていうのは出たんですよ。あとは、そこから繋げていく部分をやっていけばバッと幅が広がるかなぁと。だから、延長になっても逃げ切れる自信はあった。だけど最後までそれでやりたかったんですよね。だからスタンス変えないで、どうせ勝つんだったら自分のやり方で勝ちたかった、今回は。頭の中で描いてたプランで勝ちたかったっていうのはありますね。

―自分の釣りをしたかった。

TK 人のを見て、あっちであれが釣れてるからオレもこっちにしようかな~とかよりも、オレのやり方でバーッと釣ったらカッコエエやんけ!っていうのがあって。

―ガハハハ! 金網の中でアナログなことやってますねぇ。「打撃で勝負してやるゼ」という意地の張り方じゃなくて、「自分のやり方を押し通す!」という意地の張り方だったんだ。

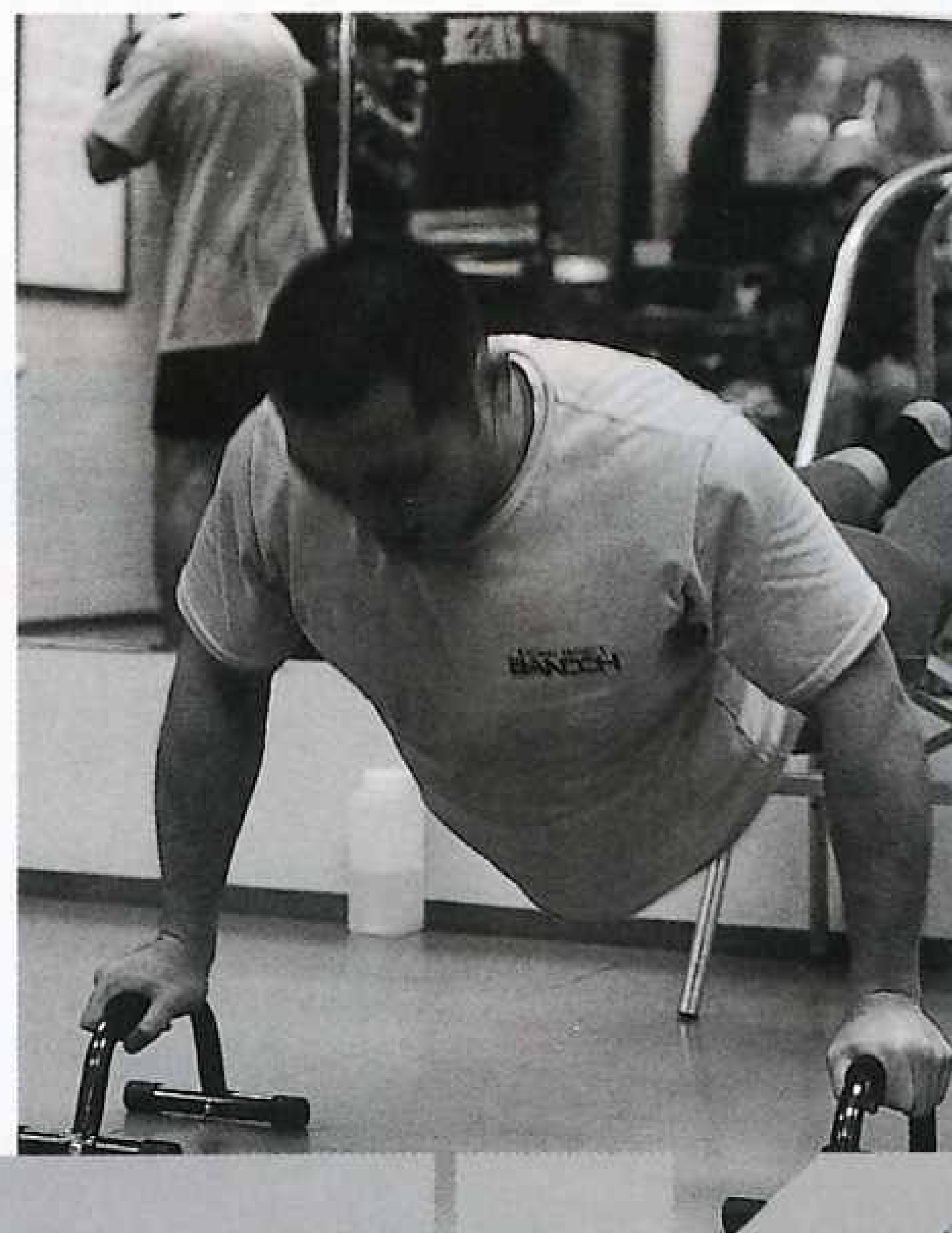
TK それやったら、終わってからも胸張って言えますからね。でも、ああいう相手だからこそ、そういうのができるんで、いつでも取れる自信が試合中に出てくるような相手であれば、そういうふうに試したい気持ちとかはなくなりますよね。窮地に追い込まれてないから、頭を使って身体も使ってっていう状態にはならなかったと思うんですよね。

―さすがバス・ルッテンは強いってことですね。

TK だから、試合して凄い面白かったですよ。やることに、ことごとく応えてくれるっていうか。タフですよね。

―vsパンクラスとか、vs元キング・オブ・パンクラシストとかそういう意識はなかったですよね。

TK 全然ないですね。見てる人がそう思うのはしょうがないと思うんですけどね。



TK Revolution in Seattle

―ボクも、それは「あったぜ! ブッ殺したかった!」って言ってくれた方が数百倍面白いですよ(笑)。

TK アメリカ人だってそうやって見た方が絶対面白いですよ。「日本で敵対してる者同士が闘うんだゼ!」とかね。

―「大将同士が昔は仲間だったんだけど、いまは仲悪いんだゼ!」とかね(笑)。

TK いまは敵対なんかしてないですけどね(笑)。だけど、試合を見てから感想を聞きたいですね。「本当にそういうふうに感じたか?」って。「単純に個人のファイターが一つのルールの中で闘ってる、そういう試合だろ?」って単純に胸張って言えるし。もし、日本でそういうふうに見てる人がいたら、なんとかビデオを手に入れてゼヒ試合を見てほしい。そういうことは微塵も感じないと思いますわ。

―高阪さんや桜庭さんとかは、フリーファイトと言われるものを開拓者してる最中ですよね。高阪さんなんか、アメリカにまで来て開拓してるし。

TK もう堀りまくってますよね。

―身をもってね。そうやって地面を掘って木を植えて、これから花を咲かせなきゃならない。でも、そのシンドイ作業の割りには報われてないですよね。メディアへの露出ということまで含めて。

TK でも、自分の頭の中でバランスは取れてますよ。自分が好きでやってることですからね。

―その辺は高阪さんの性格ですか。

TK 好きなことには金は惜しまないですからね。バス(釣り)にいくら使ったんだろう? ボートは買うし、リールだけでも1個3~4万するやつ12~13個ありますよ。ルアーとかもメチャメチャ買ってるし。やりだしたらそれ以外のことに一切お金使わないですから。

―やるね、TK!(笑)で、これからマット界も変わっていくという転換期に、大将の前田日明が引退試合をやるんですよ。御存知ですか?(笑)。

TK 2月21日でしたっけ。

―おぉ、よく知ってますね(笑)。前田日明が引退するということに関して率直なところ、どういう感想を抱いてますか?

TK 正直言って考えてなかったです

（笑）。自分、前田さんにメチャメチャ憧れて入ったわけじゃないんで、一人のプロのファイターが引退するって感覚ですね。引退するのは年齢的なものとか身体のことを考えればしょうがないですし。逆にあれだけのビッグネームが去るわけだから、チャンスだと思うし。ポッカリ空いた穴にアメーバーのように入り込むんですわ（笑）。でも、自分が前田さんを超えることはまず無理ですね。

——それはどうして？

TK　前田さんと同じやり方をして超えるのは無理ですね。自分が冷静に見て「イケる」と思ったら、前田さんと同じことはまずやらないですね。

——それは戦略としては正しいですね。

TK　前田さん、高田さんっていうのはスーパースターだから、メディアが作りあげた虚像と実像が一緒になってる世界にもいますよね。

——フィクションとドキュメンタリーが混ざりあってるような。

TK　そこでこういうことはできないと思うんですよね。それは無理だから、だったら全く別のものとしてやれば、ということですよね。

——いまの高阪さんみたいに前向きな意見がもっともっと若い選手から出てこなきゃ発展はないですね。

TK　いまは「選手が強いのはわかるよ」っていう状態だと思うんですよ。

——そうですね。

TK　でも、そこまでなんですよ。

——逆に、自分で責任を持って、自分のやりたいことを伝えるという意味での演出方法も考えなきゃいけない。

TK　後ろからちゃんとやってくれる人がいれば別ですよ。キモのときの誰でしたっけ？

——ジョー・サン（笑）。

TK　あれは極端な例だけど、自分で周りをコントロールできるぐらいの何かを持ってないと。そういう連中がいっぱいいる業界だと活性化されますよね。

——アメリカのボクシングなんて、試合の盛り上げ方も選手一人ひとりが、選手なりに「試合のテーマ」を掴んで頭を使ってますからね。試合前には当然のように罵りあうし（笑）。

TK　CMでペプシコーラがコカコーラを名指しで批判したりするじゃないですか。ああいうのはやっぱ、みんな好きじゃないですか。

——アメリカ人に限らず、人間はそういうのが好きなんですよ。エキサイトするし（笑）。だから、「ハイ、次にこういう試合やりますよ」っていうだけじゃ振り向かないですよね。

TK　批判するだけじゃなくて、共感するところがあったらそれも言っていいと思うし。自分の意見を表に出せる状態にしていくってことが大事だと思いますね。

——ところで高阪さんは、前田日明という存在がリングからいなくなって寂しいっていう思いはないですか？

TK　……あの～、ないんです（笑）。

——ガハハハ！　ない。

TK　申し訳ないんですけど。頭の中で、もうすに消化しちゃってるんですよ。

——じゃなきゃ、アメリカに来てないですよね。

TK　いまは、これからどういう戦略でやっていくかとか、アメリカのメディアでどうやって取り上げてもらえるかとか、そういうことで自分なりの考えが徐々にまとまってくると面白いんで、そればっかり考えてるから（笑）。

——前田日明のことを考えてる余裕がない（笑）。

TK　自分がこっちに来る時点で前田さんが引退するってことに関しては消化してるんで、正直言ってなんにもないんですよ。

——リングス入りする前に、高阪さんが「前田日明を見て、コイツには勝てんのちゃうかな、と思った」んですよね？

TK　例えば、練習ひとつにしてみたって、自分が入門したときは練習でコテンパンに負けてたし、スパーリングやっても地力の違いっていうのを感じたし。芯を持ってる人っていうのは、いくら筋肉



リングスジャパン参戦『SAMURAI 3』

ロンドン観戦ツアー

【旅行期間】
1999年3月5日（金）～3月10日（水）6日間

【旅行代金】
¥218.000円（おとな一人）
※一人部屋追加代金¥44.000円

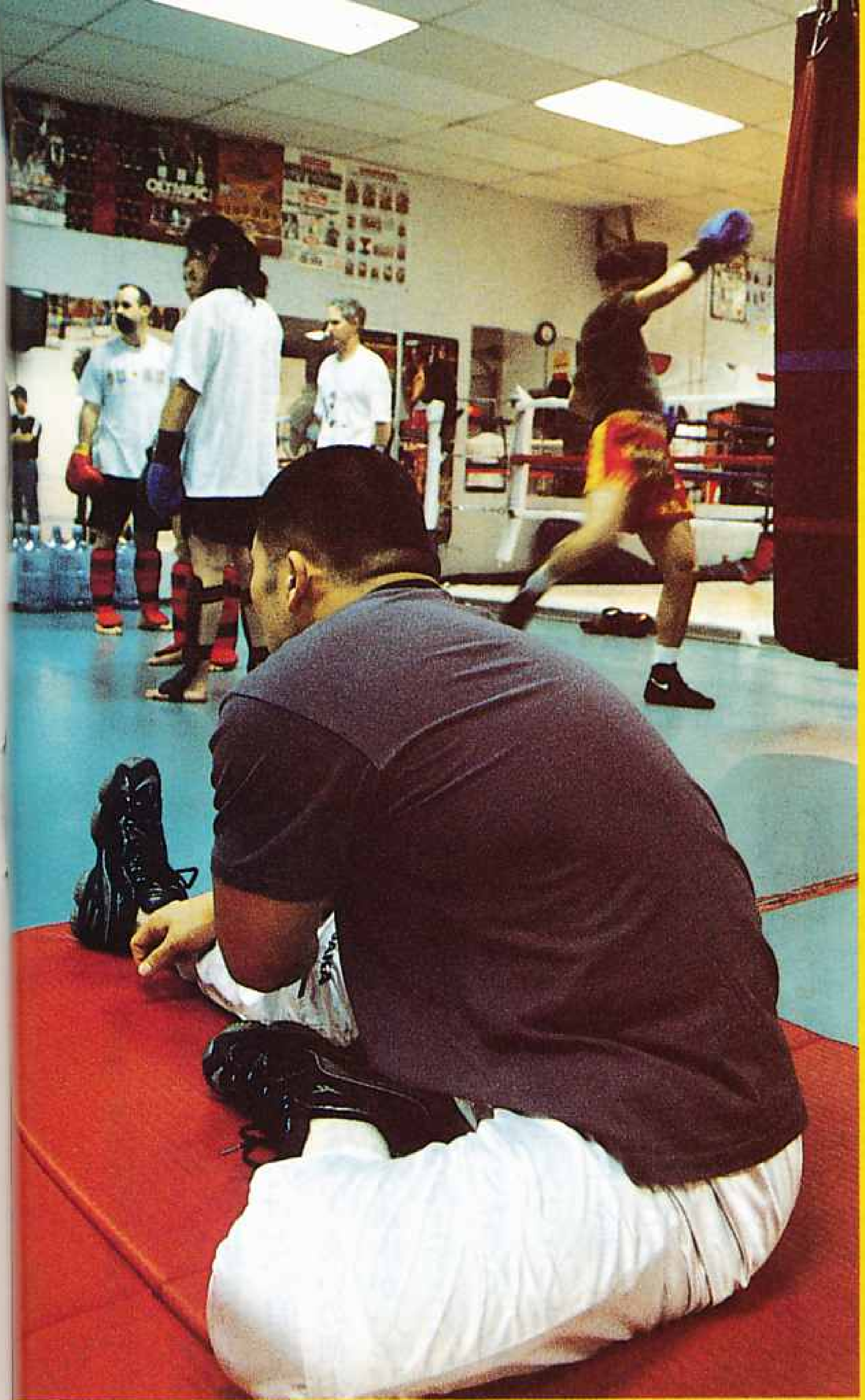
【利用予定ホテル（ツインベッドルーム・バス付き）】
ロンドン……ケンジントン・ヒルトン・ホテル
ミルトンキーンズ……ヒルトン・ナショナル・ミルトンキーンズ、ムーア・プレイス、ハットンコートホテル、フォルテ・ポストハウス・ミルトンキーンズ、クオリティ・フレンドリーホテル、プレミアロッジ・ファートンレイクのいずれか
【利用航空会社（エコノミークラス）】ヴァージン・アトランティック航空（VS）
【食事】朝：4回・昼：1回・夕：0回
【添乗員】1名同行
【募集人数】30名　【最小催行人員】20名
【企画主催】株式会社リングス
【参戦予定選手】坂田亘・滑川康仁

『SAMURAI 3』日程表

1	3/5（金）	午後：東京（成田空港）発 午後：ロンドン着　着後、ホテルへ 【ロンドン泊】	昼：機内 夕：―
2	3/6（土）	終日：自由行動　各種オプショナルツアーをお楽しみ下さい。 【ロンドン泊】	朝：○ 昼：― 夕：
3	3/7（日）	午前：自由行動 午後：ミルトンキーンズへ移動 夕刻：SAMURAI 3観戦、観戦後、アフターパーティーに参加【ミルトンキーンズ泊】	朝：― 昼：― 夕：―
4	3/8（月）	終日：前田日明同行による（予定）リングスオリジナルオプショナルツアー 【ロンドン泊】	朝：○ 昼：○ 夕：―
5	3/9（火）	出発まで自由行動 午後：ロンドン発　【機中泊】	朝：○ 昼：― 夕：機内
6	3/10（水）	午前：東京（成田空港）着 着後、解散	朝：機内 昼：―

問い合わせ・お申し込み先

JTB海外旅行虎ノ門事業部第三支店
【担当者】橋本俊之・高島由佳
TEL.03-3504-3016　FAX：03-3504-0735
〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-26-5　17森ビル7F
【営業時間】月～金　9：30～17：30
【旅行主催】株式会社日本交通公社



仲間と思う人間じゃなければ日本人とVTやってもいいです

が衰えようと残るものなんですよ、絶対。前田さんも絶対にそういうの持ってる人なんですよ。

──高阪さんにとって前田日明っていうのはどういう存在だったでしょう?

TK　複雑な関係だったんですよ（笑）。

──ボクらには測りしれない関係、みたいなものがありそうですよね（笑）。

TK　前田さんっていうのは、いろんなものを背負ってるんで。あるときはマッチメーカーだし、あるときは師匠だし、だからといってプライベートでは普通の兄貴だし、仕事の話になると経営者だし、いろんな面を持ち過ぎてて、自分はできるだけ全部分けて話してたんですよ。でも前田さんはあまりにも側面が多すぎて、自分で分けられない状態になっちゃったんですよ。

──全部一緒になっちゃった。

TK　そう、だから複雑な関係でしたね。

──要はわけわからん関係、と（笑）。

TK　ホントに最後の方はわけわかんなかったです（笑）。そのかわり、個々にある面で親しみやすいところは持ってましたよ。普通の会社のオッサンにはこういうことは言えへんなぁとか、普通兄貴にはこんな話はできへんなぁ、とか。一個一個バラにするとキャパシティーがある。そういうところは好きでしたね。

──ここのところ身体にもキャパシティーありますけどね（笑）。このトレーニングで変わるでしょうけど。

TK　あのトレーニングでキャパ、狭くなると思いますよ。

──でもケビンさんは、「普通の社長はこんなことできない」って言ってましたよ。シアトルまで来て、一から「はい、はい」って聞いてやってますからね。

TK　その辺が人間のキャパシティーだと思いますね。

──前田さん、高阪さんに上げるために日本刀持ってきたんですよねぇ（笑）。

TK　今度、UFCで使おうと思ってるんですよ。持って出て行きますよ。

──絶対嫌がってるだろうなと思ったんだけど（笑）。

TK　あれはいいですよ！　あれをきっかけにキャラ作って、ひょっとしたらハリウッドデビューとか（笑）。

──ガハハハ！　なに役で?

TK　撃たれ役（笑）。

──ガハハハ！　いま、やってみたい相手とかいないですか?

TK　とりあえず、もう一回UFCでバスとやりたいですね。

──日本人とのバーリ・トゥードはやりたくない?

TK　っていうか、日本ではやりたくない。日本というよりリングスではやりたくないですね。グラウンドで殴るときになんの違和感ももうないし。もともとなかったけど、そういうルールの競技だから。だから、特別に仲間と思う人間じゃなければ別に日本人と試合やってもいいですよ。でも、仲間意識がある人とはやりたくないですね。友達であっても仲間じゃなければ試合してもいい。

──友達であっても仲間じゃない?……難しいですね（笑）。

TK　いや、知ってはいるけれども、よく知ってはいない人……なんだ、ソレ！（笑）。よけいわけわからん（笑）。

【99年1月14日（現地時間）／シアトル郊外モーリス・スミスジムの近くのジャパニーズ料理屋（店名メモし忘れ）にて収録】

TK Revolution In Seattle


というわけで、紙数が尽きてしまった。この後、TKはUFCから間もないというのに、リングス1・23武道館に凱旋し、田村潔司を豪快な払い腰からの腕ひしぎ逆十字で破り、リングス・ランキング1位となった。

やはり、いくら〝怪物〟と言われ、回復力が早いとは言っても、TKもホモ・サピエンス（いや、これホント）。UFCでの疲れが抜け切れないのか、勝利を得たとはいえ、田村との一戦という高度な試合ではやりたいこともできなかったようだ。

田村は試合後、TKに「（高阪は）強くなりました。乗られた瞬間に、ああ、今日はダメかなと思った。（中略）乗る技術とかは素晴らしい選手だと思うんですけど、それと同時になんかを失っているような気がしますね」という〝謎かけ〟を投げてきた。

TKは3月くらいまでオーバーホールする予定だというが、次に日本に帰ってきたときのTKは、必ず田村の謎かけに応える形で、リングスでも「自分なりの釣り」を見せてくれるに違いない。

というわけで、TKがオーバーホールしている間、実に寂しいので、再びシアトルに行くわけではないのだが、次号では、フリーファイトの今後、リングスの今後などの話に雑談をも加えた濃縮ロングインタビューの続きをお送りしよう。



みちのくプロレス
ハルマゲドン！

どうなる、みちプロ？ ガンバレSASUKE!!

レスラーや芸人にプライバシーなんかねえんだよ！

SASUKE

みちプロ分裂直前 Intervew!

&スペル・デルフィン退団記者会見

Dearニック!! 微震を続けていたみちプロにとうとう大激震が起こった。1・13後楽園大会のリング上で離脱表明をしたデルフィンに続々と選手が追随していったのだ。みちのく真っ二つ！ どうなる、みちプロ？ 当然『紙プロ』ではSASUKEに取材を申し込んだ。しかしその頃、SASUKEは3週間のプロレス活動謹慎中。どうする、紙プロ？ ……あっ、そうだ、思い出した。そういえば後楽園の試合前にSASUKEにインタビューをしたんだ。すっかり忘れてた。ちっとタイムリーじゃないけど、今回はこれで行く。みちのく分裂騒動直前インタビュー「ドキュメント'99 SASUKE劇場開演！」

聞き手／チョロ（サスケ組）
interview by Choro (Sasuke-Gumi)
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

1・13後楽園大会で離脱表明をしたデルフィンのFA会見が17日都内で行われ…るはずだったのだが、当日現れたのはデルフィンだけではなかった。選手、レフェリーも含め総勢7名が会見場に現れたのだ。会見は一転して、7名によるみちプロ離脱会見となったのだった。その会見の様子をうかがいにSASUKE社長も顔を出した。当然SASUKEの耳にはその旨が伝わっておらず、会見は泥沼状態となってしまった。今回は、みちのくプロレス分裂直前のSASUKEインタビューと、デルフィン退団記者会見の模様を続けてお届けする。これはみちのくプロレスのドキュメンタリーである！

いわゆる、デルフィンたち"イチロー人間"は何が何だかわかんないいんだよ！

SASUKE いまや私の味方は『紙プロ』さんだけですよォ！ ガハハハハ！

―もちろんですよォ！ まあSASUKEさんとしては『紙プロ』初登場ということなんですけどね。

SASUKE アッ！ そういえばそうですねぇ。イヤイヤイヤよろしくお願いします。……でも、そろそろSASUKE組も解散しようか思ってるんだよね。

―えっ！ まあその辺の話は後々うかがうとして、明るい話題から行かせてもらいます（笑）。今年の『週プロ』の選手名鑑を見ると、好きな有名人は『SAMURAI―！』の三田（佐代子）キャスターということなんですが？

SASUKE もちろんよォ！ 当たり前じゃない！ これからは三田さんですよォ。三田さんは今年ブレイクするよォ。あとレスラーでは谷津さんが来るよ。なっ！

―アハハ！ それは間違いない！ 名鑑ネタでもう一発！ ニックネームは「バカスケ」ってことでしたけど、あれは気に入ってるんですか？

SASUKE 気に入ってない、気に入ってない！ アレ、『週プロ』の新井（宏＝記者）だよ、あのヤロー！ 書いていいよコレ。アイツどうして俺につらくあたるか知ってる？

―元みちプロの社員なんですよね。

SASUKE 俺がクビにしたんだよォ。だからなんだよ。ふざけやがって！『週プロ』の読者が信じちゃうじゃねぇかよ。SASUKEってそんなに悪いのかって、ねぇ。バカスケなんて失礼なねぇ。

―失礼ですよねぇ（笑）。そもそも、なんでクビにしたんですか？

SASUKE 盛岡に住むのが嫌だって言うんだよなっ！ 寒いとこは嫌だって。フザケやがって！（怒） いいですよ、書いちゃって。ガハハハ！ ノー問題（笑）。

―でも笑ってばかりもいられないんですよね。SASUKEさんも常々言ってる通り、今年は世紀末ってことで、ハルマゲドン、最終戦争が起こるんですよね？

SASUKE はい。コレは間違いなく起こります（キッパリ）。

―はぁ～、もう終わりかぁ～（溜息）。

SASUKE イヤイヤイヤまあまあまあ、だからボクのような人間がね、ハルマゲドン阻止にむけて動きださなきゃならないと思ってますから。プロレスというジャンルを飛び越えてね。

―ハルマゲドンにケブラーダ！

SASUKE ガハハハハ！ そうそうそう。いやホント、中東和平はボクの使命かなって思ってますよ。

―なんか戦争が起こるのは間違いなさそうな口振りですね。

SASUKE いや、これはね、ボクの元に情報が入ってきてますんで。確実に起こります（キッパリ）。

―一体どこからそんな情報が入って来るんですか。もしかして神のお告げですか？

SASUKE SASUKE組には諜報部門があって、いろいろな情報を集めてきてまして、そのネタのひとつで、いよいよ戦争が始まるっていうのをキャッチしましたんで。パレスチナ解放機構のアラファト議長が暗殺されるんですよ！

―エエ～ッ！ アラファト議長が暗殺されるんですか？ 大変だ！

SASUKE 暗殺されるんですよォ。これは断言できます！ それが合図です！



―合図？ それはハルマゲドンの？

SASUKE そうなんですよォ！ それが合図で、中東からジワジワとドンパチが始まります！

―ドンパチ・マシンガンズ？

SASUKE ガハハハハハ！ そうそうそう。で、ドンパチが世界中に広まると。これはもうキャッチしてますから。ボクとしてはね、その引き金となるアラファト議長暗殺を根本から阻止せねばと思ってるわけです！

―実際の話、SASUKEさんについていったら助かる可能性も高くなるということですか？

SASUKE ボクについてくるというよりも、ボクのこういう発言をちゃんと覚えていてもらえればね、それなりに防衛できると思いますよ。ボク自身は地球の為に命を捨てる覚悟はできてますんで。ボクは今までの人生の中で世の為、人の為っていうことをあんまりやってこなかったんでね。

―そうですかぁ？ 人の為にやってきてるじゃないですか！

SASUKE いやいやいや。それは、それは、ほら謙遜も含めてね（笑）。

―アハハハハハ！ 謙遜！

SASUKE ガハハハハハ！ だから最後に地球に対して奉公したいなと思ってるんですよ。

―それじゃあ、アラファト議長の暗殺を阻止できなければ間違いなく起こると！

SASUKE 起きますよォ。ボクは誕生日（7月18日）を迎えぬまま死んじゃうかもしれない。そういう覚悟もできてますから。その為にね、みちのくの他のレスラーたちが、早くポストSASUKEの座についてくれればいいんですよ。

―その時期には『覆面ワールドリーグ戦』もやってますしね。

SASUKE タイミングのいいことに、去年の夏のワールドリーグの選考会っていうものをやってね、ファンの評価が結構0点とか多かったんですよォ。

―厳しかったみたいですね。

SASUKE 厳しかったんですよォ。でも逆にね、もう予選落ちみたいな感じで出なくていいってことなんで、もう『覆面ワールドリーグ戦』は他のヤツにまかせて中東に行くよ。

―行きますか！ それで北朝鮮の方からテポドンなんとかというのが、『覆面ワールドリーグ戦』に参戦表明してきたみたいですけど。なんか不吉な予感がしますね。

SASUKE そうなんだよ！ よく知ってますねぇ。なんで知ってるの？

―いや、いろいろと『紙プロ』にも諜報部門がありますからね（笑）。

SASUKE すごいッ！ すごいじゃん！ でもホントそうなんですよ。

―現時点では、敵か味方かまだわからないんですよね。

SASUKE わからないっていうね、う～ん。北朝鮮はやっぱり国絡みでくるんでね、その辺も対処しなきゃいけないなと。

―ついさっき、ニュースで見たんですけど、またアメリカ軍がイラクの基地に空爆始めたらしいですよ。

SASUKE おぉっ、来てるなぁ～。ボクから読者のみなさんに言いたいのは、中東からしばらく目を離さないでくれ、と。

―頭の片隅には常に入れておいてくれということですね。

SASUKE どっかにね。まあ最悪のシナリオとしてはね、やっぱり月へ避難するということもありますんでね。それは最悪のシナリオですけどね。

―今年は戦争も起こるということですけど、その一方で今年はシュート元年ということで、橋本対小川戦とかありましたよね。

SASUKE シュートね、時代はシュートだよ！

―SASUKEさんは、すぐさま札幌のデルフィン対ライガー戦のあとに……。

SASUKE おおっ！ さすが、知ってるねぇ！

―「おいおいおい、もう終わりかよ！」って、さっそく小川さんのマイクをパクってたらしいですね（笑）。

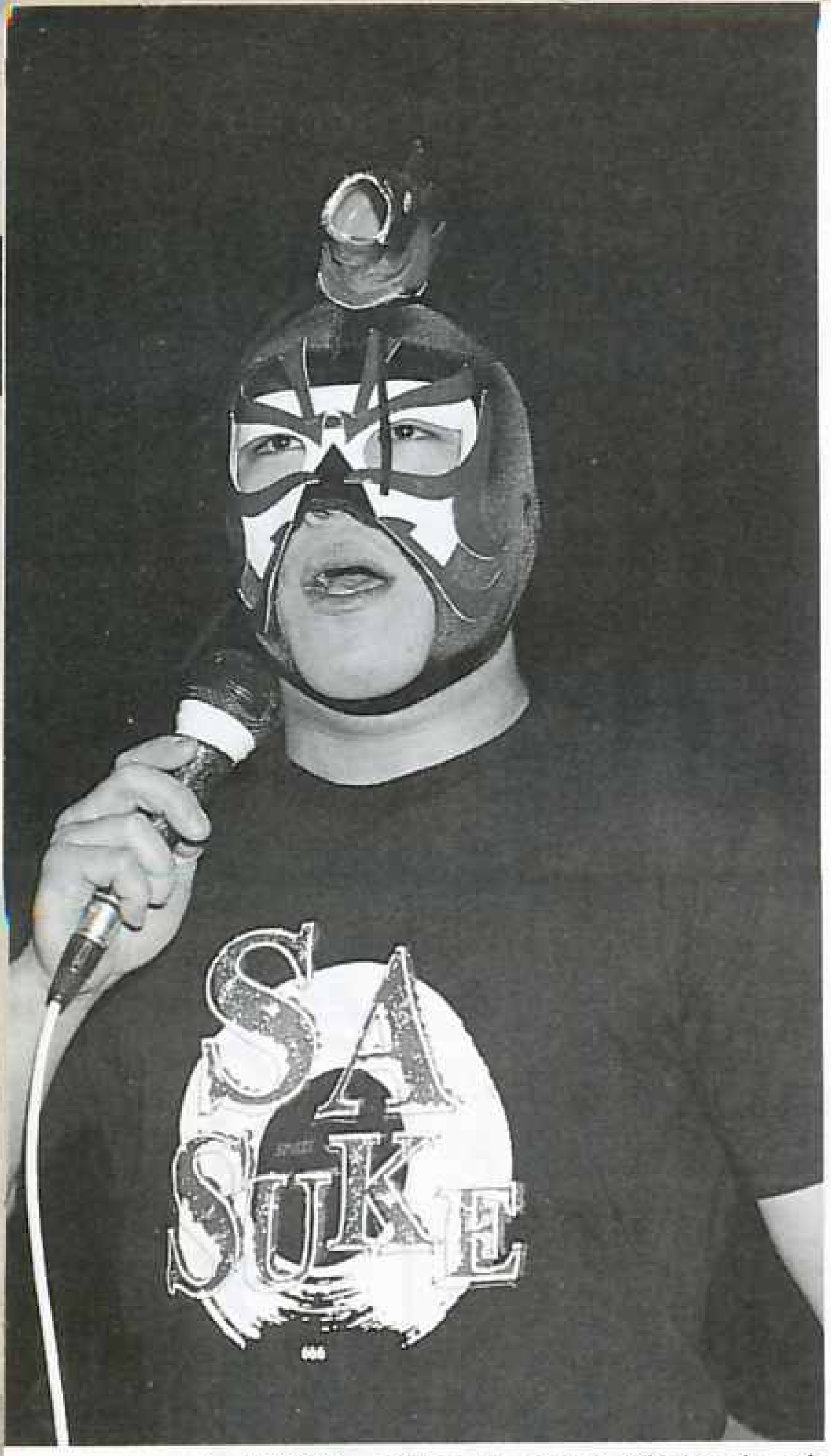
SASUKE 「デルフィンファンの皆様、目を覚ましてください！」ってさっそくパロっちゃった（笑）。ガハハハハ！

―アハハハハハ！

SASUKE ライガーさんは複雑な心境だったって（笑）。

―でしょうね（笑）。いってみれば小川対橋本戦と同じように、ここ最近のデルフィンさんとSASUKEさんのやりとりはシュートでしたよね。

SASUKE いや、シュートもシュート！ シュートですよォ！ だからねぇ、ホントに頭に来てるんですよ！ 一番の問題はヤツがなに考えてるかわからないってとこですよね。だから「ハッキリ説明しろ！」



1・10仙台。デルフィンの試合が終わると、すぐさまSASUKEが乱入し、『ファイト』に掲載された「デルフィン新団体旗揚げ疑惑」の真意を問いただした。さらにプロレス界のタブーを破る（？）発言まで飛び出した。

と常々言ってるわけですよ。そういう意味も込めて「目を覚ましてください！」と。

――実際、小川さんのマイクで「目が覚めました」っていう新日ファンも何人かはいるんですよね。

SASUKE　いるでしょうねっ。特にコアなファンの中には。ただ、いわゆる〝デルフィンたち〟といわれる平成のファンにはね（笑）。

――アハハハハ！　〝デルフィンたち〟ですか（笑）。〝イチロー人間〟ですね？

SASUKE　そうそう。いわゆる〝デルフィンたち〟、〝イチロー人間〟には何が何だかわからないですよ。だから目が覚めないんですよ、あれだけ言われても。だけどもコアなファンの人たちは目が覚めてると思いますよ。

――SASUKEさんは今みたいなスタイルでやりながらも、最後は、「おいおいおい、みちのくを潰しちゃダメなんだよ！」ってよく言ってますよね。

SASUKE　うん。当たり前ですよ。

――結果的にデルフィン選手は今日の後楽園大会（1・13）でみちのくから離れてしまうみたいですね？

SASUKE　そうなんだよ。それが一番腹立たしいことであってね、デルフィンっていうのは、その時々で調子のいいことをぬかしてね、ファンの気を惹くわけですよ。でも、本当にみちのくを思ってやってるのかっていったら、今回の一件で化けの皮が剥げるんじゃないですか？　本当にみちのくを思ってるんなら、例えば百歩譲って新団体作るにしても、みちのくでやるはずですよ。東北でね。だけども、これまたSASUKE組の課報部門を使った情報によると……。

――アハハハハ！　優秀な課報部門があるんですねぇ（笑）。

SASUKE　優秀ですよぉ。その情報によると、どうやらあるスポンサーをバックにして大阪でやるらしいんですよ。それはもう、裏切りとしかいえないですよね。「サスケ抜きでこんだけやってきたんや〜」とかさ、「選手組合のみんなで東北を守ってきた」とか言うけどさぁ、何だよ結局大阪でやりたいだけじゃん、ソレ。ボクは今日は、リングの上でデルフィン以外の選手たちがどう思ってるのかということをみんなに問いただしたいと思います。

――SASUKEさんも、「肌をあわせればわかってくれるだろう」ということを言ってましたよね。

SASUKE　セックスじゃないんだから！　う〜ん（笑）。

――アハハハハハ！

SASUKE　俺そんなこと言ったっけ？　ガハハハハハ！　でも肌を合わせればわかりますよ。ワルSASUKEとして生まれ変わって、一通りみんなと当たってみて、オレも散々凶器を振り回して悪いこともしちゃったんだけども。

――反省してる部分もあると（笑）。

SASUKE　うん（笑）。闘いを通じて「あ、コイツら大丈夫だな」っていうのは感じてます。デルフィンを抜かしてね。あっ、みんな大丈夫だって。みちのくを思う心は一つだ！　というのは再認識しましたよ。そういう意味では、デルフィンがどういう行動にでようがボクはドンと構えてますよ。

――ライガーさんは「SASUKE組はジュニアのｎｗｏと見られがちだけど、もっと大きくなる可能性もあるし、その根底にあるものはちゃんとオレは理解してる」って言ってましたよね。

SASUKE　そう！　だから俺の場合、理解者が外部にしかいないんだよ（笑）。それが悲しいんだけどな。

――アハハハ！　それで仙台大会（1・10）で業界のタブーを破ったと言われてますけど（笑）。

SASUKE　何が掟破りなんだか、わっけわかんない。ガハハハハハ！

――デルフィン選手への「大阪大会で受付やってたの嫁さんじゃねぇかよ！」っていう発言がタブーだったらしいですね（笑）。

SASUKE　ガハハハハハ！　よく知ってるねぇ。なぁ〜んで知ってるのォ？

――いやいやいや、みんな知ってますよ。なにしろ10年に1度あるかないかの出来事らしいですからね（笑）。

SASUKE　バカ言ってんじゃないよォ！　俺に言わせれば！　レスラーにプライベートもクソもあるかってんだよ！　レスラーも芸人もプライベートなんかねえんだよ。それをさ、ヤツラは社長のプライベートは散々バカにして暴いてさぁ、テメェのプライベートは守れってか？　そうは問屋が卸さないよォォォ!!

――ガハハハ！　卸しませんか（笑）。

SASUKE　ガハハハハハ！　そうそう。あー、乗ってきたぞぉ！　さあ来い！

――アハハハハ！　SASUKEさんのプライベートは散々暴かれましたもんねぇ。

SASUKE　ねぇ！　あることないことね。おかしいんだよ。調子良すぎ。あとね、俺は別に結婚話は暴いてないんですよ。あれはね「え？　もしかしてカミさんなの？」って聞いただけなんだから。

――アハハハハ！　クエスチョンが重要なわけですね（笑）。

SASUKE　うんうん。疑問型なんだからな。なのにアイツ、一人で慌てふためいてさぁ、とっとと帰りやがってさ。聞いただけなんだからさぁ。

――答えてくれなかったんですね。でも、観客もメチャメチャ沸いてましたよね。

SASUKE　あ、ホントに？　ガハハハハ！　仙台まで見に来てたの？

――いや行ってません。『紙プロ』の優秀な課報部門からの情報です（笑）。

SASUKE　ガハハハハハ！　さすがだ（笑）。でも、アイツが結婚してるなんて俺も知らないんだから。聞いただけなんだから。どうなの実際？

――ボクは知らないですよ（笑）。でもそれに対して逆上してキレちゃうってことは自分で認めちゃったことになりますよね。

SASUKE　認めなきゃいいじゃん、ねぇ。バカだよ！　一言で言えばね（笑）。

――それで、「モッチー、『ファイト』持ってこい」って。

SASUKE　そうそう。そこでねぇ、「ナニィ新団体設立？　なんじゃこりゃあ〜！」って。その「なんじゃこりゃあ〜！」がやけにウケちゃってね。心はすっかり松田優作でね。

――アハハハハハ！　パクリ上手ですねぇ（笑）。でもSASUKE組も気づいたらSASUKEさん自身も何人いるか……。

SASUKE　うん。全く把握できないねぇ。ガハハハハ！　三田さんも正式加入しました。

――エッ！　セコンド付くんですか？　他にもJWPの山本代表もSASUKE組ということだし、選手でいえば、サスケ・ザ・グレート、小野（武志）選手、クレイジーMAX、望月（成晃）選手、そしてSASUKEさんがやたらと好きな……茂木選手（笑）。

SASUKE　ガハハハハハ！　最後に持ってくるとこがいいねぇ！　いやいやいや、茂木さん大好きなんだよォ。ガハハハハ！　あと春一番も札幌で正式加入しました。

――春さんもですか。SASUKE組に猪木イズムも注入されたと（笑）。それに（エル・）サムライ選手も今度加入するらしいですね。

SASUKE　そうそうそう。加入しました、電話一本で。

――規定はないんですか？

SASUKE　何もないです。自己申告で。後日Tシャツ郵送。ノー問題！

――アハハハハ！　聞くところによると、ウチの山口日昇も……。

SASUKE　SASUKE組よ、もちろん！　山口さんは有無をも言わさず。でも年末の極秘会合をスッポかしたから、減点1だな（笑）。

――ボクも応援しますんで、SASUKE組に入れさせて下さい！

SASUKE　もちろんですよォ（笑）。いいよォ。いつでもOK。ガハハハハ！

――肩書に（SASUKE組）とかいれてもいいんですか？

SASUKE　どうぞどうぞ、入れて下さい。ガハハハハ！

――ありがとうございます。新年早々夢が叶いました（笑）。もう戦争もハルマゲドンも怖くない！

SASUKE　みんなは生き延びてください。私は命を捨てる覚悟で全力で阻止します。……でもやっぱり今年は谷津さんと三田さんだな。来るな（笑）。

――アハハハハハ！　でもSASUKEさんのちゃぶ台トークは最高ですね。SASUKE組万歳！

SASUKE　だろ！　俺はデルフィンと違って、なんで俺がグレてるか、延々と説明してんだから。そうしないとファンもわ



SASUKEに「サスケ盛岡市長選出馬か？」との一部報道の真偽を問うと、「ガハハハハ！　期待しないで下さい」と一蹴されてしまった。



かんないんだから。そういうところをデルフィンもちゃんと事情説明して欲しいよな。
――ディック東郷さんの言葉を借りると「腐ったミカンを取り除く」と。
SASUKE　知ってるねぇ！　スゴいねぇ。ホントそうよォ。う〜ん、取り除くというよりも、自分から出ていくんじゃないかなと。まあボクとしてはね、腐ってもライバルですからね。
――エッ！　腐っても鰯？
SASUKE　ガハハハハハ！　そう来たか（笑）。でも本音で言えばやっぱり闘いたいですよ、ボクは。5年間やってきたライバルが消えるというのは寂しくなっちゃうなと思いますよね。
――それでも、去るものは追わずですか？
SASUKE　うん。でもこれでね、デルフィンだけ向かってるベクトルが違うんだなっていうのはハッキリしましたよね。例えば、正規軍がやられっぱなしだった海援隊の連中はね、今アメリカに飛び出してますけどね、根本にはみちのくへの思いっていうのがあると思うんですよ。俺と散々モメたTAKAみちのくでさえ、みちのくを気にしてるじゃないですか。でもデルフィンにはそれがないよね。スッポリ抜け落ちてるんだよね。FA宣言で新日、全日にも出たいっていうのは、まだわかるんですよ。ただ、新団体設立となると、それは違うぞ、と。
――野球でもFA宣言して新球団を作るって話は聞いたことないですからね
SASUKE　それは、ないない（笑）。
――そういえば新日の東京ドームでの大仁田さんにはちっとやられちゃいましたね（笑）。SASUKEさんの心境はいかがだったんですか？
SASUKE　ガハハハハハ！　俺、テレビで見てたんですよ。おいおいおい、ちょっと待て、タバコくわえて椅子持って!?　あれ俺じゃねぇかよって！　「なんじゃこりゃあ！」って、ねぇ？
――おいおいでしたね（笑）。組長、最後に何か言い忘れたことはないですか？
SASUKE　う〜ん、……最後に強調したいのはね、ボクはデルフィンは結婚してるって言ったんじゃないんですよ！
――アハハハハハ！　そこはハッキリさせておきたいと（笑）。
SASUKE　ガハハハハ！　ねっ、言ってないんだよ、俺は（笑）。アレは「カミさんなの？」って聞いただけでね。そこをわかってもらいたいな〜。あと、今日の後楽園大会はSASUKE組にとっても一つの曲がり角に来てるのかなって気はしますよね。本当にデルフィンがいなくなるんであれば、ボクもみんなを敵にまわす必要もないし。まだまだ流動的なSASUKE組です。……でも、今日の三田さんのセコンドは期待して下さい（笑）。
――アハハハハハ！　期待してます！

【1月13日、みちプロ激震3時間前の後楽園ホール控室にて収録】

ボクは、デルフィンは結婚してるって言ったんじゃないんですよ！



1・13後楽園。SASUKEは試合後、離脱を表明したデルフィンに引き抜き疑惑があることを告白、そしてデルフィンに対して事情説明を求めた。「レスラーや芸人にプライバシーはねえんだよ！」という名言が飛びだしたのもこの日だ。



1月17日 スペル・デルフィン退団記者会見

1月17日、都内某所で行われたスペルデルフィン退団記者会見場にて繰り広げられた、サスケvsデルフィンの最後の熱き闘い！　世界各国7億人のサスケファンの皆様、お待たせしました！　ザ・グレート・サスケ劇場開演です！

（会見に出席するはずではなかったSASUKEが素顔にサングラスを掛けた状態で出現）
SASUKE　今日はモメますよ。今も散々裏でモメてきたんだから。やはり引き抜きですよ。スタッフも新弟子も引き抜きだよ。ビックリだね。SASUKE派は本当にタイガー一人ですよ、急転直下だね。みちプロ大ピンチ。でも、面白くなってきたねぇ。
【会見に出席する選手及び関係者が入場。テッド田辺より、デルフィンのみちプロからの、辞職、FA宣言及びにリングネーム使用を承諾するとのコメントが出される。続いてデルフィンから、愚乱・浪花、薬師寺正人、星川尚浩、瀬野優、松井幸則、練習生・木川寿幸の退団が発表され、今後はフリーとして活動していくこと、友好関係にあるCMLLには上がりたいとの見解が述べられる。さらに退団を決意するに至った理由として、サスケとのプロレス観の違い、サスケ社長の人間性への疑問をあげ、今後は自分たちで新しい未来を築き上げたいとの決意表明。デルフィンに続き、薬師寺、星川、浪花、瀬野、木川の順で離脱のコメントを述べ、続いて松井レフェリーが発言する（各選手の詳しい発言は「ゴングNO750」に詳しく載ってますのでそちらをどうぞ！　以下同）】。
松井　（中略）……選手の、今回のことを裏切りとか、引き抜きとか、離脱とか、そういう言葉で片付けてほしくないです。選手組合の選手の大半はスペル・デルフィンと行動を共にして、退社することになって……ここにいる人間、全員、みちのくプロレスが好きなんですよ。みちのくプロレスを嫌いに思っている人間は、誰一人いないと思うんです。（中略……）軽々しい考えとか、不確かな一時の衝動とかじゃなくて、考えに考えて悩みに悩んだ末の、今回の行動だということを皆さんにはわかっていただきたいと思います。ただ、ひとつだけ、みちのくプロレスを6年間ずっと見続けてきてくれたファンの人には、形としてはファンの人たちを裏切ってしまうことが唯一の心残りです。どういう形になるかわかりませんけれども……。
SASUKE　おい！　松井ィィ!!　いい加減にしろよ、お前！
松井　はい……はい。
SASUKE　自分を正当化するのはやめろ！　離脱でもない、裏切りでもない、どういうことだよ？　これは離脱じゃねえのか？　お前、自分から退団するって言っただろうが!!　退団っていうのは離脱っていうんだよ。違うのか？　ハッキリさせろ、そこのところを。テメエ、いい加減にしろよ!!
松井　退団＝離脱かもしれません。ただ……。
SASUKE　かもしれませんじゃねえんだよ!!　退団＝離脱なんだよ!!　自分を正当化するのはやめろォ。
松井　裏切りとか、そういうような言葉を使うのは……。
SASUKE　ああ、そうじゃねえかもしれない。でも、離脱は離脱だろ!?　裏切りでもないよ、引き抜きでもないな。でも離脱だろ？　違うのか!?　あん？　ハッキリさせろ、お前!!
松井　はい……。
SASUKE　裏切りでもない、確かにな。引

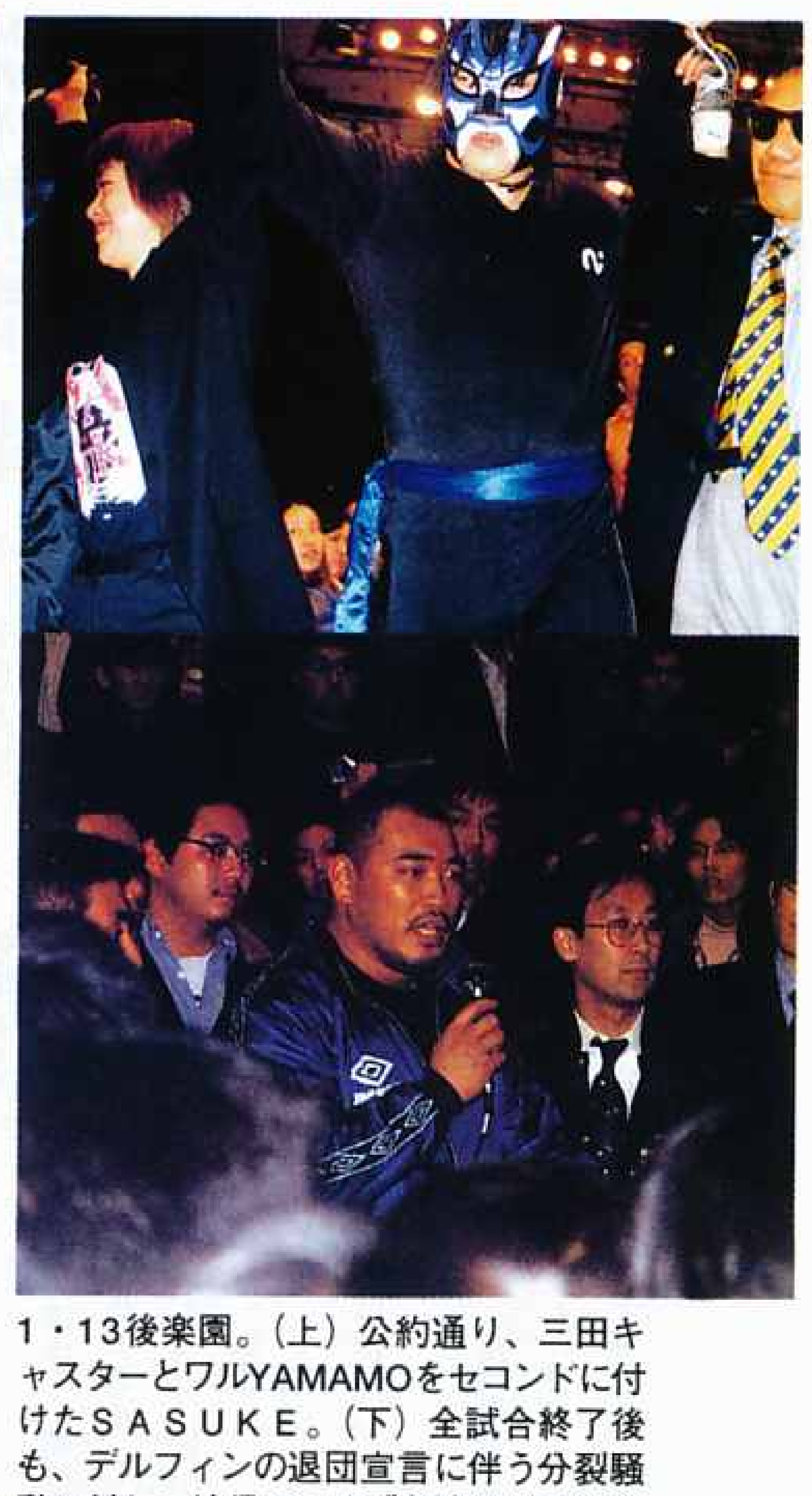
みちのくプロレスは永遠に不滅です！
今後のシリーズ日程！

「ルチャバカ日誌‘99」

3月13日（土）【開幕戦】岩手　矢巾町民総合体育館（18:30）
3月14日（日）宮城　白石市勤労者体育センター（13:30）
3月16日（火）山形　三川町民体育館（18:30）
3月17日（水）秋田　横手市平鹿広域県民体育館・中体育室（18:30）
3月18日（木）岩手　宮古市千徳地区体育館（18:30）
3月19日（金）秋田　秋田市立茨島体育館（18:30）
3月20日（土）山形　上山市体育文化センター（18:30）
3月21日（日）青森　青森県民体育館サブアリーナ（15:00）
3月22日（月祝）青森　八戸市勤労総合福祉センター「はちのへハイツ」（15:00）
3月24日（水）岩手　前沢町民スポーツセンター（18:30）
3月25日（木）福島　原町市体育館（18:30）
3月26日（金）福島　郡山市総合体育館・小体育館（18:30）
3月27日（土）福島　福島市国体記念体育館サブアリーナ（18:30）
3月28日（日）【最終戦】宮城　ニューワールド仙台テニスクラブ（15:00）

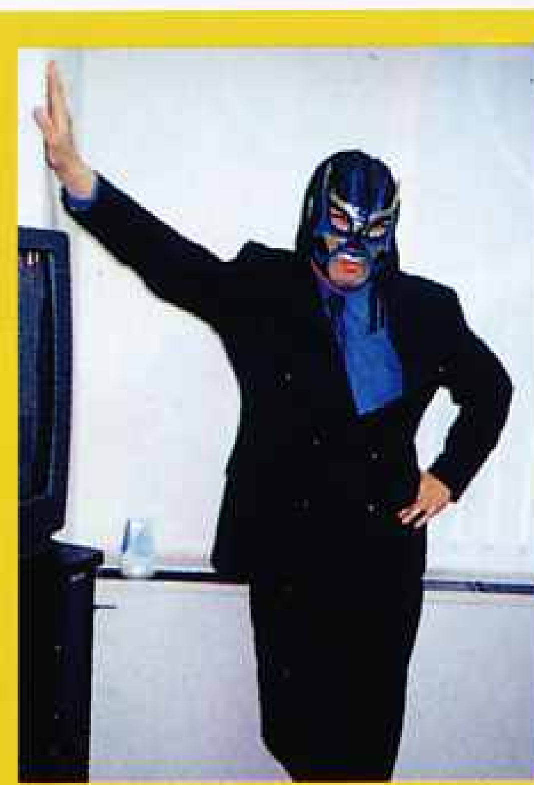
【入場料金】全席自由（ゴザシート席）
一般　3100円　小中学生　1100円（当日は各400円増し）
【東北シリーズ「ルチャバカ日誌‘99」参加選手】SASUKE、グラン浜田、新崎人生（開幕から、25日まで）、タイガーマスク、ビーフ・ウェリントン、シーマ・ノブナガ（闘龍門）、ジュードー・スワ（闘龍門）、スモウ・フジ（闘龍門）、スーパー・ボーイ、ピロト・スイシーダ、ペロ・ルッソ、外国人選手1、外国人選手2、獅龍2号（3・14〜3・20）茂木正淑（3・14〜3・21）、望月成晃（3・22〜3・28）、ファンタスティック（3・21）

［チケットの通信販売、お問い合わせは］
みちのくプロレス　019−626−1333



1・13後楽園。（上）公約通り、三田キャスターとワルYAMAMOをセコンドに付けたSASUKE。（下）全試合終了後も、デルフィンの退団宣言に伴う分裂騒動に対し、納得がいかず事情説明を求めるファンが多数居残った。人生の説法でなんとかファンの怒りを静めたものの、それから数日後……。

き抜きでもないな。離脱だろ？　違うのか!?
松井　そう、それは自分の言葉のアヤ……。
SASUKE　自分のじゃないよ!!　離脱なんだろ？　やめるってことは？
松井　そうです。言葉のアヤです。すみません。
SASUKE　オレに謝ってんじゃねえよ、記者の皆さんに謝れよ!!
松井　退団です。
SASUKE　うん、退団だろう。そこをハッキリさせろ、うやむやにすんな!!　それを今日は、マスコミの皆さんは聞きたがってるんだから。そこをハッキリさせろ。
デルフィン　え～、いまも言っているように選手全員が退団という……。
記者　個々の活動はバラバラなんですか？
デルフィン　ええ。とりあえず自分としては、身近にあるCMLLに出させてもらおうという協力は要請いたしますが、全員の選手の。浪花に関しては、本人に全日本プロレスに出たいという意思がありますんで、全日本プロレスにオファーを掛けるつもりでいます。あとは、まあ、あの……。
SASUKE　じゃあ、みちのくには上がらないってことか？　デルフィンよ、ハッキリさせろ、そこを。





真っ先に会見場に姿を見せたSASUKEは、デルフィンたちがコメントを出す度に噛み付いていった。SASUKEにとって「寝耳に水」の出来事だったのだ。

デルフィン　うん、そういうことだ。
SASUKE　みちのくには、もう二度と上がらないということだな？　そこの選手全員が!!
デルフィン　そういうことだ、ああ。うん。
SASUKE　ハッキリさせろよ。そこの6人の責任持てんのか、お前!?
デルフィン　仕方ない、これは。背負ってしまったから。
SASUKE　面倒見ろよ!!
デルフィン　オレは一人で記者会見しようと思ってたけど、そういうのを背負い込んだから、間違いなくここにいる選手全員は、オレは責任を持つ。
SASUKE　……しっかり持てよ。
デルフィン　わかってる。……SASUKE、ありがとう、今まで（と、デルフィン以下、全選手が立ち上がりSASUKEに頭を下げる）。
SASUKE　まだ質問が終わってねえ!!まだ座れ、お前ら!!　座れ!!
若手全員　ありがとうございました!!
SASUKE　質問したい方、どんどんやってください。
デルフィン　うん。質問したい人、いれば……。
SASUKE　だぁ～れがこんなの納得するよ？　記者の方、ガンガン疑問があったらぶつけてくださいよ。オレが記者だったら、こんなのひとつも納得しないね!!　具体的に何が不満なのかとか、方向性が何なのかとか、見えてこないよ、全然。ビジョンが！　何だ、方向性の違いって!?　遠慮しないでくださいよ、皆さん。記者の皆さん。オレが思ってる疑問は、皆さんの思ってる疑問ですよ、これは。
デルフィン　何かあれば。
記者　今回は基本的に、まったく事前に会社側との話し合いはなかった？
デルフィン　ええ、あのぉ、今日の時点では自分一人だけでした。で、話してくうちに、決断というのは、みんな決まる……のがなかったんで。たまたま、今日は私が記者会見するということで、SASUKE社長も来るということで、ここでみんなの退団が決まりました。
記者　こないだの後楽園ホール（1月13日の後楽園ホール大会）から、ああいうことがありましたよね。あれから数日間で、この6名があなたの方に声を掛けてきたということなんですか？　それ以前に話は出ていたんですか？
デルフィン　それ以前に記者会見するっていうのは、わかってから話が来てます。
SASUKE　いや、だいぶ前から根回ししてたんだろう？　ハッキリしろよ。
デルフィン　根回しとか引き抜きとか、そういう問題じゃない。
SASUKE　いや、でも話掛けてたんだろ？
デルフィン　いや、コミュニケーションを取ってた。
SASUKE　そこがポイントなんだよ。
デルフィン　ここの記者会見で、こういうことをするというのは、全然話はしていない。
SASUKE　うん。会見に来るというのは、今日、突然決まったんだよな。それもわかってるよ!!　昨日、松井と瀬野と木川は、盛岡に来てたんだから。会社で会ったもんな!!　3人とな。まったくビックリするよ。
デルフィン　これは急な話なんで、皆さんも驚いたと思いますが……。
SASUKE　オレがいちばんビックリしてるよ!!　寝耳に水っていうのはこのことだね。昨晩、会ってるんだよ。松井、瀬野、木川は!!　仕事終わって、ご苦労さんなぁっつって。木川にはチャンコ代も渡したよ、昨日！　うん。まさか、チャンコ銭渡した翌日にこれかよ（笑）。ビックリするね、これは。まあいいや、それは関係ねえや。まあ、根回しはしてたってことはハッキリした方がいいよ、これ。まあ、根回しという言い方は不適切かもしれねえけどな、話し合いは持ってたんでしょ。みんなでな？　うん。
デルフィン　うん……そうや。
（SASUKEが立っている前の席に座っていた『ゴング』のドクトル・ルチャが席を立つ）。
SASUKE　いや、清水さん、どうぞ座ってください。ごめんなさい、邪魔しちゃって。どうぞ、どうぞ。
（3月2日金沢大会はデルフィン派の興行との発表がされる。中略……）
記者　それからみちのくプロレスとどういう方向性のギャップがあったのかっていうことを具体的に話していただければ。
デルフィン　具体的には話せないです。そういうことを言ったら泥沼になると思うんで。ただ人間性……。
SASUKE　泥沼にしろよ!!　話せよ!!
デルフィン　人間性の感性の違いっていう……。
SASUKE　いままで散々、言ってきたじゃねえかよ。言やあいいじゃねえか!!
デルフィン　そういう外面的なことじゃない、内面的な話やから言えない！
SASUKE　言えよ。いいじゃねえか、言ったって。
デルフィン　それは言えないよ、絶対。それは言えない、言えないよ。泥沼になるよ、ホントに。そういうもんじゃないから。こういう会見は。
SASUKE　この会見自体が泥沼じゃねえかよ!!　バカ言ってんじゃねえよ!!
デルフィン　泥沼じゃない！　泥沼じゃないよ、これは。
SASUKE　言えよ、言いたいことがあるんだったら。
デルフィン　それは言えん。社会的にそういう話は言っちゃいけないことだと、オレは思う。
SASUKE　どういうことだよ、それ？
デルフィン　そういうことだよ。オレはそれでまとめてほしい。
SASUKE　それじゃあ納得して帰らないよ、記者の人は。
デルフィン　そこまで聞きたいですか、記者の皆さん？　そういうドロドロしたことを。そういうのを記事にしたいですか？
SASUKE　どうせならハッキリさせようじゃねえか!!
デルフィン　聞きたい人、手を挙げて下さい。そしたら言いますよ。
SASUKE　オレは聞きたいね。
（記者は下を俯いたまま、誰一人として手を挙げる者はいない、というか挙げられる雰囲気ではなかった）。
デルフィン　聞きたい人はいないと。いいですね、じゃあ。これは人間性ということでまとめてください。（この後デルフィンは、ほのぼのとして、お子様に夢を与えるプロレスがやりたいとの方向性を打ち出し、同時に今のみちプロではそれは無理だと発言）
記者　それは意見の相違とか？
SASUKE　でも、ギャラはしっかりもらってるんだろ、お前ら？
デルフィン　ギャラの問題じゃないんだ。
SASUKE　そこもハッキリさせろよ!!
デルフィン　うん、ギャラはもらってる。でも……。
SASUKE　しっかりしろよ!!
デルフィン　それは、ギャラはもらっている。それは、確かに……選手のギャラはもらっている。みちのくプロレスでやってるギャラはもらっている。しかし、あのね……。
SASUKE　ランクはあるよ、確かになっ。
デルフィン　SASUKEも自分自身わかってると思うように他団体のギャラ、そして私とかテレビとか、ああいう出演したギャラはもらっていない。うん。
SASUKE　やぁ～ってるじゃないの!?　お前、いい加減にしろよ!!
デルフィン　いや。じゃあ、いま言おうか？
SASUKE　いいよ、言ってみ？
テッド　やめてください!!
デルフィン　そうですよね、はい。
テッド　お金の話はやめてください!!そんなの、誰も聞きたい人はいませんから。
SASUKE　……やってるじゃねえかよ!!　おかしな連中だねえ。このまま終わったら、まるでオレが何も払ってないように書かれちゃうよ!!
テッド　払ってないことはないです。ただ、遅れてることは事実です。
SASUKE　そう、遅れてることは事実だな。
テッド　それは、ちょっとデルフィン選手、言葉を足してください。
デルフィン　わかりました、はい、はい。
SASUKE　遅れてはいたよな？　それは認めるよな。
テッド　ここは喧嘩をする場所じゃないんで、2人ともちょっと冷静になってください!!
デルフィン　何か、質問はありますか？
SASUKE　おい、デルフィン!!　ごまかすなよ。
デルフィン　いや、だからいま、「やめてください」って言ったじゃないか。
SASUKE　うるせえ！
テッド　（小声で）付け足してください。
SASUKE　どうなんだよ、白黒ハッキリさせろ!!　遅れてるものはあるよな、確かにな。それは認めるよな。
デルフィン　それは……。
SASUKE　だけども、払ってるじゃないかよ!!　遅れながらも払ってるよな？
デルフィン　そういうことだ。
SASUKE　違うか、星川？　こないだもらわなかったか、遅れてた分？
（うなづく星川）
SASUKE　そうだよな!!　じゃあ、金の話はこれでOKだ。はい、じゃあ次に行こうか。
記者　方向性の違いというのは、どれぐらい前からあったんですか？
デルフィン　私だけの意見としては、やはり……そうですね……それを言えばだいぶ先になると思いますが、まあ正式にだいたいわかりだしたのは、今年の、去年の8月以降ぐらいから。
（中略……）
記者　（テッドさんは）今、この場で初めて皆さんの辞意を確認したということですか？
テッド　みんなの不満というのは、私の方にも来てましたので、え～、そういった形のものを、デルフィン選手にたぶんみんなが話したことと同じことを私も聞いてますが、まあ、会社的なものとして、ボクに言ったから受理されるというものではないので。私は社長でもありませんし、私はあくまでもコミッショナー代行でございますので、ここから会社の方に改めてお話を持っていくという形になりますので。だから、私は事前に聞いてたとか、そういうことは一切ございません。もし、聞いていたとすれば、今日、何なりの答えをみんなには出してたと思います。
（中略……）
本来なら、こんな場というのは公にするもんじゃないと思います。これは、ホントは会社の会議室の中でしなきゃいけないことだと思います。フ～。それだけに、ウチの社長批判になって申し訳ございません。社長も含めて、デルフィン選手も含めて、上の選手はもっと下の人間のことを考えてやってください!!　2人がこうやっていがみあってるのを見たら、やっぱり下の人間は不安になります。それが今回、吹き出したと解釈してください!!　……すいません、取り乱してしまいました。……ご質問の方は、もうございませんか？　よろしいですか？
デルフィン　どうも、ありがとうございました。
（と、デルフィン以下、続々と離脱組が退出していく。タメ息をつくテッド。やおら前に出てきたSASUKEは、テッドを抱きしめた!!）。
SASUKE　ゴメンね（泣）。ゴメン!!
テッド　大丈夫だよ、な？
SASUKE　ホントにゴメン、テッド（号泣）。
テッド　言うなよ、SASUKEが作った会社なんだからいいんだって（泣）。な？　な？
SASUKE　ゴメンな……（号泣）。
テッド　いいんだよ、だから（泣）。いいんだよ、もう!!　な？　わかったよな？
SASUKE　ゴメン。ゴメンね（号泣）。
テッド　うん。大丈夫だから（泣）。
SASUKE　すいません（泣）。
テッド　気にすんなよ、もう!!　な？　2人で頑張ろう、頑張ろう？　な？　（報道陣に向かって）すいませんでした。
（と、SASUKE退出）
テッド　とりあえず、みちのくプロレスの会社の醜態をお見せして申し訳ございませんでした。今回の一件で、みちのくプロレスも、デルフィンも、ザ・グレート・サスケも生まれ変わると思いますので。温かくは難しいかもしれません、でも、今後もみなさん、見守ってやってください。よろしくお願いします!!　今日はありがとうございました。
（とテッドも退出）。

★どうするみちプロ!?　どうなるみちプロ!?

前述の騒動から6日後の23日、都内プロレス・マニア館で再び会見が行われ、コミッションの田邊哲夫氏、広報・篠塚誠一郎氏より、契約社員である愚乱・浪花、薬師寺正人、星川尚浩の3選手は2月末日契約満了を待って契約切れ解雇（ただし束縛は一切しないということで残りの契約期間中も他団体への出場を認める）、正社員である瀬野優、松井幸則の2人は就業規則第2、14、28条違反により懲戒免職、練習生の木川寿幸は処分なしとの発表があった。同じく17日の会見でのサスケ社長の冷静さを欠いた行動及び言動に対し、3週間のプロレス活動の禁止が言い渡された。

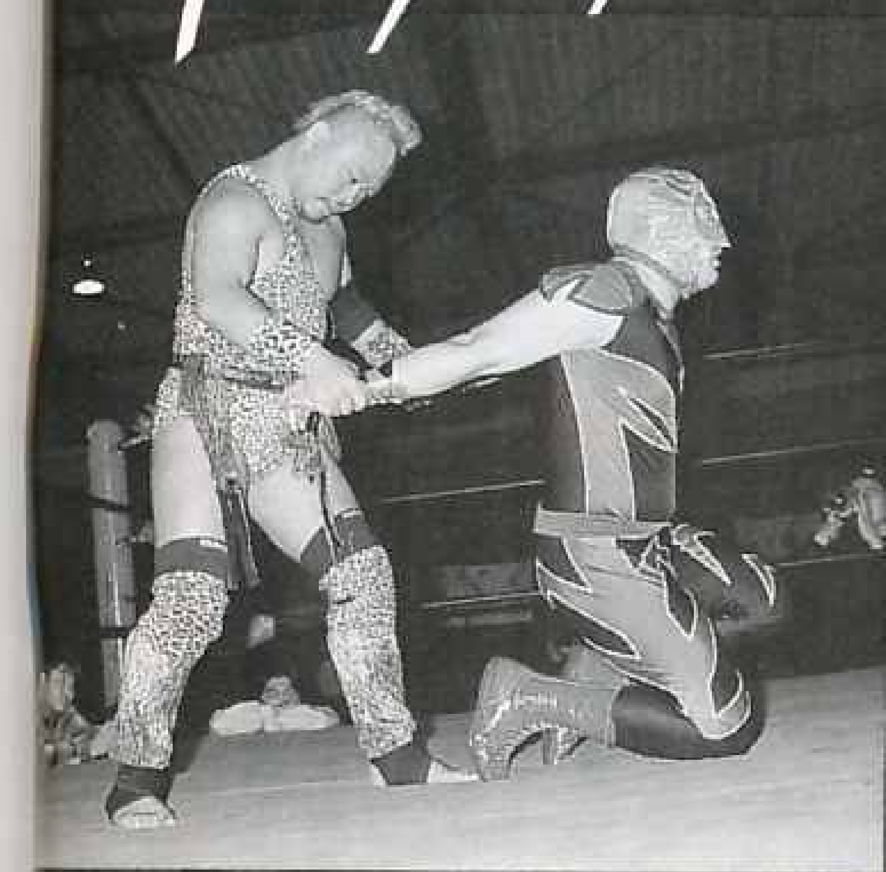
……それから数日後、「紙プロ」の優秀な諜報部門から、サスケに関する驚くべき情報が入ってきた。なんとサスケは白覆面に白装束で、新崎人生と共に四国・八十八カ所巡礼の旅を始めたという。今後、サスケが我々の前に姿を現わす時、大きく変貌を遂げたグレートなサスケが見られるはずだ。ガンバレSASUKE　みちのくプロレスは永遠に不滅だ！



“みちのく動乱の日”に、もうひとつの衝撃、走る——

1999.1.10

引退セレモニーながら、エンセン井上がみちのくプロレスのリングに上がった！　お土産のバナナを渡して最後のお別れをした。ヨネ原人のクシャクシャな顔が印象的だ。





（写真上）引退試合はヨネ原人vs愚乱・浪花の30分一本勝負。シリアスな試合展開で、カニの攻めは最後のはなむけとばかりにいつになく厳しいものだった。
（写真下）引退セレモニーは、ファン、関係者、選手がつくり出すアットホームな雰囲気で和やかに進んでいった。会場内ではすすり泣きするファンが続出、いかに愛されたキャラクターだったが伝わってきた。



みちのくをみるときのエンセンはずっと笑っていた。この日、ヨネ以外ではＳＭレボリューションがお気に入りだったようだ。

エンセン井上　大物プロレスラー遭遇シリーズ第3弾!!

RADICAL SCOOP 野蛮

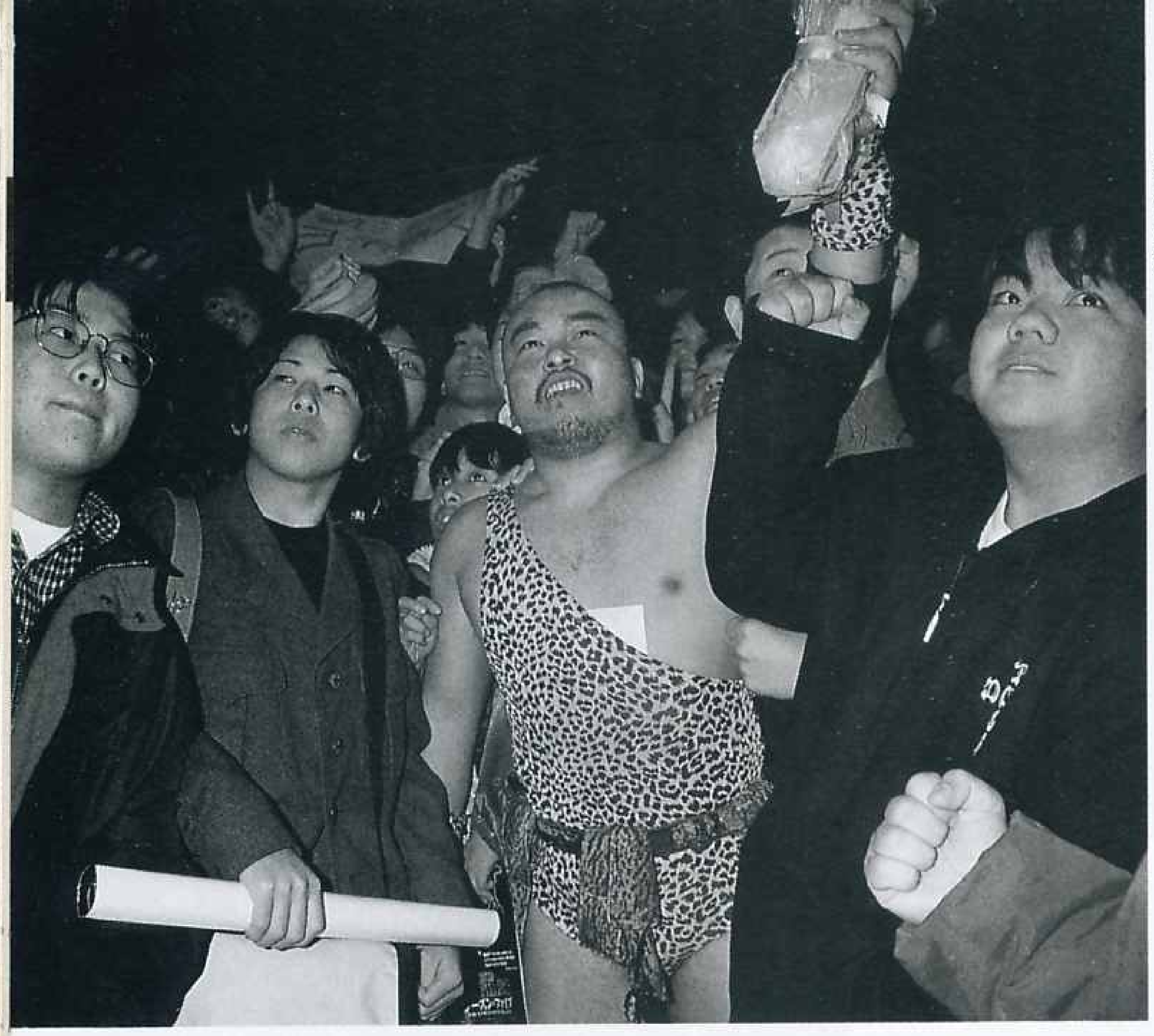
エンセン井上が大ファンだったヨネ原人の引退試合にやってきた!!

『紙プロ』がお届けする、賢い野蛮人・エンセン井上「衝撃の出会い」シリーズが帰ってきた。これまでエンセンは第1弾で前田日明、第2弾では高田延彦とプロレス界のヘソとも言うべきビッグな男たちと熱き魂の言葉を交わしあってきた。そして迎えた第3弾の相手は？　そう、今年1月10日の試合を最後に山へ帰ってしまった賢い（？）原始人・ヨネ原人である。じつはエンセンは某『K通』の選手名鑑ではライバルに挙げるほど、大のヨネ原人ファン。みちのくプロレスの中でもいちばんお気に入りの選手だっただけに、引退のショックは大きかったに違いない。
というわけで、『紙プロ』が野蛮人と原始人を引き合わせることにした。果たしてエンセンは、言葉の通じないヨネに大和魂を伝えることが出来るのか？



シューティングで一緒にトレーニングをしていた仲間・4代目とも対面した。

聞き手／坂井ノブ　interview by Nobu Sakai
撮影／森鷹博　photographs by Takahiro Mori



引退セレモニーが終わった瞬間、「クァッパッパッパ～」というお馴染みのテーマが流れ出し、ヨネ原人は客席（というかゴザシート）にダイブ！　湿った雰囲気を見事にひっくり返した。

試合直前 わくわくインタビュー

――ヨネ原人を一番最初に見たときの印象はどうでした?

エンセン　びっくりした!!　ダッシュで俺たちのほうに来るから、びっくりして逃げちゃった。チェーンで殴られたらどうしようかと思ったヨ。ホントに危ない原始人かと思ってずっと心配だった、2年ぐらい。

――2年も（笑）。

エンセン　4代目（タイガーマスク）に話を聞いたら、「普通の原始人だよ」って言ってたから、それで安心したネ（笑）。彼の試合はホントに好き。だから引退してほしくないネ。俺はみちのく、リングス、パンクラスとかよく見るんだけど、ヨネ原人が引退するのはリングスから田村とか高阪が辞めるのと同じ。パンクラスから船木、鈴木みのるがいなくなっちゃうのと同じくらいネ。それでもヨネ原人の方がインパクトあるヨ。

――ホントにファンだったんですね。

エンセン　みちのくにはあと誰がいる?　まず大きいのはサスケ、ヨネ原人、4代目とカニ（愚乱・浪花）、あとほとんど知らないもん。

――そういえば、『格通』の選手名鑑にもライバルの欄に、ヨネ原人と4代目タイガーマスクって書いてありましたよね。

エンセン　暴れるからネ。

――エンセンさんと同じ野蛮人ですからね（笑）。

エンセン　そう!　エンセンの中にヨネ原人がいるネ。エンセンの中にも、ヨネ原人みたいな野蛮人の動きあるヨ。その動きを出すとお巡りさんに捕まっちゃうから、控え目にしてるけど（笑）。

――アハハハハ!　六本木で暴れますからね、エンセン原人は。

エンセン　そう（笑）。だからヨネ原人はうらやましいヨ。彼のファイトスタイルだったら、年齢とか関係なく出来るから引退は意味ないよ。もったいないネ、ホントに残念。でも、山に帰って動物の社長になるらしいから、頑張って欲しい（笑）。

――2代目ヨネ原人が出てきたらいいんですけどね。

エンセン　でも、やっぱり初代だヨ。タイガーマスクも4代目まで出てきてるけど、やっぱり初代は大きいヨ。ヨネ原人の2代目が出てきても、余計に寂しくなるかもしれない。「初代はもっとすごいのに」って思っちゃう。

――エンセンさんの名言で、「プロレスの中にはいいキャラクターがたくさんいる。でも、格闘技にはつまらないキャラクターが多いネ」というのがありましたけど、ヨネ原人はプロレスの中でも最高のキャラクターでしたよね。

エンセン　格闘技でいうと、すごいインパクトの選手がいなくなるのと同じヨ。ヒクソンが引退するとか、ワタシがシューティングを辞めるとかと同じ。でも、みちのくは見続けるよ。ヨネ原人がいた方がいいけど、みちのくには素晴らしいキャラクターが、サスケとか、いっぱいいるネ。サスケが飛ぶのなんて、あれワタシがやったら死んじゃうよ（笑）。

――これから去りゆくヨネ原人にメッセージはありますか?

エンセン　ハァ～。（無言で深いため息）。ホント、この引退はびっくりネ。出来れば「引退しないで」って言いたいぐらい。でも、ホントに引退するんだったら、あの骨くれ。修斗クンに頂戴ヨ。

――アハハハハ!　最高の絵ですよ。あのチェーンで修斗クンをつないだりして。

エンセン　今度、修斗クン連れて山のヨネ原人会いに行きたい。あのでっかい骨もらいに行く!　もっと暖かくなってからだけどネ（笑）。

ヨネ原人引退試合

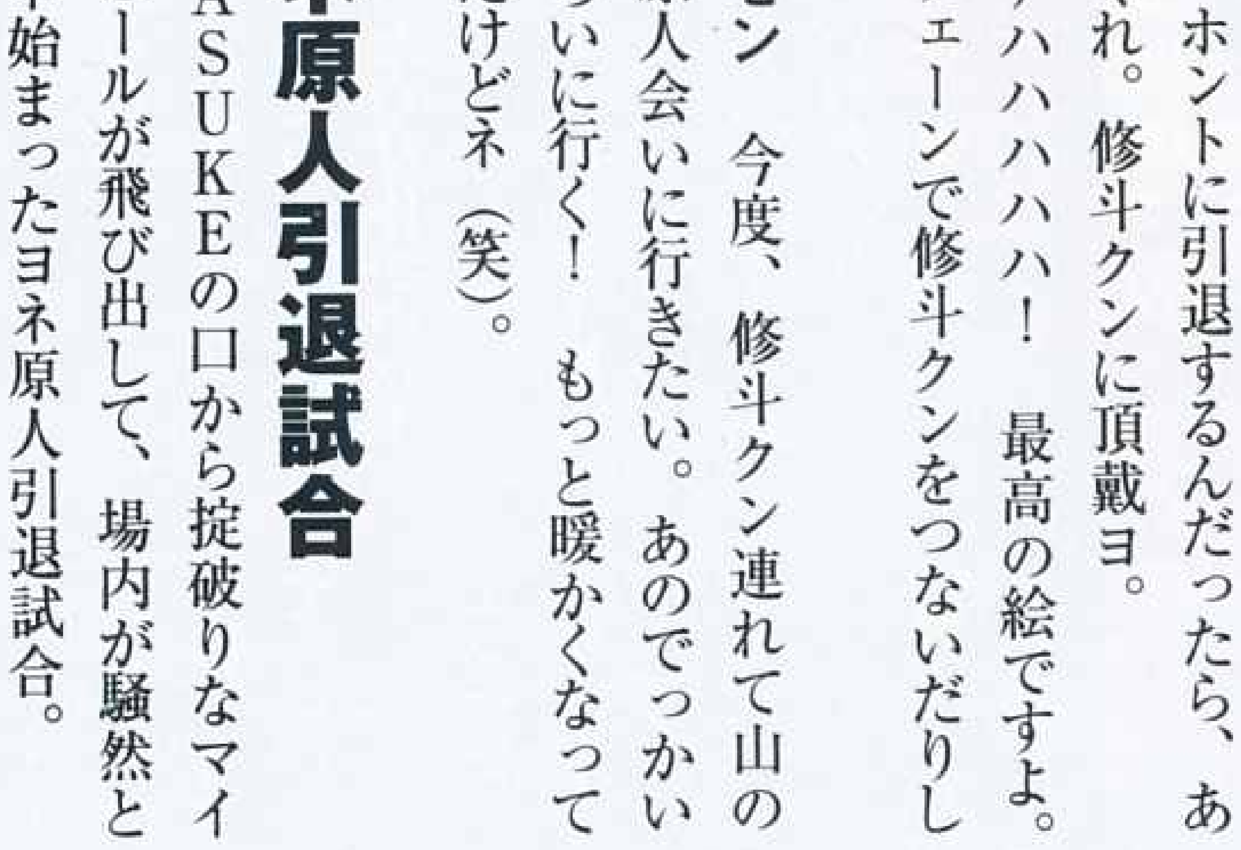
SASUKEの口から掟破りなマイクアピールが飛び出して、場内が騒然とする中始まったヨネ原人引退試合。

これがホントに最後の試合なだけにシリアスな内容で時間はどんどん過ぎていく。「残り時間1分!」のアナウンス、ところが1分過ぎても一向に試合は終わる気配をみせない。結局、5分以上過ぎた頃、ヨネが力尽きてフォールを取られる。しかし、それでも試合は終わらない。最後にはヨネ原人がマティマティカバスターでカニからカウント3を奪い、長い長い1分はようやく幕を閉じた。

会場中のあちこちからすすり泣きが始まり、涙、涙の感動のエンディングを迎えた後、リングの上にみちのくプロレス所属選手やマスコミ代表者が続々と別れの挨拶を告げていく。その中に片手に花、片手にバナナ、そして背中に〝大和魂〟のグラウンドコートを羽織った男がリングに上がる。

「ヨネ原人選手の大ファンということで、エンセン井上さんが会場にいらしております」

篠塚リングアナのアナウンスで会場内



試合前、バックステージを歩いているといきなりヨネ原人に呼び止められた。腕を突き出している。どうやら腕相撲を要求しているようだ。エンセンがプロレスラー相手に腕相撲で完勝したのを知っていたらしい。せっかくだから、ということで勝負！　するとヨネは奇声もろともエンセンの腕を押しきってしまった！

が、拍手と大歓声で包まれた。エンセンの目がとても寂しそう。原人と野蛮人のハートフル・コミュニケーションは見る者の涙を誘った。

この後にはSASUKEが出現、花束を放り投げ、「いい夢見ろよ、アバよ!!」と柳沢慎吾の完コピ挨拶で笑いを誘えば、NYからTAKAみちのくの切ない別れの挨拶も飛び出し、最後の最後には野蛮なヨネ原人が客席になだれ込んで大暴れして大団円。文句なしの引退セレモニーだった。見てみぃ、エンセンの笑顔!

試合直後のどきどきインタビュー

——いや〜、感動的な引退試合でしたね。

エンセン　最後、「残り1分!」ってアナウンスした後から長かったでしょ?「どうしよう、ヨネ原人勝つかな?」と思ったけど、ダメだったネ。でも、1分が8分ぐらいだった(笑)。

——試合はシリアスだったけど、最後の大暴れがあってエンセンさん的にも満足じゃないですか?

エンセン　いいネ。普通に試合して、最後にああなるのはよかったヨ!　映画みたい。でも、あのデルフィンの話は何?

——デルフィンがみちのくを飛び出して、新団体を創ろうとしてるんですよ。それを聞いたSASUKEが怒って、ああいう話をバラして制裁するということですね。人間模様が出てましたよ。

エンセン　凄いネ!　プロレスで難しいのは、プロレスの中にホントなのかキャラクターなのか、わからない発言があるでしょ?　おもしろい!　いや〜、俺はみちのくプロレス好きだヨ。

——今日もずっと笑ってましたもんね。

エンセン　でも、SASUKEとか4代目が飛ぶのはあまり見たくないヨ。痛いでしょ?　見るの、怖いネ。マットがないから危ないヨ。SASUKEはホントに命懸けてやってる。痛いのわかってて飛ぶでしょ?　その方が格闘技より偉いヨ。

——えっ、エンセンさんの口からそういう言葉が出てきますか?

エンセン　車を運転するときも、事故するのわからないから運転するでしょ?　怖くないもん。事故するとわかってたら運転しないヨ。歳取ったら身体がボロボロになりそうネ。

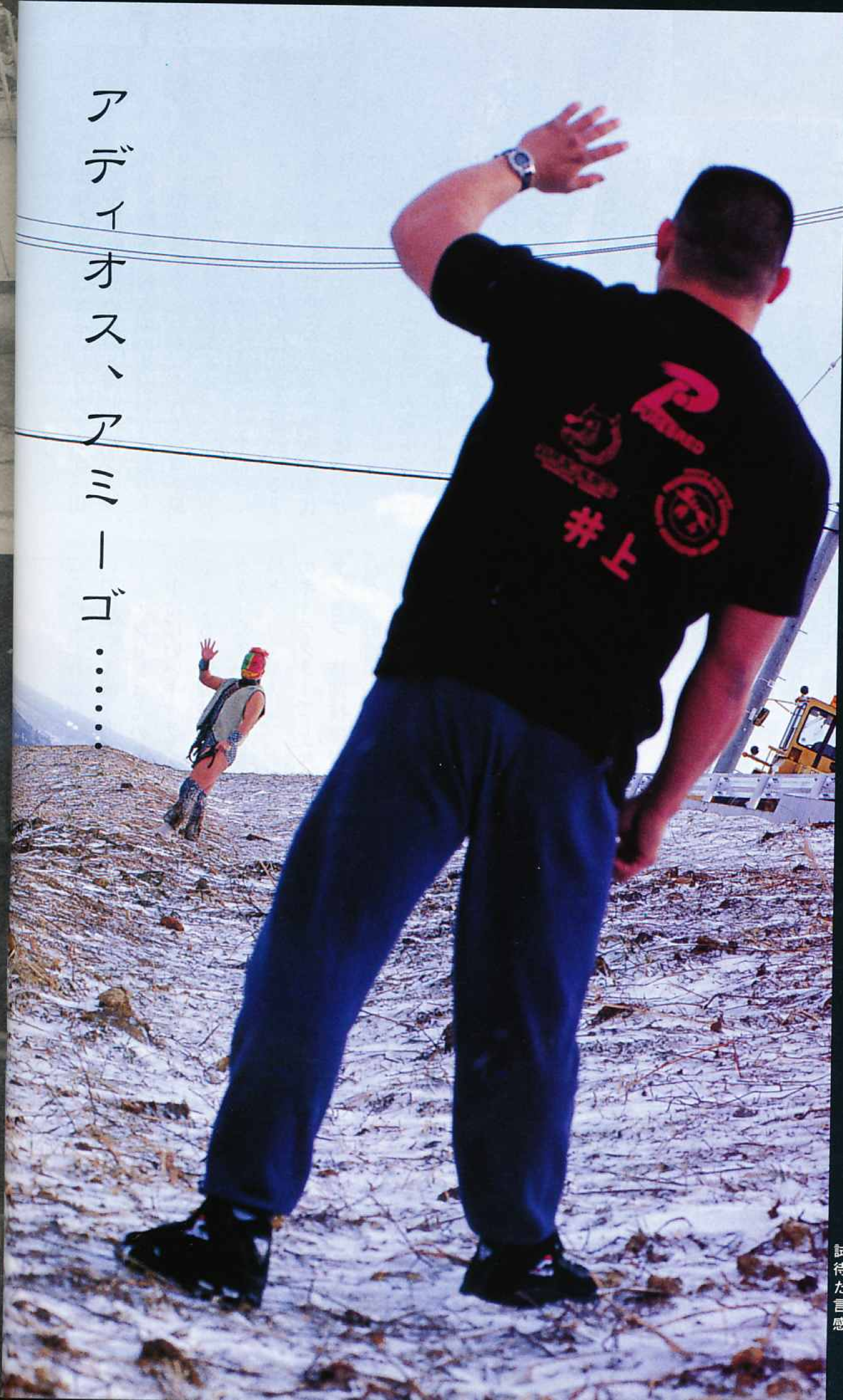
——ところで、リング上で何かヨネ原人に言ってましたね。

エンセン　うん。「あなた、引退するからガッカリしてるヨ。いつか、リングに戻ってくることがあれば、楽しみにしています」って言った。「グラシアス!　どうもありがとう」って言ってた。ホントだよ、いつか戻る気持ちになるかもしれないでしょ?　お願いしたいヨ。指巻いてお願いしたい。

——えっ、何ですかそれ?

エンセン　わかんないの?　こうすると(右手の人差し指と中指を絡める)アメリカではお願いするということネ。山に帰って、ゆっくりしてください。

【99年1月10日、雪の降るニューワールド仙台にて収録】



試合の翌朝、山へ帰ろうとするヨネ原人を待ち伏せしていたエンセン。「ヨネ原人!　また逢いましょう!」と最後のお別れをすると、言葉が通じないはずのヨネが手を振った!　感動のラストシーンである。



ついに辿りついた新崎人生戦——
アレクが語る"俺の夢"

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

アレクサンダー大塚

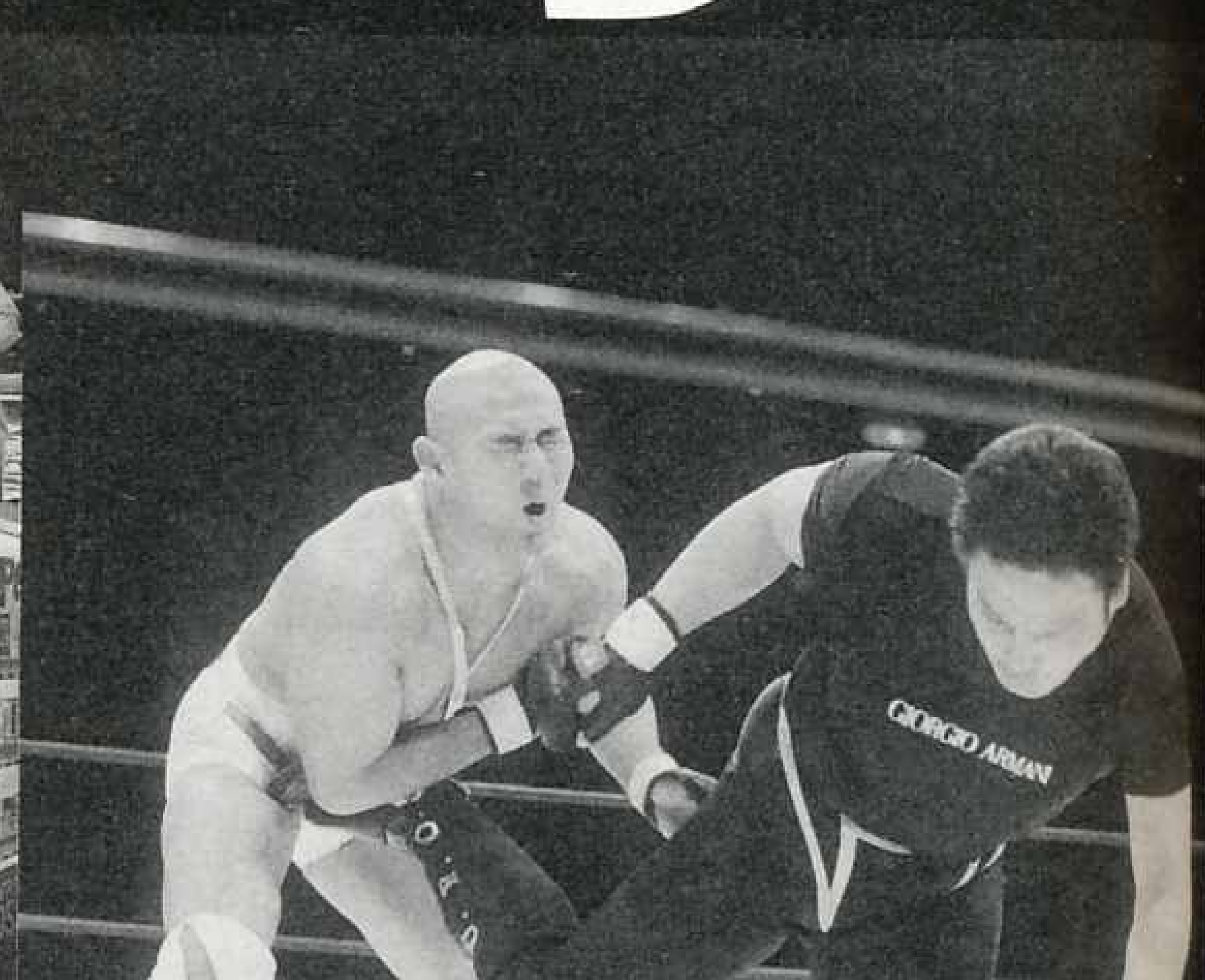
マルコ・ファスをボコボコにしたのも、みちプロでトペコンしてるのも、ロード・ウォリアーズに放り投げられるのも、バトラーツ勢を殺人的なスープレックスで投げっぱなすのも、どれもホンモノのアレクである。ある一面だけを切り取って、アレクを掴もうとしても、するりと抜けていってしまう。プロレス界のネコジャラシ・アレクサンダー大塚はどこまで上に昇っていくのだろう？ さあ今回のお題は「夢」です！




3賞すべてにエントリーの大塚

【話題賞】MVPを皮切りに殊勲、敢闘、技能の3賞すべてにエントリーされた大塚に話題賞が贈られることになった。賞取りレースにはいずれも敗れたが、マルコ・ファスを撃沈し、アルティメット界におけるプロレスの失地を回復させた大塚。プロレスファンに対する功績は最も大きかったといってもいい。大塚の話＝「両国でのウォリアーズ戦が評価されたということで大変うれしく思います。来年からはさらに上の賞をもらえるよう頑張ります。とにかく来年の目標はWWF進出。必ず実現しますから今後も期待していてください」





アレクの周辺では、昨年後半からいろいろなことが起こっている。ざっと説明しよう。12月16日バト川越大会に某雑誌の取材でルー・テーズが来場。アレクを絶賛／12月10日付で発表された『東スポ』大賞でアレクは複数の賞にノミネートされたが、最終的には話題賞に／11月23日ロード・ウォリアーズに放り投げられても、快進撃は止まらない!!／12月21日リン魂の正月特番でパワー・ウォリアーこと健介と腕相撲で対決した／12月30日ＵＦＯ大阪大会で初代タイガーマスクと対戦。厳しい攻撃を凌いだアレクが足関節を取った瞬間、佐山が足を負傷。レフェリーストップ勝ち。

新崎さんを見て、「普通の生活じゃ終われないな」と

アレクサンダー大塚は、昨年『東スポ』の話題賞、『週プロ』のニューウェイブ・レスラー賞、『ゴング』の新鋭賞と、様々な賞を総なめ、ファン&関係者の評価は絶大である。

昨年のアレクの大活躍ぶりは本誌でも大々的に取り上げてきたので、読者の方々には、いまさら説明するまでもないだろう。そんなアレクに、昨年『デブ』症、『健忘』症、『酒乱』症と様々な症状を総なめしたノブがインタビューを挑んだ。

アレク　昨日、iMacを買ったんだ。

——じゃあ、もうバリバリにネット・サーフィンしてるんですか？

アレク　……まだラインを接続してない。

——あら。でも、インターネットは凄いですよね、ウチの会社もつい最近、導入したんですけど。ただの箱なのに、いろんな情報が引き出せる夢の箱ですよね。で、強引に結びつけてしまうとバトラーツにも同じようなことがいえるんじゃないかと思うんですよ。ストロング・スタイルあり、ルチャあり、ときにはバーリ・トゥードにも出撃して、デスマッチもあり、どこにでもアクセス出来るんですよね。

アレク　まあ、お客さんにとっては夢の箱かもしれないけど。

——実際は違うんですか？

アレク　いや、わかんないなァ。客観的には見れないから。

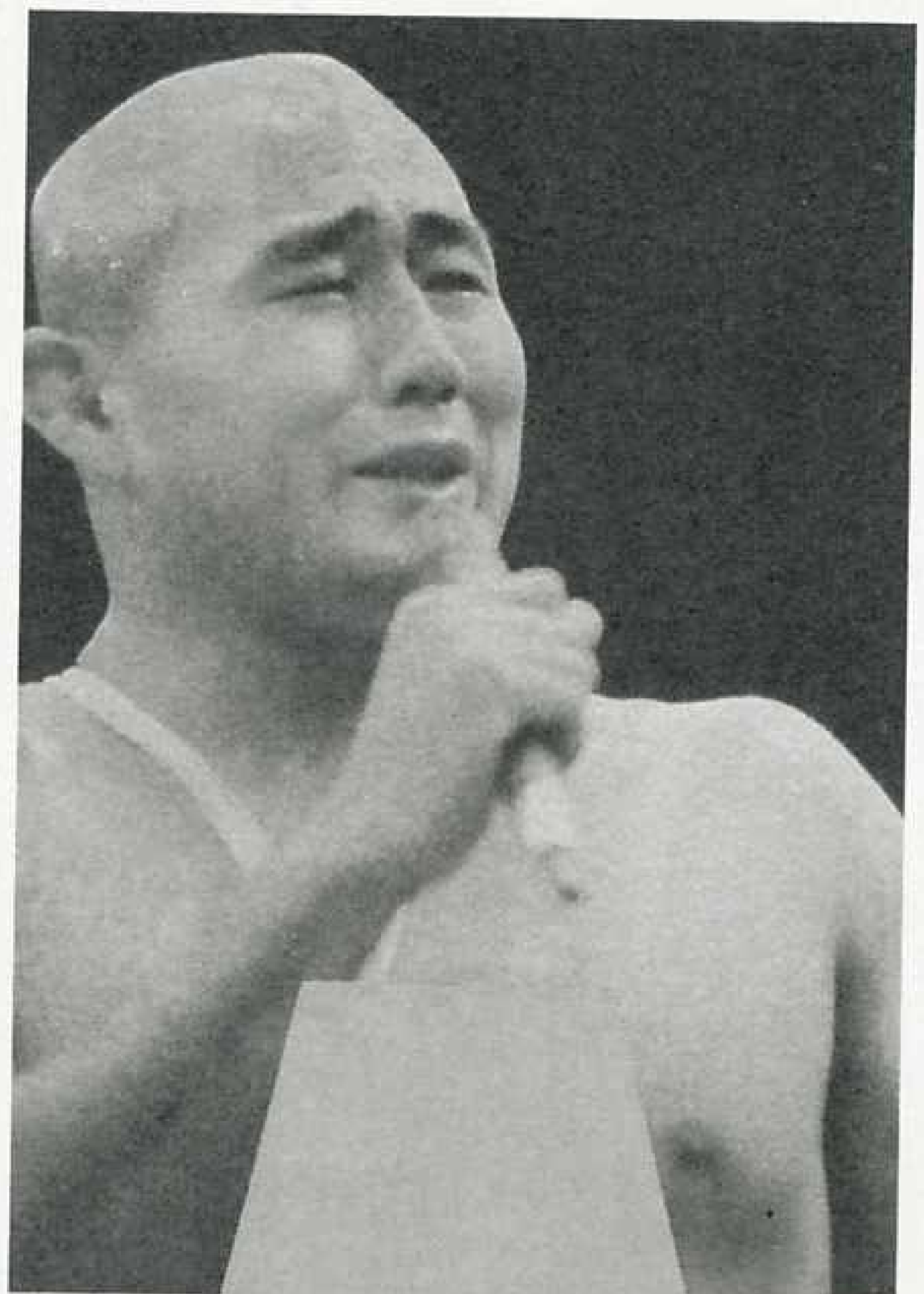
——いや、こんなにニュートラルな団体はバトラーツだけですよ。

アレク　うん。たしかに、自分自身も夢を与えようと思ってやってるし。みんながそういう気持ちでやってれば、いろんなかたちの夢があって、夢の箱になるかもしれないけど。

——いまはアレクさんが先頭を切ってファンや観客に夢を与えてますよね。

アレク　でも、いろいろやらせて頂いてるのは後ろで石川社長が構えてるからだよねぇ。

——それに社長本人もミックスド・タッグのトーナメントやったり、好きなことやってますからね（笑）。夢といえば、年末のvs初代タイガーマスク戦は夢の対決でしたね。試合開始前にマスクを脱いじゃいましたけど。そしたら佐山さんが鬼の形相になってましたね。



Alexander Otsuka

アレク　本気なんだなっていうのはヒシヒシと感じましたね。

——初対決だったんですよね？

アレク　そう。一昨年あたりはみちのくさんやウチのリングにも上がってたんで「機会があればやりたいな」と思ったけど。もう、できないだろうと思ってたところだったから、対戦できてよかった（微笑）。

——アレクさんぐらいの年齢だと、みなさんだいたい初代タイガーマスクの影響を受けてますよね。学校で、プロレスごっことかしなかったんですか？

アレク　あんまり。親父がテレビを見てる横で一緒に見てただけだったから。

——そういえば、プロゴルファーを目指したこともあったんですよね。

アレク　そう。『あした元気になあれ』を読んで、プロゴルファーになろうとして。打ちっ放しに行ったりしながら、高校に入ったらゴルフ部を作ろうかと思ってたからねぇ。

——それがレスリング部に入り、『1、2の三四郎』に感化されてプロレスラーを目指したわけですよね。なんか、そう考えるとマンガで人生の進路が決まってるんですね。

アレク　いや、でもオレの人生を変えたのはレスリング部の顧問の先生。マンガは好きだけど。

——そこで出逢ったのが新崎先輩だったと。

アレク　そう。

——アレクさんは最初、藤原組のテストに合格したけど、親の了解が得られなくて入門出来なかったという経緯があるわけですけど。その頃、新崎さんはまだプロレス入りしてなかったんですよね。

アレク　そう。それでオレが普通の仕事を始めた後に、新崎さんがプロレス界に入ったから……。FMWの川崎球場で有刺鉄線の上で拝み渡りしたり、WWFのマニア・ツアーに参加したり。そういうプロレスのメジャーな舞台で活躍し始めた新崎さんを見ると、「オレの方が先にプロレスの世界に入ろうとしたのにィ」ってジェラシーも感じたし。「このまま田舎で、普通の生活をして終わるわけにはいかないなァ」と思って……。

——そんなときに、新崎さんがガーッと階段を上がっていって、WWFに行っちゃいましたね。

アレク　「ホントだったら自分がプロレスの世界にいたのにな」と思ったら……つらかった。でも、新崎さんが、プロレス界で活躍してたから、オレもまたプロレスを目指そうと思うことが出来たから。新崎さんがいなかったら、いまのオレはここにいない。

——でも、いまのアレクさんは、あの頃の新崎さんと同じぐらいのスピードで階段駆け上がってますよね。

アレク　新崎さんはデビューから1年半ぐらいでWWFに行ったでしょ。オレは新崎さんほど早くないと思う。

——でも、このプロレス界である程度、手の届くポジションまで来たと思うから、今回は対戦要求したんですよね。

アレク　うん。この世界に入った時点

で、まず目指すべき人、中間にあるデッカイ山という感じかな。

――ウチの雑誌が1年半前にやったインタビューなんですけど。「夢として手を合わせてみたい選手は誰ですか？」という問いに、「××××」とアレクさんが応えてるんです（『紙のプロレスRADICAL 4号』参照）。この4文字がじつは「新崎人生」だったんですよね。

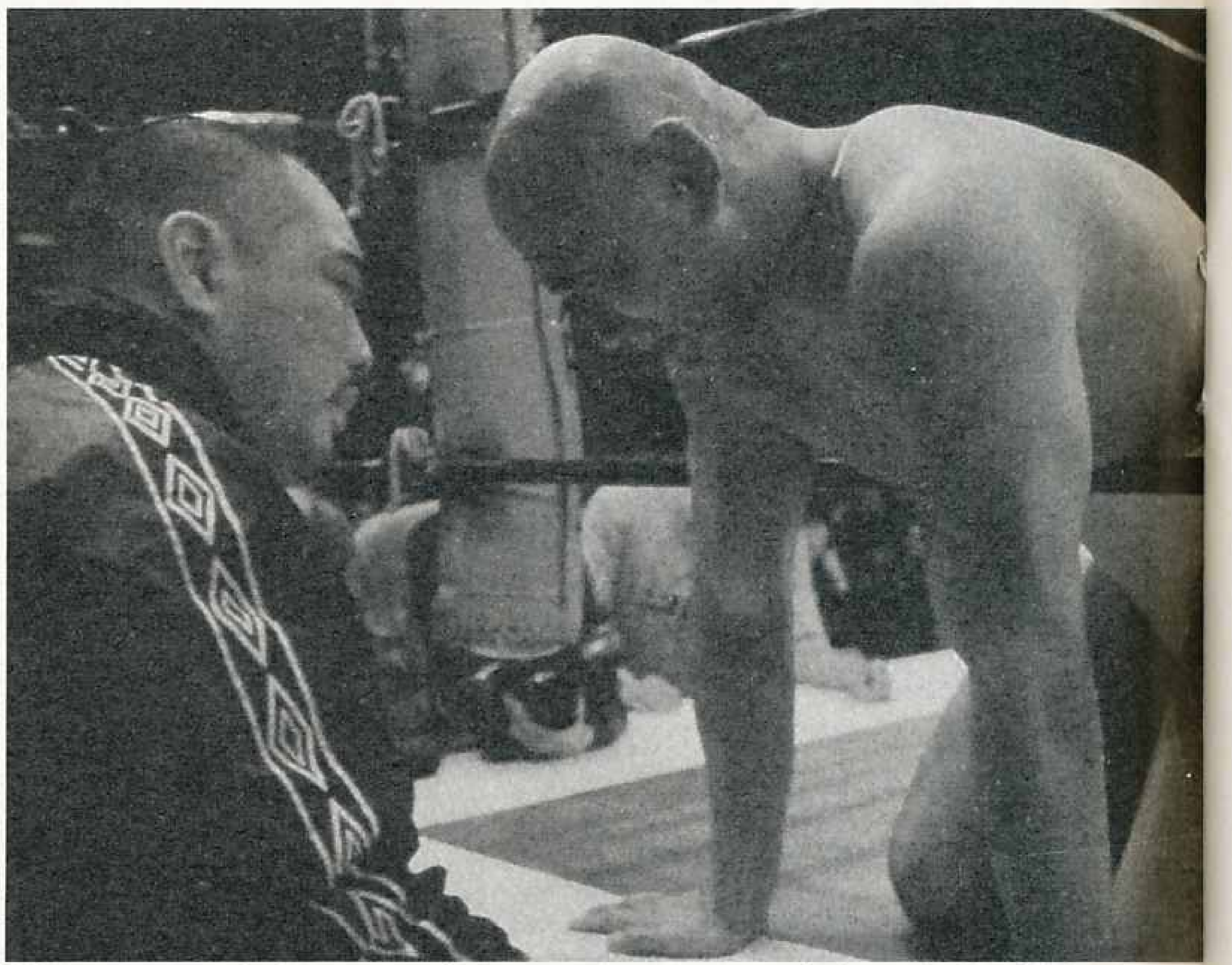
アレク　そうか……あれから、1年半経ったんだよね。その山をデビューして5年以内に超えないと、たぶん名もない、大成できない、そのへんのしがない、普通のサラリーマンでいうと平社員みたいなレスラーにしかなれないなと思ってたから……。それが3年半で自分が口に出せるところまで来たから。まあ、ちょっと早くたどり着けたかなという感じ。

――アレクさんって、普段から目の前に自分でハードルを設けて、それをひとつひとつ飛び越えていこうという感じなんですか？

アレク　いや。最終のポイントは決まってて、それに達するまでにそのときそのとき、目の前に立ってきた壁を乗り越えればいいっていう考えだから。でも、プロレス人生の最終ゴールは全然思いつかなかった。やっぱり……新崎人生っていうレスラーを追いかけて入ってきたからだと思うけど。ゴールが見えないまま、飛び込んで来ちゃった感じ。

――目の前のハードルであり、当初のゴールが新崎人生だったということですね。ちょっと、涙の意味がわかりかけてきました。正直言って、あの当日にボクの周りにいた観客も「何で泣いてるの？」っていうリアクションでしたからね。

アレク　そう。オレもなにしゃべってるかわからなかったァ（微笑）。ビデオで見て、「ああ、こんなふうに伝えてたんだァ」と思って。ただ、キッカケをつくってくれたのが新崎さんだから、試合でその恩返しをしたいから、早く追いつきたかったから、ああいうマイクになっちゃったのかな。目標だったから……。



「どうしてもやりたい相手がいて、この世界に入ってきました。いまのボクなら、その人の名前を明かしてもぉ（泣）。言うべき時が来たんだと思います（泣）。みちのくプロレスの新崎人生さん！ボクはアナタの姿を見て、この世界に来ました」と、涙で言葉を詰まらせながら、積年の思いを超満員の観客と新崎人生にぶつけた。

――目の前に次々やってくる壁を飛び越しながら、アレクさんは夢だったポジションまで来たと思うんですよ。でも、夢っていっても、「いい車乗りたいっしょ？」とか「女にモテたい」っていうのも、それはひとつの夢の形だと思うんですよね。もちろん、そういう現実的な欲はなきゃダメだと思うけど。ただ、アレクさんの場合は、『1、2の三四郎』を見た頃の衝動で、そのまんまプロレスラーになってるのかなっていう純粋な部分を残してますよね。いまのプロレス界では、非常に珍しいと思うし。

アレク　夢っていっても、その夢にもいろいろあるから。単純に「お客さんの見てる前でプロレスの試合がしたい」という夢だったら、いまは簡単にかなっちゃう部分もあるし。まあ、どれが一概にいいとか悪いとか言えないけど、とてもレスラーとは呼べないような体の人がデビューしたりするのが現状だからねぇ。そういう小さな夢が簡単に果たせちゃうのは、現在のプロレス界に問題があるからかもしれないし、それはわからない。

――そういう現在のプロレス界の中でで、「東三四郎との対戦したい」っていう夢は、とてつもなくスケールがデカいですよね。

アレク　去年、ようやく見つかったテーマですね。

――これに並ぶのが猪木さんとの対戦ですか？

アレク　いや、猪木さんは……本当に申し訳ないんですけど、ボクの〝行く道〟の中の通過点のひとつですから。三四郎がその道のいちばん最後だとすると、そのひとつ前、作者の小林まこと先生とも闘わないといけないし。

――なんでですか（笑）。

アレク　やっぱり作者だから（微笑）。それと、ボクをファンの人が認めてくれるかどうか。全プロレスファンの人とも勝負しなきゃかもしれない。

――そういえば、1・4の東京ドームで猪木さんは三四郎マスクで現れましたよね。

アレク　あれは、ボクが対戦要求したことを猪木さんが考えていてくれたのかなと思いました、んむはぁ（微笑）。UFO旗揚げ戦（98・10・24）で、試合前のトークショーで猪木さんの前で『1、2の三四郎』のことを語ったからね。それに猪木さんが応えてくれたんだと思う。

――そういえば、1・4の小川vs橋本戦はどう思いますか？

アレク　っていうか、オレは現場には行ってたけど、眠たかったから第5試合（大仁田vs健介）まで見て、外に出ちゃって。外に出て、ゲームセンターで遊んでたら、大変なことになってたみたいで（笑）。

――当日は、UFO軍団の一員として、セコンドにつく予定はなかったんですか？

アレク　ありましたよ。ホントはフライのセコンドにつくという話もあったんですけどぉ。

――それ、見たかったですね!!　話を戻すと、小川vs橋本戦に関しては、いろいろマスコミ等で言われてますけど……。

アレク　……見てないからねぇ、んむはぁ（微笑）。

――わかりました（笑）。そうかと思え

全プロレスファンの人とも勝負しなきゃいけないかもしれない

ば最近は、ああいう格闘技路線とは対極のWWF行きを熱望してますね。

アレク　試合する前に新崎さんが行った道と、同じ道を体験したかったなあと、新崎人生戦が決定しちゃいましたけどね。大きな体の選手と闘って、いろんな経験をしていきたかった。

――今年の選手名鑑だとライバルが「ストーン・コールド」になってるのは、そのWWF行きに向けてのアピールですか。

アレク　それは同じスキン・ヘッドでかぶってるから。んむはぁ（微笑）。

――あの人はスキンヘッドにイメチェンして、完全に成功しましたよね。そういえばWCWのゴールドバーグもスキンヘッドじゃないですか。

アレク　ゴールドバーグはあんまり好きじゃないなァ。でも、スコット・スタイナーとは闘ってみたい。

――あの人もアマレス出身ですよね。

アレク　いや。それより、あの変身ぶりが凄いから。

――ああ、最近アマレス・スタイルをやめて、メチャクチャかっこよくなりましたもんね。

アレク　あそこまで自分を変えられるのはプロだなぁ。オレもWWFに行ってどこまで変貌できるか、試してみたい。実際、オレがいまのままで行っても、たぶんWWFでは、あんまり受け入れられないと思うし。

――あちらのプロレスはパッと見てわからないと、すぐに切り捨てられていきますからね。

アレク　いまのままで認めさせるぐらいの能力を発揮できるのがベストだろうけど、変身してみたいしなぁ。

――変身願望が強いですね。

アレク　だからパーマンやったりしてるんだよ。あと、ゴールダストとやってみたい。

――ホモレスラー世界一決定戦だ（笑）。夢は広がるなあ。こうやって、またどんどん外に広がっていこうという年の初めに〝原点回帰〟というテーマで後楽園大会が行われましたね。

アレク　でも、あれは両国後の自分たちは右も左も見えなくなっちゃってるから、そういう意味での原点回帰だと思うけど。ボクの中では、バトラーツはいまのままだと大きくならないと思う……。自分ひとりがガンバっただけで、団体が変えられればいいんだけど、それじゃあ時間が掛かるじゃないですか？　とりあえず、バトラーツを新しい方向に変えていくにはモハ（メド・ヨネ）と力を合わせて……。せっかく大きい身体を持ってるんで。今年はモハと2人で、バトラーツを変えていきたいなと。

――石川社長は「客を引かせるのが俺たちの原点だ」って言ってました。

アレク　チーム・ノーレガース（石川社長&アレク）vsチーム・タコ（池田&小野）でやると、だいたい引かせちゃう。

Alexander Otsuka

――社長&アレクがボコボコに殴られ、蹴られっていう展開ですよね。

アレク　受けの強さには、自信があるから。んむはぁ（微笑）。

――ああいう闘いって、やってる方は充実感ありますか？

アレク　うん。ヘッド・バッドは好きかな。蹴られるのは嫌。

――WWF行きたいし、パーマンもありだし、ゴツゴツした闘いもある。アレクさんのプロレスの中にはいろいろありますよね。

アレク　でも、やりすぎると印象に残らなくなる場合もあるからね。

――器用貧乏ってやつですね。

アレク　うん。それは、やっぱりボクの中でお客さんにありがたいな、と。ルチャやっても、バーリ・トゥードやっても、ミックスド・タッグやってもわけへだてなく応援してもらえるから。

――あとはデスマッチですね。そちらには挑戦しないんですか？

アレク　それはあんまり。やりたくないなぁ、んむはぁ（微笑）。

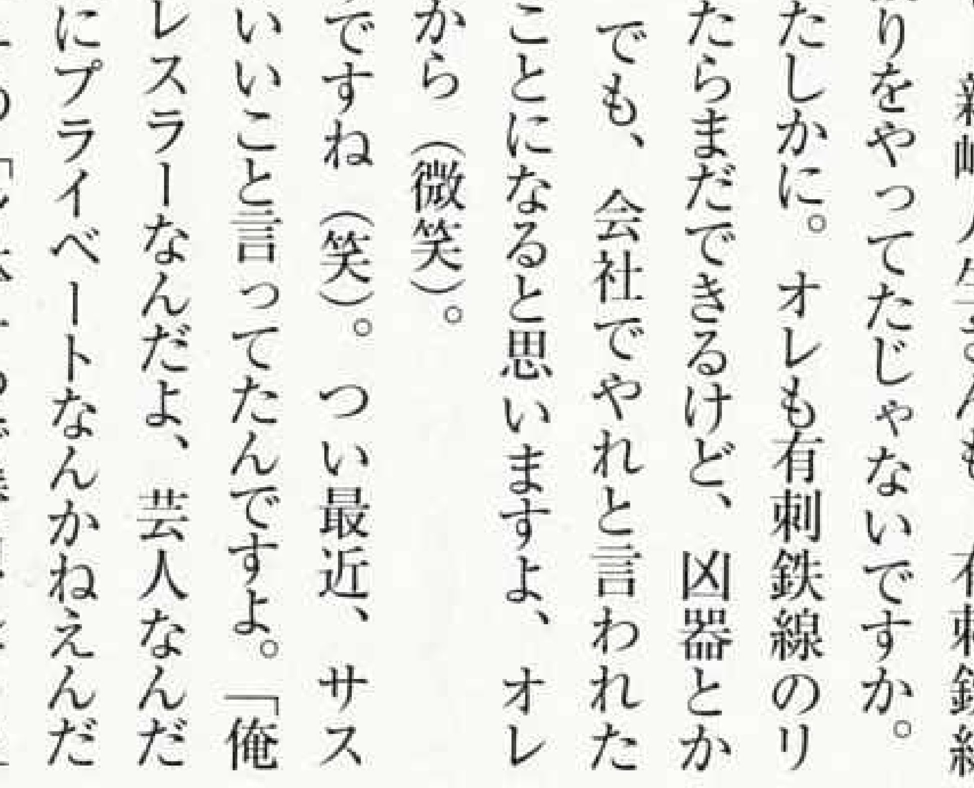
――でも、新崎人生さんも、有刺鉄線で拝み渡りをやってたじゃないですか。

アレク　たしかに。オレも有刺鉄線のリングだったらまだできるけど、凶器とかは……。でも、会社でやれと言われたら、やることになると思いますよ、オレのことだから（微笑）。

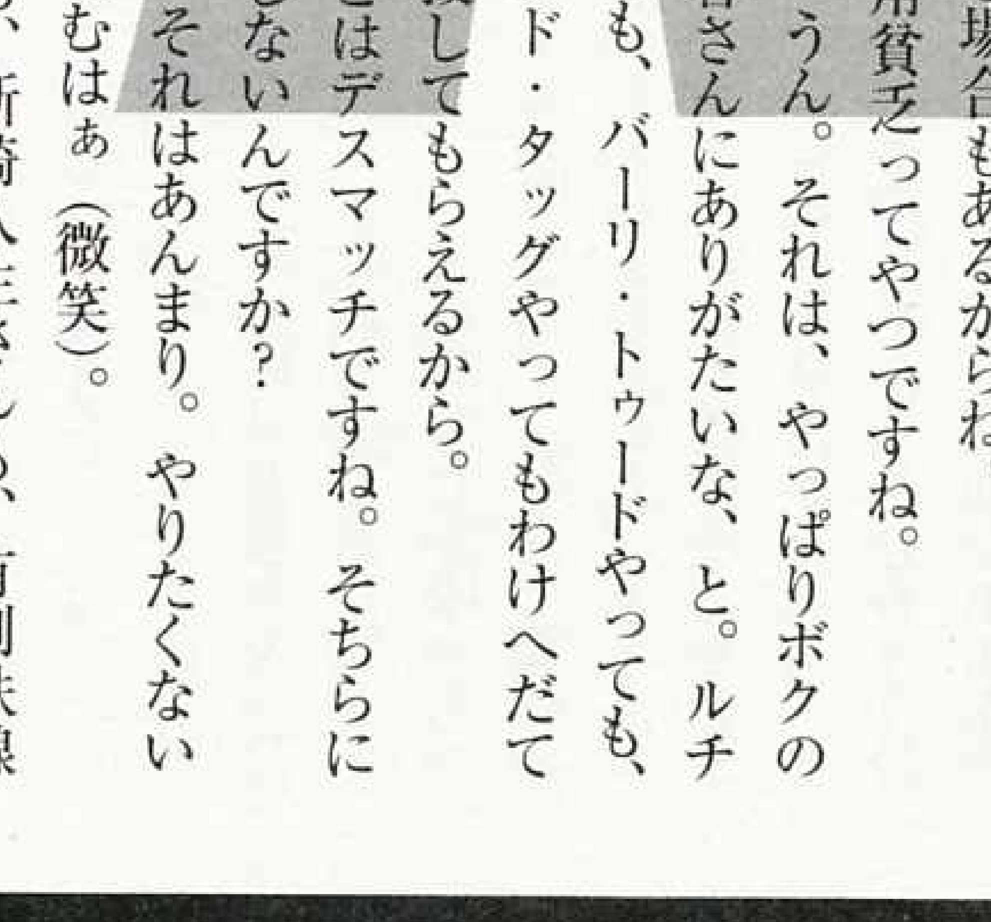
――そうですね（笑）。つい最近、サスケ社長がいいこと言ってたんですよ。「俺たちプロレスラーなんだよ、芸人なんだよ。芸人にプライベートなんかねえんだよ」って。その「身体一つで勝負してる」観が、まさにアレクさんのようなプロレスラーのことだなって思ったんですよ。

アレク　でも、プロレスラーって基本的にみんなフリーみたいなものでしょう。身体一つで生きていかないとダメだから。そういう気持ちは必要だと思う。それがないと、「今日はケガしないように、適当にやろう」という、この世界にもいっぱいいるサラリーマン・レスラーになっちゃうから。

見てみぃこの色気



2代目・リングガールの秋野涼子ちゃんのお披露目記者会見でも、いかんなくお色気を振りまくアレク＆ヨネのラヴ・ウォリアーズ。



もうひとつの原点回帰――両国大会直前にはアレク芸能仕事の原点であるホモ雑誌『G-men』に登場。

—あの、みちプロの大量離脱騒動も全員が自分の商品価値を高めようとした結果だったと考えれば、責められた問題ではないのかもしれないですね。

アレク　自分の商品価値を高めるのはいいことだからね。

—ひいては、それが団体の繁栄につながってくるということですよね。

アレク　オレがいつも言ってる「自分のためにやってる」というのは、そういうことだから。

—今年もアレクサンダー大塚株は上昇しそうですね。いきなり人生戦が決まって、さい先もいいですしね。

アレク　目の前に来たチャンスをモノにしてきてるからじゃないかなァ。

—今年の目標ってありますか?

アレク　今年中の国内脱出!!

—イコールWWF、ですね。

アレク　そう。バトラーツから消えます。最低でも1年は行きたい。

—長いですねえ!

アレク　でも、ウチの団体も両国の後だからって、行き詰まったりすることなく、どんどん攻めていきたい。だから、もし若手の伸び盛りの選手が抜けて……。

—アレクさんのことですか?

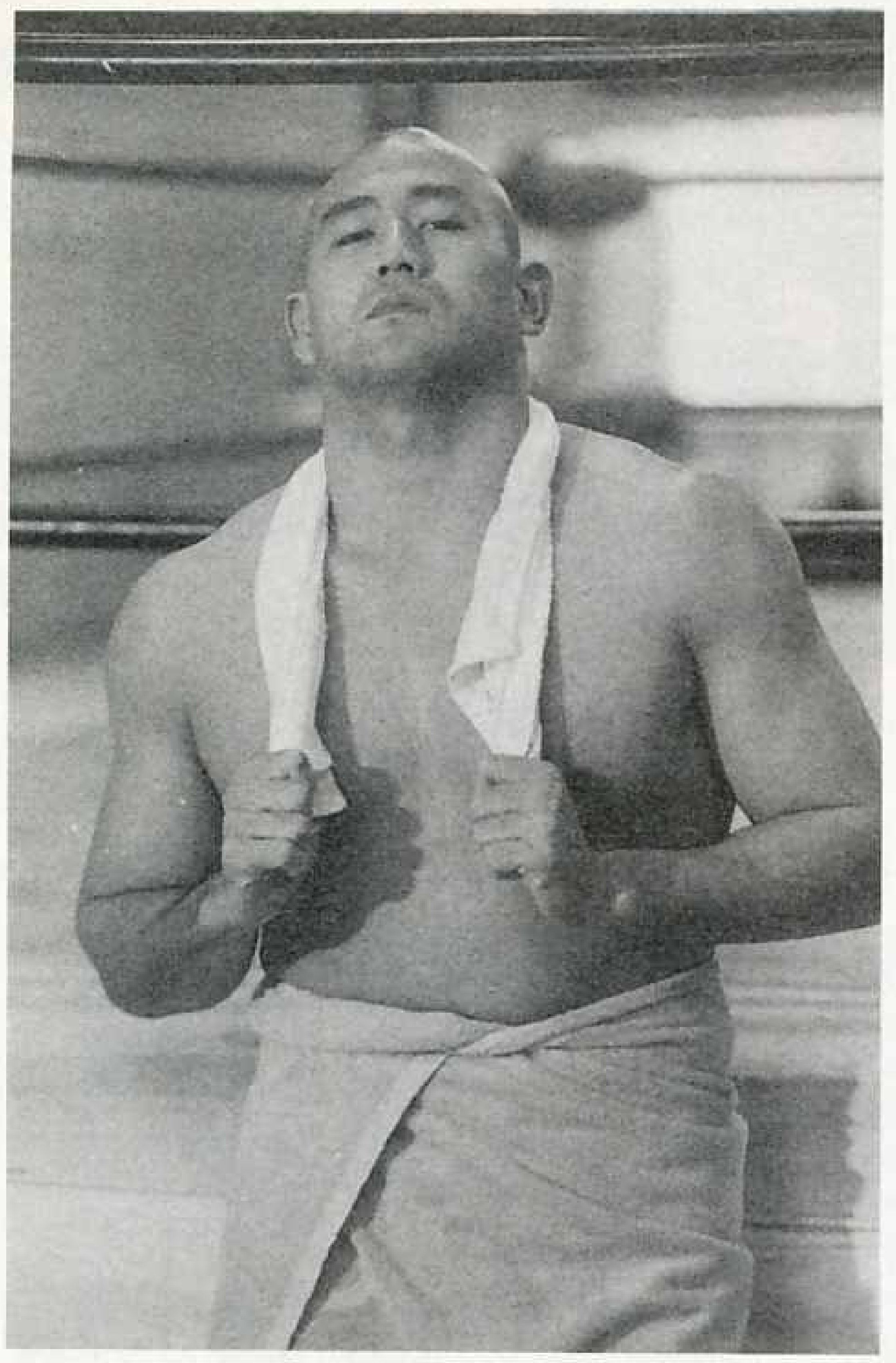
アレク　いや……岡やん。んむはぁ（微笑）。

—岡本魂選手でしたか（笑）。ただ、仮にアレクさんが抜けたとして他の選手がどう頑張るかっていうのは気になりますよ。そういう刺激があれば、いい方向に行くと思います。一時的には、大きなマイナスでしょうね。

アレク　だけど、石川社長はマイナスが大きければ大きいほど、より大きなプラスにしてしまうから。バトラーツの〝風車の理論〟で（微笑）。目の前にあることを全力でブチ当たれば必ずどうにかなるものだからね。

—身に染みるお言葉です。

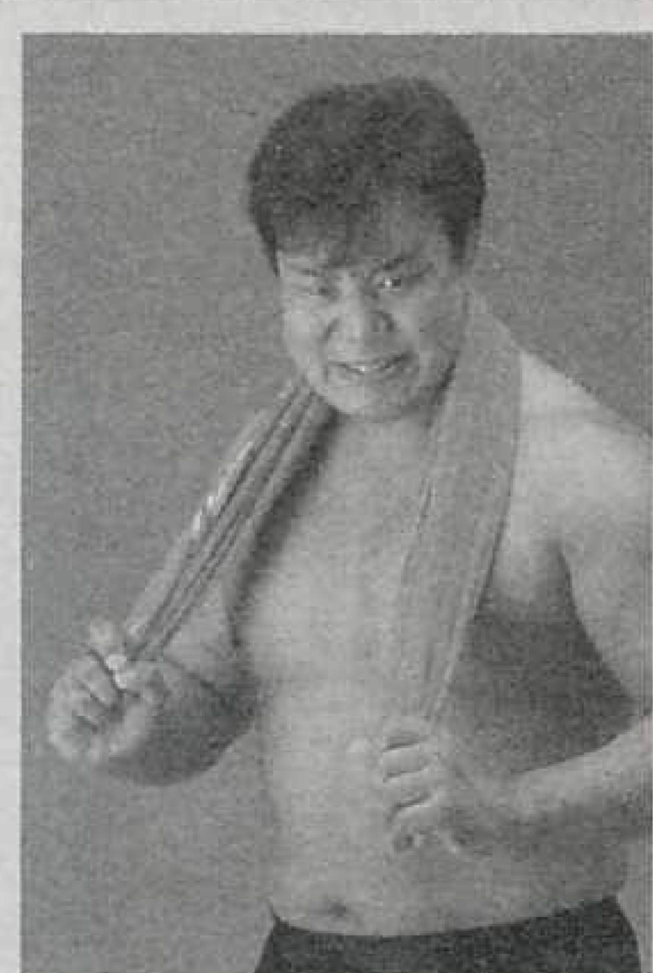
【99年1月18日、越谷・バトラーツ事務所にて収録】



あれくさんだー・おおつか■昭和46年7月17日、徳島県徳島市出身。高校のアマレス部の先輩・新崎人生に刺激を受け、プロレス入り。藤原組に入門後、バトラーツへ。一昨年のヤングジェネレーションバトル'97優勝、昨年は『PRIDE. 4』でバーリ・トゥードの強豪マルコ・ファスを撃破していちやく"プロレス界の救世主"となるが、"リング設営主任"という裏方の肩書きも持つ。11月23日両国国技館大会でのvsロード・ウォリアーズ戦（パートナーはモハメド・ヨネ）では関係者の評価も非常に高い試合を展開。たまにパーマンに変身する。183センチ、92キロ。

酒池肉林!!
ミックスド・タッグの祭典開催





バトラーツ・JWP合同興行『キング＆クィーントーナメント』では、バト勢とJ勢が男女混成イルミネーション6人タッグで激突するトーナメントが開催される。男女の対戦も可能なので、セクハラ＆逆セクハラの嵐となるのは必定!!　ミックスド・マッチの鬼、石川雄規は誰を狙うのか?　目が離せない!!

【出場チーム】

●石川雄規＆本谷香名子＆倉垣靖子組
●ダイナマイト関西＆モハメド・ヨネ＆渡辺えりか組
●デビル雅美＆池田大輔＆春山香代子組
●アレクサンダー大塚＆福岡晶＆久住智子組
●臼田勝美＆ボリショイ・キッド＆天野理恵子組
●小野武志＆マッハ純二＆宮口知子組

3月13日（土）神奈川・クラブチッタ川崎（一回戦）
3月21日（日）大阪・舞洲アリーナ・サブアリーナ（準決勝及び決勝戦）

【お問い合わせ】
格闘探偵団バトラーツ　TEL.0489-63-0005
JWP女子プロレス　TEL.03-3839-4161

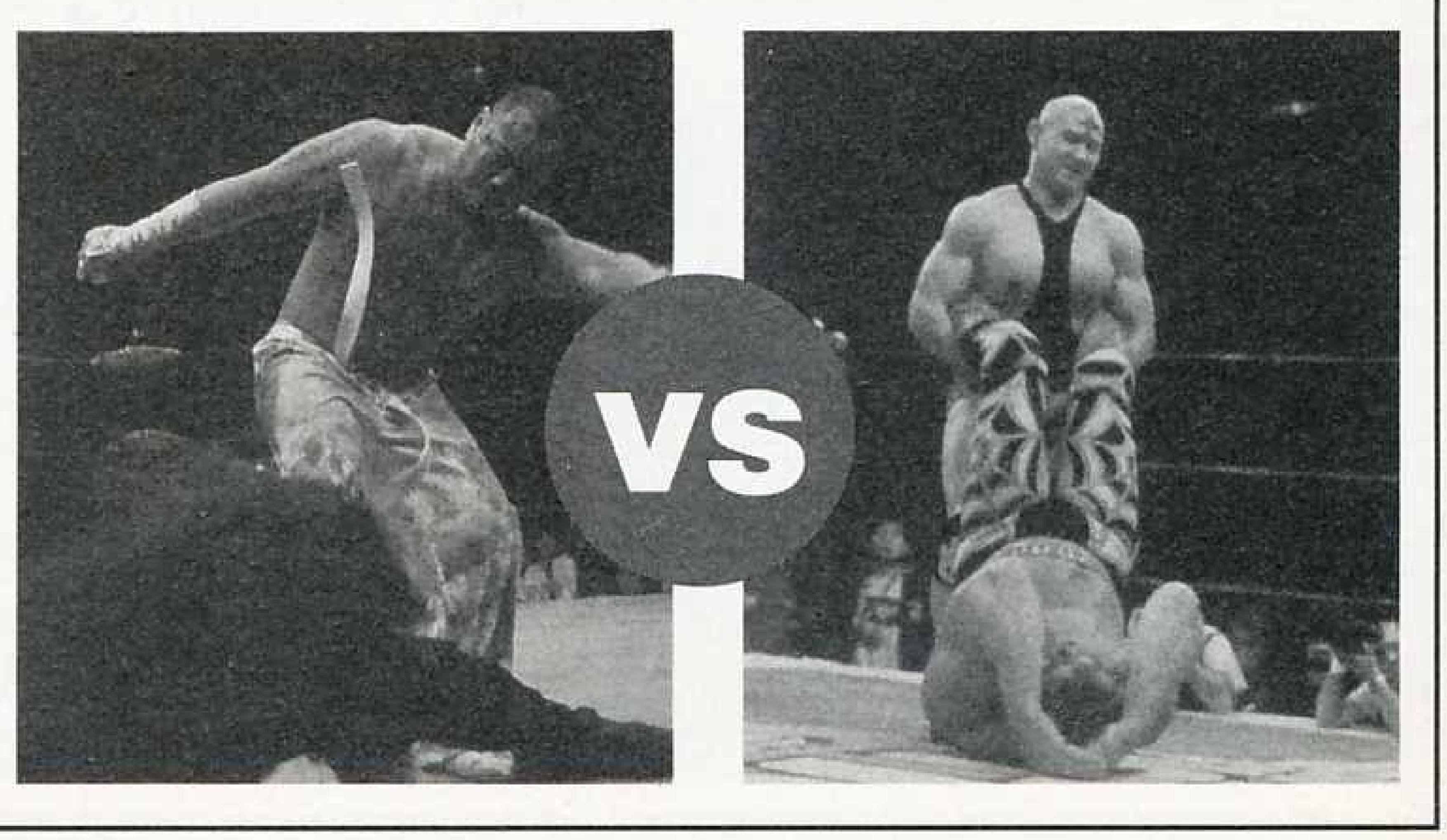
時空を超えた宿命の先輩後輩が
みちプロ徳島大会にて、遂に邂逅!!

3月6日（土）徳島・徳島市立体育館（19:00）

アレクサンダー大塚
（格闘探偵団バトラーツ）
VS
新崎人生（みちのくプロレス）

この両者の地元で行われる徳島大会は、新崎人生の巡礼八十八番札所となる。人生は1日の試合を1つの札所として日々修行を続けている。その区切りとなる88番目の試合で、高校時代の後輩、アレクサンダー大塚と運命の再開を果たすこととなった。アレクのプロレス人生のターニングポイントとなるであろう意義深い一戦になることは間違いない。全国のファンよ、徳島を巡礼せよ!!

【お問い合せ】
みちのくプロレス　TEL.019-626-1333





帰ってきた 青空プロレス道場 REPORT

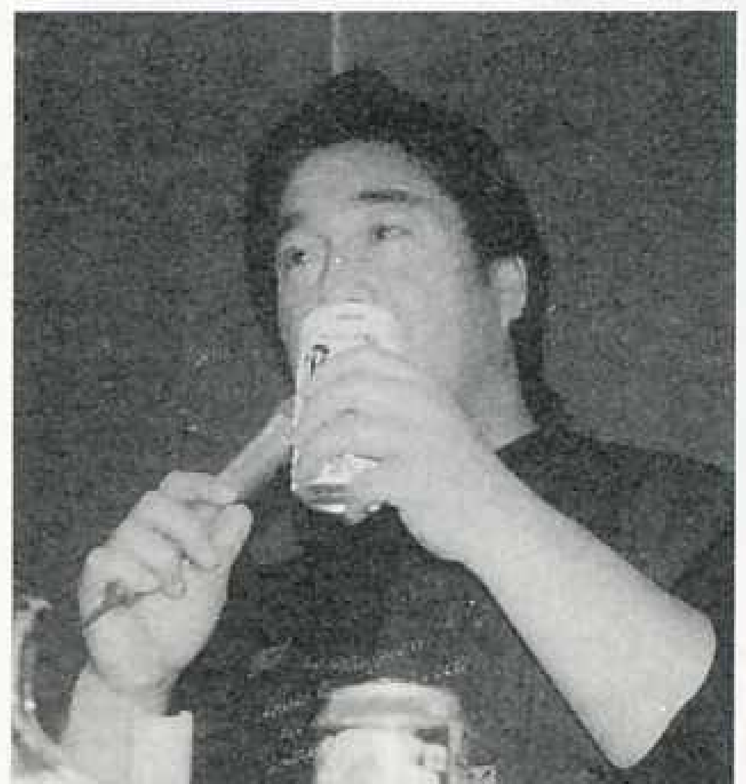
紙のプロレスRADICAL PRESENTS

順調に回を重ね、道場生からも大絶賛の声が続出している「青空プロレス道場」。今回は遂にマット界の真打ち登場！ プロレスを語りだしたら止まらない、アポロ菅原、谷津嘉章の御両人が威風堂々と初見参！ さらには何かと話題の、4代目タイガーマスク＆村浜武洋がプロレス＆格闘技を熱く語り倒してくれた！

（チョロ）

【第4回 12月9日】『リアル版 S多重アリバイ』

ゲスト アポロ菅原先生（フリー）



「今日は飲みながら気楽にやりましょう」とビールを勧めると、アポロは「気楽になんかなりませんよぉ（笑）」と言いながらもグイッグイッと缶ビールを空にしていった。

【アポロ名語録その1】「プロレスは常に掟破りですから」

道場には、大好評連載『S多重アリバイ』のテープを止めた部分の話を聞きたい！というファンが大勢やってきた。

当然こちらでもその期待に応えてやろうということで、出番までアポロ先生にアルコールを注入し、用意万全。

時間となり盛大な拍手で迎えられたアポロ先生は開口一番、「一番心配だったのは人が集まるかだったんですけど……、ちょっとお酒を飲まされちゃったので大丈夫なんだけど、不安もあるっちゅうことで（笑）」と軽いジャブで会場の雰囲気を和ませるあたりは、さすがは昭和のレスラーである。



「プロレス雑誌に出てるヤツが強いなんて思ったら大間違いだよ。大したことないよ！ 隠れた強さを持ってる人がかなりいるっちゅうことだよ！」アポロさん、その通りです。

さらに、テープを止めた部分、オフレコ話は絶対に外に漏らさないようにと道場生に厳重に注意を与えていると、アポロ先生は、「そういうことはしなくていいですよ。プロレスは常に掟破りですから」と早くも名言が飛び出したもんだから道場生の期待は否が応でも高まっていった。ならばということでさっそくSWSでのアポロ菅原vs鈴木みのる戦の真実をタップリと語ってもらった。

【アポロ名語録その2】「ボクはプロレスラーとしては弱いかもしんないけど、アポロ菅原自体は弱いなんて全然思ってないですよ。かっなり強いと思ってますから！」

「内容は見なくても覚えてますから」というアポロ先生だったが、道場では初めて見る人も多く、いちいち飛び出すアポロの強烈な前蹴りやらアッパーに道場生は床を踏みならし興奮状態に突入。アポロ自身も自分の前蹴りを見て、「普通の試合じゃ出せないスピードだね（笑）。あれは栄町で出してるようなキックだねぇ」と会場をアポアポワールドに引きずり込むと、追い打ちを掛けるように「体見てもらえばわかるとおりねぇ、ボクは自信満々ですよ、ハッキリ言って！」とアポロの力強い発言に道場生はシビレっぱなしだった。

アポロが戦闘不能になったという当時の報道に対しても、「見りゃわかるけど戦闘不能になんかなってないよな」とポツリ。さらにアポロコールが聞こえると「この歓声が聞こえてたら、たぶん倒してたかも知れない！」と言い放った。確かにどっから見ても戦闘不能には見えず、むしろ戦闘マシーンと化したアポロの強さと意地と体の厚みがやけに目立った一戦であった。



この日はなんと日本経済新聞が取材にやってきた！技を掛けている写真を要求されるとアポロは、「なんなら経済のこと語ろうか？ 俺結構詳しいんだぜ！」と強烈にアピール。

【アポロ名語録その3】「最後の地球の核みたいなことは言わないぞ！ マグマ程度のことなら話してやろう！」

鈴木戦の映像が終わると道場生はシーンと静まりかえりアポロ先生の発言に耳を傾けた。もちろんテープを止めた部分の話を聞くためにだ。

アポロはそんな気持ちをはぐらかすように、「でもね、この間のインタビューのときでも、汚いことするんだよぉ（笑）。テープ止めたからってさぁ、ちゃ～んと裏で録ってんだよなぁ（笑）」と、のらりくらり戦法で交わし、かと思うと道場生を見渡し、「こ、怖いよなぁ、目が爛々としてるもんなぁ（笑）。わかりました。なんでも答えます。でも最後の地球の核みたいなことは答えないぞォ！ でもな俺は俺らしくマグマ程度のことで話してやろうか！」とまたもや素敵なボキャブラリーを披露し道場を爆笑の渦に巻き込んだ。

「結局俺はプロレスラーちゅうことでやってきたわけなんですよ。それがUWFというものが出てきて、プロレスを否定するっていうか、プロレスラーの強さを否定するような動きに出たんですよね。つまんない関節技とかね。つっまんない関節技そんなので決まっちゃう試合、それがシビアでいいって言う。（声を大にして）冗談じゃないって思ってたからね」というアポロの発言に道場生も大拍手で後押しすると、「ボクはプロレスラーとしては弱いかもしんないけども、でもアポロ菅原自体は弱いとは全然思ってないんですよ。かっなり強いと思ってますから！ 自分の周りでも、アポロが弱いなんて誰も思ってないですよ。結局彼らが、よくわかんないけど真剣勝負で強いとかさぁ、つまんないこと言ってるわけよ。真剣勝負に強いんだったらアマチュアに行けばいいんだよ。ホント俺は弱いと思ってねえからさぁ。今のビデオを見てもわかる通りね、四の五言わせねぇって！ 力もあったんだし。今よりもねぇ、たぶん1・3倍ぐらい強かったよ」と、緩急を付けたアポロトークに、道場生も感心するやら、爆笑するやら大忙しの一日だった。

【アポロ名語録その4】「ボクはかっなり経費の掛かる男だから」

終盤は完全にアポロ先生の独演会。「UWFにはマッハ隼人っていたんだけどね。あっ、すみません。マッハ隼人なんて知らないでしょ？」当然道場生の大半はマッハ隼人のことを知らないはずがなく、その事を告げると、「困ったもんだなぁ（笑）。マッハ隼人を知ってるなんて尋常なプロレスファンじゃないよ！」ときたもんだから、道場生は大爆笑。

さらに誠軍団1号話、北尾チョットいい話で客を温めつつ、最後も絶妙なアポロ節で締め括ってくれた。「鈴木選手だって選手として尊敬してるしね。だから自分の中のハードルを越えたヤツしか俺は尊敬しないっちゅうことだよ。ハードルがあるんだよ。誰も見てないようなハードル。俺だけのハードルでね！」格好良すぎるぜ、アポロ！ 地球の核みたいな話を聞きたい方は是非プロレス道場まで足を運べっちゅうことだぜ（アポロ調）。

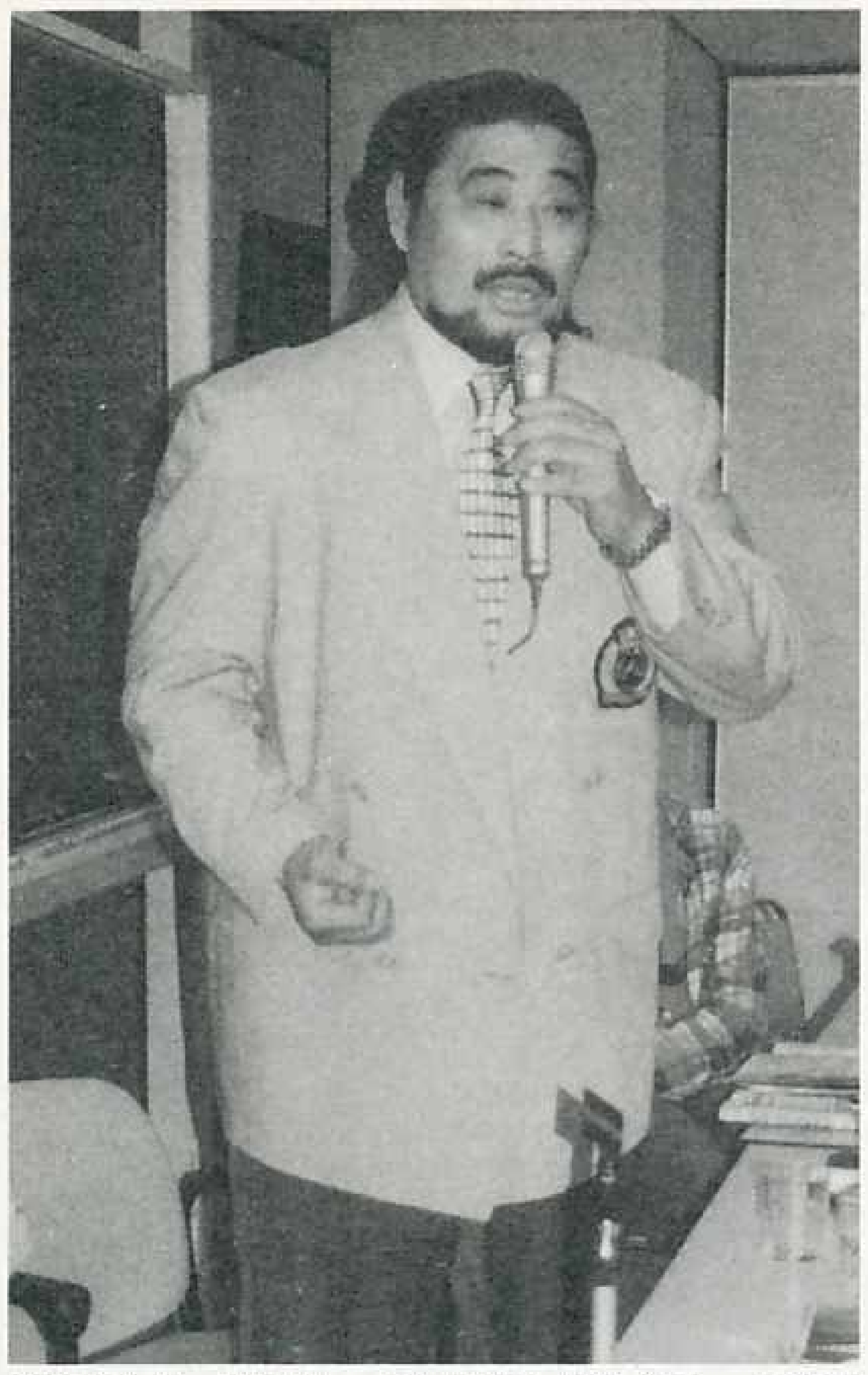


居酒屋に場所を移して行われたプロレス道場。冴え渡るアポロのムーディー＆ダンディーなトークに元キャバクラ嬢の恵美ちゃんもメロメロ。最後は仲良くチュウショット!?

★第2、第4水曜日は「青空プロレス道場」の日

【第5回 12月23日】『アマレスから見たプロレス』

ゲスト 谷津嘉章先生（SPWF）



谷津先生は、「ビギナーの本よりも『紙プロ』って意外と中立でプロレスをわかってる支持者が多いんで、ちょっと怖いなぁって思って来たんですよね」と少々不安げな様子だった。

【谷津名語録その1】「もっと綺麗にプロレス的に言えば自分はロマンを求めてプロレスをやってるわけですよ」

『青空プロレス道場名物』〝オフレコ時事ネタコーナー〟。今回、司会を務めたのは、順調に増量中の坂井ノブ。予想通りというか、期待通りのダメっぷりを発揮してくれた。

編集長の山口に、「今週のマット界で面白かったこと何かあったけ？」と聞かれると、しばらく考え込んだあげく、「キャプチャーの地下室マッチが凄かったらしいです」と、見てもいない興行を語りだし、さらにパンクラスのＮＫホール大会の話題になると、「良かったッスよね～、松井は！」と試合に出場していない松井を絶賛し始める始末。

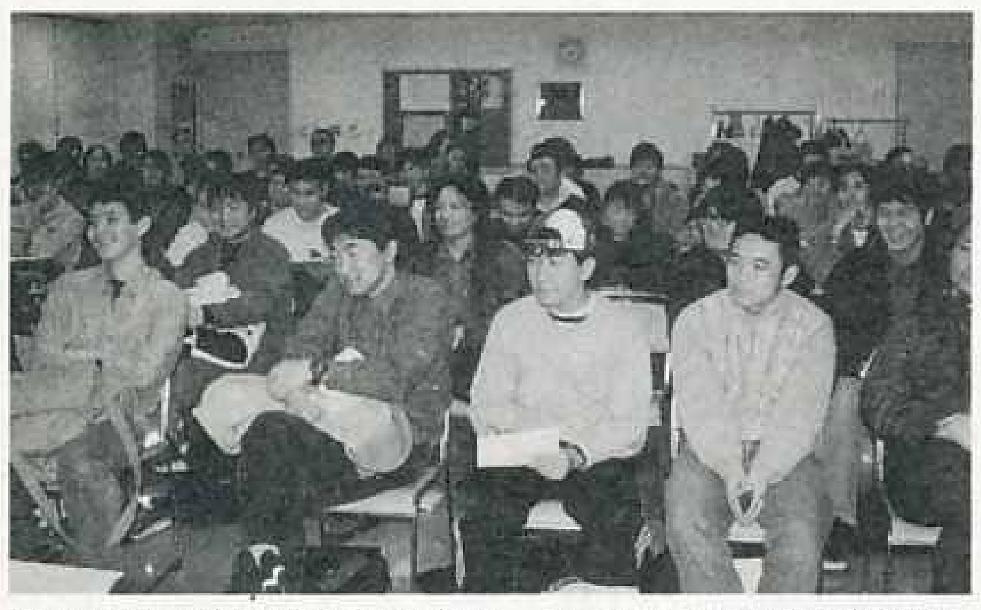
そうこうしているうちに道場に谷津先生の入場テーマ曲「バック・トゥー・ザ・フューチャー」が大音量で鳴り響いた。大歓声で迎えられた谷津先生は壇上に昇ると、いきなり得意のマイクアピールを始めた。「こんばんわっ！　今日はどうぞよろしくお願いします！」と谷津先生にしては控えめなアピールを行った。

実は講義開始前、谷津先生はボクに、「『紙プロ』のファンっていうのは普通のプロレスファンと違って頭がいいから、どの辺まで話したらいいのかわかんないんだよ。なっ」と言っていたのだ。らしくもないぜ！　いつもの谷津節でノー問題！

【谷津名語録その2】「格闘技はね、いっくら努力してもね、努力すれば何とかなるっていうけど、無理ですね！」

しかしさすがは谷津先生。いったん舞台に上がると、「今日は講師として言うんだけどさ……」と、本誌好評連載「目ぇつぶって30秒」でお馴染みのフレーズが出てきたもんだから道場生は拳を振り上げ大興奮。

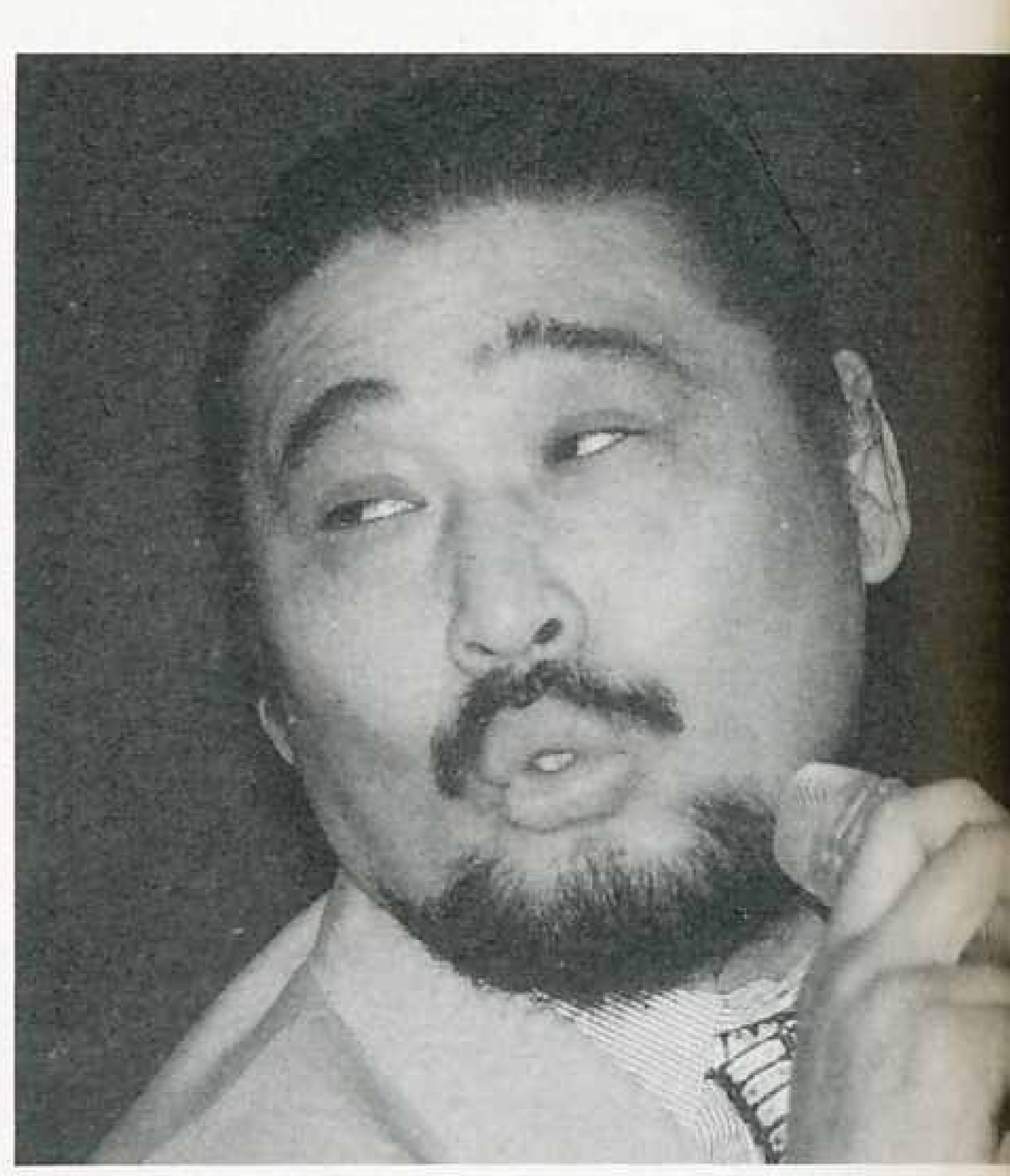
講義は谷津先生によるプロレスマスコミ論から始まった。「昔はマスコミ優先だったんですよ。アントニオ猪木番とか、長州番とか、（道場生から「おい金沢！」と声が掛かる）今でもいますけどね（笑）。後は馬場番とかね。馬場の番？　なんかバババンになっちゃうなぁ（笑）」と道場生の笑いを誘い、「マスコミを上手く使えば一番手っ取り早いわけですよ。どんどんカラーで載っけてもらって、カラーカラーカラーってね。カラーで載ってればね。イメージ的にいいじゃないですか。カラーッとしてて（笑）」再び場内は大爆笑。谷津先生はダテに吉本と契約していたわけではなかった。「こういうご時世ならば俺もそうしなくちゃいけないのかなぁって思ってフトコロ見ると、これじゃあ接待出来ないなと（笑）。ということで今でもうちの団体は白黒ページなんですけどね（笑）」。谷津嘉章、本物の男がここにいた！



予定より1時間も早く来場し、気合い十分の谷津先生。それに応えるように今回の「青空プロレス道場」は過去最高の70人を超える道場生が集まった。谷津パワーおそるべし！

【谷津名語録その3】「プロレスにはね、発想力、展開力、体力……。いろいろと必要なわけだよ。なっ！」

（プロレスラー谷津嘉章のアマレス全日本大会出場のビデオを上映）アマレス時代の谷津先生を知らないファンのためにビデオを上映し、画面を食い入るように見つめる谷津先生に、「当然自信はあったと思うんですが、プロがアマチュアに負けたらどうしようとか考えなかったんですか？」と質問すると「その時はマスクかぶればいいじゃんよ（笑）」とナイスジョークを一発。さらに「でもやっぱりタイガーマスクは凄かったもんなっ。インパクトがあったよね。お陰様であの頃の新日本プロレスはエライ儲けちゃったよな。佐山聡様様だったよな」とまるで新日本の経営者のような口振りで語る我らが谷津先生であった。



谷津先生は、「俺はこれだけプロレスやってても、どこがどうなってんだか、さっぱりわかんないもんな！」と言いながらも、プロレスの奥深さをキッチリと教えてくれました。

【谷津名語録その4】「前田日明？　あれはX脚！」

そして、前田vsカレリン戦の話題になり、「谷津さんは、カレリンに勝てますか？」との質問に対し、「アマレスでやったら、俺なんか絶対負けますよ！　ハンパじゃないからな、カレリンは。試合が始まって、逃げて逃げて、2分で負けるわ、俺！」とキッパリ言い切った。すかさず道場生から「カレリンには負けるけど、三沢、川田には勝てますよね？」と気のきいた質問が浴びせられた。「はっ？　なに言ってんの？　世界のカレリンと、足利の三沢じゃ比べられないだろうよ（笑）。まあ三沢、川田には目ぇつぶって30秒でやっつけると！」との得意の発言が飛び出したところで無念のタイムアップ。

最後に谷津先生に打倒ヒクソンを託すと、「いや～俺じゃ無理でしょ。客が入らないでしょ。まあせいぜい東京ドームの三分の二かな。あっ違うか（笑）」と笑いを取りながらも最後は力強く「まあ縁があればやります！」とガッツポーズ。

どうやら今年も谷津先生から目を離せないようです。なっ！

【第6回 1月27日】『格闘技を通してプロレスを見てみよう』

ゲスト 四代目タイガーマスク先生（みちのくプロレス） 村浜武洋先生（シーザージム）



村浜は持参したタイガーのマスクを被り村浜タイガーとして入場。村浜は「格闘技の祭典」の会場で佐山聡から直々に、「あっ、5代目タイガーだ！」と声を掛けられた経験を持つ。ここに4代目&5代目が揃い踏み！

『紙プロ』の読者っていうのは、やらしいファンなんですよ（笑）（村浜）

小川vs橋本戦後の乱闘、そしてみちプロ分裂騒動の渦中にいる4代目タイガー先生、一方大のプロレスファンとして知られ、みちプロを離脱したデルフィンと親交も深い村浜先生は、今回の小川vs橋本戦、みちプロ分裂騒動をどう捉えているのか、両先生のシュート発言を期待して多数の道場生が集まった。

しかもこの2人が揃えばマスコミ批判が飛び出すのは必至！　前号で山口日昇との間に抗争勃発か？に見えた4代目タイガーだったが、道場生の手前、一時休戦といったところか今回は笑顔でシェイクハンド。

……何かおかしい。まだお互いの腹にイチモツを持っているのは間違いない。こうなったらこの抗争は次号以降でタイマン勝負を実現させるしかないだろう。プロデュース好きの吉田豪を見習い是非プロデュースしたいところだ。

あれっ？　もう文字数がねえじゃねえか！　オイオイオイ、もう終わりかよぉ、冗談じゃねぇ～よぉ！　『紙プロ』ファンの皆様、青空プロレス道場に是非いらして下さい！

きっとアナタの目も覚めるはずです！

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　月〜土 AM11:00〜PM7:00　日祝祭 AM10:00〜PM6:00
年中無休

プロレスビデオNO.1はどれだ？ 新作・話題作ゾクゾク登場！
パンクラスvs nWo vsアルシオンvs女子プロオールスター

前田日明メモリアル3 完結篇
〜RINGS設立から引退まで〜
90分 ¥6,930



※プロレスカード封入！
ついに登場！待ちに待ったシリーズ完結編！黎明編、神話編と大好評のこのシリーズ、今回もリングスの試合の中で印象に残った試合を前田自身の強烈インタビューで綴るこの一本！「たった独りで未開の地平を切り開いてきた男、決して安易な道を選ぼうとせず、自らの信念を貫き通し、困難を打破してきた男、前田日明！その格闘人生を様々な秘蔵映像と共に振り返る」と宣伝文句にあるようにこの前田メモリアルシリーズで前田日明の王者様、暴れっぷりを確認せよ！
主な収録内容
◆たった一人の旗揚げ戦でオランダのフライと激突（'91年5月11日横浜アリーナ）◆格闘帝国ロシアから白い狼ヴォルク・ハン初来日（'91年12月7日有明コロシアム）◆伝説の鶏殺しウィリーに引導を渡す激勝（'92年7月16日大阪府立体育会館）◆初のトーナメントで盟友ドールマンと対戦（'92年12月19日有明コロシアム）◆グルジアの鉄人タリエルを破りトーナメントを制覇（'94年1月21日）◆フライの反則攻撃に前田が切れた！（'94年7月14日大阪府立体育会館）◆愛弟子山本の初めての挑戦（'94年12月16日愛知県体育館）◆実力者ナイマンと繰り広げた屈指の名勝負（'95年12月19日大阪府立体育会館）◆キックの王者からアルティメットの達人へ、変身なったスミスと初対決（'97年1月22日日本武道館）◆打倒前田を狙う新時代の旗手・田村との２度に渡る激闘（'97年3月28日東京ベイN.K.ホール／'97年12月23日福岡国際センター）◆虎視眈々と次代を窺うTK高阪との一度きりの邂逅（'97年8月13日鹿児島アリーナ）◆ロシア大会に最初で最後の出陣、対ズーエフ戦（'98年4月25日ロシア・エカテリンブルグ）◆山本を相手に最後まで戦い抜いた引退試合（'98年7月20日横浜アリーナ）◆全20試合の他、格闘家生活を振り返る特別インタビュー＋ドールマン、ハンらライバルが語る前田日明像などを収録



2　神話篇
90分 ¥6,930
〜新日本Uターンから新生UWF解散まで〜
◆新日Uターン後TVで新日軍団と初対決◆対藤波（'86年6/12・大阪城ホール）◆対ドン・中矢・ニールセン戦（'86年10/9・蔵前）◆新生U.W.F.旗揚げ戦◆対高田（'88年6/11・札幌中島）◆対ジェラルド・ゴルドー戦（'88年8/13・有明）◆対鈴木（'90年5/28・宮城県スポーツセンター）◆対高田（'90年6/21・大阪府立）◆対船木（'90年10/25・大阪城ホール）他



1　黎明篇
¥6,930
〜入門、デビューから第1次U.W.F.まで〜
◆でアントニオ猪木と初対決（'83年5/27・高松市民文化センター）◆長州力と初対決（'83年11/3・蔵前）◆対スーパータイガーとのセメントマッチ（'85年9/2・大阪臨海スポーツセンター）など全12試合／この他、撮りおろしインタビュー、高校時代の空手道場訪問などの未公開映像、入門からデビュー、欧州遠征当時の貴重な未公開写真なども多数収録

前田日明の完全映像！DVDで緊急発売！
前田日明　戦いの証
「天」と「地」合わせて106試合1530分、ここに一人の男の激闘のドラマがある。

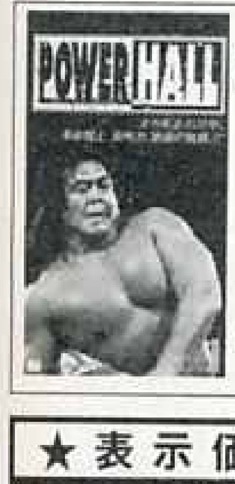


天の章
815分　¥31,290
ユニバーサルプロレスの17試合とUWFの全29試合の計46をノーカット収録。今までビデオ化されていない当時のインタビューや練習風景を収録。

地の章
716分　¥31,290
未公開の対ズーエフ戦を含むRINGS時代の全60試合を完全ノーカット収録。試合後のインタビューも出来る限り収録。



●両BOX共通豪華特典
・当時の名勝負の戦積フォトブックを各BOXに同梱
・初回限定生産分のみプロレスカード6枚を同封
・両BOX購入者には、スペシャルDVDをプレゼント！
●通販のみの大特典
・両BOX購入者には、もれなくオリジナル・テレホンカードをプレゼント。
●さらにボーナス特典有り！
第1弾（'99.1/31締切）　・2/21（日）横浜アリーナ「前田日明vsアレキサンダー・カレリン」の3列目までの特別リングサイド席を抽選で10名に！さらに前田日明直筆の天・地・前・田・日・明、合計6枚の書を抽選で各1名に！（BOXに封入された応募シールを貼って応募）
第2弾（'99.2/1〜7/31）　・Panasonic製5.8ワイド液晶モニター搭載ポータブルDVDプレイヤー、「ＤＶＤ－Ｌ10」を抽選で5名に！



長州力 パワーホール 1・2
各¥6,200
引退してもなお、光り輝く長州力のメモリアルビデオがお安くなって登場。試合の他、天龍との対談も収録！必見！
収録内容 1・坂口＆長州vsヒロ・マツダ＆マサ斉藤、猪木＆藤波＆長州vsブッチャー＆アレン＆S.D.ジョーンズ、vs藤波、長州＆マサ斉藤vs坂口＆キラー・カーン
2・vs猪木、アドニス＆マードック＆バテラ、新旧世代対決5vs5イリミネーションマッチ、長州＆藤波vs猪木＆武藤、vs藤波

パンクラス新たなる挑戦
2/1発売
120分発売 6,930円



'98年10/4＆10/26後楽園・12/19NKホール。久々の登場、パンクラスビデオシリーズ！それも今回は何と3大会の総集編！（12/19NK大会を中心。）見所は何と言ってもパンクラスがノールールに初めて挑んだ！それも肘有り、頭突き有り。山宮、渡部、そして船木vs國奥に問ったかかに問ったかをこのビデオでじ〜っくり見て下さい。12/19のメインはメッツァーvs近藤のキングオブパンクラスタイトルマッチ。お薦めは10/26の船木vs國奥！船木の想いと國奥の想いがぶつかり合った感動の試合です。他にも、渡部勝彦第二戦のゴトシー戦、高田道場との対抗戦第一弾・石井vs豊永と見所多すぎ！
収録試合　10/4近藤vs石井、長谷川vs窪田（D）、美濃輪vsフルトン（D）、渋谷vs稲垣（D）、渡部vsゴトシー、10/26デルーシアvs山宮（D）、美濃輪vs石井（D）、渋谷vs窪田（D）、山田vs渡辺（D）、船木vs國奥、12/19石井vs豊永、デルーシアvs山田、渋谷vs鈴木、柳澤vsタナー、山宮vsホーン、渡部vsローバー、船木vsレンケン、メッツァーvs近藤（D=ダイジェスト）

女子プロレス オールスター TOGETHER' 98
2/中旬発売
120分 ¥6,930



'98.12/26有明コロシアム。全女、J'd、JWP、アルシオン、ネオレディース、OZアカデミー、裁恐軍、猛毒隊と女子プロオールスターが集った、この大会。因縁の全女vsネオ、ジャガーの引退、飛鳥の動行、タイガー＆ASARIの夢タッグと見所沢山！得に注目は全女vsネオの開戦！団体対抗戦が当たり前のように行われている今、忘れかけていた一触即発の危険なムードが感じられる。（ノーカット・試合前の舌戦インタビューも収録）まさに試合ではなく、戦争です。もう一つの見所はジャガー横田引退試合。相手の全てを知り尽くしたデビル雅美に、これからの女子プロをゆだねるように技をかけてゆく。全試合収録。会場では見られなかったシーンも試合前後のインタビューもほとんど入ってます。このビデオでどこの団体が一番か考えてみよう！
収録内容　豊田＆堀田＆貴子vs京子＆下田＆三田、飛鳥vs尾崎、ジャガーvsデビル、タイガードリーム＆ASARIvs矢樹＆坂井、アジャ＆吉田vs浜田＆秋野、ザ・ブラディー＆ファング鈴木vsシュガー佐藤＆永島、小杉vsシャーク、前川＆中西vs高橋＆能見、久住＆天野vs宮口＆本谷

全日本女子プロレス創立30周年記念
「HALL OF FAME〜女子プロレス殿堂への招待状〜」
300分2本組 9,400円



`98年11/29横浜アリーナ。`98女子プロレスの　ビッグイベントが超スピードでビデオ化！それも全試合収録、それも懐かしのOGが揃ったセレモニー入り！全女は勿論、LLPW、JWP、J`d、GAEA、IWA、裁猛G-MAX、そして噂のアルシオンと夢のオールスター戦。プラス男子プロレスからもみちのくプロレス、バトラーツも加わって超豪華！メインはGAEAの長与vs全女の豊田。全く異なるプロレスワールドを持つ二人の対決は正に夢のカード！セミは歴代のWWWA王者による6人タッグマッチ、ジャガー＆デビル＆飛鳥vsアジャ＆関西＆堀田。もう二度とは見れない組み合わせだけに必見！他、ZAPvs裁猛G-MAXや、アレクサンダー大塚＆ヨネ原人＆本谷＆リトルフランキーvs石川雄規＆愚乱・浪花＆元川＆角掛留造の面白すぎる混合6人タッグ、そしてアルシオンvs全女の話題カード玉田＆秋野vs中西＆藤井は秋野と中西の絡みに超感動です。
収録試合　長与vs豊田、ジャガー＆デビル＆飛鳥vsアジャ＆関西＆堀田、ZAP I&Tvsイーグル＆土屋、アレク＆ヨネ＆本谷＆リトルvs石川＆浪花＆元川＆角掛、前川vs紅、神取＆ハーレーvs立野＆貴子、脇澤＆納見vs小杉＆坂井　他

ツインスターオブアルシオン
120分6,930円



`9810/7〜12/7全国津々浦々。初代アルシオンタッグ王者を決定するこのリーグ戦。出場チームはタイガードリーム＆浜田、大向＆府川、玉田＆矢樹、吉田＆秋野、ガミ＆レディメタル、マリー＆ファビーアパッチェ、レジー＆ジェシーベネットの7チームで、何と今回はリーグ戦21戦＆決勝戦の全22戦を収録予定。注目は10/19静岡大会のタイガー組vs玉田組！玉田＆矢樹の憎らしい程のタッグ屋ぶりは必見、そして、10/26大阪大会の大向組vs吉田組！大向のグーパンチからのローリングソバットがずばり吉田に決まったシーンは必見！他にも11/4の玉田組vsメタル組＆タイガー組vs吉田組！タイガー復活を証明する吉田からのピンフォール勝ちのシーンも凄いヨ〜！後半戦も見所満載だよ〜！



新日本プロレスベストバウト1998
150分10,200円
1/4長州力引退に始まり、4/4アントニオ猪木引退、橋本G1初制覇、永田の凱旋帰国、藤波、蝶野、ノートンと目まぐるしく移っていったIWGPヘビー級選手権、新設IWGPジュニアタッグ選手権と挙げればきりがない激動の1998年。この1年を贅沢にも1本のビデオで見られます！収録内容は1/4長州引退試合、2/7IWGP三大選手権、2/15nWoコンバット7、4/4猪木引退試合、9/23G1スペシャル等々。他にも初ビデオ化試合も満載！



バトルフィクション
蘇れゴールデンタイム伝説
150分 8,000円
1998年11/23両国。（10/5後楽園＆10/23大阪府立）「B-CUP」トーナメントを一回戦から優勝戦まで完全収録。出場メンバーも豪華絢爛！元WWF王者のボブバックランド、SASUKE、ビクタークルーガー、松永、池田、石川、等。トーナメント以外でもロードウォーリアーズ、新生アレク＆ヨネのラブウォーリアーズ、JYBスーパーバウト決勝、KPG（キヨシプロレス軍団）の来襲、ハヤブサ、TAKA＆ショー等凄いです。

nWo 4ever 97.7.13〜98.7.6 nWo HISTORY 2
★初回封入特典！・赤nWoステッカー！　2/24発売　120分 ¥5,000



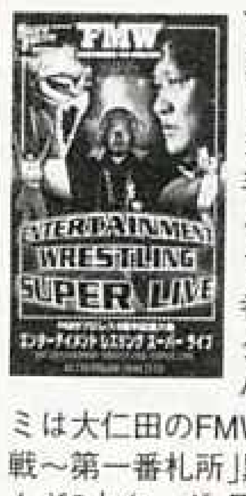
今回は前作「nWo 4life」の続きで全世界をアッと言わせたデニス・ロッドマンのプロレス・デビュー戦から、ゴールドバーグがホーガンを破って、WCW世界王者となった'98.7「マンデーナイトロ」までの1年間を収録nWoの全ドラマを詰め込んだ超豪華、贅沢な（日本限定企画）ビデオです。
収録内容　●97.7.13 NBAの"反逆児"ロッドマン衝撃のプロレス・デビュー●97.12.28 スティングがホーガンを破り、WCW世界ヘビー級王者に！●98.1.24 ブレッド・ハートがフレアーを相手にWCWデビュー！●98.5.4 ナッシュが、サベージ、コナンらと「ウルフパック」（赤nWo）結成宣言！●98.6.1 スティングが「ウルフパック」入りを宣言！●98.7.6 ゴールドバーグがホーガンを破り、WCW世界ヘビー級王者に

ハイパービジュアルファイティング
カーニバル アルシオン
120分¥6,930

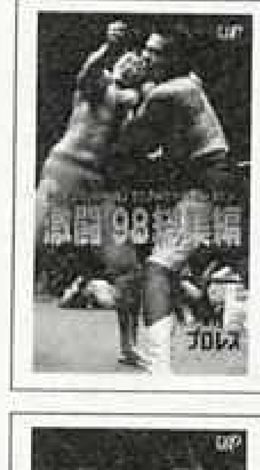


'98年12/18横浜文化体育館。'98年2/18旗揚げしたアルシオンの総決算大会。メインはアルストーナメント覇者・キャンディー奥津vsシオントーナメント覇者・吉田万里子のクイーンオブアルシオン決定戦。アルシオンを旗揚げ準備段階の'97年そして旗揚げの'98年に2人共言い尽くせない程の苦労をし、その思いをぶつけていったこの一戦が名勝負にならないわけがない。（もちろんこの試合はアルシオンのベストマッチを受賞）セミは今年デビューしたスーパールーキー浜田文子が師であるアジャ・コングと一騎討ち。浜田に欠けていると言われたガムシャラさが見れるよ〜！他にも最強外人格闘家ロジーナ・イリーナvsこの一戦にすべてを賭けたレジー・ベネット、プロレス職人二上vsテコンドー王者の２大格闘技戦、ツインスターオブアルシオンタイトルマッチ王者組玉田＆矢樹vsナチュラルツインビー、女子キック史上NO.1ベストマッチ三井vs中沢他、ルチャあり、柔術戦あり正に女子格闘技のお祭りです。もちろんインタビューもたくさん入ってます。
収録試合　吉田vs奥津、アジャvs浜田、ロジーナvsレジー、玉田＆矢樹vs大向＆府川、三井vs中沢、二上vsウンジュ、小野寺vs佐藤、秋野＆マリー＆ファビーvsレディ＆ジェシー＆エステル

FMW エンターテイメント レスリング
146分 9,990円



`98年11/20横浜文化体育館。FMWにとって激動の1日となったこの大会。FMWの本当の意味でのエンターテイメントレスリングがこの日のメイン、ハヤブサvs冬木！「インディペンデントワールド世界ヘビー級選手権」&「世界ブラスナックル選手権」。ハヤブサの空中殺法ラウンディングブランチャ、ファイヤーバードスプラッシュ、串刺しドロップキックとパーフェクトな形で決まって行く、しかしそれ以上に冬木の実力者ぶりが光った。雪崩式リバースブレンバスター、筋肉バスター、雪崩式パワーボムと強烈技のオンパレード！この試合はハヤブサ、冬木、勿論FMWのベストマッチだ！（ノーカット）セミは大仁田のFMWラストマッチ。vsミスターポーゴ。他、「ミスター雁之助復帰戦〜第一番札所」黒田戦、邪・外がモーニング息子1号2号（TAKA＆フナキ）と組んだ8人タッグ、因縁のミックスドタッグマッチ中山香里組vs伊藤豪組と面白マッチ目白押し！特別ゲスト解説は荒井社長、金村選手らを迎え面白さ倍増！（コメンテイターはアノ杉作J太郎）そしてボーナストラックとしてFMW社長の姪、荒井薫子さん（16歳）の単独インタビューを収録！TNR伊藤豪との一連の洗脳騒動をドキュメント収録！



全日本プロレス激闘`98総集編
5,040円
全日本プロレスの1998年の三冠ヘビー級試合と世界タッグ選手権試合を全試合収録。つまり、全日本の1998年の名勝負集！三冠戦は1/26三沢vs秋山、5/1三沢vs川田、7/24小橋vs秋山、10/31小橋vs三沢。世界タッグ戦は6/5川田＆田上vs小橋＆エース、7/15川田＆田上vsオブライト＆高山、10/11川田＆田上vs小橋＆秋山。この中でも、東京ドームでの三沢vs川田、ベストマッチを受賞した小橋vs三沢は感動者です！



全日本`98世界最強タッグ決定リーグ戦 スペシャルハイライト
5,040円
全日本の「暮れの本場所」世界最強タッグリーグ戦総集編ビデオが速くも登場！`98年は新チーム目白押し！昨年と同じチームは`97年覇者川田＆田上のみ。小橋＆秋山、三沢＆小川、高山＆大森、オブライト＆キマラ、エース＆ガン、ヘッドハンターズ、そしてハンセン＆ベイダー。特に注目はリーグ戦全勝のハンセン＆ベイダーの快進撃！優勝決定戦での小橋＆秋山との死闘は必見！



THE B-FILES 1 バトラーツセレクション
105分 5,000円
最新ビデオ登場！収録内容はバトラーツ最強決定リーグ戦ヤングジェネレーションバトル`98の公式リーグ戦＆準決勝＆決勝戦と5/27後楽園大会。ファン待望の頂上対決石川vs池田、アレクサンダー大塚のビクタークルーガー戦、松永光弘の五寸釘参戦臼田戦、石川vsビクタークルーガーそして感動の石川初優勝！他、特別収録としてUWA世界ミドル級王座決定戦ザウィローvs日高、石川vsヨネ原人、石川＆池田vsラブウォーリアーズなど。

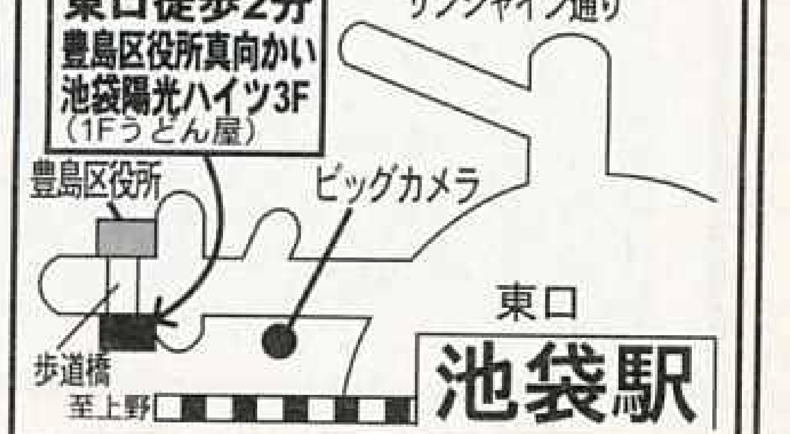
★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！（店頭・通販共）

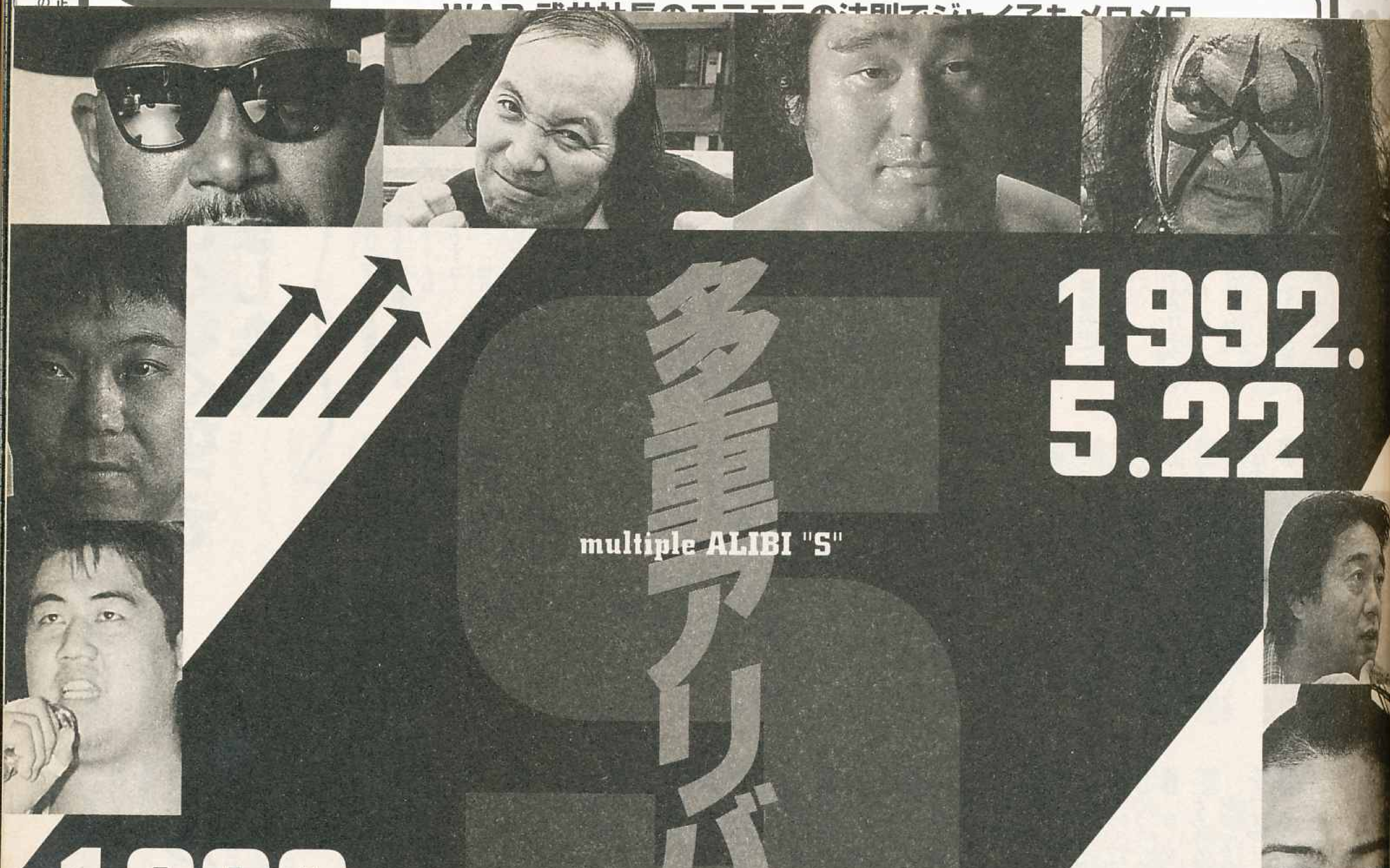
【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180－8－65236　レッスル通販
通販部　TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150-0043東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170-0013東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306 TEL 03-3989-0056





★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。



多重アリバイ"S"

multiple ALIBI "S"

1990.9.29 ― 1992.5.22

第5回 佐野友飛

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo



超人気爆発記念で今号は2本立て PART.1

佐野の中にはSWSの記憶がほとんどない。
冒頭からこんなことを書いてしまうと、ここで読むのをやめてしまう人もいるかもしれないけれど、ちょっと待った！　いや、でも実際、この企画のファン、あるいはSの狂乱の裏話を読みたがってる読者のみなさんにはホント申し訳ないです、ごめんなさい。しかし、転んでもただでは起きない 紙プロはこのインタビューで大発見をしました。それは読んでからのお楽しみです。
そもそも、何のために佐野はSに入ったのか？　そして、Sに何を夢見ていたのか？　今回は、佐野というレスラーがSに見た幻にスポットを当ててみたいと思います。新日本でエリート街道を歩いて来た男が、どうしてvs本間聡戦でボコボコにされてしまったのか、その謎を解く鍵はSにあった！

世界初のプロレス専門店 レッスル®
プロレスビデオNO.1はどれだ？ 新作・話題作ゾクゾク登場!

Sは途中から楽しくなくなってきましたね

――まずは新日時代の話からお聞きしたいんですけど、そもそも佐野さんは猪木さんに憧れてたんですよね。

佐野　ええ、そうですねぇ。

――猪木さんのどこに憧れましたか？

佐野　う～ん、なんでしょうねぇ。異種格闘技戦とかを見て、惹かれるものがあったんじゃないですかねぇ。

――つまり、「プロレスは最強」みたいな部分に惹かれていった、と。

佐野　だと思います。

――でも佐野さんを見ていると、猪木さんというよりも、やっぱり藤波さん系って気がするんですよ。

佐野　そうですね。藤波さんにも憧れましたね、あの器用さとか。

――そういう意味で藤波さんに通じる部分が多いと思うんです。当時は同期の山田（恵一）さんがインタビューとかで佐野さんネタばかり話してましたよね、歯を磨かないとか（笑）。1週間に3日磨くだけだとか、失礼なことをケロちゃんも書いてましたけど。

佐野　ありましたねぇ（笑）。そういうときもあったんじゃないですか？

――そうですか（笑）。控室の中でもスッポンポンでウロウロしてるとか。

佐野　みんなそうでしょう？

――ああ、つまり佐野さんだけネタにされちゃったってことですか（笑）。

佐野　隠す人もいましたけどねぇ。

――佐野さんは隠さなかった、と（笑）。それでちょうど佐野さんが入った直後ぐらいにUWFの人たちがいなくなり、新日がガラッと空いたんですよね。

佐野　そうですね。2年経たないぐらいのときですね、デビューしてすぐ。

――そのとき、山田さんは移籍するかどうか悩んだりしていたわけですが、佐野さんはどうだったんですか？

佐野　そんなに悩んではいないんじゃないですかねぇ。

――つまり、当時はまだUというものにはあまり思い入れがなかった、と。

佐野　いや、思い入れはありましたよ。あったんだけども、新日を守るっていう気持ちもありましたからねぇ。

――それも藤波イズムですね（笑）。（藤原）組長が抜けたことで道場の空気が変わったと思うんですけど。そこで山田さんや佐野さんや船木さんがある意味、新日道場の根っこを守るような練習を続けていたわけですよね。

佐野　そうですね。

――当時は怖い先輩というと誰がいましたか？（ドン）荒川さんとか？

佐野　見た感じは、星野（勘太郎）さんの方が怖かったですねぇ（笑）。本当は優しい人だというのは、後でわかりましたけど（笑）。寮で同室だった前田さんも厳しかったですよね。

――休日も遊びに行けなかったわけですよね（笑）。そこでみんないなくなって、佐野さんはメキシコ遠征に行ったわけですけど、メキシコに行きたいっていう思いはあったんですか？

佐野　全然。一切ないです。

――一切ですか（笑）。イギリスとかに行きたいとか思ってたんですか？

佐野　ありました。だから、みんないいとこ行ってるなと思いましたねぇ。

――ところが、よりによってメキシコだったんですね（笑）。

佐野　メキシコって聞いたときにはもう、オレは要らないのかなって思いましたよね、ハッキリ言って。

――それは、会社が佐野さんの売り出し方を決めてたからだとは思うんですよね。メキシコ行ってから、ジュニアで飛んでもらおうっていう方針で。

佐野　でも、当時はメキシコというと左遷されるってイメージがありましたからね。

――佐野さんの方向性としてはどういった路線を目指してたわけですか？

佐野　……高校生？

――方向性ですよ（笑）。

佐野　あぁ、方向性。う～ん……。

――当時は「誰にも負けないレスラー」って言ってましたけど、強さの方向にベクトルは向いていたわけですよね。

佐野　まだUWFも形がハッキリしてなかったですからね、何がどう違うのかもよくわからなかったし。

――そういう中で、メキシコでの佐野さんはどうだったんですか？

佐野　楽しかったですねぇ。嫌だと思ったこともあんまりなかったです。

――試合とかは完全に割り切ってやってたんですか？

佐野　楽しんでやってましたよ。

――楽しんで（笑）。そのへんが佐野さんの器用なところなんですよね。

佐野　基本的には、自分が楽しまなきゃできないですからね。どんな試合でも楽しんでましたよ。

――例えば佐山（聡）さんがメキシコ行ったときには、対戦相手が下手糞だと頭にきてやっちゃったとか言ってましたけど、そういうことは？

佐野　僕は、ほとんどなかったんじゃないですかねぇ。

――ほとんどっていうと、少しはあったんですね（笑）。

佐野　でも、ボコボコにするっていうのはないですからね。まあ、多少あったかもしれないけど。

――多少ですか（笑）。メキシコでは飛んでたんですか？

佐野　日本よりは飛んでたでしょうけど、向こうの選手もそんなに飛ばないんですよ。あれ？って思いましたけど。

――本場のルチャは意外と地味ですからね。ちなみに佐山さんは、「日本人がメキシコに行くとすごくモテる」とも言ってたんですけど、佐野さんはどうだったんですか？

佐野　女性に？

――そりゃそうですよ。サスケさんも「モテた」って言ってましたからね。

佐野　そうですねえ、日本よりはモテるんじゃないですか？

――それで実際、モテました？

佐野　多少（笑）。

――なんでも多少ですね（笑）。

佐野　地域によっては、こんなにモテていいのってところもありましたね。

――「メキシコでは女性ファンの声に応えないとオカマだと思われる」って佐山さんやサスケさんも言ってましたよ。「それでしょうがないからヤッちゃった。俺は悪くない」って（笑）。

佐野　そうなんですか？　それはなかったですねぇ（笑）。

――メキシコでプロレス観が変わるってことはなかったんですか？

佐野　別になかったですねぇ。でも、あそこの人たちの気楽さを見て、人生観は変わりましたね。ああいう脳天気な人たちの中にいると。

――そのあたりから佐野さんも脳天気になっていった、と。

佐野　多少ね（笑）。

――ダハハハハ、それも多少ですか（笑）。でも、佐野さんって脳天気というか暗いというか。

佐野　よく「暗い」って言われますよ。まあ、暗いっていうか……。

――「よくわからない」って感じなんですよね（笑）。それで、メキシコから帰ってきてから、新日ではライガーさんのライバルというポジションが用意されていたわけなんですけど、それは佐野さんとしては、望む形だったんですか？

佐野　当時はそうでしょうね。彼に先にいかれたなっていうのがありましたからね、ライバル心はありましたよ。

――ライガーさんが自分で選ぶベストバウトを10本集めたビデオを出したとき、



いま見ると、とんでもない奇跡が起こったように思えるが、当時はこういう時代だったのだ。ワカマツとパンクラスが並ぶ!!　これは名勝負として評価の高い佐野vs船木戦の試合後の一場面だ。

多重アリバイS
multiple ALIBI "S"

そのうち4本が佐野さんとの試合だったんですよね。そういうふうにライガーさんが佐野さんへの思いを強く持っている割には、佐野さんが意外と淡泊な気がしていたんですけど。

佐野　他にやりたいことがいっぱいできちゃったからね、それだけじゃ満足しなくなっちゃったんですよ。

——やりたいことっていうと、具体的には何があったんですか？

佐野　やっぱりUWFと試合してみたいっていうのもあったし。

——それが新日本離脱につながっていくわけですか。

佐野　それも原因のひとつです。

——ちなみに新生UWFができたときっていうのは、佐野さんとしてはどうだったんですか？　誘いもあったとは思うんですけど。

佐野　新日本にいたときは、移籍する勇気がなかったんだよね。

——じゃあ、SWSについてはどういう団体だと聞いてたんですか？　最初はルールも全然違ったわけですよね。5カウントルールだとか言われてて。

佐野　笑っちゃいますよね（笑）。

——ダハハハハ！　ハッキリとした形はなかったですけど、最終的にはUWFみたいになるという話でしたよね。それが、なぜああなったのかっていう。

佐野　もう忘れちゃったよ（キッパリ）。

——ダハハハ、忘れちゃいましたか（笑）。スタイルとしては、当初はグラウンド中心だったわけですよね。

佐野　だと思いますよ。

——SWSってホントに謎が多いじゃないですか（笑）。

佐野　ボクもよくわからなかったですから。

——格闘技的な、UWF的な方向に進むはずだったSWSが、なぜ純プロレス的な方向に流れていったのかとか。

佐野　それはやっぱり、誰の考えが尊重されるのかっていうことですよね。

——それは田中社長ではなく、天龍さんだったっていうことですかね。

佐野　……あの辺にいた人ですよね。よくわかんないんですよ。

——でも、ジョージ（高野）さんなんか、前田さんと闘うつもりで格闘技特訓とか始めていたわけですよね（笑）。パライストラ（ジョージがトップの道場）の中では、対UWFという目標があって、わかりあえてたわけですか？

佐野　はい。なんとなくは。

——荒川さんと一緒にハワイでマラソンしたりしながら、わかりあえていたと（笑）。まず、最初の理想の段階で素晴らしい話があったわけですよね。それが、どのあたりからズレてきたなって思いました？

佐野　結構、早い時期でしたね。

——実際、マスコミの評価とかを見る限り、SWS自体の評判は悪くても、佐野さんには好意的だったわけじゃないですか。ある意味、内部のゴタゴタに耳を貸さずに淡々と試合してたのがよかったのかもしれないですね。

佐野　そうですねぇ。だから、内部事情はわけわかんなかったですから。

——佐野さんって、すごく器用な選手だと思うんですよ。その器用さが一番発揮されたのがSWSですよね、UWF的な試合もできるし、飛ぶこともできるし、純然たるプロレスもできる。そんな佐野さんにとって、SWSの崩壊っていうのはホントにもったいなかったんじゃないかと思うんですけど。

佐野　途中からあまりにも路線が変わってきましたからね。WWFに金を掛けて選手を呼んだりしてね。

——新日道場と比べて、SWSの道場ってどうでした？

佐野　きれいでしたよね。最初の道場はよかったです。

——練習して強いと思った選手は？

佐野　（答えずらそうに）う〜ん……。

——じゃあ、ある意味で新日道場のレベルの高さを痛感したというか。

佐野　そうですねぇ。

——そんなときに藤原組との試合があったわけですけど。

佐野　ワクワクしましたね。楽しくてしょうがなかった。

——単純に楽しめた、と。船木さんとの2連戦がありましたけど、あの頃はSWS内部がガタガタしていて、同じ日に鈴木（みのる）さんが試合にならない試合をしちゃったわけですよね。

佐野　あの試合は見てないんですよ（笑）。でも、なにかあるだろうなっていう雰囲気はありましたよ。

——あの試合と佐野さんの試合との違いっていうのは何なんですかね。

佐野　やっぱり、お互いにただ認めあっていたということだけでしょ。

——鈴木さんとアポロ（菅原）さんには確かに信頼関係がなかったのかもしれないですけど、そこへ至る流れっていうのはSWSの内部でもあったわけですよね。たとえば各道場の上の人同士がうまくいかないとか。

佐野　う〜ん……あんまり気にしてなかったからなあ。

——佐野さんはSWSでは誰と仲がよかったんですか？

佐野　北原（光騎）と北尾（光司）かな。

——意外ですね！　じゃあ、あのとき、北尾さんが八百長野郎発言をした気持ちも佐野さんにはわかったりとか？

佐野　わからなくはないけど、まぁ、過剰に反応しすぎたのかなって思いますよ。雰囲気的に、あの試合も何か起こるなとは思いましたしねぇ。

——北尾さんによると、周囲の人に焚付けられて、振り返ったら誰もいなかったという状況らしいですけどね（笑）。そんな中でも佐野さんは淡々といい試合をして、船木さんも大絶賛した、と。マイペースですよね（笑）。

佐野　そうですか、覚えてないですね。

——またですか（苦笑）。SWSにいい思い出はあります？

佐野　いい思い出……ボクにとっては全部いい思い出ですね。潰れちゃったこと以外は。悪い思い出はないです。

——はぁ〜っ、悪い思い出がないって言い切れるのはすごいですね！　スタンスの問題でしょうね。深入りはしないという。それで、崩壊のときにフリーになりましたよね。当時は「ゴタゴタに巻き込まれるのは嫌だ」ということで、プロレスを辞めようとまで思ったんですよね。なんでもボクサーを目指したこともあるとか。

佐野　でも、できなかったですね。どこか自分の中でプロレスをやりたいと思ってたんでしょう。

——やっぱり根がプロレスラーなんですよ。佐野さんは高田道場の中で最もプロレスラー的な人だと思うんです。最も幅が広いというか、『PRIDE.』のリングに上がりながらルチャもできるんじゃないかっていう。

佐野　う〜ん……。

——話を戻します（笑）。Sが分裂した後に、フリーとして新日の会場に対戦表明しにいかれましたよね。

佐野　緊張しましたねぇ。ダフ屋でチケット買って行きましたよ。

——ダハハハハハ！　「蝶野（正洋）、武藤（敬司）、高田（延彦）と闘いたい！」ってことでしたよね。でもライガーさんには「順番が違う。まず、俺とやれ」と言われた。やっぱりファンも選手もジュニアの佐野さんというイメージで見てたと思うんですよね。

佐野　でも、こっちはいまさらジュニアじゃないと思ってたんで。

——武藤、蝶野クラスとやれないんならっていうことで、藤原組とUインターに参戦したと。

佐野　そうですねぇ。

——同時期に高田さんも蝶野さんに対戦表明してたんですよね。

佐野　流行ってたんですねぇ（笑）。

——ブームでしたね（笑）。Uインターは佐野さん的にはどうだったんですか？　途中から入ると居心地とかよくなかったりするんじゃないですか？

佐野　いや、居心地悪いってことはなかったです。

——宮戸さんと仲良かったっていうのも大きいんですかね。

佐野　まあ、Uインターに入る前から遊んだりしてたからね。

——SWSもUインターも、マスコミのバッシングが激しかったわけですけど、そういうことに対しても佐野さんは淡々としてたんですか？



当時から格闘技志向の強かった佐野にいつの頃から、『ザ・プロレスラー』という称号がついたのか？　それだけ格闘技の進化のスピードが早いということか……。

世界初のプロレス専門店 レッスル®
プロレスビデオNO.1はどれだ？ 新作・話題作ゾクゾク登場!

一番影響を受けたレスラーは藤波さんですかね……

佐野 そういうのは気にならなかったね。それも人気のうちかなって。

——なんでもポジティブに考えるんですかね（笑）。

佐野 そうですか？

——それも藤波イズムのような気がします（笑）。奇しくも佐野さんが入ってきた頃からUインターが徐々にプロレス的な方向性になっていって、（95年）10・9東京ドームで新日との対抗戦に至るわけですよね。そこで佐野さんはライガーさんに勝利しているわけですけど、「試合には負けたけど、佐野さんの人生には勝った」とライガーさんに言われてしまった。このコメントを佐野さんはどう思ったんですか？

佐野 人生に勝ったっていわれても、まだ終わってないのにってね（笑）。

——ダハハハハ！ 俺の人生はこれからだよ、と（笑）。

佐野 まぁ、それだけ向こうも思い入れがあったんでしょうからね。

——あの試合で佐野さんがいきなりトペで飛んだっていうのは、いったいどういう心境だったんですか？

佐野 プロ意識ですねぇ。飛ぶつもりはなかったんだけど。

——だから、それが佐野さんなんだと思うんですよね。一試合、一試合見るとよくわからないと思うんですけど、繋げて見たら「プロ意識」の一言なんですよね。その場その場に合わせる。

佐野 なんとか面白くしなきゃと思ってね。『PRIDE.4』の本間（聡）戦も合わせちゃったしね。

——プロレスファン的にはあの試合の敗戦って、高田さんの敗戦以上にショックだったんですよ。ボクも最初はフォローできないな、と思ってたんですけど、やっぱりそれも佐野さん流のプロ意識ってことなんですよね。要するに藤波イズムというか、佐野さんなら無我に上がってもいい試合を出来ると思うんです。ところが全日本プロレスに上がったときには、全日的なスタイルに合わせなかったわけですよね。

佐野 別に普通だったでしょ？

——Uスタイルで通しましたよね。

佐野 だって、向こうに合わせても面白くないでしょ（キッパリ）。

——なるほど！ つまり、あの場で求められてるのは対抗戦的なものだと佐野さんは読みとったわけですか？

佐野 そうですね。

——わかりました！ 佐野さんは、興行を全体で見てるんですね。10・9のときもみんなが緊張感のある試合をしているから、「じゃあ、俺は飛ぶ！」みたいな（笑）。

佐野 それはありますね。

——流れで見て、全日の興行だったらU的なことやったほうがいいな、とか。

佐野 全体的には見ますよね、やっぱり。カードをザッと見て、自分の位置を確認しますから。

——そこでまず、自分の中でのテーマを考える、と。

佐野 テーマがないとプロで試合する意味がないでしょ。どんな試合でもテーマを見つけないといけない。それが見つからないときもあるけど。

——それがプロ意識というわけですね！ 謎が解けた気がしますよ。佐野さんは、純プロレス的な試合はしないんですか？

佐野 全然わかんない。どうなるかわかんないですねぇ。

——新日のジュニア戦線に入れば、絶対いい仕事できると思うんですけどねぇ。正直言ってUインターが崩壊したとき、佐野さんは絶対に新日に行くんじゃないかと思ったんですよ。

佐野 いや、たまにテレビで新日とか見るけど、あまり……。変にアメプロっぽくて。

——長州さんの体制になってから新日のスタイルが変わりましたよね。

佐野 長州さんみたいなタイプのレスラーが多すぎるんじゃないですか？

——だから、新日とかよりも、『PRIDE.』方面で結果を出したいと。

佐野 そうですね。

——いま、闘いたい選手っていうのはいるんですか？

佐野 いまは特にいないですね。誰でもいいです。

——個人的にはみちのくプロレスでルチャして欲しいんですけどね（笑）。ところで佐野さんがあのまま新日本にいたらどうなってたと思います？

佐野 つまんないんでしょうねぇ。

——つまんないですか（笑）！

佐野 いやぁ、どうなってるんだろうねぇ。

——佐野さんはライガーさんやサムライさんとかと組んで、淡々と試合していそうな気がするんですけどね。

佐野 でも、どっかでモヤモヤしながらやってたでしょうねぇ。

——じゃあ、最後の質問です。これまで会ってきたレスラーで一番影響を受けた人ってどなたですか？

佐野 試合では藤波さんですかねぇ。一番影響を受けてると思いますよ。

——新日では誰の付き人だったんでしたっけ？

佐野 藤波さんです。

——あっ、やっぱり（笑）。間近で見る藤波さんはどうでした？

佐野 けっこう感情の起伏が激しかったような感じがしましたけどね。ちょっと暗かったですよ。僕と合わなかったのかもしれない。

——ダハハハ！ 藤波さんを暗くしましたか（笑）。

佐野 性格的に合わないのかな、って思いましたよ。

——もしかしたら似すぎてたのかもしれないですね（笑）。私生活というか、リング外で影響を受けた人っていうのはいないんですか？

佐野 う〜ん……。高田さんにも憧れましたね。よくあそこまで酒飲んで酔っぱらえるな、幸せだなっていう（笑）。普通なら、吐いて寝ちゃいますもん。

——でもプロレスラーらしいですよね。佐野さんは酔うんですか？

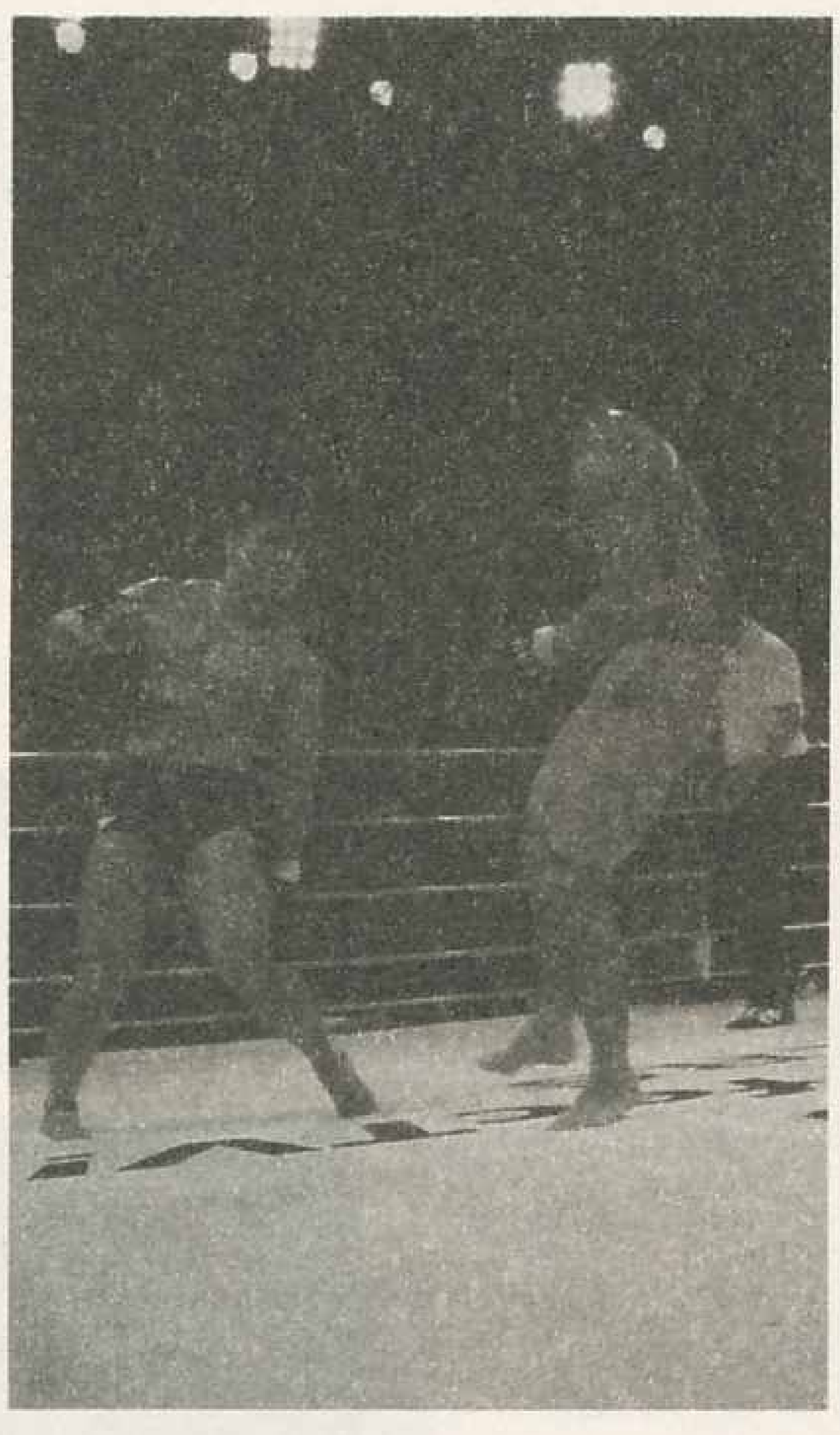
佐野 酔いますよ。自分なりにはハメはずしますけど。

——それも藤波イズムですね。やっぱり常識的なんですよ、佐野さんは（笑）。

佐野 あまり常識的と言われたら困るじゃないですか。ハメをハズせなくなっちゃうじゃないですか（笑）。

【'98年11月25日、大田区・高田道場にて収録】

さのゆうひ■本名佐野直喜。北海道出身。昭和59年3月3日、東京・後楽園ホールにてvs仲野信市戦でデビュー。平成2年にSWSに移籍。藤原組にも参戦、Uスタイルからルチャまで幅広く対応する万能タイプのレスラー。その後はUインター、キングダムを経て高田道場に至る。現在の主戦場はPRIDE.シリーズ。180cm、100kg.



一番影響を受けた藤波の著書『ライバルをつくれ！ そして勝て！』。ライバルはいる……佐野はライガーに勝ったのか？ それは死ぬまで続く勝負である。



ジャイジャイ日記 デート編



第6回 理由(わけ)あって顔は出せないS関係者・2本立て PART.2

Mr.W

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida

ゆるみきったSのサイフの実態!!



いままではSに集まったレスラーの証言を聞いてきたのだが、ここではSの権力中枢に極めて近い位置にいた某メガネスーパー内部の関係者にインタビューしてみた。'90年当時、時代の寵児だったUWFと時代の鬼っ子だったSWSの因果な関係を浮き彫りにしながら、水面下でのやりとりを本邦初公開!! UWFの分裂に多大な影響を及ぼしたと言われるSWSの巨大な磁場の正体がいま、明らかになる!! また、怒涛のように夢が溢れるファンタジックな成金トークを読んで、少しでもプロレスに夢を抱いてくれる少年少女が増えればSWSも成仏できることだろう。

世界初のプロレス専門店 レッスル®
プロレスビデオNO.1はどれだ？ 新作・話題作ゾクゾク登場！

田中社長に、「一円たりとも、あんたたちには決定権はない」と言われた社員もいます。

──WさんはSWSの関係者ということですけれど、具体的にはどのようなご関係だったわけですか？
W メガネの社員でときどきSの手伝いをしていました。
──とりあえずSが旗揚げする前から事情は知っているわけですよね。（笑）。
W 知ってます、知ってます。
──じゃあ夢の膨らむイイ話を、さっそくしていただきましょうか（笑）。
W 詳しい出どころはわからないけれども、もともとSWSっていうのは田中（八郎）社長が「UWFが一つだけだとつまらない。競争相手も必要だ」というところからスタートしてたんだと思いますね。
──そもそも田中社長はUを買収しようとしていたんですよね？
W それはもっと後です。それ以前に対抗相手を作ってあげようという企画があったんですよ。
──それは田中社長の親心というか、親切心というか（笑）。
W 純粋にピュアなハートで。セ・リーグがあってパ・リーグみたいな感じでね。Uがセ・リーグとするならば「僕がパ・リーグを作ろう」という話があったわけですよ。それで新日の武藤（敬司）選手をトップに据えるという話が持ち上がった、と。田中社長の息子さんが武藤ファンだったのが大きいらしいですね。
──武藤取りに動く前に、すでに若松（＝将軍KYワカマツ）さんに声がかかってたわけですよね。
W 若松さんは田中社長ともともと知り合いだったんで、SWS構想の相談をしていたんじゃないですか？ UWFの横浜大会でも、若松さんは田中社長と一緒に見に行ったりしてましたからね。
──僕もその写真は見ました。最初はUと闘える選手を選ぶっていうのが肝だったわけですよね。
W そうですね。その後、だいぶ経ってからUを買い取ろうという話が出ました。そういう話があって何ヵ月後かに買収の話が具体化してきて、それをUWF側が蹴ったんですね。
──つまり、当時UWFの社長だった神（新二）さんが蹴った、と。
W 選手と相談したのか、神さんが独断で決めたのか、そこはわからないですけど。神さんの側の人の話だと、田中社長はワンマンだから自由がきかなくなるし、社員になると自分たちがやりにくいということで断ったんじゃないのかな、と。
──ワンマンなんですか？ Sって、ボクにとってはすごく自由な団体っていうイメージがあるんですけど。
W いや、ワンマンですね。「一円たりとも、あんたたちに決済権はない」と言われた社員もいましたが……。会社をやっている以上は細かいところまで全部チェックが入ります。
──その代わり出すところは出す、と。
W だけど、運営経費というところではシビアですから。つまり、Uでは見えないところでいろいろ出来たのが、買収されてしまうと自由がなくなるかもしれないですからね。
──ああ、なるほど。そう考えると上の方の人は非常に不自由ですね（笑）。
W でも、それでSが動き始めた。フロントの考えと選手の考えがいろいろ違うところがあったのに、フロントの方は話をドンドン進めていく。結果的に出来上がったことは出来上がった。だけど、全然違うものになってしまったわけです。
──じゃあ天龍（源一郎）さんっていうのも、もともとUの対抗戦の相手として考えていたわけなんですかね。
W たぶん、そうじゃないですか？
──前田（日明）さんが天龍さんの試合を認める発言をしてたから？
W それはよくわからないです。でも、神さんは「Sのことは自分がコントロールしてる」みたいなことを言ってたみたいですよ。藤原（喜明）選手と船木（誠勝）選手がSに行くってことが東スポに出たときに、業界が浮き足立ってる中で「オレがコントロールしてる」と言ってたみたいです。
──はぁ～っ!? SWSは神さんがコントロールしていたんですか（笑）。
W SとUではいろいろありましたね。もっと以前にメガネがUの道場を建ててあげるという話もあったんですよ。結局それも何か問題があってなくなったんですけど。図面まで出来上がってました。見たという人間はいましたね。
──もしかしたら、UWFもSWSみたいにゴージャスな道場が建っていたかもしれないんですね（笑）。夢のような話だなあ（笑）。ジョージさんも「Uと闘うために格闘技修業を始めた」とか言ってましたよね。
W ジョージさんは、そういうふうに話を聞かされてたんじゃないですか？
──夢がありますよねえ。それは神さんが考えてたんですか。田中社長ですか？
W どっちもじゃないですか、わかんないですけど。
──スケールが異常にデカいですよね。まあ、それもどっちも勢いがある時期だったわけだろうから。Uにテレビ局がつくっていう噂もありましたもんね。
W そうですね。実際にTBSで特番を作る時もメガネスーパーが提供としてつきましたしね。
──しかし、Sが潰れたのは惜しいことなのか、それでよかったのか、よくわかんなくなってきましたね（笑）。
W 惜しいことをしたんじゃないんですか？ うまく進めばいまみたいにインディーがいっぱいできずに、猪木さん馬場さん、そしてもう一団体メジャーと呼べるものが出来ていたはずですよ。プロレス界が変わっているはずですよ。（笑）。
──天龍さんが試合をUスタイルに変えてみたりとか（笑）。
W 新しい形の格闘プロレスができたんじゃないですかねえ。
──そういえば、この本（戦国プロレス＝格闘技読本）は見ました？ Show氏がつくったダメ本なんですけど、ここで天龍さんが、ジョージさんに「1ヶ月で3試合じゃないと身体がもたない」って言われて天龍さんが憤慨したとかSネタをいろいろ話してるんですよ。でも、これも要するに格闘スタイルだったら月に3試合しかできないっていう意味なんでしょうね。
W そうでしょうね。Uと同じように自分もやろうと思ったんでしょう。自分たちも同じスタイルでやれるんじゃないかと思ってたんでしょうね。だから、ミーティングっていうか、コミュニケーションが少なかったんじゃないですかね。
──それで、Sが始まると中に不協和音というかズレが出てきます。もともと試合のルールから何からU的なことをやるはずだったんですよね。
W たぶんそうでしょうね。ただ、そこまで深い話はしてなかったんでしょう。スタイルがどうのっていうのは、やっている人たちが深く考えて言ってるんであって、フロントというか起ち上げようとしてる人間は深いというより広く物事を考える。だから「ライバル団体を作ろ



ガッチリとした結束を誇ったかに思えたUWFも、前田と神社長の確執から、やがて三派に分裂していくことになる。そのきっかけの一端が、Sである。

う」とか考えるんですよ。まあ、一般的なファンも同じだと思いますけどね。

――つまり、一般的なファンと同じく単純に「前田vs天龍が見たいな」という大きい夢を実現しようとした人が田中社長だったということですよね？

W　そうですね。

――ホントにピュアなプロレスファンが偶然大金を持っていたってだけ、っていう気がしますね（笑）。で、内部での物騒な試合の裏話も、こちらの関係者としては当然いろいろ知ってらっしゃるんですよね（笑）。

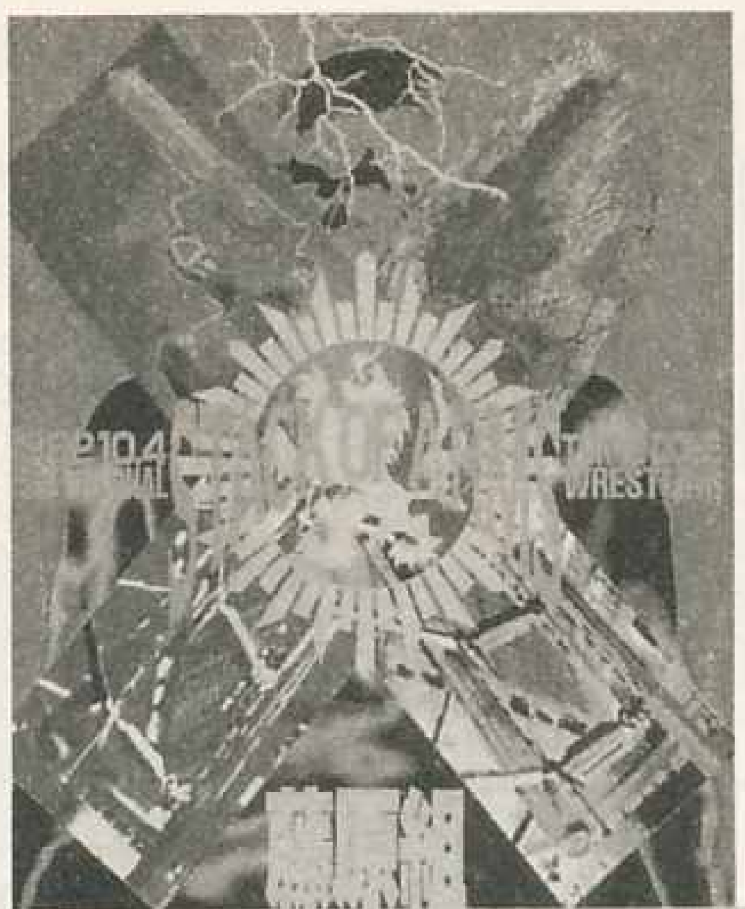
W　僕は物騒な話は全然知らないです（笑）。ただやっぱり、それぞれのプライドがあってスタイルがあって、やる人たちにとってはスタイルがどうの格がどうとかっていうのが出てきちゃうから。それがグループ同士で意地の張り合いになっちゃったんですかね。

――藤原組とSの間だけじゃなくて。

W　それだけじゃなくて新日組と全日組との確執とかね。S内での上下関係がしっかりしてなかったんじゃないですかね。

多重アリバイ S

multiple ALIBI "S"



突然、藤原組が打って出た東京ドーム興行にはメガネスーパーが深く関わっている。



天龍さんは社長だけど、マッチメークを担当していたのはカブキさん。やっぱりグループ間には問題がありましたね。なんか知らないけど選手同士、グループ同士うまくいかない。それでわからないまま終わった、と。わかっているのはたぶんカブキさんぐらいじゃないですかね。あっ、あともう1人。佐藤昭雄さんもからんでると思います。

――S内部の話をすると、カブキさんも非常につらそうな顔をするから聞きづらいんですよね（笑）。

W　たぶん本人としたら、失敗してるって感じてるんじゃないですか？　僕も外側からしか見てないんでわかんないんですけど、若松さんとかは自分の立場を超えて口を挟んだりすると思うし。上層部の考えを拡大解釈したり違う解釈をしたりして自分なりに口を挟んでいくとなると、これを受けた人間は「それは田中社長がそう考えているのか？」とか「なんで？」って思うかもしれないし。だから、「北海道に逃げる人はわからない」（by折原）とかっていう発言が出てしまう。「いい人だと思うけど、わからないな」って勘違いされたところがあったと思います。

――ちなみにこのＳｈｏｗ氏本によると、天龍さんは「高野兄弟と（ドン）荒川さんが悪い」って言ってますけど。

W　全然わからないですね。

――でも、荒川さんが鍵を握ってるとボクは思うんですよ。北尾（光司・当時）vs（ジョン・）テンタとかそういうような面白い試合の鍵を。たぶん荒川さんが焚き付けたってみんな思ってるんだろうけど、あれは荒川さん流のギャグだったんじゃないかというのが僕の仮説なんですよ（笑）。

W　ククク（笑）。いやぁ、たぶん荒川さんは自由にやっていただけだと思います。

――ボクもそう思います。ただ、この本でも誰のことだか書かずに「ベンチ・プレスやるよりも社長の車を研いているほうが長ぇんだ」とかって天龍さんが発言してるんですよ。これも、おそらく荒川さんのことを言ってるわけですよね（笑）。

W　それは言い過ぎだと思います（笑）。そんなことしてないと思いますし。ただ、そういうのがうまい人ですよね。例えば長嶋さんと親しくなるにも、長嶋さんが毎日多摩川を走ってると聞くと自分も毎日走ってすれ違うようにして、それで声をかけて親しくなるとか（笑）。

――そのマメさと元気さと面白さがあれば、みんな心を許しますよね（笑）。

W　だけど、あの人が鍵を握ってるとか、暗躍したっていうのはまったくないと思いますね。ただ、立場的にも新日グループでは一番年が上なわけですし、「彼が動いてくれれば」って思いが天龍さんの中にあったのかもしれないですね。想像でしかないですけど。

――SとUとの対抗戦で、具体的に語れるようなこととかはありますか？

W　まぁ、カブキさんに聞いてくれって感じでしょうね。どういうつもりでそういうカードにしたのかっていう。対抗試合が面白いっていうのは今も昔も変わらないわけだし。

――負けられない者同士の試合を組んでしまったら、ああなるしかないと。

W　それはもう、やってる本人にしか、わからないんじゃないですか？　小川と橋本に聞いてくれって感じです（笑）。ただ、マッチメークに関しては、マッチメーカーと会社の話がうまくいってなかったんじゃないかなと思うんですよ。やっぱりここがカブキさんが一番骨を折ったところでしょうね。

――それで円形脱毛症になって（笑）。

W　相手の派閥も調整しなきゃいけないし、自分の派閥も調整しないといけないじゃないですか。S内の調整もできないのに、外の人間との調整なんて、より大変じゃないですか。

――藤原、船木、鈴木っていう3人は、Sという団体に対してどういう思いを抱いていたんですかね。

W　藤原選手はなんともないって感じですけど。ただ、若い2人にとっては「ベクトルが右に行ってる時に、なんで左の方にいかなきゃいけないの？」っていう意識の中でいくと躊躇があったのかもしれませんね。

――結局、藤原組とパンクラスの意識の違いがその辺りから表面化してきたってことですよね。藤原組以外のU勢は、なぜSと絡もうとしなかったんですかねえ。

W　それは簡単です。藤原組はメガネスーパーワールドスポーツが経営してたからですよ。単純にそれが答えです。

――もともと第二次Uの分裂にメガネは関係していたんですか？

W　全然関係ないと思いますね。ただ、U分裂後、早々にメガネと藤原選手との間には話ができていて、それは遅かれ早かれ発覚してしまうことであって。たまたまUWF選手間での解散ってところで悩んだ船木選手と鈴木選手の2人がたまたま相談に行ったら、ああなったというところでしょうね。ホントは藤原選手1人でSに行こうとしていたわけですから。だけど、メガネとしてもSだけより、もう一つ団体を作った方がいいし。どちらかというと「こっちの方が違ったスタイルで面白いんじゃないか」と思ったか、どうかわからないですけど。

――藤原組のテレビ放送も、やっぱりスポンサーはメガネだったんですか？

W　だから、マスコミがみんなわかってないのは、藤原組はメガネスーパーワールドスポーツなんですよ、完璧な（キッパリ）。だから、ギャラも給料もみんなメガネスーパーワールドスポーツから出てたわけです。

――はぁ～っ!!　船木さんとかも肩書きはメガネの社員だったわけですか。

W　いわゆる契約選手というヤツです。さっきも言いましたけど、メガネスーパーの中にプロレス事業部があって、その下にSWSと藤原組があったんですよ。一時期、メガネスーパーワールドスポーツは嶋田源一郎さん（＝天龍）が社長でしたから。藤原組の上の方の社長が天龍さんだったわけですね。だから一時期の藤原組は完璧にメガネの会社でしたね。

――藤原組の分裂劇と、S崩壊後には何年間って資金援助の期間が決められていたこととは関係あるんですか？

W　それはわからないです。たしかに、Sが崩壊した後はWARとNOWに資金援助がありました。ただあのままプロレス事業部を続けていっても、単純にメガネスーパーとしてはどうしようもないから、打ち切りと。SWSがなくなっても藤原組はメガネスーパーワールドスポーツの中でプロレス事業部は解体ということです。Jリーグのフリューゲルスと同じで全日空がやめますとなったら解散。それと同じですよ。

――メガネスーパーのプロレス事業部が廃部になったってだけなんですね。Sのフロントの人は社員だから、終わった時

世界初のプロレス専門店
レッスル®
プロレス ビデオNO.1はどれだ？
新作・話題作 ゾクゾク登場!

にはどこかに流れたとか？

W メガネに残る人はいなかったんじゃないですか。

——荒川さんだけが残った、と（笑）。

W そうですね（笑）。だけど社員はみんなプロレスが好きで入ってきてるわけだから、NOWとWARができて、みんなどっちかに行こうとするじゃないですか。当然、WARは人気があって、みんな行きたいんですよ。だけど、受け入れる方にも「ウチは何人まででいいよ」とか事情があるんです。そうすると可哀相な子も出てくる。

——しぶしぶNOWにいくと（笑）。

W 人間模様ですねえ（笑）。

——それで関係者の目から見る限り、メガネがやろうとしたことには……。

W 疑問も何もなかったですね。やっぱりそちらの世界は特殊なんで、知らないところから来た人には見えない壁がいくつもあったと思います。だけど、メガネスーパーの方もやっと慣れてきて、その中での在り方っていうのもわかってきたとこだったと思うし。以前、この雑誌に載っていた誰かのインタビューで、どっかの雑誌を買収するみたいな話がありましたよね。

——（ケンドー・）ナガサキさんの証言ですね。「ベースボール・マガジン社を丸ごと買う」っていう夢のような話があったという（笑）。

W あれ、じつは日本スポーツ出版だったんですよ（笑）。

——ダハハハ！　『週刊ゴング』だったんですか（笑）。

W でも、ゴングの方から「うちは結構です」って断られたみたいです（笑）。それは田中社長本人が話をされていましたが（笑）。

——いや〜っ。当時、『紙プロ』があったらメガネにぜひとも買ってほしかったですね（笑）。

W 日本のWWFになる可能性を秘めていたのはメガネスーパーしかなかったのに。

——惜しいですよねえ。結局、どうこういってもみんないい思いしてるわけですよね、マスコミ関係とかも含めて。

W だから、最後の方は『週プロ』とも仲良くなってたし。ハワイにマスコミをご招待したときは1人10万円ずつ渡したりとかっていうので、余計に金権プロレスとか誤解されたりもしましたけどね。ただ、田中社長は人と会う時はいつも別の封筒を財布に用意していたというのは本当ですよ。

——素敵ですね（笑）。ボクも会いたくなりますよ（笑）。これは折原（昌夫）さんから聞いた話ですけど、もともと田中社長の息子さんがプロレスファンで、息子さんの誕生日プレゼントとして喜ばせるためにSを作ったっていう噂もあるそうですね（笑）。

W それはちょっと話がだいぶ飛躍してると思いますけど（笑）。

——崩壊の原因は息子さんがF—1を好きになったからだっていう噂もあります（笑）。

W それはないと思いますよ（笑）。やっかみやジェラシーがそんな噂になっていくのかもしれないですし。

——話自体も面白おかしい方向にいってしまった、と。でも、Sの場合は面白おかしい噂話の大半が真実だったりするから面白いんですよね（笑）。

W ただ、会社が大きいから広告をいっぱい出してるじゃないですか。車の方は長嶋（茂雄）監督の息子さんがカーレースをしていたんで、そのスポンサーはしていたみたいですよ。

——そこで長嶋さんと仲のいい荒川さんとも繋がるわけですね（笑）。

W ですね。ただし、プロレスの事業は別かもしれないけれど、どの会社でも料金と効果が見合ったりすればやるわけですからね。

——それにしても、プロレス界は惜しい人を失いましたねえ。橋本（真也）さんが言った通り、「お金を出す人のことを悪く言っちゃいけない」って感じですか（笑）。

W ホントにそうですよね。時代に合わなかったということなのかよくわかりませんが。

——ちょっと早かったとは思いますけど、あの時期を逃すとバブルが弾けてお金もなくなりますからね。

W 良くも悪くも、UWFと手を組めなかったことが分かれ目だったかもしれませんね。UWFと一緒だったら、バッシングもかわせただろうし。例えば専門誌ともめても『週刊プレイボーイ』なら何か違った形ができただろうし。それこそ『SRS』みたいな番組をつくるのも、夢じゃなかったでしょう。

——UWFを引っぱっていた神さんも田中社長同様、この業界から手を引いちゃったのが残念ですよ。人生いろいろですね。いろんな人の人生を狂わせましたよね、Sは。

W でも、助けようとしていたわけですから。結局、それぞれが自分で選択していってるわけで、誰が悪いとか何が悪いとかはないと思うんです。みんなそれぞれいいんじゃないですか。悪いところはなかったと思いますよ。

——まとまりが悪かったぐらいで。

W それだけです！　やっぱり自己主張の世界ですから。だから、田中さんがお金を持って常に頭に立って動かしていれば、まとまったかもしれないし。誰かに舵取りを他人に任したからまとまらなかったっていうだけで。

——なるほど。まあ、とりあえずWさんもいいお金をもらっていたと（笑）。

W 自分はメガネの社員だったのでそんなことはなかったです。人並みでした。ただSWSの方たちはだいぶ違うみたいでしたけど。

——ということは、あの当時はみんないい目には遭ってるはずなんですね。

W ですね。でも、純粋にメガネの社員と比べると全然待遇のいい人がいたんじゃないですか？　しょっちゅう銀座に飲みに行ったりしてましたから（笑）。僕は下っぱだったんで、連れて行ってもらえなかったんですけど。

——ダメだったんですか（笑）。

W 僕はいつも広告の制作とかポスターの制作とかの手伝いなどをしてました。当時は、部長なんかもみんなしょっちゅう「銀座、銀座」って感じで。「プロレス団体は麻布に事務所がなきゃダメだ」って言ってましたね（笑）。

——イメージ通りですね（笑）。

W 僕はもともとプロレスが好きでUWFと天龍さんが好きだったんですけど、SWSができた時に「Sの仕事をしないか？」って言われたんですよ。いま思えばなつかしいし、大変だったけど楽しかったですよ。

——しかし、Sに関しては誰に話を聞いても楽しそうでいいですね（笑）。

W まあ、今回はこんなところで。今後もわからないところがあったら、答えられるものは答えますから。

——じゃあ、読者からの質問も募集しておきましょう（笑）。

【99年1月●日、読者情報により秘密の場所にて収録】



果てしない田中社長のリッチぶりに心の底から脱帽だ!!　いまここまでやる人いるの？　いないでしょ？　この金の使い方を男なら見習いたいものだ。

ハワイにマスコミをご招待したときには1人に10万円ずつ渡したりとかっていうので……

STRAIGHT AND STRONG SWS

というわけで、数々の謎を残して海のもくずと消え去ったプロレス界のアトランティス大陸・SWSに関する読者さんの疑問を大募集。あなたの疑問に、Mr.Wがズバリ解答します!!　内角高めの危険球スレスレな質問も、この覆面関係者が悪球打ちの岩鬼のごとく打ち返してくれるでしょう。宛先は、〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　（株）ダブルクロス「メガネしか信じない」係まで。

お詫びと訂正■前号の『ジャイジャイ日記』で本誌・元ダミー編集長、原タコヤキ君氏の名誉を著しく傷つける（?）発言があったことをお詫びしまーす。他の人も一緒にセクハラしてましたぁ。これでいい？　タコ兄。

ジャイジャイ日記

デート編

WAR 武井社長のモテモテの法則でジャイ子もメロメロ。

みなさーん、モテてますかぁ？　ジャイ子はさっぱり。もう犬にもなつかれないよ。
そんなしょんぼりさんのジャイ子のもとにWARの武井社長が
『100%彼女をゲットする史上最強マニュアル』ってビデオを出したとの情報が。
資料によると、武井社長は“リング史上最強のモテ男”らしい。そのコピーはどうかと思うけど、
武井社長に前からホの字だったジャイ子は「ビデオの宣伝のためならなんでもする」
っていう社長の弱みにつけ込んでデートしてもらいましたぁ。

武井社長のモテモテ法則
その1・レッツエスコート



まずは社長行きつけのステキな喫茶店へ。とっても自然にドアを開けてくれる社長。ジャイ子（職業・奴隷）、すっかりお姫さま気分になっちゃったよ。

武井社長のモテモテ法則
その2・気のきいたスキンシップでポイントアップ



ジャイ子がグチをこぼしてたら社長が手相を見てくれました。「あれ？　ジャイ子ちゃんてMなんじゃない？」手相でそんなことわかっちゃうのぉ？「あと、ジャイ子ちゃん、ズボラでしょう？」もう絶望的。死にたい。恥さらしに来たんじゃないのに。でもちゃんといいことも言ってくれたよ。ショックで忘れちゃったけど。

武井社長のモテモテ法則
その3・ムリしても特技をアピール



すっかり仲良しになったところでドライブに誘われちゃった。ところが社長は道を間違えた。社長ピンチ！と思ったらすごい運転テクで脱出。スタントマンみたいだったよ。たぶんわざと間違えたな。さすがジゴロ社長。これはむやみに真似すると危ないので気を付けてね。モテモテor DIEってとこだね。

武井社長のモテモテ法則
その4・危険なときは助けを呼べ！



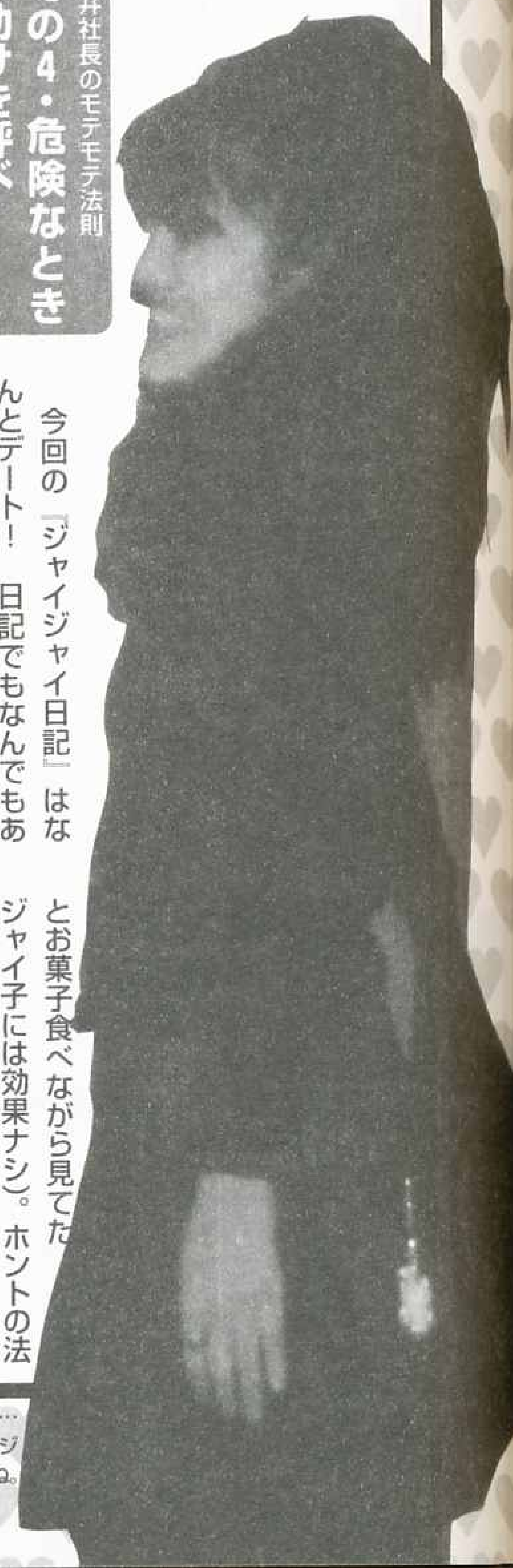
着いたところは静かな公園。また小粋なことするねぇ、社長。フランス人みたい。そんなムッシュ武井にジャイ子はメロメロだよ。どうしよう？　ジャイジャイ言ってる場合じゃないよ、とドキドキしてたら後ろからフラッシュが……。本誌坂井ノブに尾行されてました～。社長が身の危険を感じて呼んだんだって。ちくしょう、そういうオチだったのね。モテる男はやることが違うね。しょんぼり。

武井社長のモテモテ法則
その5・開き直れ！



せっかくなので、こんなおいしい写真も撮っちゃいました。ジャイ子デレデレ。写真撮り終わっても離れなかったもん。お仕事だってこと忘れちゃってましたぁ。帰り道はもちろんノブにずーっとお説教されました。いいことばっかりじゃないね。ジャイジャイ。





今回の『ジャイジャイ日記』はなんとデート！　日記でもなんでもありませ～ん。ノロケです。いじめられてばかりの毎日に、もうあきあきさ。

　ところでみなさん、武井社長のビデオはもう見た？　見てなくても気になってたでしょ。モテモテになれる7つの法則ですよ（正確には『100%彼女をゲットする7つの法則』）。どうよ？　見ればきっとモテモテ。バラ色の人生、ラヴィアンローズよ。

　ジャイ子もあとでビデオ見せてもらったんだけど、ビデオにこっそり入ってるサブリミナル効果にもモテモテの秘密があるんだって（ボケーッとお菓子食べながら見てたジャイ子には効果ナシ）。ホントの法則はここでは内緒なのでビデオでお勉強してね。ドラマ編もあって、武井社長はとってもおいしい役で登場してるよ。ジャイ子メロメロ。ビデオ見ながらモテる秘訣も教えてもらっちゃった。でもいい思いばかりはしてられない、ジャイ子は編集部や会場では相変わらずいじめられてるの（コレ書いてる最中も罵倒されてま～す）。誰か、ジャイ子に愛をちょうだい。バレンタインにチョコぐらいならあげるからさ。ジャイジャイ。

「ジャイ子が目印」って約束で待ちあわせしたのに……ジャイ子、お菓子食べてたら遅刻しちゃった。そんなジャイ子を笑って許してくれた社長、モテ男の余裕だね。

必見!!　これが『100%彼女をゲットする史上最強マニュアル』だ!!



武井社長のビデオ『100%彼女をゲットする史上最強マニュアル』は絶賛通販中！　通販のみの販売です。まずは電話にて無料パンフレット（片面は武井社長ピンナップ）の請求を。武井社長グッズとしての価値もアリ。

二本組・定価29,800円
申込み先（株）テイクワン
☎ 03-5477-0881



～St. Valentine's Day's Massacre～

セントバレンタインデーの虐殺！！

語ろうマサ・サイトー！

マサ好きを
公言してはばからない
8人の論客（？）による
マサ・サイトー引退記念
特別雑談会

——今日は、マサ・サイトーさんについて大いに語り合おうと思うんですけど、引退試合の大会名は『バレンタインデーの虐殺』という物騒な……。

吉田 あの興行タイトルは文句なしにいいよね、『悪魔のいけにえ』みたいで。

イナズマ あれは素晴らしいよね。『セントバレンタインズ、マサカー』って（笑）。

吉田 そうか！　まさとマサカーがかかってるのか！　で、なにを語ればいいの？

——ん～、マサさんの魅力から、人となりまで……。

吉田 人となり？　知らないよ、そんなもん。友達じゃないんだから（笑）。ところで、花くまさんはマサ好きとして知られてるわけですけど。

花くま 私は『Ｒｉｎｔａｍａ』でマサのこと書いたんですけど、あれが僕の文としては最高傑作なんですよ。あれ以降はただ依頼が来るから書いてるだけなんです（キッパリ）。……あれで、もう燃え尽きちゃったんですよ。

とにかく、マサはハンパじゃないんですよ！よくわからないけど（吉田）

——アハハハハ！　そんなに簡単に燃え尽きないで下さいよ（笑）。

花くま 今回あれを再録して欲しいんですよね。

——エッ！　いいんですか？　ありがとうございます。喜んで再録させてもらいます。でも、あの原稿はマサの魅力の全てが濃縮されてますよね。

岩渕 じゃあもう座談会終わり？

——いやいやいや、これで終わりじゃない、これからが始まりです（笑）。ところで花くまさんが一番最近見に行ったプロレス興行っていうと？

花くま うんとねぇ、行ってないんだけど、…………アルシオン？

——アハハハ！　アルシオン（笑）。

花くま ウチの道場の女の子が試合に出たんで、そのセコンドで……。

吉田 全然報道されてないですね、その事実は（笑）。

花くま ……つまんなかったから途中で帰っちゃいましたけどね。

——アハハハ！　唐突ですが、吉田さんは、マサのどこが好きですか？

吉田 ビジュアルだよね、やっぱねぇ。ハイパービジュアルでクライム・オブ・ビジュアル・ショックな風貌が、とにかく圧倒的でしょ。

——さっぱりわかんないですけど、まあそれにつきますよね。

吉田 ヒゲがあそこまでに似合う日本人レスラーっていないしね。和製ハーリー・レイスみたいな。

イナズマ あとアフロでロン●リっていうのもね（笑）。

花くま マサはどこから撮った写真でも使えるから凄いですよね。

イナズマ どの角度から撮ってもこっちを見てるっていう（笑）。

（ここで吉田豪が持参したマサ本コレクションから何点かを広げる）

吉田 長州本のポスターがあるんですけど、この二人の着こなしがホント好きなんですよ。（長州とマサのジャージ姿のポスターを広げる）この二人を見比べると、長州はジャージの上をボトムにブチ込むダメセンスの持ち主なのに、マサはブチ込まずに足下をニューバランスで決めてるから渋いんですよね。

——オシャレ有名人って感じですね。

岩渕 マサって普段ラルフローレンとか着てるんですよね。オシャレさんですよね。

日明 でもよく見ると、ラルフローレンじゃなくて、ナイトロって書いてあったりするんですけどね。ＷＣＷとか（笑）。

岩渕 やっぱリアルアメリカンっていうか、アメリカを体感してる人間のファッションだよね。

池上 日本人に見えないもんね、ノリが。しゃべり聞いても。アメリカナイズされ過ぎちゃってて。

吉田 この本ご存じですか？

——なんですか、『男たちのコーヒーブレイク』（蕪木和夫／南雲堂）。ゴーフォーブロックじゃあないですよね。

吉田 これはメンツが最高な本で、ダン

座談会出席者



マスクド店長（バンバンビガロ店長）

①岩渕秀明②Ｓ46・10・10③東京都新宿区④Ａ型⑤180cm⑥70kg⑦Ｈ10・5・6学研ＧＥＴ ＯＮ！６月号⑧白夜書房—無職—パチンコ屋店員—バンバンビガロ⑨窃盗、住居不法侵入、器物破損⑩オナニー⑪平謝り⑫新宿昭和館⑬金沢克彦（Ｔシャツを作りたい！）⑭松屋の牛定一丁シロ大盛⑮自駄落男⑯小森アトム画伯⑰BLACK NIGHT（BAD MANNERS・TR・C－314）⑱３月迄には新作Ｔシャツが出来るので宜しくお願い致します。



花くまゆうさく

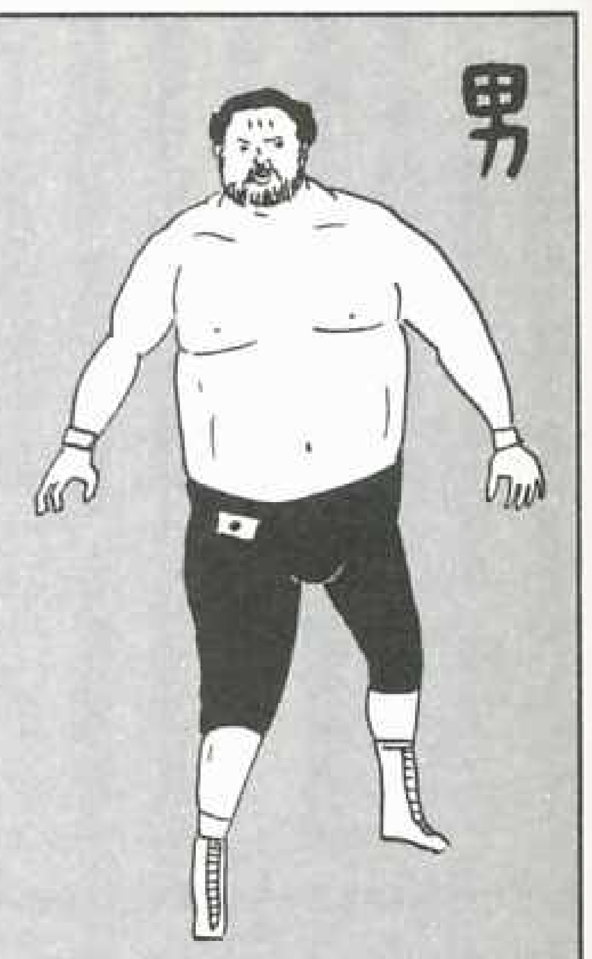
①熊谷優作②Ｓ42・7・26③東京都北区④Ａ型⑤172cmぐらい⑥67kg⑨高校レスリング新人戦東京都３位⑩柔術青帯、サンボ初段、剣道初段、レスリング⑪下からいろいろ⑫妄想⑬水野美紀、浅草キッド、故・趙方豪（ガキ帝国）⑭ゼリー、フルーチェ、杏仁どうふ⑮たくわん（小・中学時代）⑯カモレ柔術⑰妄想の中では、「悪魔を憐れむ歌」（ストーンズ）や「電光石火に銀の靴」（泉谷）でよく入場してます。⑱腰痛を治したい



松澤チョロ（サスケ組）

①松澤修二②Ｓ47・1・16③みちのく④Ａ型⑤チビスケ⑥55kg⑦94・8月テレビ東京・浅ヤン「彼女がいない人バスツアー」対女子３人⑨痴漢、強姦、虚脱感＝三冠王⑩リトルリーグ、将棋⑪ちっと⑫『週プロ』『ゴング』に何らかの形で載ること、『DOLL』でガールフレンド募集をすること、送りバント⑬獣田三郎、ぷー⑭白米⑮ぴのこ⑯菊田早苗⑰GET ME BACK（TEEN GENERATE）

①本名②生年月日③出身地④血液型⑤身長⑥体重⑦デビュー戦⑧プロレス歴・入門以後の経路⑨主要タイトル⑩スポーツ歴⑪得意技⑫趣味または特技⑬好きな芸能人⑭好きな食べ物⑮ニックネーム⑯ライバル⑰テーマ曲⑱抱負⑲寸評＆備考



『男の憧れマサ』

花くまゆうさく＝イラスト・文

もしプロレスラーに生まれ変われたら、誰になりたいか？

若手でなら、やはり石沢でしょう。なかなかいい生き方が、できそうだ。全日なら、本田になりたい。ベテランでなら、木戸ですね。今の木戸の位置は、とても居心地がいいのではないでしょうか。

そしてもう1人、忘れてはならない人がいる。マサ・サイトーだ。マサこそ、男の憧れだ。豪快、男らしさ、たくましさ、自由、ワイルド、一匹狼、ヒゲ面、ちょっぴりかわいい……、といった男なら誰でも欲しがる憧れのキーワードをすべて持ちそなえた、男の中の男、キング・オブ・男なナイス・ガイ、それがマサ・サイトーだ。

こんな男、他ではトラック野郎の星桃次郎以外見当たらない。（ヒゲ面キーワードは削除）

男なら、男だったら、マサのように行きたいと思うはずだ。

今のマサを見てくれ。こんな充実した日々を送っている50過ぎの日本人、そうはいません。

50過ぎても、頑丈なカラダを持ち、トレーニングで、いい汗かいて気持ちE。たまには、試合に出て、エンジョイだ。週に一度は、テレビで解説もする。これが案外気持ちE。公共の電波を使って、好き勝手に喋ってりゃいいんだ。何言ったって、誰も文句言わねえよ。だって俺強いんだもん。隣で、ヒューヒュー叫んでるこのアナウンサー（辻）、こいつをいじめんのも面白いぜ。こいつが、得意げに喋った事は、すべて否定してやるんだ。これが、けっこう面白いんだ。こいつも、公共の電波で得意げに喋った事を、俺に全部否定されてカチンとくるのかな、たまに、なんだか難しい質問をしてくんだよ。でもそんなの平気、平気。そんな時は、聴こえないふりしてりゃいいのさ。黙ってりゃいいんだよ。これは、ババさんもやってるよ。

今、それさあ、グレイシーとかアルティメットとか出てきてっけどさ、弱いレスラー達は、危機感があんのか、なんだかんだって言葉で一生懸命と武装してバリア張っちゃってさ、みっともねえよな口だけなんて。口だけなら最初から黙ってろよバカ。俺は全然平気よ、別にいいじゃない。世界にはいろいろあんだよ。俺は平気よ、なんだって強いんだもん。……と、なんだかコーフンして、いつのまにかサイトーになりきって、思わず妄想しちゃいました。スイマセン。

でも、今のマサの充実した日々が伝わったでしょうか。



そりゃ、昔はいろいろ苦労したかもしれん。けど、それがどうした。苦労なんて、後から振りかえればいい思い出だ。それに、苦労してないと、なんか薄っぺらな人に見えちゃうよ。

海外を飛びまわり、いろんな国の女を抱く、そんな男のささいな夢もマサは充分実現してる。英語も学校ではなく、ベッドの上で学んだ。素晴らしいじゃないですか。

さらに、健全な男なら誰だって、一度は夢見たあの行為、〝警官をブッ飛ばす〟（思いっきり）を、たっぷりとマサは、やってのけた。

仲間もたくさんいる。慕ってくる後輩もいる。カルピスも飲み放題だ。

マサ・サイトーこそ、男の憧れの地だ。どうですか、お客さん。

（『Rintama1号』96・5・1より）



池田とかガッツ石松とか西川のりおとか。素晴らしいメンツが集まった一冊にマサが入ってるんですよ（笑）。この本でマサが話してるのは、いかに女が好きかとか、無闇に男らしい話ばっかりなんですよ（笑）。

岩渕　隣は伊藤克信じゃないですかぁ。凄いキャストだなぁ。マサは「炎のボヘミアンレスラー」って書いてありますよ（笑）。

吉田　この本でも「酒と女とタバコを俺は節制してるんだ」ってマサが言ってて。「タバコは最初から吸ってないからいいんだけど、酒と女はきついぞ！　女は俺は好きなんてもんじゃねぇからな！」っていう。これはなかなか言えないッスよ。

イナズマ　「好きなんてもんじゃない」ってどういうことなんだろう（笑）。

吉田　マサは男気の塊なんですよ。これ見ました？（と【『燃える！　長州』シーズ】という本を出す）

岩渕　それ表紙だけは覚えてるけど、もう忘れちゃいましたねぇ。

吉田　これでとにかく「マサさんの人生は強烈よ」って長州が言ってて、読むだけで目からウロコが落ちるんですけど、「マサさんはプロだね。感覚が若くて日本で遊ばせたら誰もついて来れない。ディスコが好きで」とか「とにかく強烈な人だよ、ロックが好きでさ。ハンパじゃないくらい好きよ」って。マサがですよ。

――ハンパじゃないくらいのロック好きって、そりゃ強烈ですよ（笑）。

吉田　とにかく、マサはハンパじゃないんですよ！　よくわからないけど。

岩渕　何を聴いてるんだっていうツッコミも欲しくなりますよね。

吉田　非常に興味あるんですけどね。それに「車に乗るとシートの横のボックスに酒を置いて飲みながらロックをガンガンかけて拳銃を持ち出して田舎町に行くとバンバン撃っていた」と。

イナズマ　バッドボーイロック（笑）。

吉田　飲酒運転&拳銃不法所持。もはや



吉田　豪

①吉田豪②S45・9・3③東京都練馬区④A型⑤171cm⑥60kg⑦92年5月、「週刊実話」ＯＬ100人ＳＥＸアンケート（捏造）⑧編集プロダクション（H4年～H7年）―『紙のプロレス』編集部（H7年～H8年）―フリー（H8年～）⑨オール読物新人賞受賞予定⑩なし⑪悪口⑫タレント本収集⑬マッハ文朱⑭ガム⑮日佐夫クン⑯目指しているのは真樹先生⑰なし⑱「宗教風見鶏として、ミミ萩原の宗教に入信する！」



イナズマ★K

①土屋恵介②S43・4・1③千葉県千葉市④A型⑤170cm⑥58kg⑦去年は矢沢永吉インタヴューも敢行。⑧サラリーマン～レコード店ＺＥＳＴ兼フリーライター⑨普通運転免許⑩腕立てふせ⑪やさしさ、ふれあいを大切にする⑫カレーライスを作れる⑬サンダーバニー⑭カレーライス、大戸屋ランチ⑮ケーチャン、イナチャン⑯カジヒデキ、ストーンズ、オヤジ⑰だってマイブームイズミー、カジヒデキ⑱貯金をする⑲三宿Ｗｅｂにて月1ＤＪイベントやってます。



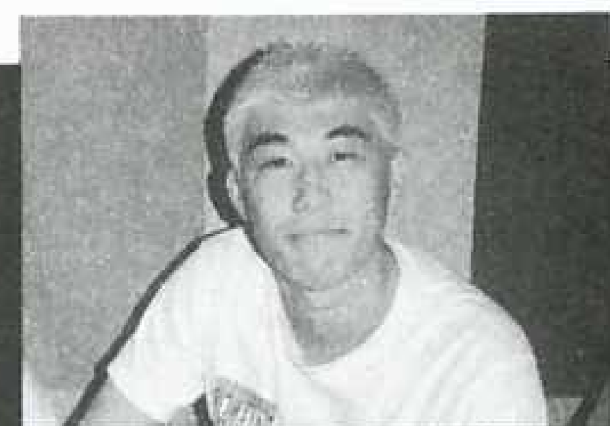
石毛力丸

①石毛力丸②S48・12・12③東京都世田谷区④A型⑤170cm⑥57kg⑦S62・4・13代々木体育館、対小宮山雄飛（ホフディラン）⑧おもちゃメーカー勤務⑨ドナルド・ライトヘビー級⑩柔道⑪アルツハイマーボム、ケルベロス⑫プロレスフィギュア集め、史跡めぐり⑬キャメロン・ディアス、木村健悟⑭バルキー⑮北沢の恋人〝リキマルク〟⑯マスクド店長⑰マンゴ、ナタデ・ココ、イジリー岡田、憂木ひとみ⑱マスクド店長戦実現をライフワークとしていきたい。



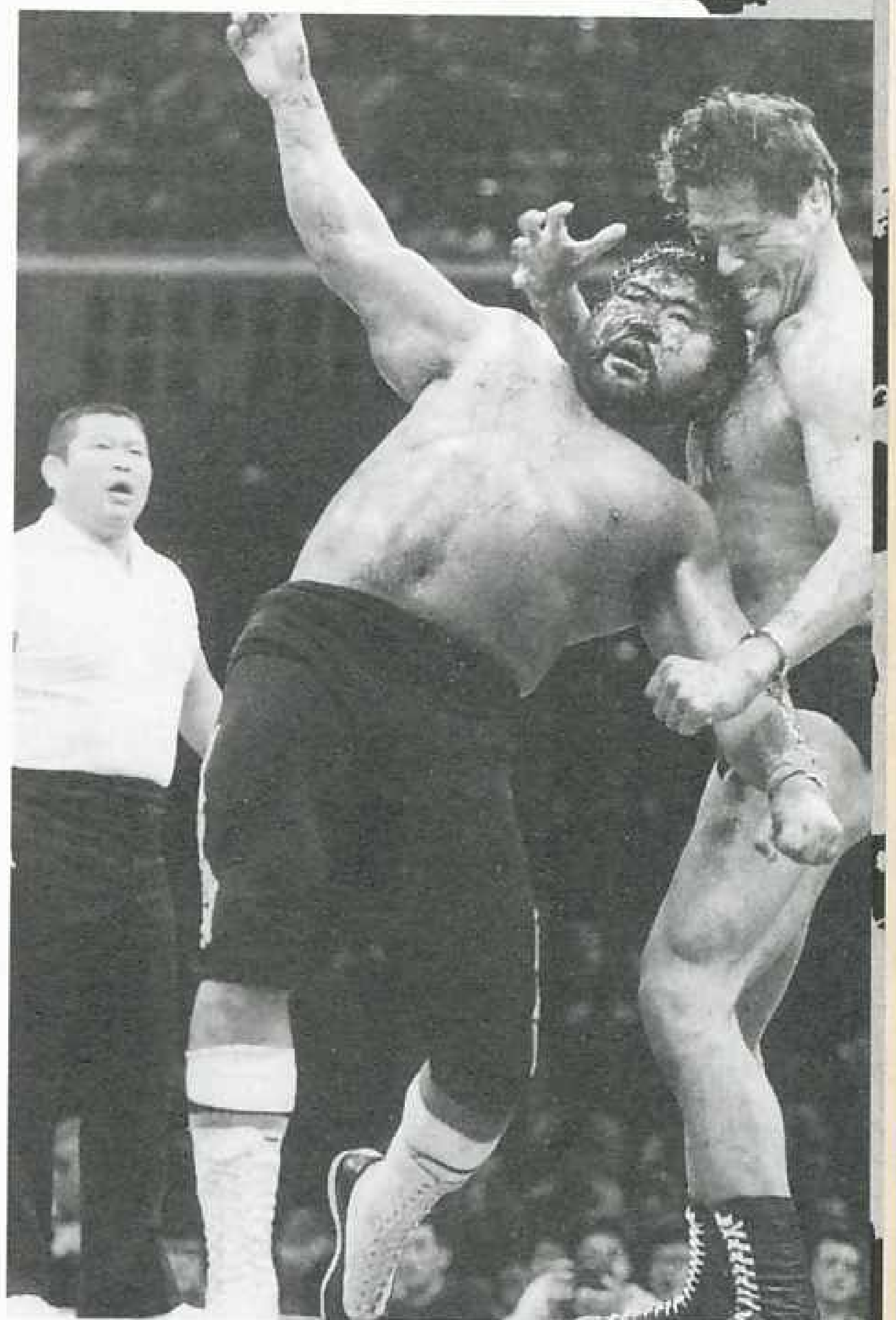
斉藤日明

①斉藤日明②S49・5・11③東京都新宿区④A型⑤176cm（シューズ、髪の高さ込み）⑥86kg⑦H4・8・27、有楽町ニッポン放送銀河スタジオ、対ハガキ職人10人掛け⑨第8回とんねるずのオールナイトニッポン激突常連ギャグマッチ準Ｖ⑩野球、ラグビー⑫ＮＥＷマサＴデザイン提案⑬イケガミさん、イワブチさん、キャメロン・ディアス⑭和歌山カレー⑮ヒアキラ⑯デービット・フレアー⑰ＨＯＬＤ　ＯＵＴ⑱夏に向け、またマサＴ考えよーっと⑲西村ぁーっ!!



GAMY（ギャミー）

①池上且宏②S43・6・18③福岡県福岡市④A型⑤174cm⑥70kg⑦1992・2・12メキシコ・ティファナ、対エル・ニック⑧衣料輸入業＆デザイナー⑨第1回バンバンビガロ杯〝闘魂炎導〟チャンピオン⑩酔拳⑪トペ・コンヒーロ、ジャック・ハマー⑫酔うと天龍に変身⑬クリス・キャンディート⑭Ｔーボーンステーキ⑮モッシュ番長⑯キン肉マン⑰「SHOCK TO THE SYSTEM」BILLY IDOL⑱今年もビガロさんのＴシャツのデザイン頑張ります。



87・4・27、両国国技館で行われた猪木との一戦。セコンドには馳、客席には全日帰りの長州らが付き、前代未聞のノーロープ手錠マッチが行われた。

日本人じゃないですよ（笑）。

岩渕 マサさんといえば（マサ口調で＝以下マサ）「レスラーっていうのは結婚すると強くなるからねぇ」って長州の結婚式の時言ってましたよね。マサも結婚するたびにどんどんステップアップしてったんでしょうね。何回結婚したかはさだかじゃないんですけどね（笑）。

吉田 でもなんか『コーヒーブレイク』って本だと、「とにかく俺は女には目がないから、俺は独身だ」みたいなこと言ってて、でもこれ読むと「奥さんと別れるんじゃないかってぐらい家に帰ってない」って書いてあるんですよ。

——言葉の意味はわかんないですけどとにかくスゴイ自信ですね（笑）。

岩渕 ヒロ斉藤は、マサの子供だって説もありますよね（笑）。

——非常に信憑性の高い話だって聞いたことありますけどね。

吉田 花くまさん的には、マサに東京五輪出場だとかのバックボーンがあるっていうことが重要なんですか？

花くま いや、やっぱり見た目から入りましたね。高校の時にわざわざ紺のジャージを半分に切って……。

吉田 田吾作タイツっぽく（笑）。

花くま そのスタイルでレスリングの練習をしてたんですけど、でも周りは「谷津だ！」って思ってたみたいなんですけど。

——もう一息でしたね（笑）。

花くま ボク的にはマサのつもりだったんだけど。

イナズマ そういえば昔、長州とタイガー服部が監獄にマサの面会に行くっていうのをTVでやってましたよね。

池上 意外と柵もなんにもない監獄に入ってて……。

ヒロ斉藤は、マサの子供だって説もありますよね（笑）（岩渕）

吉田 毎日三時間トレーニングしてたんですよね（笑）。

岩渕 ここにそのビデオあるかなぁ。

——（梵婆家の店長に向かって）長州がマサの監獄に会いに行くっていうビデオってありますか？

梵婆家店長 あぁ〜、探せばあると思うんですけど、すぐには出てこないですねぇ。カルピスの差し入れもってくヤツですよね？

——そうですそうです（笑）。

梵婆家店長 マサさんは、カルピスはそのまま飲まれるんですよね。

吉田 ストレートですか！（笑）

梵婆家店長 原液で飲むらしいですよ。

吉田 そうであって欲しいとは思ってたんですけど。やっぱり水で割る暇ないんでしょうね（笑）。

岩渕 唾液で薄めたりするのかなぁ。

吉田 マサはコンディションも良さそうだったのに、なぜここ最近は試合がなかったって謎もあるじゃないですか。肩叩きされてたのはわかるけど。

イナズマ アレはなんで？

吉田 長州と仲が悪かったらしいっていう噂があったみたいなんですけど。

イナズマ へぇ〜。

吉田 理由はともかく、マサがホサれてたっていうことは、非常に大きな問題ですよ。

イナズマ でもマサと坂口社長（征二）は明大の同期なんだよね。

吉田 マサは、坂口は裏切れないってなんか書いてましたよね。

岩渕 それが永島（勝司）さんの本に書いてあった、「いざとなるとき頼りになるのはマサだ！」って事になるんでしょうねぇ。

吉田 夢のある一言ですよね（笑）。

池上 マサ・サイトーはいつから焼いたんだろうって謎もあるよね（笑）。

岩渕 巌流島のたいまつで焼けたんじゃないかって噂もあるけどねぇ。

【99・1・7／梵婆家にて収録】

■酒がまわるにつれ次第にマサ話からどんどん脱線してしまい、最後はただの飲み会となってしまった。後日、納得がいかないという是非ともリベンジしたいとの連絡が入り、「酒が飲めるなら何度でも」と即座に承諾。新たに、マサ好きの石毛さんも加わり『語ろうマサ・サイトー』パート2が行われた。（チョロ）

——それでマサがアマレスを始めたキッカケっていうのが……。

池上 面白いんだよ、コレが（笑）。（マサ）「ボクは、きょ〜いくママでねッ！」って言ってますよね（笑）。マサママって見てみたいなぁ。

——勉強、勉強って育てられて、それで高校に入って、空手だ柔道だっていうのはみんなやってるから……。

岩渕 横文字でカッコイイからアマレス始めたんですよね（笑）。

石毛 マサは、取りあえず外人的な、YES、NOがハッキリしてますよね。

岩渕 マサがここまでアメリカにこだわる部分は、プロとしてのプライドも見え隠れする部分もあるんですよね。

池上 マサの時代は、アメリカの方がトップレスラーで、まあオレから言わせてもらえば、いまだにそうなんだけど、プロレスやるならアメリカでのし上がるっていうのが自分の中であるんだろうな。

岩渕 その辺の感覚のズレがまた面白いんですけどね。そういうのが解説を聞いてても、垣間みることができたりしてね。

石毛 普段は解説らしい解説しないんだけど、いざアメリカのことかになると、ガガッと攻めてくるんですよね。

池上 自分が招聘したレスラーはヤケにほめるんだよね（笑）。

岩渕 パワーファイター好きでねぇ。

日明 何ポ〜ンド上げるとかね（笑）。

池上 （マサ）「彼はベ〜ンチではねぇ、何ポ〜ンド上げるんだよ」って。

石毛 あとマサは、天山って言わないですよね。「天山ですね？」って言われても「山本はね」って言いますからねぇ（笑）。

池上 またアメリカ行ってたっていうのが自慢げだからいいよね。でも結局日本では花が咲いたっていうのはスッゴイ短いのにこれだけビッグネームとして扱われるのは珍しいよね。

岩渕 でもああいうタイプのレスラーって今の時代となっては出てこないんでしょうねぇ。おっさんクサイ言い方だけど。

池上 これだけのトンパチは新日本では中西（学）ぐらいしか今はいないしね。中



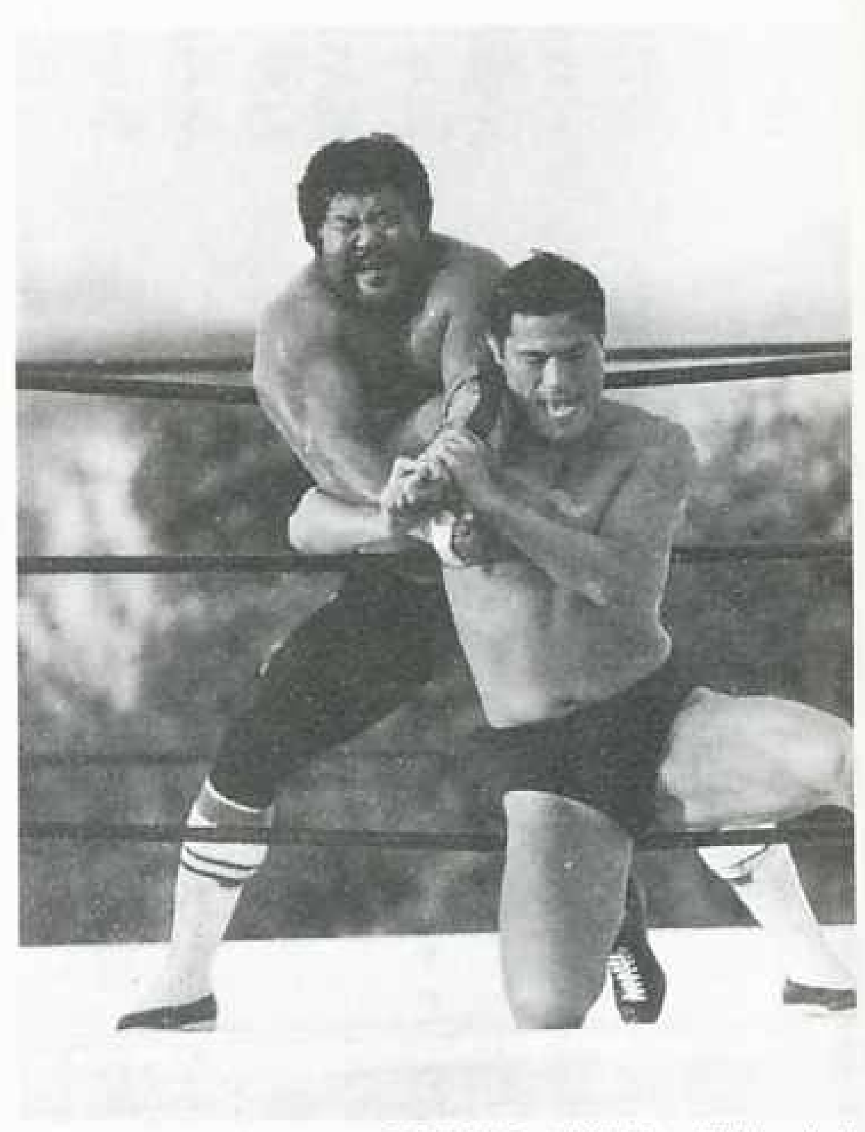
マサ・サイトー■本名・斎藤昌典。S17・8・7、東京都中野区出身。高校時代からアマレスを始め、練習もほとんどせずに国体で優勝。卒業後、明大に入り柔道部で見かけた坂口征二の大きさにショックを受ける。S38年には、フリーとグレコの両スタイルで全日本ヘビー級チャンピオンとなる。その後、日プロ入門。同年6月、札幌での対高崎山猿吉戦でデビュー。豊登、猪木らとともに東京プロレスの旗揚げに参加するものの、崩壊後は渡米し、一匹狼として大暴れをする（いろんな意味で）。リングのフィーリングを忘れてしまったのか、2月14日、対S・ノートン戦で引退試合を迎える。

西だって海外に何年も出してもらえばマサぐらいは育つと思うんだけど、新日としてはさすがにそんなわけにもいかないからね。
岩渕　あとやっぱ海外のマット事情が当時と違って来てますもんね。
池上　昔はＮＷＡ圏内だったらフレアーが各州にまわってくると、そういうテリトリーがあったけど、今は（マサ）「ダブゥ・シーッ・ダッブュ～」と「ダブュウ・ダブュウ・エッフ」だけだからさ。
石毛　昔は、今日はどこのステーツで防衛戦、明日はどこどこって……。
池上　今はメジャー団体じゃないと海外で通用しないから。日本のインディーで海外で通用するヤツはいないから、体的にも、実力的にも。ハッキリ言って海外の方が今はレベルが高いから。馬場だけは逆を言ってるけど、いつまで経っても！　あの人は見えてないから、基本的に。デカイから（笑）。
岩渕　馬場でいい。馬場って人類？
日明　ボクも馬場でいい（爽やかに）。
岩渕　でも将来を考えたら、メジャー団体も海外遠征に行かせるべきでもあるしね。ちょうどビッグネームのアメリカンレスラーが来日しない昨今、そういう解説だけでも夢を与えてくれるのはマサだけだから。

マサも悪い意味で偏ってるんだよ。「ルーチャですからっ」ってすぐ言うし（池上）

石毛　マサの解説は夢をなくすとこもあるんですよね（笑）。
岩渕　なくすとこもあるんだけども、何がしら情報を得れるっていうか。
日明　ちょっとしたプライベートの話がわかるから面白いんですよね。
池上　（マサ）「蝶野とねっ、電話で話したんだよ！」って。「うわぁ～スゲェな電話で話してんのかよ」みたいな（笑）。
石毛　（マサ）「ＣＬＵＢ２４５はね、アレは警察の隠語でねっ、徹底的にやれってことなんですよぉ」とか、あんなの雑誌じゃわかんないですからね。
池上　でもマサも悪い意味で偏ってるんだよ。（マサ）「ルーチャですからっ」ってすぐ言うし。
岩渕　ルーチャは嫌いなんだよね。
日明　マサはルーチャのこと軽く見てるからね。
池上　アメリカでは、やっぱさぁ、パンプアップされてないヤツっていないわけだからさぁ。上に行くヤツは体も作って、レスリングもできてって、マサにすればそれは最低条件なんだよ、プロレスラーとしての。
石毛　基本的に外人はみんな体は作ってますよね。
池上　それがマサの言うプロレスラーですよね。マサは自分でやってきたっていう自負があるから言えるんであって、それは認めるよね。
日明　あとマサは、武勇伝が多いから幻想じゃないけど、イメージが広がりますよね。
――バーリ・トゥードでも通用するんじゃないかっていう幻想はありますよね。あの首にはチョークも極まらないんじゃないかって（笑）。
石毛　あと5年、10年若かったら（笑）
日明　いや20年かも知れない（笑）。
――さすがにノートン相手じゃ有終の美を飾るっていうのも難しいでしょうけど、引退試合の勝敗予想でもしてみましょうか？
日明　（即座に）9分22秒！　ノートンの勝ちは動かないですよね。
池上　オレはねぇ、6分で、集約されてないとマサらしさがないと思うんだよ。オレは6分でいいと思うよ。
日明　ラリアット連発で、それを返せばパワースラム一発で終わりか……。
池上　マサは自分の体力が落ちてるのを、見せたいっていうか、こうだからプロレスができないんだよっていうのをわからせるようなタイプだから。引退試合なんだから、ノートン相手に10分以上やっちゃったら現役でやりゃあいいじゃんってことになると思うからね。ケジメはしっかりしてるヤツだから（笑）。それにマサは、ノートンを認めてるわけだから、ヘタに長くやると、ノートンを否定することになると思うんだよなぁ。
石毛　こういう状態だから、引退するんですよっていうのをねっ。まあ、要はバックドロップが一発出ればいいんですよ（笑）。
池上　おそらく横に流れるけどね（笑）。
岩渕　ホント楽しみだなぁ。
――じゃあバレンタインまでドキドキしながら待ちましょう。

【99・1・14／再び梵婆家にて収録】


巌流島での猪木との2時間を超える決闘は、間違いなくマサのベストバウト。決闘後マサは、痛み止め代わりにビールを50本飲んだそうだ。男の中の男である。

マサを着るなら“バンバンビガロ”!!



●マサ/36 スウェット　1名
●いざという時やっぱりマサTシャツ　1名
●伝説のマサゲームボーイTシャツ　1名

マサカーと驚く虐殺級プレゼント!

●見よこの肉体美! マスカラスTシャツ　1名
●アントン&ドラゴン ちっと時期外れ新春お年玉記念Tシャツ（非売品）1名

BAM BAM BIGELOW
お問い合せ■東京都世田谷区北沢2-33-22-2F
TEL■03-3460-1145
※プレゼント応募方法はP144参照

バンバンビガロHPのお知らせ
HPアドレスはhttp://www02.so-net.ne.jp/~kyoki/index.htmlの中の「ショップ仁義」というページがビガロのHPです。ちっと覗いて見てごらん！

マサを語るなら梵婆家に行け!



今回の収録は、マサ・サイトー&坂口征二&小川直也というBIG3が通っていた明大のすぐ近く、「梵婆家」で行いました。
[TEL] 03・3323・5629
[営業時間] 夜7時から1時ぐらいまでやってます。

必読連載第13回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは「藤原組から'95～旅立ち～」



選手の大量離脱後、藤原組長のもとに新弟子が集まり始めた。船木勝一、小野武志、田中稔、小坪弘良、臼田勝美、池田大輔。丸一年ほど遅れて米山聡、大塚崇が仲間入りした。小坪は後に違う道を歩むことになるが、ここに後のバトラーツの旗揚げメンバーが顔を揃えたのであった。

夏を迎える頃、SWSと藤原組の契約が切れるため、我々は新生藤原組として新たに組織を発足させなければならなかった。その時、藤原組長の恩人のIという人物が会社運営の助言者として現れた。Iは組長が昔、板前修行をしていた時の先輩で、つい最近十何年振りかに再会したという。その人はいくつも会社を持っており、その中で現在動いていない会社を社名変更して（株）藤原組にすることにした。代表取締役は藤原喜明であったが、100％の株主、つまりオーナーは依然Iであった。この仕組みが後に重大な事件を引き起こすことになったのだ。

新生藤原組の活動は順調であった。ファンを対象にしての関節技セミナー。道場結婚式。組長の芸能活動等、話題に事欠かなかった。選手はアルバイトをしながら練習に明け暮れた。幸せは幸せであったが、今から考えると組織としては未来への展望はまだ見えない状態であったような気がする。それでも私の結婚や小田原への凱旋興行、一番若手の米山、大塚のデビュー、船木の結婚と少しづつではあるが前進していた。Iの経営指示に従って、組長も必死に社長業にチャレンジした。そして我々もそんな組長に必死について行った。そんな矢先である。Iがその牙を剥き始めたのだ。

「喜明、お前は経営者に向いてない。やっぱり俺がやる」

ことあるごとに我々を動揺させ、はては事実無根の疑惑をでっち上げて営業の川崎氏を辞めさせたりしたあげく、今度は自分が代表取締役に就任。それは会社乗っ取りのよくあるパターンであった。後でわかったことだが、弁護士と共に帳簿等を調べてみると約4000万近くがどこかへ消えていた。しかし、いくら騙されたとはいえ実際に代表としての印鑑を自分で押してしまった以上、藤原さんにとってはなんとも訴えようのない事件となってしまった。もちろん、その当時はそんなことは夢にも思わなかったのだが……。

体制が変わり、苦悩の日々が始まった。タイムカードによる出勤管理。練習が終わろうが、仕事が終わろうが、やることがなかろうが道場にいなければならない。そしてポケットベルによる24時間管理。その他、無意味なプレッシャーを四六時中かけられることになる。そして藤原さんと我々にそれぞれ誤解を生むような違った発言をし、信頼関係をかき乱す等、枚挙に暇がなかった。それでも我々は組長を信じ続けた。組長の良い所も悪い所もひっくるめて好きだった。だから皆組長にずっとついて行く覚悟であった。

「リングなんてただの四角い箱じゃねえか」

藤原さんがそう言った。新生藤原組の柔軟な発想の先駆けとなった言葉である。それはリングに命を懸け、誰よりもプロレスリングを愛し、そして何度も修羅場をくぐった藤原喜明なればこその誇りある重たい覚悟の言葉だった。それをIは勘違いをして、それそのままの平たい意味で受け取った。所詮それまでの薄っぺらい感性しか持ち合わせていなかったのであろう。その理解の違いが次第にプロレス団体を違った方向に歪めていった。そもそもプロレスを理解できない人間にプロレス団体のオーナーが務まるわけがない。このままいくと俺たちはプロレスができなくなる。このままでは何のために血ヘドを吐いてレスラーになったのかわからなくなる。自分の人生がメチャクチャにされてしまう。本当にそう思った。組長もそう感じたのか、

「石川、どうする？」

そう相談を持ち掛けて下さった。藤原組長がI社長に

「そんなに好きにやりたいなら、喜明、株を全部売ってやるから自分でやってみるか？」

そう言われた時があった。私たちは島田を含めて3人で話し合った。

「藤原さんにその覚悟がおありなら、自分も全く依存ありません。どこまでもついて行きますよ。でも、ひとつだけお願いがあります。私たちにも株を持たせて下さい。自分たちにもリスクを背負わせて下さい。いつまでも組長に甘えさせて戴くわけにはいきませんから。一人で何でも背負い込まないで、俺たちにも背負わせて下さい。お願いします」

組長はニヤリと笑って、

「そうだな、一人で悩むことないんだよな。お前たちがいるんだもんな。よし、わかった。やろう。今から社長にそう電話する」

「はい、一緒にやりましょう」

私と島田は1Fの事務所に降り、心配で集まっている仲間に状況の説明をしながら組長の電話が終わるのを待った。随分長い時間が経った。そして組長は2Fから降りてくるなり我々にこう言った。

「さっきの話はなしだ。I社長について行くぞ。何も聞くな」

呆然とする我々を残し、組長は帽子を目深にかぶって道場を出て行った。

翌日、組長以外の若手全員が呼び出された。I社長はまずこう言った。

「石川、島田、お前ら会社を買い取るらしいな。藤原に内緒でなにコソコソやってんだ」

「いえ、実は……」

私は、組長から株の買い取りの話を相談されたこと、そして話し合いの結果、買い取って一緒にやろうとお互いの意志を確認しあったことを説明した。するとIは、

「そんなこと聞いてませんよ。喜明はそんなこと知らないって言ってたぞ」

「そんなこと言ったって、現に昨日そう

別れ際にアレクがもう一つ進言をしたのがその事件の発端となったのだった

話し合ったんですから」

「それに、喜明はお前らのこと〝アイツらのことなんて信用してない〟って言ってたぞ」

「…………」

我々は口をつぐむしかなかった。

それでも、今回I社長の命令にしたがって集まった我々の目的、常々感じている納得のいかない問題点をIに片っ端から問いただすこと、それを遂行するためにアレクが口火をきった。我々が代わる代わるきちんと筋道を通して申し立てをすると、I社長の知らない不明瞭な金銭の流れが発覚した。本来手取りとなる分のリング設営バイトの給料が止まっていたのである。その場に居合わせた、経理を担当していたIの手下のTがなぜか慌てていたのを見ると、どうやら彼が怪しかった。いずれにしても、それは当方のミスであると、I社長もその申し立てを理解納得し、改善を約束してくれた。しかし、別れ際にアレクがもう一つ進言をしたのがその事件の発端となったのだった。

「あのう……」

その内容は確かに正論だった。しかし、しかしである。さすがに我々だって

「そこまで細かいこと言うなよ。気持ちは分かるけど今のタイミングで言うようなことじゃないだろ……」

全員心の中でそう思った。案の定うまくまとまった話し合いが、その一言でI社長の逆鱗に触れ、気まずいままお開きとなった。アレクサンダー大塚。彼は当時から、時と場所に関係なく、執拗なまでの細かい突っ込みをする愛すべき大物であったのだ。

翌朝、私の家に電話がかかってきた。

「おい、お前らそんなに金が欲しいか。そんなんだったら、辞めちまえ、全員クビだ」

不思議なことに、今まで苦しめられていた物がいっぺんに消えてゆくようだった。やっと向こうから言ってくれた。俺はこの言葉をずっと待っていたんだ。そう思った。

「わかりました。ありがとうございます」

そう言って受話器を置いた。なんだかすっきりして、今まで見えなかった未来が急に開けたような気がした。

その日の午後、I社長の手下から電話が来た。Iはハワイに出発したらしい。Iはいつもの通り我々に揺さぶりをかけ、あのように言えば皆慌てて飛行場まで謝りに来ると思っていたのであろう。実際には予想を外して我々が来なかったので逆に自分が慌てている様子だった。今度は

「クビだなんて言ってない」

だの、

「池田と船木は残す」

だの、あげくは私に

「給料を上げるから」

などと必死になって話を持ちかけてきた。我々は藤原さんに相談を持ちかけたけれど、残念ながら返ってきたのは

「俺は代表取締役じゃねえから知らない」



という答えだった。藤原さんもどうしていいかわからず、きっと苦しんでおられたのだと思うが、その答えを聞いた時点で我々の行く道は決まった。そうせざるを得なかったのだ。

我々は20日後に横浜文化体育館での興行が控えていた。自分たちの事情がどうであれ、楽しみにしているファンの期待を裏切るわけにはいかない。我々は給料はいらないから、試合までのあと20日間だけ藤原組にいることを認めてくれるよう、I社長に願い出た。それは認められたか、その代わり我々に対する理不尽な要求が増えた。Iが経営している会社でのダンボール作りの仕事を、選手が日替わりで行うよう要請してきたのだ。これには我々も反発した。すると

「子会社が親会社の仕事をするのは当然だろう」

との驚くべき言葉が返ってきたのだ。怒り心頭である。それでも怒りを押さえつつ、

「本業であるプロレスに関する営業ならいくらでもするつもりだ。それを何もさせてもらえず、あなたの会社の仕事をさせられるのは、いくらなんでも筋違いではないか」

我々はそう訴えた。

「お前ら、そんなこと言うなら藤原さんに言いつけるぞ」

とIの子分はそんな小学生のようなレベルの言葉を吐いた。我々は呆れると同時に、そんなことで藤原さんに心配も迷惑もかけたくなかったので、泣く泣くその要求を呑むしかなかった。そして日替わりで横浜にあるIの会社まで通ったのだった。

1995年11月19日横浜文化体育館。我々にとって、またファンにとっても忘れられない日となった。メインのザ・グレート・サスケvs船木勝一の試合が終わり、サスケが花道に消えると、我々はお揃いのTシャツを着てリングに上がり、中央を円でかたどった。会場にジョン・レノンの『スターティングオーバー』が流れ始めると、最初に池田がTシャツを脱ぎ中央にそっとおいた。続いて船木がおくと皆がそれに続き、そして順にリングを降りていった。最後に私が残り、皆が重ねたTシャツの上に自分の藤原組ジャージを被せ、深く礼をした。それは、我々の藤原組からの〝卒業〟の瞬間だった。

翌日は我々にとって藤原組在籍最後の日であった。事務所の一角にある組長の部屋をひとりひとり訪ね、お礼と別れのあいさつを申し述べてから道場をあとにした。組長は陶芸の土をこねながら横顔でそれぞれの別れの言葉を聞いていた。外に出ると少し寂しげな空が天高く広がり、秋の終わりを告げていた。我々は想い出の一杯つまった道場を後にして、その日、未来へ向かって最初の一歩を踏み出した。

最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

虚構と現実が交錯する

壮大な格闘ロマン

(32)

Muhito

Illustration/中川雅博

プロレス専門誌発行人である千堂は、万無比人の持つ天性の格闘センスを見抜き、なかば強引にプロレス界へと引きずり込んだ――。シュートマッチを含め連勝街道を突き進んでいった無比人は、次に照準を定めた異種格闘技戦路線でもある程度の成果を上げていった。無比人はダーク・ジャガーというもう一つの顔を手にし、好き勝手に暴れてはいたが――マット界はレスラーの〝何でも有り〟での度重なる敗北が原因か、依然低迷を続けていた。そんな中、マット界の救世主になろうというのか、無比人はヒクソンの元へと向かった。

平成十一年が明けた。

松がまだ取れない一月四日、恒例の〝日本プロレス大賞授賞記念パーティー〟が銀座東急ホテルで午前十一時より執り行われた。

同パーティーは『東京スポーツ』新聞社の主催で、二十有余年の永きに亘って続けられており、前年度、即ち平成十年度の日本プロレス大賞受賞者は全日本プロレスの小橋健太と暮れに招集された選考委員会で満場一致で決定していた。

定刻、千堂はタクシーでホテルに乗り付けた。真澄と一緒であり、彼女にせがまれて対の塩瀬を着用に及んでいたが、着物の袖を通すことは滅多にない。ややもすると裾がはだけてしまいがちで、歩いていて覚束なさを拭えなかった。

真澄も和装で、あっさりした単彩な色留袖。クリーム地に友禅だけで椿を染め上げてあり、同じトーンのピンク地の袋帯を合わせていた。大柄な上にマネキンを思わせる体形で着物は似合わないはずが、純日本風の顔の造作のせいで救われている、そんな印象であった。

三ヵ日を二人は西伊豆の温泉宿で水入らずで過ごし、パーティーに備えてこの朝早くに帰京した。同じ四日の夕刻からは、これまた恒例である新日本プロレスの東京ドームでの興行が控えており、パーティー会場からそちらへ流れ、それが『四角いジャングル』社と千堂にとっても仕事始めとなる、ということでここ何年かはきていた。

正面玄関の回転ドアを抜けると、ロビーのすぐ左手に二階への螺旋階段がある。プロレス大賞授賞のパーティーは、いつも二階ホールに五百人からの招待客を集めて行われるのだ。真澄と肩を並べて階段を上がりきったところで、千堂は、客を迎えるために主催者側の十人ばかりが会場入口に横に列をなす中心に桜井の小太りの姿があるのを認めた。

ほかも大半が見知った顔で、というのも大学を出た年から千堂が八年間記者として勤めたのが『東京スポーツ』にほかならず、同社取締役にして編集局長でもある桜井康雄は、七年前に辞表を出すまで入社時からずっと彼の直属の上司だった。

列の前を一々低頭して進み、桜井のところまできて一年間の無沙汰を詫びると、

「噂は色々と聞いている。初心を貫く意味からも、構わんから今年もどんどんプロレス界を引っ掻き回してやって欲しいな。期待しておるよ」

眼鏡ごしの目に笑いを滲ませて取締役局長は言った。低迷を続けるプロレスを大手が手を染め難いゲリラ的作戦を以て活性化させよ、というふうに千堂は解した。

広い会場には奥正面にステージが設けてあり、大賞、ベストファイト賞、新人賞、特別賞と受賞者たちが次々に呼ばれて上がり賞状を押し戴いた。大賞の栄誉に輝いた小橋は、暮れのベイダーとの試合で反則技によって目を負傷しており、眼帯をしたままの登場となった。

特別賞にはアレクサンダー大塚も選ばれていて、この日のために誂えたと思われる純白の羽織袴姿でカメラのフラッシュを浴びた。マルコ・ファスを撃破した自信のなせるわざか、実に堂々とした物腰で千堂としては傷みに似たものを禁じ得なかった。

大塚はファス戦の後、両国国技館でウォリアーズにこそ完敗したものの、年の瀬も押し詰まった大阪城ホールでのUFOのリングでは、大先輩の佐山聡と対戦。佐山が得意とするノールールファイトにもかかわらず、徹底的に膝を攻めて二つ目の金星を手中にしていた。

ステージ上の大塚の天晴れな男振りに千堂が見惚れていると、ボーイからウェルカムドリンクのグラスを受け取った真澄が、それを差し伸べて寄こしながら、

「アレクのあの位置に代わって万無比人が立っていたらと、そう考えずにはいられない気持ち、わたしにもよくわかるわ」

と耳許で囁いた。

「別になにも、そういうわけじゃ」

図星を指されて少なからず慌てたが、千堂に言わせるなら贔屓目に見るなどしなくとも実力面では大塚より無比人の方が一枚上手、そう断じて間違いないものと思われ

巨匠入魂 第14回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

た。明暗を分けたものがあるとすれば、それはチャンスだ。チャンスにさえ恵まれていたら、無比人があそこにいて何の不思議があろうか……。

新日本プロレス社長の坂口征二が乾盃の発声をしたのを境に、パーティーは無礼講の様相を帯びたが、するうち真澄が再び千堂へ肩を寄せてき、

「きていてよ」

「え？ 誰が」

「愛しのム、ヒ、ト」

揶揄するかのような目色を真澄は出入口の方へ向けた。追って千堂も視線を巡らした。入ってすぐのところに固まったまま動こうとしない人群れの中に無比人、氷見子、それに徳永も見受けられた。

三人してグラスを手に話が弾んでいる様子だ。彼らの許へも招待状は届いていて当然であったが、無比人と氷見子からは出席するとは千堂は聞かされていなかった。

二人の顔を見るのはクリスマスを過ぎて行われたニュー東都プロレスと『四角いジャングル』社の合同忘年会の日以来で、真澄の会社が経営するクラブの一つを借り切ったのだったが、そこで無比人はプレーイングマネージャーとしてまずはひとこと、と千堂が水を向けるとマイクを握って起立し、

——今年第一の目標として掲げた異種格闘技戦路線に関して言えば、それなりにまあ成果を上げることはできたし、また千堂部長のアイディアで途中からデビューのダーク・ジャガー。こいつも一人二役と正体が割れた辺りからはインディーズならではのはちゃめちゃ仰天プランとかで逆に世間に好印象を与えた、そのことからすれば手応えありか。しかしながら一年間やってきて痛切に感じたのは、こんなレベルでの活動をいくら続けようが冷え込んじまったこの業界に到底風穴を空けられるものではないという、それ！ プロレス最強伝説をいま一度ファンの胸に熱く甦らせるとなれば、これはもう宿敵ヒクソン・グレイシーを倒してのける以外に手立てなし！ 総括するなら、このわかりきった事実を再認識させられた年であった、といえようか。

打倒ヒクソンこそを来年の課題とする、それなくしてニュー東都プロレスリングに生き残る道はない、と常になく真摯な面持ちで畳み込むように言い切った。そして立ったまま滑ったような、なんとも意味ありげな眼差しを千堂へ向けて寄こしたことであった。

十一月に千代田区内の公園の周回コースで、深夜のランニングをこなすヒクソンを後方から追い上げてきた無比人は、樹間から千堂が注視するその目前で一気に抜き去るや、

——ファンというわけじゃないが、あんたについちゃ色々知ってる。

と躰の向きを転じて英語で言った。アメリカ滞在が長かった割には棒読み風で、それだけによく聞き取れた。

ヒクソンは、行く手を阻まれ中断を余儀なくされながら、見事に穏やかな表情で不意の闖入者に眺め入り、

——例えば、どんな。

——戦績。四百戦無敗。

——疑っている顔だが。

——いや、信じるさ。ただ。

——ただ？

——弱い相手とばかりやってきた結果がそれなんじゃないのかと。

——きみ。この私を怒らせようというんだったら無駄だよ。

王者の風格か、皓い歯が覗けてみえた。

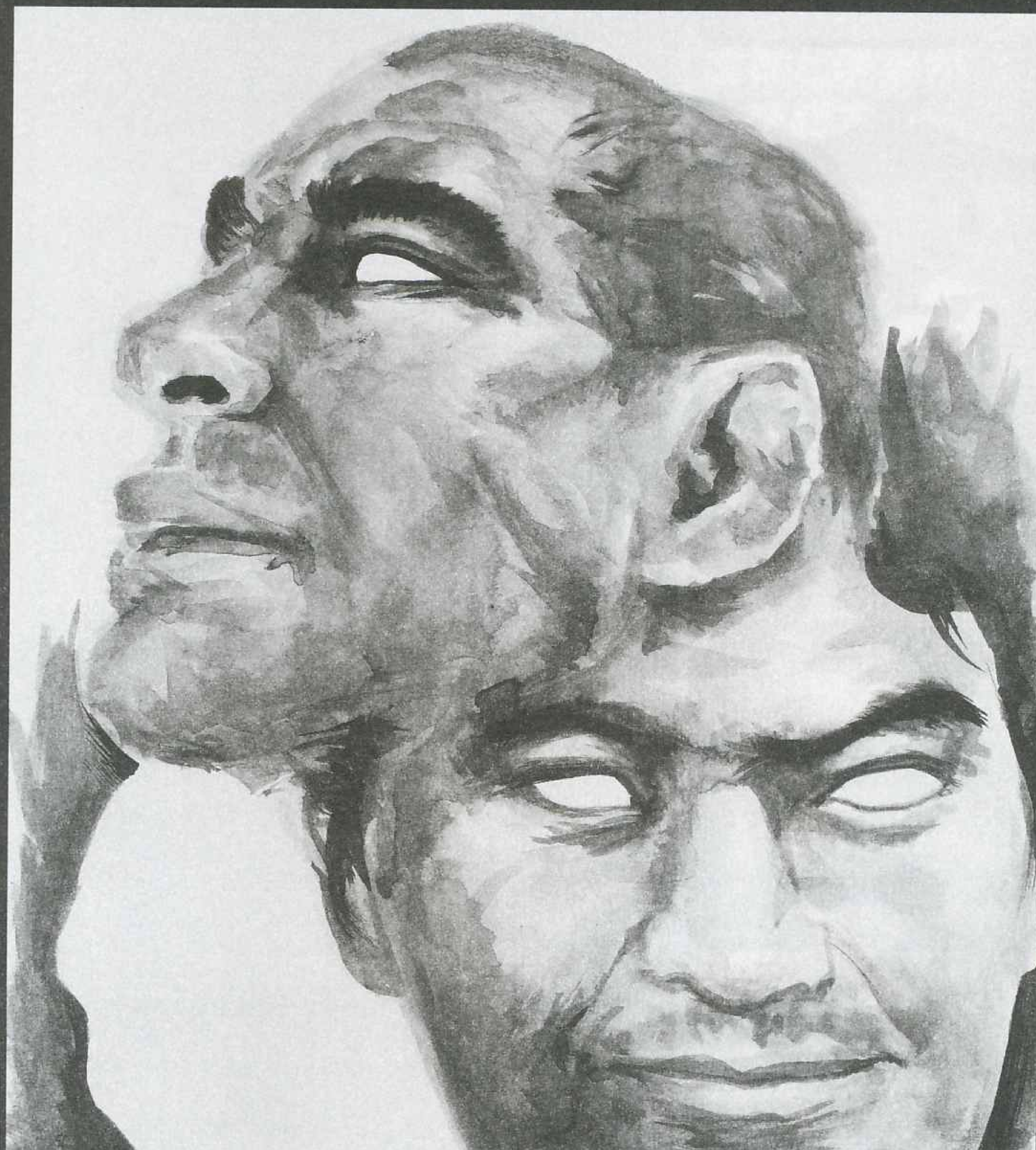
——では、ここで俺と一戦交えて四百勝が伊達じゃないってことを客観的に証明する、というのはどうだい。

——証明ね、証明することになるのかね。

——なるって。なぜなら俺は、あんたがこれまで闘ったどいつよりも強いはずだから。

——きみがどこの誰なのか、教えてもら

えると有難いが。
――名乗ってもどうせ知っちゃいまいが、レスラーだよ。ニュー東都プロレスリングの社長も兼ねる万無比人。又の名をダーク・ジャガー。
やりとりをそこまで聞き、千堂は態度を決めた。決めざるを得なかった、というべきか。
氷見子の電話を受けて八方手を尽くし、ヒクソンの滞在するホテルを突き止めるのに一時間。足を運んでマネージャーに会い、この公園名を聞き出して先着し網を張っていて二人を見出した次第だが、腕試しということで問答無用でぶつかるならともかく、素姓を明かしてしまっては勝ち負けは措くとして無比人の方に不都合な結果をもたらす、その可能性は否定できかねた。
樹間を駆け出しながら千堂は、無比人とヒクソンのストリートファイトを見てみたいとの願望が胸底に潜んでいるのを悟り知る一方、考えてみればしかし不敗の王者に名乗りもあげぬでは失礼千万というものだと、後れ馳せながら得心させられもしていた。
割って入ると無比人は露骨に不満顔を見せ、氷見子を呪う言葉を並べたてたが、結局〝ヒクソントーナメント〟への出場権を得られるよう最善を尽くす、ということで押し切った。このトーナメントはヒクソンの次の対戦者を決定するためとして、高田戦を主催した先が構想を打ち上げたばかりだが、三度目の正直の高田、パンクラスの船木誠勝などの名前が早くも参加者として噂に上り、実現すれば話題になるのは間違いないと思われた。



忘年会の席で無比人の思わせ振りな視線を受け止め、要するに対ヒクソン戦を目指して鋭意営業せよということか、と責任の重さを痛感させられた千堂だが、このグレイシー柔術の雄を乗り越えないことにはプロレス界に明日はない、とする点には深く頷けた。ニュー東都プロレスにしたところで、定期的に興行を打ち、ダーク・ジャガー人気もあって多少潤いはしたものの、来年はどうかとなると保証の限りではなかった。
不意に無比人と氷見子が踵を回した。前後して客の間を縫って行く。途中でグラスをテーブルに置いた。
反対方向からは大塚が近づいてくる。時折、顔見知りとおぼしい客に会釈したり言葉を交わしたりしながら無比人たちとの距離が狭まる。
「アレク……彼らにも挨拶する気かしら」
と真澄。氷見子が先になり、大塚の後ろへ回り込んだ。そのまま随いてまた歩き出す。
「――いや、そういうふうには」
千堂は眉を寄せた。

（33）

絹子が奥から出してきたビニールシートを、真澄も手を藉して一杯に広げた。畳三枚分ほどあり、カラフルで夏のビーチ用品らしかった。
二人で三人掛けのソファをそれですっぽり覆った。芳賀宅のリビングルーム。最初に訪った夜、絹子をこのソファに押さえ込

本格格闘プロレス小説

無比人

巨匠入魂 第14回

真樹日佐夫

んだのだった、と千堂が際に佇って想起する。その足許の絨毯には氷見子が女王さまルックを剥ぎ取られ、全裸にされて転がっていた。

後ろ手錠に足枷も嵌められ、横向きでくの字に躰を折り曲げており、縊れて締まった腰から股にかけてエアコンが入っているのに一面に鳥肌が立ち、ＳＭパブのオーナーにして看板スターの威厳は最早どこにも感じられない。

プロレス大賞のパーティーから十日が経った三連休の前日。千堂は日付が変わる頃に〈ピンヒール〉へ一人で寄り、閉店まで粘って氷見子を食事に誘った。

――本当に食事だけ、それ以外はもう御免だからね。

真澄の誕生日の夜の一件以来、氷見子は表面的にはこれといって変化は見られぬままでも千堂と二人きりになるのを避けている様子で、警戒心を露わにした。だったら食事も断ればいいものを、そこまでしかねるのは無比人に対して秘密をつくってしまった、それが引け目としてあるせいか。彼女が口を噤んだままでいることは、その後の二人を見てきてなんとなくわかった。

――要らん気を回しなさんな。中目黒の方に予約客を常にひと組しか受けない、隠れ家風の洒落たレストランを見つけたんだ。そこで夜食を摂りながら、万の今後の売り方について検討しようというだけだから。

と言いくるめて絹子のペントハウスへ氷見子を甘々連れ込み、千堂と待機させていた真澄も加わって、かくのごとき光景が現出するに至ったのである。

「なんだ、恨みに濡れたその顔は！」

自身を鼓舞するほどのつもりで、千堂は氷見子の頬にスリッパの足を乗せた。出前プレーに随喜の涙を流したのも過ぎてみれば悪夢でしかなく、いうなればこれは真澄を相手に繰り返してきた一連の行為の延長線上にある、それだけのことではないか。そう思うとＳの女王を、いまはっきりと対象化できた気がした。

氷見子は、情けなさの余りか細い肩を小刻みに震わせて、

「食事だけじゃなくて、無比人の売り方を検討すると言った、それも嘘……」

「検討な、そっちは半分本当さ」

千堂が足を戻すと、待っていたように女二人で氷見子を持ち上げ、水平にしたままソファのシートの上へ移した。

「万にだね、あのパーティーのときのような真似を二度とされては、こちらがいくら営業努力しても総て水の泡だ。勝手な言動は厳に慎むよう、マネージャーの立場から強く言い渡すとともに、監視に怠りなきよう――売り方云々よりなにより、まずはこれが骨子」

パーティー会場で氷見子に退路を断たせておいて無比人が正面から大塚へ接近するさまに、喧嘩を売る気だ！　ぴんときてすぐさま千堂が駆け寄らなかったらどうなっていたことか。ゆめ油断はならなかった。

「わかって？　完全に営業部長の軍門に下り、手足となって働けってことを言ってるのよ！」

真澄が氷見子を俯せにすると腰に跨がり、片手で髪を鷲掴みにして頤を上げさせ、もう一方の手指二本を用いて鼻フックを噛ませた。Ｓとかなんとかというより、女特有の残酷さが後押ししている、と千堂には思えた。

豚面と化した氷見子の目の先へ、絹子が無色の液体の入った広口壜を突き出した。凄いような笑みを湛えて、

「何だかわかるでしょう。そう、グリセリン。これで浣腸してもらい、おまえの総てを曝け出して今夜こそ御主人さまに絶対服従を誓うの！」

「ひえーっ」

それだけは、と笛のような悲鳴を氷見子は迸らせた。

〈以下次号〉





ハガキ道場

「この会社、腐ってる!(by 蝶野)」かどうかは知りませんが、新年早々おもしろい状況が各地で勃発してますね。世の中が乱れ、混乱したときこそ『紙プロ』の出番! さあ、'99年一発目の『紙プロ』はいかがでしたか? えっ? 橋本が出ていないのはおかしい? 何で新日&全日が載ってないんだって? わかりました、わかりました、わかりましたよ。今年は誌面もどんどん変えちゃうぞ、バカヤロー!!

代表=SAKAI NOBU



(愛知県 キャプテン名倉 ♂29歳) あわせて10点
これを『K通』にも必ず送るように!

おたよりさせてよ

明けまして、おめでとうございます。新春といえば、『初荷』の旗を立てた★★車が目立つ時期ですが、皆様方におかれましては、平成11年もますますご健勝のことと思われます。さて、プロレス界では、今年も「乞食のちょっと上」、「乞食のかなり上」、そして「乞食のはるか上空のUFO」等々いろんな人がいろいろやると思いますが何と言っても前田vsカレリン、そして高田の動向等、『紙プロ』レギュラー選手が大爆発の予感です。まあ、何でもいいや、人生成り行き。(©談志)

(熊本県 塩本祐介 ♂33歳) 5点

★フライングソーサー・アタック! UFOvs新日を筆頭に各団体でシャレにならないトラブルが続々と巻き起こる今年。いやあ、最高! みちのく、ネオvs全女、全日、ついでに週刊『ゴング』の金沢新編集長誕生&大仁田との抗争劇……世紀末というよりも、シュート元年といった趣の1年になりそうです。というわけで、素敵な常連さんのろくでもない年賀状から今年はスタートします。

80キロへバク進中のNOBUさん、あなたはまだ甘い。ボクなんかとっくの昔に0.1トンを超え、ますますバク進中。おかげで自慢の〝かわいいマサTシャツ〟(Lサイズ)が〝獄門鬼マサTシャツ〟へと変化を遂げた。まあ、気にせずガンバって下さい。

(富山県 森と詩を愛する男2号 ♂22歳) 4点

★デブの奥深さを思い知らされたハガキです。いっそのこと、取り返しのつかないデブになってしまえたら、「痩せよう」なんて思わなくてすむのに。まあ、正月から餅、雑煮、栗きんとん、ラーメン、カレーなど、カバみたいに食べてりゃ痩せないよ。でも、長州は今頃ステーキを食ってるんだろう? だがな、俺は『ココイチ』のカレーが好きなんじゃ! (大仁田調)

『紙プロ』で塚本徳臣と数見肇の対決をアオるTシャツをつくってくれ。

(静岡県 伊村勇希 ♂21歳) 4点

★今年の個人的な目標としては、いろんなものあおりたいです。「バッテンの団体vsマルの団体」とか、「中原奈々復帰祈願Tシャツ」とか、「新日のイラストTシャツをなんとかしろTシャツ」とかね。『紙プロ』でつくって欲しいTシャツがあったら、リクエストをガンガン送れ!

ふと思ったのですが、『紙プロ』って読むのに体力がいりますね。レスラーの生の声をバンプするのは、素人にはキツイです。だから、毎号読むのに一週間はかかるし、昔のを読み返しても、新しい発見をしますしね。(なんか褒めてばっかだな。なんかけなそう! ←ダセえ)。失礼。 愛がないんだよ、愛が!

(東京都 佐藤耳男 ♂20歳) 3点

★そんなこと言うなら、雑誌を返して欲しいぐらいです。

友達に勧められて『紙プロ』歴3冊の私ですが、非常に面白いと思います。好きでつくっているという感じがいい。これから格闘技を勉強するにあたり、『紙プロ』を教科書にしたいと思います。

(千葉県 早川美穂 ♀18歳) 2点

★格闘技の教科書にするのは、なんか違うぞ。生真面目な格闘技側の立場からすると悪書みたいな雑誌だからね。そんなことないのにね。まあ、エロ本でも何でも、悪書の方が面白いんだけどね。

VTJ'98で「いつから金網デスマッチをやるようになったんだよ~」って野次を飛ばしてしまったのは自分です。おハズカシー、頭に血が上ってた。

(東京都 楢木健介 ♂21歳) 5点

★前号の「ザ・検証」でも話題になったナイスな野次の主から。でかした!! 格闘技にDJブースはいらないよな。ちなみに「オシャレ有名人」というじつに羨ましい肩書きを持つ本誌・吉田豪は、去年末の加藤賢宗氏のイベントでプロレスDJプレイを披露、それがWOWOWで放映されるという快挙を成し遂げました。ボクも「オシャレ有名人」になろうと決心した瞬間です。

みなさん大事なこと忘れてませんか? 「プロレス」でプロレスするのではなく、「世の中」とプロレスする雑誌じゃなかったんですか? 世論、世間とは何でしょう? それにしても全女の中原を早く探してきてください。

(宮城県 三浦隆弘 ♂19歳) 3点

★知らない人のために説明しておくと、版型も、部数も半分ぐらいだった頃の『紙プロ』は毎号、「世の中とプロレスする雑誌」というキャッチフレーズのもと「色気」「狂気」「神秘」などテーマを設けて、ストリッパーやプロ・ボディーガードやユセフ・トルコが登場しつつ縦横無尽にプロレスを語り尽くすアナーキーな誌面をつくって、熱狂的な読者をつくりだす一方で、メジャー団体と言われてるところからは嫌われるという神をも恐れぬ雑誌を発行していました(現在は気が向くまで休刊中)。バックナンバーのお知らせは次のページにあるんで、そちらで申し込んで下さい。

格闘技系を無視するマスコミもある中で、『紙プロ』の姿勢には共感しています。昔からのプロレスファンとしては、「プロレスこそ最強」これが心の拠り所なのです。総合格闘技系の試合に打って出たり、格闘技系の選手をプロレスマットに引っぱり出したり、積極的になってほしい。

(鹿児島県 鮎川祐二 ♂31歳) 2点

★いい加減、銭湯でオチンチンを隠すのはやめようじゃねえかってことですね。見せりゃいいってもんでもないけど、プロレスラーだってすごい大砲持ってる人いるわけだし。よくわかんねえ例えだけど、そういうことです。

どうかこれ以上、前田さんをいじめないで~。「結婚しろ」「ヤセろ」「結婚しないんですか?」「結婚した方がいいのに」って前田さんだって「結婚」の前じゃ、ただの中年男子なんだぜ! もう少しいたわってやれよ。それがファンのつとめってやつじゃねえのか? リングスネットワークはまだまだ不完全だ。前田さん(うさちゃん)は忙しい。結婚したくても、出来ない事情はテンコもりだ。俺ァもう前田さんがかわいそうでしかたない。ガンバレ前田日明、そして貴方は最強だ!!

(大阪府 久保勇人 ♂22歳) 2点

★日明兄さんは、果たしてどんな身体で横浜アリーナに現れるのか? それだけでも十二分に見に行く価値はある!

うちの母親は昔、太田章にナンパされたそうです。

(神奈川県 吉備津紘 ♂20歳) 5点

★いくらアマチュアとはいえども、さすが銀メダリストにもなると、こんなタレ込み情報まで入ってくるんだね。パワフルで素晴らしい話じゃないですか。どんな口説き方したのか、詳しく書いていますぐ送れ!

前田日明氏の『パワー・オブ・ドリーム』を読み、リングスに興味を持ちました。ちょっと(かなり)遅かったけど引退に間にあって本当によかった。2月21日楽しみです。

(大阪市 徳永美奈 ♀23歳) 1点

★いや、ホントよかった。

『PRIDE.4』松井選手の健闘により、松井(さわやかなスポーツマン・ベビーフェイス)と菊田(ビッグマウス・ヒール)という図式が出来上がってしまった。すごくプロレス的な展開だと思う。こうなった元は『紙プロ』にあるわけだから、両者が落とし前をつけるためにも『紙プロ』主催でワンマッチ興行をやるべきだ。松井vs菊田で時間無制限1本勝

【ルール】私SAKAI NOBUが道場主を務める投稿コーナー『ハガキ道場』では、世界に通用するハガキファイターを育てるべく、みなさんに頑張って頂きます。当然、ハガキファイターもランク分けします。毎号、面白いハガキを書いてきた人に段位をさしあげます。採用されたハガキには、面白さに合わせて1~5点差し上げます。どんどんポイントを取って段位を上げましょう。 ▽20点未満=キッズ・ファイター ▽20点以上40点未満=シニア・ファイター ▽40点以上=プロフェッショナル・ファイターとなります。それぞれ採用されると ◇キッズ・ファイターにはそこそこいい粗品 ◇シニア・ファイターにはけっこういい粗品 ◇プロフェッショナル・ファイターには超豪華粗品を進呈します。

ハガキ道場

負でお互いのプライドがルール、ノーレフェリーだが立会人は高田延彦とリッキー・フジ。入場料は2000円でやれば満員になると思う。会場は北沢タウンホール。もちろん菊田はノーギャラで。

（埼玉県　T.N　♂21歳）5点

★というか、菊田ガンバレ！　ボクらはみんなキミを応援してる……してた！　したい！　ちなみに今年の抱負は「暴言は控えめに」だそうです。もっと暴言吐いておくれ!!

『紙プロ』は、新参者のボクにとってはレベルが高すぎて理解できないところがあります。

（香川県　國方知巳　♂22歳）4点

★黙って『紙プロ』についてこい！　理屈は後からついてくる!!

オレは格闘技ファンだけどECWもバトラーツも好きだぜ。WWF見てえ！　ルチャのハイブリッドボディ系も好きだな。近藤TK隆夫を格闘技ファン代表にしてほしくない。

（静岡県　伊村勇希　♂21歳）2点

★マスコミ界のTKといえば近藤隆夫、ー編集長といえば井上義啓編集長、ではGKといえば？……正解は『ゴング』の『金沢』、略してGK！　ノー問題！

なんとかまたパンクラス、特に船木選手のインタビューを載せていただけないでしょうか？　『紙のプロレスRADICAL 第3号』のインタビューなど最高に面白かったし、あれを引き出せるのは『紙プロ』以外にありません。

（岐阜県　清水宗元　♂28歳）4点

そういうことはヤスカクに頼みなさい!!



（愛知県　キャプテン名倉　♂29歳）5点
文字に注目！　愛と哀しみの彼方に前田の引退試合がある！

前号の感想

『紙プロ』スタッフの座談会「マット界へ愛をこめて」は自分の心の中でモヤモヤしている気持ちをスッキリさせてくれるので好きです。

（東京都　高島有治　♂28歳）1点

★今号の座談会はどう？　感想をガンガン送ってください。

編集部座談会「マット界へ愛をこめて」は、これぞ『紙プロ』!!　まさに「金的！　金的！　金的！」な企画。毎日やれ、毎日！

（静岡県　横田賢　♂30歳）2点

★別に他人のチンチンを触りたくてやってるわけじゃないからね。金的殴られる方が悪いんだよ。

「谷津嘉章のマット界目ぇつぶって30秒」には、夢がある。

（富山県　坂本正仁　♂29歳）4点

★ということは、さしずめ谷津は慧舟會・宇野よりも星の王子様だね。夢に飢えた人は必読。というか、プロレスファン必読。

98年ラストの『紙プロ』はヒジョーに楽しみにしていたのにあーんまり楽しいこと全然ナジ。ガックシ。ジャイ子にも飽きてきたし、11月23日のバトラーツ両国大会はTAKAみちのくも、SASUKE vs ボブ・バックランドがベストバウトゆうてるのに、扱いは見えへんぐらいプチやし、青空プロレス道場REPORTも、せめてもっと内容に触れてくれよ。もっとおもしろかったんちゃうんか？　はぁー、なんだかなぁー。

（大阪府　大西千穂　♀21歳）5点

★だったら来いよ、青空プロレス道場に。ただでさえ女の子の受講者が少ないし、ほぼ毎回やってる二次会も野郎ばっかりだから、女の子いらっしゃい！

「DDT特集」を読んで大作&勇作のファイトを見てみたくなった。そういえば実家近くのそば屋「大作」はさかっていません。念のため。

（東京都　桝沢洋昭　♂27歳）3点

★『日刊スポーツ』にも取り上げられた双子の兄弟タッグだね。「小島みたい」（チョロ談）だけあって、実力は未知数だが木村浩一郎も太鼓判を押してるそうです。インディー番長・チョロは、DDT情報にはうるさいんできっとホントでしょう。普段はウソばっかりついてるんだけどね。

「PRIDE.0」は読む気にもなれない。

（福島県　森拓介　♂32歳）4点

★読んでから文句言え、このすっとこどっこい！　下手なプロのライターより全然面白いんだから。シュート元年だから、名前よりも実力で判断だね。

「S多重トンパチ　折原昌夫」は最高！　三ヶ田トレーナー is the SWS!!　いまからでも遅くない三ヶ田プロレスを起こせという気になった。

（岡山県　江藤貴裕　♂27歳）4点

「S多重トンパチ　折原昌夫」はとにかく面白かったです。SWSの奥深さを思い知らされました。安良岡の話は新鮮で良かった！

（千葉県　神子佳世　♀16歳）5点

★S～多重アリバイ～二連発でした。高校一年生！　ビバ、女子高生！　でも、ヤスの話ってソープ行って……って内容なのに。最近の女子高生ってば、最高！



「佐野友飛インタビュー」が面白かった。パンクラスのリングをもっと暗く出来るのは彼しかいないと思ったので。パンクラスの息の根を止めて欲しい。

（東京都　高橋由美子　♀30歳）4点

★止めるというよりも、いかに佐野の人工呼吸で息を吹き返すか興味あるよね。佐野が鈴木に人工呼吸……こわいっ!!

「小路晃インタビュー」では、よく誠軍団のことを聞いてくれました！　しかし、宇野君にしても、格闘家が「プロレス好き」と知るとすごく嬉しくて好感持てます。なぜだろう？

（茨城県　海老原徹矢　♂24歳）5点

★いまの二十代の格闘家は、みんなプロレス見てから格闘技を始めた人たちばっかりでしょ？　当然っちゃー当然なんだけど、当然のことをひた隠しにする格闘技マスコミのいけない傾向が鼻につくんだよね。

「池田美憂 vs 山本聖子 vs 父」の父！　父がヴォルク・ハンに似ているため面白い。

（栃木県　伊藤正規　♂26歳）4点

★他、同様のハガキが多数来ています。あまりにもショッキングだったようです。美女と野獣って感じ（失礼！）が微笑ましい素敵な親子でした。

「闘いの美術館」はここ数回、あのイカレ社長とは信じられないぐらい感動します。

（香川県　黒岩裕樹　♂23歳）5点

★そんなイカレ社長の名言シリーズその1「ルミナが（藤原）紀香なら、オレはジャイ子だ！」。ジャイ子情報は次のページに満載です。

じつは自由にならんところにしばらくいたんで『紙プロ』久々。久々に見た『紙プロ』で「武田いづみちゃんプレイバック」の全5戦を載せてくれるなんて、なかなかやるやん。バックナンバー買いたくないし、初めてええことしたんちゃう？

（大阪府　アナルはアヌス　♂21歳）5点

★自由にならないって、塀の中？　ステキ！　ところでいづみちゃんは目下受験中です。というわけで、全国の受験生を応援する雑誌『紙プロ』をどうぞ！　しかし、この雑誌に関わってる人間の中で、大卒はジャイ子と中村カタブツ君（もうすぐ36歳）だけ、という末期的な状態です。低学歴バンザイ！　みんなガンバレ!!



（東京都　笹原靖　♂20歳）　5点
修斗君の名シーンを再現する、バツグンのセンスです。ガンバッテー！



（大阪府　英加直純　♂28歳）5点
素敵なドロドロ具合です。ハガキが糸引いてますよ、いやホントに。



（愛知県　真下純子　♀29歳）
5点
PRIDE.0でおなじみの真下純子さんのイラストもイケるクチだね。



（石川県　ブルドッグ♂）2点
中二のとき、こんな絵を描いて美術の先生に怒られた記憶はあります。



（北海道　偽カタブツ　♂）　2点
カタブツのことしか書いてこない偏執的カタブツマニアの同氏。我が道をいっています。

（岡山県　江藤貴裕　♂27歳）
3点





（熊本県　塩本祐介　♂33歳）
4点
巨匠のイラストです。ダジャレ交じりのイラスト攻



（埼玉県　中川雅博　♂21歳）
5点
文句なし！　ジャイ子のショッキングな顔面を忠実に表現しき



（埼玉県　中村直司　♂23歳）5点
かなり長い間、カタブツ君の絵だと思ってました。実際はホークらしいです。

あなたがマッチメーカー!! 第1回リングス編

マッチメークを考えることはプロレスファンの喜びである!

夢のカードというツマミがあれば、ごはんが何杯でも食べられるというのが、一端のプロレスファンというもの。そこから一歩踏み出して、興行全体のマッチメークを組んでもらおうというのがこの新企画。名付けて『あなたがマッチメーカー!!』ちゅうわけでよろしくなっ!（アポロ口調）

（参考例・右…中川雅博画伯の考えたマッチメーク）（参考例・左…チョロの考えたマッチメーク）

空を見上げたマッチメーク

第1試合
滑川康仁vs渡部謙吾vs豊永稔
ラグビー出身者による3WAY DANCE団体対抗戦。

第2試合
坂田亘 vs ニーハオ
上海出身レスラーの強さはいかほどか?

第3試合
成瀬昌由 vs スーパー宇宙パワー
7年ぶりの再戦。見たい!

第4試合
グロム・ザザ vs 谷津嘉章
苦みばしったアマレス対決。なっ!



第5試合
ビターゼ・タリエル vs トム・エリクソン
リングスマット版、ハンセンVSベイダーが見たい。

第6試合
田村潔司 vs 郷野聡寛
好勝負間違いなし。

第7試合
金原弘光 vs 桜庭和志
名勝負再び! もちろんキングダムルールで。

RINGS対UFO全面対抗戦 ※もちろん豪華セコンド付き

第8試合
ディック・フライ vs ドン・フライ
理由はあえて言いません。



セミファイナル 第9試合
山本宜久 vs 小川直也
大型日本人同士のシバキ合い! 勝者はどっちだ!

メインイベント 第10試合
高阪剛 vs パン・ソン
日本が世界に誇るゴリラーマンと、アントンが中国から発掘してきた「馬場の顔に猪木のアゴ」を持つ北京原人とのドリームマッチ。

地に足をつけたマッチメーク

第1試合
滑川康仁 vs シオン・ラトゥー
ラグビー出身の本物の超新星vsトンガ出身のアメリカのタコ。

第2試合
ヴァレンタイン・オーフレイム vs クリストファー・ヘニズマン
二人とも打撃が得意で寝技に研究熱心で交換が持てます。

第3試合
アンドレィ・コピュロフ vs ディミータ・ペトコフ
アイドル対決。どっちも頑張れ!

第4試合
山本宜久 vs ギルバート・アイブル
シバキ合い、二人とも気が強そう。

第5試合
山本健一 vs アレクサンダー大塚
21世紀のプロレス界を担う二人、スキンヘッド対決。



第6試合
成瀬昌由 vs 坂田亘
中量級のベルトを賭けて、どっちが強いか決めたらええんや。



第7試合
ヴォルク・ハン vs ニコライ・ズーエフ
ズーエフ選手が元気なうちに何回でもやって欲しいです。

第8試合
高阪剛 vs 金原弘光
金原選手の連勝をストップさせて欲しい。

セミファイナル 第9試合
田村潔司 vs アレクサンドル・ヒュードロフ
ヒュードロフ選手のリングス・ルールでの試合が観たい!

メインイベント 第10試合
ビターゼ・タリエル vs ベイダー
大型外国人同士のシバキ合い。面白そう。

マッチメーク大募集! というわけで今回あなたにマッチメークして欲しい団体は、ずばりリングス。リングスといえば、世界各国にネットワークを張り巡らせているので選手は実に豊富。その中から選びに選び抜いて、あなたが望む、地に足をつけたマッチメーク、もしくは空を見上げたマッチメークを作成して下さい。その際、各試合の見どころを一言、二言忘れずにな。マッチメーカーだからって闇雲に夢のカードを連発するだけじゃ小僧っ子だな。キャパシティー、ギャランティー、全体的バランス等々よ〜く考えカード発表をしてくれっちゅうことだな。「これ使えるやん!」と日明兄さんを唸らせるようなマッチメークを考えてくれた方には、もれなく泣く子も黙るリングス特製グッズをプレゼントいたします。断言します! 世界最強のマッチメークはリングスで決めろ! （応募要項はP144読プレページ参照）

イラスト＝中川画伯

サロン・ド・口ゲンカ

La salon de «Coutchi-guênqu'A...»

前号で話題を振りまいたハガキの差出人から、謝罪のハガキが届きました。別に責めてるんじゃなくて、「喧嘩しましょう」っていうコーナーなんだから謝らなくていいです。パソ通でさえ、あんまりヒドイものは削除される「誹謗中傷」を目的とするコーナーなんだから、遠慮すっこたあねえって! まずはこのコーナーで苦情、文句、いちゃもん、言いがかり、いつ、何時、誰の挑戦でも受けるんだから、細かいこと気にする必要は全くなし! 振り上げた拳は、ここに降ろせ! また、そのハガキには「連絡なしに無断で名前や文章を載せるようなことは二度としないでください」、との旨がかいてありましたが、特に「載せるな!」というリクエストがなければ載せますよ、面白いのが大前提ですが。載せるのが当たり前です! ハガキ書く前から載らないこと考えるヤツがいるかよ!? バシ〜ン!!

14号のハガキ道場でオレの名前が間違ってるじゃねーか。オレの字が汚くて間違えたのか? 伊村だ、伊村!

（静岡県 伊村勇希 ♂ 21歳）4点

★キミは字が汚い! 圧倒的に汚い! 誰が何と言おうと汚い! 間違えられたくなかったら、いかしたペンネームのひとつでも使ってみたらどうだい?

自分が「いつ、何時、誰の挑戦でも受けて立ちます」と言っておきながら、あんなリアクション（前号参照）するなんて、ノブはひでぇヤツだ。でも、まあまあ面白かったし、過去の読プレ送ってくれるそうだから許してあげます。ノブの言うとおり、人のアゲ足ばっかり取って、チンカスたまりまくっているようなので、きれいに洗って今年もガンバリマス!

（茨城県 武富浩二 ♂ 26歳）5点

★わかってくれたかい? というわけで、罰として書き取りノートに「花」という字をノートが花園になるまで書き続けてみることをおすすめする。

初めてお便りします。今回、初めて『紙プロ』を買いました。『ゴング』や『週プロ』は何度か買ったことがありましたが、じつは私はこの4〜5年あちこち旅行で出歩いていたので『紙プロ』を読んだり目にすることはなかったのです。読んでの感想ですが、ジャイ子ªなる女性をブスだのデカ女だの好き放題言ってるのが我慢できません。そんなふうに言われたら傷つくヨ!! 私も171cmで「大きいなァ〜」とときどき言われるけど、そんなことを言うのは日本人だけ! 自分に自信のない男に限って、女を外見だけで評価しようとするんだよネ。あんた達は最低だネ。112ページのアップ写真なんて可愛いじゃん。あと、インタビュー等を見ていると、お気に入りの選手たちだけをヒイキしてるって感じで、そういうのは良くないよ。でも、RADICAL観戦記はとっても面白い! もっともっと裏話を聞かせてね!

（神奈川県 浅井美花 ♀ 33歳）5点

★『紙プロ』を初めて読んだ感想が「ジャイ子は可愛いじゃん」というのなら、ボクは何も言いません! きっと、そうなのでしょう。だけどね、俺たちは編集者だよ、芸人だよ!! プライベートなんかねえんだよ!! ハッキリ言っちゃえば、仕事が半人前なら芸とキャラクターを磨けってことだ。俺はデブ、チョロは痴漢、カタブツはエロジジイ、吉田豪はオシャレ有名人、山口日昇もエロジジイ……じゃなかった、犬殺しなんだよ。みんないろんなもん背負ってるんだよ! たまたまジャイ子はブスでデカい星の下に生まれてしまっただけだ! ブスという語弊があるならショッキングな顔でどうだい!? デカいことと顔がショッキングなのは、インパクトがあって第一印象が非常によろしい。それを悪口と捉えるかどうかは本人の自覚次第!

デカ日誌 RADICAL

××××××××

ジャイ子について考えることは喜びである

日本人に生まれたならば、日本語を使うことに戸惑いを覚えるということはまずない。もちろんジャイ子も日本語を使うことにはまったく戸惑ってはいない。戸惑うのは受手であるこちらの方なのだ。

去年の年末、本誌ライターの吉田豪（男）が年賀状を書いているのを目撃したジャイ子は突如「吉田さんはお母さん」と発言。思考を一瞬にして止められてしまうのだ。何を言ってるんだ、こいつは？　だが、説明不足なんだろう。理由を聞いてみると「うちで年賀状を書くのはお母さんだから。だから、吉田さんはお母さん」とのことだが、ますます意味がわからない。〝だから〟のあとには、前の言葉を裏付ける理由がくるのが日本語として正しい構文であるが、その理由が提示されないどころか余計に頭が混乱するばかり。

ジャイ子にはどう見えるのか知らないが、吉田豪は間違いなく男である。なぜ、それがお母さんなのか？　「年賀状を書くのがお母さん」というところまではわかるが、「だから吉田さんはお母さん」だと決め付けるのは常軌を逸している。例えば毎朝ゴミ出しをするのがお母さんの仕事だったとしよう。では会社でゴミ出しを担当するチョロはジャイ子のお母さんなのか？　ジャイ子にとっての〝お母さん〟って一体何なんだ？　かつてターザン山本は「言葉は定義してから使え」と言っていたが、まさか〝お母さん〟という言葉まで定義してあげないとジャイ子とは会話が成立しないわけだ。ここで改めて定義しよう。お母さんとはまずは女性である。

ところが、間違った方向で自分を正当化しようとするジャイ子は「だからちょっと間違えただけじゃないのォー！　私が言いたかったのは吉田さんは年賀状でお母さん！」とまたもや、わけのわからないことを言い出す始末。もはや、日本語ですらない。ただ、単語を並べただけ。単語カードを並べる幼児用の言葉練習機を脳内に持ち、それのみを使って話すジャイ子に一般的な会話を成立することはもはや不可能。それでも一歩踏み出す編集部では「ジャイ子はお母さんにしたくなるぐらいに吉田さんのことが好きなの？」と暗黒大陸ジャイ子の脳内に踏み入るわけだ。しかしジャイ子は「吉田さんは嫌い。私のプライベートの話を言いふらすから。お母さんは佐久間とかトメ兄さんがお母さん」。佐久間とはジャイ子が好きだと主張するキックボクサー・佐久間晋也選手のことであり、トメ兄さんとは編集部と付き合いがあるデザイナー。もちろん二人とも男である。ジャイ子には人の言ってることが理解できないのか？　男女の区別すらできないジャイ子にピッタリの言葉を言わせてもらうならば、それは〝知恵お●れ〟。ちなみにジャイ子はこの言葉にも強く反発し、「ムォー！　そうじゃないモーン！　〝知恵進み〟だモン」と反論。やれやれだ。ジャイ子の日本語は、知恵進みは別としてパーツ（単語）としてはまったく正しい。だが、組み合わせが悪いのだ。それは彼女の顔も同様。ジャイ子の顔は言いたくはないがフリップフラップに似ている。輪郭、目、口はそっくりだろう。だが、バランスが狂っているのだ。もしも美の女神というものが存在するなら、ジャイ子は確実に美の女神による造形物だ。ただし、酔っ払っていて手先が狂ってしまったということだ。言葉も顔も微妙にズレたバランスの崩れた福笑い。それがジャイ子だ。

コミュニケーションはまったくとれないジャイ子であるが、いまご紹介した通り、話しててこんなに楽しい生きものもいないこともまた事実。その発言を分析しながら、何が飛び出すかわからないジャイ子の壊れた四次元ポケットのような脳内を探っていくのは歓喜に満ちた作業なのだ。そんな中で、ジャイ子に対する一つの疑問が編集部内でささやかれるようになってきたのは昨年の8月ぐらいだっただろうか。その疑問とは〝ジャイ子はレズなんじゃないか？〟というものだ。理由としては彼女の好きなレスラーが26歳の現在でもダイナマイト関西ということと、好きな女子と嫌いな女子に対する態度が極端に違うことがあげられる。ジャイ子の好きな女子は元紙プロ編集者の大塚のものも真紀子先輩と紙プロ経理の一枝さん。この二人にはノドをならすように甘えるジャイ子だが、下品な女と日頃から罵倒する紙プロ入社希望のエミちゃんには露骨な完全無視を展開中なのである。従順と無視。この構造は女子高にありがちな冷たいグループ争いに酷似している。そしてもう一つ女子高にありがちなのが素敵な先輩に対する憧れである。女子高卒のジャイ子は26歳の現在に至るまで、この女子高気質を持ち続けており、好きなレスラーはダイナマイト関西という女子。レズ疑惑を必死に否定するジャイ子であるが、彼女の行動と発言を見るにつけ、潜在的レズであるのは間違いないと編集部内では断定していたわけだ。だが、ここでそれは間違いであったことに気付かされた。男女の区別もつかないジャイ子にレズもなにもないわけである。ジャイ子の前ではバイセクシャルという概念すら狭いのであろう。性別を超越した巨大なる生きもの、それがジャイ子なのである。

●話は変わるが、ジャイ子は花束が大嫌いである。理由は明快で「邪魔くさい」。送別会やら誕生日に花束を貰っても「駅とかに捨ててくるもん」だそうだ。さすがは性別を超えた生きもの。そんな人でなしなことは男でもしない。たとえ「邪魔くさ」くても、くれた人に悪いと思って家まで持って帰るのが普通だと思うがどうだろう？　だがジャイ子は「みんな捨ててるよ。気付いてないだけ」と、まるで〝あんたたちはバカね、女の本性がわかってない〟と言わんばかりの勢い。その仕舞いには「男は何もわかってない。セックスでイク女なんていない！　あれはみんなフリだもん！」とイッたことのない自分を無闇に肯定する暴言まで吐き出す始末。たぶんジャイ子は自分が女であるという意識だけはあるようで、女の私がそうなのだから女はみんな〝花束を駅に捨ててるし、イカない〟という理屈らしい。さすがはビーナスの手による奇形児！　自らの意識＝全女性の意識であると自負しているわけだ。ジャイアント・ボディーにはジャイアント・ハートが宿る。これを読んだ女性読者はこれからは花束を駅に捨てるべきである。なぜなら、ジャイ子がそう言っているからだ。性別を超えた存在、つまりは神の子（ビーナスの失敗作）の言葉であるからだ。



青空プロレス道場の打ち上げでアポロ菅原選手とデュエットするちょっとおすましな今年は既に姫初め済まし（妄想）のジャイ子

●極端に巨大で極端に幼稚な生きものジャイ子は大学の家政学部出身だけに服装にはかなりうるさいオシャレさん。ところがある日、オシャレさんとはとうてい思えない、アメ車がドーンとプリントされたTシャツを着て会社にやってきたのだ。服飾デザイナー志望だった女子の服装とはとても思えないそのセンスなのだが、ジャイ子は自信満々。「今日は車の免許のペーパーテストがあったから買ったの。600円。うふふふふ」。文句なしだ。TPOを考えたその服選び、その買い物上手っぷり。だが、一つだけアドバイスさせていただくなら、バカに見えるからやめろ！　ということだ。

●言葉に詰まるとリップクリームを塗り始めて誤魔化す案外姑息なことをするジャイ子。「ジャイ子はお●んこにもリップを塗るの？」と僕的にはたわいないセクハラ質問をすると、やはりジャイ子である。常人では思いもつかない返事が返ってくる。それは何かと言えば「下は乾かないもん！」である。つまり乾く間がないわけだ。想像したくはないが、ジャイ子はいつもヌレヌレのご様子。みちのくプロレスのレフェリー、テッド・タナベに「アタシってフェロモンだしまくりだモン」と言い放った言葉をきっちり裏付けたわけだ。ちなみにテッドはジャイ子のその言葉を聞いて思わず殴ってしまったとのこと。

正当防衛である。

だいたい読者の皆さんは勘違いもはなはだしい。「ジャイ子をいじめるな」だとか「セクハラするのは社会人として失格」だとかわけもわからず非難してくるが、それはまったくの筋違い。例えば悪い方の鈴木健ちゃんと高校時代からの友達であるジャイ子に「そういえばジャイ子は昔から鈴木さんとつながりがあったんだよね」と仕事として普通に質問しただけなのに突然、ジャイ子は薄笑いを始めてテレるのだ。僕の質問の仕方が悪かったならばいくらでも反省しよう。だが、〝つながり〟という言葉からファックを連想して照れまくるジャイ子もどうかと思う。しかも、元旦に姫初めをすましてきたという妄想を僕らに聞かせる姿勢も問題だろう。これは逆セクハラではないのか？　実は被害者は僕らなのだ。いじめられ、手ひどいセクハラを受けているのは編集部の方なのである。

だが、それも仕方のない話。男女の区別もつかず、幼稚だが知恵進みの、下は乾かない巨大な生きものジャイ子の発言・行動に罪などあろうはずがないのだ。

世紀末に降り立った片翼だけの天使に乾杯！

（プチ）

ドスコイ ハガキ道場番付表

1位	中川雅博	77点P
2位	塩本祐介	52点P
3位	つらいんだ	41点P
4位	キャプテン名倉	24点S
5位	今井麻美	20点
6位	うしえもん	18点
7位	佐藤耳夫	12点
7位	武富浩二	12点
9位	英加直純	10点

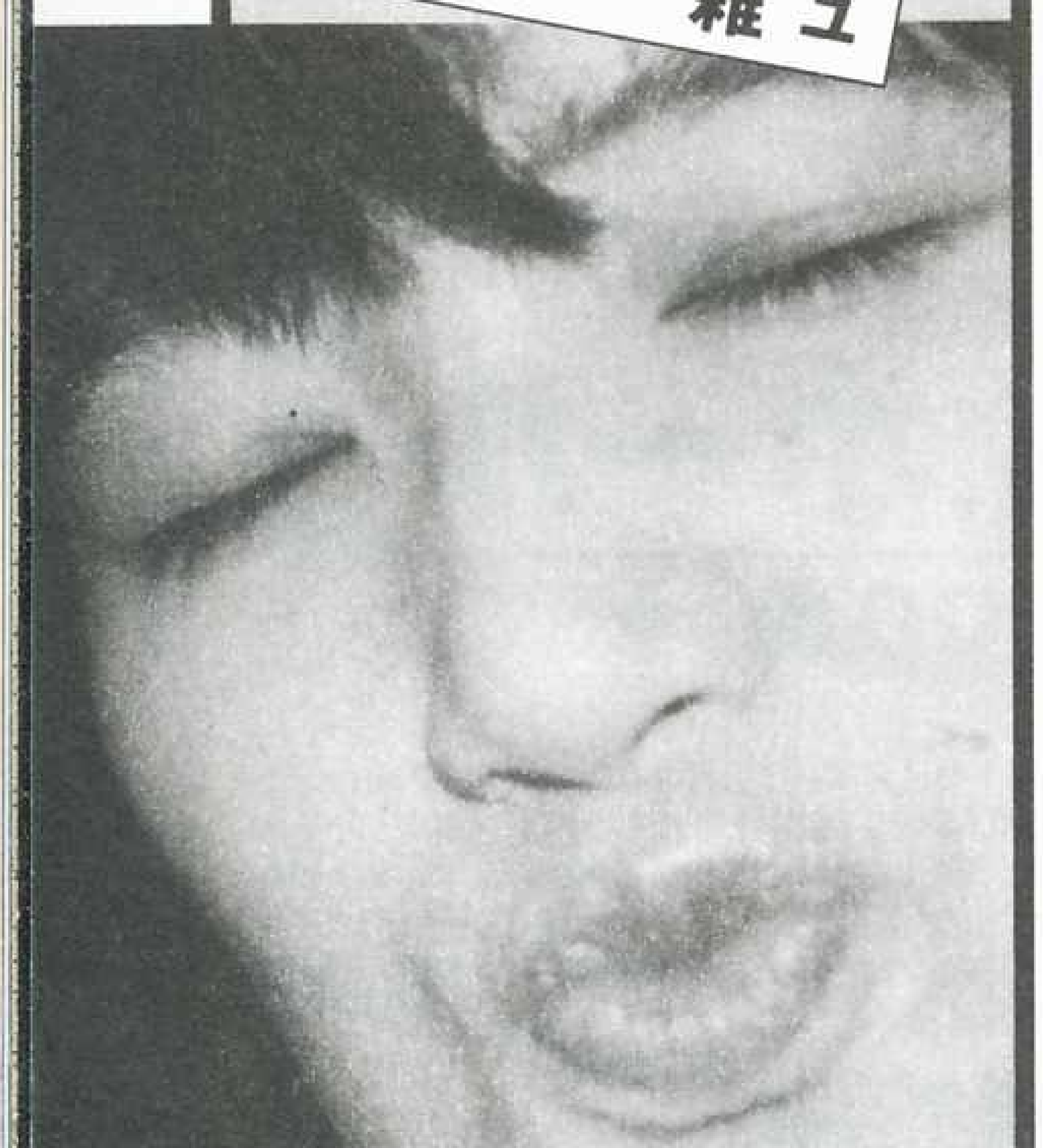
Pはプロフェッショナル・ファイター Sはシニア・ファイターの略です

紙のプロレス本誌バックナンバーのお知らせ

ジュテ～ム！バックナンバー買ったらチューしてア・ゲ・ル

ジャイ子

ムチャクチャキュートなプロレス雑誌『紙のプロレス』本誌は、思わずジャイ子をその気にさせてしまう魔力を持った雑誌です。



本誌バックナンバーに何が載っているか一目瞭然な詳しい資料が欲しい方は、80円切手を同封の上、〒151-0051　渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　（株）ダブルクロス「バックナンバー資料請求係」まで送って下さい。

そういうことは社会的に許されんと思う、な募集　ハガキ道場は、こんなハガキを待っちゃうゾ、バカヤロゥ～。
●本誌へのご意見、ご感想　●楽しいイラスト　●マヌケなダジャレ　●ぜひやってもらいたいカウントアップ・グルーヴのテーマ　●紹介して欲しい同人誌　●長いおたより
●サロン・ド・くちゲンカ参戦希望者　●編集部に遊びに来たい美女　などを送ってください。ちなみに不評だった前号の合言葉の反省を踏まえて、「オシャレ有名人」というわかりかしおとなしめの合言葉にします。これを明記するのがルールです。ハガキ＆手紙の宛先は…　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス「ハガキ道場」係まで

20世紀には前田がいた。

前田日明引退試合～THE Final～

2.21(SUN.)横浜アリーナ

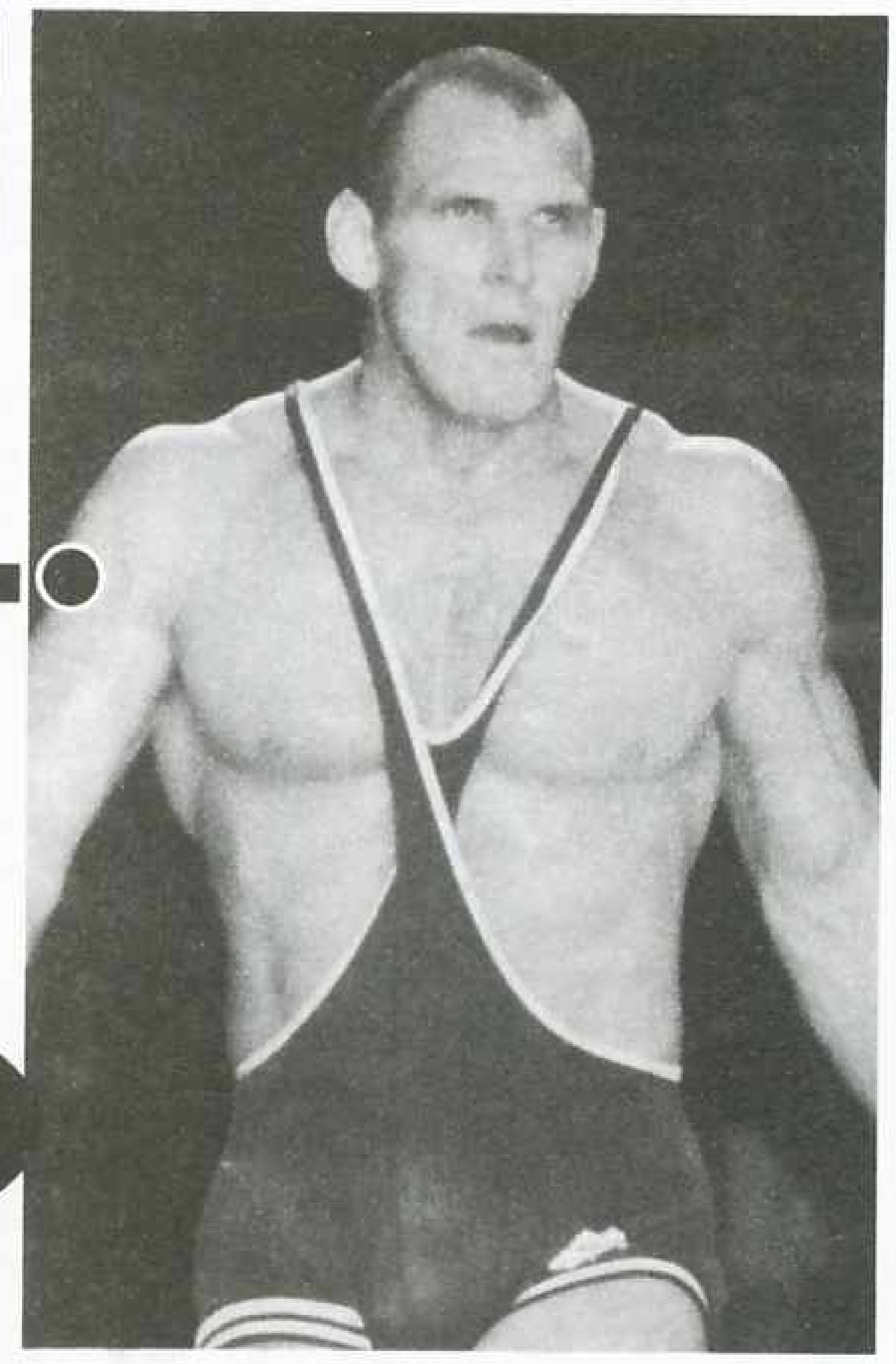
●OPEN 12:00 | START 13:30●



前田日明

対

アレキサンダー・カレリン



その他好カード予定!!
乞うご期待!

◉入場料金

特別席A…SOLD OUT／特別席B…SOLD OUT／ロイヤルリングサイド…SOLD OUT(16,000)
アリーナリングサイド…¥15,000(12,000)／リングサイド…¥10,000(8,000)
アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000(5,600)／スタンドA…¥5,000(4,000)
スタンドB…¥3,000(2,400)／学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

※(　)内の特別セット割引料金は1月に行われる日本武道館大会と一緒にご購入いただいた方に限ります。また、ローソンチケットでの販売は致しません。

◉発売場所

チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード34110)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999 **チケット絶賛発売中!**

RISE 1st

3.22(MON.)東京ベイN.K.ホール

●OPEN 17:00 | START 18:00●

◉入場料金

ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／スタンドS…¥7,000
スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所

チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード35130)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999 **チケット絶賛発売中!**

FIGHTING NETWORK
RINGS

主　催

BS-5ch
WOWOW
FIGHTING NETWORK RINGS

プロレス狂の詩

花くまゆうさく
「リングの汁」

梵婆家の店長
「魁! 裏ビデオ御開帳」

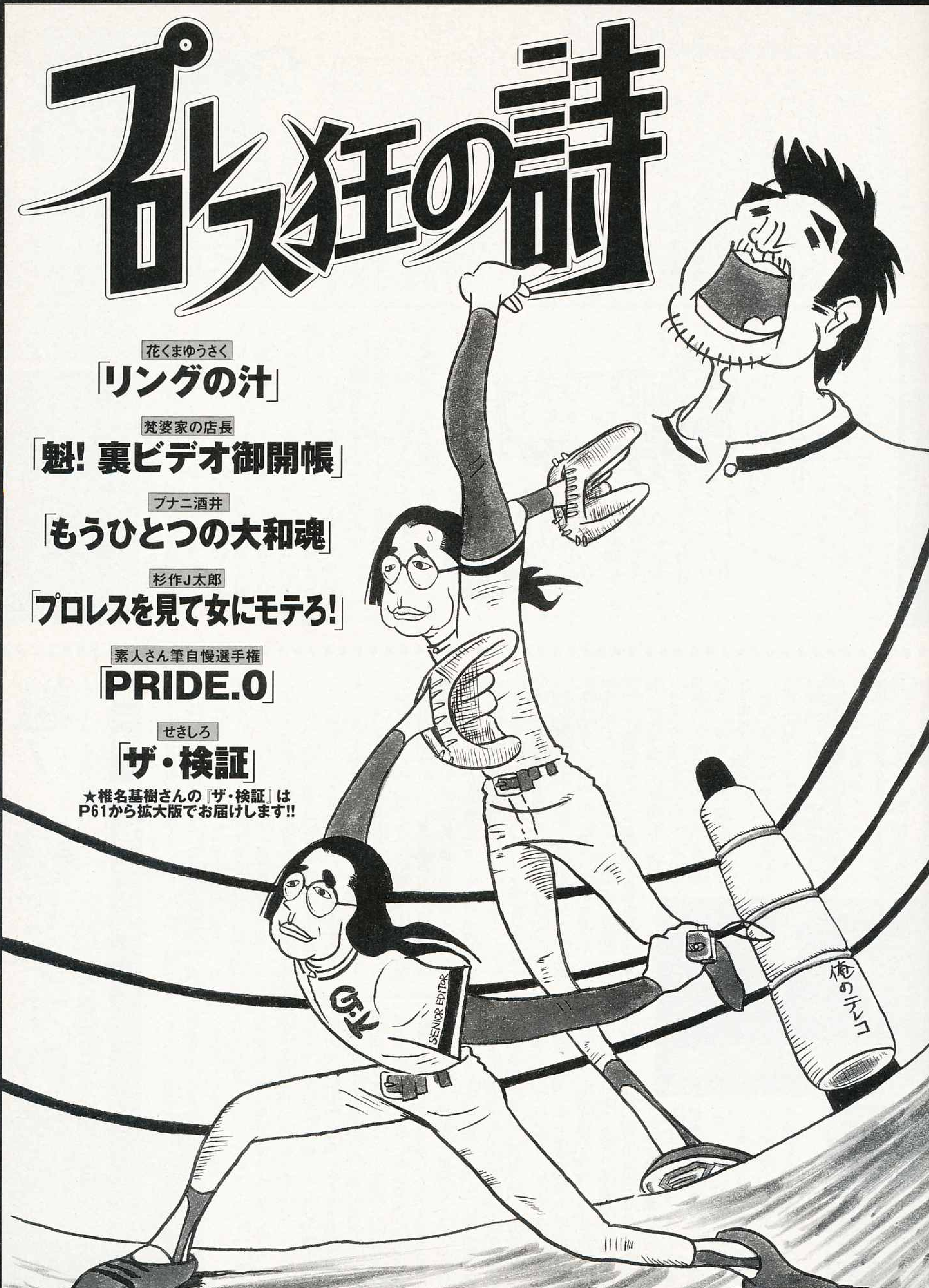
プナニ酒井
「もうひとつの大和魂」

杉作J太郎
「プロレスを見て女にモテろ!」

素人さん筆自慢選手権
「PRIDE.0」

せきしろ
「ザ・検証」

★椎名基樹さんの『ザ・検証』は
P61から拡大版でお届けします!!



リングの汁 RADICAL

はなくまゆうさく

マサ

元日から浅草キッドvs爆笑問題に始まり、新日ドーム、高阪vsルッテン、修斗や柔術ジャンボリー、東京ダイナマイトvsニトログリセリンまで1月は前半だけでこんなに目白押しでした。新日ドームは久々に面白かったですね、あれこそ新日でしょ。明るく楽しいテーマパークではなく、管理のズサンな危険で臭いのキツいサファリパークでなければならんでしょ、やっぱり新日は。

それにしてもあの場面で、三四郎のお面つけて見ているだけの猪木って、やっぱりなんかひと味違うと感心しちゃいました。こうなったら橋本には小川と再戦するときにデコトラで入場してきてほしいであります。UFOの円形リングに激突するぐらいのことをやってほしい。それぐらい突き抜けてしまわなきゃ、あの面白3人組に対抗できないでしょう。WWFを超えるぐらいのことをやってほしい。

突き抜けるといえば、マッハはもうサイコーですね。シビレまくりました、1・15修斗。ルミナのインパクトも凄かったですね、ほんとゼニの取れる格闘家です。ある男性ファンがポツリと叫んだ「俺だけの郷野！」って声援はツボに入ったし（いまだに思い出すと吹き出す）、元気炸裂のいいスタートでしたね。修斗は今年も楽しみです。

元気といえば、前に「いまマット界で一番元気なのは『紙プロ』」と書きましたが、もうひとり書き忘れていました。ナイタイスポーツの片岡亮記者です。毎週木曜日のエッセイといえばシッシーの『感動させてよ！'99』（笑）が有名ですが、もうひとつあるのです。新宿の片隅から（byシオン）、ひっそりと熱く元気なミサイル「今週のグーパンチ」をナイスポから発射させているのが片岡さんだ。

昔からよく某『週P』ともめていた暴れん坊記者である片岡さんは、毎週容赦なく辛口コラムをブッぱなしています。そのホコ先が格闘家などに向けられるときは、私には賛同できない内容だったりしますが、人それぞれ意見があるわけなのでそれはしょうがないでしょう。大事なのは、『紙プロ』以外でこんなに元気なプロレス記者は片岡記者だけということ。

そんな片岡さんは、前からキックを習っていて遂にこないだK－1東京ドーム大会でデビューしてしまいました。さらに驚いたのは、正月にきた年賀状に「今年もプロレスラー〝幻〟として頑張ります」とある。えー!? 聞いてないよ～と、言いたくもないダチョウギャグをひっそりと心の中でつぶやくはめになりました。さっそく『週プロ』選手名鑑を見ると堂々載っているじゃないですか。なんだそうだったんだ、もしかして知らなかったの私だけなの？ 例えばシッシーがパンクラシストになるような衝撃かな？ いや違うか。（しかしシッシーの黒パン＆レガーズ姿を想像するとかなり衝撃的☆）

ときにはプロレスラーやキックボクサーとしてリングに立ち、記者として辛口グーパンチをペンで打つ片岡記者は、今日も熱いぞ！



はなくまゆうさく■ついに『労働2号』青林工藝舎より3月に発売！

魁！ 裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

第一回 裏ビデオの掟

どうも、梵婆家の店長です。急に「プロレス裏ビデオ道」について書くことになったんですけど、「裏ビデオ道」って何かAVマニアみたい。まるで、日明さん……いやいや、ようするにこれは〝門外不出、一子相伝〟。そう、裏ビデオ道は芸の道なんです。

芸のためなら女房も泣かす、なんて歌もありますが、ボクの女房も泣きはしませんがボクのコレクションを怖がっています。決して、「触るな！」なんて言ってないんですけど、もしヘタにダビングなどしてしまったら大変だから触らないそうです。コレクションもけっこうな量になってしまったので、女房には邪魔扱いされて白い眼で見られています。でも、ボクは家が火事になっても、銀行の通帳より先にビデオを持ち出すでしょう。二度と手に入らない貴重なビデオが何本もありますからね。

よくみんなに「どういうルートで手に入れたんですか？」って聞かれるんですけど、「ナイショ、ナイショ。20年もプロレス通いしてれば、いくらでも手に入るのさ」と粋がっています。「あれも見たい、これも見たい」というのがファン心理というものです。だって、前田vsアンドレ戦があんな試合になるって知ってたら誰だって行くでしょ？ できるだけ生で見たいけど、それが出来ないんだったらビデオで見るしかない。そんな衝動に駆られてビデオを集めています。

会場に通っていると、知り合いもだんだん増えてくるもんです。プレス関係、レスラー、評論家の人とか、ヘビーなマニアの人とか。ボクが持っている裏ビデオコレクションのほとんどはそういう人たちとトレードしたものです。その昔は、明大前にある『モダンミュージック』というレコード屋のプロレス好きな店長を中心に自然と人が集まっていました。ときどき居酒屋やレストランを借り切って、ビデオデッキとTVを持ち込んで裏ビデオ上映会をするんです。ターザン山本さんなども顔を出していたと思います。

こうやってこそこそ楽しむ一方で、裏ビデオはダビングで大っぴらに出回ってしまう宿命があります。前田vsアンドレ戦のビデオは相当画質が悪いうえに、数カ所にノイズが入っています。これは誰が流出させたか判別できるようにするためにマスターテープに近い段階でビデオを手に入れた人がわざと入れたものなんです。裏ビデオ道には「売ってはいけない」「見るだけ」「出所は明かさない」という掟があって、ボクがこれだけ手に入れることが出来たのは掟を守っているからこそ。〝門外不出、一子相伝〟これが梵婆家のポリシーです。

最近、昭和プロレス派のボクは少し冷めていますが、たまには生で見たいです。ストレスが溜まってしまう。猪木vsベイダー（平成8年1月4日）、小川vs橋本（平成11年1月4日）は生で観たかった……。ボクは店で橋本チャーハン（焼き豚チャーハン）をつくってました。破壊王よ、橋本チャーハンが泣いてるぜ！ やっぱりいまはUFOです。

さあ、次号からは裏ビデオで伝説といわれている試合について、書いてみたいと思います。



ぼんばいえのてんちょう■梵婆家とは？ 膨大な量のプロレスビデオ・コレクションの中から、客のリクエストに応じてビデオを流す居酒屋です。（P101参照）

プロレス狂の詩

新連載!! 賢い野蛮人のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

プナニ酒井

第1回　神様に認められたエンセン

エンセンが格闘技を本格的に始める前、ラケットボール（アメリカで盛んなスカッシュに似た競技）をやっていたのを、ご存知の人は多いんでしょうか？私はラケットボールを通じてエンセンと知り合って、もう10年以上の付き合いになります。初めは2週間でハワイに帰るつもりだったエンセンも、いつの間にか日本を気に入って、定住してしまいました。私はエンセンと遊んでるうちに6年前から一緒に会社をやるようになって、いまではマネージャーのようなこともしています。子供みたいなエンセンだから、いろいろなこと（たまにはケンカやトラブルも）が笑っちゃうぐらい、たくさん起こります。そんな身近なところから見たエンセンを書いていきたいと思います。

基本的にエンセンは人にちょっかいを出したり、からかったりすることが大好きです。いまでもエンセンは腕の骨を折ってギブスをしている人や足の骨を折って松葉杖を使って歩いている人を見ると、その腕や足の不自由な様子を真似しては笑っています。悪気がないだけに、余計にタチが悪いんですよ。そんな姿を見て、我々スタッフは「エンセンやめな!!」、「エンセン、そんなことやってるとバチが当たるヨ!!」とか言って止めていました。

そんなときエンセンはこにくたらしい顔で「だいじょうぶヨ!!」そして上を向いて、「神様いるのか〜？私はバチ欲しいヨ〜!!　バチもらえるの〜？　ハハハハハ！」。

もう、みんな呆れていました。それでも懲りずに、今度はまるで私たちや神様をバカにするかのようにいままで以上にその人を大げさに真似して喜んでいた。

ところが、そのエンセンが足の骨を折ってしまったんです。初めて見た雪にはしゃぎ、足を滑らせて……。「ほら、バチが当たったんだ」みんなにそう言われ、あのエンセンが珍しく言葉をなくしてました。いつもただでは転ばない、あのエンセンが無言なんです。そして、しばらくの間は「エンセン、そんなイタズラしてるとまたバチが当たるよ！」と言われると、「そうネッ！」なんてエンセンらしくない返事が飛び出てくるほど、おとなしくなってしまいました。いまでも、その話をすると少しイタズラを躊躇するぐらいです。

そんな話をボビーにすると、「やっぱりですか。エンセンは神様に認められている人なんだ」とひとり納得しながら言ってました。神様に認められている人間というのは、こういったことが起こるものらしいです。

あっ、そうそうボビーとはPUREBREDシューティング大宮ジムのみんなには〝ボビー・ザ・グレーテスト〟と呼ばれ、私たち普通の人間にはわからない未来のことや起こった事実の意味などを教えてくれるすごい人なのです。エンセンも、よく選択に迷うとボビーの意見を聞いているぐらいですが、そんなボビーのことまでも、時折いじめて喜んでいます。エンセンが試合で勝つと、ボビーは「やっぱり。試合の前の晩は、いつもよりたくさん星が見えたから。神のお告げだったんだ」といつも一人で納得しています。この人はどこまで本気なのかはわからないところがあるので、「何で先に言わない？」とエンセンはいじめます。

こんな調子で次回以降もエンセンの身の回りのちょっといい話を書いていこうと思います。





（上）エンセンと私（写真右）です。いまよりも全然、エンセンの首が細いです。約5.6年前。
（下）エンセンはラケットボールの会社に仕事で来日したんです。これはその頃の勇姿!!

ぷなにさかい■エンセンのマネージャーにして、ラケットボール日本ランキング1位のトップ・プレイヤー。プナニとは、エンセンがふざけて私のことを呼ぶときのニックネームです。ハワイの言葉で、「女性のあそこ」という意味もあるらしいです。

悪循環コラム決定版!! 激突!! 男と女のロイヤルランブル

プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

四十八手の一　可愛いだけじゃダメかしら？

みなさんッ！　やってますかッ！

なにをってモチロンSEXですよと俺は言わない。SEXだけなら誰でもできる。「ソープに行け！」北方謙三先生の口からそんな言葉が飛び出すのも、とりあえずそれだけなら誰にでも簡単にできるからなんだわ。やっぱどうせならよりよい相手。結合の瞬間に五体がカッと感動で燃えるよーな。生命の歓びを噛み締められるよーなSEXがしたいものであります。そしてさらにはこの先、宗教上の問題あるいは個々のポリシーなどで意見は別れるでしょうが、いろんな相手と肌を交えたいと俺は思う。「いや、ワシは一穴主義だ！」そういう考えも俺は猪木……じゃなくてアリだとは思う。が、とりあえずこのコラムでは複数のE女たちからモテモテになることを男の歓びであるという見地に立って記していこう……なんか話が回りくどくなりましたが、ま、ぶっちゃけた話、SEXは二の次。新連載の冒頭だということを意識してショッキングな単語をぶつけたに過ぎない。プロレスも第一試合が大切だろう。それと同じ寸法だが、同じ効果となったかどうか。ま、とにかくSEXは二の次なのであります。実際には据膳などは食わなくてもいいからモテたいよな、男なら。

「どうすれば杉作さんのようにモテモテになるんでしょう？」俺も若い衆からよく聞かれるよ。そんなときに俺は答えるようにしてるんだな。「プロレスを見ろ！」と。

よくプロレスファンは女にモテないなどという巷説を耳にするが、よしんばモテないとして、そのモテねえ軍団に俺は言いたいよ。「ちゃんとプロレスをみているのか」とな！　事実、プロレスには女にモテモテになるヒントが満載であります。その証拠にプロレスラーは我々が想像する以上に女にモテる。

「えっ！　あんなカバみたいな顔で！」

実情を聞けばみなさんがびっくりしすぎて寝小便してしまうかもしれんでな。だから詳細は書かぬが、ホントにマジでモテてます！

で、そのモテモテのプロレスラーたちからヒントを得ようじゃねえかというわけで、まず今回はプロレスラーの表現力に注目してみたい。プロレスラーは無言のうちに動作&コスチュームで自分のプロフィールを紹介しなければならない。どんな人なのかわかってこそ試合も面白く感じられるわけですが、それは男女の仲も同じであります。自分を相手に伝える。自分の存在を。自分の味を。臆病風に吹かれることなく相手に伝える。すべてはそこから始まるのであります。伝えないことにはなにも始まらないですからな。

そこでやはりお手本となるのはアメリカンプロレスであろう。たとえばWWFのマンカインドなんてのは一目で汚くて乱暴で単純そうなムードが伝わりますな。一度は嫌われても嫌い嫌いが逆に好きに転じることは男女の間では多いですからね、それもまた一手であります。ヘタに伝えて徹底的に嫌われたらどーする？

いや、それもまた男の勲章よ！



すぎさく・じぇいたろう■漫画家、編集者、映画俳優などを経て、今では夜の帝王。ノストラダムスの大予言も怖くない裸一貫の男だが女心を掴むことにかけては天下一品といってもラーメン屋ではない。現在、ディレクTVのペイパーヴュー『FMWプレーンバスター』のコメンテーター。

シロウト勝ち抜き筆自慢！

プロレス狂の詩 PRIDE.0（ゼロ）

『PRIDE.0』の“名物娘。”武田いづみちゃんが一気に5戦勝ち抜きという離れワザを見せ、殿堂入りを決めたわけだが、いまだに「いづみちゃんを出せ！」との声は鳴りやまないのが現状。しかし、いづみちゃんは現在大仁田厚さんと同じく受験生。おそらくファーストフードでハンバーガーを食べながら勉強してるはず。そんなわけで、そこのブ厚いステーキを食ってるキミ！『PRIDE.0』ではキミの投稿を待っているんよ！

前号の結果発表！

ライセンスナンバー11 真下純子さん『猪木と乾杯した日』	112票
ライセンスナンバー4 岡崎晶士さん『薔薇と刺青（タトゥー）と二●ロの夢を』	77票
ライセンスナンバー12 荒木裕司さん『新・万里の長城伝説』	59票

「初心者の私でも内容がわかったから」（大阪市／徳永美奈／23歳／女）「読みやすい。本当この方の文章にほれましたよ。いやまじで」（名古屋市／後藤かよこ／21歳／女）「猪木さんと同じ結婚式に出席できるなんてうらやましすぎる」（鹿児島市／神谷圭介／29歳／男）「いづみちゃんの次はじゅんこちゃんに決定。なっ！」（尾張旭市／助川拓朗／19歳／男）他同様多数。というわけで、いづみちゃん殿堂入り後、初めての『PRIDE.0』。前回出場の三人の中から飛び出してきたのは、なんと子持ちの美人ママ・真下純子さん。果たしてビジュアルライターは連鎖するのか？



どーですか、お客さん
（チョロ）

ライセンスナンバー11

『二千二百円目の馬場』

真下純子

※それにしても「猪木がともだちの披露宴に来た」という単なる自慢話に大ぜいの読者の方が投票して下さったようでまことに恐縮です。皆様のやさしさにみぞおちのあたりがポッとあたたまる思いがいたします。まだ、しめきりまではわかりませんけどね
それにしても5戦勝ち抜いたいづみちゃんは本当に偉大です。受験も彼女なら楽勝でしょう。

子供がいるのでガチャガチャ（正確にはガチャポンというらしい）は私にとってかなり身近なものだ。

『PRIDE.0』第2戦でいづみちゃんが書いていた通り、最近のガチャは二百円モノが出回っている。これがちょっと様子がおかしい。例えば『HG』と呼ばれるシリーズ。ロボコンや東映ロボット（ジャイアントロボなど）。ロボコン走行形態を手にして小学生が喜ぶか？　ロボGETして「マッ」とか言うか？

これらのターゲットはちびっ子ではなく大の大人達なのであろう。

さてそこで、皆さんもうご存じだろう。遂に我々プロレスファンが二百円を投入しレバーを回しまくる時がやってきた。

「YUJIN SRシリーズ全日本プロレス王道メインイベンターフィギア」。

秋山、小橋、三沢、川田、田上、そしてジャイアント馬場が約20分の1のフィギアとなり、手足をもがれ、カプセルに収まっているなんともシュールなこの代物。お母さんサイフゆるみっぱなし、トリコじかけのあけくれである。とにかく良くできている。似てるのだ。

小橋の「イーッ」とした顔。田上の首から肩にかけてのライン。三沢の口元。そして乳首の位置の正確さ。

きっと中国あたりの工場でひとつひとつ流れ作業で彩色されているのだろう。見知らぬ国のレスラーの乳首をちょん、と筆先で描きながら作業員はどんな思いを馳せるのかしら……。ロマンチック。

添えられた紙には「誤って飲み込まないように」などと書いてある。どこかの病院では子供を抱え取り乱した母親が飛び込んで来て、「この子が三沢の腕を飲み込んでしまって!!」なんて医者に泣きついたりする光景が…………。

さて、ロボコンではガンツ先生がなかなか出ないように、やはり馬場さんはなかなか出てはくれない（そういえばプロレスラー消しゴムもシークばっか出してたわ私）。「また小橋かよ～」なんて試合会場では絶対言わないようなセリフを思わず吐いてしまうこともしばしば。

私の場合、三沢・小橋3体ずつ、秋山・田上2体ずつを出してようやく馬場さんにありつけた。川田出ず。

約10cmちょいの馬場さんを組み立て、「やっぱり馬場さんはでかいなぁ」と再確認させていただいた（他は約9cm）。大きいから「お得感」「当たり感」がある。馬場さんは。

そうそう、添付の紙はアンケートになっていて、次回フィギアにして欲しいレスラーのリクエスト欄があった。

ファミリー軍団、出ないかな～。ラッシャーさんのもがれた腕ウィズマイク。組み立てたいわ～。

そして鶴田も。馬場さん今度はガウン姿がいいな。ああ、きっと私はそれらを出すため両替を繰り返し、確実に家計を圧迫するだろう。子供に示しがつきませんよ、全く。

新日のブリスター路線も確かに時代に沿ったやり方だとは思う。しかしプレミアが付いたり、買える場所も限られていて敷居が高い感じは否めない。

私は玩具屋やスーパーの軒先に並ぶのを選んだ全日の心意気をリスペクトしたい。それに、結構効率悪いし、全部集めようと思ったらかなりお金かかりますよ。あったまいい、馬場さん。

P.S. 新日橋本フィギア、色黒すぎ。

ライセンスナンバー13

『流浪の格闘家、長井満也』

大川義之



元リングスの長井満也。リングスファンなら、涙とともに応援してきた選手に違いない。長井のイメージ、それは間違いなく「性格のいいお兄ちゃん」だ。細やかな配慮とともに面倒見のいい兄貴分。但し、とても気が弱くてビビリ屋さん。でもいいんだ‼ 気が弱くて何が悪い。ディック・フライにビビって何が悪い。僕らは、そんな、近所にいそうな親近感の湧く長井が好きなんだ。

長井は、誰もが認める、恵まれた体とセンスを持っている。キックをさせたら日明兄さんも絶賛し、キックデビューも果たしている（今なら金原選手と闘えば面白いはず）。グラウンドでは田村も苦杯をなめさせられたズーエフを、関節技で破るほどのサンボの使い手だ。しかし、格闘家としては、致命的に気が弱い。相手の打撃にひるんで、すぐ退がってしまう。高い技術と力があるのにもかかわらず、だ。山本・田村・高阪の10分の1でも気持ちの強さがあれば……。何度そう思ったことか。しかし、それでも僕は長井が大好きだ。おそらく本来は苦手な部類にはいるであろう「闘い」を通して、自分を変えようと必死に向かっていく姿には心打たれるものがある。誰だって日常生活の中で大きな悩みをもちながら生きている。みんな心の中に、越えられない、突き抜けられない、煮えきらない自分という名の「壁」を持っている。世の中なんでもうまく行きゃーいい。しかし現実は、そう、うまく行かないものだ。負けるときは、厳しく、惨めな現実が待っている。そんな日常の鬱憤を晴らしてもらうためにプロレスの会場に足を運ぶ、という人も多いだろうが、僕は、現実から目を背けたくない。長井選手は、人生の荒波の中を強く生きていこうとしている。それが痛いほど伝わるから応援せずにはいられないのだ。彼は僕らの心の中の闘いの代弁者なのだ。

長井のリングスでの最後の試合。あれこそ、自分を変えようとする最も大きな闘いだったに違いない。長井は山本に連敗、田村にもいいところ無く惨敗。日明兄さんの発言も「長井、期待してるぞ」から「リングスの将来を背負っていくのは、田村・山本・高阪この三人やね」に変わっていた。長井は試合前、相当なジェラシーがあっただろう。リングスに日本人選手が二人しかいなかった時も、前田が膝の手術で欠場してきた時も、一番前でリングスを支えてきたのは、自分だ。なのにどうして、よそものの田村ばっかりを褒めるんだ。評価するのはどうして後輩の山本や高阪なんだ。長井はそう思ったに違いない。だから、前田戦では、ふがいない自分を、甘さや脆さを持つ自分を、全て捨てようと思った。全ては、勝って前田さんを振り向かせるため。あの時の長井選手は、それしか考えなかったと思う。だからヒクソンとのラストマッチ（決定はしていなかった）が控えてるにもかかわらず、膝を容赦なく蹴りまくった。グラウンドでは、不利と思われる態勢は、全てロープで凌ぐことに決めていた。全て勝つための作戦だった。前田にとっても、ここで自分の弟子に負けて株を落とすわけにはいかない。いつしか前田の形相は、蹴られても蹴られても前に出る「大妖怪状態（これを引き出すのが得意だったのは、山本宜久）」になっていた。こうなると前田は恐ろしくしぶとい。腕の一本や二本は持っていかれそうな顔だ。

結局長井は、勝てなかった。前田は、何故長井が非情な攻めで自分を潰しにきたのか、分からない。そのことに対する憤りを押さえるのに必死だ。長井は、勝てなかった事実と貯め込んでいたジェラシーが交錯し、昂ぶった感情が一気に飛び出した。そして、互いの感情の行き違い……。

今、リングスに長井の姿はない。長井が去っていくのと入れ替わるようにして、キングダムから、金原、山健がリングスジャパン入りし、新人の滑川もデビューを果たした。リングスを彩る色は、刻一刻と変わりつつある。リングスは、確かに面白くなったと思う。しかし、ずっとリングスを見続けてきたファンにとって今のリングスは今一つ物足りない。この寂しさも色褪せていくのだろうか。

長井は今、K－1戦士になっているが、果たして、結果を残せるのはいつになるのだろうか。僕は、長井が自分にうち克つために闘う、その姿が見られるのなら、場所がどこであれ、ずっと応援するだろう。但し、僕をふくめた多くのリングスファンは、まだ長井の闘う姿を、再びリングスで見たいと思っているに違いない。

追伸　プライドゼロのヒクソン、武田いづみ（18）、待ってろ。18歳なら、私が学校で教えている生徒の年齢じゃないか。高校社会の教師としては、負けられんのです。

リベンジ

ライセンスナンバー12

『三沢革命とは何か？』

荒木裕司



「小さいやつでも強い」というデカ男嫌いならではの持論から、シューティングを設立したのは初代タイガーこと佐山聡であった。で、「小さいやつでも強い」というか「うまい」とばかりに、世界の巨人もアンタッチャブルな全日革命に乗り出しているのが、2代目タイガーこと三沢光晴である。そんな二人の現在の相方がともに「小川」というのも、©梶原タイガーマジックというか、なにか運命的なものを感じてしまう今日この頃なのである。

昭和新日がイケイケドンドンだった時に、全日入団を選択した時点で、三沢は越中とともに違いがわかる男なわけだが、狂気の三冠戦後に「ミサワーッ！　ありがとぉ〜っ！（涙）」などと、オカマのピロートーク（by椎名先生）を繰り広げるようなファンに、そんな三沢のダンディズムは届いているのだろうか？

ジャパンが抜け、Sに底引き網を仕掛けられ、輪島が抜け、客を呼べるレスラーがジャンボだけになってしまい、そのドン底から全日を立て直したのが三沢であり、現在の四天王ということになっている。身を削って全日を立て直した三沢ありがとぉ〜っ！（涙）。

しかし、そんな見方は僕にはどうも三沢&全日を極小化しているように思えてしょうがない。非常に非常識な角度で落とす、ジャンボのバックドロップをくらいまくった三沢も確かに凄かったが、それならスティーブ・ウィリアムスのバックドロップをくらいまくった川田や小橋も同じじゃねえかとも思う。そんな見方をしていたら、三沢の10年持つ体が3年でぶっ壊れるのはもちろん（現にガタガタ）、川田や小橋が三冠ベルトを巻いているのより、三沢が巻いているほうがシックリくる理由など、10年どころか永遠にわかるはずもないのだ。

越中を置き去りに海外遠征から戻り、馬場－梶原ラインで士道館入りした三沢。足工アマレス部仕込みのアマレステク、アメプロ好きが高じて全日入り、メヒコでルチャを習得、添野先生に空手を習い、タイガーマスクに変身……と、末期ターザンチックに言うならば、三沢はプロ格ファイターなのである。遅すぎた佐山、早すぎたアレク……。そういう場に打って出てないぶん、印象は薄いが、この振り幅を認識して初めて三沢の凄さがわかるはずなのである。

で、そんな三沢が現在着手しているのが三沢革命である。が、あまりにワケワカな革命のため全日開国、テレビ中継の45分拡大などと勘違いされているようだが、それは馬場革命であり、日テレ革命だ。では三沢革命とは何か？

「小さいやつでもうまい」これがアッポー（by高田）イズムのアンチテーゼであることは言うまでもないだろう。小さいやつがデカイやつを倒しうる技術がシューティングであり、柔術であるとすれば、プロレスだってそうじゃなきゃおかしいはずだ。まず三沢はそれを言いたいはずなのである。「シューティングを超えたものがプロレスである」のなら、なおさらだ。

しかし、だからといってPRIDEやUFOに乗り込むのは相手の思うツボ。そこで三沢は考えたのだろう。シャムロックやスバーンがWWFのリングに上がっているという情報は、アメプロ好きの三沢なら遠の昔にGETしていたはずだ。UFCがアメリカで締め出しをくらい、マーク・コールマンに代表されるアルティメット戦士たちが大量にアメプロ・マットに流れることも。ならば、そいつらをプロレスのリングに上げ、小橋や田上ではなく、小川や金丸あたりが倒すことで「シューティングを超えたものがプロレスである」ということを三沢はアピールしようとしているのではないか？

つまり「お前らパワーはあるけど、そんなテクじゃプロレスでは食っていけないよ」ということを思い知らせ、かたや小川や金丸が丸め込むことで、かたや桜庭や高阪が極めて勝つことで、八方塞がりにし、プロレス界から締め出すというか、そんなことを考えているはずなのである。ベイダー&バート・ガンというシュート・テイストなレスラーを呼んだのもその伏線に違いない、たぶん。

シャムロックやコールマンが暴れたときは、アマレステクで封殺し、上に乗って打撃で仕とめる。あとはエルボースイシーダでもタイガードライバーでもくらわしゃいい。現在、三沢は全日道場でそのテクを若手に伝授しているはず。かくも壮大な革命に乗り出した三沢が、冬木の全日参戦を断ったのも当然といっちゃ当然なのである。三沢革命、アルティメット戦士の片手間トラバーユにローリングエルボー！……って、そんなわけないっちゅうの！（馬カラス調）

P.S.　同封のイラストは採用の場合は似顔絵として、ボツの場合は、載っける気もないんでしょうが一応どっかに載っけてくれること希望。三沢や小橋ではなく（でもインタビューしたら絶対おもしろいはず）SASUKEのゆがんだプロレス愛を見習って書きました。ではさようなら。

「それが、オマエの書き方か！」長州監督のように熱い投稿大募集！

今回の三選手の中からアナタの一番お気に入りの作品を一つ選んで下さい（応募方法はP144参照）。一番得票を集めた選手は勝ち抜きとなり、引き続き次号参戦が決定します。見事5戦勝ち抜くと『紙プロ』認定超読者として殿堂入りとなり盛大な表彰式を行います。さて、いづみちゃんは殿堂から脱出して初詣に行けたのか？　謎が深まる迷宮の『紙プロ』殿堂とは一体？　知りたきゃ送ること。なっ！　掲載者全員にある意味では衝撃的なプレゼントを差し上げます。プロレス・格闘技界への要望やバウトレビュー……、何でも構いません。参戦希望選手は、400字詰原稿用紙2～5枚程度に、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（自画像でも可）を同封の上、〒151−0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部「チャンコ銭渡したよな！」係まで。ただし、ページの都合上、業界のタブーを破ったような内容の文章は、一部変更、割愛しながらも楽しく読ませてもらいます。●締切は3／21まで！（チョロ＝サスケ組）

書評は平和ではない　書評は戦いである　武器のかわりが毒舌であるだけで　それは地上における最も激しい厳しい　自らを捨ててかからねばならない戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

前回の『劇画バカ一代 梶原一騎読本』批判に対して、「その通り！」の声が多数寄せられた。ついでに言えば、あれを編集した方も「確かにその通りだけど、そこまで言わなくたっていいじゃないか！」と言っていたそうである。よくわからないが、とりあえず間違ってはいないらしい書評コーナー。

不滅の闘魂（アントニオ猪木／海鳥社）



ボクは常々「猪木本に外れなし」だと口を酸っぱくして主張しているのだが、『スポニチ』連載の猪木コラムをただまとめただけのこの本もまた案の定、期待通りの出来であった。

ましてや、あの1・4橋本vs小川戦を終えたいまになってあらためて読み返したら、色々と考えさせられた次第なのである。／

そもそも、UFOとは最初から**「プロレスラー時代に私がやろうとして途中で挫折してきたものや、いろいろな事情によって邪魔されてきたもの……、さらに現役不可能だったものに、果敢に挑戦していくつもり」**とのことでスタートさせたのだという。

つまり、猪木は邪魔さえなければ橋本vs小川戦みたいなことを当たり前のように繰り返すつもりだったのだろう、きっと。

そして日本プロレス時代に自ら企画制作した**「ブラジルPRビデオ」**（ちなみに、このとき毒蛇に噛まれて死にそうになる）の撮影中に猪木が**「ワニと戦った」**のは著書などでも有名な話なのだが、実は**「まあ、戦ったと言ってもそこでワニ狩りをしただけ」**だったことが、いまになって発覚。

その狩猟方法というのも、**「カピバラというネズミの仲間を鉄砲で撃って腹を裂いて池のほとりに置く」**。すると**「辺りを警戒しながら陸に上がってきたワニは、その肉を争うように食いちぎる。そして、〝食事〟に夢中になっているところを私が棒で殴りかかるのだ」**という、とてつもなく残虐極まりないことだったことまで、ついでに発覚してしまうのであった。

こんなもの、冷静に考えれば闘いでも何でもありゃしないのだが、おそらくこのキラー極まりない冷酷さが橋本vs小川戦を生み出したのに違いない。恐るべき、猪木！

なにしろ卍固めの練習だけでも二人の足を折り、ジャーマンにしても**「特別な努力なしでもゴッチの技より破壊力のあるフィニッシュに仕上がった。原因は私のアゴである。ジャーマンで投げてホールドしようとすると、私の尖ったアゴがちょうど相手の背中に刺さる形になる」**という、とんでもないアレンジが加えられていたのである。

まさにキラー猪木というわけだが、猪木はこれ以降もキラーぶりを発揮していく。

つまり自慢の毒舌で橋本をやっぱりブッタ斬りすると、これまたとんでもなさすぎることまで口にしてしまうのであった。

「橋本が『闘魂伝承』のガウンを脱いだ行為も、私の気を引こうとして駄々をこねる子供のような印象を受ける。例えばタイガー・ジェット・シンは百貨店で買い物中の私を襲撃したし、ブロディも控室にいた私にチェーンを振り下ろしている。私がリングに戻ることは『神様の命令でもない限りない』と東京ドームでも言っているので彼らの挑発でリングに戻ることはないのだが、不可能を可能にするくらいの意気込みでやれば、トンネルは脱出できるのである」

もしかしたら、小川に一方的な試合をさせたのも、橋本を怒らせて挑発してくるように仕向け、自身の復活へ繋げたいということなのだろうか？　よくわからないが、猪木なら何をやっても許されるのである。

ちなみに、その**「新宿伊勢丹百貨店前襲撃事件」**についても、**「世間一般では『あれは最初から仕組まれていたものではないのか？』という声がいまだに多いことも聞いている。正直に言えばあれは本当に仕組まれたのかもしれない。ただし、私には何も知らされていなかったのだ」**と、これまた素直に告白。

じゃあ、もしかしたら会津若松で暴漢に襲われたのも、もしかしたら仕組まれていたのか？　そして、やっぱり1・4では橋本も何も知らされていなかったのか？

謎は無限に広がっていくのだが、あのTPGによる両国大暴動に関しても、猪木は当事者ながら呑気にこう述懐している。

「暴動に私は手応えを掴んでいた。『まだ日本のプロレスは捨てたものではない』。暴動を起こすだけの情熱とパワーが客席からひしひしと伝わってきたのだ。いまのプロレスを見てみても暴動が起こるような要素はどこにもない。現代の若者の象徴とも言える〝無感動〟が、プロレスファンの中にも広がっているようである」「レスラーもファンやマスコミに媚びを売るようないまのスタイルでは観客もついてこないし、暴動も起こらないのである」

そう。猪木はファンやマスコミに媚びないスタイルを持つUFO（まあ実際、マスコミで絶賛しているのはボクぐらいだし）を使った一連の挑発活動によって、再び暴動でも引き起こそうと企んでいるのに違いないのだ。橋本vs小川戦が終わるなり猪木が会場から姿を消したのも、もしかしたら暴動が起こることを予想していたためかもしれないのである。恐るべし、猪木！

ここで流れを一切無視して、話は猪木が生まれて初めて見たという外国映画『黒い牡牛』（56年・アメリカ）へと唐突に飛ぶ。

簡単なあらすじとしては、少年が育てていた牡牛が売り飛ばされて最強の闘牛となり、やがて少年が闘牛場に現れると牡牛は少年に向かって突進するが、激突寸前で見事にストップ。少年は大統領に闘牛を止めさせるよう嘆願し、なんとか願いが叶う。

……そんな内容の映画らしいのだが、少年の**「自分の信念を貫くためにする努力」**が**「ブラジルへ渡る前の私（＝猪木）の目を虜にした」**ために、猪木は**「身の回りで起こることをこの『黒い牡牛』に置き換えて想像する」**ようになったのだという。

つまり、猪木が政治家に嘆願したり、アントンリブで牛肉を売ったりしたのも、これが原点なのに違いない。この映画に影響を受けた以上、猪木が自分の信念を貫くためなら、自分の作った団体に喧嘩を仕掛けるぐらい、雑作もないことなのである。

そこで、このエピソードの登場だ。

「娘が、珍しく私に頼み事をしてきた。『メヌードのサインが欲しい』。メヌードというのは外国の人気グループで、日本でいうと少年隊のような存在だった。ちょうどそのグループが来日するというので、何とかお願いして歓迎パーティーに出席することが出来た。私はどこへ行っても目立つ存在で、このパーティーでもすぐに人に囲まれた。そんな私をよそに、娘は大人の中をかき分けてサインを求めに行っているのである。私が初めて見た『黒い牡牛』という映画は、少年が自分が育てた牛を体を張って助ける物語なのだが、勇気を持って突き進む少年と自分の娘の行動が重なって見えた」

単に外人アイドルのサイン欲しさでしかないだけの娘の行動をも、やっぱりアカデミー原作賞受賞映画と結びつけて考える男・猪木。

おそらく今回の新日との揉め事にしても猪木の頭の中では『黒い牡牛』に例えられていることだろうが、とにかくUFOには少年同様に勇気を持って突き進んでいただきたいとボクも心から願う次第なのである。

戦国プロレス＝格闘技読本（〝Show〟大谷泰顕・監修／メディアワークス）

ボクは常々「Show氏本に当たりなし」だと口を酸っぱくして主張しているのだが、この本もまた案の定、予想通りの不出来であった。

たとえば高田と天龍の巻頭対談にしても、そこに何らかの意味を見出すのは困難だし（単に高田と誰かの対談をしたかっただけだろう）、高田の前で天龍にSWS話ばっかり聞いているのも無意味の一言。なによりも高田に対して失礼である。

二人の再戦を煽るような発言の果てに、現時点で一勝一敗だから「じゃあ2試合すればいいんですよ」などと言い出すのに至っては、もはやプロレスに失礼だ。

おそらく「二勝二敗すれば角が立たない」と暗に言っているのだろうが、お前が両者の力関係のことを考えてどうするんだよ。

マサ・サイトーのインタビューなどでもそうだが、不可解な質問を繰り返し、無闇に感情的になったりするのも不快なら、ヤマもオチも意味も皆無な書き原稿も不快。

個人的に興味深かったネタを挙げるとするなら、天龍が**「荒川が入ってきてからおかしくなった」「（アポロやジョージを）ドン荒川が焚付けた」**と語るSWS話によって、「橋本vsヒロ斎藤も北尾vsテンタも、荒川の焚付けが原因。そして、その焚付けもおそらく荒川のギャグだった」というボクの勝手な仮説にも信憑性が出てきたこと。

そして『週プロ』浜部編集長インタビューによって、佐藤記者と長州との抗争が明るみに出たことに他ならないのである。

「俺は佐藤とは話をしないんだよ！」「佐藤が寄ってきたから『寄るな！』って言ったんだ！」などと長州は男らしく公言していたようだが、それを**「山本さんがいなくなって、ちょっと佐藤で代用してるんじゃないかな。無視して、向こうがどう出るか、顔色を見ながら楽しんでる、ぐらいのものじゃないかなって俺は思ってるんです。実際、『佐藤を新日本の担当から外せ』とは言われないしね」**とクレバーに判断して、呑気に語る浜部編集長。

あれっ？　たしか佐藤記者って、今年から新日の担当を離れてなかったっけ？

まあ、そんな細かいことは一切気にせず、ボクが書いている「ジャンボ鶴田最強論」と「青柳館長の打倒プロレス10年ロマンス」や、聞き手はアレだが山口昇インタビューも収録されているので、読者の皆様にはShow氏関連のページはオマケだとでも思って我慢しながら読んでほしいものである。



プロレス スカウティングレポート1999（赤平隆／ぶんか社）

近藤隆夫君の『完全版・格闘技スカウティングレポート1998』に続いて、元ファイト・赤平記者によるプロレス版スカウティングレポートが登場。とはいえ、格



闘技の場合は強さや戦績が重要視されるのでデータがあると便利なのだが、プロレスにそれを持ち込むのはボクもどうかと思う。

たとえば寝技と立ち技の2ジャンルに分けていた格闘技編とは違い、こっちは日本人、外人、女子と大雑把な3ジャンル（人間種類三種類）に分けているのにも、そもそも無理があるというか。プロレスには全日、新日、U系、デスマッチ系、エンターテインメント系などでそれぞれ技術にしても優劣があるのだから、一概に語ることなんてできるわけもないのだ。

この本でも、5段階評価で松永の技術が4なら永田も4、天龍も4、鶴田が4、桜庭も4、茂木も4で、なぜかデルフィンが5だったりと、どう見たところで一定の基準なんて存在しちゃいないわけなのだから。

オレの人生・プロレス・旅

（ジャイアント馬場／ジャイアントサービス）

「馬場と酒」「馬場と麻雀」「馬場と甘いもの」「馬場と稼ぎ」「馬場と喧嘩」など、刺激的すぎる言葉が並ぶ目次を見ただけでも奇跡を感じるのだが、中身もまた期待通り。

『オレは……』と書き出すと、本音が言えるんですね」との理由から一人称を「私」や「僕」ではなく自然体の「オレ」にしただけあって、とことんまで馬場が本音をブチまける無闇に熱い一冊なのである。

なにしろ中学生のとき教師に殴られたことをいまも根に持ち、**「いまだになんで殴られたかわからない」「自分としては、悪いことをしたような記憶がないんです」「いまでもその先生の顔は会えばわかると思いますが、挨拶をする気はありません」**と著書『16文の熱闘人生』（94年）でも恨みがましいことをさんざん告白していた馬場だったが、ここでの本



音ぶりはもはや尋常じゃないほどなのだ。

そのとき殴られたのも**「廊下を走った」**ためだったことや、**「その先生は凄いハンサムで女子生徒にも人気があったんですが、オレは今でも嫌いです。催しものなどがあって三条に帰った時、その先生がいるとオレはソッポを向きます。顔を合わせたくないし、話もしたくないんです」**と、実際に会っても無視していたことまで素直に告白。

高校生のときも、ピッチャーとして完投寸前になって最後の走者をアウトに取ったはずがアンパイアにセーフを宣言され（グラウンドが敵地で、アンパイアも相手校のOBだったため）、**「オレの高校野球の思い出は、このアウトがセーフにされた悔しさがすべてです」**といった本音を口にする。

結局、馬場もまた猪木に匹敵するほどの負けず嫌いなのである。両者が団体設立後は闘わなかったのも当然だと思えるまでに。

それゆえ自分と同じ身長で**「プロ野球界一のノッポ」**だったスタルヒンと**「後楽園球場の前でバッタリと出会い、挨拶をしましたが、背はオレの方が高かったんですよ」**だの、プロレス界でも覆面男ザ・コンビクトとスカイ・ハイ・クルーガーが**「オレより5センチほど大きかった」**が**「二戦とも、オレが勝ちました」**だのと、異常なまでに負けず嫌いぶりを発揮するのであった。

さらに馬場の素直な告白は続いていく。

日本プロレス時代も、**「力道山道場の四天王などと呼ばれましたが、そういう目で見られるよりは、目立たないようにして楽をしたいというのが本音でした」**という馬場は、やがてプロレス人気で収入が上がると**「毎晩、渋谷のキャバレー『チャイナタウン』で飲んでいました。当時のオレは25歳ですが名前が結構売れ出し、収入も良くなっていたので、周囲からチヤホヤされた。それが楽しくてしょうがなかったんでしょうね」**と、やっぱり素直に本音を語るのだった。つくづく正直な男である。

そして猪木の会社改革～追放騒動についても、**「いま思うと、幹部たちはどれほどもらっていたんだろうと小首を傾げたくなり、猪木がそれを不審に思って会社改革を唱えたのもわかるような気がしますが、当時のオレはそこまで頭が回らなかったんです。吉村道明さんが何かの雑誌で『馬場は金のことは一度も言ったことはないが、猪木は金、金としょっちゅう言って来た』と言っておられましたが、オレは沢山もらったことが無性に嬉しく、ただそれだけだったんですね」**と、いまさらながら理解を示す始末。

ようやく馬場にも、猪木の気持ちがわかるようになったわけである。素晴らしい！

それだけではない。巨人軍二軍時代には汽車の網棚で眠り、羊かん36本を一気食いし、いつでも缶詰のアンコを持ち歩き、アメリカでは**「人様には言えないレスラーしか出来ないようなバカな遊びを毎日のように」**やり、ニューヨークでミュージカルを見れば居眠りし、大きな音を立てて椅子から落ちて周囲の客に睨まれ、暴力団員と喧嘩すれば殴り倒して海に放り込み、徹マンをやれば金を賭けてキッチリと50万円勝つ。

こんなことを本音で語るのみならず、女方面の話もいつも以上に披露するのである。

巡業に行けば、**「ある選手が旅館の娘に岡惚れして、その娘さんが嫁に行った相手がオカマだったとか、旅館の主人が愛人の部屋で腹上死したとか、その土地に行くと思い出す話がいっぱいある」**し、趣味の読書でも**「〝知勇兼備の熱血漢だが女にはだらしがない〟といったイロ男の主人公がでてくるとそれだけで嬉しくなってしまう」**人間味溢れる男・馬場。

これだけで馬場の下ネタ好きぶりは伝わってくるのだが、完治する確率1％の脳腫瘍手術に踏み切るとき、**「オレは19歳で、童貞のまま死んじゃうのかなぁ」**と悩んだことまで、とうとう告白するのであった……。

以前、某女性週刊誌にこれにまつわる赤裸々な記事（死を覚悟した馬場が、どうにかして童貞を捨てるべく奮闘したことなど）が掲載されたこともあったのだが、それが単なるデッチ上げ記事ではないらしいことまでわかったりと、とにかく素晴らしい一冊なのである。サーチ＆マスト・バイだ！

GRAY ZONE

（蝶野正洋＆辻義就／アミューズブックス）

蝶野が**「番組を見ていると、辻さんは非常に耳障りで不愉快な存在に映った」**だの**「生中継を俺らが控室で見てるじゃない。すると『この人何言ってるんだ!?』ってみんなが文句言ってた」**だのとわざわざ言うまでもなく、辻アナは不快である。

個人的にはnWo蝶野に対して「まっくろくろすけ」と表現するような言葉選びセンスの致命的な無さが最大の問題だと思っていたのだが、この本を読んだおかげでもっと重大な事実にボクは気付いたね。

非常に単純なことなのだが、蝶野が**「辻さん」**と呼んでいるのに、辻アナは面と向かって**「蝶野」**呼ばわりしているのである。

かくも失礼な彼氏、猪木引退試合の実況担当を古舘アナに奪われたとき、身の程知らずにも**「久々のゴールデンタイム2時間枠」**なのに**「俺がメインを張れない」**という当たり前の事実を聞かされただけで**「俺、この10年間、一体何やってたんだろう」**と勝手にショックを受け、**「テレ朝から気持ちが離れそうになった」**のだそうである。これが幻のフリー宣言に繋がるのかもしれないが、いざ古舘の実況を聞くと**「なんでこんな古い、堅い喋りをするんだろう」**と偉そうに思ったというのだ。

確かにあの日の実況はブランクもあってイマイチではあったが、自分の喋りが軽すぎるという事実にも気付いていない様子。

しかもファンレターに**「古舘さんの実況は、喋りは滑らかだし、言葉遣いが本当に面白いんだけれども、辻さんにはある何かが古舘さんにはないような気がする。何かっていうのは、もしかして魂みたいなものかもしれない」**と書かれていたことまで、のうのうと自分で口にするのであった。

辻がこんな調子でアナウンサー志望者へのアドバイスや自分のどうでもいい過去を語りだすのは、一体どういうことなのか？

そもそも古舘の場合、著書では自分の話をするとしてもオナニー話や情けないデート話ばかりで、あとはレスラーの素晴らしさをキッチリとアピールしていたものだ。

それなのに、ただでさえ「プロレスを利用しているだけの男」というイメージが強い辻が、過剰なまでにつまらない自分をアピールしているのだから、蝶野ではないが、まさに不愉快な存在と言うしかないだろう。

ハッキリ言って蝶野に罪はない。

「新日に入る前は、テキヤの手伝いとか、掃除のバイトとかやってた」という過去。**「荒川さんは山本小鉄さんと一緒に、昼メシにビールをガンガン飲んで酔っ払って、そこらじゅうを裸で歩いてる」**という昭和の新日道場話。

ブレーンバスターの上手な受け方講座。

「favorite cigarette:MILD SEVEN SUPER LIGHT」という、掟破りのプロフィール。

そして40歳引退宣言など、興味深い話もしてはいる。ただし、辻がそれを上手く発展させられないだけなのだ（本人曰く、インタビューには自信があるそうだが……）。

「引退した選手によるコーチシステムをつくって、その新人をひとつの商品としていかに伸ばしていくかという作業をしていかないと、新日の未来はないよ。猪木さんがコーチ役のときは猪木さんがブリッジが好きだから下にもブリッジをやらせる。『ブリッジできないヤツはレスラーじゃない』って。で、長州さんに代わると、長州さんは『ベンチプレスを上げられないヤツはレスラーじゃない』っていう（笑）。そして、教えていない技やテクニックを駆使して新人をギブアップさせておいて『お前はまだ俺より弱いんだから、言うことを聞け』みたいな感じの自己満足のシステムだったんだよね」



こんな興味深い話をしてくれる蝶野に対して**「プロレス界にも小室哲哉みたいなプロデューサーが出てくると面白いよな。維震軍・プロデュースｂｙつんくとかさ（笑）」**などと受け答える辻の想像を絶する呑気さには、もはや呆れるばかりである。

あとがきで蝶野が**「やっぱりこの人とは合わない。以上」**と言い切る気持ちも、痛いほどわかる。そんな一冊なのであった。

どうでもいいことを　どうでもいい角度から　どうでもいい態度でメスを入れる

ザ・検証

【今回のテーマ】

気合いとは何か？

～遊びも恋も勉強も検証も、小便に血が出るまでやったことがあるか？～

「気合いだ！　燃えろ！」と絶えず大声をあげているイメージがアニマル浜口選手にはある。気合いと大声、一見密接な関係がありそうでじつは何も関係ないのではと思いがちなこの事柄について浜口選手はこう述べている。「大きな声を出すのは、肉体的にもいい。しじゅう大きな声を絞り出すようにしてると、心肺機能が高まる」と。浜口選手が大きな声をあげるのは決して相手をびっくりさせようとか、威圧しようかとかそういった類のものではなく、心肺機能を高めるためだったのだ。

しかし、浜口選手が大声を出す理由がわかったところでどうしようもない。今回の検証は「気合い」の検証だからだ。





構成／せきしろ



気合いとは？ その1

「俺は機械に弱いから、運転免許を取るのは大変な苦痛であった。女房に言わせれば、さすがの俺も当時は元気がなかったらしい」そんな浜口選手は気合いについてこう語っている。

「たとえば電話のベルが鳴っても、俺は受話器をすっと取ったりしない。受話器を取る前に『よしっ』と気合いを入れて、それからパッと取り上げるようにしている。電話だって真剣勝負、どんな電話がかかってくるかわからないからだ。同じ『はい、浜口です』と言うのでも、気合いが入っているのといないのとでは、相手に与えるインパクトはまるで違う」

「電話を取るときまで気合いを！　それってただ電話が苦手なだけでは……」、そう思った読者も多いことだろう。それはそれで間違いではないと思う。

が、浜口選手の場合「俺はトイレに入るときだって、ドアを開ける瞬間一拍おいて、気合いを入れてから入る」「飯を食うときも『よし、食うぞ』と気合いを入れてかかる」「寝るときも『これから寝るぞ！』と叫べ！」と一日中気合いを入れているのだから、電話が苦手云々という結論では済まされないのではなかろうか。浜口選手曰く、こうして緊張感を自らに与えているらしいのだが、一緒に食事をしているときに突然「よし、食うぞ！」と気合いを入れられたら、周りの人も色んな意味の緊張を感じるに違いない。

つまり、自分にも緊張感を与えるものが気合いなのであろう。そして、自分にのみならず周囲の人にも緊張感を与えてしまうことが、浜口選手が変わった面白いおじさんにみえる理由なのではないだろうか。



気合いとは？ その2

「悩みがあるなら、毛が抜けるまで悩み続けろ」と主張する浜口選手だが、気合いについてこう語ってもいる。

「気合いを入れようと、神奈川県の湯河原にある滝に打たれに行った。厳寒期のことだから、滝に当たるのは冷たいなんてものじゃない。全身針で刺されてるような痛みだ。そのうち痛さが極限までくると、頭がボーっとしてくる。意識が薄れていきそうになる中で『俺は死ぬんじゃないか』という不安が襲ってくる。『このまま凍死してしまうんじゃないか』と本気で思った。しかしその瞬間、『いや俺は死なないぞ。俺は生きるんだ』と、『イヤーッ』とばかりに体中に気合いを込めた。俺だけ、真冬の滝の凍るような冷たさに打たれ続け、凍死することも意識を失うこともなかったのは、ひとえにこの『俺は死なないぞ。俺は生きるんだ。大丈夫なんだ』と気合いを入れ続けたおかげだと思っている」

ここでの気合いとは「自己暗示」の一種でもある。この種の気合い入れならば、誰もが一度は経験があるのではないだろうか。〝気合いとは？　その1〟で述べた気合いよりは実践可能だし、実戦的と思われる。しかし、浜口選手はこれだけでは終わらない。

「このときの気合いをいつまでも覚えておこうと、湯河原の滝に打たれた感覚を思い出すようにした。それも半端なイメージしかできないならやる意味がない。ここはひとつ、ナイアガラの滝に打たれている自分をイメージしてみようと考えた。その迫力は湯河原なんてもんじゃない。そんな滝に打たれている自分をイメージしてみようと考えた。何しろイメージの中とはいえ、世界最大級のナイアガラの滝だ。その迫力は湯河原なんてもんじゃない。そんな滝に打たれているのは、このアニマル浜口だけだ。『俺はすごいんだ、俺はすごいんだ。滝ごときに負けてたまるか』とそう思い、気合いを入れることで、自分への自信をどんどん膨らませていったのだ」

この尋常じゃないほどの想像力に驚かずにいられない。浜口級の気合いを入れるためには湯河原の滝をナイアガラの滝に置きかえるほどの想像力が必要なのだ。言いかえれば、浜口級の気合いを入れないのならば、そんな想像力は要らないということにもなるが。ともかくにも、自己暗示もまた気合いの一つであり、変わった面白いおじさんかどうかを決める一つの要因として想像力のスケールの大小があるということが理解できたのではないだろうか。

ちなみに浜口選手は「最近では富士山の山頂に立ち、俺が天と地と、すなわち宇宙と一体となるイメージをトレーニングしている」らしい。



気合いの入れ方

気合いのメカニズムがわかったようでわかっていないのに、わかったフリをして最後に「気合いの入れ方」について書くとしよう。「言いたいことがあるなら、近所に響き渡るくらい大声で言え」と主張する浜口選手が気合いの入れ方について「気合いは『じゃあ入れてみるか』といって、入るもんじゃない。また、やみくもに『ウォーッ』と入れようとしてもだめだ」と語っている。気合いを入れるためには「ためを作ること」が大事らしい。

「たとえば海で泳ぐとき、底が深そうで水の綺麗な高い岩場を見つけたことがある。『おっ、いいぞ。さあ飛びこもう』と思ったが、そこで一拍置いたのだ。『待てよ、本当に安全なのか』と考える。よく見たら切り立った岩場で、下手すると死んでしまうかもしれない。飛びこんでから気づいたのではもう遅い。だから俺は、いくら泳ぎに自信があっても必ず一拍間置くことにしている。その時間に、ここから飛び込んでも大丈夫か、時計をはずしたか、といったことを考える。それで大丈夫だと判断してから『よしっ』と飛びこむから、飛びこむときは他のことを一切考えずに、気合いを入れて飛び込める」

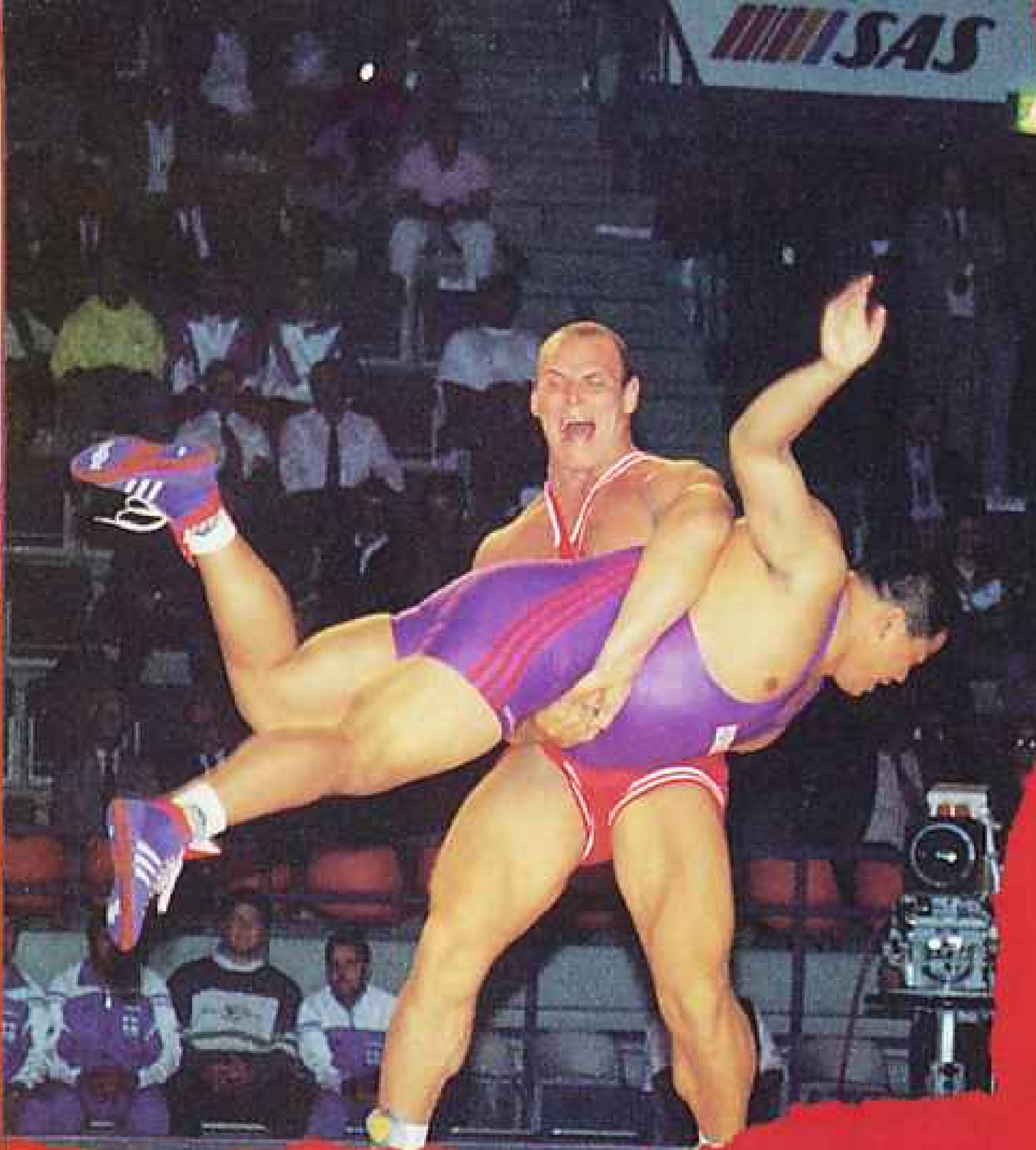
この例え話だけを読むと「これって気合いの入れ方じゃなくて、ただ単に注意力不足の人がそれを克服しようとしているだけでは」と思いがちだが、そう考えるか否かは読者諸君の自由だ。とりあえず、一拍のタメが気合いを入れ、かつ時計を濡らして駄目にしない重要な時間となるのである。

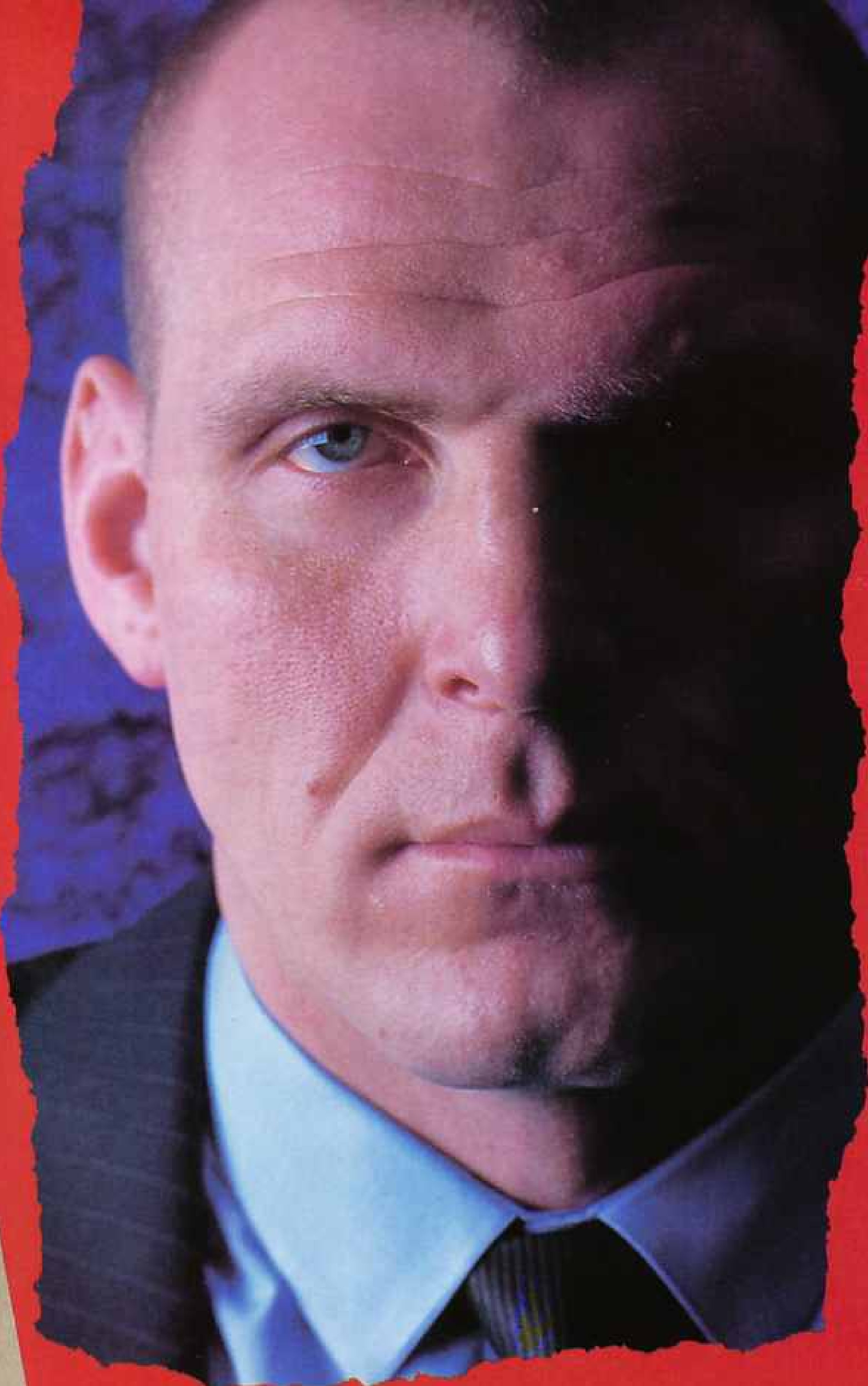
最後にもうひとつ「頭の毛を剃ると、お坊さんではないが、頭に宇宙の『気』が入りやすくなるから、なおさら好都合だ」という浜口選手の言葉を付け加えておくので、気合いを入れるときの参考にして欲しい。

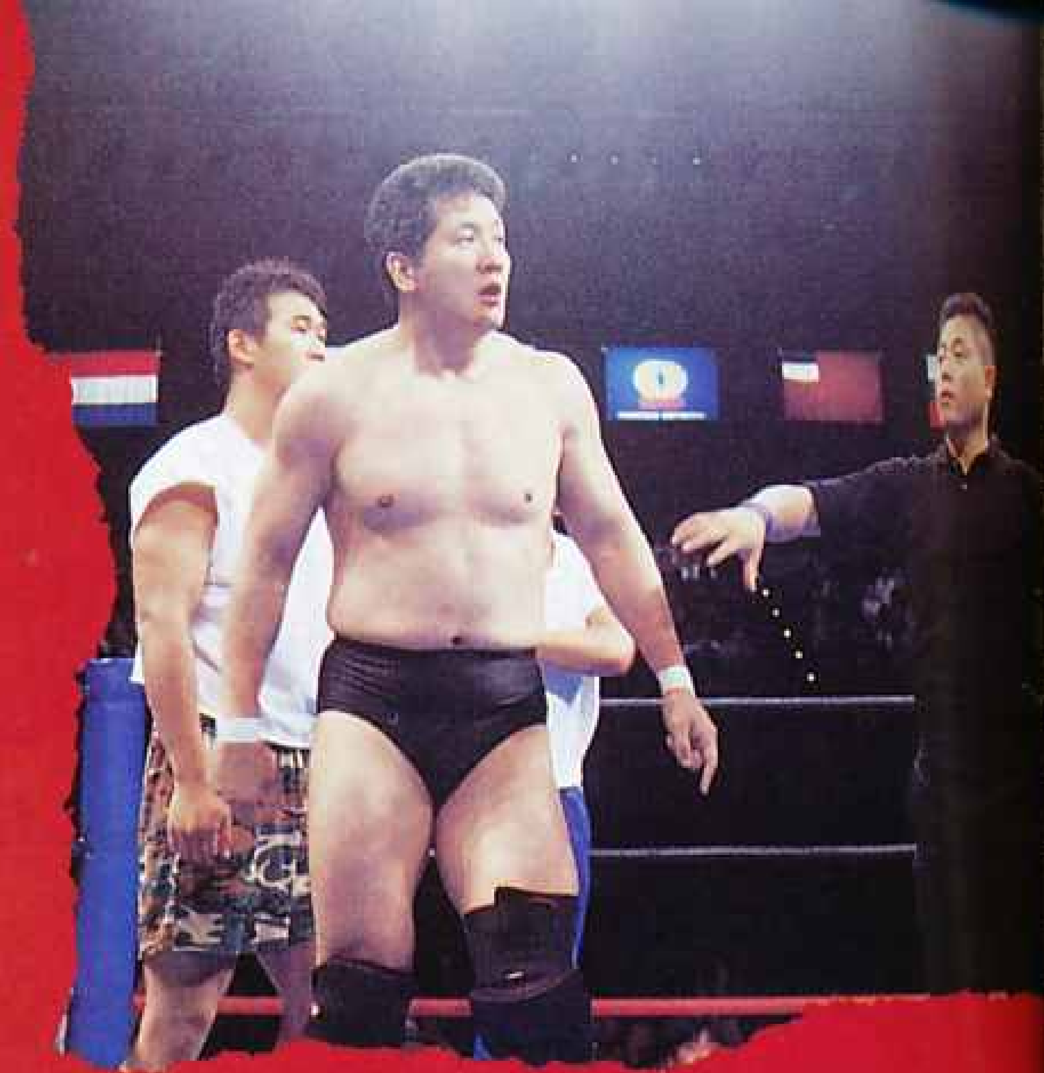
今号の検証結果

「ランニング・エルボーを思いついたのはテレビのCMで、画家の岡本太郎さんが『芸術は爆発だ』と叫んでいるのを聞いてからだ。俺はそれを聞いて、『これだ！』と思った。そうだ、プロレスも爆発なんだ。爆発しないようなレスリングはだめだ。ダダダダダンとリングを走っていって、バーンと相手にぶつかっていく爆発力とインパクト、それをイメージして編み出したのが、このランニング・エルボーなのだ」と、ランニング・エルボー誕生秘話まで書いてある浜口選手の著書をもとに行った気合いの検証はいかがだっただろうか。結局、気合いとは何なのか結論することはできなかったが、それは私の今後の課題にするということで、ここは逃げるとしよう。いつかまた気合いを検証する機会に恵まれたならば、そのときは必ず結論を出すというあいまいな口約束をして終わりにしたい。

プロレス狂の詩











2·21直前!

前田日明 VS アレキサンダー・カレリン

戦慄の大特集!!

本物の脅威が前田日明を襲う!
よりによって引退試合に"人類最強の男"を選んだ
前田日明の左膝は耐えられるのか!?


格闘 LAST VOYAGE

CONTENTS 1 本誌独占!!
前田日明、アメリカ特訓リポート&インタビュー

CONTENTS 2 静かなる脅威
アレキサンダー・カレリン独占インタビュー

CONTENTS 3 「時は来た!」 浅草キッドの前田日明応援"祭り囃子"激励文!

CONTENTS 4 特別企画 京子、突然の号泣! アニマル浜口&浜口京子ハラワタ対談



「何の因果の素手ゴロ稼業」

格闘 LAST VOYAGE



本誌独占!!

引退試合（カレリン戦）前のアメリカ特訓リポート&インタビュー敢行

前田日明 in USA

取材＆文＆聞き手／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

4月に出場が噂されていた〝命がけ〟のヨットレースに関しては、いまだリングス側からは正式発表はない（今回は参加見送りと一部で報道）。

それもそうだ。前田日明は、格闘技生活〝最後の大航海〟一本に照準を絞り、すでに帆を揚げて出帆しているのである。

目指す地は、〝アレキサンダー・カレリン〟という、この約12年間は人類がたどり着いたことのない大海原である。

1月中旬、日明兄さんは大航海の途中でアメリカのシアトル郊外にあるベルビューという街に寄港した。カレリン戦に向けての特訓……という時代がかった言い方よりは、本格調整と言った方がいい。それが目的である。

ここで日明兄さんは、K―1のフランシスコ・フィリォ、グラウベ・フェイトーザ、佐竹雅昭、そして高阪〝TK〟剛、モーリス・スミスに付いたこともある名トレーナー、ノボル・〝ケビン〟・ヤマザキ氏のサポートによって、「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」というメニューをこなしている。

昨年7月のリングス・ラストマッチの時、日明兄さんは、ある有名な宇宙人から手紙によるメッセージをもらった。

「キミと一緒に闘える日を僕は待っている。もしかしたら、かつてハヤタ隊員と合体したようにキミと合体することになるかもしれない。その時はよろしく頼む。日明さんもまだまだ闘うこともあるだろう。身体に気を付けて頑張ってくれ。さようなら」

というようなことが、その手紙には書いてあった。

差出人はウルトラマン！（いや、これホント＝本誌NO．11参照）。

ということは、今回カレリン戦に向けて合体したケビンさんはウルトラマンの変身した姿なのか？　いや、それは明らかに違うとしても、ケビンさんはその筋ではウルトラマン級の才能を持つ優秀な人物であることは間違いない。そういえば、ケビンさんの本名はノボル・ヤマザキ。僕と一字違いで、しかも偶然にも出身地が同じ豊島区で一緒である。そうきたら、才能があって優秀なのは当然なのだ（いや、これホント）。

なにせケビンさんには、格闘家だけでなく、大リーグやNFLといった怪物のようなアスリートたちを何人もサポートしている実績がある。

渡米してからの日明兄さんの1日のスケジュールは、午前中は「ワシントン・インスティテュート・オブ・スポーツメディシン」というところで行われる科学トレ。昼からは「アイアン・ワークス・ジム」でのウェイト・トレ。夕方からは「モーリス・スミス　キックボクシング&サブミッションセンター」でのスパーリングと3部構成になっている。このメニューを作成したのがケビンさんで、このメニューを「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」と呼ぶ。

午前中の科学トレの主だったトレーニングは、日本のアスレチック・ジムに置いてあるものよりも大型で高度な〝スーパー・トレッドミル〟というランニング・マシーンを使ってはいるものの、見た目はただ走っているだけのように見える。が、ここで行われていることは、日本なら医学療法に分類されるものだ。TKもここを〝クリニック〟と呼んでいる。要するに、世界でも類を見ない高度な理論とデータに基づいたトレーニング&ケアを行うところなのだ。

つまり、身体に負荷をかけて筋肉を付けたりするのが目的ではなく、〝神経を鍛える〟。といったらいささか語弊はあるものの、「頭で考えてることと身体の動きのギャップを埋めるため」のトレーニングだと思ってもらえばいい。

いくら筋肉が付いていても、「こう動け」という脳からの命令を伝達させる〝神経〟をうまく使えないことにはその筋肉はムダになってしまう。筋肉のパワーをフルに引き出すためには、普段使っていない神経を意識して使えるようにしなければならない。その普段使っていない神経を呼び覚ますためのトレーニングといった方がわかりやすいだろうか。

ケビンさんやTKの話を聞いて、そのトレーニング理論には素直に「凄いな！」と驚嘆したのだが、僕の脳味噌の神経はまだ呼び起こされていないのか、これ以上はうまく説明することができない。

が、いずれにしても、世界のトップレベルにある格闘家・TKも初めてこのメニューをこなしたときには「最初の1週間はキツかった」「これをやると頭が疲れる」と言っているわけで、とにかく凄いということはわかってください。わかりやがれ！

で、この科学トレで、身体に対する意識レベルを上げ、心拍数を一定させ、代謝を良くする。そうなれば午後のウェイト、夕方からのスパーリングでの技術練習も効果がさらに得られ、最終的には確実にスピードが付き、運動能力、潜在能力、ひいては格闘能力も上がってくるというわけだ。

1・8UFCでのTK、昨年12月K―1での佐竹にもその効果は現れている。端からみるよりも本人の意識の中で如実に効果が上がっているのがわかるという。

そういうわけで、よかったよかった、凄い凄～いと思っていたら、取材2日目、スーパー・トレッドミルの上でランニングしている日明兄さんに突然異変が起きた。人工ジン帯が入っている左膝をかばうため、ここ5年は全力で走ったことのない兄さんがスピードを上げていった時、反対の右足のふくらはぎを痛めてしまったのだ。スタッフ、取材陣にも冷たい緊張が走る。

兄さんはかなり痛がってはいたが、同行した針治療の森田雄一先生がすぐに電気針でケアし大事には至らず。そのあとは無事にウェイト・トレも行えた。

では、その緊張の一瞬から数時間後に行われた日明兄さんのインタビューinシアトルをお届けしよう。

——シアトルでのトレーニングが4日過ぎましたけど、どうですか。

前田　少し考え方が変わってくるっていうのもあるし、特にこの4日間では〝走れるんだな〟っていうのがわかって、凄く良かったね。

——左膝の手術をしてからは、「走るのはあきらめてた」って言ってましたからね。

前田　手術をしてしばらくは調子良く走ってたんだけど、調子が良かったらタッタカタッタカいっちゃうんだよ。そういうのが裏目に出て、ある日カクッ！　ときちゃうんだよね。そういうのを繰り返してるからさ。だんだん走るのが怖くなってきてたからね。あとは身体のバランスが狂ってるってのが自分で凄いわかるんですよ。

ウェイター（もちろん外人）　ドゥ・ユー・ハブ・エニ・ドリンク？

前田　あ〜、なんにしようか？　ミネラル・ウォーター。あ、やめた。ミルク！　ロー・ファット・ミルク！

——ロー・ファット・ミルク！　子どもみたいですね、なんか（笑）。

ケビン　砂糖は入れちゃダメですよ（笑）。

前田　はい（笑）。なんの話だっけ？

——バランスの話です（笑）。

前田　そうそう。自分のバランスが狂ってるのが凄いよくわかるんだよ。無意識のうちに左足をかばっちゃうんで、右足に重心がかかる。そうすると上半身は左にひねるようになっちゃうんだよね。だから、それを基準に技とか出すんで凄くバランス悪いし、うまく動けないんだよ。左足のポテンシャルが悪いっていうのが常々あったからね。

——なにせ、ガラスの膝ですからね。

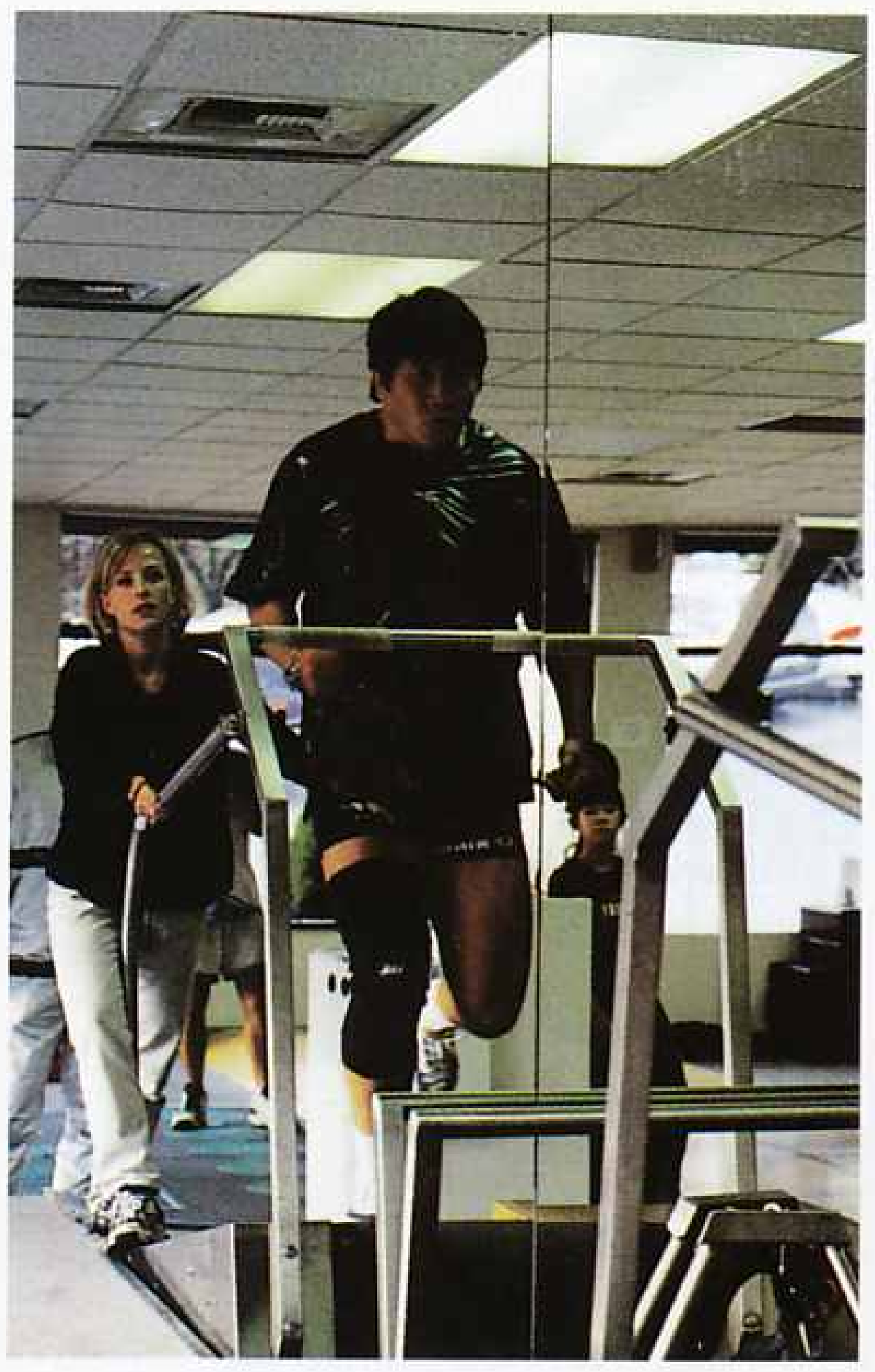
前田　いままでは、それでも騙しだましやってきたけどね。

——ケビンさんのトレーニング方法は、やってる本人も驚きの連続なわけですか。

前田　最初、高阪から「ケビンさんのトレーニングはいい」って聞いて、「俺、走れないけど、それでも大丈夫か？」って聞いたら、「大丈夫ですよ」って言うんだよ。「そうか」って思って来てみたら、「走らないとダメだ」って言われてさ（笑）。初日なんかおっかなビックリで、「怖いな怖いな」って気疲れしちゃったね。でも、昨日あたりからだんだん慣れてきたっていうかね。

AKIRA MAEDA

走れなかったのが走れるようになったり、感覚が良くなってきてるのがわかるね



——ケビンさんのトレーニングを前田さん的にはどう解釈してるわけですか。

前田　「頭で思ってるようには身体は動かない」みたいなことを、よく言うじゃない。そのギャップをピチッと合わすトレーニング。感覚と実際の動きのズレをなくすトレーニングだね。

——午前中は、素人が見ると、ただ単にランニング・マシーンで走ってるように見えるけど、ケビンさんの話を聞くと実に合理的、理論的、科学的ですよね。高阪さんは、身体も疲れるけど、自然と普段使わない神経を使うようになるから、凄く頭が疲れるっていうようなことを言ってましたね。

前田　そのお陰か、高阪は動きが凄い良くなった。タックルが全然早くなったよ。リングスにとってもケビンさんとの出会いは大きかったね。田村（潔司）も、やっと体重を増やし始めてきたから。増やしてもスピードを落とさないようにできるからね。

——そうなると、カレリン戦では全盛期の前田日明が見られると期待していいですね。

ケビン　オオー！　プレッシャー与えますねェ（笑）。

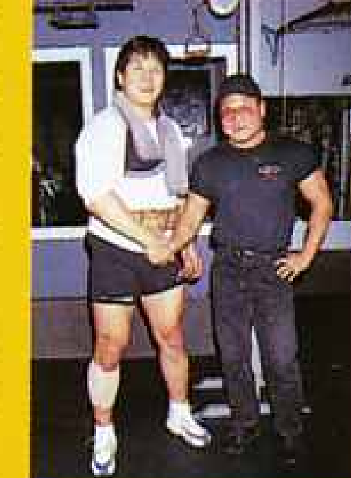
——もうガンガン、プレッシャーを感じてもらいたいですね（笑）。

前田　全盛期っていうのも大袈裟やね（笑）。一番の目的は狂ったバランス感覚を直したかったからね。そういうのをトータル的にやってるでしょ。いいよね。今回も夕方からはモーリス・スミスのとこでスパーリングをやろうと思ってたけど、今日右足やっちゃったからね。

——あれはドキッとしましたね。一瞬、左膝がイッちゃったのかと思って。

前田　〝走れる！〟と思ったら、なんか嬉しくなってどんどんスピードを上げちゃったんだよ（笑）。そうしたら、右足のふくらはぎに何かがビシッと当たったような衝撃があってね。変に肉離れみたいにならなくて良かったけど、今回は大事を取ってスパーリングはなしって方向になるかもね。次回（1・23武道館大会のため一時帰国し、1月下旬より再渡米。約3週間滞在する予定）来たときは、高阪もいるし、モーリス・スミスのとこでみっちりスパーリングができるからさ。そこで100%に近いポテンシャルに持っていきたいね。でも、ケビンさんとやってると、やっぱり面白いよ。ウェイトでもパッと見て、「もう一発いけるな」って回数を増やしたりする判断は凄いね。

トレーナー、ノボル・〝ケビン〟・ヤマザキ氏の語る前田日明



「前田さんの調子は確実に上がってきてますよ。ウェイトでも、彼はベンチプレスで200キロも上げた人だから、昔できたことを身体で覚えてるでしょ。いまはビジネスとかに追われて身体が付いていってない状態だから、普通ならここで『こんなはずじゃない』とイライラするはずなんですよ。怪物のようなNFLのトップクラスの選手でもそういう人はいますからね。でも、前田さんはビッグ・ハート。ハートが大きい。彼の身体はイライラしてるはずなんだけど、精神的には非常にリラックスしてる。焦らずに、〝いままでの経験から見れる人〟ですよね。2月21日には凄くいい状態まで持っていけるはずです。でも日本に戻ってビジネスに追われてトレーニングができないと、やってきたことが無駄になってしまうから、それが心配ね。忙しくならないように私からもお願いしたいですよ（笑）」

——環境が変わったたっていうのはどうですか、気分的には。

前田　ラクだね。アホな社員を怒る必要もないし（笑）。

——日本のわずらわしさから逃れて（笑）。

前田　それでも夜、こっちから会社に電話したら「このバカタレ！」っていうことになるんだよ（笑）。

——太平洋を越えてまで怒ってるんですか？（笑）。

前田　怒ってる怒ってる（笑）。

——疲労困憊の状況でも、国際電話で社長業。国際的ビジネスマンだなぁ（笑）。

ケビン　見てると前田さんも大変だなぁって思うけど、ホントはやめてほしいんだよね、そういうことは（笑）。少しの時間だけど、朝の時間を損しちゃうんですよね。

——それは全前田ファンの願いでもあるんじゃないですか。せめて引退試合が終わるまでは社長業をやめてくれっていうね（笑）。

前田　ま、そうも言ってられないやろ。い



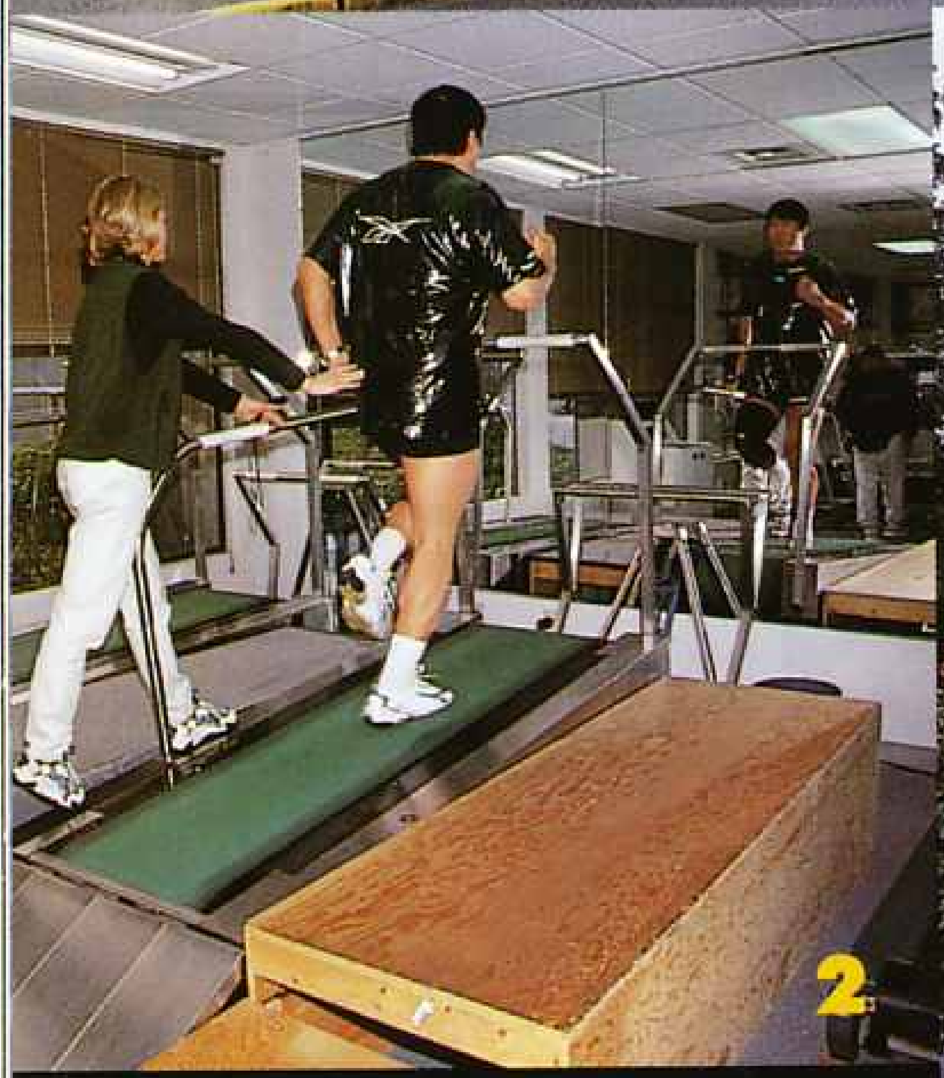
1



3



4



2



5



6



7



8



9



10



11

1.午前中の科学トレは、ここ「ワシントン・インスティテュート・オブ・スポーツメディシン」で行われている
2.最高28マイル、100メーターを7秒ちょいで走る計算のスピードと（通常のマシーンは最高12マイル）角度は45度まで調節できる“スーパー・トレッドミル”の上でランニングをする日明兄さん。走れ、アキラ！
3.取材2日目の午前中、膝を痛めている足の反対、右足のふくらはぎを痛めてしまった日明兄さん。すぐに電気針でケアし、大事には至らなかった
4.“走れた”嬉しさからか、余裕のある笑みを見せる兄さん。このままカレリン戦に向けて調子を上げていってほしいものである
5.左から、ケビンさんの補佐役、モリ・フミさん、和田良寛レフェリー、ここ一番で頼りになるＴＫ、ケビンさん、兄さんを置いて森田先生。カレリン戦に向けて結成された「チーム・アキラ」。「ワシントン・インスティテュート・オブ・スポーツメディシン」の看板の前だ日明（ダジャレ失敗例）。山本宜久も同行していたが、運悪く風邪でダウン
6.午後、食事を取ってからウェイト・トレが行われる「アイアン・ワークス・ジム」の外観。ベルビューで一番古いウェイト・ジムだ
7.背筋を鍛えるにもケビンさんの理論に基づいた的確なアドバイスが飛ぶ。ここでのウェイト・トレにも午前中の科学トレが生きてくるのだ。和田レフェリーとチームを組み、インターバルをうまく組み込みながら進めていく
8.「俺、ウェイトには自信あるで」と言う兄さんは、ベンチで200キロを上げたこともある
9.回数や重さに関わらず、ユックリと的確にパワーを身体に覚えさせるケビンさんのアドバイス。「日本のウェイト・トレとは全然違いますね。すべてが理にかなってるんですよ。凄いです」とはウェイトにも造詣の深い和田レフェリーの弁だ
10.バーベルとプリーケーブルを交互に行う日明兄さん
11.日明兄さんもケビンさんのアドバイスには素直に「はい、はい」とうなずいていた。社長ではなく、ファイターとしての顔がそこにあった

まも全身筋肉痛みたいな感じだけど、走れなかったものが走れるようになったり、自分でも感覚が良くなってきてるのがわかったりするから、凄く嬉しいね。

—じゃあ、気分的にはポジティブ?

前田 そう、ポジティブ。

—シアトルまで来たかいがありましたね(笑)。

前田 あったあった。

—でもこっちは、聞くところによると、1日中晴れる日は週に1~2日らしいですね。

前田 知ってる? シアトルっていうのは、年がら年中こんな天気だから、アメリカで2番目に大きな精神病院があるんだって。

—ガハハハハハ! どういう関係があるんだ(笑)。

前田 天気が悪いから憂鬱になる人が多いんや(笑)。

—シアトルに訴えられますよ(笑)。でも、今日の前田さんは、昨日の前田さんの顔より全然イイ顔してましたよ。

ケビン 昔の前田さんの雰囲気が出てきてますよ。それは感じますよ。

—ウェイトとか見てると、負けん気も出てきてるし(笑)。

前田 へっへっへ。でも、昨日もスッキリしてたんだよ。朝もユックリだったし。その前の2日間が6時起きとか、そんなだったからさ(笑)。

—こっちでは完全にトレーニング漬けの1日ですか? 夜はどこにも行ってないんですよね(笑)。

前田 そんな暇あるかい! バス・ルッテンと高阪の試合(1・8/UFC)をビデオで見たくらいやね。

—ああ。せっかくだから、その一戦の感想を聞かせてください。

前田 高阪はちょっとリズムが持続できなかったね。もう一つはUFC側がルッテンを勝たせたかったんじゃない。延長する理由がなかったじゃない、ハッキリ言ってね。

AKIRA MAEDA

ズッと高阪が上になってたからね。高阪が殴ってるのにブレイクされたりね。最初の12分はズッと高阪が攻めてたでしょ。あれだったら延長する理由がないんだよね。一番最後のシーンも、パンパンって当てられてタックルに行こうと思って、足を取りにいったら蹴りが飛んできて、それを避けて尻餅をついたら、それでダウンでしょ。無理矢理止められたわけでしょ……まぁ、どうでもいいけどな。

—どうでもいいけどって、いいことないじゃないですか(笑)。

前田 しょうがないやんけ、終わったもんは(笑)。

—前田さんの中には、vsパンクラスって意識はあったんですか。ルッテンがパンクラスの元王者だとかの対抗意識というか。

前田 別になんにもない。全然ない。パンクラスがどうのこうのっていうよりも個人だからね。バス・ルッテンがたまたまパンクラスにいて、成績が良かったってだけでしょ。大体ルッテンは、最初はうちがオランダからブッキングする予定の選手だったからね。

—今後は、パンクラスとも技術提携なり、試合の交流なりをしていかざるを得ない状況が来ると思うんですよ。

前田 まあ、なるようになるでしょ。どっちでもいいよ、俺は。あいつらは二次元に住んでて、俺は四次元に住んでるだけ。数字で言ったらあいつらは二進法(笑)。

—デジタル(笑)。

前田 デジタルだよ。俺は十進法!

—アナログ(笑)。

ウェイトレス ウッジュウ・ライク・サム・イート?

前田 まだミルクが来てないんだけどな。

ウェイトレス ミルク? スモール or ビッグ?

前田 ビッグ、ビッグ。それと……ケビンさん、白身だけだったら卵は食べていいですか?

ケビン ああ、OK! いいですよ。(英語で白身だけのスクランブル・エッグを早口で頼む)

ウェイトレス ハウ・メニー?

前田 ファイブ・エッグ。それからポテト。ケビンさん、チキンはダメですよね?

ケビン ダメですね(笑)。

前田 じゃあ、パンケーキ。

—パンケーキ! ホントに子供みたいですね(笑)。こんな前田日明がアメリカで見られるのは幸せですね(笑)。

前田 ケビンさんには食事のアドバイスももらっててね。コレとコレしか食っちゃダメって感じやね(笑)。一番辛い禁止項目は俺の大好きな炭水化物。俺はご飯だけあれば、あとは何もいらないっていう、ご飯人間だから。

—ご飯人間! いい響きです(笑)。

前田 俺の目指してるトレーニングの内容では炭水化物はダメ。コメ人間の俺は、若い頃イギリスに行った時もカリフォルニア米を自分で炊いてたからさ。俺らは、新日本の道場にいた頃でも、ご飯をいっぱい食べるヤツが一番偉いって世代でしょ。いっぱい食う奴は尊敬の眼差しで見られるからね。親からもホメられるしね(笑)。

—「キレイに食べるわね」(笑)。

前田 先輩たちにも、「オォ! 前田、食うじゃないか!」って言われて。で、また無理して食っちゃうんだよ。

—ムキになって(笑)。

前田 アホみたいにさ(笑)。

—そういうこと一つをとっても、やっぱり時代は変わってるんですね(笑)。

前田 そうそうそう(笑)。

—ベンチプレスも昔の道場だと回数で競ったり、ムキになって重いヤツを上げたりとかだったのが、ケビンさんの方法は違いますよね。

前田 だから、追い込み方が違うよね。こっちに来て身体の代謝が良くなってるみたいだから、インターバルがドンドン短くなってるよね。

—それもこれも、当然、カレリンを想定してのトレーニングなわけですよね。

前田 カレリンがどうのこうのっていうのもモチロンあるんだけど、自分のポテンシャルを最大限に使えるように整備しとく。むしろそっちが目的だね。ポテンシャルを最大限に上げて、あとは自分の経験というモノサシで相手を測っていくしかないよ。

—だけど相手は11年間無敗ですよ。何か対策を立てないと。

前田 夫婦喧嘩で負けてるかもしれへんやんけ(笑)。恐怖感とか威圧感だけを大きくしても試合にならないよ。でしょ?

—ガハハハ! そうだ、喧嘩って単語を聞いて思い出しましたけど、こっちに日本刀を持ち込んだんですよね。前田日明がアメリカまで日本刀を持ってきた理由を読者に説明してあげてください(笑)。

前田 高阪にやるため。これからアメリカで勝負するんだったら、大きな意味でキャラクター勝負だからね。前に高阪に「お前は武田信玄の二十四将の直系の子孫なんだから、そういうのを売りにしてやった方がいいぞ」「俺は日本刀いっぱい持ってるから持ってけ」って言ってね。だけど、あいつさ、空港に日本刀を持っていったら捕まるってビビっちゃって持っていかなかったんだよね(笑)。


—ガハハハ! そういえば、さっき高阪さんに「あの刀で人を斬る時はな……」って教えてましたよね(笑)。

前田 あの刀はね、固いものより人間を斬れるように打った刀なんだよ。

—シアトルの街で、なんて話をしてるんだと思いましたよ(笑)。「いや、別に人を斬ろうとは思ってないんですけど」って答えてる高阪さんもおかしかったですけどね。

前田 クックック(笑)。

—ま、刀の話はともかく(笑)、あと一試合でリングから降りるわけですけど。



11年間無敗？ 夫婦喧嘩で負けてるかもしれへんやんけ！

前田　なんか懲役が終わりみたいで嬉しいね（笑）。

——懲役！　感傷的になったりはしないですか。

前田　そういうのは別にないね。リングス・ラストマッチの時（98・7・20）は、カレリン戦はハッキリ言って無理なんじゃないかと思ってたからね。そういえば、カレリンはサンボのジュニアの大会で優勝してるらしいで。

——じゃあ関節もそこそこ知ってる。

前田　でも、ブン投げて勝ったのか、関節の攻防をして勝ったのかわかんないからね。

——ただ、あれだけの実績を残した選手ですから頭は非常に切れるわけですよね。

前田　カレリンが好きなものはドストエフスキーって言ってたよ。

——智力対智力になるのか、肉体対肉体なのか、精神対精神なのか、それとも総合力の闘いになるのか、非常に楽しみですね。

前田　やってみないとわからないね。ヘタ打つと子供扱いされるからな。「こんなことなら、ロスのヒクソンのところに道場破りに行った方が良かったよ」ってファンに言われんようにしないとな（笑）。

——ガハハハハ！　だけど、前田さんが引退試合でインパクトを与えすぎて、リングス的には、そのあとがまた大変ですね。

前田　まあ、なんとかなるでしょ。俺が一人でやった旗揚げの時に比べたらなんてことないよ。いまのマット界は混沌とし過ぎてるからね。でもね、これからとんでもない展開があると思う。中国に散打ってあるじゃない。あれをいまね、国家競技にしようとしてるんだよ。それで、散打自体も中国の全武術を統合してね、誰が一番強いかわかるようなルールにしてやってる競技なんだよね。で、何を目論んでいるかと言ったらオリンピック。だから、散打の流れが、うちらがやってる総合格闘技とか、UFCとかに流れてきたら、どこまで行くかなっていうのはあるよね。

AKIRA MAEDA

このシアトルに来てね、俺って『どろろ』だったんだな、と思ったよ

——散打が総合にとってのキーポイントになる可能性があると。

前田　キーポイントになると思う。競技人口が全然違うからね。

——不思議なことに前田さんが目をつけるものと石井（和義）館長が目をつけるものって一緒の時期ですよね。去年の夏くらいに館長も散打の名を口にしてましたから。

前田　石井のおっさんの場合は、俺がどっかで言ってることを聞いてマネしてるだけや。石井館長は俺に憧れてるんだよ（笑）。トーナメントとか、ランキングとかさ、リングスでとっくにやってるよ。全部俺が考えたんだよ。リングスの基本理念に「誰が一番強いかリングスが決める」ってあったでしょ。あれはどういうことかと言うと、「誰もが闘える場を提供する」っていうことなんだよ。そういった基本理念と格闘技の真のスポーツ化ということも含めて、その試金石としてリングス・ルールの確立っていうのがあったんだけど、〝誰もが闘える場を提供する〟っていう部分をもう少し強化してもいいような気がするよね。

——ある意味、リングス自体が〝ネットワーク〟という初心にかえるというか。

前田　選手のネットワークは凄いよ、うちは。ヒクソンのゲームのCMって誰がやったか知ってる？　あれはね、実は俺が演技を教えてやったんや（笑）。

——ガハハハ！　俺が演技をつけた（笑）。「十年早ぇんだよ」っていう台本も前田さんが書いてたら笑えますね（笑）。例えば『PRIDE』みたいな大会を前田さんがプロデュースしてくれると面白いですよね。

前田　最終的にはリングスもあっちの方に行こうと思ってるんだよ。だけど、それをやるためにはちゃんとした基盤がないとできない。基盤のない奴が勝手にやってると金の問題ばっかりになるねん、足もと見られて。

——リングスがそういう形になれば凄いスッキリすると思いますよ。

前田　選手を抱えてっていうのもどうなのかなってところもあるからね。もう100%実績だけでマッチメークするっていう方向に針を振る転換期なのかなって思うね、正直言って。

——マット界だけじゃなく、日本型経営の構造そのものも変わってきてますからね。ケビンさんは「トレーニングもキツくなったら無理をしないでやめる。〝根性！〟とかは理解できない」って言って笑ってたんですけど、そういうところの価値観も変わってきてるのかもしれないですね。

前田　でもね、できる努力はしないとダメだよ。必要な努力をしてる奴はみんな認めるよ。必要じゃない努力をやってる奴に限って鼻の穴をふくらませて歩いてるんだよ。

——前田さんにとって、いま必要な努力ってなんですか？

前田　必要なのは人！　人のネットワーク。運がいいとか悪いとか言うでしょ。運が悪い時はね、運の悪い人間、必要のない人間ばっかり集まってくる。運がいい時はホントの意味での価値観とか、自分にとってプラスになるような情報を持ってる人が集まってくる。そういうもんですよ。そういう人たちの情報やアドバイスによって十分活性化されるんだよね。それに耳を傾ける。それは必要な努力なんだけど、でも、えてして必要な努力っていうのは、自分にとって耳の痛いことが多いんだよね。

——辛いことも言われてしまう。

前田　そう。だから、ついつい耳の痛くならない、必要のない価値観や情報を選んじゃうんだよ、人間は。

——必要な情報を取捨選択できるようなネットワークをつくるのも努力なんですね。

前田　そうそう。カレリンだって結局はロシアの選手のネットワークでしょ。それには感謝してるんだけど、試合が決まった時には、「まったく余計なことしやがって。俺はこのまま引退したかったんや」って思ったよ（笑）。

——ガハハハハ！　あんなバケモノみたいなの連れてきやがってって（笑）。

前田　そうそう。これで楽になれるはずだったのにってね。一番最後に一番ヒドイ目に遭いそうやんけ（笑）。でも、それも運だよ。チョイスするのは自分の能力なんだけどね。成功するっていうのは、〝必要な時に必要な努力〟ができる才能があるってこと。必要であるものと必要でないものを認識できる認識力があるかだよ。でも、ついつい気づかないもんなんだよね。

——じゃあ、まさにここにいる状態が、〝必要な時に必要な努力〟をしてるということじゃないですか、前田日明にとってみれば。

前田　そうなんかな。だとしたら、これは高阪の、こっ、こっ、コーサカ、コー績ですよ。

——いまダジャレ言おうとして失敗しまし

1・23武道館大会終了後の前田日明のカレリンについてのコメント完全再録！

〈カレリンについて〉

俺はいままでいろんな格闘技の選手に会いましたけど、なんていうかね、初めて見るタイプですね。まあ、試合が決まってよかったっていうのもありますし、もう一つはカレリンと交渉するっていって、周りからいろ

たね（笑）。
前田　へっへっへ。
――ケビンさんも、「普通、引退試合はヨレヨレの選手を連れてきてやるもんなのに、カレリンなんていうピカピカの選手を持ってくるから、ちょっとキツくてもしょうがない」って言ってましたね（笑）。
前田　昨日、うちの人間がフランク・シャムロックと話をしてて「なんで、あんなバケモノみたいなヤツを連れてきたんだ？」って言われたみたいだよ。
――では最後に。このトレーニングが終わったあと、前田日明はどのように変わってると思いますか。
前田　いまよりは全然良くなってる！
――悪くなってどうするんですか（笑）。
前田　ワハハハハ！　昔さ、手塚治虫さんのマンガで『どろろ』ってあったじゃない。
――ありますね。
前田　お父さんが天下を取りたいために自分の子供の手、足とかを百鬼夜行に捧げて自分の願いをかなえようとするマンガ。生まれてきた子供は肉の塊みたいにして生まれてきたんだけど、可哀想だと思ったお坊さんが義手義足をつけて生き延びさせる。成長したその子は旅に出て、妖怪を倒しては自分の手や足を取り戻していくって話なんだよ。これって自分探しの旅なんだよね。このシアトルに来てね、俺って『どろろ』だったんだなって思ったよ（笑）。
――ガハハハハ！　そうか、前田日明は『どろろ』だったのか（笑）。
前田　そう（笑）。「何の因果の素手ゴロ稼業。バカじゃなければ男になれねぇ」ってとこですよ。なんで膝がイカれてるのに、走らなきゃあかんねん（笑）。「走らなくて大丈夫ですよ」って言うから来たのになぁ（笑）。でも、いろいろ動かないとこが動くようになったからね。自分の手や足を取り戻してる最中ですよ。
――やっぱりそんなに怖いものなんですか、走るのは。
前田　怖いよ！　俺の左膝は前十字ジン帯、後十字ジン帯とも人工でしょ。で、後十字の方はもうそろそろ寿命なんだよね。練習で切るわけにはいかないからね。試合で切るんだったらしょうがないけどね。
――切れてしまうとどうなるんですか。
前田　普通に歩くぶんには大丈夫なんだけど、スポーツはできない。
――はぁ～。膝が恐ろしい状態にあるというのをあらためて認識しますね。
前田　「バカじゃなきゃあ、リングに立てねぇ」（笑）。
――ガハハハハ！　とてもシアトルの空の下で言う言葉じゃないですね（笑）。
前田　言葉っていえば、おい、誰だよ！　大仁田（厚）に「生き様」なんて言葉を教えたのは！
――大仁田 vs（佐々木）健介戦を見たんですか？
前田　たまたま夜中にTV付けてたらやってたんだよ。「これが俺の生き方じゃあ～」とか、みっともない。生き様とか生き方なんて言葉を大仁田に教えるなって！　もしくは正しい意味を教えてやれよ。そうとう変なところで覚えてるで、あれ。たぶんね、マンガだとかだよ。『俺の空』とかさ。「男樹」とかもマンガでしょ。



――試合はどう思いました？
前田　大笑いだね。〝なんちゃってレスラー〟やな、大仁田は。でも健介も元気ないなぁ。誰かさんに怒られてもいいから、一発か二発は、思いきり吹っ飛ぶくらいカマしてやればええんや、あんなの。
――では、2月21日、前田日明が思いきりカマしてくれることを期待してます。

【99年1月15日（現地時間）／ワシントン州ベルビュー郊外のレストランにて収録】

※

昨年の10月、カレリン戦が決まったあと、「こんなに忙しくてカレリン戦に照準は絞れるのか？」と聞いたとき、兄さんは、「アレクサンダー大塚だってリングを組み立てて勝ったじゃない。それと同じようなもんだよ。貧乏暇なし！」と言って笑った。アメリカに行ってまでリング外の仕事に追われる兄さんだが、日本にいるより集中できるのは間違いないだろう。

しかし、泣いても笑っても前田日明の闘いが見れるのはあと一戦である。左膝という爆弾を抱えた兄さんは2月21日に〝カレリン〟という港にたどり着けるのか？

いや、ここで心配しても仕方がない。よりによって引退試合に〝人類最強の男〟を選び、計約4週間の「スポーツ・スペシフィック・トレーニング」という〝必要な時の必要な努力〟を終えた前田日明が、最高のポテンシャルでアレキサンダー・カレリンを相手に、心躍る凄みのある闘いを見せてくれることを期待しよう。

2・21横浜アリーナ。前田日明、最後の格闘大航海！

「バカじゃなきゃあ、リングは見れねぇ」

――その闘い、とくと、見届けさせてもらいます。

いろやってたんですけど、やればやるほど彼の凄さとか実質的な偉大さとか、どんどんどんどんそういうものがわかってくるんですよ。壁として、認識として。

そういうの聞くと妙な気持ちになってきてね。なんか同時代にね、で、いま世紀末ですよね。20世紀末、自分なんか1959年生まれでカレリンは67年生まれですからね。で、その頃に生まれて、いろんな偶然が重なって、格闘技というものに自分の一生を捧げて、大半の生活のアイテムとしてまして、お互いにお互いの場所でやってきてるんですよね。そういうのを考えると、妙な気持ちになってきてね。

また試合という形式ではあるんですけど、オレが聞いた中で、一番凄い賞賛とか評価の中では、「古代オリンピックのレスリングを含めて二千年間の中でナンバー1のレスラーだろう」という人もいますよね。そういうようなことを言われる人間を、リングという空間と時間の中で独占して、彼という人間そのものを経験できるっていうのは凄く嬉しいですね。

〈カレリンは投げてから絞めにいくと言っていたが〉

そっちの方がやりやすいですね。反対に、パッと投げて、ガキッと抑え込んできて消耗戦になってきたら、そういう方が怖いですね、俺はどっちかっていうとね。

〈投げは脅威か？〉

うーん。……って言われてるんですけどね、どうなんでしょう。でも、まぁ、プロレスっていうのは良くも悪くも、すごい揶揄の対象とか批判の対象にはなるんですけど、こと受け身の技術っていうものに関しては、日本のプロレス界の技術っていうのは、いまのインディーとかそういうのは知りませんよ。自分が知る限りの、自分がいた頃の新日本プロレスに関しては、まあ、考えてみたらナンバー1じゃないですか。

〈難しいものがあるだろうが、ルール的には歩み寄れそうか？〉

彼本人には問題ないんですよ。ルールはなんでもいいと。周りの人間がオリンピック4連覇間違いなしだろうと言われているんで、今度出場すれば4連覇なんで、ケガをさせたくないっていう、周りの人間がそういう風に神経質になってるんですよね。IOCとか、オリンピック・レスリング協会とか、その辺とちょっと、折衝したいですね。どっちみちやるんだったらお互いに悔いのないように、納得いくルールでやりたいですよね。

〈猪木 vs アリ戦のような、かなり不平等なルールになる可能性もなきにしもあらずなのか？〉

そういうのはない……と思うんですけどね。

〈前田さん自身の調整は？〉


調整はずっとやってますね。1月下旬にね、またシアトルに戻って、3週間ほど科学トレを受けようと思ってます。



1・23武道館を視察に訪れたカレリン

本物(カレリン)降臨!!

アレキサンダー・カレリン独占インタビュー



〝リアル・インテリジェント・モンスター〟が、1・23リングス武道館大会偵察のために遂に来日を果たした。圧倒的な「人間力」を感じさせる、その吸い込まれそうなたたずまいと、ひと言ひと言の奥深さ。決して表面的な笑みを浮かべない〝前田日明、最後の相手〟の生の声を読み込め！

とうとうカレリンに会える。

しかし、取材前に入ってきた情報によると、カレリンは来日してからの取材攻勢で、かなり機嫌が悪いという。

怖い！

あの顔とあの身体に機嫌まで悪かったら、たまったもんじゃない。

怖すぎる!!

しかし、目の前に現れたカレリンは、こちらが拍子抜けするほど、もの静かに話し始めた。

そういえば、1・23のリングス武道館大会をリングサイドで観戦していたカレリンは、観客に向けてリングアナに紹介されたときも、かなり控えめに右手をL字型に上げただけだった。

本当は控えめな男なのだ。

そうなのだ。強い男はいつでも控えめなのだ。

しかし強い男は、たとえ控えめだったとしても、底から滲み出てくる迫力というものが伝わってくる。

カレリンと少し話すと、そんな当たり前すぎることが頭をよぎったのだった。

―来日してからは取材攻勢だそうですが、疲れてませんか？

カレリン それくらいで疲れるような身体は持っていないつもりだよ。

―日本のジャーナリストの印象はどうですか？

カレリン 日本は独特の文化の国なので、それを反映していると思う。非常に具体的な質問をしてくるから、こちらも具体性を持つ答えを出さなければいけない。あまり知的な表現を駆使して質問してくる人はいないね。

―ズバリ言って、バカが多いですか？

カレリン そんな率直に言わなくてもいい。それを言うなら、選手にもバカな人間は多いからね。

―日本はいま〝冬〟という季節ですけど、シベリアは比べものにならない寒さなわけですよね。

カレリン 〝冬〟という季節がどういう季節なのかわからないが、私の住んでるところでは、最近マイナス50°を記録したよ。

―鼻水も凍っちゃうくらいの寒さ（笑）。

カレリン いや、鼻水は出ない。マイナス50°では鼻水は鼻の中で凍ってしまう。

―くだらない質問でスイマセン（笑）。カレリンさんはロシアで〝サン・サヌィッチ〟という愛称で呼ばれてるみたいですけど、その由来は？

カレリン 私の正式の名前はアレキサンダー・カレリンだ。これは呼びにくいので縮めて〝サン・サヌィッチ〟と呼ばれている。また、ロシアに同じ名前のコメディアンがいて、彼が出演した映画の中で〝サン・サヌィッチ〟という愛称で呼ばれていたんだ。そこからもきてるかもしれない。

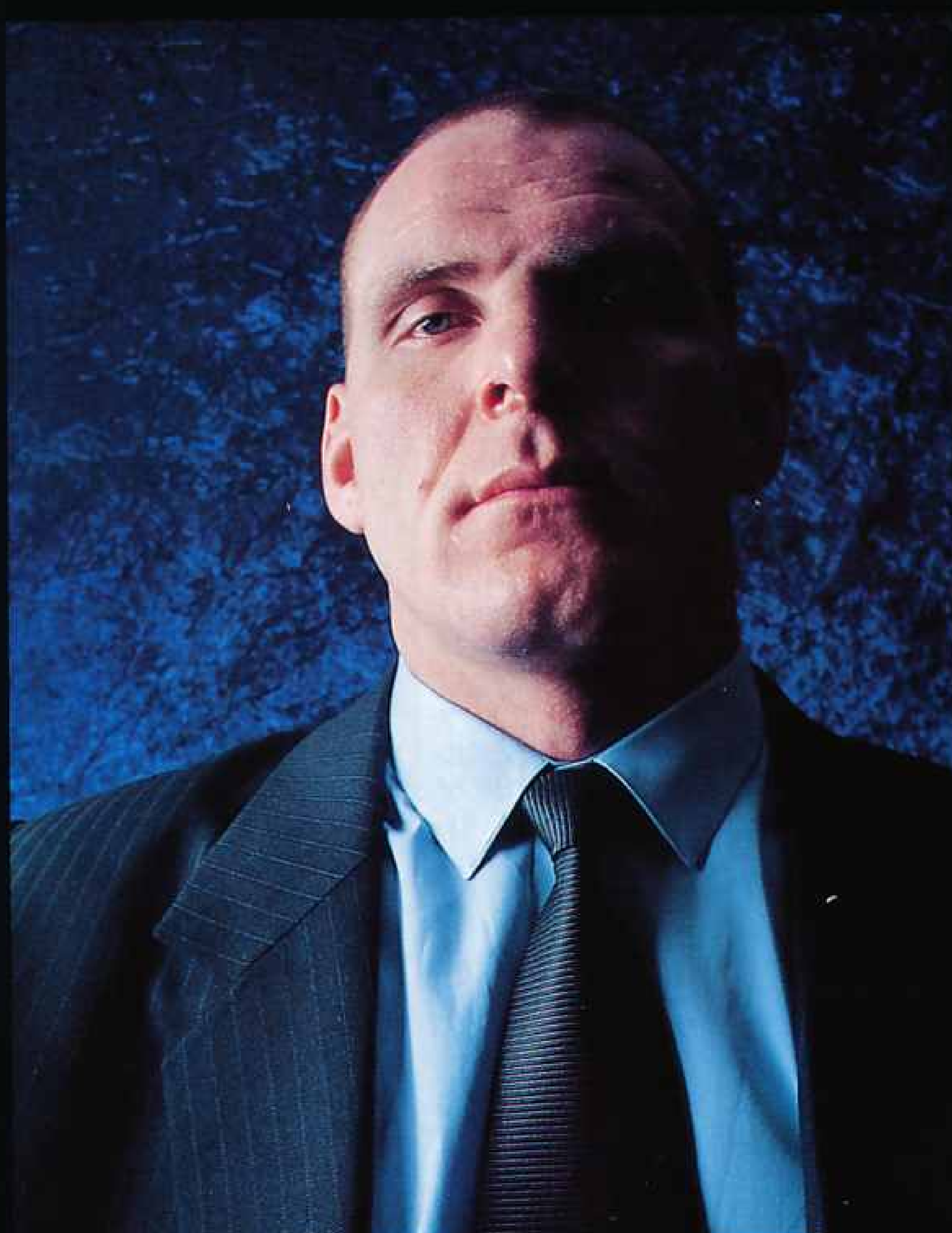
―「たけし」という名の子が、ビートたけしにあやかって〝たけちゃん〟と呼ばれるのと一緒ですね。〈通訳の人が訳そうとする〉いや、これは訳さなくていいです（笑）。ところで、あなたは日本では、〝人類最強の男〟と呼ばれています。そう呼ばれていることについての率直な感想を聞かせてください。

カレリン それは過大評価だと思う。

―でも、実際にグレコでは1987年から負けたことがないわけですから、過大評価じゃないと思いますよ。

カレリン 運がいいだけの話だろう。

―いままでカレリンさんはボクシング、クロスカントリー、重量挙げ、バスケットボ



聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

「個性を持ったプロとしての哲学がどれだけ正確であるのか――。より正確であった方が勝利を手にする」

ール、バレーボール、サンボ、いろんなスポーツをやってきたと聞いているんですが、その中でレスリングをより長く続けられた理由はなんですか。

カレリン　私はレスリングのコーチであるビクトル・ミハイルヴィッチ・クズネツォフ氏にレスリングの世界に導いてもらった。そして私自身の努力でナショナル・チームに入ることができたが、そこで興味深い人物、面白い人生に出会ったわけだ。それが長くレスリングを続ける理由だろう。

――クズネツォフ・コーチにレスリングの技術以外に教わったことってどういうことでしょうか。

カレリン　仕事に対する責任。それはやるべきことを怖れないことだ。自分の力を惜しまなければ何事も達成できるということ。そして、自分の仕事をベストにできる人間を尊敬するということだ。

――クズネツォフ・コーチは人生の師と言ってもいいんですね。

カレリン　まあ、親戚と親しい人の先にはくるだろうね。

――ロシアではケタ外れの実績から〝怪物〟と呼ばれることもあったそうですね。

カレリン　いろいろある。85年のソ連時代の頃、アメリカでは〝グレート・レッドマシン〟と呼ばれた。ほかには〝シベリアン・ベアー〟とも呼ばれてたね。最近流行ってるのは〝キングコング〟だ。ただ、私自身の好みとしてはごく単純に、〝シベリアの青年〟と呼ばれるのがいいね。

――文学的ですね（笑）。

カレリン　事実、〝シベリアの青年〟なんだよ、私は。この呼び方にいろんな語尾がついて俗な呼び方になってしまうこともあるがね。

――俗的な呼び方をされるのは嫌でしょうね（笑）。

カレリン　そういうことを耳にすると悲しくなるが、ネズミとかウサギとか呼ばれるよりはいい（微笑）。

――そう呼ぶ人はいないと思いますけどね（笑）。そういえば、カレリンさんは実際の年齢よりも年上に見えますが、ロシアでもそう見られますか。

カレリン　正直に言って、ロシアでも私は年上に見られることが多い。なぜなら顔の輪郭がハッキリしてるし、髪が成長しなかったことが理由だろう。16歳の頃から実際の年齢より上には見られていたね。

――考えてみたら、僕より年下なんですよね（笑）。

カレリン　あなたはいくつですか?

――35歳です。カレリンさんから見れば幼く見えるでしょうけど（笑）。

カレリン　体重と年齢は、重ねてきた年輪に比例するわけじゃないよ。

――体重といえば、レスリングを始める14歳の頃は178cm、78kgぐらいしかなかったと聞いてるんですけど。

カレリン　確かに体重はなかったが、身長は180はラクに超えていたと思う。

――より大きくなりだした原因はトレーニングによってですか。

カレリン　もちろん練習の効果もあると思うが、15歳を過ぎて一気に男として成長した。力も出てきた。また激しい練習を毎日していたから、身長が伸びるよりは、肩幅や身体の幅が広くなる感じだった。

――カール・ゴッチという人が、「レスリングはチェスのようなものだ」と言っています。レスリングは肉体だけではなく、頭を駆使するスポーツだということだと思うんですが、その言葉についてはいかがですか。

カレリン　その通り！　その言葉には、100%賛成する。

――カレリンさんはレスリングを通して頭を鍛えているんですか、それともレスリングとは別に頭を鍛える方法を持っているんですか。

カレリン　もちろん、別にある。

――愛読書はドストエフスキーらしいですね。

カレリン　ツルゲーネフも好きだね。

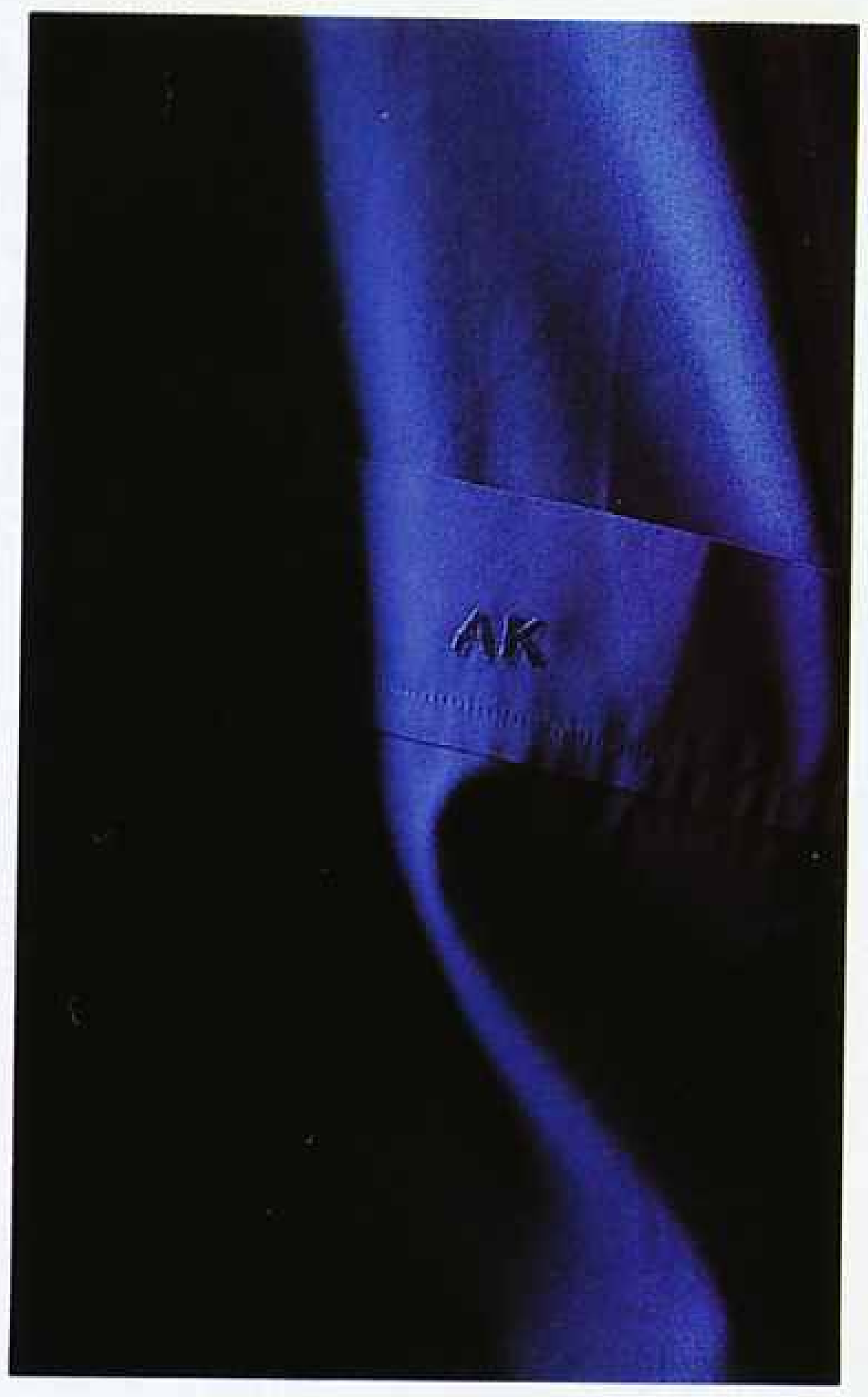
――文学以外に好きなものはなんですか?

カレリン　人間とのコミュニケーション。それが一番楽しいことだ。それは必ずしも新しい人と出会うことだけではなく、豊富な経験と知識との出会いを意味している。そういうものを持つ人とのコミュニケーションは楽しい。ほかにはミュージカル映画も好きだ。

――英雄の物語や自叙伝が好きだとも聞いたことがあるんですが。

カレリン　そうだね。私が文学に初めて出会ったのが英雄の伝説を読むところからだからね。

――小さい頃に自分もそういう英雄になり



前田は自信に溢れた男
そして、その自信に値する男だ

1・22カレリン来日記者会見再録

〈カレリン選手に質問します。前田選手のファイト及びリングスのファイトというのはビデオか何かでご覧になったことがありますか?〉

もちろん見ている。

〈前田選手の印象をお願いします〉

試合をしてみないとどのくらい強い選手かはわからない。今回、私が試合をする気になったのは前田選手が私をライバルとして認め、選んでくれたことだろう。私をライバルとして認め、選んでくれる人間は極めて少ない。試合では前田選手の言う総合格闘技というものが、どういうものなのかをいろんな面から見てみたいと思っている。

〈いままでグレコローマン（レスリング）の公式試合以外に出たことがないのに、今回敢えてフリーファイトというジャンルに挑戦してみようという気になったのは、何か理由があったんでしょうか〉

グレコローマンの試合以外には、サンボのロシア選手権大会に出たことがあり、いい結果を残すことができた。そして今回、プロ格闘技のルールで闘うことは、自分の力を確かめるためにはいい経験だし、面白いと思ったからだ。

〈いままでもアメリカのプロレス、アルティメット、フットボールの世界からもスカウトの手が伸びたそうですけど、それらは断り、敢えてリングスで前田さんと闘うという心境はいかがでしょう〉

私が住んでるノボシビルスクは地理学的にはアジアに位置する。だから私にはアジア人の部分もあるわけだ。民族的、地理的な面があったことが、この試合を受けた大きな要因と言えると思う。

〈総合格闘技において、グレコローマンの技はどんなものが切れになるとお考えでしょうか〉

グレコローマンには非常にさまざまな技術があるが、打撃と締め技、関節技はない。しかし、高く投げるスープレックスがあるので、その技をかけてから締め技に移ること、あるいは他の関節技に移ることは可能なわけだ。グレコの技を使ってほかの極め技に移るということは考えている。

〈前田戦が決まってからフリーファイトの練習はどのくらいされてるんですか〉

正直に言って、この試合のための特別な準備はしていない。だが、グレコローマンの練習の中に特殊な要素を入れて対応できるようにはしている。ただし、前田選手のビデオはよく見て分析しており、攻撃に対する防御法は研究済みではある。

〈この試合の結果は共同通信やタス通信を通じて全世界に配信されるという事実を認識されてるでしょうか〉

今回の試合のポイントはどれだけ世界で通信されるか、放送されるかということではなく、私がどれだけ自分

格闘 LAST VOYAGE

たいと思った?

カレリン　言われてみれば、そうかもしれない。よく考えたことはないが。

――でも、すでに世界の英雄ですから、カレリンさんは。ロシアではカレリンさんの伝記とかは出てるんですか?

カレリン　そういうものはない。噂というか、小咄みたいなものはロシアでは流れているね。

――伝説といえば、120~130kgの冷蔵庫を一人で担いで15階まで上げたという話が日本にも伝わってるんですけど、それは本当ですか?

カレリン　それは事実だ。15階ではなく、8階だがね。

――ゲ!　充分すぎます!!

カレリン　悲しいことだが、エレベーターが動かなくて8階まで重い冷蔵庫を持ち上げたよ。

――凄ェ!　それで、昨日の記者会見で、非常に印象に残った言葉があります。それは「格闘技は負けるリスクがあるから面白い」という発言なんですが、カレリンさんにとって「勝利」というのはどんな意味を持ってますか。

カレリン　私にとっての勝利とは、やるべきことを正確に規則正しく行ったたということの証明となる。自分がやってきたことが正しかったということを証明するものが勝利なのだ。ヒステリックな喜びではなく、行ったことの正しさを証明してくれるものだ。

――では、「負ける」ということは?

カレリン　負けるということは、三つのシグナルを意味する。注意のシグナルだ。一つ目は、自分がやってきたことが間違っていたということ。二つ目は、努力を怠ったということ。それは自分を惜しんだということだ。そして三つ目は、その道は自分の道ではないかもしれないということだ。

AREXANDER KARELINE

――なるほど。三つのシグナルですか。あなたが知ってるプロの格闘家を教えてください。

カレリン　プロと言えば、やはりマイク・タイソンだろう。それからモハメド・アリ。あとは、かつて紹介されたことがあるが、アントニオ猪木だね。

――カレリンさんの、これまでのレスリング生活は「アマチュア」と分類されるものですが、今度の前田日明戦は「プロ」のリングでの闘いとなります。アマチュアとプロの闘いの違いはどう認識されてますか。

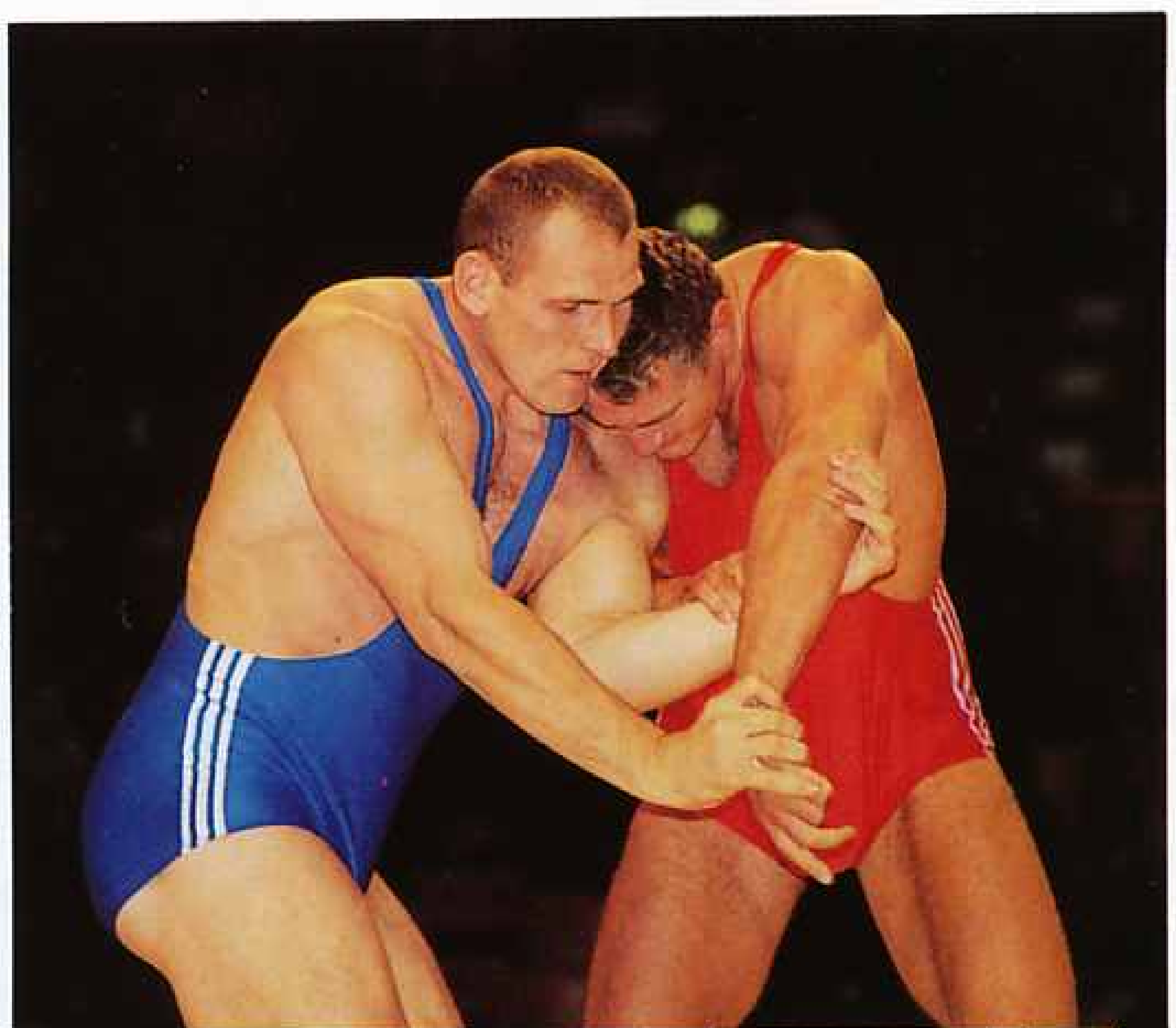
カレリン　プロとアマチュアの境目はハッキリしているが、ただ両方に共通するものは同じように責任をもって、同じように練習に励むということだ。それは格闘技でも、ほかのスポーツでも変わりはない。

――じゃあ、プロのリングに上がることは、カレリンさんにとって特別な恐怖はないわけですね。

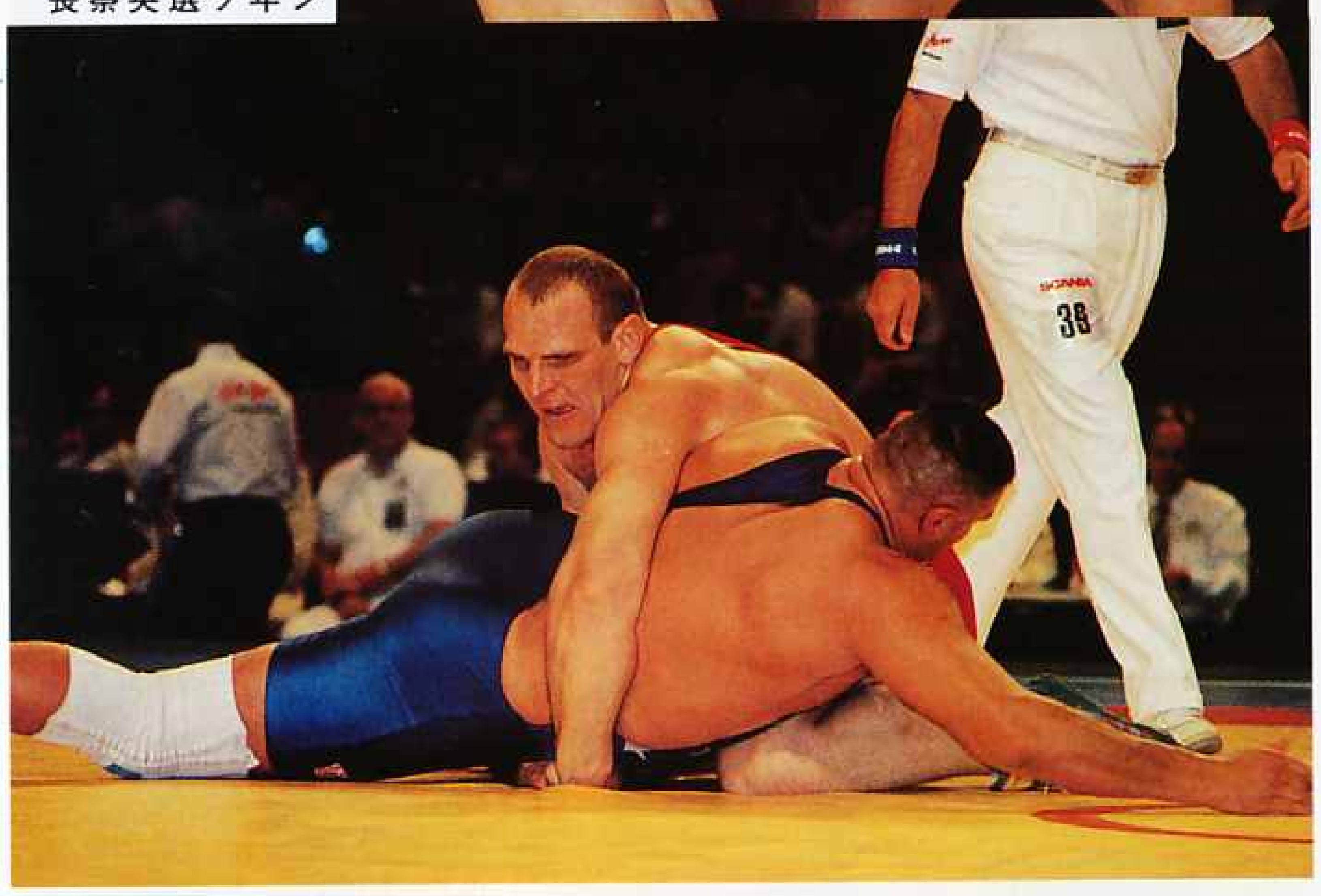
カレリン　プロフェッショナルな闘いには、〝プライドのぶつかり合い〟というイメージを持っている。プロの選手は、そのプライドを持ってるからこそ、自分だけのやり方を極めていくんだろう。自分らしいゲームの仕方をアピールしていくというのが、プロ選手の他ならぬ特徴じゃないかと思うね。

――格闘能力のぶつかり合い、運動能力のぶつかり合い以外にも、プロの場合は、互いの哲学と哲学のぶつかり合いという側面もあると思うんですが。

カレリン　互いの哲学のぶつかり合いだとも言えるかもしれないが、プロの闘いは、〝個性〟と〝個性〟のぶつかり合いだと思う。個性を持ったプロとしての哲学がどれだけ正確であるのか、それが重要だと思う。より正確であった方が勝利を手にするわけだ。



【アレキサンダー・カレリン】 1967年9月19日、ロシア・ノボシビルスク市出身。88年のソウルを皮切りに、92年バルセロナ、96年アトランタとグレコローマン・レスリングでオリンピック3連覇。世界選手権を9回、ヨーロッパ選手権を12回制覇。この約12年間、無敗を誇る「ロシアの英雄」。25歳で国内軍の少佐号を授与され、28歳で税務警察局の大佐になると同時にロシア・レスリング協会の副会長に。現在、「カレリン基金社」の社長も務めている。



の力を出せるかということにポイントがある。

〈しかし、もしカレリン選手が負けるようなことになれば世界のレスリング界の面子にかかわってくると思うんですけど、そのあたりはどう考えられるのでしょうか〉

格闘技の試合というのは負けるリスクがあるから面白いのだ。もちろん私はグレコローマンの代表選手でもあるわけでレスリングの評判を落としたくはない。それゆえ、自分の力を出さなければいけない。

〈日本には面子を潰された時にハラキリをするという習慣がかつてあったんですけど、そのくらいの覚悟を持ってこの試合に臨んでいるのかどうかを聞かせてください〉

どんなナイフでどういう風にハラキリをやるのかを考えるぐらいなら、試合のことを精一杯考えていたい。

〈カレリンさんにお聞きします。今回の大会に参加した以降、こういったジャンルに継続的にかかわっていこうと考えておられるのか、お答えください〉

ハラキリをする覚悟でやれば次はないだろう。

〈ということは前田選手に勝たれたあとはレスリングの世界に戻るということですか?〉

まずハッキリさせておきたいことは、私はいまでもレスリングの世界にいるということだ。また、次もこのような試合があるかどうかについては、前田選手との試合を経験し、どれだけリングスという格闘技が自分のプラスになるかどうかを見極めた上で考えたい。

〈カレリン選手にお聞きしたいんですが、お父さんがボクサーだったと聞いてるんですけど、カレリン選手がボクシングをされた経験があるんでしょうか。それから背筋力400kgという数字が伝えられてるんですが、実際どのくらいの数字まで記録されたことがあるんでしょうか?〉

父はボクサーであり、私もグレコローマンを始める前にボクシングをやっていた。私の中ではボクシングとレスリングが共存している。ボクシング歴は2年で世界的な活躍はしていないが、レスリングを補うという形でやってはいた。また、父が私にボクシングの魅力を見せつけたい時はいつも相手になってあげることはしていた。パワー・リフティングについては足は320キロ。ベンチプレスはそれよりちょっと落ちるぐらいの記録を持っている。



――記者会見では、「前田日明の選手としての能力は闘ってみないとわからない」と言ってましたが、実際に顔を合わせた時点での、前田日明の個性はどういったところにあると思いますか。

カレリン　自信に溢れた男。そしてその自信に値する男だね。彼は東洋哲学の代表ではないかと思う。

――でも、前田日明は非常にヤンチャな部分も併せ持っています。リング上でその部分の個性が出たときは気を付けた方がいいと思います（笑）。

カレリン　感情にまかせて行動するということは、逆にオリジナルの個性を生み出すんじゃないかと思う。だが、前田選手はそれを含めて尚かつ頭で考えることができるというレベルの高い人間だと思う。

――凄い洞察力ですね⁉

カレリン　それが当たってるかどうかは、試合の中で見てみよう。

――今度の試合は前田日明の引退試合ということで、大勢の観客が集まると思います。オリンピックなどでも慣れてるとは思うんですが、大勢の観客の前で闘うということを、どう考えてますか。

カレリン　二番目の責任感が重くなる。

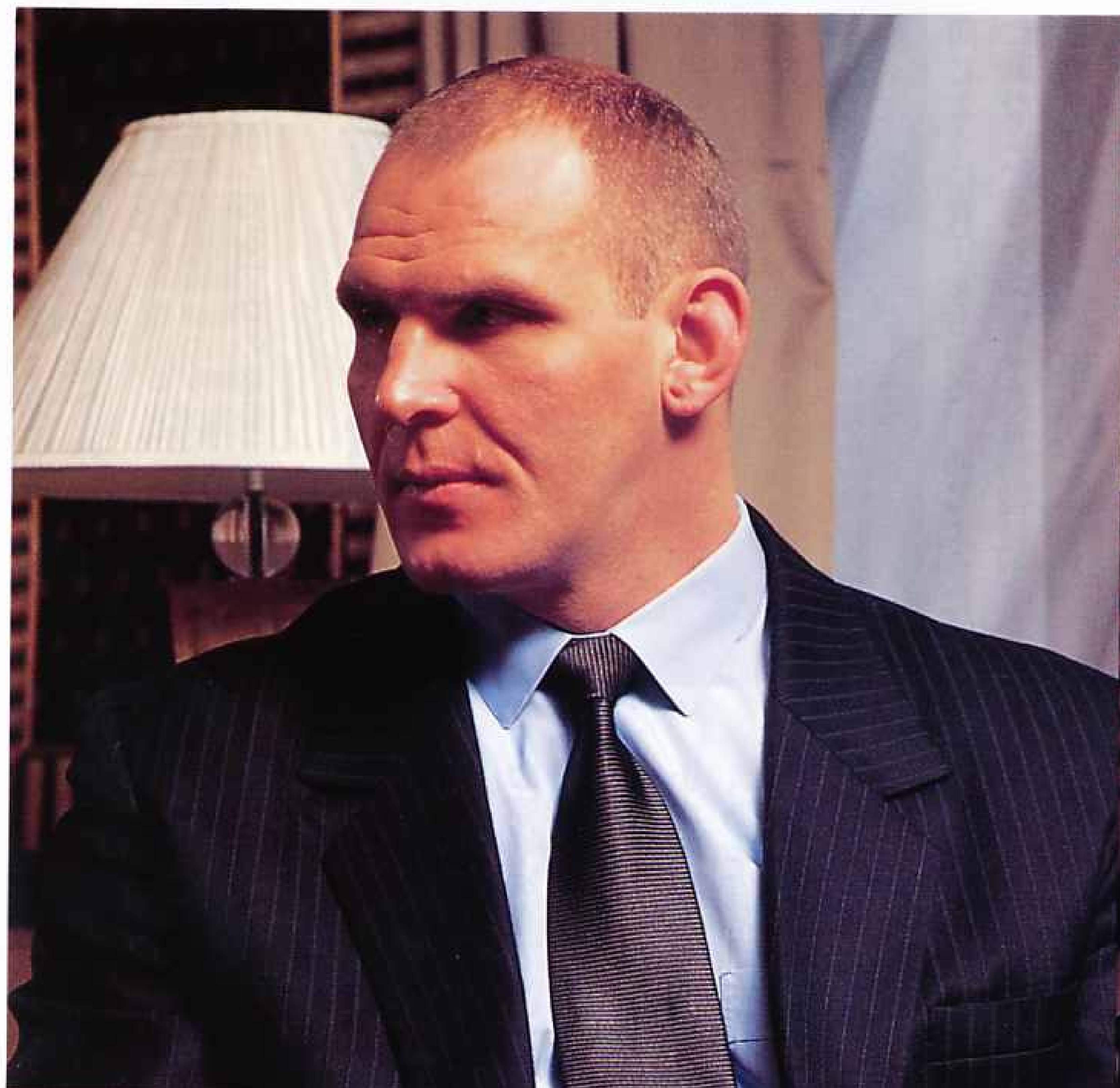
――二番目の責任感！　一番目の責任感はなんですか。

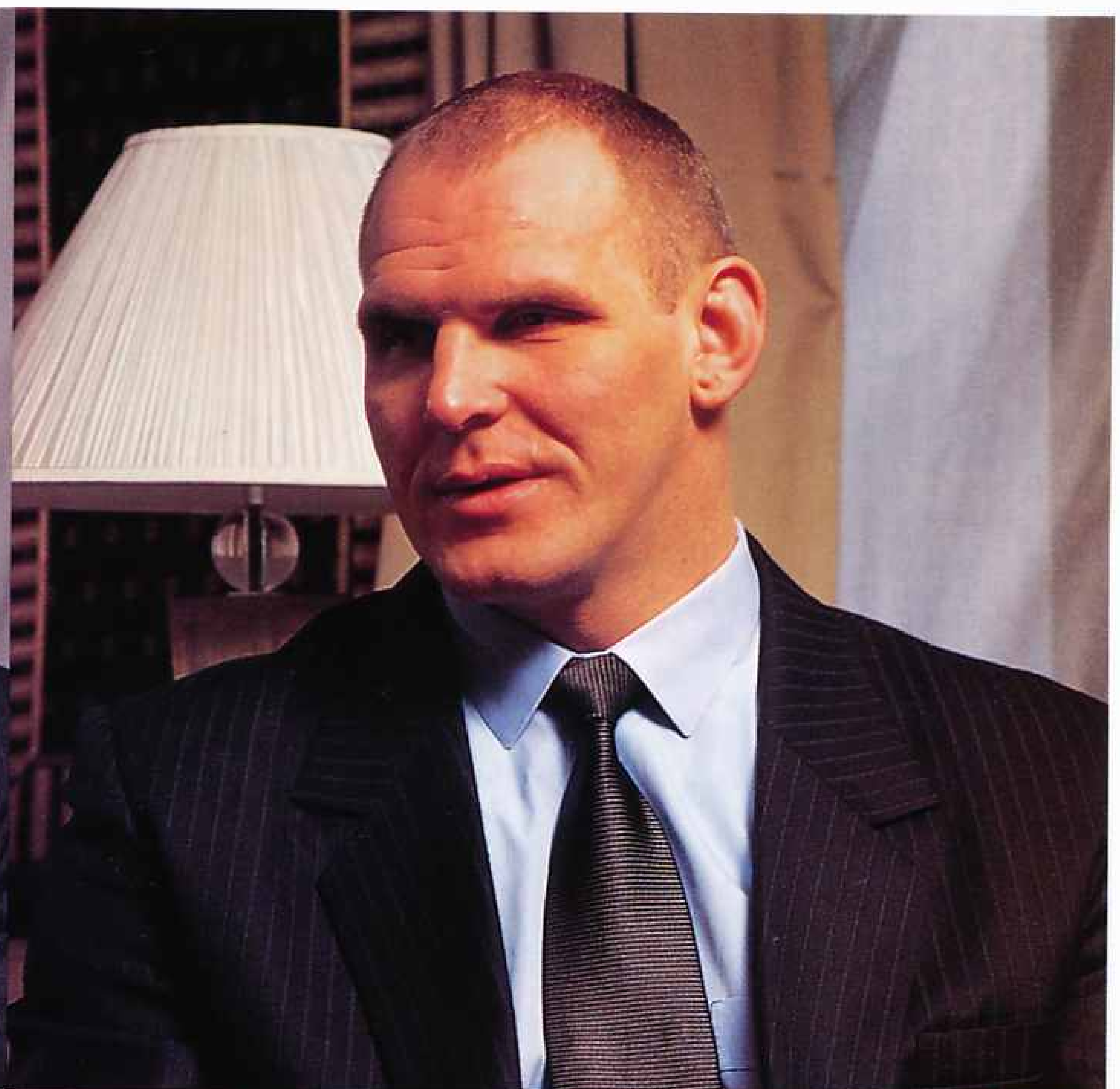
カレリン　私をよく知っている人、私を応援してくれる人に対して私は第一番目の責任がある。そしてお客さんはイイ試合を楽しみにしてるわけだから、その二番目の期待にも応えなければいけない。

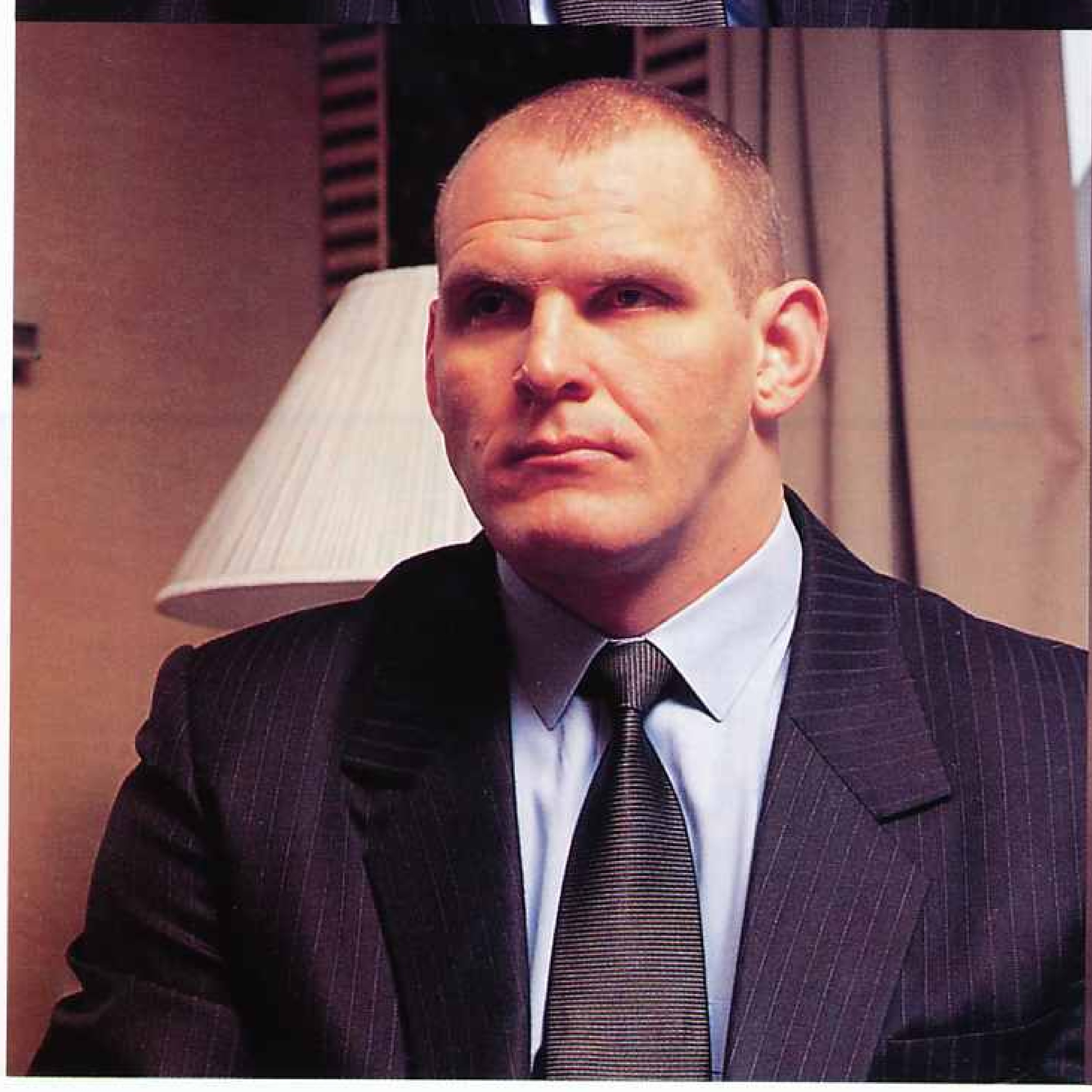
――カレリンさんはボクシング、サンボもやってきてはいますが、ズバリ言って、リングス・ルールに対応する自信はありますか？

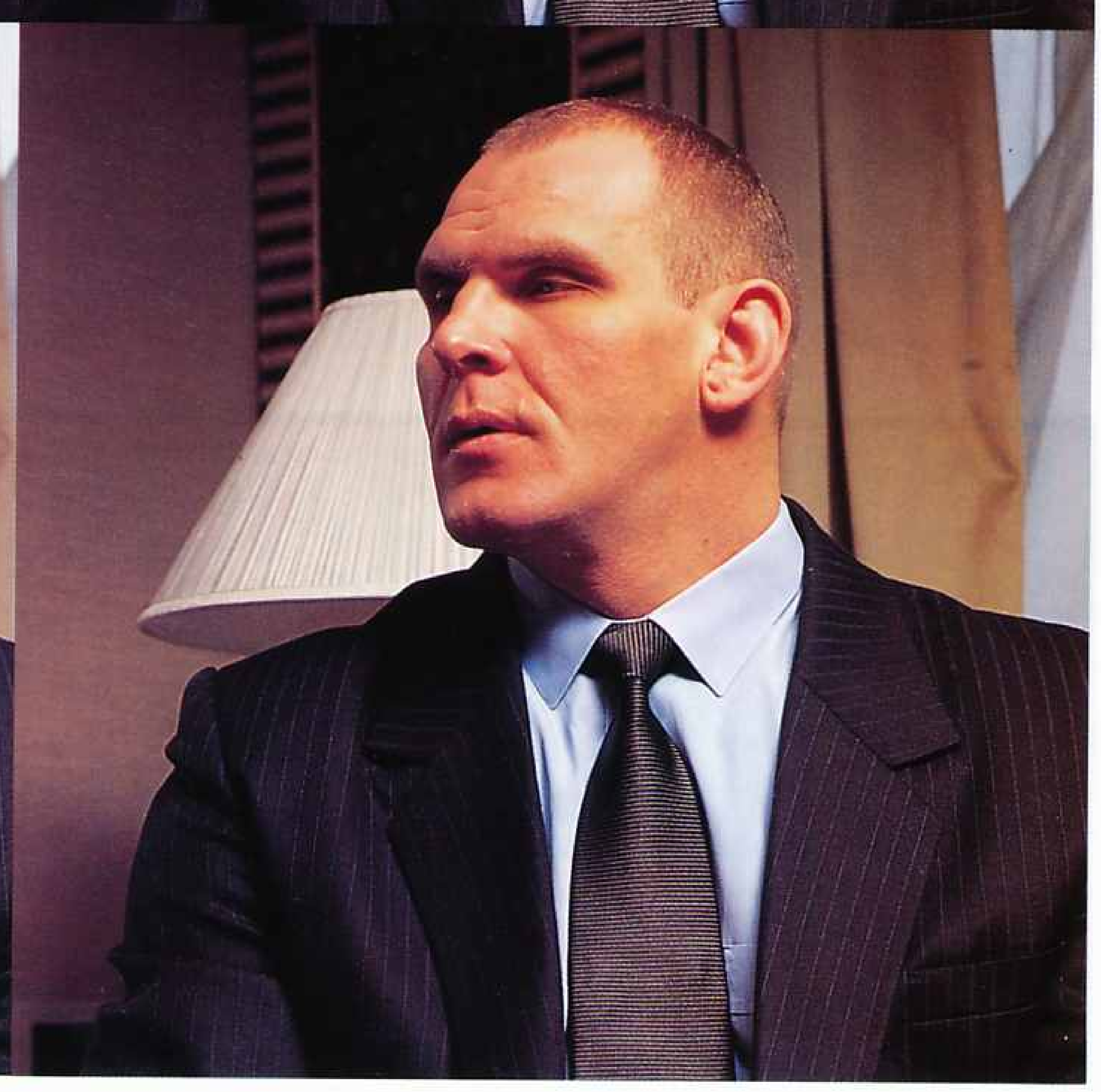
カレリン　リングス・ルールに対応するには確かに総合性というものは必要だろう。それを別の角度から見れば、いろんなものができたとしても、チャンピオンになれない人

AREXANDER KARELINE









前田との闘いは「個性のぶつかり合い」メンタリティーの闘いになるだろう

間がいくらでもいるということにもなる。一つでもいいから肩書きを、つまり、世界のタイトルを手に入れることを達成すれば、あとのものは自然と付いてくるものだろう？

——一つのものを掘り下げていった時に手に入れられるものがあるということですね。

カレリン　そう。まずは一つのもので一番になることだ。その後に他のものにも手を広げていく。つまり、成長していくということだ。ただ、その時に無理をして自分を弾けさせてしまうことには注意しなければならない。それは体力的に無理をするなということではなく、無理な考え方をするなということだ。

——前田日明との闘いは、一体どんな闘いになると思いますか。

カレリン　たぶん「個性のぶつかり合い」になるだろう。メンタリティーのぶつかり合いになると思う。

——非常に楽しみですね。

カレリン　（頷く）

——ちなみにロシアでも行われてますけど、いわゆるバーリ・トゥードという闘いに興味はありますか。

カレリン　何回かテレビでは見たことがある。参加してる選手が可哀相に見えた。

——カレリンさんが目指す闘いというのはどういったものですか。

カレリン　大事なことは決まったルールの枠の中で互いの力をぶつけ合い、そのルールの中で自分の技を極めて、それをパーフェクトにできる者が勝つということだ。そして、その時のパーフェクトな技が一つの芸術品になりえると思う。そして、それこそが芸術ではないかと思うね。

——面白い「個性と個性のぶつかり合い」になることを期待します。

カレリン　それに応えるためには努力しかないだろうね。

——ところで、日本には「英雄色を好む」ということわざがあります。カレリンさんは女性は好きですか？（笑）。

カレリン　もちろん、男だから女性に対しては優しい（微笑、したように思う）。

——ありがとうございました（笑）。

【98年1月23日／ホテル・ニューオータニにて収録】

与えられた少ないインタビュー時間の中で、カレリンがニコリと笑ったのはたった一度。

インタビューと撮影を終えて握手した時だけだった。

かといって、カレリンが威圧的な態度をとっているというわけではなく、取材前に入ってきた話のように機嫌が悪いわけでもなかった。カレリンは、ただそこに座っているだけで、ナチュラルな迫力を全身からジワリと滲み出しているだけなのだ。

その迫力に加え、インタビューを読んでもらっただけでもわかると思うが、この男、脅威の肉体だけではなく、脅威の頭脳をも併せ持っている。

1・22の共同記者会見での、「腹切り」に関しての質問への切り返しなど、実に見事な物腰だった。

肉体と頭の回転に加え、「カレリンには〝受け入れること〟の凄みがある」と、ある人は言う。

昨年10月、カレリン戦が決まった際の記者会見で張り出されていたロシア製のカレリン・ポスターには、「エリツィンのためのスポーツ選手」という意味のコピーが踊っている。

いまだ根強いロシアの〝国家の原理〟によって動く、〝国家的スポーツ選手〟のカレリンは、その反面、自分と周りにとって役に立つ知識と情報を瞬時に〝受け入れる〟懐の深さを持っているのだ。

そういえば、カレリンの側近によると、記者会見で覚えた「腹切り」という言葉には興味シンシンらしく、切腹によって命を絶った小説家・三島由紀夫についていろいろ質問をしてきたそうだ。

日本の文化、東洋の思想をも受け入れる〝人類最強の男〟——。

カレリンという名の類稀なる個性が、前田日明という名の類稀なる個性とぶつかったときに、一体どういう闘いになるのか。

想像がつきそうで想像がつかない。

「プロの闘いは、〝個性のぶつかり合い〟だと思う」

という言葉に集約されるように、カレリンはすでにプロの闘いの本質的な部分を喝破している。

その上、前田の〝ヤンチャ〟な部分について振ると、

「感情にまかせて行動することは、逆にオリジナルの個性を生み出すんじゃないかと思う」

と、〝危険な前田をリング上で見てみたい〟とばかりの発言をしているのだ。

アメリカでのハードな調整により、確実にポテンシャルを上げている前田の現役最後の攻めは、カレリンの懐の深さの前に受け切られてしまうのか——。

〝前田日明、最後の大航海〟には、ただごとではない脅威が待っている。

前田vsカレリンの他に“柔術怪獣”再来日！アルバレス登場！

プラス、田村のオーフレイムへの雪辱戦など、見どころ満タン、ガソリン満タン！WOWOW生中継も決定だ！

横浜アリーナ大会　全対戦カード　決定!!

【2・21（日）横浜アリーナ　12:00開場／13:30試合開始】

前田日明（リングス・ジャパン）	vs	アレキサンダー・カレリン
田村潔司（リングス・ジャパン）	vs	ヴァレンタイン・オーフレイム（リングス・オランダ）
金原弘光（リングス・ジャパン）	vs	ヒカルド・モラエス（ブラジリアン柔術）
坂田亘（リングス・ジャパン）	vs	ジアン・アルバレス（ブラジリアン柔術）
山本宜久（リングス・ジャパン）	vs	アンドレィ・コピィロフ（リングス・ロシア）
ヴォルク・ハン（リングス・ロシア）	vs	ニコライ・ズーエフ（リングス・ロシア）
滑川康仁（リングス・ジャパン）	vs	上山龍紀（FIGHTING NETWORK RINGS U-FILE CAMP）

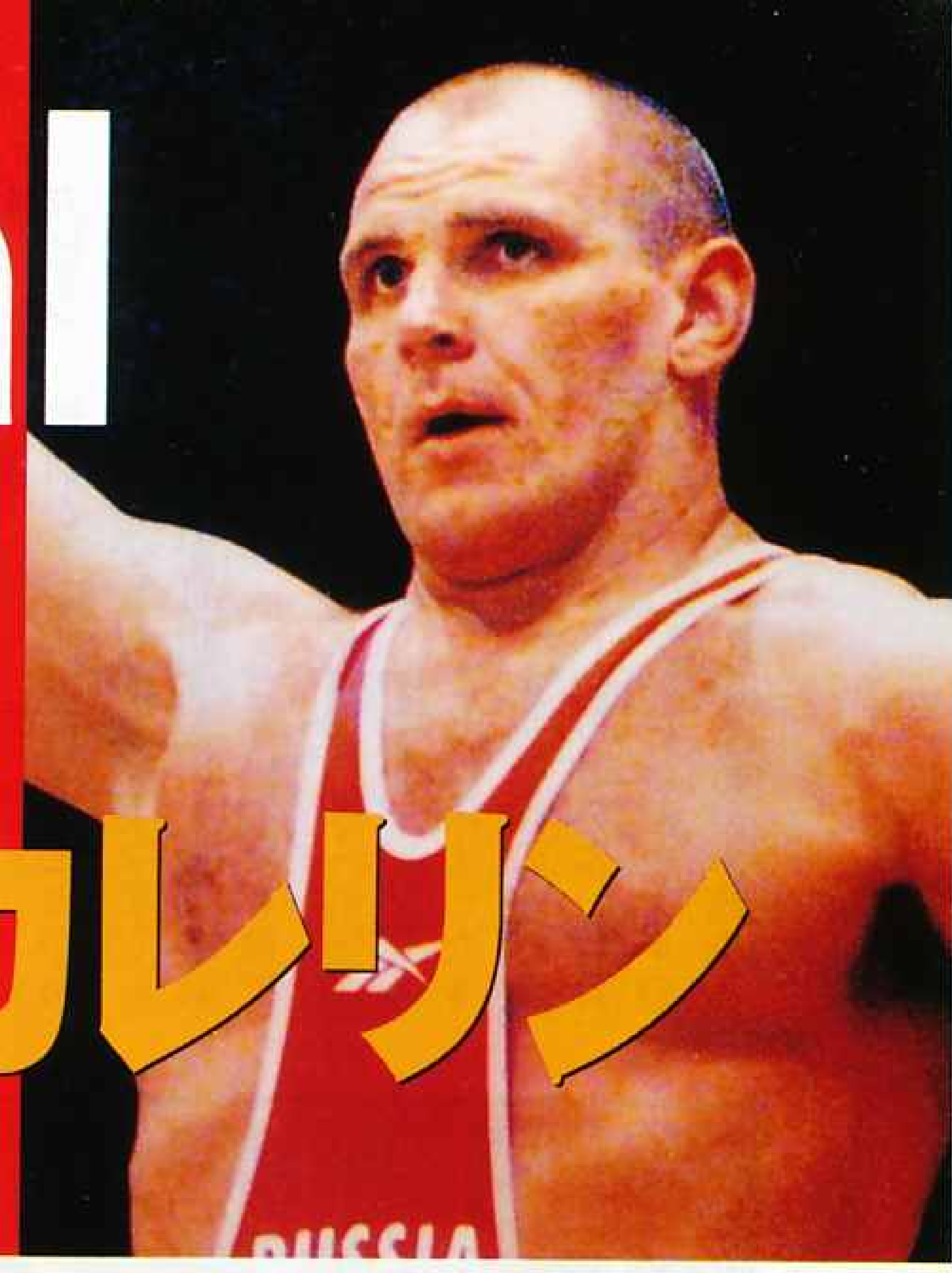
※早くもプラチナ化しているチケットのお問い合わせは、

オデッセー
03・3796・9999

RINGS
03・3461・0257



The Final
前田日明×アレキサンダー・カレリン
1999.2.21



浅草キッドの
前田日明熱烈応援文



それだけだ!

ついに「前田vsカレリン戦」の時が来た。
今の我々の心境を橋本真也風に言えば、
「時は来た！　それだけだ！」か。
本当に「それだけ！」でいい！
言葉は要らない。
（ちなみに橋本は今こそ！この台詞を言ってくれ！）
前田日明は評論されることが嫌いだ。
本人が、揺るぎない自前の言葉をもっている。
だから、僕らは前田日明を評論しない。
言葉で前田日明に絡もうとする輩も、糸井重里さんによれば「紙と前田が闘ったら紙が負けるからね。グシャおしまい」なのである。
我々はただただ心底、惚れ込んで前田日明を熱烈に応援しているだけなのだ。
ただし「心底」なのだ。
実際、この一戦に向けて、「前田vsカレリン戦への道・アキラのズンドコ応援団」という連載コラムを場違いながら『フロムA』で毎週1年間続けさせてもらった。
ズンドコとは小林旭（アキラ）の『ズンドコ節』であり、♪街のみんなが振り返る〜って歌詞を踏んでいる、格闘技マニア以外にも振り向いてもらいたかったのだ。
なんの役にも立たなかった我々だが「実現不可能」「消滅」と何度も噂された、この試合が実現しただけでも決断したロシア側にも感謝を込めて「ハラショー！」なのである。
この連載、当初は「前田vsヒクソン戦への道」と題していたのだが、今やヒクソンという「大きな幻想」「正体不明の怪物」に掻き回された後だけに、カレリンという「大きな現実」「正真正銘の怪物」との闘いに意味を見るのである。
それにしても、このマッチメークの実現は、行き止まりの壁を一点突破する前田の面目躍如なのである。
「突破」と言えば「世の中とプロレスすることが好きな人」には確実に血湧き肉躍ることができる男の教科書、自伝『突破者』（南風書房）を書いた宮崎学さん（知らない人に説明すると迷宮入り寸前の戦後最大の事件の犯人として知られる、グリコ・森永事件の犯人「キツネ目の男」の本人？いやそっくりさん？である。そしてこの事件の犯人である自称「怪人20面相」と名乗る覆面レスラーの正体と当局に目された、修羅場の数珠つなぎの札付きのヒールである）が「突破者とは何か？」というインタビューの中でこう答えていた。

「宮崎学さんは、侠（おとこぎ）というものについて、繰り返しいろいろな書き方をされています。
〜誰もが逃げ出したいような局面で
『俺いくわ』と、
手を上げ、ボロボロにされて帰ってくる。
それを決意する美しい一瞬がある〜　と。
そのときそれを
決断させるのは何なのですか？」

「個々の心理的な構造は、僕にはわかりません。
誰かがそのことをやらざるを得ない、
手を上げられるかどうかってことだと
思うんだろうけれども、
僕の場合でいえばですね、
むしろ手を上げる方が、

手を上げれるよりは気が楽である、と。
しかしながら、もうひとつ、よく考えなければいけないものは、手を上げるという行為そのものが、非常に現世的な、現実的な不利益を、その周辺にもたらすということなんですよね。累々たる周囲の犠牲の上に、成り立っている行為であることは、確かなわけです。
それでも僕のような馬鹿は、常に手を上げなきゃいけない」

どうですか？お客さん！
この言葉って臭いだろうか？　いや古臭いだろうか？
しょせん「昭和」だろうか？
全共闘世代だけに文字通り『昭和残侠伝』の高倉健さんよろしく「止めてくれるな！おっかさん！」なのか？
確かにこのフレーズだけなら、そりゃあ、これはかなりの自己陶酔だ。
さらに「自己犠牲」こそ逆転した「エゴイズム」だ。
こんな言葉を発する人も、オレに酔い、実はオレのために他人と闘っているハズなのだ。
そういう意味ではカッコ悪い！
カッコ悪いことこそカッコいい。
前田日明もよく口にするこの逆説は『かっこいいことはなんてかっこ悪いんだろう』ってタイトルの早川義夫の60年代のアルバムからきているのだろうか？
だけれども、そんなカッコ悪いことを口にすることができる男は二通りある。
言ってる本人が本当にカッコ悪い場合。
そして言ってる本人が本当はカッコいい場合だ。
カッコ悪い人は何の実体もないまま、湿度のない言葉、冷めたことを平気で言う。
それがカッコいいと思ってる。そういう実体のないカッコつけたことを言う。それなら無口な方がいい。
本当にカッコいい人はシンプルにカッコつけず、こういうカッコ悪いことを言う。
ただし、ズバリ「何をしてきたか？」と問われた後に、こういう「臭い」けど、いつまでも耳だけでなく、鼻に残る、胸に残る台詞を言う。
言葉は後付けだ。
そう。何をやり遂げた人が、言葉を口にするのかだ。
宮崎学さんの修羅場の数々は、まず『突破者』を読めばいい。



要は自分が手を上げなきゃならない局面を、大多数の無責任な観客の視線の中で、舞台の上で、リングの上で、実生活の中で、劇的に作っている突破者がいるのだ。
世間が見守る中で、
ビートたけしは、
何度、再起不能のどん底から手を上げるのか？
辰吉丈一郎は、
何度、ボロボロにされて帰ってくるのか？
そして、前田日明は？
彼らは「自己犠牲」が逆転した、大向こうを唸らせる「エゴイズム」の塊だ。
前田日明のような「馬鹿」が何度でも手を上げる瞬間を何度でも見届けることが、リングを見つめるものの至福である。
しかも、これは見納めだ！
しかし、そういう「馬鹿」はどんなに損をしても、本物の「親分」となって迎え入れられる。
殿（ビートたけし）も前田日明も本当の意味で親分である。
前田日明がビートたけしとラジオで初めて対談した時。

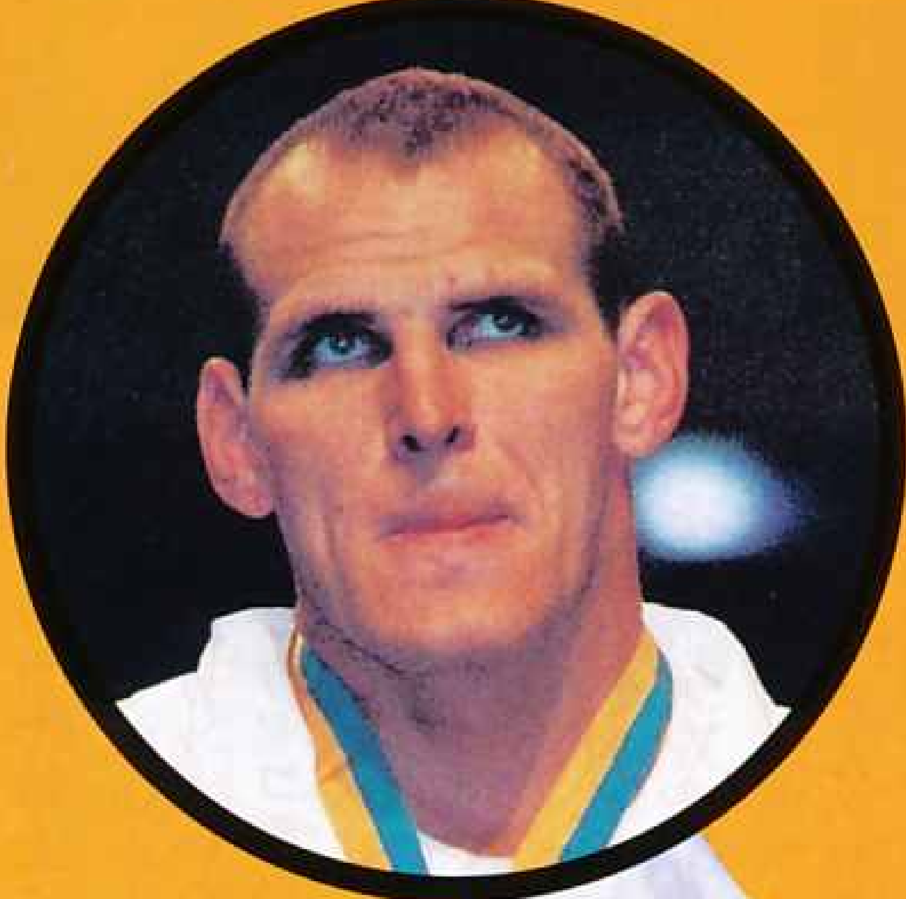
格闘 LAST VOYAGE 時は来た！

前田日明は控室の我々、に対する冗舌が一変して、寡黙に礼儀正しく、無心に話を聞いていた。
『格闘パンチ』って雑誌で作家の百瀬博教と対談した前田日明も実に神妙に聞き入っていた。
親分は親分を知っているのだ。
百瀬博教さんは、親分の条件について、
「『俺にはこんなことできない。この人のためなら…』と心から思わせる、男のホモっ気って奴が、体内から滲みでている漢（オトコ）でないと、親分にはなれない。
その男のホモっ気って奴は、見る角度によってずいぶん違うと思うけど、総括すれば『自分より断然男らしい』ってことだ。
『男らしい』ってのは何かと言えば、『まさかの時にいかに男らしく振るまえるか』ってことだけ。
それは何事においても、人の何倍も我慢強いことしかないんだ」
と『不良少年入門』（光文社）の中で定義している。
前田日明は親分だ。
観客の我々は子分である。
「凄い漢（オトコ）がいたもんだ！」
と僕らは前田日明を語りたい。
「リーダーは周囲が認めたエゴイズムである」と語ったのは人類最強の男・カレリン。
負けを許さない、心に軍服をまとった男。
彼の周りも死屍累々であろう。
自ら「長すぎたエゴイスト」と呼ぶ。
そのカレリンと親分が「エゴイズム」を賭けて闘う！
我々に言葉はあるか？　心底、見届けるのみ！
時は来た！　それだけだ!!

格闘LAST VOYAGE

司会＆構成＆撮影／中村カタブツ君







京子、突然の号泣!!

前田日明vsアレキサンダー・カレリン特別企画

アマレス親子対談●第2弾

アニマル浜口&浜口京子 &母・香寿美

ハラワタ対談

あるいは夫婦漫才!? 対談

浜口京子が突然の涙を流し、常に気合い十分のアニマル浜口が人生の深みとロマンをを語り倒し、母・香寿美が夫に対して強烈なツッコミを入れるという波乱に満ち満ちた驚愕の3時間を凝縮。喜怒哀楽をさらけ出し本音で語り合う熱さ充満のアマレス親子対談の第2弾。前号の池田美憂、山本聖子、山本郁栄親子ゲンカ!?対談同様、前田日明vsカレリン戦はアマレス親子たちの心をも揺さぶりまくるビッグマッチだ!!

——前号の池田美憂、山本聖子、山本郁栄アマレス親子対談が好評を博したために今回はアマレス親子対談第2弾としてお願いいたします。というか、前号でもお願いしてたんですけど、ちょうどアジア選手権の合宿と重なってしまってできなかったんですよね。

母　一つのことに夢中になると他は一切目に入らない父娘ですからね（笑）。

——まさに〝気合い〟の父娘らしい、いいエピソードです（笑）。

アニマル　ワッハハハハ！　いやぁ、ビッグマッチですねぇ（笑）。やっぱりね、カレリンっていうのは凄い男ですからね。ワクワク、ドキドキ、そしてビクビクっていう心境ですよ（笑）。

——ビクビクですか（笑）。それはやっぱり元プロレスラーであり、アマレス関係者でありということですか。

京子　私にとってもお父さんがプロレスラーであり、自分自身がアマレス選手であり、前田さんもカレリンさんも好きでありというところですよね。

アニマル　前田選手もまた凄いですよ。私も何度も闘いましたけど、ちょうど若手を脱皮して登り調子の頃ですよね。勢いがありましたよ。困難から逃げない、おじけづかない、腹が座ってますよ。新日本プロレスで山本小鉄さんやカール・ゴッチさんの厳しいトレーニングを逃げずに切り抜けてきてるんですからそれは凄いですよ。

京子　（力強くうなずく）

——いま京子さんもうなずいてましたけれども、お二人の場合、立場が微妙なところってあると思うんですね。アマレスに軸足を起きながらもプロレスにも思いが深いというか。そうなった場合、どちらを応援することになるんでしょうか。

京子　そうですね。プロレスラーの娘としてはプロレスラーに負けてほしくないってところはあるんですよ……。だけど、アマレスにも負けてほしくないっていうのもあって……だから、どっちを応援するっていうんじゃなくて、両方とも……応援するって形ですね、私は。

——やっぱりちょっと語りにくそうですね（笑）。京子さんの場合、前田さんにも勝っ

てほしい、カレリンさんにも勝ってほしいっていうのが本当のところだっていうのはよくわかるんですよ。ですから、この場ではアマチュアレスラー浜口京子としての意見でお願いできますか。

京子　うーん……。

――じゃあ、例えば闘ってほしくはないというか。

京子　………（突然の涙）。

――エ！　どうしたんですか！

京子　だから……クスン、クスン。わたし……やっぱり……どっちも好きだし……ヒック、ヒック。

母　どうしたの、京子。すいませんねぇ。この子は前田さんもカレリンさんもホントに好きだからねぇ。

アニマル　お前はちょっと黙ってろ！　中村さん、人生の話をしよう！

――え!?　はい。

アニマル　結局ね、僕も修羅場というか、いろんなものを乗り越えてきた。でもね、アリンコみたいに弱い自分がある。そして物凄く強い自分がある。そこだと思うんですよ。いいですか。こんな泣いてる京子がこの間の世界選手権の決勝の時、オレの不安な気持ちを察知したんでしょうね。「お父さん、大丈夫だよ」って言ってマットに上がったんですからね。

――凄いですね。

京子　……（ヒック、ヒック）。

――京子さん自身だって緊張してるはずなのに父親を気遣かったんですよね。〝強い〟ってそういうことですよね。

アニマル　そうですよ。弱さがあって強さがあって。だから面白いんですよ。弱さに関してはね、オレなんかもジャンボ鶴田選手に負けた時もマットで「負けた！」って言いましたよ。その屈辱はね、オレにしかわからない煮えたぎるものがありましたよ。だけど、負けたものは負けたんですよ。そこから這いつくばって立ち上がるか、どうかですよ。それでこそ人間だし、人間力なんですよ。終天求道なんですよ。

――終天求道？

アニマル　先人達人が努力してわかって、それでもわからなくなって一生鍛練していくわけですから。みんな強さと弱さがあるんですよ。だから、京子が涙を流すことは決して恥ずかしいことじゃない。そこから真実の話をすりゃあいいことなんだよ。

京子　はい（ヒック、ヒック）。

アニマル　人生七転び八起き。練習だってそうですよ。大声を出すこと、汗をかき切ること、みんなそうですよ。なんでこんなことをするかと言えば自分が弱いからするんですよ。気合いを入れるのもそうですよ。そうやって強くなろうとするんですよ。例えばオレ自身の身体もあちこちガタガタだよ。だけど、若いものに見せなきゃいけない。娘に見せなきゃいけない。それを見せるためにやらなきゃいけないんですよ！

――だから、今回のカレリン戦のもう一つのテーマもそこにあると思うんですね。リングスの若手選手に前田さんが何を見せるのかってところだと思うんですが。

アニマル　それだァ！　やっぱり一家を背負って立ってる男・前田日明だ！　う～ん！　そうだァ！　まったくその通りだ！　自分の生きざまだ！　オレがいまやってるのもまったく同じだな。オレがジムを開いた時も「お前、人を指導できるのか？」「ボディビルをわかっているのか？」って言われて35キロの減量をやったんだよ。そしてボディービルの大会に出て優勝した。つまりだ。いっぺん捨ててみるんだよ。

――はい！

アニマル　それで「ここだ！」って時があるんだよ。いましかできないことってのがあるんだよ。だから、前田選手はいま、やらなきゃいけないことをやろうとしてるんだよ。だから、そこにおいては勝つとか負けるとかっていうのはなんちゅうことないんだァ！　何かを見せたいというかね。そこを若い人が気づくか、見抜くか、感じることができるかってところに人間の凄さがあると思うんだよ！　人生の喜怒哀楽、艱難辛苦、栄枯盛衰、利害得失そういうものをナメつくして人間が練り研かれるんですよ。いいですか。最後にくるのはハラワタだァ!!

――ハラワタですか！

アニマル　そう！　ハラワタだァ!!　前田選手がハラワタを見せるわけでしょ!!

――はい！

アニマル　目的を達成しようとする時は体力、気力が身体にみなぎりまくるんですよ。そこには侵しがたい威厳が出てくる。ツラ魂ができる。そういう人間の顔を見たいね。それだけでも幸せだね。

――見たいですよね。

アニマル　そのツラ魂を前田選手が見せた時は光輝くだろうな。自分をさらけだすんですよ。これこそ前田日明爆発ですよ！

――見たいです、爆発！

アニマル　だからカレリンとやると決まって横浜アリーナの大会に臨むまでがいい。試合はどうでもいいな、オレからしたら。

――ワハハハハハ！　試合はどうでもいいですか（笑）。

アニマル　どうでもいい。前田選手がリングに立つまでの葛藤だとか、苦しいトレーニングだとか、緊張だとかが見たいね。

――そして、それを若い選手がどう見るかですか。

アニマル　そう。それが感性の差でしょう。やっぱり気づくってことが大事なんですよ。オレはカレリンが凄いって聞いてるし、新日本プロレスの時にいっぺん会ってますよ（平成元年レッドブル軍団来日時）。身体が凄いですよ。まさにボディービルダーみたいな身体をしてたよ。あのね、ここは大事なところですよ。ボディービルダーってよく誤解されるんですよ。

――筋肉が固いってよく言われますよね。

アニマル　皆さんは何にもわかってない！　ボディービルダーとコンテストビルダーとは違うんですよ！　コンテストビルダーはパンプアップさせているから筋肉が固いんですよ。オレは専門家だから強調しときますけど、あれはコンテスト用にわざわざ固くしてるんであって普通はみんな柔らかいんですよ。これは大切なところですからね！

――わかりました（笑）。これは特に強調しておきます。ボディービルダーの審査員・アニマル浜口の目から見たらカレリン選手は世界クラスですか。

アニマル　へたすれば世界一ですよ。肉体そのものに凄味がある。これはね、人生と一緒なんですよ。いかなる病気怪我挫折失敗抵抗障害摩擦重圧困難逆境衝突ぶつかり。これを乗り越えてないと何年間も連覇できないんですよ。オレだって気合いだって言ってるのは気合いがないから気合いを入れてるんだよ。そうでしょ？

――だけど浜口さんは気合いの塊って感じなんですけど（笑）。

アニマル　馬鹿なことを言っちゃいけませんよ。そういうことがあるんですよ。だから、それを怖れることなかれと繰り返し、言い含めてるわけですよ。ハッタリでもカラ元気でもいいからね。カラ元気からホントの元気になるんですよ。

母　ハッタリでもカラ元気でもいいけどさぁ。これじゃあ、対談にならないわね（笑）。

――ワハハハハ！

アニマル　お前ね。対談だから対談することはないんだよ。これは既に人生の対談になってるんだよ。例えば京子を指導していて技だとかなんとか言いますよ、だけど最後は度胸だとか決死の覚悟だとかツラ魂があるかとか、そうなるんですよ。結局、それが一番大切なんですよ。

――そういうことですね。

アニマル　やっぱりね、人間で最も大切なことは元気なんだと。元気とは生命力、活力、気迫だと僕はいつも言ってるんですよ。修己治人なんですよ。まずは己れなんですよ。浩然平坦志気洋々錬磨修養研磨朝鍛夕練勉めてめて止まず、それで修己治人に志学ですね。

――滑らかに出ますね（笑）。

アニマル　そうだよ（笑）。わかったと思ったら逃げていくし、追っ掛けていかないとね。そういうものを大切にしないとね。そして真心を尽くし発奮努力ですね。忍耐我慢に辛抱が必要ですね。それに創意工夫に独創性が必要ですね。不撓不屈の精神を忘れず、喜び感謝陰徳。これが大切なんですよ。どんな苦しい時もどこかに喜びを見付けるんですよ。そうしたら感謝になるから。そして陰徳。徳を積むことです。そして決死の覚悟で集中執念して肉体と精神の生命を一切捧げ切るってことを僕はいつも言ってるんですけど。

――いつもですか（笑）。

アニマル　寝る前と朝と必ず僕は天井を見ながらこれを繰り返します。「お前の生きざまはなんだ？　お前は何をしようとしてるのか？」。常に一切を問い直してます。

母　だけど私は大変よ（笑）。

――寝てられないですよね（笑）。

母　アハハハハ！　そうそうそう（笑）。

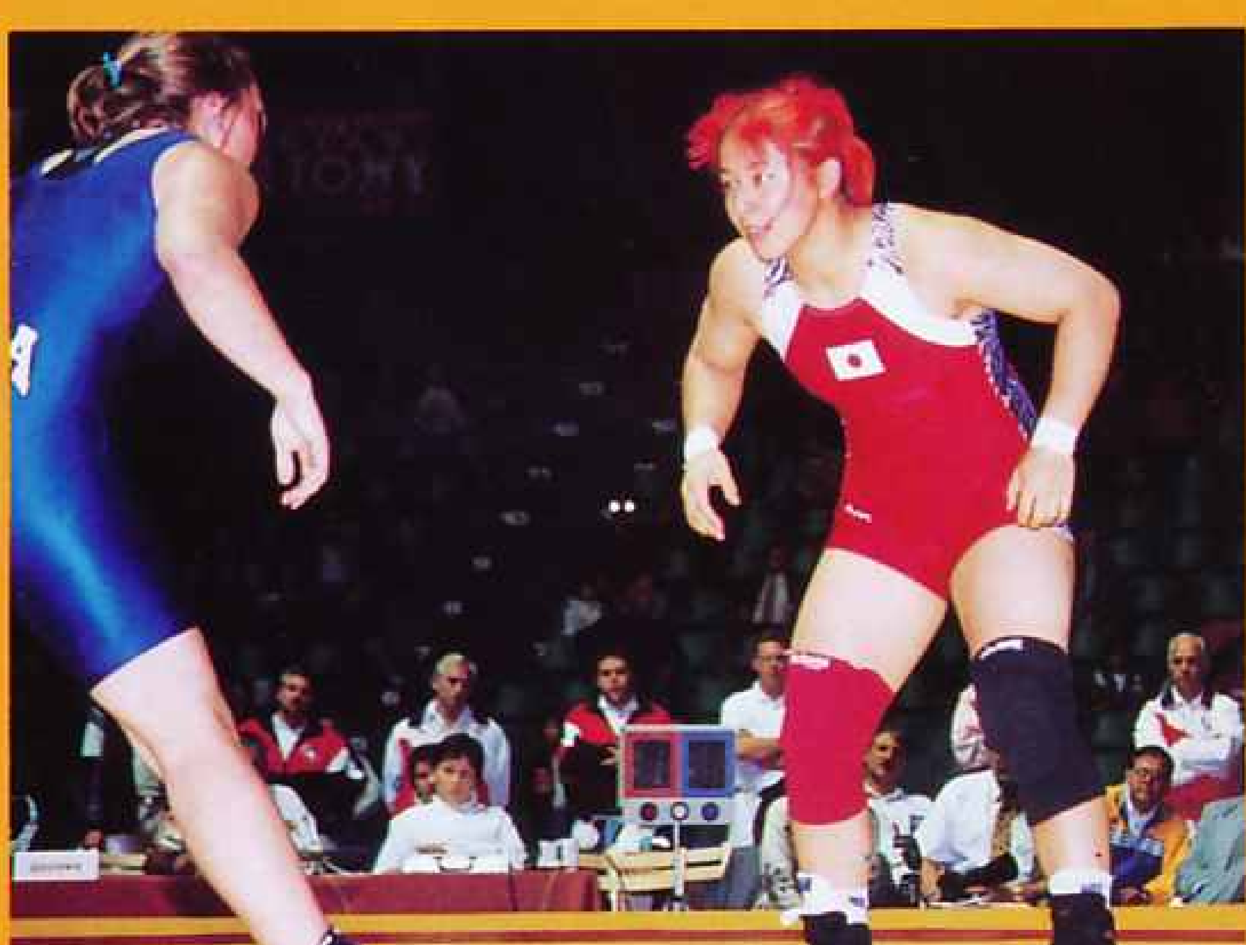
アニマル　前田選手は今、のたうち回ってるんですよ。それはどういうことかと言ったら「格闘家とは、プロレスラーとはこういうもんだ。こうでなければイカン」というか、そういうものを見せたいというか。

――そうですね。ちなみに浜口さんが考えるプロレスラー像とはどういうものですか。

アニマル　一人ね、日本人で凄い人がいるよ。大剛鉄之介さん。事故で片足をなくしてレスラーを引退したんだけど、その事故の時が凄かった。路上で車の脱輪を直そうとしてるところにバイクが突っ込んできたんだよ。その時に片足は吹っ飛んで、もう一方はかろうじてくっついている程度だよ。そんな状態でだよ、駆け寄ってきたバイクの兄ちゃんに殴りかかろうしたんだから。殴ろうとした瞬間に気絶したんだよ。

――壮絶ですね。

アニマル　そうだろ。オレは大好きだったよ。しょっちゅう一緒に酒を飲んでたよ。あの人と酒を飲んでると全然気が抜けないんだよ。



昨年の世界女子レスリング選手権（10月）では75kg級で優勝。世界選手権２連覇を達成した。気合いを入れるために自ら髪を赤く染めて試合に挑んだ。アニマル浜口の気合いの血は娘にも受け継がれている



浜口京子　1978年浅草生まれ。13歳でボディービルを始め、14歳でアマレス・クラブに入門。96年に全日本女子レスリング大会で優勝し、翌年世界選手権初制覇。昨年、ポーランドで開催された世界選手権でも優勝し、世界2連覇を達成する。普段はおとなしいが、やる時はやる、泣く時は泣く、二十歳の乙女である



アニマル浜口　本名：浜口平吾。1947年島根県生まれ。『69年9月国際プロレスに入門、国プロ崩壊後新日本、ジャパン、全日本で「全身全霊全力」で闘う。1991年1月、「感謝報恩の精神」で25kg増量、新日本プロレスに復帰後、WARに参戦』（浜さんよりいただいたプロフィールより抜粋）。現在、アマレス特別コーチとして娘・京子とともに世界3連覇を目指す、決して燃え尽きぬ気合いの男

――なぜですか。

アニマル　いつ掌底が飛んでくるかわからないからだよ（笑）。

――えっ！

アニマル　油断できないんだよ（笑）。急にビュッとくるからそれをサッサッと避けないとダメなんだよ（笑）。これも練習の一部なんだよ。

――気が抜けないですね（笑）。避けられなくて当たったことはないんですか。

アニマル　あるよォ！　血だらけになったよ（笑）。だけど、一緒に居て学ぶべきものがあるのよ。

――どんなことですか。

アニマル　大剛さんがいつも言ってたことは「プロレスはルールを守ることが大前提にあるけど、やっぱり喧嘩だ」ってことだよ。練習も物凄くやってた人だから。しかも片足で「スパーリングやろう」って言うんだよ。その時にオレは金玉を握られたよ。血だらけになったよ。

――え！　また血だらけですか（笑）。

アニマル　片足がないから金玉を攻めてこないと勝てないだろ。

母　要するになにをされるかわからないってことよねぇー。う〜ん。凄いわねぇー。

アニマル　オレはあの人を見て、格闘技とはなんなのかっていうのをいつも考える。京子にも言うけど、最後はやっぱりハラワタなんだよ、魂なんだよ。

京子　私も試合をしてて最後はやっぱりそこに尽きると痛感します。

――もう大丈夫ですか（笑）。

京子　大丈夫です（笑）。

アニマル　京子はそれでいいんだよ。いかに喜怒哀楽を出すかってことだよ。それがなきゃ、ハラワタなんかでないよ。

――前田さんは「リングの上はカッコつける場所じゃないよ。カッコつけなくてもいいようにするために練習するんや」みたいなことをよく言ってますね。

アニマル　その通りだァ！　大切なのは日々の稽古だよ。そして「いざ！」となったら命をかけられるかだよ。「ヨッシャー！」ってていけるかってことなんだよ。いつも気合いを入れてないと「いざ！」という時に気合いなんて入らないよ。

――日々の稽古が魂のあるレスラーを作っていくんですね。

アニマル　まあ、これは余談だけどレスリングをしてるとね、自然に耳がワクんだよ（カリフラワー状態になった耳を指さしながら）。だから、オレはプロレスに入る時にビール瓶でガンガン、耳を叩いて先にワカせちゃったんだよ。

――耳はワカした方がいいんですか。

アニマル　違うんだよ。どうせ、なるんだから先にやっちゃった方が早いでしょ。

――はぁ？　でも叩かなくても自然になるんですよね。

アニマル　面倒くさいじゃねぇか！

――レスラーは見た目も大切ということですか？

アニマル　いや、なるんだから先にやっちゃえばいいじゃねえか。

――至って単純な理屈で（笑）。シンプル・イズ・ベストです（笑）。

母　アハハハ！　だけど、久しぶりに見たけど凄い耳だわね（笑）。

アニマル　単純なことに真理があるんだよ。手っ取りばやいことはやったらイイんだよ。それがナチュラル・トレーニングにも通じるんですよ。モノには完璧がないんですよ。完璧がないから足らざるを補わなければイカンですよ。だから、陰陽であり、男と女であり。だけど、考えても考えてもわからないんですよ。これが絶対正しいってものがないんだから。それに情況は常に変わるものだから。それにどう対応するか……。

母　もうね、しゃべることに喜びを感じる人だから（笑）。

アニマル　黙ってきけよ！（笑）

――ワハハハ！　だけど浜口さんの気合いの入り方はタダゴトじゃないですよね。常人ではマネできないですよ。だけど、本人はまだまだ全然足りないと思ってるわけでしょ（笑）。つくづく壮絶な男だと思います。

母　大したことない、大したことない（笑）。とんでもないよ（笑）。ただ、真面目ってことはホントに真面目。

アニマル　ワッハハハハ！　だけど、オレがなんでこんなことをやるかと言えばまだまだ弱いからですよ。

母　あんた、よく悩むものね（笑）。

アニマル　お前はまた、そういうことを！弱いから人間って強くなろうとするんだよ。

京子　私も試合前はホントに恐怖感と不安感があります。逃げ出したくなるし、プレッシャーもモノ凄くかかります。そういう時、私ってダメだなって思いますね。

アニマル　オレだって間が抜けてるところがあるんだよ。だから人間は弱いって言うんだよ。だけど、今日の対談は京子が勝った。

京子　え!?　泣いてたのに。

アニマル　お前が勝ったよ。お前の涙で全部終わりだね。ベラベラしゃべったオレは負けだ。

――ワハハハハハ！　京子さんが今回はハラワタを出したってことですか（笑）。

アニマル　そうだなぁ（笑）。お前の良いところは純真なところだよ。

京子　ちょっとやめて恥ずかしいじゃない（照）。

アニマル　純って言うのは夜空にポッカリ浮かんだ満月かもしれない。太陽が水平線から上がってくる時かもしれない。だから人間っていうのは純粋さを何歳になっても失ったらダメだなって思うんだよ。だから、笑わないでくださいよ（笑）。だから、オレはジムからの帰り道、浅草寺の境内で星を見ながら「あなたの輝きを私にください」って両手を広げますよ。

――めちゃくちゃロマンチックじゃないですか（笑）。

アニマル　アニマル浜口は気合いだけの人間じゃないですよ！　ロマンチストですよ！

一同　ワハハハハハハ！

アニマル　いやぁー、僕ほどロマンチストな人間はいないんじゃないかと思いますよ（笑）。不器用でね（笑）。オレがね、もっと口がうまかったらいいよぉ。不器用なんだよなぁ（笑）。

――アニマル浜口のハラワタですかね、いまのは（笑）。

アニマル　だけど京子には負けたよ（笑）。

母　まあ、二十歳の乙女ですよ（笑）。泣く時も、笑う時も、怒る時もありゃあね（笑）。そんなもんは別にいいですよ（笑）。

アニマル　お前はわかってないよ。観喜法悦なんだよ。感極まって喜ぶんだよ。

母　はいはい。私は馬耳東風だから（笑）。

京子　アハハハハ！

アニマル　オレがね、朝、パッと起きて、人生とは生きるとは人間とはってことをしゃべろうとするとこいつは横向いて「洗濯物を干すのを忘れてた」って逃げるのよ（笑）。

母　アハハハハハハ！　もう好きだから話が（笑）。夜帰ってきても、そうだから（笑）。

――ワハハハハハ！　毎日こういうお話はあるんですか（笑）。

母　そう。夜、寝る前はね。本読むのが好きだし。

アニマル　ここでな（笑）。

母　毎朝、ここで勉強してる。

アニマル　そう。般若心経！（般若心経の朗読を始める浜さん）

母　1時間ぐらいかかるわよ（笑）。

――構いません（笑）。

アニマル　これを読むと無になるわけですよ。それで次は観音経！　そして禅宗！

――ワハハハハ！　抜群です（笑）。

アニマル　観音経は念じよってことですよ、何事も。禅宗は今を生きよってことですよ。これはね、いいですか、格闘技にも通じるんですよ。試合が終わったら、いろんな人に味方になってもらったってことでお陰さまになるんですよ。そして試合を振り返って内観するわけですよ。そういうことを毎朝やるわけですよ。

――何時間ぐらいかかるんですか？

アニマル　1時間か、2時間ぐらいですよ。それでジムに行って石を挙げて一日4時間ぐらいやるんですよ。

母　だから、「もうお年だから練習も軽くやればいいんじゃないの」って言ってもダメなんですよ（笑）。性格だから、これは。

アニマル　バカ、オレなんかやんない方だよ。みんなやってるよ、4時間ぐらい。

母　あ、そう。偉くもなんともないけどさ（笑）。

――ワハハハ！　陰と陽ですね（笑）。

母　そうそうそうそう（笑）。アタシはそんなことするぐらいなら寝てた方がいいもん（笑）。イイこと言ってるのはわかるんだけど、そこまで付き合ってたら家事ができな



国際はぐれ軍団としてラッシャー木村、寺西勇と組み、アントニオ猪木に1対3で挑んだ蔵前国技館大会（1982年11月4日）。 新日ファンの憎悪を受けとめ切った、その男の背中に妻・香寿美は男の凄みと切なさを見た

いの！家事が！（笑）。用ができないの（笑）。

——まさに用ですね（笑）。

母　アハハハハハ！　そうそうそう（笑）。

アニマル　若い者に何かをしゃべっても自分がやらなきゃ、ナメられちゃうんだよ。それで25キロの石をバカみたいに（笑）。

母　バカなんですよ（笑）。もう2時間も4時間も。

アニマル　自分でも思うよ、バカみたいなことやってるって（笑）。

母　あんたホントに倒れちゃったらどうすんの。アタシはそれが心配なのよぉ。若いわけじゃあるまいし。

アニマル　だけどやらなきゃダメなんだよ。正しい生活ばっかりしていたらダメなんだよ。清濁をあえて飲まないと。

母　これでカレリンの話になるのかしら（笑）。

アニマル　バカタレ！（笑）　オレらしい話なんだよ。カレリン選手と前田選手の試合を技がああだこうだって言ってもオレじゃ



浅草寺・阿の仁王像前でツーショット。毎朝、仁王様から気合いをいただく浜口父娘にとって、この仁王像は魂の源だ

ないんだよ。人生の哲学から言うと、深みの深みのそのまた深みを求めているのが前田選手なんだよ。生きざまなんだよ。その観喜法悦を語るべきなんだよ。だから、オレは今日は京子に負けたって言うんだよ。観喜法悦を一番表現しちゃったからなんだよ（笑）。さすが世界チャンピオンだよ（笑）。

母　またまたまた（笑）。

京子　もう（笑）。だけど、私もこういう風に自分の試合でここまで語られるような選手になりたいですね。

アニマル　冷静になって話すオレじゃダメなんだよ。前田さんもカレリン選手も凄い選手なんだよ。そこで泣いてることがいいんだよ。

京子　だけど私はお父さんみたいには考えてなかった。前田さんはカレリン選手にただ勝負を挑んだってだけしか捉えていなかったんですよ。だけど、前田選手の裏の気持ちとか、人々に伝えたいものがあるとわかって……。

アニマル　いいか！　お前はそれでいいんだよ。オレは世界戦に向けて「ああでもない。こうでもない」って考えるんだよ。お前は物事にガーッと集中するんだよ。だけど、いざとなると腹が座るのがお前なんだよ。それでオレたちはタッグマッチでやってるんだよ。それで改めてオヤジってのがわかるんだよ。人間学なんだよ。オレは前田選手の人間そのものをズーッと探って昨日から寝てないんだよ！

——ワハハハハハ！　ありがとうございます（笑）。

アニマル　笑うな！

母　アハハハハ！

アニマル　前田日明とは何かとか考えましたよ。それでオレはレポート用紙に「ローキックがいい」とか何十枚も書いたんだよ。だけど、これはオレじゃないんだよ。もっと本質的な根源的なものをズーッと掘り探って考えて、そこに京子が気が付いたってことはこの対談は素晴らしいですよ（笑）。

一同　ワハハハハハ！

アニマル　変な先入観とかじゃないんだよ、浜口一家は!!　まさにコレなんだよ！

——ホントに何が出てくるかわからない、驚きの連続です（笑）。

ハラワ

母　ビックリしちゃうわよねぇ（笑）。ホントに誰の意見も聞かないからね（笑）。まさかこの人が復活するとは夢にも思わなかったし。最初の辞める時も（昭和62年ジャパンプロレス解散時）アタシが「あと1年間やって頂戴」って言ってもダメ！　この人の革ジャンをビリビリ破くくらいモミあったけど、家を飛び出しちゃって。

アニマル　ワッハハハハ！

母　だからそれだけ頑固ってことなの（笑）。

アニマル　違うんだよ。オレが真面目過ぎるんだよ（笑）。

母　それでね、京子が「お父さんとお母さんはラブラブなんだから手を握れ」とかふざけて言うじゃない。そうするともう怒るんだから（笑）。

京子　アハハハハハ！

——理想の夫婦ですよ（笑）。一緒になったきっかけはなんだったんですか（笑）。

アニマル　（無視して）でもね。やっぱりね、今回の世界選手権ではこいつは料理とかよくやってくれたよ。

母&京子　アハハハハ！

母　もう照れ照れ（笑）。

アニマル　だからよくやってくれたよ（笑）。応援団もやってくれたしね。

母　アタシがもし前田——カレリン戦を見に行ったら「前田ァー！　カレリンー！」って大騒ぎするわよ（笑）。

アニマル　もううるさくてしょうがねえよ（笑）。

母　昔もこの人が新日の蔵前国技館大会（昭和56年10月8日）に殴り込みに行った時に……。

アニマル　お前、オレがいるのを忘れちゃったじゃないか（笑）。

母&京子　アハハハハ！

母　興奮しすぎてパンフレットを丸めて前に座ってたサラリーマンを殴っちゃったからね（笑）。選手も殴ったね、京子と（笑）。蔵前国技館の5vs5（新日正規軍vs維新軍、昭和59年4月19日）の時に警備員を「うるせぇー」ってドケちゃって丸めたポスターで殴ったんだから（笑）。

——ワハハハハハ！　京子さんも一緒にやったんですか（笑）。

京子　はい。私も（笑）。

——やりますね（笑）。

母　だけど、リング上で「この野郎！」ってやってるこの人の背中を見て「ああ、男の人ってたいへんなことをやってるんだな」って思いましたよ。必死の形相でやってるんだから。あの時なんてお客さんの99・9％が敵だったんだからね。1対3の時（A・猪木vsR・木村、浜口、寺西勇、昭和57年11月4日・蔵前国技館）もそうだし。

——奥さんはリング上の浜口さんの背中を見て「ああ、男の人ってたいへんなことをやってるんだな」って感じたわけですよね。浜口さんの覚悟とかハラワタがリング上から伝わってきたんですよね。

アニマル　覚悟しなきゃリングになんて上れないよ。

——だから、今回の試合ではリング上から前田選手のどんな覚悟が立ち登ってくるのかが重要ですよね。

アニマル　だから、この試合は深遠なるものにグッグッと迫る闘いになるだろうよ。

母　盛り上がるでしょうね。

京子　盛り上がると思う。

母　でも、あんたね。そんなにトレーニングばっかりしてたらダメよ。

アニマル　あのね、トレーニングしないとダメなのよ。微妙な調子が一緒にやらないとわからないんだよ。そういうのをこいつはわからない。

母　あらま！

アニマル　実際にやってないとわからないんだよ。だけど52歳にもなってこんなことやってて大丈夫なのかとも思うよ。石を持ち上げてバカなことをやってるんじゃないかと思うけど、だけど「必死に学び、命を張って学べ」って言ってるんだからやらなきゃイカンし、心を清めないと天は褒美はくれないんだよ。だけどね、うちの家系はもともと力が強いんだよ。うちのおじいちゃんは凄かったらしいよ、漁師だったんだけど櫓をこいでたら櫓が折れたんだから。

母　その話は100回ぐらい聞いたよ（笑）。

アニマル　ワッハハハ！　タダゴトじゃないんだから力が（笑）。うちの兄弟はみんな力が強いんだよ。特に次男が強いんだよ。

母　この話になると長いよ（笑）。年賀状は書かなくていいの？　500枚あるのよ。明日は大掃除だっていうのにもういい加減にしてよ（笑）。

アニマル　うるさい、バカたれ（笑）。

——ワハハハハ！　今日は長い時間、ホントにありがとうございました（笑）。

【98年12月29日、小料理「香寿美」にて取材】



母・香寿美。「アタシは写真なんかいいよ（笑）」ということで経営する小料理「香寿美」の様子を撮影。現在、金曜日のみの営業だが、現役プロレスラー、プロレス・ファンが集うアットホームな店。場所は浅草寺の裏手



アニマル浜口ジム、ジム生募集

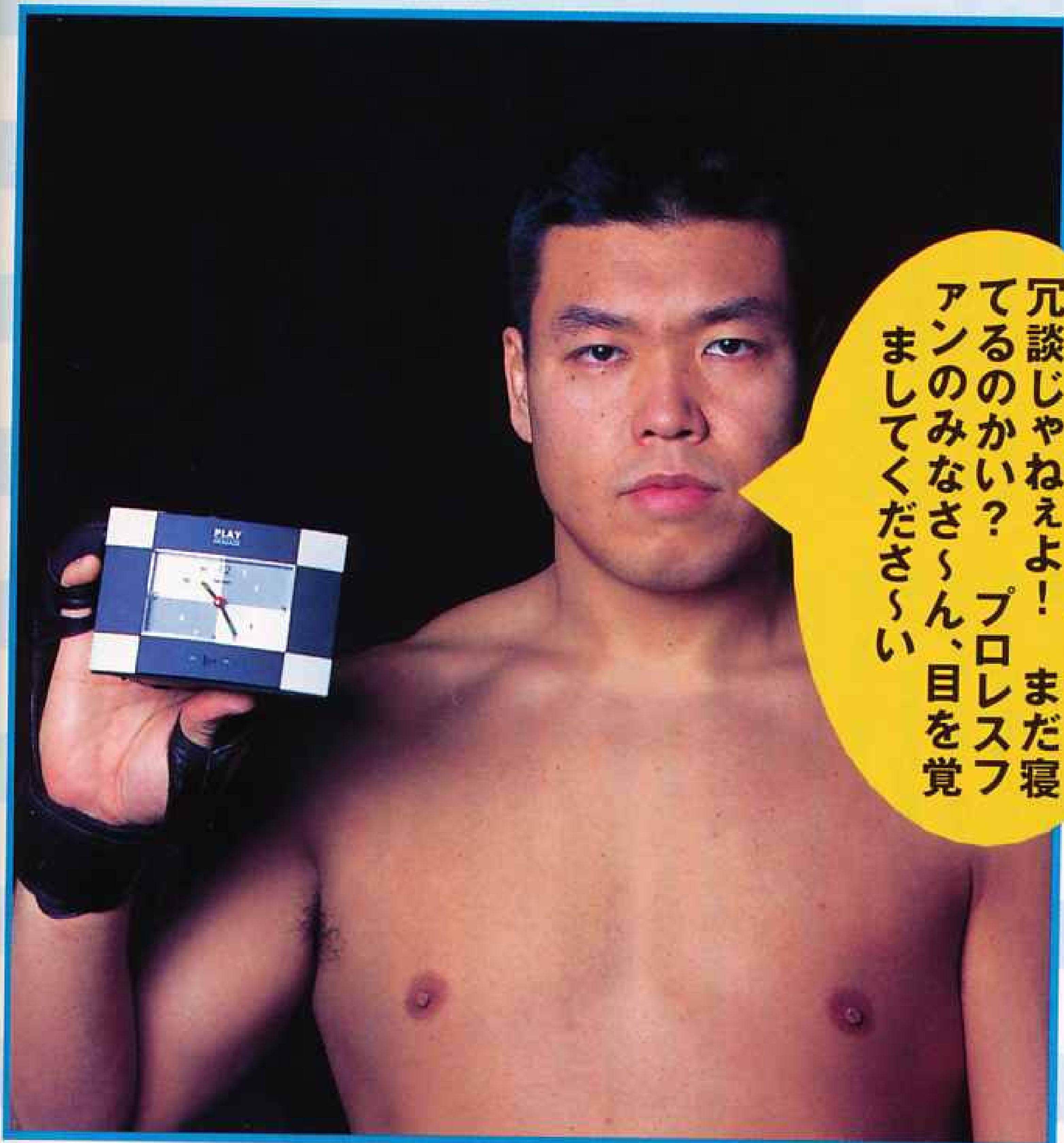
新日の大谷晋二郎、吉江豊、全日の大森隆男、リングスの坂田亘、滑川康仁、バトラーツのマッハ純二ほか浜口ジム出身のレスラーは数多い。ウエイトトレーニングはもちろん、キック、レスリングの教室もありと充実の内容。いかなる病気怪我挫折をも乗り切る健康管理のための入会もＯＫ！

【会費】入会金2万円　月会費1万円
【営業時間】月～土／ＡＭ9:00～ＰＭ11:00
日・祝／ＰＭ0:00～ＰＭ4:00
【定休日】毎月第１・３日曜日
台東区浅草1-20-4　イーストビル2Ｆ
TEL.03-3842-8809
＊銀座線浅草駅近く、雷門から徒歩０分

ファンの皆さんお目覚め記念
UFO(ウルトラ・ファンタスティックな・贈り物)コーナー

ジャイジャイ。今回読者プレゼント担当になったデカ女で～す。巨体を駆使してプレゼントを集めたよ。バレンタインのチョコ代わりにみんなにでっかく差し上げちゃう！（ジャイ子）

1999 WINTER SPECIAL COLLECTION

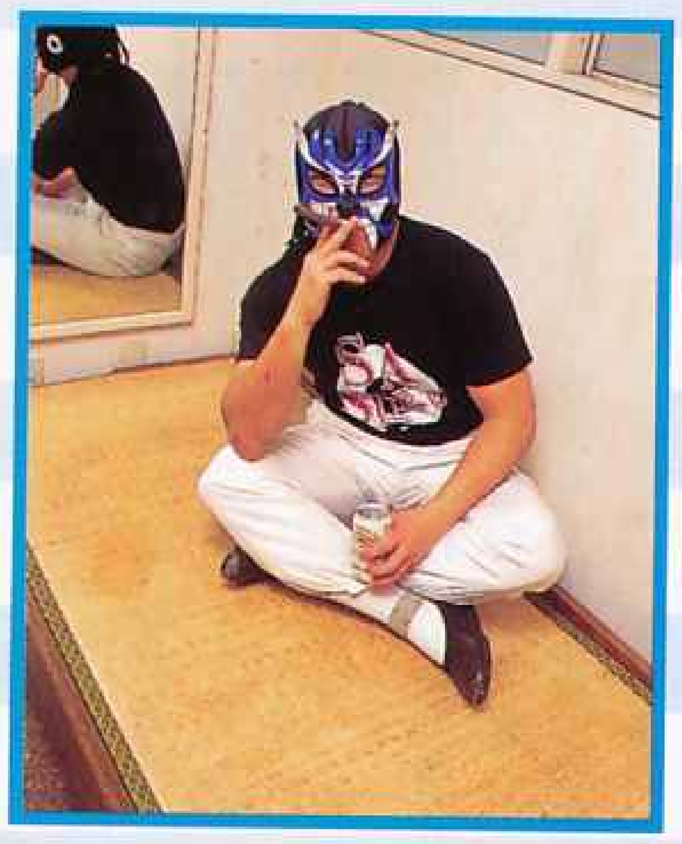


他誌では絶対入手不可能！ 世界に絶対ただひとつ！ 小川直也選手生声入り目覚まし時計　1名様

どう、欲しいでしょ～？ オーちゃんの生声を録音した、世界でただひとつの目覚まし時計です（上のセリフを言ってるよ）。新日本プロレスのファンの皆様以外の応募もお待ちしております。

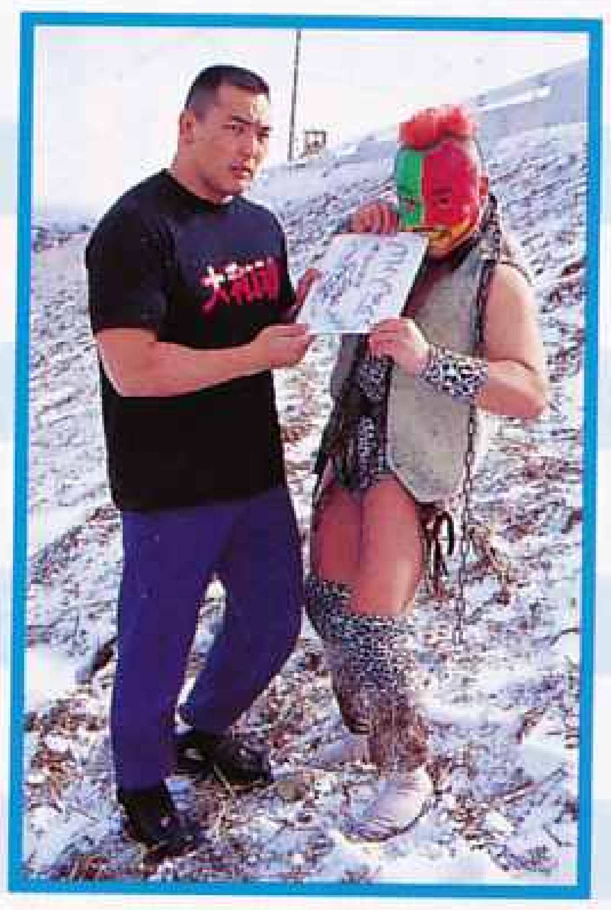
【小川直也選手提供】

こちらも激レア！ ワル気分を満喫？ SASUKE選手 吸いかけ葉巻　1名様



ジャジャーン。なんと写真でSASUKE選手が吸ってる葉巻、現物をプレゼント。それはそうと、どうなる、みちのく？ ガンバレ、サスケ！ ジャイジャイ！

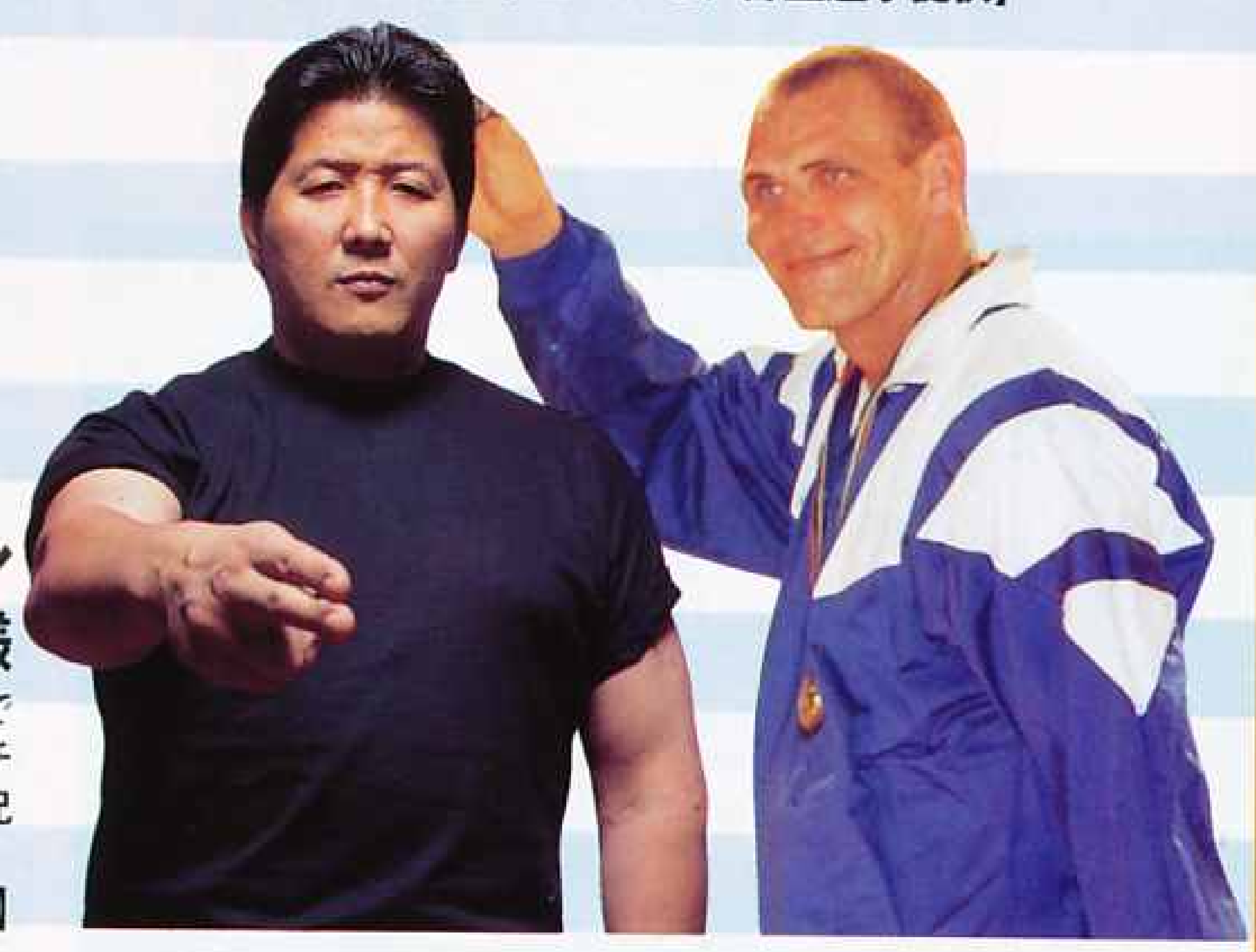
【SASUKE選手提供】



アディオス、ヨネ。ありがとう、ヨネ。フォーエバー、ヨネェェェ！ ヨネ原人＆エンセン井上 寄せ書きサイン色紙　1名様

感動の対面を果たした２人の、野蛮テイスト溢れるサイン色紙をでっかくプレゼント。

【ヨネ原人選手＆エンセン井上選手提供】



これが最後！ ホントに最後！ 前田日明vsA・カレリン プラチナチケット　1組2名様

2月21日、横浜アリーナのチケットをでっかくプレゼント！ ……したいがプラチナチケットのため限定1組2名に！ 日明兄さん最後の勇姿をその目に焼き付けろ！

【リングス提供】

1999 WINTER CD COLLECTION



とにかく聞け！『新時代宣言！ 全日本プロレス５強テーマ集』　２名様

三沢、小橋、秋山、田上、川田の各選手のオリジナルテーマ曲を完全収録！ ブックレットには選手プロフィール、三冠王者と世界タッグの王者リストといたれりつくせり。ジャイ子感激。

【Vap提供】

とにかく踊れ！『激突！ カラテクノ』２名様

11号で紹介した『地上最強のカラテクノ』に続くインディ・テクノレーベル、TOY LABELの新作。通販もやってるのでホームページ、http://fly.to/toyをチェキ！

【TOY LABEL提供】





まとめて聞け！ 新日本プロレステーマ曲集１０種＆発売記念携帯ストラップ　セットで１名様

新日のテーマ曲集が10作品一気にリリース、ドドーンとまとめてプレゼントしちゃうよ。懐かしのテーマ曲も大充実！ 新日ロゴ入り携帯ストラップもさしあげま～す。

【キングレコード提供】





1999 WINTER T-SHIRT COLLECTION





"Mr.パーフェクト" カート・ヘニングTシャツ、スタイナーBros.Tシャツ　各1名様

パワー全開！ 極彩色でGO！ こちらのTシャツはオフィスTAKA（042-566-5407）にて通販もしてます。
【オフィスTAKA提供】





超クール！ エンセン井上VTJ大勝利記念Tシャツ　3名様
シューティング大宮ジムキャップ　1名様

エンセンnewTシャツは完全限定品。オシャレなボーイズ＆ガールズは即ゲット！ どうしても欲しい人は047-378-6403イーフォース・ジャパンまで。なお、イーフォース・ジャパンとPUREBREDシューティング大宮ジムでは18歳以上の女性事務スタッフ絶賛募集中です。勤務地は大宮or市川。詳細はイーフォース・ジャパン　047-378-6400まで。奮って応募せよ！
【イーフォース・ジャパン提供】

爽やかに着こなそう！ バトラーツTシャツ　1名様

バックプリントがまるで天使の羽根のよう。ステキ。天使のようなアナタに。
【格闘探偵団バトラーツ提供】

またまた限定品　バトラーツTシャツ、モハメド米'99モデル　各1名様

前号では社名間違えてごめんなさ〜いのアドブレーン・ピアスがまたバトグッズを出しました。米食ってデッカくなれ！ Tシャツはアレクのプリントとロゴの2種類です。こちらではバト・ポストカード写真集の予約も絶賛受付中。お問い合せは03-3987-2195アドブレーン・ピアスまで
【アド・ブレーンピアス提供】

1999 WINTER VIDEO COLLECTION



サヨナラ、兄さん『前田日明メモリアル3完結編』　3名様

RINGS設立から引退までの日明兄さんの格闘人生を網羅。いや〜、勉強になります。特製プロレスカード付き。マスト。ジャイジャイ。
【QUEST提供】



チョーシュー、チョーシュー、チョーシュー！『'98 SG タッグリーグ戦VIII』　3名様

ハンバーガーが大好きでおなじみの大仁田が京都大会に乱入したシーン収録。一緒に叫べ！

nWoよ、どこへいく？『武藤＆蝶野の衛星ジャック！ NWO JAPAN Vスペシャル』　3名様

仲がよかった頃の武藤＆蝶野のトーク、スタジオ破壊シーン、街頭ロケなど満載。試合の実況はケロちゃん、解説はGKだ！

トリプルインパクト！『中西、永田、藤田特集』　3名様

アマレス出身3選手のデビュー当時からの映像満載。なんと中西と猪木の特訓シーンも独占収録！ 要チェック！
【3本まとめてVALiS提供】



名作！『格闘技世界一　四角いジャングル』　1名様

伝説の猪木vsアリ戦、対猛獣戦のパイオニア、ウイリーvs熊などファン感涙の激戦が続出！ マス大山＆真樹先生も登場。豪華すぎて泣きそうだよ。

悩殺？『脇澤美穂 MAHALO』『納見佳容 BIG SMILE』　各1名様

人気沸騰中の変態アイドル、ミホカヨビデオはハワイロケも敢行！ セクシーシーンも見れちゃうよ。びっくりしてお菓子がノドに詰まっちゃった。

圧殺！『L-1リベンジ 神取vsグンダレンコ　98/10/10両国国技館』

L-1の全7試合を完全収録。沖野の勝利に驚嘆し、八木の強さに舌を巻き、神取の勝利に酔え！

必殺！『最強伝説　神取忍』　1名様

現役にして伝説。さすがレディース・レジェンド・プロレスリング！ ブル中野戦、工藤めぐみ戦など多数収録。ジャイ子も男らしくなるぞ！

お問い合わせ03-5521-8020　【5本まとめてポニーキャニオン提供】



祭りだ、祭り！『蘇れゴールデンタイム伝説』　1名様

バトラーツ両国大会を全試合収録！ プロレスの神髄を見せつけるロード・ウォリアーズvsラブ・ウォリアーズ戦は、もちノーカット。見ないヤツは馬鹿だ！（金沢調）

コメンテーターは杉作J太郎さんで〜す『エンターテイメントレスリングスーパーライブ』　2名様

FMW 9周年記念横浜大会を全試合収録！ 大仁田ラストマッチ、ハヤブサvs冬木など見どころ満載。女子部は解散なの？ ジャイ子、入門します！
【2本まとめて東芝EMI提供】

1999 WINTER KAJIWARA'S COLLECTION

梶原一騎13回忌記念その2
バイオレンスアクションフィギュア タイガーマスクシリーズ エジプトミイラ、ミスター・ノー、ミスターX　各1名様

タイガーマスクシリーズの新作！ ミスターXは3月発売予定、価格は未定。他は絶賛発売中！ 定価2400円。集めろ！ お問い合せはレッズ 03-3863-0576まで。ジャイ子のフィギュアも作ってくんないかなぁ？
【レッズ提供】







梶原一騎13回忌記念その1
あしたのジョーマグカップ4個セット　1名様／スパーリングパンチ　1名様
丹下段平グローブ　1名様／ハンス・ナイマンTシャツ　1名様

マグカップはなんと4個セット。フタつきなので茶碗蒸しにも最適。こちらのグッズはすべて千代田区三崎町2-6-7-202　03-5212-7897　MAX格闘館で絶賛発売中！ グッズの他、ウェア類も揃ってます。
【MAX格闘館提供】

©梶原一騎・辻なおき／講談社・東映動画　製造元・ジーベックトイ　販売元・レッズ

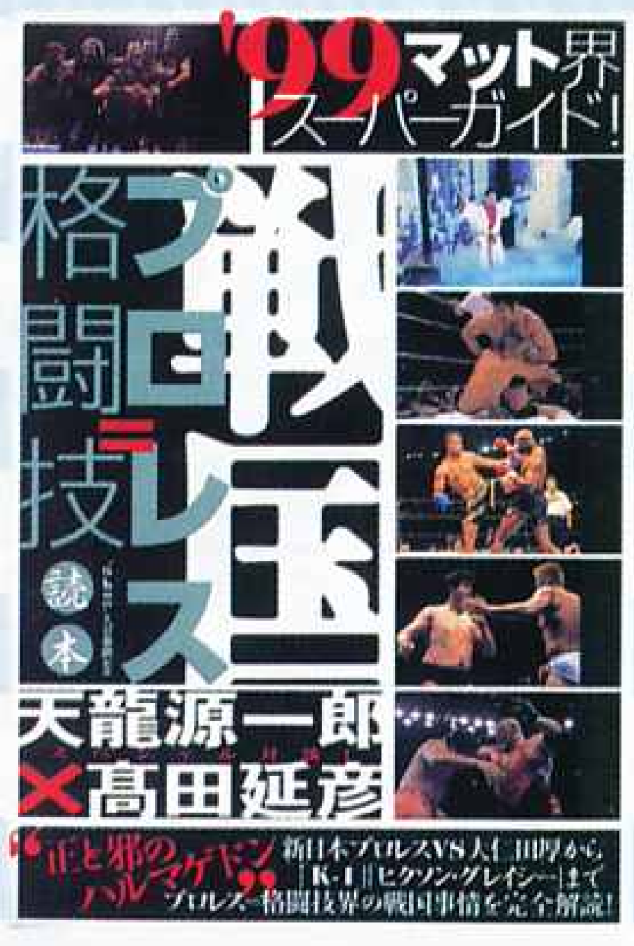
1999 WINTER OTHER COLLECTION





二瓶組Tシャツ＆組長ブロマイド　セットで1名様
二瓶組ライター＆ステッカー2種セット　3名様
組長から強奪成功！　怖かったぁ。二瓶組グッズは国際プロレスやDDTの会場でたまに売ってます。
【喧嘩プロレス二瓶組提供】

一部必読！『戦国プロレス＝格闘技読本』　3名様
なんと、某メジャークラスマガジンのH編集長と並んで本誌・山口日昇編集長のインタビュー掲載!!　吉田豪、元・本誌邪道姫のものもも執筆してまーす。他の内容は「書評の星座」参照。　**【メディアワークス提供】**



メチャうま！　市屋苑ライター　3名様
ジャイ子が市屋苑から持ってきちゃいました〜。ここの焼き鳥は絶品。　**【市屋苑提供】**

オシャレな女子プログッズ、その1
ネオ・レディース灰皿　3名様
洗練されたデザインの灰皿。タバコもすすむね。ところでネオは三禁ないんだっけ？　もちろんジャイ子にはありませ〜ん。　男？　いませ〜ん。　**【ネオ・レディース提供】**



オシャレな女子プログッズ、その2
白鳥智香子テレカ　各1名様
智香子セット　2名様
ハイビスカスがラブリーな智香子セットの中身はステッカー2種とブロマイド、携帯ストラップで〜す。テレカは限定品。全て1500円で通販受付中！　お問い合せは白鳥智香子オフィス03-3207-0166まで
【白鳥智香子オフィス提供】



1999 WINTER USA COLLECTION



本誌・山口日昇アメリカ土産　各1名様
インスタントラーメン（NISSIN製）、ホテルから持ってきたいい匂いのシャンプー＆シャワーキャップ、ホテルにきてた新聞（WCWのレアな広告入り！）、モーリス・スミスのTシャツ4種で〜す。このTシャツ、赤は赤帯、白は白帯、黒はワールドクラスの人（モーリスジムではモーリス、高阪、バンビちゃん）だけしか着ちゃいけないんだって。超レア。話はかわってダブルクロス解散宣言をして消えた山口日昇を誰か見つけてくださ〜い。　**【山口日昇提供】**





なぜだ？　高阪剛サイン入りモーリスTシャツ　1名様
激レア！　モーリスが帰ってこないので高阪選手がサインしてくれました。　**【高坂剛選手提供】**



こちらはShow氏のお土産で〜す。
UFC Tシャツ　1名様
日本で手に入れるのはチト難しい。それならココで手に入れろ！
【Show氏提供】

応募要項

みんな〜、欲しいモノは決まったかな？　いっぱいあるでしょ。一つに決まったらすぐハガキの準備！
ハガキは右記の要領で、応募券を必ず貼付して下記の住所まで送ってね。締切は3月20日（当日必着）です。前田vsカレリン戦チケットのみ2月15日必着!!　※応募券のないハガキは無効で〜す。わかったぁ？　ジャイジャイ。

宛先は
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部「モノマネのヘタな人は気が狂ってる」係まで

応募券
1.住所　2.氏名
3.年齢　4.希望商品
5.面白かった記事＆その理由
6.つまらなかった記事＆その理由
7.『PRIDE.0』（P116〜）の勝者は誰?
8.『紙プロ』で取り上げて欲しい人は誰?
9.『紙プロ』は現在定価780円ですが、アナタはいくらまでなら出す?

紙のプロレス RADICAL
No.15
1999年3月10日発行
定価：本体743円＋税

発売元: 株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元: 株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）
編集兼発行人: 山口日昇
編集スタッフ: 坂井ノブ／松澤チョロ／吉田豪／八木賢太郎（新車購入のため非番）
助っ人: ジャイ子／恒遠バカツネ
デザイン: ツー・スリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、ふるーる）
カメラマン: 斉藤ユーリ／遠藤政文／森鷹博／黒田史夫
お勘定: 林ヘックション一枝
レズじゃないもん: 中村カタブツ君（もうすぐ36歳）
フィニッシュ: ツー・スリー
印刷: 図書印刷株式会社
印刷人: 大杉すぎすぎ昌也
©DOUBLE CROSS 1999
編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてニャンマゲ！

紙のプロレス RADICAL
No.16は3月下旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

刊PのS次長とYカク氏にはバレンタインのチョコがどっさり来るそうです……そこで逆プレ大募集！　本誌スタッフにチョコちょうだい！
腕か明記の上、編集部に送ってね。ジャイ子に男子が送ってもOK。2月14日過ぎても気にしなくていいで〜す。



安心と信頼のウェアブランド、遂に発進!!

紙のプロレス T shirts

利害を超越して誰も出来ないこと
誰もやらないことを
夢として それに挑戦する!!
それが岡本魂
Tシャツである

アントイ石川（談）



1. バトTシャツ

お陰様で、これと同じデザインのＴシャツをバトラーツ両国国技館大会の際に販売したら、アッという間に完売してしまいました。バト全選手がかっこよくプリントしてあるクールな逸品です。もちろん小社にも問い合わせ殺到!!　リクエスト続々!!「気になるあの娘が振り向いてくれました!!」との声が多数！　というわけで、満を持して色違いバージョンを出します。

M、Lとも
¥3500



2. 魂Tシャツ〈ネイビー〉

右の写真を見て頂きたい。極真出身の魂選手が、先輩にあたる極真会館（大山派）の岡本徹選手にＴシャツをプレゼントしたときのもの。よく見てほしい、魂選手の右半分が赤くなっている。どうやらこのＴシャツには、現代の科学では解明できない不思議な力が宿っているようだ。

M、Lとも
¥3000



3. 魂トレーナー

岡本魂選手の熱いハートが宿った、このトレーナーをお薦めします。バックには格闘探偵団バトラーツと『紙のプロレス』のダブルネームが入っています（ここに紹介した４枚、いずれもバックは同じデザインです）。

M、Lとも
¥4500



4. 魂Tシャツ〈レッド〉

燃えるような赤で、キミの情念をスタイリッシュに表現してみないかい？　いま、巷で話題の“あのＴシャツ”のように、気軽にオシャレに着こなしてほしい逸品です。現在、負傷で長期欠場中の岡本魂選手が不死鳥のように戦線復帰してくる日が一日も早くやってくることを祈りつつ…　…日本全国の「岡本さん」は一家に一枚！

M、Lとも
¥3000

押忍、通販です!!

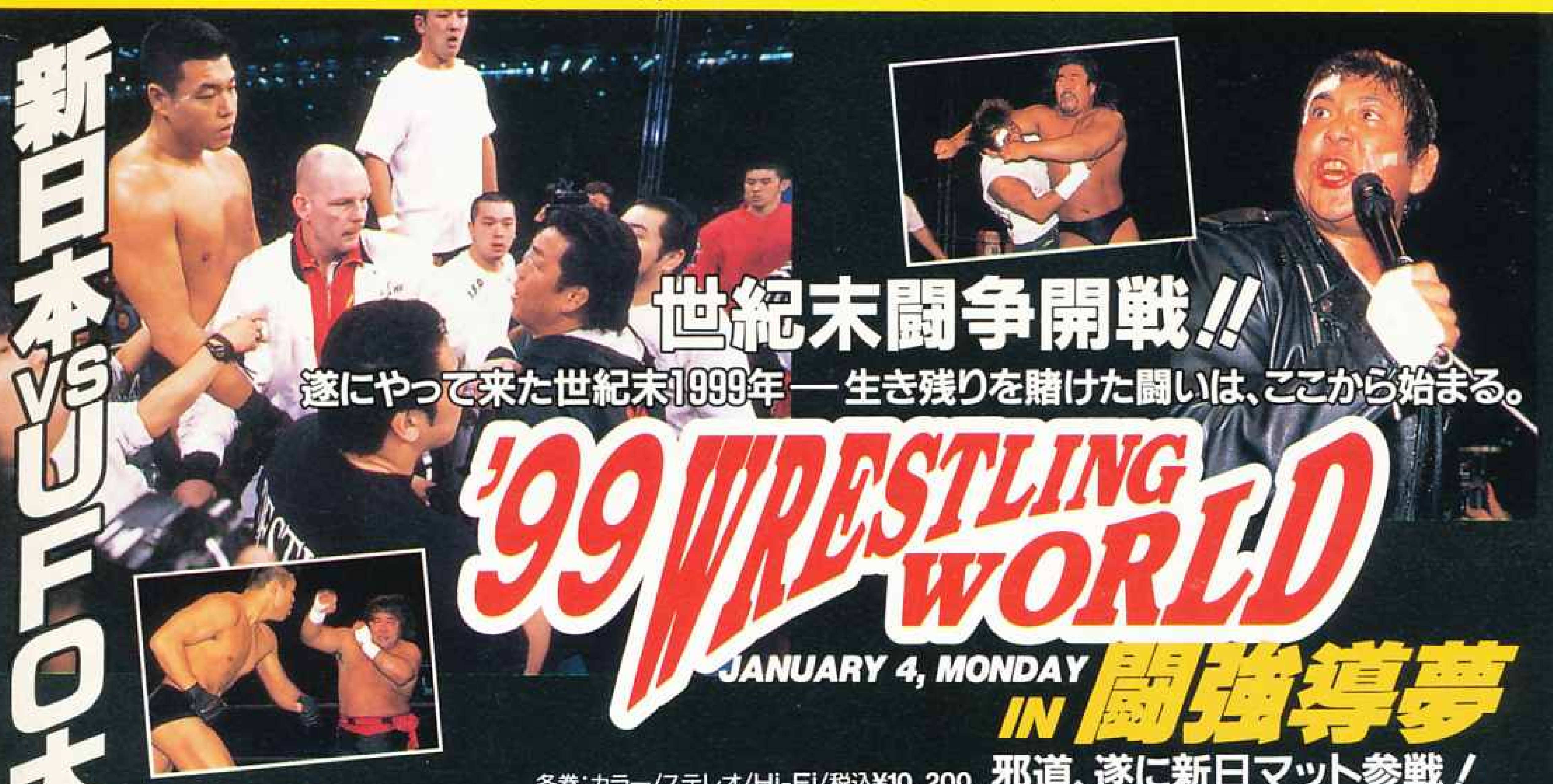
さあ、どうですか？『紙のプロレス』オリジナルブランドのＴシャツ＆トレーナーの数々をアナタも着たくなってきたでしょ？　上の商品は「チャンピオン東京店」でしか販売してません。「買いに行きたいけど、遠くて無理だよ！」なんて人のために小社では通販を承ります。希望商品の代金+送料500円に、あなたの住所、氏名、電話番号、希望商品を明記したメモを同封して現金書留で右記住所まで送って下さい。

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「紙T通販係」
[お問い合わせ] 03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 99
1999 No.15
前田日明、カレリン戦直前 USA特訓・本誌独占取材敢行やんけ!!

サスケがいる限り みちのくプロレスは不滅だ！ BIGな夢を見させてネ！ がんばれサスケ！
ガンバレみちプロ！ 東芝EMIはザ・グレート・サスケとみちのくプロレスを応援します！

新日本vsUFO大事件勃発！



世紀末闘争開戦!!
遂にやって来た世紀末1999年ー生き残りを賭けた闘いは、ここから始まる。

'99 WRESTLING WORLD
JANUARY 4, MONDAY IN 闘強導夢
邪道、遂に新日マット参戦！

各巻：カラー/ステレオ/Hi-Fi/税込¥10,200

PART 1 TOVH-1376 約112分収録
■WRESTLING WORLD オープニングマッチ30分1本勝負
中西 学 vs 藤田和之
■新日本プロレスvs維震軍30分1本勝負
藤波辰爾・木戸 修・安田忠夫 vs 木村健悟・後藤達俊・小原道由
■IWGPタッグ選手権試合60分1本勝負
王者組 天龍源一郎・越中詩郎 vs 天山広吉・小島 聡
■特別試合＝時間無制限1本勝負
佐々木健介 vs 大仁田厚
■IWGPヘビー級選手権試合60分1本勝負
王者 スコット・ノートン vs 武藤敬司



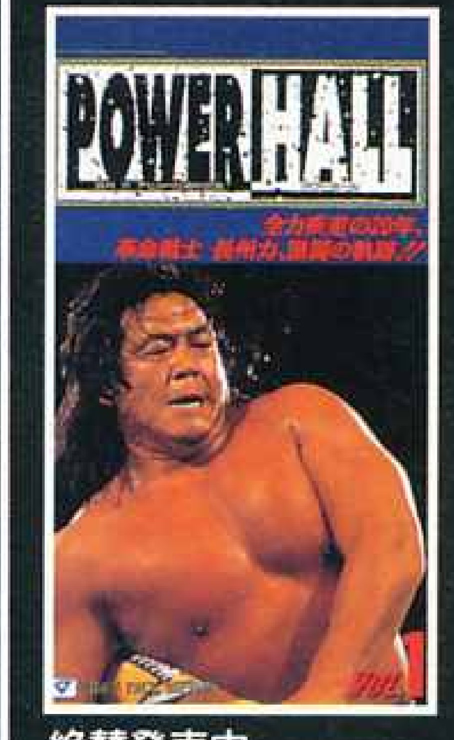
PART 2 TOVH-1377 約107分収録
■IWGPジュニア・タッグ選手権試合60分1本勝負
王者組 大谷晋二郎・高岩竜一 vs ケンドー・カシン・ドクトル・ワグナーJr.
■IWGPジュニア・ヘビー級選手権試合60分1本勝負
王者 獣神サンダー・ライガー vs 金本浩二
■新日本プロレス vs UFO-1st. Battle時間無制限1本勝負
永田裕志 vs デイブ・ベネトゥー
■新日本プロレス vs UFO-2nd. Battle時間無制限1本勝負
ブライアン・ジョンストン vs ドン・フライ
■新日本プロレス vs UFO-3rd. Battle時間無制限1本勝負
橋本真也 vs 小川直也

全10試合完全ノーカット収録！
2月24日2巻同時発売

企 画：新日本プロレスリング(株)
発売元：(株)ビデオ・パック・ニッポン
販売元：東芝EMI(株)

新日本プロレスリング オフィシャル・ビデオ

革命戦士 長州 力、激闘の軌跡が
ついに復刻版として甦る!!
〈長州 力 引退記念復刻版〉
パワーホール
POWER HALL
各巻：カラー／ステレオ(一部モノラル)／Hi-Fi／税込¥6,200



絶賛発売中

VOL.1
TOVH-1372 約110分収録
■79.6.15ロサンゼルス／NWA認定北米タッグ選手権
坂口征二&長州 力vs ヒロ・マツダ&マサ斎藤
■83.1.6後楽園／
長州 力&マサ斎藤 vs 坂口征二&キラー・カーン
他全5試合収録

VOL.2
TOVH-1373 約120分収録
■84.4.19蔵前
長州 力vsアントニオ猪木
■87.10.5 後楽園
長州 力 vs 藤波辰巳
他全5試合収録

2月24日発売

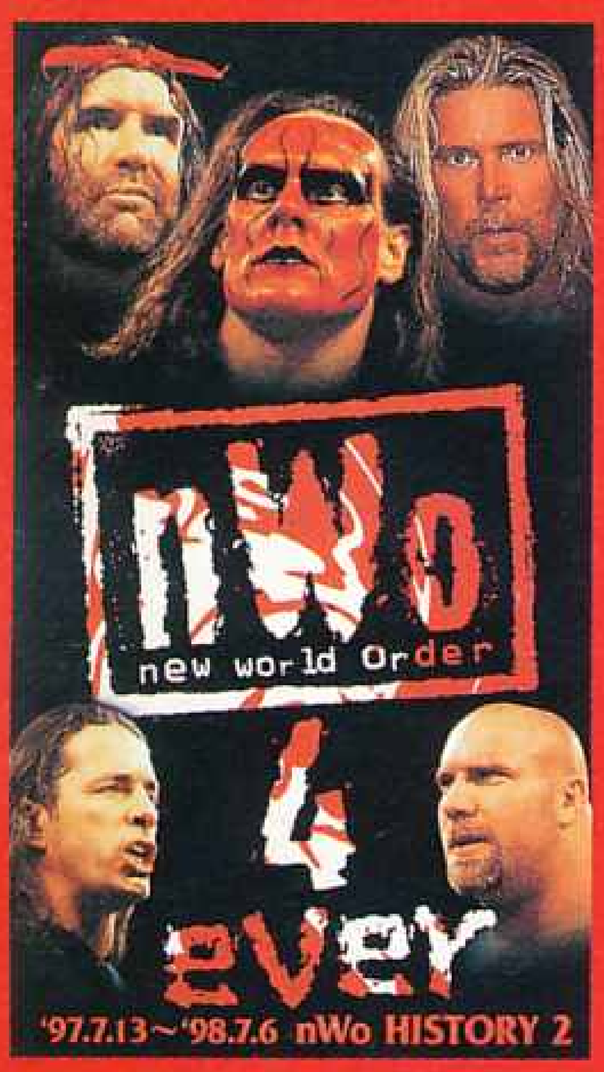
VOL.3
TOVH-1374 約110分収録
■87.10.19 富士
長州 力&藤波辰巳 vs アントニオ猪木&山田恵一
■91.3.21 東京ドーム／グレーテスト18クラブ指定試合
長州 力 vs タイガー・ジェット・シン
他全6試合収録

VOL.4
TOVH-1375 約120分収録
■89.12.7 両国／'89ワールドカップ争奪リーグ優勝戦
長州 力 vs 橋本真也
■93.4.6 両国
長州 力 vs 天龍源一郎
他全5試合収録

★VOL.1,2,3,4共に長州 力vs 天龍源一郎、ロング対談収録／(1993年10月15日収録)
この作品は'94年2月25日に発売した作品の復刻版です。

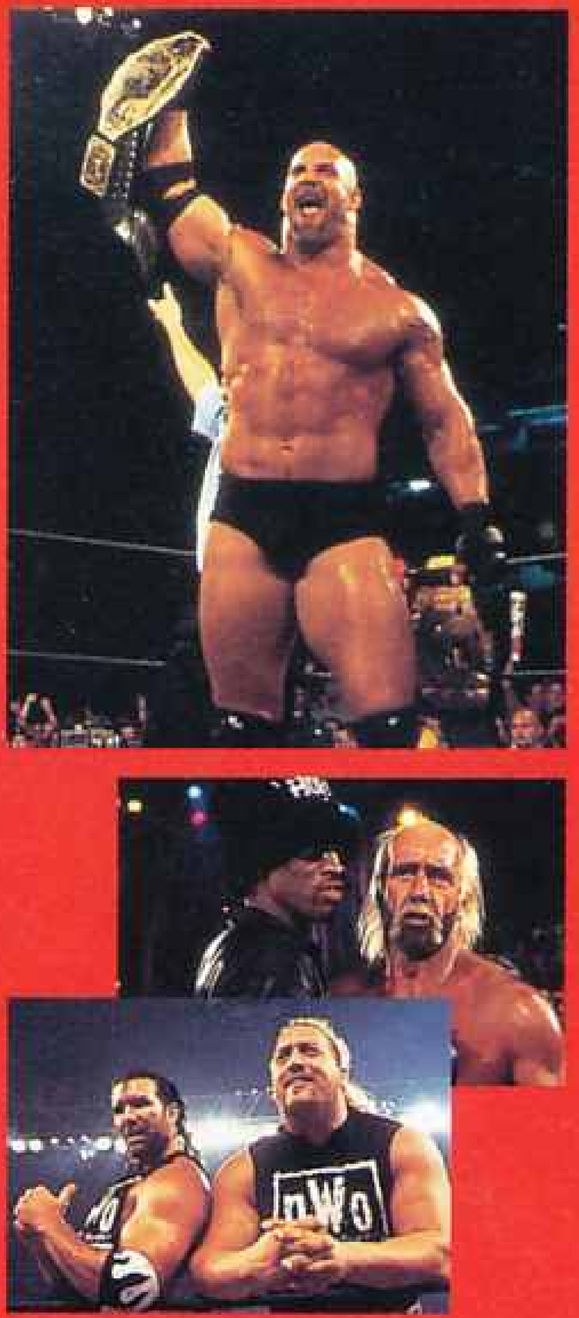
'97年プロレス・ビデオNo.1ヒットを記録したnWoヒストリー・ビデオ
「nWo 4Life」の続編〈第2弾〉が遂に発売決定！

nWoオフィシャル・ビデオ



nWo
new world Order
4ever
(nWo・4・エヴァー)
97.7.13〜98.7.6 nWo HISTORY 2

著作・制作：NWO/発売・販売：東芝EMI(株) ©1999 NWO All Rights Reserved



破壊から創造が生まれる…。nWo分裂!!
どうする？ どうなる？ nWo

今回は前作「nWo 4Life」の続きで、97年7月13日の全世界をアッと言わせたデニス・ロッドマンのプロレス・デビュー戦から、ゴールドバーグがホーガンを破り、WCW世界ヘビー級王者となった98年7月6日の『マンデー・ナイトロ』までの1年間を一挙収録！nWoの全ドラマを詰め込んだ超豪華、贅沢な〈日本限定企画〉ビデオです。
※類似品にご注意下さい。

[ボーナス・トラック] ①ゴールドバーグ vs ビンセント
②ゴールドバーグ vs スコット・ノートン
③ゴールドバーグ vs スコット・ホール

TOVS-1350/COLOR/STEREO/
約120分収録/字幕スーパー入り
実況：斎藤 充/解説：小島和宏
¥5,000 (TAX IN)

★初回生産分[限定]封入特典
早い者勝ち！とにかくお店に予約！急げ！
①赤nWo(ウルフパック)ステッカー(非売品)
②nWoオリジナルTシャツ(非売品)が抽選で1,000名に当たる応募ハガキ (応募締切り：99年4月末日)

2.24 ON SALE!



nWo 4Life
'96.7.7〜'97.6.16 nWo HISTORY
TOVS-1312/115分/ステレオ/カラー/¥5,000(tax in)
実況：斉藤 充/解説：斎藤文彦
ホーガン、ナッシュ、ホール、シックス、そしてロッドマン！スーパースターたちのド肝を抜くスケール感とケタ外れの面白さ！ NWOの誕生から'97年6月16日NBAの反逆児・ロッドマンのリング初登場までを初ビデオ化！ これでNWOのすべてがわかる。
NOW ON SALE ©1997 NWO All Rights Reserved

特報！東芝EMIよりWCW選手テーマ曲集発売決定！
WCW MONDAY NITRO MUSIC 1999
世界初CD化！
3.25 ON SALE!

WCW MONDAY NITRO

TOCT-24072(12cm CD) ¥3,059(tax in)
[収録予定曲]
■「マンデー・ナイトロ」オープニング曲
■ゴールドバーグ■リック・スタイナー
■ダイヤモンド・ダラス・ペイジ■フォー・ホースメン
■レイヴェン■ブレット・ハート■レイ・ミステリオJr.
■nWoオリジナル・テーマ■nWoウルフパック・テーマ
他全16曲予定。 ©1999 WCW All Rights Reserved

TOSHIBA EMI

お求めとご予約は全国のCDショップ、書店、プロレスショップにて受付け中！
●内容についてのお問合わせ…東芝EMI㈱ ST本部・映像部 ☎03(5512)1749 ●ご注文についてのお問合わせ…東芝EMI㈱ 営業本部・販売推進部3グループ ☎03(5512)1558

平成11年3月10日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体743円＋税

雑誌 69861-99
ISBN4-89829-550-9
C9476 ¥743E
9784898295502
1929476007438
©DOUBLECROSS 1999 Printed in Japan
印刷：図書印刷株式会社



1.4闘強導夢を襲撃したUFO軍団と、その
総帥・三四郎マスクさん(アントニオ猪木)
©講談社・小林まこと


RADICAL SCOOP
野蛮
野蛮人は連鎖する!!



エンセン井上の大物プロレスラー遭遇シリーズ第3弾

ヨネ原人 アディオス アミーゴピンナップ